

日本語教育のための情報収集の談話の展開方法
— 韓国人日本語学習者の会話教育の提案 —

2017 年 7 月

早稲田大学大学院日本語教育研究科

小林 友美

日本語教育のための情報収集の談話の展開方法

—韓国人日本語学習者の会話教育の提案—

目次

第1章 本研究の目的と課題	1
1. 1 本研究の目的	1
1. 2 本研究の課題	3
1. 3 本研究の方法	4
1. 4 本論文の構成	6
第2章 先行研究	9
2. 1 日本語学の談話分析に関する先行研究	9
2. 1. 1 「話段」「発話機能」に関する先行研究	9
2. 1. 2 情報収集の談話に関する先行研究	18
2. 2 日本語の会話教育に関する先行研究	20
2. 3 韓国語母語話者を対象にした先行研究	21
第3章 本研究の方法	22
3. 1 談話資料の収集方法	22
3. 1. 1 テレビのインタビュー番組	22
3. 1. 2 大学広報紙のインタビュー取材	23
3. 1. 3 学部大学生と留学生による就職活動の相談	24
3. 2 談話資料の文字化方法	26
3. 3 談話の分析方法	31
3. 3. 1 本研究における「談話」「話段」「発話」の定義と規定	32
3. 3. 2 本研究における「発話機能」の定義と分類	33
第4章 テレビのインタビュー番組における談話の展開方法	43
4. 1 テレビのインタビュー番組における談話構造	43
4. 1. 1 発話数	43
4. 1. 2 談話構造	45
4. 1. 2. 1 「大話段」の構造	45
4. 1. 2. 2 「Ⅱ－2. 本題部」の構造	49
4. 2 テレビのインタビュー番組における発話機能の出現傾向	61
4. 2. 1 参加者別の発話機能の出現傾向	61
4. 2. 1. 1 「大話段」の発話機能	63
4. 2. 1. 2 「Ⅱ－2. 本題部」における情報収集の発話機能と表現形式	65
4. 2. 2 質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向	76
4. 2. 2. 1 「Ⅱ－2. 本題部」における〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と質問の提出順	76
4. 2. 2. 2 質問領域	80
第5章 大学広報紙のインタビュー取材における談話の展開方法	88
5. 1 インタビュー取材における談話構造	88
5. 1. 1 発話数	88
5. 1. 2 談話構造	90
5. 1. 2. 1 「大話段」の構造	90

5. 1. 2. 2	「Ⅱ. 展開部」の構造	92
5. 2	インタビュー取材における発話機能の出現傾向	98
5. 2. 1	参加者別の発話機能の出現傾向	98
5. 2. 1. 1	「大話段」の発話機能	102
5. 2. 1. 2	「Ⅱ. 展開部」における情報収集の発話機能と表現形式	107
5. 2. 2	質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向	124
5. 2. 2. 1	「Ⅱ. 展開部」における〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と質問の提出順	124
5. 2. 2. 2	質問領域	125
第6章	学部大学生と留学生による就職活動の相談における談話の展開方法	133
6. 1	談話の収集方法と調査手順	133
6. 2	就活相談における談話構造	139
6. 2. 1	発話数	140
6. 2. 2	談話構造	142
6. 2. 3	質問の提出順	158
6. 3	就職活動の相談における発話機能の出現傾向	169
6. 3. 1	参加者別の発話機能の出現傾向	169
6. 3. 2	情報収集に用いる表現形式	173
6. 4	質問者による応答者の評価分析	181
6. 5	評価に基づく質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と表現形式	184
6. 5. 1	質問数	184
6. 5. 2	質問の提出順	186
6. 5. 3	情報収集に用いる表現形式	186
第7章	会話教育への応用	191
7. 1	日本語の情報収集の談話展開	191
7. 1. 1	情報収集の談話構造	191
7. 1. 2	情報収集の質問の提出順	193
7. 1. 3	情報収集に用いる表現形式	193
7. 2	日本語教育における情報収集の談話の取り扱い	196
7. 2. 1	日本語教材におけるインタビューの取り扱い	196
7. 2. 1. 1	教材の種類	196
7. 2. 1. 2	掲載された表現形式の分析と提案	198
7. 2. 1. 3	掲載された談話展開の分析と提案	202
7. 2. 2	日本語教育におけるビジターセッションの取り扱い	204
7. 3	筆者の情報収集活動の授業実践	206
7. 3. 1	韓国の私立B大学における授業実践	206
7. 3. 2	日本の私立C大学における授業実践	209
7. 4	日本語の会話授業への提案	211
7. 4. 1	情報収集の談話全体の展開方法	212
7. 4. 2	情報収集の話段の展開方法	213
7. 4. 3	日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法	214
7. 4. 4	学習活動	218
7. 4. 5	授業案の提示	219
第8章	韓国の国立D大学の上級日本語会話クラスにおけるビジターセッション活動の授業実践	222
8. 1	本活動の位置づけ	222
8. 2	実践報告	223

8. 2. 1	クラスおよび学習者の日本語環境	223
8. 2. 2	授業の概要と進行	224
8. 3	学習前の学習者の談話	228
8. 4	学習前と学習後の応答者の質問者に対する評価分析	232
8. 5	学習者の意識変化	238
8. 5. 1	分析方法	238
8. 5. 2	学習者の背景	239
8. 5. 3	第1回ビジターセッション	240
8. 5. 4	会話分析活動	242
8. 5. 4. 1	自己会話の分析	242
8. 5. 4. 2	日本語母語話者の会話分析活動	243
8. 5. 4. 3	クラス全体による会話分析活動	244
8. 5. 5	第2回ビジターセッション	247
8. 5. 6	まとめ	249
8. 6	本授業実践に関する考察	251
第9章	結論と今後の課題	254
9. 1	本研究の概要	254
9. 2	本研究の結論	262
9. 3	本研究の意義と今後の課題	267
	【参考文献】	269
	【巻末資料】	274
	謝辞	317
	【談話資料】	

【図表目次】

ページ	番号	タイトル
6	【図1】	本論文の構成
15	【表1】	ザトラウスキー(1997)の「談話における発話機能の種類」
22	【表2-1】	本研究の分析対象
23	【表2-2】	インタビュー番組の談話資料
24	【表2-3】	インタビュー取材の談話資料
25	【表2-4】	就活相談の談話資料
34	【表3-1】	鈴木(2009)の相談の談話における「発話機能」分類
35	【表3-2】	本研究における「発話機能」の分類全5類39種
36	【表3-3】	佐久間まゆみ(2002:168)「接続表現の文脈展開機能による分類」
43	【表2-2】	インタビュー番組の談話資料(再掲)
44	【表4-1】	テレビのインタビュー番組の談話における参加者別発話数
46	【表4-2】	テレビのインタビューの「大話段」の構造
47	【表4-3】	テレビのインタビュー番組の「大話段2」における参加者別発話数
50	【表4-4】	テレビのインタビュー番組の「大話段」と「話段」の構造
51	【表4-5】	テレビのインタビュー番組の「Ⅱ-2. 本題部」参加者別発話数の「話段」における談話構造
55	【表5-1】	【資料1-1】インタビュー番組「値段0円フリーペーパーの舞台裏」談話構造
55	【表5-2】	【資料1-2】インタビュー番組「公共施設は変わるのか」談話構造
56	【表5-3】	【資料1-3】インタビュー番組「大学競争時代」談話構造
56	【表5-4】	【資料1-4】インタビュー番組「病を未然に防げ」談話構造
57	【表5-5】	【資料1-5】インタビュー番組「急増するひき逃げ」談話構造
57	【表5-6】	【資料1-6】インタビュー番組「体質は改善されたのか」談話構造
58	【表5-7】	【資料1-7】インタビュー番組「微生物ハンター」談話構造
58	【表5-8】	【資料1-8】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」談話構造
59	【表5-9】	【資料1-9】インタビュー番組「パチンコ依存症」談話構造
59	【表5-10】	【資料1-10】インタビュー番組「認知ドライバー30万人」談話構造
61	【表6】	テレビのインタビュー番組における基本的な談話構造
62	【表7】	【資料1-1】から【資料1-10】の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能
巻末資料	274	【表8-1】【資料1-1】テレビのインタビュー番組「値段0円フリーペーパーの舞台裏」の「大話段」・「話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	275	【表8-2】【資料1-2】テレビのインタビュー番組「公共施設は変わるのか」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数
巻末資料	276	【表8-3】【資料1-3】テレビのインタビュー番組「大学大競争時代」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数
巻末資料	277	【表8-4】【資料1-4】テレビのインタビュー番組「病を未然に防げ」大話段・話段における参加者別発話総数と発話機能数
巻末資料	278	【表8-5】【資料1-5】テレビのインタビュー番組「急増するひき逃げ」大話段・談話における参加者別発話機能数と発話機能数
巻末資料	279	【表8-6】【資料1-6】テレビのインタビュー番組「体質は改善されたのか」話段・談話における参加者別発話機能数と発話機能数
巻末資料	280	【表8-7】【資料1-7】テレビのインタビュー番組「微生物ハンター」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数
巻末資料	281	【表8-8】【資料1-8】テレビのインタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数

巻末資料	282	【表8-9】	【資料1-9】テレビのインタビュー番組「パチンコ依存症」大話段・談話における参加者別発話機数と発話機能数
巻末資料	283	【表8-10】	【表8-10】【資料1-10】テレビのインタビュー番組「認知ドライバー30万人」大話段・話段における参加者別発話機数と発話機能数
74		【表9】	テレビのインタビュー番組の情報収集に用いる表現形式
78		【表10-1】	【資料1-1】インタビュー番組「値段0円フリーペーパー」の質問者の質問発話
巻末資料	284	【表10-2】	【資料1-2】インタビュー番組「公共施設は変わるのか」の質問者の質問発話
巻末資料	285	【表10-3】	【表8-3】【資料1-3】インタビュー番組「大学大競争時代」の質問者の質問発話
巻末資料	286	【表10-4】	【表8-4】【資料1-4】インタビュー番組「病を未然に防げ」の質問者の質問発話
巻末資料	287	【表10-5】	【表8-5】【資料1-5】インタビュー番組「急増するひき逃げ」の質問者の質問発話
巻末資料	288	【表10-6】	【表8-6】【資料1-6】インタビュー番組「体質は改善されたのか」の質問者の質問発話
巻末資料	289	【表10-7】	【表8-7】【資料1-7】インタビュー番組「微生物ハンター」の質問者の質問発話
巻末資料	290	【表10-8】	表8-8【資料1-8】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」の質問者の質問発話
巻末資料	291	【表10-9】	【表8-9】【資料1-9】テレビのインタビュー番組「パチンコ依存症」の質問者の質問発話
巻末資料	292	【表10-10】	【表8-10】【資料1-10】テレビのインタビュー番組「認知ドライバー30万人」の質問者の質問発話
79		【表5-8】	【資料1-8】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」の談話構造(再掲)
80		【表11-1】	【資料1-1】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	293	【表11-2】	【資料1-2】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	293	【表11-3】	【資料1-3】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	294	【表11-4】	【資料1-4】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	294	【表11-5】	【資料1-5】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	295	【表11-6】	【資料1-6】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	295	【表11-7】	【資料1-7】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	296	【表11-8】	【資料1-8】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	296	【表11-9】	【資料1-9】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
巻末資料	297	【表11-10】	【資料1-10】の〈要求〉1質問に対する平均発話数
81		【表12-1】	【資料1-1】～【資料1-10】におけるインタビュアーの〈要求〉1発話に対する発話総数と平均発話数
83		【表12-2】	【資料1-1】～【資料1-10】におけるインタビュアーの〈要求〉1発話に対する発話総数と平均発話数
88		【表2-3】	インタビュー取材の談話資料(再掲)
89		【表13-1】	インタビュー取材の談話における参加者別総発話数
91		【表13-2】	インタビュー取材の「大話段」における参加者別発話数
93		【表14-1】	【資料2-1】における「大話段」と「話段」の構造
93		【表14-2】	【資料2-2】における「大話段」と「話段」の構造
94		【表14-3】	【資料2-3】における「大話段」と「話段」の構造
95		【表15-1】	【資料2-1】インタビュー取材「先輩に乾杯 Kさん」談話構造
96		【表15-2】	【資料2-2】インタビュー取材「ビーぷる Mさん」談話構造
97		【表15-3】	【資料2-3】インタビュー取材「ビーぷる Uさん」談話構造
99		【表16】	資料2-1～【資料2-3】の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能
巻末資料	298	【表17-1】	【資料2-1】インタビュー取材「先輩に乾杯 Kさん」の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能資料2-1の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	299	【表17-2】	【資料2-2】インタビュー取材「ビーぷる Mさん」の「大話段」「話る参加者別発話数と発話機能段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	300	【表17-3】	【資料2-3】インタビュー取材「ビーぷる Uさん」の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能数
120		【表18】	大学広報紙のインタビュー取材の情報収集に用いる表現形式
126		【表19-1】	【資料2-3】のインタビュアーの〈要求〉1発話に対する発話総数と平均発話数
128		【表19-2】	【資料2-3】における参加者別の〈要求〉2発話に対する発話総数と平均発話数
129		【表19-3】	【資料2-3】のインタビュアーの〈要求〉1発話に及ぶ範囲の発話数

134		【表2-4】	就活相談の談話資料(再掲)
140		【表20-1】	母語場面の就活相談の談話における参加者別発話数
141		【表20-2】	接触場面の就活相談の談話における参加者別発話数
144		【表21-1】	【資料3-1】の談話構造
144		【表21-2】	【資料3-2】の談話構造
145		【表21-3】	【資料3-3】の談話構造
145		【表21-4】	【資料3-4】の談話構造
146		【表21-5】	【資料3-5】の談話構造
146		【表21-6】	【資料3-6】の談話構造
146		【表21-7】	【資料3-7】の談話構造
147		【表21-8】	【資料3-8】の談話構造
147		【表21-9】	【資料3-9】の談話構造
148		【表21-10】	【資料3-10】の談話構造
148		【表21-11】	【資料3-11】の談話構造
149		【表21-12】	【資料3-12】の談話構造
149		【表21-13】	【資料3-13】の談話構造
150		【表21-14】	【資料3-14】の談話構造
150		【表21-15】	【資料3-15】の談話構造
151		【表21-16】	【資料3-16】の談話構造
162		【表22-1】	NS1の質問メモと実際にした質問
162		【表22-2】	NS2の質問メモと実際にした質問
163		【表22-3】	NS3の質問メモと実際にした質問
163		【表22-4】	NS4の質問メモと実際にした質問
164		【表22-5】	NS5の質問メモと実際にした質問
164		【表22-6】	NS6の質問メモと実際にした質問
164		【表22-7】	NS7の質問メモと実際にした質問
165		【表22-8】	NS8の質問メモと実際にした質問
165		【表22-9】	NNS1の質問メモと実際にした質問
166		【表22-10】	NNS2の質問メモと実際にした質問
166		【表22-11】	NNS3の質問メモと実際にした質問
167		【表22-12】	NNS4の質問メモと実際にした質問
167		【表22-13】	NNS5の質問メモと実際にした質問
168		【表22-14】	NNS6の質問メモと実際にした質問
168		【表22-15】	NNS7の質問メモと実際にした質問
169		【表22-16】	NNS8の質問メモと実際にした質問
170		【表23-1】	母語場面全4資料の「大話段」・「話段」の参加者別発話総数と発話機能総数
171		【表23-2】	接触場面全4資料の「大話段」・「話段」の参加者別発話総数と発話機能総数
巻末資料	301	【表24-1】	【資料3-1】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	302	【表24-2】	【資料3-2】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	303	【表24-3】	【資料3-3】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	304	【表24-4】	【資料3-4】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	305	【表24-5】	【資料3-5】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	306	【表24-6】	【資料3-6】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	307	【表24-7】	【資料3-7】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	308	【表24-8】	【資料3-8】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	309	【表24-9】	【資料3-9】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	310	【表24-10】	【資料3-10】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	311	【表24-11】	【資料3-11】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

巻末資料	312	【表24-12】	【資料3-12】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	313	【表24-13】	【資料3-13】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	314	【表24-14】	【資料3-14】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	315	【表24-15】	【資料3-15】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
巻末資料	316	【表24-16】	【資料3-16】の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数
180		【表25】	「前置き+質問」における種類別合計
181		【表26-1】	応答者の質問者に対する評価(全設問における平均値)
182		【表26-2】	評価「理由」
184		【表27】	【資料3-4】と【資料3-10】の質問数
187		【表28-1】	【資料3-4】の質問者K(NS4)の発話例
189		【表28-2】	【資料3-10】の質問者H(NNS2)の発話例
191		【表29-1】	情報収集の談話の基本的な談話構造
193		【表29-2】	1話段中における発話連鎖の種類
194		【表30】	日本語の情報収集に用いる表現形式
197		【表31】	日本語教材におけるインタビューの取り扱い
207		【表32-1】	授業の進行
208		【表32-2】	グループ1のインタビューの例
208		【表32-3】	グループ7のインタビューの例
210		【表33-1】	授業の進行
210		【表33-2】	第2回セッションのインタビューの例
210		【表33-3】	第3回セッションのインタビューの例
213		【図2】	質問の提出順序を提示するためのスライド
221		【表34】	授業の計画案
225		【表35】	授業の進行
229		【表36-1】	ビジターによる第1回セッション(学習前)の評価
230		【表36-2】	第1回セッション(学習前)の評価理由
231		【表36-3】	設問4「よかった点」と設問5「頑張ってたほしい点」
232		【表36-4】	設問4「よかった点」と設問5「頑張ってたほしい点」の分類
233		【表36-5】	学習前と学習後の応答者の質問者に対する評価
235		【表36-6】	評価理由
236		【表36-7】	設問4と設問5の回答
241		【表37-1】	学習者NNS1とビジター1、評価者の評価
248		【表37-2】	学習者NNS1とビジター2、評価者の評価
250		【図3】	学習者NNS1の意識変化
254		【表2-1】	本研究の分析対象(再掲)
257		【表3-1】	鈴木(2009)の相談の談話における「発話機能」分類(再掲)
258		【表3-2】	本研究における「発話機能」の分類全5類39種(再掲)
259		【表6】	テレビのインタビュー番組における基本的な談話構造(再掲)
260		【表9】	テレビのインタビュー番組の情報収集に用いる表現形式(再掲)
261		【表18】	インタビュー取材の情報収集に用いる表現形式(再掲)
262		【表29-1】	情報収集の談話の基本的な談話構造(再掲)
263		【表29-2】	1話段中における発話連鎖の種類(再掲)
264		【表30】	日本語の情報収集に用いる表現形式

第1章 本研究の目的と課題

1. 1 本研究の目的

本研究は、韓国人日本語学習者を対象とした日本語の会話教育に応用することを目的として、日本語の情報収集の談話の展開方法について解明するものである。

日常生活を送る上で情報収集をする場面は多々ある。情報収集の手段としては、文書や文献、インターネットなどの文字情報や、他の人から何かを口頭で聞き出す方法などが考えられる。口頭での情報収集は、問い合わせや質疑応答のような質問者の「質問」と応答者の「応答」によって必要な情報が獲得できるものから、インタビューや相談のような「質問－応答」のみならず、限られた時間内に質問者と応答者の相互作用によって談話を展開し、やりとりの中で情報を引き出すものまで多種多様である。後者の情報収集の質問者は、応答者に応じて臨機応変に対応するなど様々な技術が必要になるだろう。

本研究では、韓国人日本語学習者を対象とした日本語の会話教育に応用する目的で、後者の情報収集の談話に属する【資料1】テレビのインタビュー番組、【資料2】大学広報紙のインタビュー取材、【資料3】学部大学生と留学生による就職活動の相談という3種の日本語の情報収集の談話を調査対象とする。

本研究における「情報収集の談話」とは、何らかの目的で、ある情報を必要とする質問者が、それに関する情報を有する応答者に対して、情報提供を口頭で求め、必要な情報を得るという一連のコミュニケーションの過程のことである。一般に、情報収集とは、質問者と応答者の相互作用により行われるものであるが、本研究では、分析結果を日本語の会話の授業に応用する目的から、日本語学習者が質問者の場合を設定し、情報収集の談話の質問者の役割に焦点を当てて分析する。

筆者はこれまで、初対面の場面で日本語学習者と日本語で会話をする際に、学習者が受け身的な態度になりがちで、話がなかなか続けられないことから、筆者の方から質問して話題を提供し、話を展開するといった機会が多いように感じてきた。

佐々木(1998:125)は、初対面の者同士の母語場面と接触場面の日本語の「自由会話」を分析した結果、「異文化間コミュニケーションの場面では、日本人が『インタビュー・スタイル』をとる顕著な傾向がみられ、日本人同士では、互いの意見を述べ合

う『話し合いスタイル』をとる傾向がみられた」と指摘している。これは、学習者が日本語で会話をする際に、質問などをして自ら話題を提示し、主体的に会話を進行することに困難が生じているということである。

また、筆者は、これまで韓国人日本語学習者の日本語教育に携わる機会が多く、日本語の会話の授業で、会話練習やインタビュー活動の協力者として授業に参加したり、担当授業の教室活動でインタビュー活動やビジターセッション活動を実施することがあった。その際、質問と応答を繰り返す談話展開や唐突な話題転換、話の深まり具合に違いがあると感じ、おそらく、日本語と韓国語には、情報収集の談話の展開方法に何らかの異なるものがあるのではないかと考えていた。さらに、授業活動において、提示された表現の使用や予め準備された質問を言えたことで満足してしまい、その先の話へへと発展できず、会話が続かないという問題が生じたため、どのように学習すれば、改善されるのかについて考えることがあった。

本研究においては、日本語の情報収集の談話の展開方法を明らかにして、特に韓国人日本語学習者に対する会話教育について提案することを主な目的としている。

情報を得るために行う活動としての「質問する」という言語行為は、日本語のコミュニケーションにおいて、不可欠な行為である。自分にとって必要な相手の有する情報を得る、情報を確認する、さらに詳しい情報を得ようとする際の様々な表現がある。

久永（1994：57）は、「質問とは、質問者が自分にとって理解できない、不確かな事柄に関し、その解答権を知っていると思われる他者を巻き込み、適切な形式と方法により説明、立証、訂正などを求め、目的の情報を獲得しようとする、一連のプロセスを持った言語行動」と定義している。つまり、質問することは、情報を獲得するための重要な役割を果たすものである。しかし、実は、この質問するという基本的な言語行動に関する先行研究はあまり多いとはいえない現状である。

日本国内在住の日本語学習者が日常生活を送る上でも、特定の個人や機関に対して口頭で情報収集をする場面は、多々あることだろう。例えば、良好な人間関係を築くために、相手に関する情報を聞き出す初対面の場面や各種相談や問い合わせ、大学での事務手続きや論文執筆のためのインタビュー調査、ゼミや学会などの質疑応答をすることもある。さらに、近年、大学・大学院の卒業・修了後に、日本国内や日本企業への就職を希望する日本語学習者が増加する傾向にあり、就職活動の一環として、企業説明会やOB・OG訪問等で企業や個人から仕事に関する情報収集をする機会も増えつ

つある。

各種の日本語教材にも、情報収集の場面における学習項目や活動が取り上げられ、旅行の予約や病院の診察場面等での会話例が採用されている。また、教室活動の一環としてインタビューやビジターセッションを取り扱うこともある。実際の場面では、「質問」と「応答」のみならず、目標達成に向けて様々な情報を求め、相手の提供する情報を理解したことに基づいて、次の情報収集の過程へと進めるという談話展開を用いている。そこで、より複雑な談話構造や質問表現をはじめ、様々な口頭表現の運用の習得が不可欠なものとなる。しかし、日本語教材¹には、限られた文型や表現しか提示されておらず、会話の授業でも、教師が発問し、学習者が解答するというやりとりが多いため、学習者が質問すること自体を学習する機会が少ないように思う。必要な情報を得るために質問をするという基本的な言語行動に関する研究や情報収集活動における談話の展開方法を解明した研究はさほど多くはないのが現状である。

そこで、本研究では、情報収集の談話の一種としてのインタビューの談話と就職活動の相談の談話を資料として、日本語の情報収集の談話の展開方法を明らかにする。その結果を応用した、韓国のD大学におけるビジターセッション活動の授業実践を通して、韓国人日本語学習者のための新たな会話教育の可能性についての提案をしたいと思う。

1. 2 本研究の課題

本研究の課題は、以下の3点である。

課題1 日本語の情報収集の談話の展開方法は、どのような特徴があるのか。

課題2 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の情報収集の談話の展開方法には、どのような特徴があるのか。

課題3 韓国人日本語学習者を対象とする会話教育において、情報収集の談話の展開方法を学習するために何が必要か。

¹ 分析した教科書は、以下の通りである。『実践力のつく日本語学習—インタビュー編』、『文化中級日本語Ⅱ』、『トピックによる日本語構造演習テーマ探しから発表へ』、『大学生のための日本語—効果的な学習のために—』。具体的な取り扱いについては、7.2.1.1の【表31】を参照のこと。

【課題1】と【課題2】の分析結果を踏まえて、会話教育についての提案をする。そして、実際に授業実践を行い、【課題3】で、その提案が有効であるか否かを考察する。

本研究の分析対象とする談話資料は、次の3種類である。

【資料1】テレビのインタビュー番組²

【資料1-1】～【資料1-10】の全10資料、発話総数1,761発話

【資料2】大学広報紙のインタビュー取材³

【資料2-1】～【資料2-3】全3資料、発話総数5,544発話

【資料3】学部大学生と留学生による就職活動の相談⁴

【資料3-1】～【資料3-16】全16資料、総発話数7,376発話

母語場面【資料3-1】～【資料3-8】全8資料、発話総数3,845発話

接触場面【資料3-9】～【資料3-16】全8資料、発話総数3,531発話

【資料3】の就活相談は、母語場面と日韓の接触場面で、就職活動中の大学生の質問者が活動経験者で初対面の大学生の応答者から、活動経験や助言を求める談話である。

1. 3 本研究の方法

【課題1】で、【資料1】インタビュー番組（全10資料）、【資料2】インタビュー取材（全3資料）、【資料3】就活相談（全8資料）という3種類の母語場面の談話資料を収集し、分析して、日本語の情報収集の談話の展開方法を解明する。

分析観点は、（1）情報収集の談話構造、（2）情報収集の質問の提出順、（3）情報収集に用いる表現形式の3点である。

（1）で、談話の全体構造を明らかにする。（2）で、談話の部分構成する「話段」の展開方法を明らかにするために、「話段」の中の質問の提出順を分析する。そして、（3）で、情報収集に用いられる質問者の表現形式を分析する。（1）から（3）にか

² 以下、インタビュー番組と略称する。

³ 以下、インタビュー取材と略称する。

⁴ 以下、就活相談と略称する。

けてミクロな分析観点となっている。

(1) 情報収集の談話構造を明らかにするために、ザトラウスキー (1993) の「発話機能」を再分類した鈴木 (2003, 2007, 2009) の「発話機能」の全 5 類 39 種の分類を用いて、全発話を分類した。

本研究における「発話機能」の〈Ⅰ. 注目要求〉、〈Ⅲ 5. 単独行為要求〉、〈Ⅲ 6. 共同行為要求〉、〈Ⅲ 7. 言い直し要求〉、〈Ⅳ 6. 言い直し〉、〈Ⅴ 1. 関係作り・儀礼〉、および、〈Ⅴ a. 継続〉、〈Ⅴ b. 承認〉、〈Ⅴ d. 確認〉、〈Ⅴ e. 興味〉、〈Ⅴ f. 共感〉、〈Ⅴ g. 終了〉、〈Ⅴ h. 同意〉については、ザトラウスキー (1993) に従う。また、〈Ⅱ. 談話表示〉(佐久間 (2002 : 168) の「接続表現の文脈展開機能による分類」)、〈Ⅲ. 要求〉、〈Ⅳ. 提供〉、〈Ⅴ. 受容〉、〈Ⅴ c. 否認〉については、鈴木 (2007, 2009) に従う。〈Ⅳ 1. 事実説明〉、〈Ⅳ 2. 見解表明〉、〈Ⅳ 3. 評価表明〉は鈴木 (2003) に従う。「発話機能」の組み合わせと内容上のまとまり、参加者の目的をもとに、佐久間 (2003 : 95) の提唱する「話段」を認定し、その結果から談話構造を明らかにする。また、話段を構成する発話連鎖についても分析する。

(2) 情報収集の質問の提出順は、「話段」における質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の「発話機能」の出現傾向を分析する。情報収集に用いる質問形式を「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」の 3 種に分類し、どの質問がどのように提示されるのかを明らかにする。

(3) 情報収集に用いる表現形式は、日本語の情報収集に用いられる質問者の特徴的な発話の表現形式と発話機能を明らかにする。

以上、3 点の分析観点から、日本語の情報収集の談話の展開方法を解明する。

課題 1で、【資料 1】～【資料 3】の談話資料を分析して、日本語の情報収集の談話の展開方法の特徴を明らかにする。母語場面の種類の異なる 3 種の情報収集の談話に、共通する特徴は何か、基本的な構造や表現形式は何かを分析する。

課題 2では、日本語母語話者と韓国人日本語学習者の情報収集の談話の展開方法の特徴を明らかにする。**課題 1**で分析した【資料 3】を用いる。これは、日本語学習者が最も遭遇しやすい同年代同士の相談場面であることから、**課題 3**で、その分析結果を日本語の会話教育の授業に応用する目的があるためである。就職相談の調査では、応答者（活動経験者の大学生）に質問者（活動中の大学生）に対する評価を課したため、その評価に基づく談話展開の特徴も分析する。そして、情報収集の談話を展開さ

せるために、学習者に課題があるのか、あるとすればどのようなものなのかについても考察する。

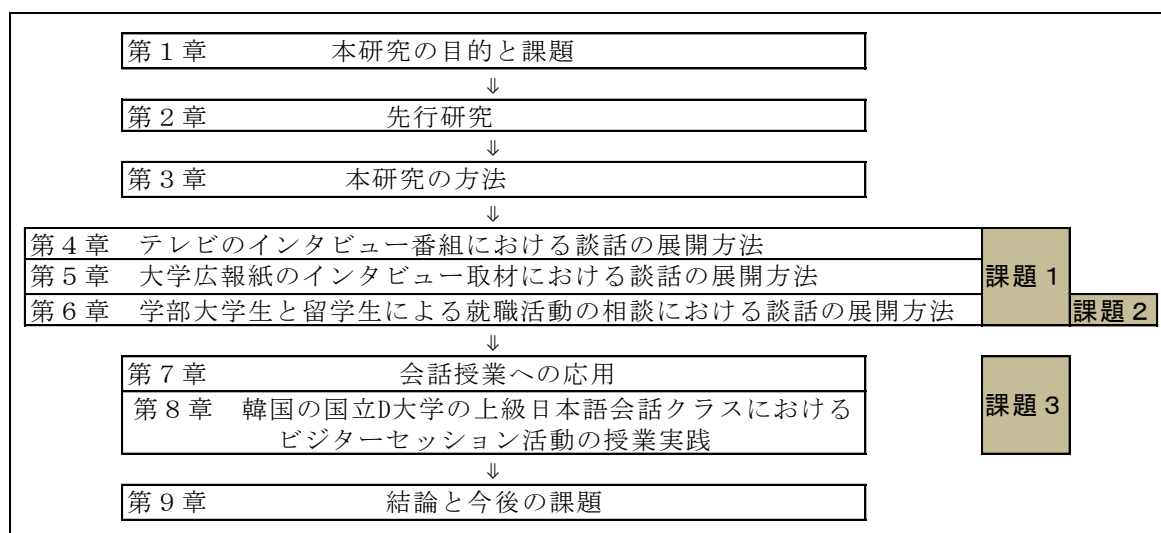
最後に、**課題1**と**課題2**の分析結果や教材分析、韓国の私立B大学と日本の私立C大学の授業実践における課題に基づき、日本語の情報収集の談話の展開方法をどのように会話教育に応用するかを検討し、授業案を作成する。そして、韓国の国立D大学において実際に授業実践を行い、その学習項目や教室活動が韓国人日本語学習者に対する会話教育に有効か否か検証し、**課題3**の情報収集の談話の展開方法を学習するために何が必要かについて考察する。この授業では、韓国人上級日本語学習者を対象とした会話クラスにおいて、情報収集活動の一種としてビジターセッション活動を全2回行った。学習前の1回目と学習後の2回目で学習者にどのような変化があったのかを、応答者のビジターと質問者の評価や提出物から分析する。

以上が本研究の主な分析方法である。

1. 4 本論文の構成

本論文は、「序論」（第1章）、「本論」（第2～8章）、「結論」（第9章）の全9章より構成される。

【図1】本論文の構成



まず、「序論」第1章では、「本研究の目的」「本研究の課題」「本研究の方法」「本論文の構成」について述べた。

次に、「本論」の第2章の「先行研究」では、2.1の「日本語の談話分析に関する先行研究」では、2.1.1「話段」に関する佐久間（1987、2000、2003）、「発話」に関する杉戸（1987、1990、1994）、「発話機能」に関する先行研究のザトラウスキー（1993、1997）及び鈴木（2003、2007、2009）を取り上げる。また、2.1.2「情報収集の談話に関する先行研究」として、鈴木（2003、2007、2009）、熊谷・木谷（2010）、佐々木（1998）、中井（2003）、福富（2005）などを取り上げる。

2.2の「日本語の会話教育に関する先行研究」では、教材に関する斎藤（1989）、聞き手のストラテジーに関する横須賀（2000）を取り上げる。2.3「韓国語母語話者を対象にした先行研究」では、日韓の接触場面の発話連鎖に関する梅木（2009）と日本語と韓国語の自然談話における「くり返し発話」を分析した高木（2013）を取り上げる。

第3章「本研究の方法」では、3.1で「談話資料の収集方法」、3.2で「談話資料の文字化方法」を述べる。また、3.3「談話の分析方法」では、本研究における「談話」、「話段」、「発話」、「発話機能」の定義と分類を説明し、関連する先行研究との相違を述べる。

第4章から第6章では、**課題1**に該当する章で、第4章「テレビのインタビュー番組における談話の展開方法」、第5章「大学広報紙のインタビュー取材における談話の展開方法」、第6章「学部大学生と留学生による就職活動の相談における談話の展開方法」において、3種の談話を分析対象として、（1）情報収集の談話構造、（2）情報収集の質問の提出順、（3）情報収集に用いる表現形式という3つの分析観点で分析し、日本語の情報収集の談話の展開方法を解明する。その結果を、第7章の7.1の「日本語の情報収集の談話の展開方法」としてまとめる。

第6章の「学部大学生と留学生による就職活動の相談における談話の展開方法」は、**課題2**に該当するが、日本語母語話者と韓国人日本語学習者の談話展開にはどのような特徴があるかを明らかにする。さらに、応答者による質問者の評価分析の結果から、評価の高い談話展開の方法と、日本語学習者の困難な点を解明する。

第7章の「会話授業への応用」では、第4章から第6章で分析した3種の談話における分析結果をまとめる。日本語教育における情報収集活動の取り扱いについて、特に問題点を示した後、**課題1**と**課題2**の分析結果を踏まえて、**課題3**の韓国人日本語学習者を対象とした会話教育における実践授業の方法を提案する。

第8章では、第7章の会話の授業案を実践した韓国の国立D大学の上級日本語会話クラスにおけるビジターセッション活動の授業の授業実践を報告する。その授業で収集した談話や評価シート、レポート等を分析して、学習前と学習後で、どのような効果があったかについて述べる。

第9章の「本研究の結論と今後の課題」は、まず、本研究の各章の概要を述べた後、本研究の結論と意義、今後に残された課題について述べる。

第2章 先行研究

2. 1 日本語学の談話分析に関する先行研究

本節では、日本語学の談話分析に関する先行研究について取り上げる。2.1.1で「話段」「発話機能」に関する先行研究について、2.1.2で情報収集の談話に関する先行研究について取り上げる。

2. 1. 1 「話段」「発話機能」に関する先行研究

本研究の分析には、佐久間（1987、2000、2003）の「話段」とザトラウスキー（1993）、鈴木（2003、2007、2009）の「発話機能」を用いる。

音声言語最大のまとまりである「談話」の構成要素として、佐久間（1987）は、「談話」と「発話」の中間単位として、「話段」という単位を提唱している。「話段」とは、佐久間（1987：103）が「文段の概念の必要性は、話し言葉の文章構造を対象とする際により重要なものとなる」として提唱した、音声言語の談話の成分である。「文段」については、市川（1978：126）が以下のように定義している。

文段とは、一般に、文章の内部の文集合（もしくは一文）が、内容上のまとまりとして、相対的に他と区分される部分である。「文段」は、改行によってではなく、前後の文集合（もしくは一文）が、内容上なんらかの距離と連関を持つことによって区分されることになるのである。（市川 1978：126）

佐久間（1987：102）は、南（1983：94）の「「談話の単位」を認定する手がかり8種類⁵」のうち、「かなりのものが文段の認定基準としてみなすことができる」としており、以下のように規定するとともに、「文段」に対する談話の直接的成分として、「話段」を提唱し、その重要性を指摘している。

本稿では、文段を、意味のひとまとまりが何らかの言語形態面の特徴として反

⁵ 南（1983:94）は「単位認定の手がかり」は「表現された形そのもの」「参加者」「話題」「使用言語」「コミュニケーションの機能」「媒体」「表現態度（フリ）」「全体的構造」を挙げている。

映する言語単位の一つ、ひいては、文章の文法の主要な研究対象としての文法論的単位だという仮説の下に、考察を進めようとしている。確かに文段は静態論的に構成されるものではなく、動態論的に文章の展開そのものを示す単位なのである。つまり、文章の文法は文の文法とは異質なものであるという時枝説に則る単位だと見ることもできよう。

文段は、意味論的かつ文法論的単位として仮説的に設けられた、文章の直接の成分である。従って、客観的な認定基準の設定が必要になる。

(佐久間 1987 : 102)

文段の概念の必要性は、話し言葉の文章構造を対象とする際に、より重要なものとなる。南不二男 (1983・1985) が日常会話の分析を通じて導いた「談話の単位」を認定する手がかりの8種類は、かなりのものが文段の認定基準としてみなすことができるものとなっている。改行等の目印を持たない音声資料では、これらの観点を総合して分析することで、その単位——文段を認定する必要がある。文段は、独話・対話・会話のいずれにも不可欠の文章の成分なのである。

(佐久間 1987 : 102)

また、佐久間 (2000 : 69) では、「文段」と「話段」の総称としての「段」の定義と構成要素について、次のように述べている。

文章は、原則として、複数の段からなるが、中には、1文で1文章となるものや、1段で1文章たりうるものもある。また、段は、原則として、内容上の統一のある複数の文集合からなるが、一つの話題を表す「提題表現」(題部)と「叙述表現」(述部)を備えた単独の文からなるものもある。

文章・談話の主要な成分としての段を構成する言語要素は、厳密には、「文」ではなく、提題と叙述からなる「題——述関係」を成立要件とした、話題の統括機能を備えた「情報単位」で、「節」に近いものだと考えられる。

(佐久間 2000 : 69)

さらに、佐久間 (2003 : 95) は、「段」の「統括機能」について以下のように述べて

いる。

文章・談話における複数の「段」が相互に統括関係を形成し、より高次元の「連段」を成立させ、最終的に、最大の統括力を有する「中心段」が他のすべての連段をまとめ上げて、完結統一体としての文章・談話を成立させる。その構成要素である段が相対的な統括機能による連段としての重層構造を形成し、また、各段を構成する連文も、相互に統括関係に基づく重層構造を形成する。

(佐久間 2003 : 95)

以上の「段」の定義と構成要素、および「統括機能」は、すべて「話段」についても認められるものであり、談話の構造分析における「話段」認定の意義は大きい。佐久間 (1987 : 102) には、「文段の概念の必要性は、話し言葉の文章構造を対象とする際、より重要なものとなる。」と指摘されている「文段」(「話段」)の概念の必要性について、佐久間 (2003 : 95 - 96) は、以下のように述べている。

文章構造の解明には、文章と文、談話と発話の間に段という単位を設けて分析することが有効である。特に、音声表現や非言語行動を伴う「発話」という認定基準の曖昧な単位を扱う談話分析の場合は、談話を構成する主要な成分として、「話段」を設けることの意義が大きい。談話資料の分析結果に基づいて、参加者の相互作用による発話機能の使い分け等から、話段の存在が実証されている。

(佐久間 2003 : 95 - 96)

佐久間 (1987) は、「文段」の認定基準として、「提題表現の統括」を、佐久間 (1989) では、「接続表現の統括」を挙げているが、いずれも重要な認定基準である。

一方、ザトラウスキー (1993) は、「会話」「談話」の定義について、南 (1972, 1981) の「談話」の下位単位として、以下のように「話段」を認定している。

「話段」とは、一般に、談話の内部の集合体（もしくは一発話）が内容上のまとまりをもったもので、それぞれの参加者の「談話」の目的によって相対的に他と区分される部分である。

(ザトラウスキー 1993 : 72)

本研究では、佐久間（1987, 2000, 2003）の「段」及び「話段」の概念規定や、南（1983）の「会話のまとまり」の認定基準のうち、「参加者」「話題」「コミュニケーション上の機能」「全体的構造」、ザトラウスキー（1993）の「談話の参加者各自の『目的』(goal)」等を参考にする。テレビのインタビュー番組における「大話段」は、「話段」と番組編成を重視し、「話段」と「小話段」、そして、インタビュー取材の「大話段」、「話段」、「小話段」は、話し手の「目的」、話の内容、「発話機能」、「発話機能」の「機能領域」で区分する。

次に、「発話機能」に関する先行研究について述べる。

まず、「発話」という言語単位について、杉戸（1987, 1994）は、「一人の参加者の一まとまりの音声言語連続（ただし、笑い声や相づちも含む）で、ほかの参加者の音声言語的連続（同上）とかポーズ（空白時間）によって区切られる。」（1987 : 83）と定義している。また、杉戸（1990 : 132 - 133）は、「発話」には「実質的な発話」と「相づち的な発話」の2種類があり、「実質的な発話」を「自分の判断や事実の叙述をしていて、その内容を積極的に表現しよう」とする意図を持つもの、「相づち的な発話」を「実質的で独立した意味を持つ言葉を含まない発話」及び「その発話に先立つ別の発話の一部分を、繰り返したり引用したり、あるいは自分の発話の成分としてとりこんだ発話」と定義しており、本研究でも、この定義に従う。

「発話機能」に関する先行研究の主なものとしては、ザトラウスキー（1993）、国立国語研究所（1994）、鈴木（2003, 2007, 2009）がある。

ザトラウスキー（1993 : 72）は、「一つ一つの「談話」には、「目的（goal）があり、参加者達はそれぞれの意図の下に各自の目的を目指して話を進めていくと考えられる。」としている。「談話の目的」を重視する立場から、日本語の電話による勧誘の談話構造を解明するために、以下の12類22種の「発話機能」に分類している。

ザトラウスキー（1993 : 67）の「発話機能」12類

- | | | | | |
|-------|----------|---------|---------|---------|
| ①注目要求 | ②談話表示 | ③情報提供 | ④意志表示 | ⑤同意要求 |
| ⑥情報要求 | ⑦共同行為要求 | ⑧単独行為要求 | ⑨言い直し要求 | |
| ⑩言い直し | ⑪関係作り・儀礼 | ⑫注目表示 | | (p. 67) |

⑫注目表示の下位分類

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| a. 継続 | b. 承認 | c. 確認 | d. 興味 | e. 感情 | f. 共感 |
| g. 感想 | h. 否定 | i. 終了 | j. 同意 | k. 自己 | (p. 67) |

以下、各機能の定義を引用する。

ザトラウスキー（1993:67－68）の「発話機能」12 類の定義

- ① 〈注目要求〉 「呼びかけ」の類。②に示す〈談話表示〉と似たような機能を持つ。
- ② 〈談話表示〉 談話の展開そのものに言及する「接続詞」、「メタ言語的発話」などを含む。
- ③ 〈情報提供〉 実質的内容を伝える発話で、客観的事実に関する質問に対する答えも含む。
- ④ 〈意志表示〉 話し手の感情、意志等を表示する発話で、それらに関する質問の答えも含む。
- ⑤ 〈同意要求〉 相手の同意を求める発話で、「でしょ?」・「よねえ?」・「じゃない?」で終わることが多い。
- ⑥ 〈情報要求〉 情報の提供を求める発話で、「質問」の類が多い。
- ⑦ 〈共同行為要求〉 勧誘」等のように、話し手自身も参加する行為への参加を求める発話である。
- ⑧ 〈単独行為要求〉 話し手が参加しない、聞き手単独の行為を求める発話で、「依頼」・「勧告」・「命令」等がある。
- ⑨⑩ 〈言い直し要求〉〈言い直し〉 〈言い直し要求〉は、先行する発話がうまく聞き取れなかった場合の発話であり、〈言い直し〉は、〈言い直し要求〉に先行する発話する発話を繰り返す、あるいは、多少言い換えてもう一度述べる形の応答である。
- ⑪ 〈関係作り・儀礼〉 「感謝」、「陳謝」、「挨拶」等の良い人間関係を作る。
- ⑫ 〈注目表示〉 国立国語研究所（1987）による定義の一部を用いる。相手の発話、相手の存在、その場の状況・事物の存在などを確認したことを表明する。

(pp. 67 - 68)

以下、ザトラウスキー（1993：70）の〈注目表示〉の下位分類 11 種の定義を引用する。

ザトラウスキー（1993：70）の〈注目表示〉の下位分類 11 種の定義

- a. 〈継続の注目表示〉 先行する発話に暗示された意味を認めないまま、単に継続させる。
- b. 〈承認の注目表示〉 先行する発話に暗示された意味を認める。
- c. 〈確認の注目表示〉 先行する発話の繰り返しによる確認または、そこから導かれる結論を確認する。
- d. 〈興味の注目表示〉 興味や関心を示す。
- e. 〈感情の注目表示〉 感情を示す。
- f. 〈共感の注目表示〉 相手と同じ感情をいだいていることを示す。
- g. 〈感想の注目表示〉 相手が言った事柄に対して感想を述べる。
- h. 〈否定の注目表示〉 「感謝」、「陳謝」等を打ち消す。
- i. 〈終了の注目表示〉 話を終了してもいいことを示す。
- j. 〈同意の注目表示〉 上記の a～i を受ける発話の機能。
- k. 〈自己注目表示〉 自分で自分の発話に相づちを打つ。 (p. 70)

ザトラウスキー（1993）の「発話機能」は、話し手の相互作用を解明するのに非常に有効な分類である。ザトラウスキー（1997：167）は、「参加者の一方が他方にかかわりあう」表現として、以下の 12 種類の発話機能を挙げている。

【表 1】ザトラウスキー（1997）の「談話における発話機能の種類」

発話機能		用法
I 要 求	1. 注目要求	呼びかける発話。
	2. 情報要求	相手に質問して情報を求める発話。
	3. 共同行為要求	話し手の参加する行為に参加を求める発話。「勧誘」が多い。
	4. 単独行為要求	聞き手単独の行為を求める発話。「依頼」・「勧告」・「命令」がある。
	5. 言い直し要求	相手の発話が聞き取れなかった場合の「問い返し」の発話。
	6. 同意要求	相手の発話が聞き取れなかった場合の「問い返し」の発話。同意を求める発話。
II 表 示 ・ 提 供	7. 談話表示	談話の展開の仕方を述べる発話。「接続表現」
	8. 情報提供	内容を伝える発話。質問に対する答えも含む。
	9. 意志表示	話し手の感情や意志を示す発話。
	10. 言い直し	5. 「言い直し要求」に先行する発話を繰り返す発話。
III 受 容	11. 関係作り・儀礼	人間関係を作る発話。感謝・陳謝・挨拶がある。
	12. 注目表示	相手の発話を認識する発話。6. 「同意要求」に対する答えも含む。

ザトラウスキー（1997：168）

鈴木（2003）は、ザトラウスキー（1993）の〈情報要求〉〈情報提供〉を再分類した全5類40種の「発話機能」を用い、相談の談話構造を解明した。鈴木（2007, 2009）では、鈴木（2003）の「発話機能」では、〈情報提供〉を「IV. 要求に対する提供」と「V. 自発的な提供」に細分化しているが、「認定が難しい例もある（1997：39）」ことから、鈴木（2007, 2009）で枠組みを再検討している。また、鈴木（2003）の「V. 自発的な提供」に分類していた〈関係作り・儀礼〉が、「他の機能とは異なること、先行研究においては、〈注目表示〉に位置付けられていたことに鑑み（2007：39）」、鈴木（2007, 2009）では、『V. 受容』の下位分類とした」としている。以下、鈴木（2007, 2009）の全5類40種の「発話機能」の分類と定義を示す。

鈴木（2009：78－90）の「発話機能」12 類の定義

I. 相手に対する呼びかけや、自身の発話に含まれる間投詞的表現

I - 1 〈注目要求〉「呼びかけ」の類（ザトラウスキー（1993：67））

I - 2 〈間投表現〉

II. 談話表示

談話の構造、話段の展開を探るために、「接続表現」や、メタ言語的な発話を佐久間まゆみ（2002：168）の「接続表現の文脈展開機能」3 種 14 類に分類する。

Ⅲ. 要求

- Ⅲ - 1 〈確認要求〉 自己の判断について、相手に確認を求める表現で、文末に「ネ」「ナ」などの終助詞を伴うもののほか、「デショウ?」「ジャナイ?」「ジャナイカ?」などの文末助辞を伴うものがある。相手の応答としては、〈肯定〉、あるいは、〈肯定〉+〈事実説明〉の発話が来る。
- Ⅲ - 2 〈判定要求〉 相手に肯定か否定かの判定を求める表現。相手の応答としては、〈応答〉、〈応答〉+〈事実報告〉の発話が来る。
- Ⅲ - 3 〈選択要求〉 A か B かを提示し、相手に選択させる表現。相手の応答としては、〈選択情報提供〉の発話が来る。
- Ⅲ - 4 〈説明要求〉 「特定の時・所・人などをさだめない」「不定詞」を含み、「その内容を説明することを相手に求めるもの」（国立国語研究所（1960：116））相手の応答としては、〈事実報告〉の発話が来る。
- Ⅲ - 5 〈単独行為要求〉 話し手が参加しない、聞き手単独の行為を求める発話で、「依頼」・「勧告」・「命令」等がある。（ザトラウスキー（1993：68））
- Ⅲ - 6 〈共同行為要求〉 「勧誘」等のように、話し手自身も参加する行為への参加を求める発話である。（ザトラウスキー1993：68）
- Ⅲ - 7 〈言い直し要求〉 先行する発話がうまく聞き取れなかった場合の発話である。（ザトラウスキー1993：68））〈言い直し要求〉の後には、Ⅵ - 6 〈言い直し〉の発話が来る。

Ⅳ. 提供

- Ⅳ - 1 〈事実報告〉 名詞文、動詞文が代表的なものである。なお、Ⅲ - 1 〈確認要求〉、Ⅲ - 2 〈判定要求〉に対するⅣ - 1 〈事実報告〉は、後述するⅣ - 7 〈応答〉の発話と共起することが多い。
- Ⅳ - 2 〈見解表明〉 自らの意見を表す発話であり、文末には、「～と思います。」が来ることが多い。また、「わかりました。」等の発話もここに含まれる。
- Ⅳ - 3 〈感情表出〉 他の発話者の要求に対し、自らの感情を表す発話であり、文末に「～たほうがいいです。」が来ることが多い。
- Ⅳ - 4 〈意志表明〉 要求に対し、自らの意志を表明する。「～したい」等が文末につく。
- Ⅳ - 5 〈選択情報提供〉 上記Ⅲ - 3 〈選択要求〉に対してのみ現れる。

IV - 6 〈言い直し〉 〈言い直し〉は、〈言い直し要求〉に先行する発話を繰り返す、あるいは、多少言い換えてもう一度述べる形の応答である。(ザトラウスキー (1993 : 68))

IV - 7 〈応答〉 相手の要求に対する肯定の発話。Ⅲ - 1 〈確認要求〉、Ⅲ - 2 〈判定要求〉に対して用いられる〈応答〉の発話は、単独で用いられることがあるが、〈事実報告〉の発話と共起して現れることが多い。

V. 受容

V - 1 〈関係作り・儀礼〉 「「感謝」「陳謝」「挨拶」等の良い人間関係を作る(中田 (1991a)) 」。 (ザトラウスキー (1993:68))

V - 2 〈自己注目表示〉 自分で自分の発話に相づちを打つ。

V - 3 〈相手への注目表示〉

a. 〈継続の注目表示〉 先行する発話に暗示された意味を認めないまま、単に話を継続させる。(ザトラウスキー (1993 : 70))

b. 〈承認の注目表示〉 先行する発話に暗示された意味を認める。(ザトラウスキー (1993:70))

c. 〈否認の注目表示〉 ザトラウスキー (1993 : 70) で、〈否定の注目表示〉という名称であったが、本研究では、VI - 7 〈応答〉と区別するため、〈否認の注目表示〉とした。

d. 〈確認の注目表示〉 先行する発話の繰り返しによる確認、または、そこから導かれる結論を確認する。(ザトラウスキー (1993:70))

e. 〈興味の注目表示〉 興味や関心を示す。(ザトラウスキー (1993:70))

f. 〈共感の注目表示〉 相手と同じ感情をいだいていることを示す。(ザトラウスキー (1993:70))

g. 〈終了の注目表示〉 話を終了してもいいことを示す。(ザトラウスキー (1993:70))

h. 〈同意の注目表示〉 a～i を受ける発話の機能。(ザトラウスキー (1993:70))
(本研究では、上記 a. ～g. の〈注目表示〉を受ける発話をここに含める。(鈴木(2009:90)

鈴木 (2007、2009) の「発話機能」は、〈Ⅲ. 要求〉を〈Ⅲ－1 確認要求〉〈Ⅲ－2 判定要求〉〈Ⅲ－3 選択要求〉〈Ⅲ－4 説明要求〉〈Ⅲ－5 単独行為要求〉〈Ⅲ－6 共同行為要求〉〈Ⅲ－7 言い直し要求〉に、〈Ⅳ. 提供〉を〈Ⅳ－1 事実報告〉〈Ⅳ－2 意見

説明〉〈IV－3 感情表出〉〈IV－4 意志表明〉〈IV－5 選択情報提供〉〈IV－6 言い直し〉〈IV－7 応答〉に下位分類している。

本研究では、参加者の発話の〈要求〉と〈提供〉を詳細に分析するため、網羅的に再分化された鈴木（2007, 2009）の「発話機能」の分類を用いる。なお、本研究の分析対象の発話の名称に相応しいことから、鈴木（2009：78）の〈IV 1．事実報告〉、〈IV 2．意見説明〉、〈IV 3．感情表出〉は、鈴木（2003）の〈IV 1．事実説明〉、〈IV 2．見解表明〉、〈IV 3．評価表明〉の名称に従う。

対象の発話の名称に相応しいことから、〈IV 1．事実説明〉、〈IV 2．見解表明〉、〈IV 3．評価表明〉は鈴木（2003）に従う。

2. 1. 2 情報収集の談話に関する先行研究

第1章で前述した通り、ある目的で、何らかの情報を必要とする質問者が、それに関する情報を有する応答者に対して、説明を求め、必要な情報を口頭で聞き出す「情報収集の談話」は多種多様である。本節では、情報収集の談話の一種である、相談の談話を分析対象とした鈴木（2003, 2007, 2009）、三者面接調査談話を分析対象とした熊谷・木谷（2010）、初対面の談話を分析対象とした中井（2003）、自由会話を分析した福富（2005）、インタビュー会話を分析対象とした黄（2000）を取り上げる。

鈴木（2003, 2007, 2009）は、ラジオの相談番組と図書館レファレンスの図書館員とが学生の相談を分析対象に、「機能文型」に基づく「談話型」を解明した。本研究の3種の分析対象のうち、【資料3】就活相談の談話は、鈴木（2003, 2007, 2009）同様、相談の談話であるが、本研究の参加者は、同年代同士であるため、鈴木（2003, 2007, 2009）の結果との相違があるだろうと予想される。分析に関しては、前述した通り、本研究は、鈴木（2003, 2007, 2009）の全5類40種の「発話機能」を用いる。また、「要求」系7種、「提供」系4種の「機能文型」の結果は、本研究の「表現形式」の認定に有効な手立てとされる。

熊谷・木谷（2010）は、「社会言語的調査として行われた、調査者1名と回答者2名による面接調査の談話」を対象に、「参加者間にどのような相互行為があらわれるか、それらの相互行為が面接調査という活動の遂行においてどのように位置づいているか」を分析した。分析における着眼点である「参加の枠組み」や「参加者たちの行動のあ

りよう」は本研究と同様である。しかし、熊谷・木谷（2010）は、三者間でのやりとりであるため、本研究の対話形式の談話とは異なる結果になると考えられる。

初対面の母語話者場面と接触場面を分析した佐々木（1998）は、「情報要求」の発話の頻度を調査し、頻度を調整することが見られるかどうかを検証している。その結果、「初対面での異文化コミュニケーションにおいて、日本人の（1）聞き返しなどによる『確認』の発話の増加、（2）相手の『ストレンジャー度』の高さや、『言語的ホスト』－『言語的ゲスト』の関係や、頻繁な話題の導入による会話の展開に起因する「事実の情報」や「意見や感想」を要求する発話の増加が明らかになり、発話頻度の調整がみられた」と報告している。この結果は、本研究の接触場面の就活相談の談話にも見られるのではないかと予想される。

中井（2003）は、初対面の「日本語学習者同士、母語話者／非母語話者の会話において、話段開始部で用いられていた質問表現」を分析した。その結果、『補充質問 単純質問』『確認質問 単純質問』が多くみられた」とし、「非母語話者と会話した母語話者の質問表現には、『確認質問の単純質問』が多くあり、答えられる質問表現を用いる傾向が見られ、非母語話者の会話への参加を容易にしようとする配慮が見られた」としている。福富（2005）は、情報要求場面での母語場面と接触場面の会話データを対象に、「質問－応答」の発話連鎖を分析した結果、「母語話者が質問に対して『質問の答え＋追加情報』、『相手の発話の一部（＝丁寧さ）＋質問の答え』を中心に応答するのに対し、非母語話者は質問に対して『はい』『いいえ』あるいは1発話だけで答えることが多い」と述べている。

本研究でも、就活相談の学習者の発話に同様の特徴が認められるのではないかと予想される。

応答者側に焦点を当てた黄（2003）は、日本語母語話者の日本語によるインタビュー会話をデータにし、応答発話者側がインタビュアーの「情報要求」に対する応答発話の「準備技術」と「展開技術」について考察を行っている。その結果、「準備技術」には、「準備表現」と「挿入連鎖」があると考えられるとし、「準備表現を、返答内容の搜索表示、返答の困惑表示、質問された内容のポイントの繰り返し、発話の受け継ぎの表示、回答しようとする内容の前置き表現、の5つに分ける」ことができ、「挿入連鎖には、「聞き返し」と「情報要求の提示上の援助」の2つが観察できた」としている。また、「展開技術」について、前置き表現の活用、相手同調の誘発、自問自答の

応答展開、の3つの技術が記述できた」としている。

本研究の分析対象は、質問者と応答者の役割が明確な情報収集の談話であるため、発話総数や特徴について、参加者別で大きな違いが表れることを予想している。また、先行研究よりも詳細な分析結果を出すことを目的としている。

2. 2 日本語の会話教育に関する先行研究

2. 2では、「日本語教育における疑問文・質問文」について教材の課題を指摘した斎藤（1989）、「情報取りにおける聞き手のストラテジー」を分析した横須賀（2000）を取り上げる。

まず、斎藤（1989）は、日本語教育における「疑問文・質問文」を分析し、日本語教材の問題点を明らかにしている。「第一に、疑問文・質問文が、狭義の質問表現」に限定されがちである点、「第二に、疑問文・質問文の形式が、疑問詞及び、疑問の終助詞『か』を伴ったものに限定されがち」である点、第三に、「学習者自身が質問をしたり、話題を提示したりする主体的なコミュニケーションの場面が少ない」点、第四に、「イントネーションの指導上の問題点」を挙げている。

これらの中で、第一、第二、第三の問題点に関しては、筆者がこれまでの教授経験で感じていることであり、本研究の問題提起と重なる部分がある。

次に、横須賀（2000）は、中級日本語学習者にホテルの宿泊料を電話で聞くというタスクをさせ、「情報の聞き取り」に使われたストラテジーを「聞き返し」「応答」「再質問」「回避」に大別し、実態を分析した。その結果、「ストラテジーは対話相手の発話全部にではなく、選択した情報に対して集中的に使われること」を明らかにしている。また、『聞き返し』、『確認』、『問い返し』は母語話者との対話の中で起きた問題を訂正処理する方略として、「相づち」、「反応」、過剰なストラテジー使用の「回避」は円滑な会話の流れを維持する方略として有効であること」と結論づけている。

しかし、人為的なタスクであり、少人数の日本語学習者を分析対象としているため、一般化することは難しい。また、「情報取りの聞き手のストラテジー」として、「聞き返しのストラテジー」「応答のストラテジー」「再質問のストラテジー」「ストラテジー回避」という4種に分類しているが、最後の「ストラテジー回避」は、「ストラテジー」の分類項目に含めていいものか疑問があり、これを「ストラテジー」として扱うこと、

また、学習者に指導することについても不安が残る。

2. 3 韓国語母語話者を対象にした先行研究

韓国語母語話者を対象にした先行研究として梅木（2009）と高木（2013）を挙げる。梅木（2009）は、韓日接触場面で情報を求める発話連鎖について、「日本人と韓国人の自由会話8組」を対象に、「質問を重ねる発話と自ら情報を提供する発話の頻度を会話参加者間で比較し、会話展開の仕方が異なるかどうかを検証」した。その結果、「日本人は主に自ら情報を提供する発話により会話を展開させるのに対し、韓国人は自らの情報を提供する発話と情報要求を重ねる発話の両方を同程度用いる」ことを明らかにした。本研究も、同様に韓国人上級日本語学習者を対象にしているため、梅木（2009）の結果と同様の発話連鎖が観察される可能性があると考えられる。

高木（2013）は、日本語と韓国語の自然談話に現れる「繰り返し発話」の「発話形式」と「機能」について分析した結果、『発話形式』については、①日本語談話では、韓国語に比べ先行発話を『そのまま』くり返す発話が多く現れるということ、②日本語では『文レベル』でのくり返しが多いのに対して、韓国語では「語レベル」のくり返しが多いという異なる傾向が明らかになった」としている。また、「機能」の分析においては、「日本語では『共有型』、韓国語では『要求型』の談話展開が多く現れることが明らかになった」とし、「日本語話者が『くり返し発話』により先行発話に対する自己の感情や思考を表し、turnの譲歩を促すことで、結果的に対話者の発話を引き出すのに対して、韓国語話者の積極的な問いかけにより、説明や確認を要求するという、談話展開におけるスタイルの違いに起因するものである」と述べている。高木（2013）では、韓国語母語話者による韓国語の自然談話を対象とした特徴を明らかにしたが、本研究の韓国語母語話者の日本語の談話にも、母語の影響として以上のような特徴が見られることが予想される。

第3章 本研究の方法

3. 1 談話資料の収集方法

本研究の分析対象は、【資料1】テレビのインタビュー番組、【資料2】大学広報紙のインタビュー取材、【資料3】学部大学生と留学生による就職活動の相談の3種類である。

【表2-1】本研究の分析対象

	【資料1】	【資料2】	【資料3】
種類	テレビのインタビュー番組	大学広報紙のインタビュー取材	就職活動の相談
所要時間	各資料約7分間 【資料1-1】～【資料1-10】 全10資料、計約1時間 発話総数1,761発話	各資料約1時間 【資料2-1】～【資料2-3】 全3資料、計約3時間 発話総数5,544発話	各資料約15分間 【資料3-1】～【資料3-16】 全16資料(母語場面全8資料/接触場面全8資料) 計約4時間 母語場面: 発話総数3,845発話 接触場面: 発話総数3,531発話
参加者	質問者(女性キャスター)1名 応答者(各テーマに関する専門家)10名	質問者(大学生生活課の担当者)2名 応答者(卒業生、在校生)3名	母語場面 質問者(活動中の母語話者)8名 応答者(活動経験者の母語話者)2名 接触場面 質問者(活動中の韓国入上級日本語学習者)8名 応答者(活動経験者の母語話者)2名
内容	テーマについてのVTRとインタビューから構成されている。本研究ではインタビュー部分のみ分析する。	人物紹介の記事のインタビュー取材。	就職活動中の大学生(質問者)が経験者の大学生(応答者)から、活動経験や助言を聞く。

3. 1. 1 テレビのインタビュー番組

テレビのインタビュー番組の資料は、【資料1-1】～【資料1-10】の全10資料⁶(発話総数1,761発話)を対象とする。分析対象とする番組は、NHK1チャンネルで毎週月曜日から木曜日の午後7時30分から午後7時56分に放送されていた報道番組「クローズアップ現代」である。放送1回分が「司会者の開始の挨拶→テーマ提示 VTR 放映→テーマ提示→VTR①放映→インタビュー①→VTR②放映→インタビュー②→終了の挨拶」という構成で、全10資料すべてが同じ展開となっている。参加者は、インタビュアー(質問者)であるNHKの女性キャスターKと各回のテーマに関する専門家のゲスト(応答者)の2名である。全10資料は、全て同じインタビュアー(質問者)による

⁶ 「クローズアップ現代」を本研究の分析対象にするにあたり、NHKの番組担当者に電子メールと電話により録音の許可と音声データの使用許可について問い合わせをしたところ、担当者から、本研究での使用は、「著作権法第35条」の適用に該当するため、著作権者等の承諾を得ずに使用できるとの回答を得た。

もので、ゲスト（応答者）は、各回全て異なっている。

本研究で使用するのは、2006年1月から2006年6月に放送の全10本の番組である。これら进行分析対象としたのは、参加者の職業、テーマの偏りを考慮したためである。インタビューに参加するゲストが非母語話者であった回、衛星中継を通して、現地の記者とやりとりをした回、NHKの報道部の記者とやりとりをした回は、本研究の資料から除外した。【表2-2】に、【資料1-1】～【資料1-10】の放送日時、タイトル、ゲストの参加者の概要を示す。

【表2-2】インタビュー番組の談話資料

資料番号	日付	タイトル	ゲスト (応答者)		インタビュアー (質問者)
【1-1】	2006. 1.24	値段0円フリーペーパーの舞台裏	S (男性)	T 大学教授/H 総合 研究所	K (女性)
【1-2】	2006. 3.14	公共施設は変わるか ～検証“官から民へ”の新制度～	M (男性)	H 大学院院長	
【1-3】	2006. 3.15	大学大競争時代 ～生き残りをかけた闘い～	T (男性)	K 大学教授	
【1-4】	2006. 4.6	病を未然に防げ ～はじまった予防医療の課題～	T (男性)	H 大学大学院教授	
【1-5】	2006. 4.17	急増するひき逃げ ～飲酒運転“厳罰化”の死角～	M (男性)	弁護士	
【1-6】	2006. 4.25	体質は改善されたのか ～JR 福知山線事故1年～	A (男性)	K 大学教授	
【1-7】	2006. 5.18	微生物ハンター	O (男性)	T 大学教授	
【1-8】	2006. 5.25	あなたは大丈夫？隠れ糖尿病 ～太っていないのに危険～	T (女性)	T 大学教授	
【1-9】	2006. 5.31	パチンコ依存症 ～始まった克服への取り組み～	I (男性)	精神科医	
【1-10】	2006. 6.14	認知ドライバー 30万人 ～相次ぐ事故をどう防ぐか～	I (男性)	A 大学医学部助教 授	

(注) 質問者：K (【資料1-1】～【資料1-10】全て同じ女性キャスター)

3. 1. 2 大学広報紙のインタビュー取材

大学広報紙のインタビュー取材は、【資料2-1】～【資料2-3】の全3資料⁷（発話総数 5,544 発話）を対象とする。分析対象とする談話は、早稲田大学の週刊発行の広

⁷ 「早稲田ウィークリー」の取材の談話を本研究の分析対象にするにあたり、早稲田大学学生生活課の担当者とゲストの3名に音声データの使用許可をいただき、音声データを貸していただいた。研究目的等説明し、同意書を記入してもらった。

報紙、「早稲田ウィークリー」のインタビュー取材の全3資料である。

インタビュー取材は、早稲田大学の新聞である「早稲田ウィークリー」の「先輩に乾杯！」と「ぴーぷる」という、何らかの特別な活動をした人を紹介し、掲載コーナーに記事を掲載するために、学生生活課の職員がゲスト（応答者）から情報収集を行うという談話である。参加者は、インタビュアー（質問者）である大学の学生生活課の職員とカメラマン、ゲスト（応答者）である。【表2-3】に、【資料2-1】～【資料2-3】の雑誌の掲載日、連載名、ゲストの概要等を示す。ただし、カメラマンの発言は少なく、主に、インタビュアー（質問者）である学生生活課の職員とゲスト（応答者）のやりとりになっている。3資料のうち、【資料2-1】は、学生生活課の職員（質問者）とゲスト（応答者）の2名、【資料2-2】と【資料2-3】は、カメラマンを加えた3名が参加している。

【表2-3】インタビュー取材の談話資料

資料番号	掲載日	連載名	タイトル	ゲスト（応答者）	インタビュアー（質問者）
【2-1】	2005.4.28	先輩に乾杯	仕事を続けながら、世界大会入賞を狙う山岳レースのアスリートKさん	K（男性）	N（男性）
【2-2】	2005.4.14	ぴーぷる	広告研究会制作のCMがカンヌ国際広告祭に出品！！	M（男性）	
【2-3】	2005.10.6	ぴーぷる	第2回世界大学ソフトボール女子選手権に出場！	U（女性）	C（女性）

学生生活課の職員（質問者）/カメラマン：【資料2-1】：N（男性）

【資料2-2】：N（男性） /K（男性）

【資料2-3】：C（女性） /K（男性）

3. 1. 3 学部大学生と留学生による就職活動の相談

就活相談の談話の参加者は、就職活動経験者の大学生（応答者）と就職活動中の大学生（質問者）の相談場面の各資料15分で、合計16資料⁸である。就職活動中の大学生（質問者）が経験者（応答者）から活動経験を聞くように指示した。本資料の詳細は、「6. 1 談話の収集方法と調査指示」で述べる。【表2-4】に、【資料3-1】～【資料3-16】の参加者の概要を示す。全16資料で、【資料3-1】～【資料3-8】の全8資料

⁸ 就活の談話を収集するにあたり、2012年11月3日に研究倫理研究調査倫理申請書を提出し、同年11月29日に「研究調査承認番号414」で承認された。

（発話総数3,845発話）の質問者は日本語母語話者（NS）、【資料3-9】～【資料3-16】全8資料（発話総数3,531発話）の質問者は韓国人上級日本語学習者（NNS）⁹である。応答者は日本語母語話者の2名である。本資料の収集方法と調査指示に関しては、「6.1」で詳細に述べる。

【表2-4】就活相談の談話資料

資料番号	就職活動経験者の大学生 (応答者)			就職活動中の大学生 (質問者)			
【3-1】	応答者 F	4年 (食品メーカー内定)	男性	NS1	質問者 K	3年	男性
【3-2】				NS2	質問者 O	3年	男性
【3-3】				NS3	質問者 T	3年	女性
【3-4】				NS4	質問者 K	3年	女性
【3-5】	応答者 N	4年 (総合商社内定)	男性	NS5	質問者 Y	3年	男性
【3-6】				NS6	質問者 I	3年	男性
【3-7】				NS7	質問者 S	3年	女性
【3-8】				NS8	質問者 H	3年	女性
【3-9】	応答者 F	4年 (食品メーカー内定)	男性	NNS1	質問者 K	3年	男性
【3-10】				NNS2	質問者 H	3年	男性
【3-11】				NNS3	質問者 B	4年	女性
【3-12】				NNS4	質問者 S	3年	女性
【3-13】	応答者 N	4年 (総合商社内定)	男性	NNS5	質問者 U	3年	男性
【3-14】				NNS6	質問者 C	3年	男性
【3-15】				NNS7	質問者 M	3年	女性
【3-16】				NNS8	質問者 J	1年	女性

インタビュー番組は、録画と録音をし、インタビュー取材の談話は大学学生生活課の職員に借りた音声データを使用した。就活相談の談話に関しては、協力者を募集し、調査日を設けて資料を収集した。調査資料と調査参加者の設定には、以下の3つの理由がある。

(1) インタビュー場面と就活相談の場面は、「質問者」と「応答者」という役割と目的が明確な談話であるため、情報収集を行う「質問者」の役割の方に焦点を当てることができる。

(2) インタビューは日本語教育の教室活動でも取り扱うことが多く、第8章の授業実践において具体的な提案ができる。【資料1】のインタビュー番組に出演するインタ

⁹ 文字化資料には、応答者と質問者の区別を分かりやすくするため、「応答者 F」と「質問者（参加者イニシャル）」と記載している。

ビューアーは、限られた時間の中、視聴者に分かりやすく情報収集をする必要があるため、情報収集のひな型が存在していると予想できる。また、【資料2】のインタビュー取材と【資料3】の就活相談場面の談話を分析することにより、番組とは異なった自然談話の特徴を提示できるのではないかと考えられる。

(3) 【資料3】は、同年代同士の相談場面であり、日本語学習者が遭遇し得る場面である。また、最近、日本で就職活動をする日本語学習者が増加傾向にあり、就活生は、就職説明会で企業担当者から情報収集をしたり、OB・OG訪問や大学の先輩から就職に関して情報収集をしたりする場面がある。第8章の授業実践の参加者と類似したテーマ、同年代による談話であるため、会話教育に応用できると思われる。また、日常場面での情報収集場面の談話を分析し、分析結果を授業の外、日常生活にも応用できればと考えている。

3.2 談話資料の文字化方法

本研究の談話の記述は、ザトラウスキー(1991, 1993)を参考にした佐久間監修(1991)、鈴木(2003, 2007, 2009)による下記の談話の文字化方法で行う。以下、鈴木(2003, 2007, 2009)の規則を引用し、用例は本研究の談話資料の発話例を抜粋する。本研究の【資料1】のテレビのインタビュー番組に見られる文字化規則15, 16は補足した。

1. 各発話には発話番号を付け、原則として改行して記す。
 2. 発話番号の後に発話者欄として、名字のイニシャルを付ける。
 3. 接続助詞、連用中止形、「～時に」「～場合」「～前に」「～後」などの形式名詞は1発話として扱い、改行する。
- (1)25K つまり、この予防医療を始める時に、
26K どのなんの、項目を決めて、
27G はい。

28K あの、削減の効果があつたかどうかを図れるようにすべきだったという//ことですかー。
(【資料 1-4】)

4. 一人の発話の、文の終わりには「。」を、文の途中には「、」を記す。読点は、発話中のポーズに限らず、テキストとしての読みやすさを目安として記す。

5. 疑問表現にかかわらず、発話末のイントネーションが上昇している文には、「？」をつける。

(2)31S 住所、書店がね、//すごく大事だったんですけども、

32K はい。

33S どんどん、どんどんなくなっていますよね？

34S そうなりますと、新しい拠点を見つけない。

35S それから、普通書店に行かない人をね、

36S どうやって捕まえるか。

37S その人がこういちいち動いている。
(【資料 1-1】)

6. 間接話法は、引用内容が明らかに直接話法のようなものだけ、「」を付けて記す。また、専門用語も「」内に記す。なお、「」内にも、規則 3 を適用し、接続助詞や文の終わりは改行する。

(3)52U 母親が「私もやってたのよー。」みたいな//感じになって、

53C ああ。

54U で、たまたま偶然//にやるようになったんですけど。
(【資料 2-3】)

(4)1581K 「トレイル・ランニング」っていうジャンルなんですけれども、

1582N はい。

(【資料 2-1】)

7. 倒置の文は 1 発話として表記する。ただし、倒置された一節が一定の長さを持つ場合は、その一節は別の発話とする。

(5)189N どうでした？練習は。
(【資料 2-1】)

8. 前の発話の途中で重なる形で、次の発話者の発話が発せられた時は、前の発話中の次の発話が始まった箇所に「//」をつける。次の発話は前の行の「//」の下に記す。

(6)279N 練習終わっちゃうと、

280N へとへとになって、

281N 帰ってくるだけ//でっていう。

282K そうですね。 (【資料 2-11】)

9. あいづちは、前の発話が終わったところのすぐ後ろの、次の行に記す。

(7)139S カリキュラム、ユニークなカリキュラムを作っていくってことだと思うんですよね。

140K ああ。

141S だから、カリ、カリキュラム開発競争っていうものをですね、

142K うん。 (【資料 1-3】)

10. 応答表現は行頭に記す。

(8)528N それ以外に色々なんか作られたんですか？

529M はい。 (【資料 2-2】)

11. 発話の途中、あるいは発話末の音節を延ばしている場合は、長音（一）を付す。

2 拍以上延びていると判断された場合は、拍数に応じて長音を記す。

(9)1267N オールマイティーに見える人っているじゃないですか？

1268K あ——。

(【資料 2-1】)

12. 1 つの発話に続く笑い声は、それが生じる発話の前後に、{笑い} と記す。

(10)3C インカレ優勝おめでとうございます。

4U {笑い}ありがとうございます。

5C お疲れ様でした。{笑い} (【資料 2-3】)

13. 独立して発せられる笑い声や、連続して発せられる他の発話者の笑い声は 1 発話とし、改行して {笑い} と書き、発話番号を記す。

(11)787U だってW(大学名)だよねーみたいな。{笑い}

788C {笑い}

789U それってすごいよねーっていう。 (【資料 2-3】)

14. 沈黙は、発話番号をつけて、[沈黙] と記す。

(12)1443C 相手が相手に、応援がなかったら、

1444C びっくりしちゃいますよね。

1445U はい。

1446 [沈黙]

1447U ありがとうございました。 (【資料 2-3】)

15. テレビのインタビュー番組の談話の中で、画面の映像が資料を示すパネルに変わった時は、《パネル》と記す。

(13)156S 例えば、これをご覧いただければと思うんですが、

《パネル》

157S これは、もともとスウェーデンで発刊されたものですが、 (【資料 1-1】)

16. テレビのインタビュー番組の談話の中で、画面の映像が資料を示す場面が変わった時は、《画面》と記す。

(14)11T つまり、あの一、単なる事業ではなくて、

12T 住民の満足度とか、安心とか、そういった問題もありますね？

13T で、最初おっしゃった医療費の削減効果に関しましては、半減した後の、

《画面》

14K こちらにありますね？ (【資料 1-4】)

17. 発話は、漢字・仮名混じりの表記にする。ただし、「私」「何か」といった発音が紛らわしい漢字に際しては、以下のようにする。

17-1 「私」－「わたし」

「わたくし」「あたし」などは、平仮名表記にする。

(15)1350U なんか大会の成績とかもよくて、

1351U 中学校も一、今でも「私の代が強かった。」って言われるくらい。

(【資料 2-3】)

17-2 「本当」－「ほんとう」

「ほんと」は、平仮名表記にする。

(16)955N 本当にすごいですね、これは。

956N 本当に全国に行かれてっていう？

(【資料 2-1】)

(17)276K あんまりしなかったですねー。

277K 正直ほんとに、練習ばっかりしましたね。

(【資料 2-1】)

17-3 「雰囲気」－「ふんいき」

「ふいんき」は平仮名表記にする。

(18)303C 元々そういう雰囲気もいいですねー。

304U

そうですね。

(【資料 2-3】)

(19)845K それで、W(大学名)来て//どう？

846U

W(大学名)に来て、

847U 全然ふいんき違って、

848U 結構自由なので、

849C うん。

850U それで、ほんとにのびのびやれてるから、

851U 結果出てるのかなって思います。

(【資料 2-3】)

17-4 「何か」－「なにか」

「なんか」は平仮名表記にする。

(20)767C W(大学名)を選ばれた理由って何かあるんですか？

(【資料 2-3】)

(21)389C 野球なんかも声出し合ってますよねー。

390U そうですね。

(【資料 2-3】)

18. 数字は、原則としてアラビア数字で記す。

(22)173M これも、5年から7年8年に引き上げるという法律の改正がまず必要じゃないかと思
います。 (【資料1-5】)

19. 発話者の氏名は、アルファベットで記す。

(23)56N H君って分かる？//映像系の。

57M はい。 (【資料2-2】)

20. 文字化の際に、何を言っているのか全く分からなかった場合は、(?)をつける。

(24)600U これから(?)試験とかあるんですけどー、

601C あーそうなんですか。

(【資料2-3】)

3. 3 談話の分析方法

日本語の情報収集の談話の展開方法を明らかにするために、分析観点は、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式という3点を設ける。

(1) 情報収集の談話構造については、ザトラウスキー(1993)の「発話機能」を再分類した鈴木(2003, 2007, 2009)の「発話機能」を用い、発話を分類し、「発話機能」の組み合わせと内容上のまとまり、参加者の目的をもとに、佐久間(2003: 95)の「話段」を認定し、その結果から談話構造を明らかにする。また、話段を構成する発話連鎖についても分析する。

(2) 情報収集の質問の提出順については、まず、「話段」における質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向を分析する。そして、質問形式を「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」の3種に分類し、どの質問がどのように提示されるのかを明らかにする。

(3) 情報収集に用いる表現形式は、情報収集のための質問者の特徴的な発話を抽出し、表現形式と発話機能を明らかにする。例えば、「a. 応答確認」、「b. 前置き+質問」等である。

以上の3点の分析観点から、日本語の情報収集の展開方法を解明する。**課題1**で、【資料1】～【資料3】の種類の異なる母語場面の情報収集の談話に共通する特徴があるのか、談話の展開方法を明らかにする。**課題2**で、会話の授業に応用する目的から、【資料3】就職活動の相談を用いて、日本語母語話者と韓国人日本語学習者による情報収集の談話の展開方法の特徴を明らかにし、課題を考察する。最後に、**課題1**と**課題2**の分析結果から、**課題3**の日本語の情報収集の談話の展開方法をどのように会話教育に応用するのかを提案し、韓国の国立D大学における授業実践によって検証する。

3. 3. 1 本研究における「談話」「話段」「発話」の定義と規定

「談話」は、一人の質問者、一人の応答者（インタビュー番組の2資料は、一人のカメラマンも加わる）が、開始の挨拶から終了の挨拶に至る音声言語の最大にして完結したまとまりである。

インタビュー番組の「クローズアップ現代」は、放送1回が「司会者の開始の挨拶→テーマ提示 VTR 放映→テーマ提示→VTR①放映→インタビュー①→VTR②放映→インタビュー②→終了の挨拶」という構成であり、10 資料すべてがこの流れである。主に分析するのは、インタビュー①とインタビュー②の部分である。インタビュー①では、VTR①の内容確認を、インタビュー②では、インタビュー②の内容確認とインタビュアーがゲストに意見要求をする。そこで、テレビのインタビュー番組は、放送1回分を「談話」とする。大学広報紙のインタビュー取材は、一人のインタビュー取材を「談話」とし、就活相談は一人の相談を「談話」とする。

そして、それぞれ下位要素として、「大話段」「話段」「小話段」「発話」を認定する。

本研究における「話段」は、佐久間（1987, 2000, 2003）による「話段」の概念規定や、南（1983）の「会話のまとまり」の認定基準のうち「参加者」「話題」「コミュニケーションの機能」「全体的構造」、ザトラウスキー（1993）の「談話の参加者各自の『目的』(goal)」等を踏まえ、談話の「話題」または「目的」を認定基準とする。

「大話段」は、開始の挨拶などの「Ⅰ．開始部」、情報収集が中心となる「Ⅱ．展開部」、終了の挨拶などをする「Ⅲ．終了部」の3種類に区分される。

「話段」は、「大話段」の下位の要素であり、「大話段」の下位として、内容上のま

とまりと参加者の目的、発話機能により分類される。

「小話段」は、「話段」の下位の要素であり、「話段」の下位として、内容のまとまり、発話機能の違いによって区分される。

「話段」の単位は、「題－述関係」を持つ一文または一節を基本とするが、場合によっては、一発話で一話段を形成することがあると考える。「話段」を認定する手がかりとしては、話者交替や沈黙が挙げられる。また、情報収集の談話の場合、質問者の質問と応答者の応答の組み合わせが繰り返されるのであるが、この場合、質問者の質問とそれに対する応答者の応答をひとまとまりとして考え、「問い——答え」の隣接応答ペアも手がかりとして考える。また、談話において、1問1答のやりとりだけではなく、質問を複数回重ねたり、回答がなかったりする場合がある。この場合、質問者の質問の〈Ⅲ. 要求〉系の「発話機能」がどこまでその後の発話にかかっているかを「機能領域」とし、これも認定基準とする。言語的指標としては、「メタ言語的発話」や、佐久間（2002）の「接続表現の文脈展開機能」、話題を切り出す際のフィラーなどが挙げられる。

「発話」については、杉戸（1987, 1994）の「一人の参加者の一まとまりの音声言語連続（ただし、笑い声や相づちも含む）で、他の参加者の音声言語連続（同上）とかポーズ（空白時間）によって区切られる」の定義に従う。

3. 3. 2 本研究における「発話機能」の定義と分類

本研究では、主に、ザトラウスキー（1993）の「発話機能」に従い分析をする。しかし、ザトラウスキー（1993）の分類した12類の「発話機能」は、「勧誘の談話」の談話構造を分析するための分類であるため、本研究のインタビューの談話の談話構造を分析するためには、観点が異なる。また、本研究は、情報収集の談話の〈Ⅲ. 要求〉と〈Ⅳ. 提供〉を詳細に分析するために、網羅的に細分化された鈴木（2003, 2007, 2009）の「発話機能」の分類が有効であると考え。そこで、ザトラウスキー（1993, 1997）の「発話機能」を再分類した「相談の談話」の鈴木（2003, 2009）の「発話機能」の全5類40種の発話機能の分類に従い、一部名称を変更した全5類39種の「発話機能」を用いて分析を行う。

【表 3－1】鈴木（2009）の相談の談話における「発話機能」の分類

I. 相手に対する呼びかけや、自身の発話に含まれる間投表現	
1 注目要求☆	2 間投表現
II. 談話表示★	
A 話題開始機能	
a1 話を始める機能	a2 話を再び始める機能
B 話題継続機能	
b1 話を重ねる機能	b2 話を深める機能
b3 話を進める機能	b4 話をうながす機能
b5 話を戻す機能	b6 話をはさむ機能
b7 話をそらす機能	b8 話をさえぎる機能
b9 話を变える機能	b10 話をまとめる機能
C 話題終了機能	
c1 話を終える機能	c2 話を一応終える機能
III. 要求	
1 確認要求＊	2 判定要求＊
3 選択要求＊	4 説明要求＊
5 単独行為要求☆	6 共同行為要求☆
7 言い直し要求☆	
IV. 提供	
1 事実報告	2 意見説明
3 感情表出	4 意志表明
5 選択情報提供	6 言い直し☆
7 応答	
V. 受容	
1 関係作り・儀礼☆	2 自己注目表示☆
3 相手への注目表示	
a 継続	b 承認
c 否認	
d 確認	e 興味
f 共感	
g 終了	h 同意

(注)鈴木(2009:78)の【表3-6】の転載。

「II. 談話表示」の下位項目 14 種(★)は、佐久間(2002)の「接続表現の文脈展開機能」による。

「III. 要求」の下位項目 7 種のうち、＊で示した 4 種は、国立国語研究所(1960)による。

☆で示した〈単独行為要求〉〈共同行為要求〉〈言い直し要求〉、IV. の提供の〈言い直し〉、および V. 受容の〈関係作り・儀礼〉、〈自己注目表示〉はザトラウスキー(1993)による。

本研究の「発話機能」の〈I. 注目要求〉、〈III 5. 単独行為要求〉、〈III 6. 共同行為要求〉、〈III 7. 言い直し要求〉、〈IV 6. 言い直し〉、〈V 1. 関係作り・儀礼〉、および、〈Va. 継続〉、〈Vb. 承認〉、〈Vd. 確認〉、〈Ve. 興味〉、〈Vf. 共感〉、〈Vg. 終了〉、〈Vh. 同意〉については、ザトラウスキー(1993)に従う。また、〈II. 談話表示〉(佐久間(2002:168)の「接続表現の文脈展開機能による分類」)、〈III. 要求〉、〈IV. 提供〉、〈V. 受容〉、〈Vc. 否認〉については、鈴木(2007,2009)に従う。なお、本研究の談話資料の発話の名称に相応しいことから、〈III 1. 事実説明〉、〈III 2. 見解表明〉、〈III 3. 評価表明〉は鈴木(2003)に従っている。

本研究における「発話機能」を【表 3－2】に、その下に定義を示す。〈IV 1. 事実説明〉、〈IV 2. 見解表明〉、〈IV 3. 評価表明〉は鈴木(2003)の定義を引用し、その外の「発話機能」の定義は、鈴木(2009)を引用した。

【表 3－2】本研究における「発話機能」の分類全 5 類 39 種

I. 注目要求	
II. 談話表示	
A 話題開始機能	
a1 話を始める機能	a2 話を再び始める機能
B 話題継続機能	
b1 話を重ねる機能	b2 話を深める機能
b3 話を進める機能	b4 話をうながす機能
b5 話を戻す機能	b6 話をはさむ機能
b7 話をそらす機能	b8 話をさえぎる機能
b9 話を变える機能	b10 話をまとめる機能
C 話題終了機能	
c1 話を終える機能	c2 話を一応終える機能
III. 要求	
1 確認要求	2 判定要求
3 選択要求	4 説明要求
5 単独行為要求	6 共同行為要求
7 言い直し要求	
IV. 提供	
1 事実説明＊	2 見解表明＊
3 評価表明＊	4 意志表明
5 選択情報提供	6 言い直し
7 応答	
V. 受容	
1 関係作り・儀礼	2 自己注目表示
3 相手への注目表示	
a 継続 b 承認 c 否認	
d 確認 e 興味 f 共感	
g 終了 h 同意	

(注) ＊印は、鈴木 (2003) に従う。

I. 注目要求—「呼びかけ」の類 (ザトラウスキー (1993 : 67)) その他。

(1) 57K ま、T さん。 (【資料 1－1】)

(2) 1K えー、今夜は H 総合研究所顧問で、
2K T 大学教授の S さんにお越しいただきました。 (【資料 1－4】)

II. 談話表示

談話の構造、話段の展開を探るために、「接続表現」と、メタ言語的な発話を、鈴木 (2003) に従い、佐久間 (2002 : 168) の「接続表現の文脈展開機能」3 種 14 類に分類する。(鈴木 (2009 : 79))

(3) 6K そして、大手出版社も//有料な情報誌を出しながら、 (〈話を重ねる機能〉)

7S

うん。

8K 同じような無料の雑誌を出すと。

(【資料 1-1】)

【表3-3】佐久間まゆみ(2002:168)「接続表現の文脈展開機能による分類」

文脈展開機能	定 義	接続類型 市川孝(1978)	接続表現の例
A 話題開始機能			
a1 話を始める機能	話を最初から始める。	転換型	ソレデハ・デハ・ジャ ア
a2 話を再び始める機能	前と違う話を途中から始める。	転換型	サテ・トコロデ・デ
B 話題継続機能			
b1 話を重ねる機能	前の話を繰り返し、同じ話を続ける。	添加型／対比型 ／補足型	ソシテ・サラニ／マタ ハ／ナオ
b2 話を深める機能	前の話を言い換えて説明する。	同列型／補足型	タトエバ・スナワチ／ ナゼナラ
b3 話を進める機能	前の話の結果や反対の話を述べる。	順接型／逆接型 ／対比型	ソコデ／ケレドモ・ガ ／ムシロ
b4 話をうながす機能	話が先へ進むように相手をうながす。	添加型／順接型	ソレカラ／ソレデ・ デ・ダカラ
b5 話を戻す機能	一度それた話を再び元の話に戻す。	転換型	トコロデ／サテ・ソモ ソモ
b6 話をはさむ機能	前の話に関連する別の話をさし込む。	順接型／逆接型 ／補足型	ダカラ／ダケド・デモ ／タダ
b7 話をそらす機能	前の話を避けて、違う話をする。	転換型／補足型	デ／タダ・モットモ・ チナミニ
b8 話をさえぎる機能	相手の話を続けさせないようにする。	逆接型／補足型	デモ・ダケド・シカシ ／ダッテ
b9 話を変える機能	前の話を切り上げて、違う話をする。	転換型／逆接型 ／補足型	トコロデ・ジャ／シカ シ／実ハ
b10 話をまとめる機能	前の話をまとめて、しめくくる。	同列型／順接型 ／転換型	要スルニ／従ッテ・ユ エニ／トニカク
C 話題終了機能			
c1 話を終える機能	話をすべて完了する。	順接型／転換型	コウシテ・トイウワケ デ／ソレデハ・ジャア
c2 話を一応終える機能	前の話を途中で切り上げる。	順接型／転換型	ダカラ・ソコデ・デ／ デハ・ジャ

佐久間まゆみ (2002:168) (表3. 2「接続表現の文脈展開機能による分類」の転載)

Ⅲ. 要求

1. 情報要求

Ⅲ-1〈確認要求〉

自己の判断について、相手に確認を求める表現で、文末に「ネ」「ナ」などの終助詞を伴うもののほか、「デショウ?」「ジャナイ?」「ジャナイカ?」などの文末助辞を伴うものがある。相手の〈応答〉、あるいは、〈応答〉+〈事実説明〉の発話が来る。(鈴木(2009:79))

- (4) 183K 飲酒運転をとにかくなくすという//強い決意で法律作りもしないといけないということですね?

184M はい。

185M そうですね。 (【資料1-5】)

Ⅲ-2〈判定要求〉

相手に肯定か否定かの判定を求める表現。相手の応答としては、〈応答〉、〈応答〉+〈事実報告〉の発話が来る。(鈴木(2009:81))

- (5) 153K 出版界の中で、このフリーペーパーというのは、席卷していきませんか。

154S そうですね。 (【資料1-1】)

Ⅲ-3〈選択要求〉

AかBかを提示し、相手に選択させる表現。相手の応答としては、〈選択情報提供〉の発話が来る。(鈴木(2009:81))

- (6) 158K 新聞ですか。

159K 日刊紙?

160S 新聞ですね。 (【資料1-1】)

Ⅲ-4〈説明要求〉

「特定の時・所・人などをさだめない」「不定詞」を含み、「その内容を説明することを相手に求めるもの」(国立国語研究所(1960:116))相手の応答としては、〈事実報告〉の発話が来る。(鈴木(2009:81))

- (7) 177K 有料紙としては、こうしたフリーペーパーとのせめぎ合いの中で、
178K どうやって生き抜いていけばいいと//いうふうにお思いでしょうか。

(【資料 1-1】)

Ⅲ-5〈単独行為要求〉

話し手が参加しない、聞き手単独の行為を求める発話で、「依頼」・「勧告」・「命令」等がある。(ザトラウスキー(1993: 68)) (鈴木(2009: 82))

- (8) 240K じゃあ、帽子取っていただいてよろしいですか? (【資料 2-2】)

Ⅲ-6〈共同行為要求〉

「勧誘」等のように、話し手自身も参加する行為への参加を求める発話である。(ザトラウスキー1993: 68)) (鈴木(2009: 82))

- (9) 98K フリーペーパーの戦略、ご覧いただきましょう。 (【資料 1-1】)

Ⅲ-7〈言い直し要求〉

先行する発話がうまく聞き取れなかった場合の発話である。(ザトラウスキー1993: 68)) 〈言い直し要求〉の後には、Ⅵ-6〈言い直し〉の発話が来る。(鈴木(2009: 82))

- (10) 95M はい、えっとー、企業選びにおいてー基準は何でしたか?

96N したいことができるか、

97M うん。

98N いたい環境であるか、の2つです。

99M うんと、したいこ//ととー?

100N えっと、したいことと、

101M いたい環境。 (【資料 3-15】)

Ⅳ. 提供

Ⅳ-1〈事実説明〉

Ⅲ-1〈確認要求〉、Ⅲ-2〈判定要求〉、Ⅲ-4〈説明要求〉に対して、事実を説明し、

情報を提供する発話である。文末には、断定の「です。」や、「んです。」等が現れることが多い。なお、Ⅲ-1〈確認要求〉、Ⅲ-2〈判定要求〉に対する〈事実説明〉は、Ⅳ-7〈肯定〉、Ⅳ-8〈否定〉の発話と共起することが多い。（鈴木（2003：59））

前掲の例(10)の96Nと98Nがそれにあたる。

Ⅳ-2〈見解表明〉

自らの見解を表す発話であり、文末には、「～と思います。」が来ることが多い。

Ⅲ-1〈確認要求〉、Ⅲ-2〈判定要求〉に対する提供として、単独で現れるか、〈肯定〉〈否定〉とともに現れることもある。（鈴木（2003：60））

(11) 206G ここはこうした方がいいのかということをもっと考えるべきだと思います。

（【資料1-1】）

Ⅳ-3〈評価表明〉

他の発話者の要求に対し、自らの評価を表す発話であり、文末に「～たほうがいいです。」が来ることが多い。（鈴木（2003:61））

(12) 86G これが一番大切だと思います。

（【資料1-4】）

Ⅳ-4〈意志表明〉

要求に対し、自らの意志を表明する。「～したい」等が文末につく。（鈴木（2009：85））

(13) 283U 今年、来年も優勝したいです。{笑い}

（【資料2-3】）

Ⅳ-5〈選択情報提供〉

上記Ⅲ-3〈選択要求〉に対してのみ現れる。（鈴木（2009：86））

前掲の例（6）の160Sがそれにあたる。

Ⅳ-6〈言い直し〉

〈言い直し〉は、〈言い直し要求〉に先行する発話を繰り返す、あるいは、多少言い換えてもう一度述べる形の応答である。（ザトラウスキー（1993:68））（鈴木（2009：86））

前掲の例（10）の101Mがそれにあたる。

IV-7<応答>

相手の要求に対する肯定の発話。Ⅲ - 1〈確認要求〉、Ⅲ - 2〈判定要求〉に対して用いられる〈応答〉の発話は、単独で用いられることがあるが、〈事実報告〉の発話と共起して現れることが多い。（鈴木（2009：86））本研究では〈事実説明〉の発話と共起して現れることが多い。

前掲の例（5）の 154S がそれにあたる。

V. 受容

V-1<関係作り・儀礼>

「「感謝」「陳謝」「挨拶」等の良い人間関係を作る（中田（1991a））。」（ザトラウスキー（1993:68））（鈴木（2009：87））

(14) 2050N どうもあ//りがとうございました。

2051M どうもありがとうございました。 (【資料 2-2】)

V-3<相手への注目表示>

a. <継続の注目表示>

先行する発話に暗示された意味を認めないまま、単に話を継続させる。（ザトラウスキー（1993：70））（鈴木（2009：88））

(15) 91K もちろん、箱根駅伝にも出たことないし、

92N はい。

93K 本当に無名だったんですよ。 (【資料 2-1】)

b. <承認の注目表示>

先行する発話に暗示された意味を認める。（ザトラウスキー（1993:70））（鈴木（2009：88））

(16) 124M 「これからも継続して必要ですかというその判断は、必要だと思います。

125K はい。

(【資料 1-2】)

c. <否認の注目表示>

ザトラウスキー（1993：70）で、〈否定の注目表示〉という名称であったが、本研

究¹⁰では、VI - 7〈応答〉と区別するため、〈否認の注目表示〉とした。（鈴木（2009：88））

(17) 670C ホームラン返す時

671C いかがでしたか？

672U いや、私日本でもまだ、なんだろ、

673U 公式戦で3本くらいしか打ってなくてー、（【資料 2-3】）

d. 〈確認の注目表示〉

先行する発話の繰り返しによる確認、または、そこから導かれる結論を確認する。

（ザトラウスキー（1993:70））（鈴木（2009：89））

(18) 690U 守備よりバッティングの方が好きなんで、

691C あ、そうですか。

（【資料 2-3】）

e. 〈興味の注目表示〉

興味や関心を示す。（ザトラウスキー（1993:70））（鈴木（2009：89））

(19) 890U 1年生は3年生に話しかけちゃいけないとか。

891C へー。 【資料 2-3】

f. 〈共感の注目表示〉

相手と同じ感情をいっていることを示す。（ザトラウスキー（1993:70））（鈴木（2009：89））

(20) 573N 一番きつい時期だったと思うんですよね、不況で。

574K そうですねー。

（【資料 2-1】）

g. 〈終了の注目表示〉

話を終了してもいいことを示す。（ザトラウスキー（1993:70））（鈴木（2009：90））

(21) 206S ここはこうした方がいいのかということをもっと考えるべきだと思います。

¹⁰ 鈴木（2009）の研究のことである。

207K

はい。

208K ありがとうございました。

(【資料 1－1】)

h. 〈同意の注目表示〉

a～i を受ける発話の機能。(ザトラウスキー (1993:70))

本研究では、上記 a ～ g の〈注目表示〉を受ける発話をここに含める(鈴木 (2009 : 90))

(22) 1611K その、他のノウハウってのが蓄積されていないんですよ。

1612N

なるほど。

1613K

ええ。 .

(【資料 2－1】)

第4章 テレビのインタビュー番組における談話の展開方法

4. 1 テレビのインタビュー番組における談話構造

【資料1】テレビのインタビュー番組における談話の展開方法を明らかにするために、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式の3点の分析観点で分析を行う。談話資料の詳細は以下の通りである。

本節では、分析観点1の「談話構造」について論じる。

【表2-2】インタビュー番組の談話資料（再掲）

資料番号	日付	タイトル	ゲスト (応答者)		インタビュアー (質問者)
【1-1】	2006. 1.24	値段0円フリーペーパーの舞台裏	S (男性)	T 大学教授/H 総合研究所	K (女性)
【1-2】	2006. 3.14	公共施設は変わるか ～検証“官から民へ”の新制度～	M (男性)	H 大学院院長	
【1-3】	2006. 3.15	大学大競争時代 ～生き残りをかけた闘い～	T (男性)	K 大学教授	
【1-4】	2006. 4.6	病を未然に防げ ～はじまった予防医療の課題～	T (男性)	H 大学大学院教授	
【1-5】	2006. 4.17	急増するひき逃げ ～飲酒運転“厳罰化”の死角～	M (男性)	弁護士	
【1-6】	2006. 4.25	体質は改善されたのか ～JR 福知山線事故1年～	A (男性)	K 大学教授	
【1-7】	2006. 5.18	微生物ハンター	O (男性)	T 大学教授	
【1-8】	2006. 5.25	あなたは大丈夫？隠れ糖尿病 ～太っていないのに危険～	T (女性)	T 大学教授	
【1-9】	2006. 5.31	パチンコ依存症 ～始まった克服への取り組み～	I (男性)	精神科医	
【1-10】	2006. 6.14	認知ドライバー 30万人 ～相次ぐ事故をどう防ぐか～	I (男性)	A 大学医学部助教授	

4. 1. 1 発話数

テレビのインタビュー番組の参加者は、質問者であるインタビュアー（K）と、各回の異なる10名の応答者であるゲスト（S, M, T, T, M, A, O, T, I, I）である¹¹。【表4-1】の最下段に、全10資料（【資料1-1】から【資料1-10】）の参

¹¹ 詳細は【表2-1】を参照のこと。

加者別の発話数を示した。全 10 資料の発話数 1,761 発話のうち、質問者が 580 発話で、32.9%になる。応答者が 1,181 発話で、67.1%であり、応答者の発話は、質問者の約 2 倍ある。これは、インタビューという談話の特徴を示すものであり、インタビュアーがゲストの専門分野の話を聞き出すという役割を担っていることによるものである。

【表 4-1】に、【資料 1-1】～【資料 1-10】の各資料の参加者別発話数を示した。

【表 4-1】テレビのインタビュー番組の談話における参加者別発話数

資料番号	インタビュアー (質問者)	ゲスト (応答者)	合計	資料別発話総数 に対する割合
【資料 1-1】	59	149	208	11.8%
	29.0%	71.0%	100.0%	
【資料 1-2】	44	98	142	8.1%
	32.4%	67.6%	100.0%	
【資料 1-3】	59	95	154	8.7%
	39.5%	60.5%	100.0%	
【資料 1-4】	60	93	153	8.7%
	39.6%	60.4%	100.0%	
【資料 1-5】	60	129	189	10.7%
	32.8%	67.2%	100.0%	
【資料 1-6】	62	116	178	10.1%
	36.3%	63.7%	100.0%	
【資料 1-7】	65	110	175	9.9%
	37.9%	62.1%	100.0%	
【資料 1-8】	66	157	223	12.7%
	29.9%	70.1%	100.0%	
【資料 1-9】	46	122	168	9.5%
	27.8%	72.2%	100.0%	
【資料 1-10】	59	112	171	9.7%
	34.9%	65.1%	100.0%	
小計	580	1181	1761	100.0%
参加者別発話総数 に対する割合	32.9%	67.1%	100.0%	

1 談話当たりの平均発話総数は、約 176 発話である。150 発話以下で、発話数が最も少ないのは、【資料 1-2】の 142 発話である。一方、発話数が多い資料は、【資料 1-1】の 208 発話、【資料 1-8】の 223 発話で、【資料 1-8】の発話総数が最も多い。番組編成上、インタビューの時間はほぼ同じであり、質問者のインタビュアーも毎回同じ人物であるが、発話総数に多少の違いがあることが分かる。

また、参加者別の発話総数は、全 10 資料の質問者の一人当たりの平均発話数は、約

58 発話である。【資料 1-1】、【資料 1-3】、【資料 1-4】、【資料 1-5】、【資料 1-6】
【資料 1-7】、【資料 1-8】、【資料 1-10】の質問者の発話数は、平均以上であるが、
ほぼ同じである。また、【資料 1-2】の 44 発話、【資料 1-9】の 46 発話は、50 発話
以下であり、2 資料の質問者の発話数だけが、平均発話数より下回っているが、それ
ほどの大差はない。

一方、ゲストの応答者の発話総数を見ると、全 10 資料の応答者の一人当たりの平均
発話数は、約 118 発話である。最も多いのは、【資料 1-8】の 157 発話で、最も少な
いのは、【資料 1-4】の 93 発話であり、ゲストの発話総数は、ほぼ同じである。以上、
テレビのインタビュー番組の参加者別発話総数、インタビュアーとゲストの各参加者
別発話総数は、資料によって発話総数の差は見られなかった。これは、毎回ほぼ同じ
インタビュー時間であることが関係している。

4. 1. 2 談話構造

4. 1. 2. 1 「大話段」の構造

テレビのインタビュー番組の「大話段」は、「大話段 1」と「大話段 2」の 2 つに分
けることができる。「大話段 1」は、「Ⅰ. 開始部」「Ⅱ. 展開部」「Ⅲ. 終了部」に分
けることができる。「Ⅰ. 開始部」では、番組の司会であるインタビュアー（質問者）
が、視聴者に向けて番組開始の挨拶をする。次に、テーマ提示の VTR が流れ、その
後、インタビュアーが口頭でテーマ提示をする。「Ⅱ. 展開部」は、テーマに関する V
TR が 2 回流され、インタビュアーとゲストのインタビューが 2 回放送される。「Ⅲ.
終了部」は、インタビュアーが視聴者に向けて、番組の終了の挨拶をしてインタビュ
ーの談話が終了する。その後、次回の放送の予告が流される場合もある。

「大話段 2」は、「大話段 1」の「Ⅱ. 展開部」の部分である。本研究では、番組の
中心であるこの部分を主として分析対象とする。「大話段 2」は、VTR①の放映とイン
タビュアーがゲストを紹介する発話の「Ⅱ-1. 開始部」、インタビュアーとゲストと
の 2 回のインタビューと VTR②の放映からなる「Ⅱ-2. 本題部」、インタビュアーが
ゲストに感謝の挨拶をする「Ⅱ-3. 終了部」からなる。【表 4-2】は、テレビのイ
ンタビュー番組の「大話段 1」と「大話段 2」の構造を示す。

【表4－2】テレビのインタビューの「大話段」の構造

インタビューの談話	大話段 1	大話段 2
	I. 開始部	
	II. 展開部	II－1. 開始部
		II－2. 本題部
		II－3. 終了部
	III. 終了部	

【資料 1－1】の「大話段 1」の「III. 終了部」は、以下の例（1）のような質問者 K の発話による大話段である。質問者 K が、209K で、ゲストを紹介し、210K で今回の番組のテーマを伝え、番組を終了している。

(1) (「【資料 1－1】「III. 終了部」)

209K S さんでした。

210K 今夜は、発行部数を増やしているフリーペーパーがもたらしている影響についてお伝えしました。

【資料 1－1】の「大話段 2」の「II－3. 終了部」は、例（2）のような質問者 K の 1 発話の話段である。ゲストである応答者に対する感謝の挨拶をしている。

(2) (「【資料 1－1】「II－3. 終了部」)

208K ありがとうございます。

全 10 資料のうち、【資料 1－7】【資料 1－10】の 2 資料は、インタビュアーの感謝の挨拶だけではなく、ゲストの方も同様の挨拶を返している。

(3) (「【資料 1－7】「II－3. 終了部」)

174K どうもありがとうございましたー。

175O どうもありがとうございました。

次に、【表 4－3】に各資料の「大話段 2」の発話数を示す。

【表４－３】テレビのインタビュー番組の「大話段２」における参加者別発話数

大話段	資料番号	インタビュアー (質問者)	ゲスト (応答者)	合計	発話総数に対する 割合
Ⅱ Ⅰ 開始部	【資料１-１】	2	0	2	0.1%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-２】	1	0	1	0.7%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-３】	1	0	1	0.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-４】	1	0	1	0.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-５】	1	0	1	0.5%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-６】	5	0	5	2.7%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-７】	1	0	1	0.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-８】	2	0	2	0.9%
Ⅱ Ⅱ 本題部		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-９】	1	0	1	0.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-１０】	1	0	1	0.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	小計	16	0	16	
	発話総数に対する 割合	0.9%	0.0%	0.9%	
	【資料１-１】	56	149	204	97.1%
		27.3%	72.3%	100.0%	
	【資料１-２】	42	98	140	96.6%
		30.0%	70.0%	100.0%	
	【資料１-３】	57	95	152	96.8%
		37.5%	62.5%	100.0%	
	【資料１-４】	58	93	151	98.1%
		38.4%	61.6%	100.0%	
	【資料１-５】	58	129	187	97.4%
		31.0%	69.0%	100.0%	
	【資料１-６】	56	116	172	94.5%
		32.6%	67.4%	100.0%	
	【資料１-７】	63	109	172	97.2%
		36.6%	63.4%	100.0%	
	【資料１-８】	63	157	220	98.2%
		28.6%	71.4%	100.0%	
	【資料１-９】	44	122	166	98.2%
		26.5%	73.5%	100.0%	
	【資料１-１０】	57	111	168	97.7%
		33.9%	66.1%	100.0%	
	小計	554	1179	1733	
	発話総数に対する 割合	31.2%	67.0%	98.4%	
Ⅱ Ⅲ 終了部	【資料１-１】	1	0	1	1.4%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-２】	1	0	1	2.8%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-３】	1	0	1	2.5%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-４】	1	0	1	1.3%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-５】	1	0	1	2.1%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-６】	1	0	1	2.7%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-７】	1	1	2	2.3%
		75.0%	25.0%	100.0%	
	【資料１-８】	1	0	1	0.9%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-９】	1	0	1	1.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料１-１０】	1	1	2	1.7%
		66.7%	33.3%	100.0%	
	小計	10	2	12	
	発話総数に対する 割合	0.6%	0.1%	0.6%	
総数	小計	580	1181	1761	100.0%
	発話総数に対する 割合	32.9%	67.1%	100.0%	

10 資料全体の「Ⅱ－１．開始部」の発話数の合計は、16 発話で発話総数 1,761 発話に対する割合は、0.9%である。「Ⅱ－２．本題部」は、1,733 発話で、98.4%と最も多く、「Ⅱ－３．終了部」は、12 発話で、0.6%である。ゲストの紹介や挨拶をする「Ⅱ－１．開始部」や「Ⅱ－３．終了部」よりも、番組の主目的であるインタビューが中心となっている。

「大話段 2」の参加者別発話数は、「Ⅱ－１．開始部」では、全 16 発話中、インタビュアーが 16 発話で 100.0%を占める。これは、インタビューの談話は、番組の進行役であるインタビュアーの発話から始まるということを示す。

次に、「Ⅱ－２．本題部」では、全 1,733 発話中、インタビュアーが 554 発話で、ゲストは 1,179 発話であり、ゲストの発話数がインタビュアーの約 2 倍ある。これは、インタビューの中心である「Ⅱ－２．本題部」は、インタビュアーがゲストから情報を収集する役割を担っていることによるものである。

さらに、「Ⅱ－３．終了部」では、全 12 発話中、インタビュアーが 10 発話で、ゲストが 2 発話であり、「Ⅱ－３．終了部」でも、主にインタビュアーが発話している。

以上のことから、テレビのインタビュー番組の「大話段 2」では、「Ⅱ－１．開始部」でインタビュアーが談話を開始し、「Ⅱ－２．本題部」で、インタビュアーとゲストの発話のやりとりがあり、「Ⅱ－３．終了部」で、インタビュアーが談話を終了するという流れで談話が展開されている。これは、インタビュアーが、番組を進行する司会者の役割も兼ねていることによるものである。そして、「Ⅱ－２．本題部」の参加者による大きな差が見られたのは、「Ⅱ－２．本題部」が、インタビューが本格的に行われる話段であることによるものである。インタビュアーには、番組の視聴者に、ゲストの情報を提供するため、ゲストの話を聞き出すという目的があることによるものである。

「大話段 2」の発話数を各資料別に見ると、「Ⅱ－１．開始部」の発話総数は、【資料 1-6】以外は、インタビュアーの 1, 2 発話であり、資料別の差は見られない。ただし、【資料 1-6】だけ 5 発話で、VTR①の確認を前置きとして、ゲストの紹介の前にある特別な例となっている。

(4) (【資料 1-6】「Ⅱ－１．開始部」)

1K えー、ご覧頂きましたように、

2K 安全を重視した環境を現場に作っていこうとしている JR 西日本ですけれども、

3K えー、これまでの合理化で、

4K それにも限界がでてきているのです。

5K え、今日は、公益事業の安全マネジメントがご専門の K 大学教授の A さんにお越しいただいています。

「Ⅱ－２．本題部」の発話数は、資料別に見ると、「Ⅱ－２．本題部」のインタビュアーの１番組の談話当たりの平均発話は、約 55 発話であるが、最も発話数が多いのは、【資料 1－7】と【資料 1－8】の 63 発話で、平均を大きく下回るのは、【資料 1－2】の 42 発話と【資料 1－9】の 44 発話である。この 2 資料が平均を下回っているのは、談話全体の発話総数と同じである。一方、ゲストの平均発話総数は、約 118 発話である。最も多いのは、【資料 1－1】の 149 発話で、最も少ないのは、【資料 1－4】の 93 発話である。ゲストの発話総数に差は見られない。この結果も、資料別に見た参加者別発話総数の結果と同じである。

資料別「Ⅱ－３．終了部」の参加者別発話総数は、インタビュアーが 1 発話で、ゲストが 1 発話の資料が、2 資料あり、他の 8 資料はゲストの発話はない。「Ⅱ－３．終了部」では、資料別の参加者の発話総数は、ほぼ同じである。以上、全 10 資料の「大話段 2」の参加者別発話総数は、すべての資料の「Ⅱ－１．開始部」と「Ⅱ－３．終了部」は、主にインタビュアーが発話している。また、「大話段 2」のインタビューとゲストの発話総数を資料別に比較すると、「Ⅱ－１．開始部」、「Ⅱ－２．本題部」、「Ⅱ－３．終了部」では、インタビュアーとゲストの発話数に大差は見られない。

4. 1. 2. 2 「Ⅱ－２．本題部」の構造

テレビのインタビュー番組の「大話段 2」のうち、「Ⅱ－２．本題部」は、参加者の役割や目的という番組編成上の区分によって、「話段」を認定した。そして、さらに、「話段」は、「小話段」に分けられる。「Ⅱ－２．本題部」は、「１．VTR①の確認の話段」「２．VTR②放映の話段」「３．VTR②の確認の話段」「４．意見質問と応答の話段」の 4 つの話段からなっている。番組は、「Ⅱ－１．開始部」で、VTR①を放映し、インタビュアーがゲストを紹介した後、「Ⅱ－２．本題部」の「１．VTR①確認の話段」で VTR①で放映された内容をインタビュアーがゲストに確認するというやりとりがある。その次に、２回目の VTR を放映するのであるが、VTR②の放映の前に、インタビュアー

が VTR②の紹介をする。この VTR②の紹介と VTR②の放映が、「2. VTR②放映の話段」である。VTR②の放映後、インタビュアーが、ゲストに VTR②の内容を確認するやりとりがある。それが、「3. VTR②確認の話段」である。そして、最後に、VTR の確認を終えて、インタビュアーがゲストにテーマについての今後の課題や、意見を求める質問をする「4. 意見質問と応答の話段」がある。「Ⅱ－2. 本題部」は、このような談話構造になっている。【表4－4】に、テレビのインタビュー番組の談話における「大話段1」「大話段2」「話段」の構造をまとめたものを示す。

【表4－4】テレビのインタビュー番組の「大話段」と「話段」の構造

大話段 1	大話段 2	話段
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶
		2. テーマ提示の VTR 放映
		3. テーマ提示
Ⅱ. 展開部	Ⅱ－1. 開始部	1. VTR①放映
	Ⅱ－2. 本題部	1. VTR①の確認
		2. VTR②放映
		3. VTR②の確認
		4. 意見質問と応答
	Ⅱ－3. 終了部	1. 感謝の挨拶
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告

【表4－5】に、「話段」における参加者別発話数を示した。「話段」別に発話総数を見ると、「1. VTR①の確認の話段」の発話総数は、737 発話で、談話全体の 42.5%、「2. VTR②放映の話段」は、42 発話で、2.4%、「3. VTR②の確認の話段」は、588 発話で、33.9%、「4. 意見質問と応答の話段」は、366 発話で、21.1%である。「Ⅱ－2. 本題部」は、「1. VTR①の内容の話段」「3. VTR②の確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」の順に発話数が多く、「2. VTR②放映の話段」が最も少ない。

【表4－5】テレビのインタビュー番組の「Ⅱ－2. 本題部」の「話段」における参加者別発話数(1)

話段	資料番号	インタビュアー (質問者)	ゲスト (応答者)	合計	発話総数に対する割合
1. V T R ① の 確 認	【資料1-1】	22	70	92	44.3%
		6.0%	18.1%	100.0%	
	【資料1-2】	14	36	50	34.5%
		28.0%	72.0%	100.0%	
	【資料1-3】	25	54	79	50.3%
		31.6%	68.4%	100.0%	
	【資料1-4】	14	35	49	31.8%
		28.6%	71.4%	100.0%	
	【資料1-5】	25	45	70	36.5%
		35.7%	64.3%	100.0%	
	【資料1-6】	20	47	67	36.8%
		29.9%	70.1%	100.0%	
	【資料1-7】	29	51	80	45.2%
		36.3%	63.8%	100.0%	
	【資料1-8】	20	43	63	28.1%
		31.7%	68.3%	100.0%	
2. V T R ② 放 映	【資料1-9】	27	67	94	55.6%
		28.7%	71.3%	100.0%	
	【資料1-10】	27	66	93	54.1%
		29.0%	71.0%	100.0%	
	小計	223	514	737	
	発話総数に対する割合	12.9%	29.7%	42.5%	
	【資料1-1】	4	0	4	1.9%
		1.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-2】	4	0	4	2.8%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-3】	5	0	5	3.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-4】	6	0	6	3.9%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-5】	3	0	3	1.6%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-6】	4	0	4	2.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-7】	5	0	5	2.8%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-8】	5	0	5	2.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-9】	2	0	2	1.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	【資料1-10】	4	0	4	2.3%
		100.0%	0.0%	100.0%	
	小計	42	0	42	
	発話総数に対する割合	2.4%	0.0%	2.4%	

【表4-5】テレビのインタビュー番組の「Ⅱ-2. 本題部」の「話段」における参加者別発話数(2)

3. V T R ② の 確 認	【資料1-1】	21	57	78	37.1%
		5.5%	14.7%	100.0%	
	【資料1-2】	13	39	52	35.9%
		25.0%	75.0%	100.0%	
	【資料1-3】	5	11	16	10.2%
		31.3%	68.8%	100.0%	
	【資料1-4】	20	25	45	29.2%
		44.4%	55.6%	100.0%	
	【資料1-5】	20	58	78	40.6%
		25.6%	74.4%	100.0%	
	【資料1-6】	22	49	71	39.0%
		31.0%	69.0%	100.0%	
	【資料1-7】	19	38	57	32.2%
		33.3%	66.7%	100.0%	
	【資料1-8】	27	77	104	46.4%
		26.0%	74.0%	100.0%	
4. 意 見 質 問 と 応 答	【資料1-9】	5	26	31	18.3%
		16.1%	83.9%	100.0%	
	【資料1-10】	18	38	56	32.6%
		32.1%	67.9%	100.0%	
	小計	170	418	588	
	発話総数に対する割合	9.8%	24.1%	33.9%	
	【資料1-1】	9	22	31	14.8%
		2.4%	5.7%	100.0%	
	【資料1-2】	11	23	34	23.4%
		32.4%	67.6%	100.0%	
	【資料1-3】	22	30	52	33.1%
		42.3%	57.7%	100.0%	
	【資料1-4】	18	33	51	33.1%
		35.3%	64.7%	100.0%	
	【資料1-5】	10	26	36	18.8%
		27.8%	72.2%	100.0%	
総 計	【資料1-6】	10	20	30	16.5%
		33.3%	66.7%	100.0%	
	【資料1-7】	10	20	30	16.9%
		33.3%	66.7%	100.0%	
	【資料1-8】	11	37	48	21.4%
		22.9%	77.1%	100.0%	
	【資料1-9】	10	29	39	23.1%
		25.6%	74.4%	100.0%	
	【資料1-10】	8	7	15	8.7%
		53.3%	46.7%	100.0%	
	小計	119	247	366	
	発話総数に対する割合	6.9%	14.3%	21.1%	
	小計	554	1179	1733	
	発話総数に対する割合	31.1%	66.2%	97.3%	

話段別の発話総数を参加者別に見ると、「1. VTR①の確認の話段」では、全 737 発話中、インタビュアーが 223 発話、談話全体の発話総数 1,733 発話に対する割合は、12.9%、ゲストが 514 発話で 29.7%となり、ゲストは、インタビュアーの 2 倍以上の発話数である。また、「2. VTR②放映の話段」では、全 42 発話中、インタビュアーが 42 発話で 100.0%、ゲストの発話は全くない。「3. VTR②の確認の話段」では、全 588 発話中、インタビュアーが 170 発話、ゲストが 418 発話で、ゲストは、インタビュアーの 2 倍以上の発話数である。「4. 意見質問と応答の話段」は、全 366 発話中、インタビュアーが 119 発話、ゲストが 247 発話で、ゲストは、インタビュアーの 2 倍以上の発話数である。4 話段のうち、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の内容確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」の 3 話段は、ゲストの発話がインタビュアーの発話の 2 倍以上ある。そして、「2. VTR②放映の話段」は、インタビュアーのみの発話である。

以上、「Ⅱ－2. 本題部」では、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」で、インタビュアーとゲストの発話のやりとりがなされ、「1. VTR①の確認の話段」と「3. VTR②の確認の話段」に挟まれる「2. VTR②放映の話段」は、インタビュアーが視聴者に、VTR②の紹介をするため、インタビュアーのみの発話となっている。例(5)に、【資料 1-1】の「2. VTR②放映の話段」「(6) VTR②紹介の小話段」を示す。

(5) (【資料 1-1】「(6) VTR②紹介の小話段」)

- 95K お伝えしているように、
96K 情報はただという感覚を持つこの若い読者をターゲットを、にしているフリーペーパー
なんですけれども、
97K インターネット世代の支持をどうやって集めるのか、
98K フリーペーパーの戦略、ご覧いただきましょう。

次に、資料別に発話総数を見ると、「1. VTR①の確認の話段」の平均発話総数は、74 発話である。90 発話以上は、【資料 1-1】の 92 発話、【資料 1-9】の 94 発話、【資料 1-10】の 93 発話である。そして、最も発話数が少ないのは、【資料 1-4】の 49 発話で、次いで、【資料 1-2】の 50 発話である。資料別に発話量に差があることが分か

る。「2. VTR②放映の話段」は、インタビュアーだけの発話で、2 から 6 発話で、資料別ではそれほど差は見られない。

「3. VTR②の確認の話段」の平均発話総数は、59 発話である。70 発話以上は、【資料 1-1】と【資料 1-5】の 78 発話と、【資料 1-6】の 71 発話、【資料 1-8】の 104 発話である。そして、最も発話数が少ないのは、【資料 1-3】の 16 発話である。資料別に発話量に差があることが分かる。「4. 意見質問と応答の話段」の発話総数の平均は、37 発話である。最も多いのが、【資料 1-3】の 52 発話、最も発話数が少ないのは、【資料 1-10】の 15 発話であり、発話数に差があることが分かる。

最後に、テレビのインタビュー番組における小話段は、参加者の役割や目的、内容上の区分、質問と答えの隣接ペア、〈要求〉系の「発話機能」の「機能領域」で認定した。【資料 1-1】の場合、「Ⅱ-1. 開始部」では、「(1) ゲストの紹介の小話段」、「Ⅱ-2. 本題部」では、「(2) 売れなくなった有料雑誌の小話段」、「(3) 出版社側の痛手の小話段」、「(4) フリーペーパーの影響力の小話段」、「(5) 有料雑誌への信頼の小話段」、「(6) VTR②紹介の小話段」、「(7) 読み手のニーズの小話段」、「(8) 読み手の生活状況の小話段」、「(9) フリーペーパーの接見の小話段」、「(10) 有料雑誌の対策の小話段」という話段展開になる。【表 5-1】～【表 5-10】に、全 10 資料の談話構造を示す¹²。

¹² 【表 5-1】～【表 5-10】には、談話構造とともに、「VTR」の要約、キーワードを示す。また、各「話段」の放送時間も示す。

【表5-1】【資料1-1】インタビュー番組「値段0円フリーペーパーの舞台裏」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	0:06		
		2. テーマ提示の VTR 放映	0:58	テーマ提示の VTR 放映	
		3. テーマ提示	1:14		
Ⅱ. 展開部	Ⅱ－1. 開始部	1. VTR①放映	7:80	VTR①放映 若者の活字離れ 情報はインターネット 若者をとらえるニーズ 活字離れ 情報はインターネットの時代	
	Ⅱ－2. 本題部	1. VTR①の確認	3:22	1K～2K(2) 3K～42S(40) 43K～62S(20) 63K～76S(14) 77K～94K(18)	(1) ゲストの紹介 (2) 売れなくなった有料雑誌 (3) 出版社側の痛手 (4) フリーペーパーの影響力 (5) 有料雑誌への信頼
		2. VTR②放映	0:15 7:58	95K～98K(4)	(6) VTR②の紹介
				VTR②放映 分かりやすい工夫 話し言葉にする	
		3. VTR②の確認	3:43	99K～128S(30) 129K～147S(19) 148K～176S(29)	(7) 読み手のニーズ (8) 読み手の生活状況 (9) フリーペーパーの接見
				177K～207K(31)	(10) 有料誌の対策
4. 意見質問と応答					
Ⅱ－3. 終了部	1. 感謝の挨拶	0:02	208K(1)		
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告	0:25		

【表5-2】【資料1-2】インタビュー番組「公共施設は変わるのか」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	0:10		
		2. テーマ提示の VTR 放映	1:06	テーマ提示の VTR 放映	
		3. テーマ提示	1:36		
Ⅱ. 展開部	Ⅱ-1. 開始部	1. VTR①放映	4:50	VTR①放映 民間企業が公共施設を変える 官から民へ専門家の指導により利用者が増える	
	Ⅱ-2. 本題部	1. VTR①の確認	3:20	1K(1) 2K~29K(28) 30K~51M(22)	(1) ゲストの紹介 (2) 民間産業の効果 (3) 企業にとっての魅力の受け止め方
		2. VTR②放映	0:20 7:55	52K~55K(4)	(4) VTR②の紹介
				VTR②放映 なぜ落選か NPO の訴え 雇用はどうなるか自治体の不安	
		3. VTR②の確認	3:20	56K~85M(30) 86K~107M(22)	(5) 制度が機能しない要因 (6) 行政の対応
		4. 意見質問と応答		108K~141K(34)	(7) 連携するには
		1. 感謝の挨拶	0:02	142K(1)	
	Ⅱ-3. 終了部				
		1. 終了の挨拶、予告	0:18		
Ⅲ. 終了部					

【表5－3】【資料 1－3】インタビュー番組「大学競争時代」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ．開始部		1．開始の挨拶	1:00		
		2．テーマ提示の VTR 放映	1:09	テーマ提示の VTR 放映	
		3．テーマ提示	1:32		
Ⅱ．展開部	Ⅱ－1．開始部	1．VTR①放映	8:29	VTR①放映 苦勞する国立大学 地場産業の研究で製品化による収入	
	Ⅱ－2．本題部	1．VTR①の確認	3:34	1K(1) 2K～59K(58) 60K～80K(21)	(1) ゲストの紹介 (2) 国立大学の影響 (3) 改革の必要性
		2．VTR②放映	0:20	81K～85K(5)	(4) VTR②の紹介
			7:12	VTR②放映 企業と結び大学 資金獲得の為企業と結びつく大学	
		3．VTR②の確認	3:02	86K～101K(16)	(5) 産学連携
		4．意見質問と応答		102K～132S(31) 133K～153K(21)	(6) 大学の大切さ (7) 大学における対策
	Ⅱ－3．終了部	1．感謝の挨拶	0:02	154K(1)	
Ⅲ．終了部		1．終了の挨拶、予告	0:23		

【表5－4】【資料 1－4】インタビュー番組「病を未然に防げ」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ．開始部		1．開始の挨拶	0:08		
		2．テーマ提示の VTR 放映	1:10	テーマ提示の VTR 放映	
		3．テーマ提示	1:25		
Ⅱ．展開部	Ⅱ－1．開始部	1．VTR①放映	10:05	VTR①放映 医師が消え混乱する町 予防医療の取り組み	
	Ⅱ－2．本題部	1．VTR①の確認	2:38	1K(1) 2K～30G(29) 31K～50K(20)	(1) ゲストの紹介 (2) 予防医療の効果の検証の難しさ (3) 予防医療の効果
		2．VTR②放映	0:28	51K～56K(6)	(4) VTR②の紹介
			5:07	VTR②放映 保険師の訪問	
		3．VTR②の確認	4:11	57K～71K(15) 72K～86G(15) 87K～101K(15)	(5) プログラムに参加する人々 (6) 継続的に参加するためには (7) 予防医療削減の効果
		4．意見質問と応答		102K～122K(21) 123K～131K(9) 132K～152G(21)	(8) プログラムに参加するための動機付け (9) 北欧の事例 (10) 個人の参加の大切さ
	Ⅱ－3．終了部	1．感謝の挨拶	0:02	153K(1)	
Ⅲ．終了部		1．終了の挨拶、予告	0:02		

【表5-5】【資料 1-5】インタビュー番組「急増するひき逃げ」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段	小話段
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	0:13
		2. テーマ提示の VTR 放映	1:01
		3. テーマ提示	1:07
Ⅱ. 展開部	Ⅱ-1. 開始部	1. VTR①放映	7:15
			VTR①放映 ひき逃げに走る飲酒ドライバー ひき逃げが急増
	Ⅱ-2. 本題部	1. VTR①の確認	3:05
			1K(1) 2K~47M(46) 48K~71M(24)
		2. VTR②放映	0:16
			7:25
	Ⅱ-3. 終了部	3. VTR②の確認	5:06
			75K~99M(25) 100K~130M(31) 131K~152M(22)
		4. 意見質問と応答	153K~188K(36)
Ⅲ. 終了部		1. 感謝の挨拶	0:02
			189K(1)
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告	0:22

【表5-6】【資料 1-6】インタビュー番組「体質は改善されたのか」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段	小話段
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	2:02
		2. テーマ提示の VTR 放映	
		3. テーマ提示	
Ⅱ. 展開部	Ⅱ-1. 開始部	1. VTR①放映	9:16
			VTR①放映 繰り返されるミス ミスを生む体質をどう変えるか 情報伝達のミス
	Ⅱ-2. 本題部	1. VTR①の確認	3:01
			1K~5K(5) 6K~23K(18) 24K~72K (49)
		2. VTR②放映	0:15
			7:00
	Ⅱ-3. 終了部	3. VTR②の確認	4:00
			77K~99K(23) 100K~147A(48) 148K~177 K(30)
		4. 意見質問と応答	
Ⅲ. 終了部		1. 感謝の挨拶	0:02
			178K(1)
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告	0:16

【表5-7】【資料 1-7】インタビュー番組「微生物ハンター」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	0:07		
		2. テーマ提示の VTR 放映	0:50	テーマ提示の VTR 放映	
		3. テーマ提示	1:20		
Ⅱ. 展開部	Ⅱ-1. 開始部	1. VTR①放映	8:21	VTR①放映 極限環境に挑む微生物ハンター	
	Ⅱ-2. 本題部	1. VTR①の確認	3:00	1K(1) 2 K~16O(15) 17K~25K(9) 26K~64O(39) 65K~81K(17)	(1) ゲストの紹介 (2) ゲストの活動内容 (3) 微生物の種類 (4) 微生物の医療品への期待 (5) アメリカの事例
		2. VTR②放映	7:10	82K~86K(5)	(6) VTR②の紹介
				VTR②放映 国家プロジェクト微生物探索 生物資源めぐり利害対立	
		3. VTR②の確認	4:01	87K~112O(26) 113K~143O(31)	(7) 利益配分を巡る対立の深刻化 (8) 先進国と途上国との溝を埋めるためには
		4. 意見質問と応答		144K~173K(30)	(9) 微生物が持つ可能性
	Ⅱ-3. 終了部	1. 感謝の挨拶	0:04	174K~175O(2)	
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告	0:24		

【表5-8】【資料 1-8】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」談話構造

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ. 開始部		1. 開始の挨拶	0:05		
		2. テーマ提示の VTR 放映	0:10	テーマ提示の VTR 放映	
		3. テーマ提示	2:20		
Ⅱ. 展開部	Ⅱ-1. 開始部	1. VTR①放映	6:35	VTR①放映 突然の心筋梗塞その原因 危険隠れ糖尿病	
	Ⅱ-2. 本題部	1. VTR①の確認	3:06	1K~2(2) 3K~15T(13) 16K~29T(14) 30K~45T(16) 46K~65K(20)	(1) ゲストの紹介 (2) 隠れ糖尿病とは (3) 隠れ糖尿病の症状 (4) 隠れ糖尿病の患者数 (5) 発症の原因
		2. VTR②放映	0:24 6:35	66K~70K(5)	(6) VTR②の紹介
				VTR②放映 隠れ糖尿病が心筋梗塞をおこす 習慣病から心筋梗塞をおこす	
		3. VTR②の確認	6:00	71K~100K(30) 101K~113K(13) 114K~174T(61)	(7) インスリンの働き (8) すい臓の働き (9) 発症する人の特徴
		4. 意見質問と応答		175K~198T(24) 199K~222K(24)	(10) 対策 (11) 医療界の課題
	Ⅱ-3. 終了部	1. 感謝の挨拶	0:02	223K(1)	
Ⅲ. 終了部		1. 終了の挨拶、予告	0:24		

【表5－9】【資料 1－9】インタビュー番組「パチンコ依存症」談話構造

大話段 1	大話段 2	話 段		小話段	
Ⅰ．開始部		1．開始の挨拶	0:12		
		2．テーマ提示の VTR 放映	0:06	テーマ提示の VTR 放映	
		3．テーマ提示	1:14		
Ⅱ．展開部	Ⅱ－1．開始部	1．VTR①放映	8:50	VTR①放映 パチンコ依存症のメカニズム 家族崩壊と深刻な実態	
	Ⅱ－2．本題部	1．VTR①の確認	0:38	1K (1) 2K～11I(10) 12K～20I(9) 21K～37I(17) 38K～56I (19) 57K～71I(15) 72K～95I(24)	(1) ゲストの紹介 (2) クリニックの患者 (3) パチンコ依存症とは (4) ギャンブル依存症の診断基準 (5) ギャンブルをやめられない原因 (6) ギャンブル依存症の症状 (7) 最近社会問題化されている理由
		2．VTR②放映	0:07 6:48	96K～97K (2)	(8) VTR②の紹介 VTR②放映 パチンコ依存症克服への取り組み 入院して治療
		3．VTR②の確認	3:39	98K～128I(31)	(9) 克服するまでに要される時間
		4．意見質問と応答		129K～140I(12) 141～167K(27)	(10) 家族の対応策 (11) 業界の社会的責任
	Ⅱ－3．終了部	1．感謝の挨拶	0:02	168K(1)	
Ⅲ．終了部		1．終了の挨拶、予告	0:26		

【表5－10】【資料 1－10】インタビュー番組「認知ドライバー30万人」談話構造

大話段 1	大話段 2	話 段		小話段	
Ⅰ．開始部		1．開始の挨拶	0:70		
		2．テーマ提示の VTR 放映	0:42	テーマ提示の VTR 放映	
		3．テーマ提示	1:33		
Ⅱ．展開部	Ⅱ－1．開始部	1．VTR①放映	8:01	VTR①放映 認知症ドライバー運転の実態 家族の苦悩	
	Ⅱ－2．本題部	1．VTR①の確認	3:50	1K(1) 2K～16I(15) 17K～32I(16) 33K～75I(43) 76K～94K(19)	(1) ゲストの紹介 (2) 認知ドライバーが運転を止めない実態 (3) 認知ドライバーの心うち (4) 認知ドライバーの兆候 (5) 法律が機能していない実態
		2．VTR②放映	0:16 7:40	95K～98K(4)	(6) VTR②の紹介 VTR②放映 高齢者の運転返納 地域の模索
		3．VTR②の確認	3:03	99K～110I(12) 111K～139I(29) 140K～154I(15)	(7) 土佐静岡の事例 (8) 法律の改正 (9) 運転なしによる問題点
		4．意見質問と応答		155K～169K(15)	(10) 解決策
	Ⅱ－3．終了部	1．感謝の挨拶	0:02	170K～171I(2)	
Ⅲ．終了部		1．終了の挨拶、予告	0:04		

「Ⅱ - 1. 開始部」が「1. VTR①放映の話段」、「Ⅱ - 3. 終了部」が「1. 感謝の挨拶の話段」、「Ⅱ - 2. 本題部」の「1. VTR①の確認の話段」「2. VTR②放映の話段」「3. VTR②の確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」ということは、それぞれ全資料に共通している。「Ⅱ - 2. 本題部」の小話段の合計を各資料別で見ると、6 小話段が【資料 1-2】、【資料 1-3】、【資料 1-6】、【資料 1-7】、7 小話段が【資料 1-5】、9 小話段が【資料 1-4】、【資料 1-10】、10 小話段が【資料 1-9】、11 小話段が【資料 1-1】、【資料 1-8】であり、6 小話段からなる「開始部の話段」の資料が最も多かった。

各資料で異なる点は、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」の小話段の数である。「1. VTR①の確認の話段」の小話段が、2 小話段だったのは、【資料 1-2】、【資料 1-3】、【資料 1-4】、【資料 1-5】、【資料 1-6】の合計 6 資料で最も多い。4 小話段だったのは、【資料 1-1】、【資料 1-7】、【資料 1-8】、【資料 1-10】で合計 4 資料、【資料 1-9】は、最も多い 6 つの小話段からなる話段に認定することができた。次に、「3. VTR②確認の話段」の小話段が 1 小話段だったのは、【資料 1-3】、【資料 1-9】の 2 資料、2 小話段だったのは、【資料 1-2】、【資料 1-6】、【資料 1-7】の合計 3 資料で、3 小話段だったのは、【資料 1-1】、【資料 1-4】、【資料 1-5】、【資料 1-8】、【資料 1-10】の合計 5 資料で最も多く認定できた。「4. 意見質問と応答の話段」の小話段は、1 小話段に認定できたのが最も多く、【資料 1-1】、【資料 1-2】、【資料 1-5】、【資料 1-6】、【資料 1-7】、【資料 1-10】合計 6 資料で、2 小話段だったのは、【資料 1-3】、【資料 1-8】、【資料 1-9】の 3 資料、【資料 1-4】は、3 つの小話段に認定できた。このことにより、各資料によって、共通する部分があり、小話段の数は異なるが、全 10 資料で認定された話段が最も多かったことからすると、「Ⅱ - 1. 開始部」の小話段は「(1) ゲストの紹介」、「Ⅱ - 2. 本題部」の「1. VTR①の確認の話段」は、2 段の小話段、「2. VTR②放映の話段」は、1 段、「3. VTR②の確認の話段」は、3 段、「4. 意見質問と応答の話段」は、1 段、最後の「Ⅱ - 3. 終了部」の小話段は、1 段の小話段という展開が基本であるといえる。

【表 6】に、テレビのインタビュー番組における基本的な談話構造を示す。「小話段」の(2)～(9)は、各資料の話題が入る。「小話段」の数は、全 10 資料の平均である。

【表6】テレビのインタビュー番組における基本的な談話構造

大話段 1	大話段 2	話段	小話段
Ⅰ．開始部		1．開始の挨拶	
		2．テーマ提示の VTR 放映	テーマ提示の VTR 放映
		3．テーマ提示	
Ⅱ．展開部	Ⅱ－１．開始部	1．VTR①放映	VTR①放映 (1) ゲストの紹介
	Ⅱ－２．本題部	1．VTR①の確認	(2) (3)
		2．VTR②放映	(4) VTR②の紹介 VTR②放映
		3．VTR②の確認	(5) (6) (7)
		4．意見質問と応答	(8)
	Ⅱ－３．終了部	1．感謝の挨拶	(9)
Ⅲ．終了部		1．終了の挨拶、予告	

4. 2 テレビのインタビュー番組における発話機能の出現傾向

4. 2. 1 参加者別の発話機能の出現傾向

本節では、テレビのインタビュー番組における全 10 資料の「大話段 2」と「話段」における発話機能の特徴について述べる。【表 7】に、全 10 資料の「大話段」・「話段」の参加者別発話総数と発話機能総数を示した。【表 8－1】～【表 8－10】¹³⁾に、各資料の「大話段」、「話段」における参加者別発話数と発話機能を示した。テレビのインタビュー番組の参加者の発話を「発話機能」に分類した結果、全 1,761 発話、2,318 の発話機能に分類できた。

¹³⁾ 巻末資料を参照のこと。

【表 7】によると、発話機能の総数 2,318 発話において、インタビュアーは、761 発話で、32.8%、ゲストは、全 1557 発話で、67.2%であり、ゲストの発話機能数が、インタビュアーよりも 2 倍以上あることが分かる。これは、発話総数と同様の結果である。【表 7】の最下段に、発話機能の〈Ⅰ. 注目要求〉、〈Ⅱ. 談話表示〉、〈Ⅲ. 要求〉、〈Ⅳ. 提供〉、〈Ⅴ. 受容〉のそれぞれを集計して示した。これによると、〈Ⅳ. 提供〉が 1,170 発話で、50.5%と全体の約半数を占め、次いで、〈Ⅴ. 受容〉が 293 発話で、12.6%、〈Ⅰ. 注目要求〉が 328 発話で、14.2%、〈Ⅲ. 要求〉が 267 発話で、11.5%、〈Ⅱ. 談話表示〉が 260 発話で 11.2%という順になっている。

次に、それぞれを参加者別に見てみると、最も差が大きかったのは、〈Ⅳ. 提供〉と〈Ⅲ. 要求〉であった。〈Ⅳ. 提供〉は、インタビュアーが 178 発話、全体の総数に対する割合が 7.7%しかないのに対し、ゲストが 992 機能で、42.8%を占める。また、〈Ⅲ. 要求〉に関しては、インタビュアーが 247 発話で、10.7%であるのに対して、ゲストは、20 発話で、0.9%しかない。このことから、テレビのインタビュー番組の発話は、インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉と、ゲストの〈Ⅳ. 提供〉が中心となることが分かる。全 39 種の発話機能を比較すると、ゲストの〈事実説明〉が 632 発話で最も多く、次が、ゲストの 246 発話の〈見解表明〉、そして、171 発話のインタビュアーの〈確認要求〉の順に多い。これは、インタビューという種類の談話で、視聴者に情報提供をするため、ゲストに質問をして情報要求をすることを目的とするインタビュアーの役割と、インタビュアーの質問に応答して、インタビュアーを含む視聴者に情報提供をするというゲストの役割が、それぞれ機能しているためである。

4. 2. 1. 1 「大話段」の発話機能

本節では、「大話段 2」の「Ⅱ－1. 開始部」、「Ⅱ－2. 本題部」、「Ⅱ－3. 終了部」の 3 大話段の発話機能の出現傾向について論じる。

3 大話段のうち、発話機能の総数が最も多いのは、「Ⅱ－2. 本題部」であり、これは、当然のことながら、発話総数の結果とも対応している。

「Ⅱ－1. 開始部」の発話機能は、全 24 機能すべてがインタビュアーの発話機能である。(1) は、【資料 2】の「Ⅱ－1. 開始部」の発話の例である。

(1) (【資料 1-2】「Ⅱ-1. 開始部」)

1K 今夜は、地方の財政に大変お詳しい H 大学大学院長の M さんにお越しいただいてい
ます。 〈事実説明〉

インタビュアーは、視聴者に対して、〈事実説明〉により、ゲストの職業と氏名を述べて、今回のゲストを紹介している。

「Ⅱ-3. 終了部」は、インタビュアーがゲストに対して、「ありがとうございました。」という〈関係作り・儀礼〉で感謝の挨拶をする。【資料 1-7】と【資料 1-10】には、ゲストからインタビュアーに対する感謝の挨拶もあり、各 2 発話ある。全 10 資料のうち、「Ⅱ-1. 開始部」と「Ⅱ-3. 終了部」の参加者と発話機能は、ほぼ共通している。

「Ⅱ-2. 本題部」の発話機能の総数は、2,282 発話で、インタビュアーが 763 機能、ゲストが 1,555 発話であり、これは、大話段全体の発話機能数の結果とも対応している。全 39 種の発話機能を比較すると、ゲストの〈事実説明〉が 632 発話で最も多く、次いで、ゲストの〈見解表明〉が 246 発話、そして、インタビュアーの〈確認要求〉が 171 発話の順番に多い。インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉、ゲストの〈Ⅳ. 提供〉に注目してみると、インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉に最も多いのは、〈確認要求〉の 171 発話で、次に、〈説明要求〉の 38 発話、そして、〈判定要求〉の 29 発話の順に多く、〈選択要求〉、〈単独行為要求〉、〈共同行為要求〉はそれぞれ一桁台であり、〈言い直し要求〉はなかった。従って、インタビュアーは、〈確認要求〉、〈説明要求〉、〈判定要求〉の 3 機能によって、ゲストに情報要求をしていることになる。

一方、ゲストの〈Ⅳ. 提供〉に、最も多かったのが、〈事実説明〉の 632 発話で、次いで、〈見解表明〉の 246 発話、〈応答〉の 81 発話、〈評価表明〉の 31 発話の順である。

〈選択情報提供〉は一桁台で、〈意志表明〉、〈言い直し〉はなかった。従って、ゲストは、主に〈事実説明〉で、インタビュアーや視聴者に情報提供をしていることが分かる。これは、このテレビのインタビュー番組の内容に関係があると考ええる。分析資料の「クローズアップ現代」は、社会問題を扱ったテーマであり、専門家であるゲストが、テーマに関連した事実について、視聴者に分かりやすく解説するというものである。仮に、なんらかのテーマについての意見を要求したり、ライフストーリーについてインタビューするようなテレビのインタビュー番組だと、〈見解表明〉や〈評価表明〉

の数も多くなり、番組の内容によって、参加者の発話機能の使われ方が変わってくる
ことが予想される。

4. 2. 1. 2 「Ⅱ－2. 本題部」における情報収集の発話機能と表現形式

本節では、「Ⅱ－2. 本題部の大話段」の「1. VTR①放映の話段」、「2. VTR①の
確認の話段」、「3. VTR②の確認の話段」、「4. 意見質問と応答の話段」の4話段におけ
る発話機能の出現傾向について分析し、情報収集のために質問者が用いる特徴的な発
話を抽出し、分析観点3の「情報収集に用いる表現形式」について考察する。

【表7】によると、4話段のうちで発話機能の総数が多かった順は、「1. VTR①の
確認の話段」が941機能で、発話機能の総数に対する割合は、40.6%、「3. VTR②の
内容確認の話段」が726機能で、31.3%、「4. 意見質問と応答の話段」が424機能で、
18.3%、「2. VTR②放映の話段」が49機能、2.1%である。「Ⅱ－2. 本題部」では、
「1. VTR①の確認の話段」と「3. VTR②の確認の話段」が中心であるといえる。

「1. VTR①の確認の話段」の発話機能を機能別に比較すると、ゲストの〈事実説明〉、
インタビュアーの〈確認要求〉が多い。これは、「3. VTR②の確認の話段」でも同じ
ことがいえる。しかし、「4. 意見質問と応答の話段」では、ゲストの〈見解表明〉が
〈事実説明〉を上回る。「2. VTR②放映の話段」は、視聴者に向けての発話であるた
め、他の3話段とは、タイプが異なり、インタビュアーの〈事実説明〉、〈共同行為要
求〉が多い。はじめに、「2. VTR②放映の話段」の特徴を述べる。(2)は、【資料1
－9】の「2. VTR②放映の話段(6) VTR②紹介の小話段」である。

(2) (【資料1－9】「2. VTR②放映の話段(6) VTR②紹介の小話段」)

96K さて、えー、パチンコ依存症から、どうすれば脱却できるのか、

〈注目要求〉＋〈話を再び始める機能〉＋〈事実説明〉

97K 治療の現場をご覧くださいましょう。

〈共同行為要求〉

「3. VTR②の確認の話段」でのインタビュアーとゲストのやりとりから、視聴者へ
のVTR②の紹介に移るため、〈話を再び始める機能〉の「さて」で、話を切り替えて
いる。そして、「どうすれば、脱却できるのか」と疑問表現の形の〈事実説明〉で、
VTR②の課題提示を行い、97Kで〈共同行為要求〉をしている。

【資料1－6】は、〈共同行為要求〉がないタイプの「2. VTR②放映の話段(VTR②

紹介の小話段)」である。

(3) 【資料 1-6】(「2. VTR②放映の話段 (4) VTR②紹介の小話段」)

73K えー、さて、今年の3月、JR 西日本は事故原因の一つとされたダイヤを改定した。

〈注目要求〉+〈話を再び始める機能〉+〈事実説明〉

74K ゆとりをもったダイヤの見直し、なんですけども 〈事実説明〉

75K えー、見直された後も、 〈注目要求〉+〈事実説明〉

76K 日常的にダイヤの遅れが出ています。 〈事実説明〉

インタビュアーKは、〈注目要求〉と〈話を再び始める機能〉で、新しい話に切り替え、〈事実説明〉でVTR②の紹介をしている。前述の【資料 1-8】と異なる点は、インタビュアーKがVTR②の内容を予告して、話題を提示している点と〈共同行為要求〉がないという点である。このタイプの「2. VTR②放映の話段 (3)」は、10 資料のうち、6 資料にある。

次に、【資料 1-1】の「Ⅱ-2. 本題部」の「4. 意見質問と応答の話段」での発話機能の特徴を挙げる。例(4)は、【資料 1】の「4. 意見質問と応答の話段」(10) 有料誌の対策 (177K~207K)」を表すものである。

(4) (【資料 1-1】)

177K 有料紙としては、こうしたフリーペーパーとのせめぎ合いの中で、 〈説明要求〉

178K どうやって生き抜いていけばいいと//いうふうにお思いでしょうか。 〈説明要求〉

179S あーそうですね。

〈自己注目表示〉+〈承認〉

180S やっぱ、原点みたいなものですが、 〈見解表明〉

181S 情報というのは、点だけですとね、 〈見解表明〉

182S あっちもこっちも、こっちもあっちもある。 〈事実説明〉

183S それだけですけれども、 〈事実説明〉

184S 線に繋いでいくと、 〈事実説明〉

185S 面に繋いでいくと、 〈事実説明〉

186S とっても世界が大きくなる。 〈事実説明〉

187S まー難しく言えば、 〈注目要求〉+〈事実説明〉

188S	情報化するってことでしょうかね。	〈事実説明〉
189K	はい。	〈承認〉
190S	そうすると、点がよく見えて、	〈話を進める機能〉+〈見解表明〉
191S	面白いと思うんですが、	〈評価表明〉
192S	既存メディアもそれをすべきだと思います。	〈見解表明〉
193S	つまり、ジャーナリズムの原点だし、	〈見解表明〉
194S	やっぱり編集の力だし、	〈見解表明〉
195S	やっぱそういうものは、必要ですね。	〈見解表明〉
196K	そして、まあ、お金を出して	〈注目要求〉+〈話を重ねる機能〉+〈確認要求〉
197K	買ってみた時に、	〈確認要求〉
198K	読んでみたら、	〈確認要求〉
199K	非常に多面的に物事が分かって、	〈確認要求〉
200K	面白かったという//ふうに、やはり、	〈確認要求〉
201S	そうですね。	〈承認〉
202S	そうなってほしいですね。	〈見解表明〉
203S	ですから、フリーペーパーも見て、	〈話を進める機能〉+〈事実説明〉
204S	生活支援の中にうまく位置づけていますから、	〈事実説明〉
205S	既存メディアもね、そうした支援の中で、	〈事実説明〉
206S	ここはこうした方がいいのかということをもっと考えるべきだと思います。	〈見解表明〉
207K	はい。〈終了〉	

インタビュアーKは、178Kで「どうやって生き抜いていけばいいとお思いでしょうか。」という〈説明要求〉の表現で、ゲストSに意見を求めている。それに応じて、ゲストSは、180Sから195Sまで、〈事実説明〉と〈見解表明〉によって、答えている。その後、インタビュアーKは、196Kで、〈確認要求〉をし、ゲストSは、202Sで〈見解表明〉の発話を発し、203Sから〈事実説明〉と〈見解表明〉で回答している。その際、「～と思います。」という表現により自分の意見を述べている。最後は、207Kでインタビュアーが〈終了〉のあいづちを打ち、「(10) 有料誌の対策」の小話段が終了する。

そして、「1. VTR①の確認の話段」と「3. VTR②の確認の話段」の特徴を述べる。この2話段は、VTRの確認の話段として共通する部分が多い。「Ⅱ－2. 本題部」には、ゲストの〈事実説明〉とインタビュアーの〈確認要求〉が多いという特徴をすでに挙げた。

【資料 1－1】を例として、「Ⅱ－2. 本題部」の話段の発話例について、特徴を述べる。まず、「1. VTR①の確認の話段」である。例（5）は、【資料 1－1】の「値段 0 円フリーペーパーの舞台裏」がテーマの「1. VTR①の確認の話段」である。この話段の小話段は、「（2）売れなくなった有料雑誌（3K～42S）」、「（3）出版社側の痛み（43K～62S）」、「（4）フリーペーパーの影響力（63K～76S）」、「（5）有料雑誌への信頼（77K～94K）」である。【資料 1－1】の「1. VTR①の確認の話段」を小話段ごとに分析する。インタビュアーがK、ゲストがSである。

（5）（【資料 1－1】）

- 3K えー、伝統のある文芸誌がページ数を減らして、〈注目要求〉＋〈確認要求〉
- 4K 無料に//踏み切って、〈確認要求〉
- 5S そうですねー。〈承認〉
- 6K そして、大手出版社も//有料な情報誌を出しながら、〈話を重ねる機能〉＋〈確認要求〉
- 7S うん。〈承認〉
- 8K 同じような無料の雑誌を出すと。〈確認要求〉
- 9S うん 〈応答〉
- 10S 有料情報というのは、そんなに売れなくなっているんですか？ 〈判定要求〉
- 11S なかなかねえ、厳しいんでしょうねえ。〈評価表明〉
- 12S 自分に興味がないものは、全然見ないという形になってきましたからー、〈事実説明〉
- 13S 出版社側としたら、〈事実説明〉
- 14S こう、売ってる場合ってのは、対象を絞るというのは、やはり怖いわけなんですね？ 〈事実説明〉
- 15K ーはい。〈承認〉
- 16S 少しでも売れるように、〈事実説明〉
- 17S こっちの人にも読んでほしいと広げますよね？ 〈事実説明〉
- 18K はい 〈承認〉

- 19S そうすると、興味がなくなるということで、<話を進める機能>+<事実説明>
- 20S 広告でいきますと、<事実説明>
- 21S ぐっと絞れますよね？<事実説明>
- 22S ターゲットを絞れる。<事実説明>
- 23S そうすると、広告主は、広告を出しやすくなる。<話を進める機能>+<事実説明>
- 24S というメカニズムなんでしょうねー。<事実説明>
- 25K そうすると、ただその一方で最近書店も減ってきていますから、<話を進める機能>+<事実説明>
- 26S そうなんですよ。<共感>
- 27K 置き場所に、//がなくなっているというわけですか？<確認要求>
- 28S ええ。<継続>
- 29S 有料のものというのは、おいとく場所。<事実説明>
- 30K はい。<承認>
- 31S 住所、書店がね、//すごく大事だったんですけれども、<事実説明>
- 32K はい。<継続>
- 33S どんどん、どんどんなくなっていますよね？<事実説明>
- 34S そうなりますと、新しい拠点を見つけたい。<話を進める機能>+<事実説明>
- 35S それから、普通書店に行かない人をね、<話を重ねる機能>+<事実説明>
- 36S どうやって捕まえるか。<事実説明>
- 37S その人がこういちいち動いている。<事実説明>
- 38K ええ。<承認>
- 39S 行動のね、プロセスを見て、<事実説明>
- 40S ここなら、<事実説明>
- 41S このシーンなら<事実説明>
- 42S それが通勤時間帯のことだったのでしょ？<事実説明>

例（６）は、「１．VTR①の確認の話段」の「（２）売れなくなった有料雑誌（３K～42S）」の発話例と発話機能を示したものである。１K、２Kは、「（１）ゲストの紹介」で、３Kから本格的にインタビューに入る「Ⅱ－２．本題部」の「１．VTR①の確認の

話段」である。3 Kから8 Kまで、インタビュアーKは、〈確認要求〉で、ゲストにVTR①の内容を確認し、それに対し、ゲストは、9 Sで、「うん。」と〈応答〉している。3 Kから8 Kは、VTR①の確認をする以前に、話題導入を示しているともいえる。このインタビュアーKの〈Ⅲ. 要求〉とゲストSの〈Ⅳ. 提供〉から、次のやりとりに移る。10Kで、インタビュアーKは、「有料雑誌が売れなくなっているかどうか。」〈判定要求〉で、質問し、それを受けて、ゲストSは、11 Sで、「厳しい。」と〈評価表明〉で、有料雑誌が売れなくなっていることを述べ、さらに、12 Sから24 Sまで〈事実説明〉で応答をしている。その間、インタビュアーKは、〈承認〉のあいづちを発している。このように、インタビュアーKの10Kの〈判定要求〉に対して、ゲストは、11 Sの〈評価表明〉だけで答えるのではなく、12 Sから24 Sの〈事実説明〉によって、有料雑誌が売れなくなっている理由を説明し、現状を詳しく述べている。そして、25K、27Kで、インタビュアーKは、「雑誌の置き場所がなくなっているというわけか。」ということ、〈話を進める機能〉の「そうすると」、「～というわけですか」を用いて、11 Sから24 Sのゲストの応答を受けて、〈確認要求〉でゲストSに質問している。それに対し、ゲストは、28 Sから42 Sの〈事実説明〉で応答し、次の「(3) 出版社側の痛み(43 K～62 S)」へと移る。例(6)は、「(3) 出版社側の痛み(43 K～62 S)」の小話段である。

(6) (【資料1-1】)

- 43K ただ、売ることによって、〈話をそらす機能〉+〈判定要求〉
- 44K 得られる収入がなくなるのは、出版する側にとって痛みではないのでしょうか？
〈判定要求〉
- 45S それは、もちろん痛みですけども、〈事実説明〉
- 46S ただ、その場合、もうすでにね、広告の収入というのは、雑誌の場合は、とても大きいですから、〈話をはさむ機能〉+〈事実説明〉
- 47K はい。〈継続〉
- 48S ただ、雑誌にもよりますけれどもね。〈話をはさむ機能〉+〈事実説明〉
- 49S ですから、それだったら、〈話を進める機能〉+〈事実説明〉
- 50S 不安定なものを除いて、〈事実説明〉
- 51S こちらの広告収入をしっかり取って、〈事実説明〉

- 52S そうすると、先行きが見えますよね。 <話を進める機能>+<事実説明>
- 53S コストを下げれば、 <事実説明>
- 54S きちっとそういう気持ちで、見れると、 <事実説明>
- 55S 将来的に見られると、 <事実説明>
- 56S そうすると、こう長いサイクルでやっていけるというか、
<話を進める機能>+<事実説明>
- 57S まあ、見通しがよくなるんですね。 <注目要求>+<事実説明>
- 58S そして、玄関口を広くすれば、 <話を重ねる機能>+<事実説明>
- 59S 読者もつきますよね。 <事実説明>
- 60S そうすると、その先へ行ってくれるということだと思いますよね。
<話を進める機能>+<見解表明>
- 61K とにかく、まず、手に取ってもらう機会を増やしたいという//ことですか？
<話をまとめる機能>+<確認要求>
- 62S そうなんですよー。
<応答>

インタビュアーKは、43Kで、〈話をそらす機能〉の「ただ」を用い質問をし、それ以前の「雑誌を売る場所がなくなっている」という話題から、「出版社の痛手」という話題に切り替えている。44Kの「出版側は痛手かどうか。」という〈判定要求〉の質問に対し、ゲストSは、45Sで、「痛手であるけれども。」と述べた上で、46Sの「ただ」〈話をはさむ機能〉から60Sの「そうすると」〈話を進める機能〉で詳しく〈事実説明〉と〈見解表明〉を用いて、説明をしている。この応答を受けて、61KでインタビュアーKが「とにかく、まず、手に取ってもらう機会を増やしたいということですか。」と、〈話をまとめる機能〉の「とにかく」、「～ということですか」で、ゲストSの応答を確認している。

このように、インタビューの確認の話段におけるインタビュアーの質問には、VTRを確認する質問だけではなく、ゲストの応答を確認する「a. 応答確認の質問」もあることが分かる。

例（7）は、「（4）フリーペーパーの影響力（63K～76S）」の小話段である。

(7) (【資料1-1】)

- 63K ただ、あの、大手企業も乗り出していますけれども、
〈話をそらす機能〉+〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 64S ええ、はい。 〈承認〉
- 65K 先ほどおっしゃったピンポイントのそのフリーペーパー。 〈事実説明〉
- 66K つまり、対象をはっきりとさせた//フリーペーパーの影響力が大きくなっているんで
すか？ 〈判定要求〉
- 67S はい。 〈継続〉
- 68S 大きいですねえー。 〈評価表明〉+〈肯定〉
- 69S なかなか到達しない人にこう非常に絞った。 〈事実説明〉
- 70S いくという効果があるかどうか。 〈事実説明〉
- 71S ただ、続くかどうかというのは、読者も浮気っぽいですから、 〈事実説明〉
- 72S それはわかりませんけれども、 〈見解表明〉
- 73S ただ試してみようか、 〈見解表明〉
- 74S インターネットを試してみようか、 〈見解表明〉
- 75S この雑誌を試してみようかという形になってきているんでしょうね。 〈見解表明〉
- 76S はい。 〈自己注目表示〉

インタビュアーKは、63Kで、「ただ」の〈話をそらす機能〉によって、次の質問に入り、66Kで、「フリーペーパーの影響力が大きくなっているかどうか」を〈判定要求〉で質問している。この質問は、〈Ⅲ. 要求〉の〈判定要求〉の発話のみで質問せず、「～ですけども、～か。」と前の内容を〈Ⅳ. 提供〉の〈事実説明〉によって、反復し、さらに、「フリーペーパー」を「先ほどおっしゃったピンポイントのフリーペーパー」、「読者の対象をはっきりとさせたフリーペーパー」と「つまり」を用い、言い換え、前置きをしてから質問をしている。このように、前の内容を〈事実説明〉で反復し、前置きを述べてから、質問をする「b. 前置き+質問」の例は、他の資料にも多数見られた。これは、ゲストに分かりやすく質問をするという配慮以外に、番組の視聴者にインタビューのやりとりを分かりやすく理解してもらうという配慮による質問であることが分かる。77Kからの「(5) 有料雑誌への信頼 (77K～94K)」の小話段は、例(8)の通りである。

(8) (【資料1-1】)

- 77K では、読み手としては、本当にその、無料な情報っていうのは、//むしろ有料
なものは、信頼できたんじゃないかっていう感覚が一ずっとあったかと思うんですけ
れども、〈話を変える機能〉+〈見解表明〉
- 78S はい。〈継続〉
- 79S それは、ありますね。〈事実説明〉
- 80K それは、かなり変わったんですか？〈判定要求〉
- 81S まあ、あれでしょうね。〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 82S ただ、怖いものはないと言いますけれど、〈話をはさむ機能〉+〈事実説明〉
- 83S ただではなく、〈事実説明〉
- 84S そのお金は誰が出してくれているか。〈事実説明〉
- 85S 広告主がきちっと出してくれている。〈事実説明〉
- 86S で、きちっとした広告を出してくれている。〈話を重ねる機能〉+〈事実説明〉
- 87S そのメカニズム、仕組みが分かれば一、〈事実説明〉
- 88S 今の人は、うまく付き合えますね。〈事実説明〉
- 89S 距離をとって、〈事実説明〉
- 90S ものすごく広告集が強い場合は、クーポンだけ使って、〈事実説明〉
- 91S まあ楽しむと。〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 92S そうじゃない場合は、これは、なかなかいいじゃないかと。〈事実説明〉
- 93S 距離がね、距離間を取るのがすごく上手だと思うんですね。〈評価表明〉
- 94K ええ、ええ、はい。
〈承認〉+〈終了〉

インタビュアーKは、77Kで、〈話を変える機能〉の「では」を用いて、次の話題へと切り替え、「c. 話題転換」をしている。そして、「読者の感覚が変わったかどうか」〈判定要求〉で質問をしているが、例(7)同様「b. 前置き+質問」で、「～思うんですけれども、～か。」という表現でインタビュアーK自身の考えを〈見解表明〉で前置きをして、質問をしている。

以上のように、インタビューの番組では、「a. 応答確認」、「b. 前置き+質問」、「c. 話題転換」という、インタビュアーによる談話展開の特徴が見られた。【表9】に特徴、

表現形式、発話機能をまとめる。

【表 9】テレビのインタビュー番組の情報収集に用いる表現形式

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈V. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか(。/ね)	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き+質問	5 ～ですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉+〈Ⅲ. 要求〉
	6 ～ですけども、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉+〈Ⅲ. 要求〉
	7 ～と思うんですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈見解表明〉+〈Ⅲ. 要求〉
c. 話題転換	8 では、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	9 じゃ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃあ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉

「a. 応答確認」は、応答者の発話をそのまま繰り返す場合や、〈確認要求〉を用いて、応答者の応答を確認する場合がある。例（9）と（10）に応答のくり返しの例を挙げる。

（9）（【資料 1-7】）

36O だいたいあの、えー、微生物をまあ、自然界から集めてきます。

〈注目要求〉+〈事実説明〉

37K

はい。 〈承認〉

38O で、その微生物を実験室の中で培養して、

〈話を重ねる〉+〈事実説明〉

39O で、その微生物の生産する、

〈事実説明〉

40O 作る代謝産物。

〈事実説明〉

41K 代謝産物。

〈確認〉

42O 代謝、代謝。

〈事実説明〉

（10）（【資料 1-5】）

138M それで、一応アルコール量がですね、

〈話を重ねる〉+〈事実説明〉

139M 翌日出頭したためにですね、

〈事実説明〉

140M あんまり残っていなかったんですけども、

〈事実説明〉

141M ま、地検の方で、

〈注目要求〉+〈事実説明〉

142M 補充捜査して、

〈事実説明〉

143K はい。

〈継続〉

144M	再現実験を行って、	〈事実説明〉
145K	<u>再現実験ですか？</u>	〈確認要求〉
146M	再現実験。	〈事実説明〉+〈応答〉

この回の番組のテーマは「急増するひき逃げ」である。ゲストが千葉県のひき逃げ事件で、緻密な立証活動が行われたことを説明している。インタビュアーKは、144MのゲストMの「再現実験」という〈事実説明〉に対して、〈確認要求〉で「再現実験」ということを反復して確認し、それを受けて、ゲストMは、145Mで、〈事実説明〉と〈応答〉で応じている。このように、インタビュアーは、VTR の内容を確認する質問をするだけではなく、応答の繰り返しや〈確認要求〉で応答確認し、理解の表明や理解確認をしている。

「b. 前置き＋質問」は、〈事実説明〉の「～けれども、」や〈見解表明〉の「～と思うんですけれども、」と前置きをした後、質問をする。インタビュアーの質問の表現は、〈Ⅲ．要求〉の発話機能のみを用いて質問をする外に、〈事実説明〉や、〈見解表明〉によって、前置きをしてから情報要求の質問をすることが明らかになった。「～けれども、～ですか。」「～ですが、～ですか。」「～思うんですが、～ですか。」という表現が用いられる。これは、インタビュアーが VTR の内容やゲストの応答を振り返り、まとめ、ゲストや番組の視聴者に、さらに分かりやすく質問を理解してもらうための配慮による質問であることがいえよう。

「c. 話題転換」は、〈Ⅱ．談話表示〉の〈話を始める機能〉、〈話を再び変える機能〉、〈話を変える機能〉を効果的に用いて、話題転換をしている。これは、インタビュアーには、番組の司会者として番組を進行する役割があるため、ゲストや視聴者に分かりやすく理解してもらうために、番組の進行にめりはりをつけているのではないかと考えられる。また、次の質問に移ったことをゲストに示し、応答の準備を促すために、接続表現を用いて質問をしているのである。

以上、本節では、【資料 1-1】を例として、話段の発話機能を小話段ごとに分析してきた。「1. VTR①の確認の話段」、「2. VTR②放映の話段」、「4. 意見質問と応答の話段」では、それぞれ参加者別に特徴があることが分かった。また、「1. VTR①の確認の話段」、「3. VTR②の確認の話段」において、インタビュアーの「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」の用例を挙げ、インタビュアーによる情報収集に

用いる表現形式を示した。

4. 2. 2 質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向

4. 2. 2. 1 「Ⅱ－2. 本題部」における〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と質問の提出順

「4. 2. 1」では、インタビュー番組の談話における発話機能の出現傾向について特徴を挙げた。「4. 2. 2」では、「話段」における質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と分析観点2の「質問の提出順序」について分析する。

【表7】によると、テレビのインタビュー番組は、インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉とゲストの〈Ⅳ. 提供〉が中核をなし、インタビュアーが〈確認要求〉、〈説明要求〉、〈判定要求〉の3機能により、ゲストに情報要求をし、ゲストは、主に〈事実説明〉によって、インタビュアーや視聴者に情報提供をしていることを一つの特徴として挙げた。本節では、「Ⅱ－2. 本題部」の4話段におけるインタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉系に焦点を当てて、特徴を述べる。

インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉系の中で最も多かったのは、〈確認要求〉である。〈確認要求〉の発話機能が最も多かった話段は、「1. VTR①の確認の話段」の70発話で、次いで、「3. VTR②の確認の話段」の61発話である。そして、「4. 意見要求の話段」の45機能という順番であった。発話機能総数で2番目に多かった〈説明要求〉は、「1. VTR①の確認の話段」の17発話で最も多く見られ、「4. 意見要求の話段」の11発話と、「3. VTR②の確認の話段」の10発話との間に差は見られなかった。〈判定要求〉は、「1. VTR①の確認の話段」の16発話で、次いで、「3. VTR②の確認の話段」の9発話である。「4. 意見質問と応答の話段」は3発話で、それほど例は見られなかった。

以上のことから、「1. VTR①の確認の話段」と「3. VTR②の確認の話段」で、インタビュアーは、〈確認要求〉によって、VTRの確認や、ゲストの応答の確認を行うことが多い。また、情報をより詳しく収集するために、〈説明要求〉や〈判定要求〉によって質問をする。それに対して、ゲストは、インタビュアーの質問に応じて、〈事実説明〉により応答する。「4. 意見質問と応答の話段」では、インタビュアーは、「1. VTR①の確認の話段」や「3. VTR②の確認の話段」で得た情報を基にゲストの意見を要求し、より踏み込んだ質問をする傾向があるため、〈説明要求〉の「～についてどう思いますか。」という表現によって情報要求をする。分析の結果から、「4. 意見質問

と応答の話段」におけるゲストの〈見解表明〉が他の話段よりも多いことから、「4. 意見質問と応答の話段」では、インタビュアーが、ゲストの意見を求めることが多く、ゲストも見解表明をすることが多い。

従って、テレビのインタビュー番組におけるインタビュアーは、談話の前半に VTR の確認をするために、〈Ⅲ. 要求〉の〈確認要求〉(171 発話、22.5%¹⁴)、〈説明要求〉(38 発話、5.2%)、〈判定要求〉(29 発話、3.8%) の3機能によって、ゲストから情報収集をしている。そして、それに基づいて、談話の後半に、前半部で提示された情報についての意見を〈説明要求〉でゲストに要求するというインタビューの談話構造が認められる。

次に、話段ごとに、〈Ⅲ. 要求〉の発話機能の特徴を挙げる。第1に、「1. VTR①の確認の話段」、「3. VTR②の確認の話段」に〈確認要求〉と〈判定要求〉が多く、「4. 意見質問と応答の話段」に〈説明要求〉が多く表出している。これは、発話機能総数の結果と同じである。第2に、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」のインタビュアーの始めの〈Ⅲ. 要求〉は、〈確認要求〉の発話が多い。それぞれの話が VTR の確認ということで、〈確認要求〉を用いて、インタビュアーが話題を導入し、VTR の内容について、ゲストに確認をしている。話段の始めに疑問詞を用いた〈説明要求〉や、「はい／いいえ」を問う〈判定要求〉ではなく、〈確認要求〉が多く用いられることは、VTR が番組中に放映されるテレビのインタビュー番組として、「クローズアップ現代」の特徴として挙げられる。

次に、「Ⅱ－2. 本題部」における各資料の傾向を挙げる。【表 10－1】～【表 10－10】¹⁵は、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」「4. 意見質問と応答の話段」におけるインタビュアーの質問数と質問発話例を示した。

¹⁴ インタビュアーの発話総数 761 発話における割合である。

¹⁵ 本文中には【表 10－1】(【資料 1－1】)のみ示す。【表 10－2】～【表 10－10】(【資料 1－2】～【資料 1－10】)の9資料は巻末資料を参照のこと。

【表 10-1】【資料 1-1】インタビュー番組「値段0円フリーペーパー」の質問者の質問発話

話段区分						
大話段	話段	小話段	発話番号	質問番号	参加者	発話例
II	1	(2)	3 4 6 8	①	K	えー、伝統のある文芸誌がページ数を減らして、 無料に//踏み切って、 そして、大手出版社も//有料な情報誌を出しながら、 同じような無料の雑誌を出す。
			10	②	K	有料情報というのは、そんなに売れなくなっているんですか？
			25 27	③	K	そうすると、ただその一方で最近書店も減ってきていますから、 置き場所に、//がなくなっているというわけですか？
			43 44	④	K	ただ、売ることによって、 得られる収入がなくなるのは、出版する側にとって痛手ではないのでしょうか？
			61	⑤	K	とにかく、まず、手に取ってもらう機会を増やしたいという//ことですか？
			63 65 66	⑥	K	ただ、あの、大手企業も乗り出していますけれども、 先ほどおっしゃったピンポイントのそのフリーペーパー。 つまり、対象をはっきりとさせた//フリーペーパーの影響力が大きくなっているんですか？
		(6)	77 80	⑦	K	では、読み手としては、本当にその、無料な情報っていうのは、//むしろ有料なものは、信頼できたん ではないかっていう感覚がずっとあったかと思うんですけども、 それは、かなり変わったんですか？
		3	99 101 102	⑧	K	情報はただでもいらないという//このターゲットですけれども、 でも、ニュースは、知りたいと。 ただ、受け取りやすい//時間が分からないという。
			104	⑨	K	そう、情報の送り手としては、非常に難しい//ですね。
			126	⑩	K	そうすると、インターネットのああいった見出し、みたいな//ものが好まれる。
			129 130	⑪	K	テレビ欄も夜10時以降でいいというわけですが、 かなり忙しい//ですね。
			148 150 153	⑫	K	まあ、いずれにしても、フリーペーパーは、どんどんどんどん支持を//集めていきますと、 有料の//雑誌、新聞が競合してくるんですけども、 出版界の中で、このフリーペーパーというのは、接見していきませんか。
			158 159	⑬	K	新聞ですか。 日刊紙？
			167 169	⑭	K	新聞ポストもダイジェスト版をださないと、 接触率が下がっている。
		4	177 178	⑮	K	有料紙としては、こうしたフリーペーパーとのせめぎ合いの中で、 どうやって生き抜いていけばいいと//いうふうにお思いでしょうか。
			196 197 198 199 200	⑯	K	そして、まあ、お金を出して 買って見た時に、 読んでみたら、 非常に多面的に物事が分かって、 面白かったという//ふうに、やはり。

「２．VTR②放映の話段」は、インタビュアーの発話のみであることと、「VTR をご覧ください。」という視聴者に向けての〈共同行為要求〉のみの〈Ⅲ．要求〉であるため、除いた。これらによると、話段の始めの発話は、インタビュアーの〈Ⅲ．要求〉であることが多いことが分かった。また、小話段の始めにくるインタビュアーの〈Ⅲ．要求〉に焦点をあててインタビュアーの質問発話例を見ると、「１．VTR①確認の話段」「３．VTR②の確認の話段」の始めにくるインタビュアーの〈Ⅲ．要求〉の発話の中で、最も多いのが〈確認要求〉を用いた質問であった。「４．意見質問と応答の話段」のみ〈説明要求〉が多かった。

次に、分析観点２の「質問の提出順」について考察する。質問形式の３分類「事実を求める質問」、「意見を求める質問」、「助言を求める質問」によると、はじめに VTR の確認やテーマに関しての「事実を求める質問」がくる。そして、それに基づいて、「意見を求める質問」、「助言を求める質問」という手順があった。以下、【表５－８】【資料１－８】で具体例を示し、検証する。

【表５－８】【資料１－８】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」談話構造(再掲)

大話段 1	大話段 2	話段		小話段	
Ⅰ．開始部		１．開始の挨拶	0:05	テーマ提示の VTR 放映	
		２．テーマ提示の VTR 放映	0:10		
		３．テーマ提示	2:20		
Ⅱ．展開部	Ⅱ－１．開始部	１．VTR①放映	6:35	VTR①放映 突然の心筋梗塞その原因 危険隠れ糖尿病	
	Ⅱ－２．本題部	１．VTR①の確認	3:06	1K～2(2) 3K～15T(13) 16K～29T(14) 30K～45T(16) 46K～65K(20)	(1) ゲストの紹介 (2) 隠れ糖尿病とは (3) 隠れ糖尿病の症状 (4) 隠れ糖尿病の患者数 (5) 発症の原因
		２．VTR②放映	0:24	66K～70K(5)	(6) VTR②の紹介
			6:35	VTR②放映 隠れ糖尿病が心筋梗塞をおこす 習慣病から心筋梗塞をおこす	
		３．VTR②の確認	6:00	71K～100K(30) 101K～113K(13) 114K～174T(61)	(7) インスリンの働き (8) すい臓の働き (9) 発症する人の特徴
		４．意見質問と応答		175K～198T(24) 199K～222K(24)	(10) 対策 (11) 医療界の課題
	Ⅱ－３．終了部	１．感謝の挨拶	0:02	223K(1)	
Ⅲ．終了部		１．終了の挨拶、予告	0:24		

【資料１－８】は、テーマは「隠れ糖尿病」についてである。「小話段」において、「事実を求める質問」となる「(2) 隠れ糖尿病とは」、「(3) 隠れ糖尿病の症状」、「(4) 隠

れ糖尿病の患者数」、「(5) 発症の原因」、「(7) インスリンの働き」、「(8) すい臓の働き」、「(9) 発症する人の特徴」について質問をする。そして、次の段階で、ゲストの「意見を求める質問」、「助言を求める質問」に該当する「(10) 対策」、「(11) 医療界の課題」について情報収集をする。

以上のように、テレビのインタビュー番組には、「1. 事実を求める質問」→「2. 意見を求める質問」→「3. 助言を求める質問」という質問の提出順があることが明らかになった。

4. 2. 2. 2 質問領域

【表 11-1】～【表 11-10】¹⁶は、各資料の〈要求〉1 質問に対する発話の節数を示したものである。

【表 11-1】【資料 1-1】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分													
大話段	話段	小話段	発話番号	質問番号	参加者	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	
Ⅱ	1	(2)	8	①	K	1							
			10	②	K		14						
			27	③	K	15							
		(3)	44	④	K		16						
			61	⑤	K	1							
			(4)	66	⑥	K		10					
	3	(6)	80	⑦	K		14						
			(7)	102	⑧	K	1						
				104	⑨	K	21						
		126		⑩	K	2							
		(8)	130	⑪	K	11							
			(9)	153	⑫	K		23					
		159		⑬	K			4					
		169		⑭	K	7							
		4	(10)	178	⑮	K				29			
				200	⑯	K	7						
合計						66	77	4	29				
質問数						9	5	1	1				
平均						7.3	15.4	4.0	29.0				

¹⁶ 本文中には【表 11-1】（【資料 1-1】）のみ示す。【表 11-2】～【表 11-10】（【資料 1-2】～【資料 1-10】）の 9 資料は巻末資料を参照のこと。

インタビュアーKの質問を受けた発話数を、該当する〈Ⅲ．要求〉部分に示した。これは、隣接応答ペアや、ポーズ、話者交代を認定基準にし、ゲストの応答の発話などの実質的な発話とインタビュアーの相づちである〈Ⅴ．受容〉の発話を数えたものである。インタビュアーの質問に関係のない発話を除き、すべてカウントした。これにより、インタビュアーKの〈Ⅲ．要求〉1質問による発話の広がりを見ることができる。談話の中には、1問1答の発話という単発的なやりとりだけではなく、1質問に対して、応答発話があり、さらに質問を重ねるという2問1答のやりとりがある。この場合は、発話を重複して数えた。また、下段には、インタビュアーの〈要求〉1質問に対する発話数の合計と、〈要求〉1質問に対する発話数を質問で割った、〈要求〉1質問に対する平均発話数を示した。

次に【表 12－1】に全 10 資料におけるインタビュアーの〈要求〉1 質問に対する発話総数と平均発話数を示す。これにより、どの〈要求〉系の発話が、どのくらい応答者の発話を引き出せるのか平均発話数が分かる。

【表 12－1】【資料 1－1】～【資料 1－10】におけるインタビュアーの〈要求〉1 質問に対する発話総数と平均発話数

	① 確認要求			② 判定要求			③ 選択要求			④ 説明要求			⑤ 単独行為要求			⑥ 共同行為要求			⑦ 言い直し要求	合計	
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c			
【資料1-1】	66	10.1%	4.5%	77	33.8%	5.3%	4	100.0%	0.3%	29	5.4%	2.0%								176	12.1%
【資料1-2】	72	11.0%	4.9%	25	11.0%	1.7%				16	3.0%	1.1%								113	7.8%
【資料1-3】	80	12.2%	5.5%	10	4.4%	0.7%				44	8.1%	3.0%								134	9.2%
【資料1-4】	73	11.2%	5.0%	11	4.8%	0.8%				22	4.1%	1.5%								106	7.3%
【資料1-5】	70	10.7%	4.8%	6	2.6%	0.4%				69	12.8%	4.7%	2	6.3%	0.1%					147	10.1%
【資料1-6】	51	7.8%	3.5%	27	11.8%	1.9%				58	10.7%	4.0%								136	9.3%
【資料1-7】	94	14.4%	6.4%	8	3.5%	0.5%				48	8.9%	3.3%	30	93.8%	2.1%					180	12.3%
【資料1-8】	51	7.8%	3.5%	23	10.1%	1.6%				104	19.2%	7.1%								178	12.2%
【資料1-9】	49	7.5%	3.4%	28	12.3%	1.9%				52	9.6%	3.6%								129	8.9%
【資料1-10】	48	7.3%	3.3%	13	5.7%	0.9%				99	18.3%	6.8%				0	0.0%	0.0%		160	11.0%
合計	654	100.0%	44.8%	228	100.0%	15.6%	4	100.0%	0.3%	541	100.0%	37.1%	32	100.0%	2.2%	0	0.0%	0.0%		1459	100.0%
平均	7.5			9.9			4.0			18.0			16.0			0.0				10.1	

(注)「a」は、〈要求〉の数、「b」は、各資料ごとの合計に対する割合、「c」は、全資料の合計に対する割合である。

(注)平均は、1質問に対する総発話数の平均である。(総質問数／総発話数)

【表 12-2】によると、インタビュー番組におけるインタビュアーの1質問に対する発話数が最も多かったのは、平均 18.0 発話で〈説明要求〉、平均 16.0 発話で〈単独行為要求〉、平均 9.9 発話で〈判定要求〉、平均 7.5 発話で〈確認要求〉である。〈共同行為要求〉は1つあるが、それに対する発話はなく、やりとりが進んでいる。〈言い直し要求〉は、全 10 資料の中にはない。このことから、7つの〈Ⅲ. 要求〉の内、〈説明要求〉を用いると、最も多くの発話が生じ、話が広がるということが分かる。最も多く使用される〈確認要求〉、〈判定要求〉、〈説明要求〉の3種の〈要求〉に焦点を当てると、発話数が多く出現するのは、〈説明要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉の順番という結果となった。

次に、インタビュアーの1質問に対する話の広がり詳細に明らかにするために、度数分布を【表 12-2】に参加者別に示す。〈Ⅲ. 要求〉1質問を「Q」とし、それに対応した発話数を数に示した。その結果、〈確認要求〉で最も多かったのは、「Q+1」で、23 節あった。次いで、「Q+2」で7 節である。「Q+20」発話以上の発話も見られ、〈確認要求〉は、発話数が多いものと少ないものの差が大きく生じる結果となった。

インタビュアーの発話例で確認すると、発話数が多かったのは、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」の始めにくるインタビュアーの〈確認要求〉であることが分かる。その理由として、VTR 確認での始めの〈確認要求〉は、インタビュアーの話題導入の役割をしているためであり、その〈確認要求〉に対して、ゲストは、〈事実説明〉を用いて情報提供をしているため、発話数が多くなることが考えられる。例(11)は、その例である。インタビュアーはK、ゲストはSである。

【表 12-2】【資料 1-1】～【資料 1-10】におけるインタビュアーの〈要求〉1 発話に対する発話総
数と平均発話数

Q+□	① 確認 要求			② 判 定 要 求			③ 選 択 要 求			④ 説 明 要 求			⑤ 単 独 行 為 要 求			⑥ 共 同 行 為 要 求			⑦ 言 い 直 し 要 求	合 計	
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a		
0	1	1.3%	0.8%													1	100.0%	0.8%		2	1.6%
1	23	29.5%	18.0%	4	22.2%	3.1%														27	21.1%
2	7	9.0%	5.5%	1	5.6%	0.8%							1	50.0%	0.8%					9	7.0%
3	3	3.8%	2.3%							1	3.6%	0.8%								4	3.2%
4	5	6.4%	3.9%	1	5.6%	0.8%	1	100.0%	0.8%											7	5.5%
5	1	1.3%	0.8%							2	7.1%	1.6%								3	2.4%
6	3	3.8%	2.3%	3	16.7%	2.3%														6	4.9%
7	2	2.6%	1.6%	1	5.6%	0.8%				1	3.6%	0.8%								4	3.2%
8	6	7.7%	4.7%																	6	4.8%
9	3	3.8%	2.3%	2	11.1%	1.6%														5	4.1%
10	2	2.6%	1.6%	1	5.6%	0.8%				2	7.1%	1.6%								5	4.1%
11	1	1.3%	0.8%	1	5.6%	0.8%				2	7.1%	1.6%								4	3.3%
12	2	2.6%	1.6%							1	3.6%	0.8%								3	2.4%
13	2	2.6%	1.6%	1	5.6%	0.8%				4	14.3%	3.1%								7	5.7%
14	3	3.8%	2.3%							1	3.6%	0.8%								4	3.2%
15	1	1.3%	0.8%																	1	0.8%
16	2	2.6%	1.6%							1	3.6%	0.8%								3	2.4%
17	1	1.3%	0.8%							1	3.6%	0.8%								2	1.6%
18										2	7.1%	1.6%								2	1.6%
19	3	3.8%	2.3%	1	5.6%	0.8%														4	3.2%
20	2	2.6%	1.6%																	2	1.6%
21				1	5.6%	0.8%				2	7.1%	1.6%								3	2.5%
22	3	3.8%	2.3%																	3	2.4%
23																					
24	1	1.3%	0.8%							1	3.6%	0.8%								2	1.6%
25				1	5.6%	0.8%				2	7.1%	1.6%								3	2.5%
26										1	3.6%	0.8%								1	0.8%
27																					
28										1	3.6%	0.8%								1	0.8%
29										1	3.6%	0.8%								1	0.8%
30													1	50.0%	0.8%					2	1.2%
31																					
32																					
33																					
34																					
35																					
36	1	1.3%	0.8%																	1	0.8%
37																					
38																					
39																					
40																					
41										1	3.6%	0.8%								1	0.8%
57										1	3.6%	0.8%								1	0.8%
合計	78	100.0%	61.4%	18	100.0%	14.1%	1	100.0%	0.8%	28	100.0%	21.9%	2	100.0%	1.6%	1	100.0%	0.8%	0	128	100.0%

(注)「a」は、〈要求〉の数、「b」は、各資料ごとの合計に対する割合、「c」は、全資料の合計に対する割合である。

(11) 【資料 1-1】

104K そう、情報の送り手としては、非常に難しい//ですよね。

105S そうですね。

106S 800 字できちっとした要約。

107S でも、考えてみればね、

108S 今短い文で十分という人が増えてて、

109S 例えば、着歌、あれで十分。

110S CD なんかも1曲もいないというふうに、

111S なんでも短くなってきているかもしれませんね。

112S ピンポイントでいうと。

113S いうことだと思うんですね。

114S あのー、私たちがやってる調査でも、

115S 情報が多ければ多いほどいいという人がですね、

116S 20 代の男性は、96 年度 36 パーセントだったのに、

117S 2004年、23 パーセントに減っている。

118K うーん。

119S 女性も同じ//ですけどね。

120K うん。

121S だから、ポイントでいって、

122S 情報も索引であって、

123S インデックスであって、

124S その先は、自分がほしいだけいくと。

125S いう形になってきたんでしょうね。

一方、発話数が少なかった〈確認要求〉は、小話段の最後に表出されるゲストの応答を確認する〈確認要求〉であることが分かった。これは、「～ということですか。」「～というわけですか。」という表現が用いられ、それに対し、ゲストは、「はい」「ええ」「そうです。」という1から2発話の〈応答〉で応答する傾向がある。例(12)は、60Sで、ゲストSが〈見解表明〉で、〈提供〉した後、61Kで、インタビュアーKが応答確認をするために〈確認要求〉をしている。それに対して、ゲストは、62Sで1発

話で〈応答〉している。

(12) 【資料 1-1】

60S そうすると、その先へ行ってくれるということだと思いますよね。

61K とにかく、まず、手に取ってもらう機会を増やしたいという//ことですか？

62S そうなんですよー。

〈判定要求〉については、「Q+1」が4節、「Q+2」～「Q+25」まで発話が1節程度分布している。〈判定要求〉を受けたゲストの回答は、「はい」「いいえ」という〈応答〉の発話の後に、〈事実説明〉を加えた発話がついているため、ゲストの発話が多いという結果になった。分析対象とした番組は、報道番組であるため、インタビュアーの「～ですか。」という質問に対して、「はい」や「いいえ」というゲストの回答だけでは番組が成り立たない。そこで、専門家のゲストが、〈応答〉＋〈事実説明〉により、視聴者に情報提供しているのである。

(13) 【資料 1-8】

175K あの、一旦、あの、隠れ糖尿病になった場合、

176T うん。

177K 元に戻すということはできますか？

178T ええ、大丈夫ですね。

179K はいはいはいはい。{笑い}

180T あの、フィンランドで、

181T 6年、7年にわたる、あの一、研究をしたんですね。

182T で、どういうことをしたかといいますと、

183T 隠れ糖尿病の方を集めて、

184T で、そして、毎日30分以上歩くこと、

185T まあ、運動することですねー？

186K はい。

187T 細切れでもいいんですね。

188T 30分以上すること。

189T それと、お一、脂肪をたくさん摂らないこと。

190T 特に、動物性の脂肪を摂らない。

- 191T それから、食物繊維を豊富な食事を摂る。
- 192T それから、あー、現在の体重を5パーセント減らす。
- 193T そういう4項目、項目挙げまして、
- 194T 5こ、5項目ですけれども、
- 195T ま、一生懸命がんばっていただいた。
- 196T そした、そうしましたところ、その、5項目をまじめにやった方からは、隠れ糖尿病から、糖尿病になった方は1人もいなかった。
- 197K 1人もいなかったんですか？
- 198T ええ、そして、運動をするという、運動習慣をつけるということが、1番達成率が高かったんですね。

〈説明要求〉については、「Q+3」から「Q+57」まで分布している。「Q+57」は、度数分布の数の内、最高数である。やはり、インタビュアーの〈説明要求〉を受けての発話が最も多く、話の広がり大きいことが分かる。〈説明要求〉の場合、インタビュアーは、「1. VTR①の確認の話段」、「3. VTR②の確認の話段」では、「どう受け止めたらいいいですか。」「どのように～されていますか。」「どういった～があるんですか。」「なぜ～ですか。」「～は、どういうことなんですか。」「どんな方がなりやすいですか。」「どんな兆候が出るんですか。」という表現によって、「4. 意見質問と応答の話段」では、「どういうことが考えられますか。」「何をすべきだと思いますか」「どうすればいいですか。」という表現によって、〈説明要求〉により、質問する。それを受けた発話数が多いという結果が出た。「4. 意見質問と応答の話段」のゲストの応答は、〈事実説明〉で解説した後、「～と思います。」という表現により、ゲストに対して意見を述べる傾向がある。また、〈判定要求〉については、「1. VTR①の確認の話段」「3. VTR②の確認の話段」で多く見られた。

以上のことから、テレビのインタビュー番組におけるインタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉は、3種の〈Ⅲ. 要求〉のうち、〈説明要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉の順番で話が広がることが明らかになった。度数分布によると、〈確認要求〉については、「Q+応答を受けた発話数」の数が多し〈確認要求〉と少ない〈確認要求〉があることも明らかになった。

本章では、テレビのインタビュー番組を分析対象に、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式の3点の分析観点で分析を行っ

た結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 談話構造については、全 10 資料、同じ種類の話段と同じ数、同じ提出順序で認定できた。これは、番組編成で認定したことが影響していると考えられる。

(2) 質問の提出順については、質問形式の 3 分類の結果、はじめに VTR の確認やテーマに関しての「1. 事実を求める質問」がくる。そして、それに基づいて、ゲストへの「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」という手順があった。

具体的には、談話の前半に「～ですね。」「～ですよ。」「～ですね。」という表現の〈確認要求〉と、「～ですか。」という表現の〈判定要求〉で、VTR の内容を確認しながら、情報を収集し、「なぜ～ですか。」「どうして～か。」の〈説明要求〉で、発展した質問をして、詳しく情報を収集する。その際、ゲストから得た応答を「～というわけですか。」という表現の〈確認要求〉を用いて応答確認をし、ゲストの応答をまとめ、整理をする。そして、後半部に、「～についてどう思いますか。」という表現の〈説明要求〉を用い、核心に迫る質問をして、ゲストの意見や助言を収集する。このように、テレビのインタビュー番組では、段階を経て、インタビュアーは、ゲストから情報収集を行うのである。放送時間の制約があり、視聴者に分かりやすく情報を提供するために、インタビュアーは様々な方略をしているのである。

(3) 表現形式について、インタビュアーは、〈Ⅲ. 要求〉の〈確認要求〉、〈判定要求〉、〈選択要求〉、〈説明要求〉、〈単独行為要求〉、〈共同行為要求〉を使い分けてゲストから情報収集をする。その中でも主に、〈Ⅲ. 要求〉の〈確認要求〉(171 発話、22.5%)、〈説明要求〉(38 発話、5.2%)、〈判定要求〉(29 発話、3.8%) の 3 機能によって、ゲストから情報収集をしている。「質問領域」の分析結果、〈説明要求〉が多く情報を要求することが明らかになったが、インタビュー番組の質問者は、〈説明要求〉を用い、ゲストから多くの情報を収集し、視聴者に提供していると考えられる。

また、インタビュアーは、情報収集のために、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」をしていた。これは、放送時間内に、視聴者に情報を分かりやすく提供するためのインタビュアーの方略である。そこに用いられる表現形式を【表 9】に示した。

第5章 大学広報紙のインタビュー取材における談話の展開方法

5. 1 インタビュー取材における談話構造

大学広報紙のインタビュー取材における談話の展開方法を明らかにするために、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式の3種の分析観点で分析を行う。談話資料の詳細は以下の通りである。

本節では、分析観点1の「談話構造」について論じる。

【表2-3】インタビュー取材の談話資料（再掲）

資料番号	掲載日	連載名	タイトル	ゲスト (応答者)	インタビュアー (質問者)
【2-1】	2005. 4.28	先輩に 乾杯	仕事を続けながら、世界大会入賞を狙う山岳レースのアスリートKさん	K (男性)	N (男性)
【2-2】	2005. 4.14	ビーぶる	広告研究会制作のCMがカンヌ国際広告祭に出品！！	M (男性)	
【2-3】	2005. 10.6	ビーぶる	第2回世界大学ソフトボール女子選手権に出場！	U (女性)	C (女性)

学生生活課の職員（質問者）/カメラマン：【資料2-1】：N（男性）

【資料2-2】：N（男性） /K（男性）

【資料2-3】：C（女性） /K（男性）

5. 1. 1 発話数

インタビュー取材の談話資料は、【資料2-1】、【資料2-2】、【資料2-3】の3資料である。参加者は、質問者であるインタビュアーと応答者であるゲストである。【資料2-1】が、インタビュアーNとゲストKの2名、【資料2-2】と【資料2-3】は、インタビュアーとゲスト、カメラマンの3名である。【資料2-2】は、インタビュアーN、ゲストM、カメラマンKで、【資料2-3】は、インタビュアーN、ゲストU、カメラマンKの3名である。なお【資料2-1】と【資料2-2】は、同じインタビュアーによるものである。

【表13-1】は、インタビュー取材の談話における参加者別発話数である。最下段に、【資料2-1】～【資料2-3】の全3資料の参加者別の発話数を示した。

【表 13－1】インタビュー取材の談話における参加者別発話数

資料番号	インタビュアー (質問者)	ゲスト (応答者)	カメラマン	合計	総数に対する割合
【資料2-1】	945	1105	—	2050	37.0%
	46.1%	53.9%	—	100.0%	
【資料2-2】	991	1018	28	2037	36.7%
	48.6%	50.0%	1.4%	100.0%	
【資料2-3】	643	765	49	1457	26.3%
	44.1%	52.5%	3.4%	100.0%	
合計	2579	2888	77	5544	100.0%
参加者別発話総 数に対する割合	46.5%	52.1%	1.4%	100.0%	
1 資料あたりの 平均	856.7	962.7	38.5	1848	

発話総数 5,544 発話のうち、インタビュアーが 2,579 発話で 46.5%、ゲストが 2,888 発話で 52.1%、カメラマンが 77 発話で 1.4% なる。カメラマンの発話数は少なく、インタビュアーとゲストの発話が中心となっている。ゲストの発話数は、インタビュアーの発話数よりも、若干多いが、ほぼ同じ程度の発話数であることから、インタビュアーが積極的に話に参加していることが分かる。これは、ゲストの発話数がインタビューの発話数よりかなりの数で上回るテレビのインタビュー番組とは異なる結果である。

1 談話当たりの平均発話総数は、約 1,848 発話である。【資料 2-1】と【資料 2-2】は、いずれも 2,000 発話以上あるが、【資料 2-3】は、1,457 発話で、最も少ない。これは、【資料 2-3】のインタビューの所要時間が、他の 2 資料よりも、短かったことによるものであろう。

参加者別の発話数は、インタビュアーの 3 資料の平均発話数が、約 856.7 発話である。【資料 2-1】と【資料 2-2】のインタビュアーの発話数は、ほぼ同じである。【資料 2-3】は、643 発話で、平均を下回っている。これも、インタビュー時間が短いことによるものである。

一方、ゲストの発話数を見ると、ゲストの 1 資料当り平均の発話数は、962.7 発話である。【資料 2-1】が最も多い 1,105 発話、次が【資料 2-2】の 1,018 発話で、この 2 資料は、ほぼ同じ発話数である。【資料 2-3】は、765 発話で、前 2 者と比べ、平均を下回っている。

また、カメラマンの参加した資料は、【資料 2-2】、【資料 2-3】の 2 資料であるがカメラマンの 1 資料当たり平均の発話数は、38.5 発話で、【資料 2-2】が 28 発話、【資料 2-3】が 49 発話となっており、【資料 2-3】の発話数の方が倍近く多い。

本研究では、以下、質問者であるインタビュアーと応答者であるゲストの発話を中心に分析する。

5. 1. 2 談話構造

5. 1. 2. 1 「大話段」の構造

インタビュー取材の談話の全体構造は、「Ⅰ. 開始部」、「Ⅱ. 展開部」、「Ⅲ. 終了部」という 3 大話段に分けられる。まず「Ⅰ. 開始部」では、インタビュアーとゲストがインタビューの開始の挨拶をして、インタビュアーがゲストに取材の目的を説明したりする。次に、「Ⅱ. 展開部」では、雑誌に掲載するために、インタビュアーがゲストから情報収集を行う。時には、カメラマンが質問したり、「{笑い}」が生ずることもある。最後に「Ⅲ. 終了部」では、インタビュー終了の挨拶をして談話が終了する。

各大話段の発話の発話総数を【表 13-2】で見ると、3 資料全体の「Ⅰ. 開始部」の発話総数は 311 発話で、3 資料全体の発話総数に対する割合は、5.6%である。「Ⅱ. 展開部」は 5,193 発話、93.7%と大半を占め、「Ⅲ. 終了部」は 40 発話、0.7%である。インタビュー取材の談話は、当然のことながら「Ⅰ. 開始部」と「Ⅲ. 終了部」よりも、「Ⅱ. 展開部」のインタビューが中心となっている。

大話段の参加者別発話総数は、「Ⅰ. 開始部」では、全 311 発話のうち、インタビュアーが 150 発話で 48.2%、ゲストが 148 発話で 47.6%と、ほぼ同じような割合である。カメラマンは、13 発話で 4.2%である。次に、「Ⅱ. 展開部」の、全 5,193 発話のうち、インタビュアーが 2,407 発話で 46.4%、ゲストが 2,728 発話で 52.5%、カメラマンが 58 発話で 1.1%である。「Ⅲ. 終了部」の、全 40 発話のうち、インタビュアーが 22 発話で 55.0%、ゲストが 12 発話で 30.0%、カメラマンが 6 発話で 15.0%である。3 種の大話段すべてにおける、インタビュアーとゲストの発話は、ほぼ同じであった。

【表 13－2】インタビュー取材の「大話段」における参加者別発話数

大話段	資料番号	インタビュアー (質問者)	ゲスト (応答者)	カメラマン	合計	発話総数に対する割合
Ⅰ 開始部	【資料2－1】	33	38	—	71	2.8%
		46.5%	53.5%	—	100.0%	
	【資料2－2】	114	107	13	234	4.2%
		48.7%	45.7%	5.6%	100.0%	
	【資料2－3】	3	3	0	6	0.1%
		50.0%	50.0%	0.0%	100.0%	
	合計	150	148	13	311	
	参加者別発話総 数に対する割合	48.2%	47.6%	4.2%	100.0%	5.6%
Ⅱ 展開部	【資料2－1】	909	1065	—	1974	35.6%
		46.0%	54.0%	—	100.0%	
	【資料2－2】	867	906	12	1785	32.2%
		48.6%	50.8%	0.7%	100.0%	
	【資料2－3】	631	757	46	1434	25.9%
		44.0%	52.8%	3.2%	100.0%	
	合計	2407	2728	58	5193	
	参加者別発話総 数に対する割合	46.4%	52.5%	1.1%	100.0%	93.7%
Ⅲ 終了部	【資料2－1】	3	2	—	5	0.1%
		60.0%	40.0%	—	100.0%	
	【資料2－2】	10	5	3	18	0.3%
		55.6%	27.8%	16.7%	100.0%	
	【資料2－3】	9	5	3	17	0.3%
		52.9%	29.4%	3.4%	100.0%	
	合計	22	12	6	40	
	参加者別発話総 数に対する割合	55.0%	30.0%	15.0%	100.0%	0.7%
総数	合計	2579	2888	77	5544	
	参加者別発話総 数に対する割合	46.5%	52.1%	1.4%	100.0%	100.0%

資料別に、それぞれの「大話段」における参加者別発話数を見ると、「Ⅰ．開始部」のインタビュアーの発話数は、【資料 2－1】が 33 発話で 46.5%、【資料 2－2】が 114 発話で 48.7%、【資料 2－3】が 3 発話で 50.0%である。ゲストの発話数は、【資料 2－1】が 38 発話で 53.5%、【資料 2－2】が 107 発話で 45.7%、【資料 2－3】が 3 発話で 50.0%である。カメラマンの発話数は、【資料 2－2】が 13 発話で 5.6%、【資料 2－3】の発話はない。これによると、【資料 2－2】のインタビュアーとゲストの発話は、ほかの 2 資料よりも多い。【資料 2－2】のゲストが所属する広告研究会は、インタビュアーが所属する学生生活課と以前から交流があり、「Ⅰ．開始部」の大話段で、研究会と学生生活課の関係の話や、共通の先輩の話をしている。このことが、結果に反映

していると考えられる。

「Ⅱ．展開部」の発話総数を資料別に見ると、インタビュアーの発話例は、【資料 2-1】 909 発話で 46.0%、【資料 2-2】 が 867 発話で 48.6%、【資料 2-3】 が 631 発話で 44.0%である。ゲストの発話数は、【資料 2-1】 が、1065 発話で、54.0%、【資料 2-2】 が 906 発話で、50.8%、【資料 2-3】 が 757 発話で 52.8%である。カメラマンの発話数は、【資料 2-2】 が 12 発話で、0.7%、【資料 2-3】 が 46 発話で 3.2%である。

「Ⅱ．展開部」では、インタビュアーもゲストも資料による差は、全くない。しかし、カメラマンの発話は、【資料 2-2】 よりも【資料 2-3】の方が若干多い。

「Ⅲ．終了部」の参加者別発話総数を資料別に見ると、インタビュアーは、【資料 2-1】 が 3 発話で 60.0%、【資料 2-2】 が 10 発話で 55.6%、【資料 2-3】 が 9 発話で 52.9%である。ゲストの発話数は、【資料 2-1】 が 2 発話で 40.0%、【資料 2-2】 が 5 発話で 27.8%、【資料 2-3】 が 5 発話で 29.4%である。カメラマンの発話数は、【資料 2-2】 が 3 発話で 16.7%、【資料 2-3】 が 3 発話で 3.4%である。資料別の参加者の発話総数は、ほぼ同じである。以上、全 3 資料の「大話段」の参加者別発話総数を資料別に見たところ、【資料 2-3】の発話総数が、【資料 2-1】と【資料 2-2】よりも少なく、インタビュー取材の談話における参加者の発話数は、ゲストによって、発話数が異なるという結果になった。それに対して、テレビのインタビュー番組は、参加者別、資料別の大差は見られなかった。これは、番組編成上の方針や、時間的制約があること、また、視聴者に向けてのインタビュー番組であるためであることが関係している。インタビューの種類やインタビュアーの目的、参加者によって、発話数の結果に違いがあるといえる。

5. 1. 2. 2 「Ⅱ．展開部」の構造

インタビュー取材の 3 段の大話段のうち、「Ⅱ．展開部」は、参加者の役割や目的によって、話段を区分した。そして、さらに、話段は、小話段に分けられた。「Ⅱ．展開部」は、「活動の背景の話段」、「バックグラウンドの話段」、「今後の活動の話段」、「アドバイスの話段」の 4 種の話段が認定される。このインタビュー取材は、広報紙を作成するために行われる。ゲストは、何らかの特別な活動をしたり、賞を取ったりした方で、人物紹介の掲載記事である。そのため、インタビュアーは、ゲストに活動の経緯について情報を収集する。それが、「活動の背景の話段」である。それに加えて、「バ

ックグラウンドの話段」では、インタビュアーがゲストのバックグラウンドに関する情報収集する。人物紹介であるこの掲載コーナーでは、ゲストの所属、日常生活についても情報を収集する。そして、「今後の活動の話段」で、インタビュアーは、今後の活動や目標をゲストに聞く。最後に、「アドバイスの話段」で、インタビュアーは、後輩へのメッセージやアドバイスを問う質問をする。インタビュー取材は、ライフストーリーに関する情報を収集するという特徴があるため、インタビュー番組とは異なる種類の話段が認定できた。この4種の話段の順番、数は、資料ごとに異なる。そこで、【表 14－1】～【表 14－3】に、インタビュー取材における「大話段」と「話段」の構造をまとめたものを示す。

【表 14－1】【資料 2－1】における「大話段」と「話段」の構造

大話段	話段
Ⅰ．開始部	1．取材の目的説明
	2．自己紹介
Ⅱ．展開部	1．活動の背景
	2．バックグラウンド
	3．活動の背景
	4．今後の活動
	5．アドバイス
Ⅲ．終了部	1．終了の挨拶

【表 14－2】【資料 2－2】における「大話段」と「話段」の構造

大話段	話段
Ⅰ．開始部	1．取材の目的説明
	2．挨拶
	3．共通の話題
	4．取材協力の御礼と雑誌掲載日
Ⅱ．展開部	1．活動の背景
	2．バックグラウンド
	3．活動の背景
	4．バックグラウンド
	5．今後の活動
	6．アドバイス
Ⅲ．終了部	1．終了の挨拶

【表 14－3】【資料 2－3】における「大話段」と「話段」の構造

大話段	話段
I. 開始部	1. 開始の挨拶
II. 展開部	1. バックグラウンド
	2. 活動の背景
	3. バックグラウンド
	4. 活動の背景
	5. 今後の活動
	6. アドバイス
III. 終了部	1. 終了の挨拶

【資料 2－1】の話段は、「活動の背景の話段」が 2 話段、「バックグラウンドの話段」、「今後の活動の話段」、「アドバイスの話段」がそれぞれ 1 話段の全 5 話段である。【資料 2－2】と【資料 2－3】の話段は、「活動の背景の話段」と「バックグラウンドの話段」が 2 話段、「今後の活動の話段」と「アドバイスの話段」は 1 話段の全 6 話段である。3 資料に共通するのは、「今後の活動の話段」と「アドバイスの話段」が 1 話段あり、「II. 展開部」の話段の終了部に位置していることである。

話段の開始は、【資料 2－1】と【資料 2－2】は、「活動の背景の話段」なのに対し、【資料 2－3】は、「バックグラウンドの話段」である。インタビュー番組の構造は、全 10 資料とも、すべて同じ種類と同じ数の話段が同じ順番で構成されていたのに対し、インタビュー取材の談話の話段は、資料により、話段の数や順番が異なり、同じ種類の話段が複数回出現していることから、自然談話であるインタビュー取材の談話は、複雑な構造であることがいえる。

最後に、インタビュー取材における小話段についてである。小話段は、参加者の役割や目的、内容上の区分、質問と答えの隣接ペア、〈要求〉系の発話機能の「発話領域」によって区分した。【表 15－1】～【表 15－3】に 3 資料の談話構造を示す。小話段の横には、質問形式の 3 分類の「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」に分類した。これについては、「5. 2. 2」で後述する。

【表 15－1】【資料 2－1】インタビュー取材「先輩に乾杯 Kさん」談話構造

大話段	話段	小話段			
Ⅰ．開始部	1．取材の目的説明	1K～40N	40	1. 雑誌の紹介	
	2．自己紹介	41K～71K	31	2. プロフィール	
Ⅱ．展開部	1．活動の背景	72N～188K	117	1. 競走部に入るまでの経緯	事実を求める質問
		189N～262N	74	2. 競走部の練習	事実を求める質問
		263N～336	74	3. 大学生活	事実を求める質問
		337N～392	56	4. 大学の志望動機	事実を求める質問
		393N～482N	90	5. 同好会に入るまでの経緯	事実を求める質問
		483N～550	67	6. 同好会	事実を求める質問
		551N～639N	89	7. 就職活動	事実を求める質問
		640N～726K	87	8. 就職	事実を求める質問
		727K～775N	49	9. 就職後の練習の調整	事実を求める質問
		776N～845K	72	10. 大会に参加するまでの経緯	事実を求める質問
		846N～949	104	11.大会の調整	事実を求める質問
	2．バックグラウンド	950N～1014K	65	12. 登山競走の魅力	意見を求める質問
		1015N～1149K	135	13. 休日の練習と会社での練習	事実を求める質問
		1150N～1222	73	14. 競争を再開したきっかけ	意見を求める質問
		1223N～1315N	93	15. 大学生へのアドバイス 1	助言を求める質問
		1316N～1442K	127	16. Kさんの家族	事実を求める質問
	3．活動の背景	1443N～1512K	70	17. 海外の大会	事実を求める質問
		1513N～1562N	50	18. 海外の大会の調整	事実を求める質問
	4．今後の活動	1563N～1812K	250	19. 今後の計画	意見を求める質問
		1813N～1875N	63	20. 仕事と練習の切り替え	意見を求める質問
	5．まとめ	1876N～2068K	193	21. 大学生へのアドバイス 2	助言を求める質問
Ⅲ．終了部	1．終了の挨拶	2069N～2073K	5	1. 終了の挨拶	

【表 15-2】【資料 2-2】インタビュー取材「ぴーぷる Mさん」談話構造

大話段	話段	小話段			
Ⅰ．開始部	1．取材の目的説明	1N～17	17	1．雑誌の紹介	
	2．挨拶	18K～28N	11	2．カメラマンの挨拶	
		29M～53	25	3．進行説明	
		54M～103	50	4．共通の先輩	
	3．共通の話題	104M～127	24	5．広告研究会と広報課の関係	
Ⅱ．展開部	4．取材協力の御礼と雑誌掲載日	128N～164M	37	6．御礼	
		165M～243N	80	7．雑誌の掲載日について	
	1．活動の背景	244N～332N	89	1．カンヌ出品の経緯	事実を求める質問
		333N～522M	190	2．川崎市チーム	事実を求める質問
		523N～620	98	3．CM の内容	事実を求める質問
	2．バックグラウンド	621N～760N	140	4．CM への興味	意見を求める質問
	3．活動の背景	761N～836N	76	5．研究会での作成の経緯	事実を求める質問
		837N～1016M	180	6．研究会での M さんの役割	事実を求める質問
		1017N～1079N	63	7．昨年以前の研究会の活動	事実を求める質問
		1080N～1159N	80	8．研究会での面白いエピソード	意見を求める質問
	4．バックグラウンド	1160N～1341M	182	9．M さんの精神論	意見を求める質問
		1342N～1456M	115	10．CM に興味を持ったきっかけ	意見を求める質問
	5．今後の活動	1457M～1593N	137	11．今年の活動	意見を求める質問
	6．まとめ	1594N～1691M	98	12．雑誌掲載の仕方	助言を求める質問
		1692N～2034N	343	13．後輩に伝えたいこと	助言を求める質問
Ⅲ．終了部	1．終了の挨拶	2035N～2052K	18	1．終了の挨拶	

【表 15-3】【資料 2-3】インタビュー取材「ピーぷる Uさん」談話構造

大話段	話段	小話段			
I. 開始部	1. 開始の挨拶	1U～6U	6	1. 開始の挨拶	
II. 展開部	1. バックグラウンド	7C～146U	140	1. ソフトボールを始めたきっかけ（小・中・高での練習）	事実を求める質問
	2. 活動の背景	147C～185U	39	2. W 大学での練習	事実を求める質問
		186C～242U	57	3. 世界選手権に出るまでの経緯	意見を求める質問
		243C～336	94	4. 現在の部活動の様子	事実を求める質問
		337C～392	56	5. 世界選手権で学んだこと	意見を求める質問
		393C～460C	68	6. 台湾と日本の違い	意見を求める質問
		461C～551	91	7. 海外のチーム	意見を求める質問
		552C～614	63	8. 日本チームの選考会	事実を求める質問
		615C～637C	23	9. 台湾での暑さ対策	意見を求める質問
		638C～658U	21	10. 世界選手権の開催場所	事実を求める質問
		659C～766	108	11. U さんのポジション	事実を求める質問
	3. バックグラウンド	767C～792U	26	12. 大学の進学動機	意見を求める質問
		793C～825U	825	13. W 大学での生活	意見を求める質問
		826K～941	116	14. 高校の校則	事実を求める質問
		942K～974	33	15. W 大学の部活の傾向	意見を求める質問
		975C～1020U	46	16. 大学での専攻	事実を求める質問
		1021C～1117U	97	17. 弟の甲子園、家族の話	事実を求める質問
		1118C～1161U	44	18. プロフィール	事実を求める質問
	4. 活動の背景	1162C～1229C	68	19. 選手権後のチームの様子	事実を求める質問
	5. 今後の活動	1230C～1277	48	20. 今後の部活動の方針	意見を求める質問
		1278C～1364U	87	21. 夏休みの予定	事実を求める質問
		1365C～1389	25	22. 大学卒業後の予定	意見を求める質問
		1390C～1446	57	23. W 大学の応援部	事実を求める質問
	6. まとめ	1447C～1467U	21	25. 後輩へのメッセージ・モットー	助言を求める質問
III. 終了部	1. 終了の挨拶	1468C～1484U	17	1. 終了の挨拶	

「Ⅱ．展開部」の小話段の数は、【資料 2-1】が 21 小話段、【資料 2-2】が 13 小話段、【資料 2-3】が 25 小話段に認定できた。

話段の種類別に小話段を各資料で比較すると、「活動の背景の話段」においては、【資料 2-1】が計 13 話段、【資料 2-2】が計 7 小話段、【資料 2-3】が計 12 小話段で、【資料 2-2】が少ない。「バックグラウンドの話段」の小話段においては、【資料 2-1】が計 5 小話段、【資料 2-2】が計 3 小話段、【資料 2-3】が計 8 小話段である。「今後の活動の話段」の小話段においては、【資料 2-1】が計 2 小話段、【資料 2-2】が計 1 小話段、【資料 2-3】が計 4 小話段である。「アドバイスの話段」は【資料 2-1】と【資料 2-3】が 1 小話段、【資料 2-2】が計 2 小話段であった。

「Ⅲ．終了部」の小話段は、全 3 資料とも 1 小話段で共通である。

以上、資料別に小話段の数を比較すると、小話段の総数は、【資料 2-3】が最も多い。「Ⅲ．終了部」の小話段の総数は、同じであったのに対し、「Ⅰ．開始部」の小話段と「Ⅱ．展開部」の小話段の総数は、資料によって数が異なるという結果が出た。

【資料 2-1】と【資料 2-2】のインタビュアーは同じであるのも関わらず、このような結果となったのは、ゲストやテーマが異なるためであると考えられる。

5. 2 インタビュー取材における発話機能の出現傾向

5. 2. 1 参加者別の発話機能の出現傾向

本節では、インタビュー取材における全 3 資料の「大話段」と「話段」における発話機能の特徴について述べる。【表 16】に、全 3 資料の「大話段」「話段」の参加者別発話数と発話機能を示した。【表 17-1】～【表 17-3】¹⁷に、各資料の「大話段」「話段」における参加者別の発話数と発話機能を示した。

【表 16】に【資料 2-1】～【資料 2-3】の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能数を示す。

¹⁷ 巻末資料を参照のこと。

【表 16】によると、全 3 資料の発話機能総数は、6,166 発話である。参加者別に見ると、インタビュアーが 2,823 発話で 45.8%、ゲストが 3,272 発話で 53.1%、カメラマンが 71 機能で 1.2%である。ゲストの発話機能の総数は、インタビュアーの発話機能総数より若干多いが、ほぼ同じ程度の発話数である。これは、発話総数の結果と同じである。インタビュー番組の発話機能数においては、ゲストの発話総数がインタビュアーの約 2 倍以上あり、2 種の談話に大きな違いがあるといえる。

【表 17-1】で、発話機能総数を資料別に見ると、インタビュー取材の発話機能総数は、【資料 2-1】が 2,249 発話、【資料 2-2】が 2,293 発話、【資料 2-3】が 1,624 発話で、【資料 2-3】が最も少ない。これは、発話総数の結果と同じである。

【表 16】の最下段に、【資料 2-1】から【資料 2-3】における 5 類の発話機能の〈Ⅰ．注目要求〉〈Ⅱ．談話表示〉〈Ⅲ．要求〉〈Ⅳ．提供〉〈Ⅴ．受容〉別に集計したものを示した。これによると、〈Ⅳ．提供〉〈Ⅴ．受容〉〈Ⅲ．要求〉〈Ⅱ．談話表示〉〈Ⅰ．注目要求〉の順番に多かった。〈Ⅳ．提供〉の総数は、2,938 発話で、発話機能の総数に対する割合が 47.6%と、〈Ⅳ．提供〉が発話機能総数の約半数を占める。〈Ⅴ．受容〉は、1,761 発話で 28.6%である。〈Ⅲ．要求〉は、871 発話で 14.1%である。また、〈Ⅱ．談話表示〉は 333 発話で 5.4%、〈Ⅰ．注目要求〉は 263 発話で 4.3%である。テレビのインタビュー番組においても、この 5 類の発話機能の総数の順番は同じである。

しかし、テレビのインタビュー番組は、〈Ⅴ．受容〉が 12.0%なのに対し、インタビュー取材は、28.6%である。インタビュー取材の方が〈Ⅴ．受容〉を多く用い、ゲストの発話に積極的に反応していることが分かる。5 類の発話機能を参加者別に見ると、最も差が大きかったのは、〈Ⅳ．提供〉と〈Ⅲ．要求〉と〈Ⅴ．受容〉である。〈Ⅳ．提供〉は、インタビュアーが 650 発話で 10.5%になるのに対し、ゲストは 2,260 発話で 36.7%であり、ゲストの発話機能数がインタビュアーの 3 倍以上ある。〈Ⅲ．要求〉は、インタビュアーが 774 発話で 12.6%あるのに対し、ゲストは、73 発話で 1.2%であり、差が大きい。〈Ⅴ．受容〉は、インタビュアーが 1,135 発話で 18.4%あるのに対し、ゲストは 611 発話で 9.9%であり、インタビュアーの発話機能総数は、ゲストの 2 倍である。インタビュー取材の談話は、インタビュアーの〈Ⅲ．要求〉と〈Ⅴ．受容〉、ゲストの〈Ⅳ．提供〉が中心であるということがいえる。

全 39 種の発話機能別に出現傾向を比較すると、ゲストの〈事実説明〉が 1,371 発話と最も多く、次いで、インタビュアーの〈承認〉が 572 発話、インタビュアーの〈確

認要求〉が 387 発話の順に多い。

インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉、ゲストの〈Ⅳ. 提供〉に注目すると、インタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉で最も多いのは、〈確認要求〉の 387 発話、次に、〈判定要求〉の 236 発話、そして、〈説明要求〉の 118 発話となっており、〈選択要求〉、〈単独行為要求〉はそれぞれ 20 発話以下で、〈共同行為要求〉、〈言い直し要求〉の例は見られないことから、インタビュアーは、〈確認要求〉、〈判定要求〉、〈説明要求〉の 3 機能を用いて、ゲストに〈情報要求〉をしていることになる。一方、インタビュー番組のインタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉は、〈確認要求〉、〈説明要求〉、〈判定要求〉の順に多い。これによると、〈確認要求〉が最も多いことは、それぞれの談話で共通しているが、〈説明要求〉と〈判定要求〉の順が入れ違っている点異なる。

ゲストの〈Ⅳ. 提供〉の発話に最も多いのが、〈事実説明〉の 1,371 発話で、次いで、〈見解表明〉の 467 発話で、そして、〈応答〉の 306 発話、〈評価表明〉の 104 発話の順である。これは、インタビュー番組と同じである。〈選択情報提供〉と〈意志表明〉は、一桁台、〈言い直し〉の例は見られなかった。ゲストは、主に〈事実説明〉と〈見解表明〉で、インタビュアーに情報提供をしていることになる。

インタビュー取材のインタビュアーの〈Ⅴ. 受容〉に注目すると、9 種の機能の中で、〈承認〉の 572 発話が最も多く、次いで、〈継続〉の 352 発話が多い。そして、〈確認〉の 73 発話、〈興味〉の 43 発話、〈共感〉の 28 発話、〈自己注目表示〉の 26 発話、〈関係作り・儀礼〉が 23 発話、〈否認〉、〈終了〉、〈同意〉は一桁台である。それに対して、インタビュー番組におけるインタビュアーの〈Ⅴ. 受容〉は、〈承認〉、〈継続〉、〈終了〉、〈興味〉、〈確認〉、〈自己注目表示〉、〈共感〉、〈否認〉の順に多い。〈承認〉〈継続〉が最も多いことは、同じであるが、その他の発話機能の順は異なる。インタビュー番組は、番組上、インタビュアーは、〈終了〉の機能によって、番組の終了をゲストと視聴者に示している。インタビュー取材は、〈共感〉や〈興味〉により、ゲストの話に興味や関心を示している。テレビ番組は、撮影する以前に、インタビュアーを含めた番組関係者と、ゲストは打ち合わせをし、インタビュアーは、ゲストの発話内容を事前に知っている可能性がある。インタビュー取材とは異なり、〈共感〉や〈興味〉が出にくくなっているのではないかと考えられる。インタビュアーの〈Ⅴ. 受容〉は、ゲストに応答の理解を示し、話をうながす働きがある。さらに、〈Ⅴ. 受容〉の〈共感〉や〈興味〉は、ゲストの話に関心を示すことで、ゲストの話を引き出す働きがある。

このように、ゲストが〈Ⅳ．提供〉をしている際に、〈Ⅴ．受容〉の機能を効果的に用いることは、談話展開に大きな影響を与えていると考えられる。

5. 2. 1. 1 「大話段」の発話機能

本節では、「大話段」における参加者別の発話機能の総数を検討する。「Ⅰ．開始部」「Ⅱ．展開部」「Ⅲ．終了部」の中で、発話機能数が最も多いのは、「Ⅱ．展開部」であるが、これは、当然のことながら、発話総数の結果とも対応している。

【表 16】によると、「I. 開始部」の発話機能は、全 311 発話の中で、インタビュアーが 150 発話で 48.2%、ゲストが 148 発話で 47.6%とほぼ同じ割合である。参加者別の 39 種の発話機能を見ると、インタビュアーの〈事実説明〉が最も多いが、これは、インタビュアーがゲストに、広報紙の説明をしていることによるものである。

「Ⅱ．展開部」においては、全 5,193 発話の中で、インタビュアーが 2,407 発話で 46.6%、ゲストが 2,728 機能で 52.5%と、ゲストの発話機能数は、インタビュアーよりも若干多い。これは、「Ⅱ．展開部」がインタビュー談話の中心であり、インタビュアーが、ゲストから情報収集をするという役割を担っていることによるものであろう。参加者別に 39 種の発話機能を見ると、ゲストは〈事実説明〉が最も多く、インタビュアーは〈承認〉が最も多かった。インタビュアーの質問に対し、ゲストが〈事実説明〉によって応答し、その際、インタビュアーは〈承認〉のあいづちを打っている。

「Ⅲ. 終了部」においては、全 40 発話の中で、インタビュアーが 22 発話で 55.0%、ゲストが 12 発話で 30.0%、インタビュアーの発話機能数が、ゲストよりも若干多い。参加者別に、全 39 種の発話機能を見ると、インタビュアーとゲストの両者とも、〈関係作り・儀礼〉が最も多く、この機能により、挨拶をして談話が終了となる。

次に、全3資料から用例を引きながら、「Ⅰ. 開始部」と「Ⅲ. 終了部」の特徴について、検討する。

例（１）は、【資料 2-3】の談話の「Ⅰ．開始部」の「1．開始の挨拶」の 1 小話段である。インタビュアーが C で、ゲストが U であるがゲスト U は、ソフトボールの世界選手権で活躍したという経験を持つ在学生である。

(1) (【資料 2-3】「I. 開始部」「1. 開始の挨拶」)

1U お願いします。 〈関係作り・儀礼〉

2C お願いします。 〈関係作り・儀礼〉

- 3C インカレ優勝おめでとうございます。 〈関係作り・儀礼〉
- 4U {笑い}ありがとうございます。 〈関係作り・儀礼〉
- 5C お疲れ様でした。{笑い}
- 6U {笑い}

1U と 2C で、ゲストUとインタビュアーCが「お願いします。」という同じ発話により、3C でインタビュアーCが、インカレで優勝したゲストUに祝福と労いの挨拶をしている。

例(2)は、【資料 2-1】の「I. 開始部」である。インタビュアーは、Nで、ゲストは、Kである。1N~40N が、インタビュアーNが広報紙の内容を説明する「1. 雑誌の紹介の小話段」、41K から 71K が、「2. プロフィールの小話段」である。ここで、ゲストKは、所属や出身地を記入するプリントをインタビュアーに渡す。

(2) (【資料 2-1】「I. 開始部」「1. 雑誌の紹介」)

- 1N あの一、もちろんご存知だと思うんですが、 〈注目要求〉+〈見解表明〉
- 2K ええ、ええ、ええ。 〈継続〉
- 3N 大学が発行する、 〈事実説明〉
- 4N あの一、学生向けに発行する広報紙で、 〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 5K あ、はいはい。 〈継続〉
- 6N その中の月一の企画なんです、 〈事実説明〉
- 7K ええ。 〈継続〉
- 8N 「先輩に乾杯」ということで、 〈事実説明〉
- 9K ええ、はいはいはいはい。 〈継続〉
- 10N 校友の方々に登場していただいて、 〈事実説明〉
- 11K うーん。 〈継続〉
- 12N 生き方というか、 〈事実説明〉
- 13N はいはいはい。 〈継続〉
- 14K 特に(契約)環境が多様化していますので、 〈事実説明〉
- 15N あの一、こういう生き方もありだというお話を。 〈注目要求〉+〈単独行為要求〉
- 16K うーん、そうですね。 〈承認〉
- 17K 結構ネットで見たら、 〈事実説明〉

- 18K いろいろな人がいて。 〈事実説明〉
- 19N そうですね。 〈承認〉
- 20K ユニークな人が多いですね。 〈確認要求〉
- 21N そうですね。 〈肯定〉
- 22K 社会的にすごく頑張っている企業のなんかとかっていうんじゃないくて、 〈事実説明〉
- 23K はいはい。 〈継続〉
- 24K 面白い。 〈評価表明〉
- 25N 今、あれですよ？ 〈注目要求〉
- 26N 例えば、有名企業にご就職したからといって、 〈話を深める機能〉+〈事実説明〉
- 27K ああ。 〈継続〉
- 28N 決してそれがいい人生だというのは、//言えないような状態ですので、 〈事実説明〉
- 29K うん。 〈継続〉
- 30K なるほど。 〈承認〉
- 31N その中でこう、(些細な?)校友がいますので、 〈事実説明〉
- 32K ああ。 〈継続〉
- 33N いろんな活動をされている中で信念を持って 〈事実説明〉
- 34K ああ。 〈継続〉
- 35N 生きていく生き方っていうのを紹介していくことで、 〈事実説明〉
- 36K ええ。 〈継続〉
- 37N 学生たちの何か参考になればなあと。 〈見解表明〉
- 38K ああ、なるほど、そうですね。 〈承認〉
- 39K わかりました。 〈見解表明〉
- 40N はい。 〈終了〉
- 41K えっと、一応あの一、プロフィールみたいな。 〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 42N ありがとうございます。 〈関係作り・儀礼〉
- 43K ええ。 〈承認〉
- 44N ああ、K 高出身なんですか？ 〈判定要求〉

45K	ええ。	〈応答〉
46N	えーと、私、学生ところに、	〈注目要求〉+〈事実説明〉
47K	W の、W というわけじゃないんですけど、	〈事実説明〉
48N	ええ。	〈継続〉
49K	劇団に入っております、	〈事実説明〉
50K	ええ。	〈継続〉
51N	それが K 高の演劇部が中心に、あの一、やっております、	〈注目要求〉+〈事実説明〉
52K	あー、そうなんですか。	〈承認〉+〈確認〉
53K	＝へー。	〈興味〉
54K	ちょうど K さんの後輩の3つ下くらいの//K という者が作っていたんですが。	〈事実説明〉
55N	ふーん。	〈興味〉
56K	そうですか。	〈確認〉
57K	桐生はよく行っていたんですよ。	〈事実説明〉
58N	あ、そうなんですか。	〈確認〉
59K	桐生の市民会館。	〈事実説明〉
60N	市民会館ホールみたいの、ありますよね？	〈確認要求〉
61K	学校のすぐ横の。	〈確認要求〉
62N	そうですね。	〈肯定〉
63N	公演させていただきました。	〈事実説明〉
64K	そうですか。	〈確認〉
65N	龍園とかの。	〈事実説明〉
66K	龍園、懐かしいですね。	〈評価表明〉
67N	{笑い}	
68K	今でも行きますよ。	〈事実説明〉
69K	懐かしくて。	〈評価表明〉
70N	あー、そうですか。	〈承認〉+〈確認〉

1 Nで、インタビュアーNが「あの一」によって、話を切り出している。15Nでも、「あの一」によって、「お話をしてください。」という依頼の〈単独行為要求〉の発話を切り出している。事前に掲載紙の内容を確認していたゲストKは、18Kで、〈事実説明〉によって伝える。一方、インタビュアーNは、掲載コーナーの内容説明を補足する。ゲストKは、39Kで、〈見解表明〉を用いて、雑誌の内容を理解したこと、インタビューの依頼を承諾したことを示す。

41Kから71Kの「2. プロフィールの小話段」は、ゲストKがインタビュアーNに、記入したプロフィール用紙を渡して、確認してもらう内容の話段である。ゲストKから渡された用紙を見て、インタビュアーNは、〈確認要求〉で確認する。そして、ゲストKの出身高校を知っていることを〈事実説明〉で示し、共通話題が展開される。

このように、「Ⅰ. 開始部」で、インタビュアーNが共通の話題を提示することは、【資料2-2】も同じであった。「Ⅱ. 展開部」で、本格的にインタビューに入る前に、「Ⅰ. 開始部」で、情報交換をし、さらに共通の話題を提示する。これは、ゲストのとの距離を縮める働きがあり、雰囲気作りの働きがあると考えられる。これは、インタビューの事前にやりとりが交わされているテレビ番組の談話には、見られないことである。

次に、例(3)に【資料2-3】の「Ⅲ. 終了部」の発話例を挙げる。インタビュアーは、C、ゲストがU、カメラマンがKである。1468Cから1484Cが「1. 終了の挨拶」小話段である。

(3) (【資料2-3】「1. 終了の挨拶」)

- | | | |
|-------|---------------------|-----------|
| 1468C | ありがとうございました。 | 〈関係作り・儀礼〉 |
| 1469C | すみません、 | 〈関係作り・儀礼〉 |
| 1470C | お忙しいところ、お時間来ていただいて。 | 〈関係作り・儀礼〉 |
| 1471C | 何か特に、このことを言いたいとか、 | 〈判定要求〉 |
| 1472C | 言い直したいところとかは？ | 〈判定要求〉 |
| 1473U | いえ、大丈夫です。 | 〈応答〉 |
| 1474U | はい。 | 〈自己注目表示〉 |

1475C	今言った中で、	〈判定要求〉
1476C	このことは載せないでとかいうのは？	〈判定要求〉
1477U	あ、大丈夫です。	〈見解表明〉
1478U	はい。	〈自己注目表示〉
1479C	何か、Kさんも U さんご自身に関することでも聞きたいことがあったら。	〈単独行為要求〉
1480K	大丈夫です。	〈見解表明〉
1481C	大丈夫ですか。	〈確認要求〉
1482K	はい。	〈応答〉
1483K	ありがとうございました。	〈関係作り・儀礼〉
1484C	ありがとうございました。	〈関係作り・儀礼〉

「Ⅰ．終了の挨拶」の小話段では、インタビュアーCが感謝の挨拶、労いの挨拶をした後、1471Cで「Ⅱ．展開部」でゲストUが話した内容を掲載してもいいかということ〈判定要求〉の発話機能で確認する。そして、1479Cで、カメラマンにも確認を取り、カメラマンKとゲストUが挨拶をして、インタビューの談話は終了する。

全3資料とも、「終了の挨拶」によって終了することは、共通している。これはまた、テレビのインタビュー番組にも共通する。

以上、用例を挙げながら、「Ⅰ．開始部」と「Ⅲ．終了部」の特徴を検討したが、この2種の「大話段」は、インタビューの中心の「Ⅱ．展開部」とは異なり、インタビュアーの〈情報提供〉とインタビュアーとゲストの〈関係作り・儀礼〉の挨拶からなるのが特徴である。

5. 2. 1. 2 「Ⅱ．展開部」における情報収集の発話機能と表現形式

本節では、「Ⅱ．展開部」の「話段」である「活動の背景の話段」、「バックグラウンドの話段」、「今後の活動の話段」、「アドバイスの話段」という4種の話段別に発話機能の出現傾向について分析し、分析観点3の「情報収集に用いる表現形式」について考察する。

【表 16】によると、「Ⅱ．展開部」の発話機能数は、5,765 発話の内、「活動の背景の話段」が 2,713 機能で 44.0%、「バックグラウンドの話段」が 1,604 機能で 26.0%、

- 246N 広告研究会として、〈確認要求〉
- 247N 出品されたんですよね？ 〈確認要求〉
- 248M そうです。 〈肯定〉+〈事実説明〉
- 249N その一、経緯みたいなことを。 〈注目要求〉+〈単独行為要求〉
- 250M はい、そうですね。 〈応答〉

〈中略〉

例（５）は、【資料 2－3】の「４．活動の背景」の話段「19. 選手権後のチームの様子」のインタビュアーの質問である。【資料 2－3】は「活動の背景の話段」が２話段あるが、これは、第２話段の「活動の背景の話段」である。インタビュアーがC、ゲストがUである。

（５）（【資料 2－3】の「４．活動の背景」「19.選手権後のチームの様子」）

- 1162C それまで世界選手権行ってて？ 〈事実説明〉
- 1163C 戻って来た時に、 〈事実説明〉
- 1164C チームメートはどんな言葉を掛けてくれましたか？ 〈説明要求〉
- 1165U 「すごいねー。」って言う。 〈事実説明〉

〈中略〉

「バックグラウンドの話段」

「バックグラウンドの話段」においては、「活動の背景の話段」とは異なり、活動内容に興味を持ったきっかけや、ゲストの家族、日常生活、所属に関する内容である。

例（６）は、【資料 2－3】の「１．バックグラウンドの話段」「２．ソフトボールを始めたきっかけ」である。

（６）（【資料 2-3】「１．バックグラウンド」「２．ソフトボールを始めたきっかけ」）

- 7C あの、ソフトボールはいつからなさっていたんですか？ 〈注目要求〉+〈説明要求〉
- 8U 小学校4年生から。 〈事実説明〉
- 9C 小学校4年生から。 〈確認〉

〈中略〉

「今後の活動の話段」

「今後の活動」の話段においては、インタビュアーは、ゲストの今後の計画や目標を尋ねる「話段」で、各資料1話段である。「話段」は、インタビュアーの質問から始まる。例（7）は、【資料2-1】の「4. 今後の活動の話段」の「19. 今後の計画」のインタビュアーNの質問である。

（7）（【資料2-1】「4. 今後の活動」「29. 今後の計画」）

1563N 現在のところで、その今の段階の//5ヵ年計画みたいな長期計画はどういったもの
なんですか？

〈説明要求〉

〈中略〉

例（8）は、【資料2-3】の「5. 今後の活動の話段」のインタビュアーの質問である。【資料2-3】は、「20. 今後の部活動の方針」「21. 夏休みの予定」「22. 大学卒業後の予定」「23. W大学の応援部」の4話段に認定される。例（8）に、「22. 大学卒業後の予定」の小話段のインタビュアーの質問の発話例を挙げる。インタビュアーの質問は、1365Cの「どうするのか。」という〈説明要求〉が用いられている。

（8）（【資料2-3】「5. 今後の活動の話段」「22. 大学卒業後の予定」）

1365C 今後は、どうなさるおつもりなんでしょうか？

〈説明要求〉

1366C もう決めていらっしゃるんですか？

〈判定要求〉

「アドバイスの話段」

最後に、「Ⅱ. 展開部」の終了の話段となる「アドバイスの話段」の例を挙げる。これは、全3種類とも最後に位置し、1話段である、大学の後輩にアドバイスやメッセージを問う質問と応答の話段となる。例（9）にインタビュアーNの質問の発話例を挙げる。

（9）（【資料2-1】「5. アドバイス」「21. 大学へのアドバイス2」）

1876N そろそろお時間になってしまったんで、

1877N 最後にあれなんです。

1878K あっ、そうですね。

1879N これ読むのが大半がW大、今のWの大学生なんですけれども、

1880K

ええ。

- 1881N W の学生って結構いろんな分野で活躍しているんですが、
- 1882K ああ、そうですね。
- 1883N 学生時代の 95 パーセント以上が//いわゆる何効をなさずに、
- 1884K ええ。
- 1885K うん。
- 1886N 普通の学生として過ごしていく。
- 1887K うんうんうん。
- 1888N で、悩んでいる学生達だと思うんですね。
- 1889K うん。
- 1890N でも、そういう学生でもまじめであったり、
- 1891K うん。
- 1892N 誠実にこつこつやっていたら、
- 1893K うん。
- 1894K 必ず花開く。
- 1895K ええ。
- 1896N 実際、今社会で花開いている W 大生のほとんどは、実際学生時代すごかったかという、
- 1897N 決してそうではないと思うんですよ。
- 1898K うん、そうですね。
- 1899N まさに原石って、と呼ばれている//学生たちにアドバイスをって言った時に、
- 1900K あーあーあー。
- 1901N 例えば、登山競走する学生は、//正直そこまでいないと思うんですが、
- 〈中略〉

次に、分析観点の 3 つ目の「(3) 情報収集に用いる表現形式」について考察するために、「Ⅱ. 展開部」の発話の例を挙げる。まず、インタビュアーの特徴ある質問についてで、「a. 応答確認」、「b. 前置き + 質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」の発話例を挙げる。

a. 応答確認

インタビュアーは質問をするだけでなく、ゲストの応答を理解したことを表明し、応答確認をする。その表明の仕方の1つが応答のくり返しである。例(10)は、インタビュアーCが、95C、100C、103C で、ゲストUの応答を繰り返している。このようにインタビュアーがゲストの応答を繰り返す発話は、多数見られた。インタビュアーは、記事を作成するために、正しい情報を収集しなくてはならない。そのため、このような現象が起きると考えられる。これは、テレビのインタビュー番組でも見られた現象である。

(10) (【資料 2-3】)

- | | | |
|------|---------------------------|-------------------------|
| 93C | 小学校の部活はどうですか？ | 〈説明要求〉 |
| 94U | 小学校の時は、少年団。 | 〈事実説明〉 |
| 95C | あ、 <u>少年団</u> 。 | 〈承認〉+〈確認〉 |
| 96U | 地域のチームに入って。 | 〈事実説明〉 |
| 97C | そうしますと、あの一、男の子の混ざって一っていう？ | 〈話を進める機能〉+〈注目要求〉+〈確認要求〉 |
| 98U | いや、男の子は野球で、 | 〈応答〉+〈事実説明〉 |
| 99U | 女の子は//ソフトボールで。 | 〈事実説明〉 |
| 100C | <u>ソフトボールで。</u> | 〈確認〉 |
| 101C | たまに、あの一、男の子とやるってことは。 | 〈注目要求〉+〈判定要求〉 |
| 102U | ないです。 | 〈応答〉 |
| 103C | <u>ない</u> 。 | 〈確認〉 |

例(11)は、【資料 2-1】の用例で、インタビュアーがゲストの応答を受けて、言い直しをして応答確認する事例である。インタビュアーNは、78Kで、ゲストKの大学時代に卒業論文がなかったという応答を受けて、〈話を進める機能〉の「じゃあ」を用い、80Nで、「ゼミはなかったのですね。」という〈確認要求〉の発話によって、応答確認している。例(12)も同じような例である。この例も〈話を進める機能〉の「じゃあ」が用いられている。

(11) (【資料 2-1】)

- | | | |
|-----|---------------|--------|
| 77N | 卒論関係は、ゼミかなんか。 | 〈説明要求〉 |
|-----|---------------|--------|

- 78K 教育学部は、卒論がないんですよ。 〈事実説明〉
- 79N そうですよ、なるほど。 〈共感〉+〈承認〉
- 80N じゃあ、ゼミみたいなのは特に入られていなかった。 〈話を進める機能〉+〈確認要求〉
- 81K そーですね。 〈応答〉

(12) (【資料 2-3】)

- 42C その、始められたのが小学校2年生ってことなんですけれども、 〈事実説明〉
- 43C その前から興味はあったんですか？ 〈判定要求〉
- 44U いや、全然ソフトボールという競技も知らない{笑い}。 〈応答〉+〈事実説明〉
- 45C あ、そうなんですか。 〈確認〉
- 46C じゃあ、その時になって、 〈話を進める機能〉+〈確認要求〉
- 47C 初めて「やってみようかなー。」って//いう感じですね。 〈確認要求〉
- 48U はい。 〈応答〉

b. 前置き+質問

以下は、前置きをしてから質問する例である。これは、テレビのインタビュー番組でもよくある例である。例(13)は、インタビュアーNは、ゲストKの会社の昼休みを予想し、質問の前に前置きをしている。〈見解表明〉+〈確認要求〉の機能を「～と思うんですが、～ということですね。」という表現で、質問している。

(13) (【資料 2-1】)

- 1088N でも、1時間の休み時間だと思うんですが、 〈話を進める機能〉+〈見解表明〉
- 1089K えーえー。 〈承認〉
- 1090N 着替えて、 〈確認要求〉
- 1091N もう4往復されてて、 〈確認要求〉
- 1092K ええ。 〈承認〉
- 1093N 昼休みって、昼食も摂らなくてはいけないということですね。 〈確認要求〉
- 1094K そうですね。 〈応答〉

(14) (【資料 2-1】)

- 1150N その大きな変化というのはなんだったんでしょう？ 〈説明要求〉

- 1151N たぶん、あの一、//28歳で優勝して、 〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 1152K はいはい。 〈継続〉
- 1153N 「ああいい思い出になった」って言ってしまえる人もいると思うんですが、
 〈見解表明〉
- 1154K ああ、はい
 =はい。 〈承認〉
- 1155N それを続けていこうといって、 〈説明要求〉
- 1156N もちろん仕事もあるので、 〈説明要求〉
- 1157K ああ。 〈承認〉
- 1158N 自分で工夫をし始めたきっかけというか 〈説明要求〉
- 1159N その//モチベーションはどういったものなんでしょうか？ 〈説明要求〉
- 1160K うん。 〈継続〉

例 (13) (14) は、〈要求〉の前に、〈提供〉があるという前置きのある質問であった。
 例 (15) は、〈要求〉の後に、〈提供〉がある質問で、倒置になっている質問である。

(15) (【資料 2-2】)

- 580N こういう CM 自体を作るのは、 〈判定要求〉
- 581N M さんも初めての経験でした？M さんにとっては。 〈判定要求〉
- 582M ああ。 〈承認〉
- 583N 広告研究会では何回か？ 〈判定要求〉
- 584M はい。 〈肯定〉
- 585N やってる経験自体は、会自体はあると思うんですけど。 〈見解表明〉

c. 話題転換

例 (16) は、話題転換の部分である。〈話を始める機能〉「じゃあ」で、新しい話題を切り出している。

(16) (【資料 2-2】)

- 244N じゃあ、えーと、まあ、今回出るのがその一、何、M さん自身が幹事長ということもある
 んだけど、

245M はい。

246N 広告研究会として

247N 出品されたんですよね？

248M そうです。

例(17)も話題転換の発話例である。〈話を変える機能〉の「じゃあ」と、「ちょっと話は変わるんですけど」とメタ言語表現を用いて話題転換をしている。

(17) (【資料 2-2】)

621N じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、

622M はい。

623N Mさん自身がそういう映像とか、

624M はい。

625N 映像に興味を持っていたのかな？

626M そうですね。

d. 応答のまとめ

例(18)に、インタビュアーNが、ゲストKの応答をまとめて、次の展開へと移行する例を挙げる。

(18) (【資料 2-1】)

1223N Kさんのお話伺ってると、〈事実説明〉

1224N 目標っていうのが、かなり癖として、技として、//何か目標を立てて、〈事実説明〉

1225K ああ。〈承認〉

1226N 目標に向かって、〈事実説明〉

1227N それに向かってっていうのがその競技人生だけではなく、〈事実説明〉

1228K ああ、そうですね。〈承認〉

1229N よくやられているようなんですが、〈事実説明〉

1230K ええ。〈承認〉

1231N けっこう、大学生って、あの一、いい意味でも悪い意味でも、大学に入るまでに、

〈注目要求〉+〈事実説明〉

1232N 例えば、高校の先生になりたいと思って入ってきて、〈話を深める機能〉+〈事実説明〉

- 1233K ああ、はいはいはい。 〈承認〉
- 1234N それがまたがらっと変わる。 〈事実説明〉
- 1235N 価値観が変わるのが大学生生活のいいところだと思うんですが、 〈評価表明〉
- 1236K ええ、ええ、ええー。 〈承認〉
- 1237N その目標がなくなってきたしまってるっていう学生もやっぱりいると思うんですよ、
//今この時点で。 〈見解表明〉
- 1238K ああ、はいはいはいはい。 〈承認〉
- 1239K ええ、ええ、ええ。 〈承認〉
- 1240N そういった学生に何かアドバイスみたいなものはありますか？ 〈説明要求〉

インタビュアーNは、1223N～1229Nで、それ以前のゲストKの話をまとめたものを前置きにして、1240Nで〈説明要求〉で質問をしている。例（19）も、インタビュアーがゲストの応答をまとめている例である。このように、質問の前に、インタビュアーは、ゲストの応答をまとめる。これは、唐突に質問に入ることを避け、段階的に質問に入るというゲストが応答しやすくするためのインタビュアーの配慮であると考えられる。

（19）（【資料2-2】）

- 1342N で、はい。 〈話を再び始める機能〉+〈自己注目表示〉
- 1343N えーと、実際1年やって、 〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 1344N あのー、この話、すごい面白かったんですけど、 〈注目要求〉+〈評価表明〉
- 1345M ああ。 〈承認〉
- 1346N まあ、映像に興味があって、 〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 1347M はい。 〈承認〉
- 1348N でー、Wに来て、 〈事実説明〉
- 1349M はい。 〈承認〉
- 1350N 広研に入って、 〈事実説明〉
- 1351N こう映像やってきて、 〈事実説明〉
- 1352N で、今は映像関係じゃなくても、 〈事実説明〉

- 1353N 1番始めの話、会話に//戻るんですけど、 〈事実説明〉
- 1354M はい。 〈承認〉
- 1355N 「もの作りやったら、 〈事実説明〉
- 1356N 面白そうだな。」って思って、 〈事実説明〉
- 1357M うんうん。 〈承認〉
- 1358N そういうある意味、視点が広がった//じゃないのかなって思ったんですけど、
〈見解表明〉
- 1359M はいはい。 〈承認〉
- 1360M そうですね。 〈応答〉
- 1361N きっかけというのはあるんですか？ 〈判定要求〉

e. 応答に対する反応

質問者は応答者の応答に〈Ⅳ. 提供〉や〈Ⅲ. 要求〉を用いて反応をする。例（20）は、〈Ⅳ. 提供〉〈評価表明〉を用いて感想を言って反応する例である。例（20）のようなインタビュアーNの感想を含む〈評価表明〉や〈見解表明〉を用いた質問者の発話は多数見られた。

（20）（【資料2-1】）

- 176K さすがに、2年間浪人したんで、 〈事実説明〉
- 177N はい。 〈継続〉
- 178N ブランクが//長いですね。 〈評価表明〉

ゲストKが2年間浪人した後、大学に進学して、競走部の練習を始めた話をしている。この発話を受けて、ゲストNは、「ブランクが長いですね。」と〈評価表明〉をしている。例（21）も同じような例で、「日本のソフトボールチームも強いですね。」「アメリカの野球もすごいですよね。」と評価を示す〈確認要求〉をしている。

（21）（【資料2-3】）

- 519C アメリカが優勝ですか？ 〈選択要求〉
- 520C 台湾が優勝？ 〈選択要求〉
- 521U はい。 〈応答〉
- 522C で、 〈話をうながす機能〉

- 523U 日本が3位。 〈事実説明〉
- 524C 日本も強いですねー？ 〈確認要求〉
- 525U うん。 〈応答〉
- 526C やっぱアメリカって野球もすごいですね。 〈確認要求〉
- 527U そうですね。 〈応答〉

f. 共通の話題

インタビュアーは〈Ⅲ. 要求〉のみならず、〈Ⅳ. 提供〉を用いて会話に参加している。例(22)は、ゲストKが大学時代に腰を痛めてしまった話をしている。ゲストKが腰を痛めたことを知ったインタビュアーNが124Nで、〈事実説明〉の発話によって、自分の経験談を話し、127Nで〈確認要求〉をしている。このように、ゲストと同じ境遇であったことを、インタビュアー自身の体験談を交えて語るという現象は、全3資料に見られた。また、インタビュアー自身の体験談の他に、共通の知人の経験談を語る発話もある。このような特徴は、インタビュー番組には見られない。ライフストーリーであるインタビュー取材の談話のみに見られる一つの特徴である。インタビュアーは質問をするだけでなく、共通話題を提示することで話題を共有しながら、情報収集をしているのである。

(22) (【資料2-1】)

- 123N 腰ってかなり致命的ですね。 〈評価表明〉
- 124N 私も趣味なんですけど、ジョギングを。 〈事実説明〉
- 125K ああ。 〈興味〉
- 126N 腰を痛めしまうと、 〈確認要求〉
- 127N 走れなくなってしまうですね。 〈確認要求〉
- 128K そうですね。 〈応答〉

その他、インタビュアーの応答を予想してする質問の例を挙げる。これは、番組には出現しない事例で、自然談話ならではの特徴と言える。

応答を予想してする質問

例(23)で、ゲストKは、大学時代に競走部の練習で忙しかったという話をしている。

315K で、ゲストKは、「目標があったから」という理由付けをしている。その応答を受け、インタビュアーNは、前の話題にあった「箱根駅伝」がゲストKの目標であろうと予想して、「～ということですか」という発話によって、〈確認要求〉をしている。インタビュアーは、ゲストの応答を予想して質問をし、ゲストの応答を促しているのである。

(23) (【資料 2-1】)

- 313K そうというのは、そういう意味ではね、精神的に不自由な感じがしたけど、
〈事実説明〉
- 314N =はい。
〈承認〉
- 315K まあ、目標があったんで、
〈注目要求〉+〈事実説明〉
- 316N うん。
〈承認〉
- 317K そんなに一、なんかね、やだーって//いう感じじゃなかったですね。
〈事実説明〉
- 318N うんうんうん。
〈継続〉
- 319N 目標ってというのは、やっぱり、「箱根駅伝//出たい。」ということですか？
〈確認要求〉
- 320K 「箱根駅伝出たい。」っていうのはねー、
〈事実説明〉
- 321K そうですねー。
〈応答〉

例(24)は、予想してした質問の応答が違った例である。これは、自然談話である特徴といえる。

(24) (【資料 2-1】)

- 866N 走り方みたいな、トレーニング方法みたいな//はあるんですか？
〈判定要求〉
- 867K これはもう自分で編み出しというか、
〈事実説明〉
- 868N 模索しながら？
〈判定要求〉
- 869K 模索しながら。
〈肯定〉+〈事実説明〉
- 870N 本を読みながら、
〈判定要求〉
- 871K あ、本も何もないんですよ。
〈事実説明〉
- 872K まったく新しいジャンル//なんで。
〈事実説明〉
- 873N はい。
〈承認〉

インタビュアーNは、866N でゲストKにトレーニング方法があるかどうかを〈判定要求〉の発話によって質問している。ゲストKは、867K で「自分で編み出している。」と回答するが、その発話の途中で、インタビュアーKは、「模索しながら、編み出しているんですか。」と〈判定要求〉の質問をする。すると、ゲストは、〈肯定〉の意味を含んだ〈事実説明〉で回答する。このインタビュアーの発話は、ゲストの回答と同じある。870Nでは、さらに、インタビュアーNは、ゲストに、トレーニング方法を編み出す手段を質問するために、「本を読みながら（ですか）」と〈判定要求〉で、ゲストKの応答を予想して、質問を重ねる。この2回目のゲストの応答は、インタビュアーKの予想とは異なる。このように、インタビュアーがゲストの応答を予想して、ゲストの発話の途中で質問をすることがあるが、予想と異なる応答がくる場合もある。

以上のように、インタビュー取材では、「a. 応答確認」、「b. 前置き+質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」という、インタビュアーによる談話展開の特徴が見られた。【表 18】に、特徴、表現形式、発話機能をまとめる。

【表 18】大学広報紙のインタビュー取材の情報収集に用いる表現形式

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈V. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈III. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか。(。/ね)	〈III. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈III. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き+質問	5 ～ですが、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈III. 要求〉
	6 ～ですけれども、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈III. 要求〉
	7 ～と思うんですが、～か。	〈IV. 提供〉〈見解表明〉+〈III. 要求〉
c. 話題転換	8 では、～	〈II. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	9 じゃ、～	〈II. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃあ、～	〈II. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	11 じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、	〈II. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉+〈事実説明〉
d. 応答のまとめ	12 先行発話を繰り返す。 例:Aさんのお話を何うと、～。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉
e. 応答に対する反応	13 そうですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	14 そうなんですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	15 そうなんですね。	〈V. 受容〉〈承認〉
	16 そうですよ。	〈V. 受容〉〈共感〉
	17 へー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	18 あー。	〈V. 受容〉〈興味〉〈共感〉
	19 分かります。	〈IV. 提供〉〈見解表明〉
	20 感想: ～(形容詞)ですね。	〈IV. 提供〉〈評価表明〉/〈見解表明〉
f. 共通の話題	21 私も～。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉

最後に、例 (25) ～ (27) のゲストからの要求と例 (28) ～ (29) のインタビュアーの質問が成立しなかった例を挙げる。

ゲストからの〈要求〉

例(25)は、ゲストKがインタビュアーNに〈要求〉をする例である。ゲストKの大学生生活について話しており、競走部の練習で忙しかったゲストKは、他の大学生について、309Kで「気楽でいい」と思っていたようだ。309Kと311Kで、インタビュアーNに、〈確認要求〉で、「～じゃないですか」と、相手の同意を求めている。

(25) (【資料2-1】)

- 309K たまには、いいなあ、気楽でいいっていうか、〈確認要求〉
310N うん。〈継続〉
311K なんとなく、なんでも夜遅くまでできるじゃないですか？〈確認要求〉
312N はいはい。〈応答〉

例(26)は、例(25)と同じ資料である。ゲストKは、社会人よりも、大学生の生活の方が、自分の時間が持てるということを、742K「～よね」という〈確認要求〉の発話によって、インタビュアーNに〈確認要求〉し、それに対して、インタビュアーNは、743Nで、〈応答〉し、さらに、744Nで、〈事実説明〉で補足し、745KでのゲストKが〈共感〉を示し、共通理解を深めている。

(26) (【資料2-1】)

- 742K 大学時代は、比較的自分の行動を作りさ、やす//いんですよね？〈確認要求〉
743N そうですよね。〈応答〉
744N バイトをしたり。〈事実説明〉
745K そうそうそうそう。〈共感〉

例(27)は、応答する立場であるゲストMが、インタビュアーNに逆に質問する例である。インタビュアーNは、581Nで、「CMをカンヌに出品することは、初めてかどうか。」を〈判定要求〉の発話によって重ねている。それに対して、ゲストMは、582Mで〈応答〉で回答する。次に、インタビュアーNは、585Nで、〈見解表明〉をする。それに対し、ゲストMが587Mで〈判定要求〉、589Mで「～ということですか」で〈確認要求〉の発話をする。ゲストMは、正しく回答するために、インタビュアーの質問を〈要求〉の発話により確認している。

(27) (【資料 2-2】)

- 581N Mさんも初めての経験でした？Mさんにとっては。〈判定要求〉
- 582M ああ。〈応答〉
- 583N 広告研究会では何回か？〈判定要求〉
- 584M はい。〈応答〉
- 585N やってる経験自体は、会自体はあると思うんですけど。〈見解表明〉
- 586M はい。〈応答〉
- 587M えーと、僕ですか？〈注目要求〉+〈判定要求〉
- 588N はい。〈応答〉
- 589M 僕自身はあの一、テレビで流れる CM ということですか？〈確認要求〉
- 590N はい。〈応答〉
- 591M TV で流れる CM はたぶん広研では初めて//ですね。〈事実説明〉

インタビュアーの質問が成立しなかった発話

例 (28) は、ゲストUのソフトボールのポジションについての話をしている。インタビュアーCは、ゲストがファーストが好きな理由を 710C で、〈説明要求〉で質問しているが、ゲストは、「ファーストとライトとどちらが好きですか。」という質問だと勘違いし、711U で、応答をしている。しかし、インタビュアーCの求めている応答ではなかったため、712C で、再度質問をしている。このように、実際のインタビューの談話では、インタビュアーの質問とゲストの応答が成立しない場合もある。この場合、どのようにして、得たいと思う情報を得るかが重要なものとなる。例 (28) では、再度の質問という方法により、情報収集を行っている。

(28) (【資料 2-3】)

- 710C で、どうして(?)が好きですか？ファーストとライトと。
〈話を重ねる機能〉+〈説明要求〉
- 711U ファーストの方が。〈評価表明〉
- 712C あ、どうして。〈説明要求〉

例 (29) は、ゲストの応答が出にくい際に、インタビュアーの配慮がなされる発話例である。インタビュアーNが、ゲストMの活動の中で最も印象深かった出来事につ

いて尋ねている。1082Nで、「一番面印象的だったエピソード」を〈説明要求〉で要求し、1089Nから「面白かったこと」「嬉しかったこと」「感動したこと」「きつかったこと」などを列挙して、具体的に言い直す。それに対して、ゲストMは、〈自己注目表示〉で回答の準備をするが、様々なエピソードがあって、なかなか回答を出すことができない。インタビュアーMは、その様子を察し、1100N～1103Nで、さらに、「一番先に思いついたものでいいですよ」と補足する。

(29) (【資料2-2】)

- 1080N その1年間って、すごいやっぱりなんか、自分、M君の中で、〈説明要求〉
- 1081M はい。 〈継続〉
- 1082N これが面白かったっていうようなエピソードというか、〈説明要求〉
- 1083N これは印象に残ってる? 〈説明要求〉
- 1084N 感動したみたいな。 〈説明要求〉
- 1085N この1年間まだ終わっちゃいない。 〈事実説明〉
- 1086N 出品するまで終わっちゃいないんですけど、//これまでも。 〈事実説明〉
- 1087M はい。 〈承認〉
- 1088M ああ。 〈承認〉
- 1089M これが面白かったとか、 〈確認〉
- 1090N 嬉しかったとか、 〈説明要求〉
- 1091N 感動したとか、 〈説明要求〉
- 1092N きつかったとか//でもいいんですけど。 〈説明要求〉
- 1093M ああ。 〈承認〉
- 1094M そうですねー。 〈自己注目表示〉
- 1095M だからー、多分なんすかねー。 〈話を進める〉+〈見解表明〉
- 1096M きつかったていうと、 〈見解表明〉
- 1097M こういろんな面で、サークル運営面とか、//実際に作る時のつらさとか色々あると思うんですけど、 〈見解表明〉
- 1098N うん。 〈継続〉
- 1099N うんうん。 〈承認〉
- 1100N すごくなにか、ぱっと1年間で浮かんだ、 〈説明要求〉
- 1101N 「この1年間。」って言われて、 〈説明要求〉

1102N	<u>ぱっと浮かんでいる//やつとしたら。</u>	〈説明要求〉
1103M	ああ。	〈承認〉
1104N	もう1個1個、個々の作業とか//CM ごとに面白さとか、	〈見解表明〉
1105M	ああ。	〈承認〉
1106N	つらさとかやっぱりそれぞれあると思うんですよ。	〈見解表明〉
1107M	うん。	〈承認〉
1108N	でも、その中で、今ぱっと浮かぶようなものは。	〈話を進める機能〉+〈説明要求〉

以上、本節では、話段の発話機能を小話段ごとに分析した。「活動の背景の話段」、「バックグラウンドの話段」、「今後の活動の話段」、「アドバイスの話段」では、それぞれ参加者別に特徴がある。また、インタビュアーとゲストの発話を検討したところ、インタビュアーの質問には、様々な特徴があることが明らかになった。

さらに、インタビュー取材の談話における、質問者による談話展開の特徴として、「a. 応答確認」、「b. 前置き+質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」を挙げ、情報収集に用いる表現形式を示した。「a. ～c.」はインタビュー番組と共通であるが、その外、インタビュー取材では、バラエティーに富んだ質問の仕方や、特徴のある発話が観察された。最大の特徴は、「e. 応答に対する反応」と「f. 共通の話題」である。取材のインタビュアーは、〈V. 受容〉の〈継続〉や〈承認〉の外、〈共感〉、〈興味〉や〈IV. 提供〉を用いて「e. 応答に対する反応」をしたり、応答者との「f. 共通の話題」を提示するなどして、話題を共有し、会話に積極的に参加していることを明らかにした。

以上のような様々な特徴や表現形式は、日本語教材には提示されていないものもあるため、【資料2】で明らかになったような実際の談話に出現する表現形式も、授業で扱う必要があることを感じる。

5. 2. 2 質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向

5. 2. 2. 1 「Ⅱ. 展開部」における〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と質問の提出順

インタビュー取材におけるインタビュアーの〈Ⅲ. 要求〉系は、〈確認要求〉(387

発話、13.7%¹⁸⁾、〈判定要求〉(236 発話、8.3%)、〈説明要求〉(118 発話、4.2%) の順に多い。一方、インタビュー番組においては、〈確認要求〉(171 発話、22.5%)、〈説明要求〉(38 発話、5.2%)、〈判定要求〉(29 発話、3.8%) の順に多かった。

テレビでは、専門家のゲストが、テーマに関連した事実を視聴者に分かりやすく解説するため、インタビュアーは、ゲストに多くの情報を提供してもらうために、発話数が多くなる〈説明要求〉の発話を用いて質問する。一方、インタビュー取材のインタビュアーは、効率よくゲストから情報収集をすることが目的である。そのため、〈応答〉で答えられるような〈判定要求〉を多く用いて質問すると考えられる。

次に、分析観点2の「質問者の提出順」について考察する。【表 15】に質問形式の3分類の「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」を示した。これは、テーマに関する基本的な情報や簡単な答えを求める質問をする「1. 事実を求める質問」、応答者から意見や感想を求める質問をする「2. 意見を求める質問」、大学の後輩にアドバイスを求める「3. 助言を求める質問」の3種類である。これによると、「Ⅱ. 展開部」において、「1. 事実を求める質問」を前半部にし、後半に「2. 意見を求める質問」、最後に「3. 助言を求める質問」がくる傾向があることが明らかになった。これは、インタビュー番組と同様の結果である。インタビューには、事実で答えられる質問を最初にし、基本的な情報を押さえた上で、ゲストの意見や助言を求める質問を後半で聞くという談話展開の方法があることが明らかとなった。

5. 2. 2. 2 質問領域

【表 19-1】は、【資料 2-3】の〈要求〉1 質問に対する発話の節数を示したもので、インタビュアーCの〈Ⅲ. 要求〉1 質問による発話の広がりを見ることができる。下段には、インタビュアーの〈要求〉1 質問に対する発話数を質問で割った、〈要求〉1 発話に対する平均発話数を示した。

【表 19-2】には、【資料 2-3】の各参加者の〈要求〉1 質問に対する発話数総数と平均発話数を示す。これにより、どの〈要求〉系の発話が、どのくらい応答者の発話を引き出せるのかという平均発話数が分かる。

¹⁸⁾ インタビュアーの発話機能総数 2,824 発話における割合である。

【表19-1】【資料2-3】のインタビュアーの〈要求〉1質問発話に対する平均発話数

話段区分			No.1													
大話段	話段	小話段	共同発話	発話番号	質問番号	参加者	①確認要求	②判定要求	③選択要求	④説明要求	⑤単独行為要求	⑥共同行為要求	⑦言い直し要求			
Ⅱ	1	(2)		7	1	C				1						
				10	2	C	2									
				13	3	C				2						
				28	4	C	1									
				30	5	C		1								
				32	6	C		1								
				34	7	C	4									
				39	8	C		1								
				43	9	C		2								
				47	10	C	1									
				49	11	C		6								
				56	12	C					13					
				74	13	C	6									
				82	14	C	5									
				89	15	C			1							
				91	16	C			1							
				93	17	C						3				
				97	18	C	3									
				101	19	C			2							
				108	20	C						12				
				121	21	C			1							
				123	22	C	15									
				125	23	C						15				
				134	24	C	6									
				141	25	C	3									
				145	26	C	1									
				2	(3)		147	27	C		5					
						153	28	C		0						
						154	29	C		0						
						165	30	C	7							
						173	31	C	1							
						175	32	C					5			
						182	33	C						1		
		184	34			C	1									
		(4)				186	35	C		1						
			188			36	C				8					
			194			37	C		1							
			202			38	C		2							
			209	39	C	9										
			219	40	C	2										
			222	41	C	14										
			237	42	C	1										
			239	43	C		1									
			241	44	C	1										
		(5)		243	45	C		2								
			246	46	C	1										
			249	47	C	1										
			252	48	C	2										
			256	49	C	1										
			258	50	C	1										
			271	51	C					11						
			281	52	C	1										
			285	53	C											
			289	54	C	2										
			293	55	C				9							
			303	56	C	4										
			308	57	C				6							
			327	58	C	1										
		332	59	C	4											
		(6)		337	60	C			21							
			359	61	C			2								
			362	62	C			3								
			366	63	C					11						
			367	64	C											
			379	65	C				6							
			386	66	C	2										
			389	67	C	2										
		(7)		393	68	C										
			394	69	C			33								

話段区分			No.2														
大話段	話段	小話段	共同発話	発話番号	質問番号	参加者	① 確認 要求	② 判定 要求	③ 選択 要求	④ 説明 要求	⑤ 単独 行為 要求	⑥ 共同 行為 要求	⑦ 言い 直し 要求				
Ⅱ				403	70	C	1										
				409	71	C	2										
				428	72	C	8										
				437	73	C	1										
				440	74	C		15									
				458	75	C	2										
				(8)	461	76	C		88								
					473	77	C	1									
					475	78	C	4									
					481	79	C		2								
					484	80	C						2				
					495	81	C	1									
					498	82	C		10								
					499	83	C		2								
					510	84	C		2								
					514	85	C	1									
					520	86	C					1					
					524	87	C	1									
					526	88	C	1									
					535	89	C										
					536	90	C		14								
					(9)	共	552	91	C		3						
				556			92	C		1							
				560			93	C	2								
				563			94	C		1							
				565			95	C	1								
				567			96	C					3				
				573			97	C		3							
				582			98	C		2							
				585			99	C	1								
				587			100	C	8								
				596			101	C	5								
				603			102	C	2								
				606			103	C	2								
				612			104	C		1							
				615			105	C		7							
				623			106	C		2							
				(10)	626	107	C						5				
					630	108	C	1									
					632	109	C	5									
					634	110	C	1									
					(11)	638	111	C		1							
						641	112	C						5			
						647	113	C	0								
						651	114	C		2							
				654		115	C	1									
				656		116	C	1									
				(12)	657	117	C	2									
					659	118	C						3				
					666	119	C	1									
					668	120	C	1									
					671	121	C						14				
					680	122	C		1								
					687	123	C	2									
					689	124	C	1									
					692	125	C		2								
					695	126	C		2								
					697	127	C	1									
					708	128	C	10									
					710	129	C						0				
					712	130	C						25				
					720	131	C	2									
					723	132	C	1									
					726	133	C	2									
730	134	C	7														
733	135	C	1														
735	136	C	2														
739	137	C		6													
747	138	C	1														

話段区分			No.3										
大話段	話段	小話段	共同発話	発話番号	質問番号	参加者	①確認要求	②判定要求	③選択要求	④説明要求	⑤単独行為要求	⑥共同行為要求	⑦言い直し要求
Ⅱ	3	(13)	共 共	749	139	C				5			
				756	140	C		6					
				763	141	C					2		
				767	142	C				25			
				790	143	C	2						
				793	144	C				15			
				802	145	C	1						
				804	146	C	1						
				813	147	C	9						
				820	148	C	2						
				823	149	C		2					
			共	839	150	C		5					
				853	151	C	0						
				875	152	C	0						
				905	153	C	1						
				918	154	C	5						
				926	155	C			12				
				939	156	C	1						
				955	157	C	0						
				961	158	C	4						
				967	159	C	1						
			(16)	969	160	C	1						
				972	161	C	1						
				975	162	C				6			
				987	163	C		1					
				991	164	C	1						
				993	165	C	10						
				1008	166	C	6						
				1016	167	C	1						
				1021	168	C		7					
				1035	169	C	5						
			(17)	1041	170	C		4					
				1046	171	C		6					
				1051	172	C	1						
				1067	173	C	1						
				1069	174	C		2					
				1083	175	C	4						
				1090	176	C	1						
				1100	177	C		1					
				1102	178	C		8					
				1111	179	C	1						
			(19)	1113	180	C	1						
				1115	181	C	1						
				1116	182	C	1						
				1118	183	C		1					
				1120	184	C		2					
				1123	185	C	1						
				1125	186	C				0			
				1126	187	C	1						
				1128	188	C				0			
				1129	189	C				4			
			(20)	1134	190	C		15					
				1141	191	C		1					
				1147	192	C	2						
				1151	193	C				10			
				1154	194	C		7					
				1164	195	C				4			
				1169	196	C	7						
				1177	197	C	2						
				1181	198	C				44			
				1226	199	C	3						
			5	21	1230	200	C	1					
					1232	201	C	11					
					1244	202	C		1				
					1247	203	C	6					
					1254	204	C	4					
					1259	205	C		3				
					1263	206	C	13					
					1273	207	C	1					

話段区分			No.4												
大話段	話段	小話段	共同発話	発話番号	質問番号	参加者	①確認要求	②判定要求	③選択要求	④説明要求	⑤単独行為要求	⑥共同行為要求	⑦言い直し要求		
		22		1275	208	C	1								
				1281	209	C		4							
				1285	210	C	2								
				1291	211	C		1							
				1319	212	C		18							
				1323	213	C		14							
				1339	214	C	1								
				1341	215	C	1								
				1343	216	C	1								
				1354	217	C	2								
				1357	218	C	1								
				1361	219	C	3								
		23		1365	220	C				0					
				1366	221	C		8							
				1375	222	C	1								
				1377	223	C	11								
				24		1392	224	C		2					
						1395	225	C		22					
		1414	226			C		3							
		1434	227			C		2							
		1440	228			C	2								
		1444	229			C	1								
		25		1450	230	C					6				
		26		1458	231	C		2							
				1462	232	C		4							
				1472	233	C		2							
				1476	234	C		2							
				1479	235	C					1				
				1481	236	C	1								
		発話総数							335	431	13	251	10		
		質問数の合計							123	76	2	29	4	0	0
		〈要求〉1発話に対する平均発話数							2.7	5.7	6.5	8.7	2.5	0	0

【表 19－2】【資料 2－3】における参加者別の〈要求〉1 質問に対する発話総数と平均発話数

		① 確認 要求			② 判定 要求			③ 選択 要求			④ 説明 要求			⑤ 単 独 行 為 要 求			⑥ 共 同 行 為 要 求	⑦ 言 い 直 し 要 求	合 計	
合計		a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	a		
	インタビュアー	335	92.5%	30.0%	431	97.1%	38.7%	13	48.1%	1.2%	251	92.3%	22.5%	10	100.0%	0.9%			1040	93.3%
	ゲスト	13	3.6%	1.2%															13	1.2%
	カメラマン	14	3.9%	1.3%	13	2.9%	1.2%	14	51.9%	1.3%	21	7.7%	33.9%						62	5.6%
合計		362	100.0%	32.5%	444	100.0%	39.8%	27	100.0%	2.4%	272	100.0%	24.4%	10	100.0%	0.9%			1115	100.0%
質問数		a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	a		
	インタビュアー	123	89.8%	48.0%	76	95.0%	29.7%	2	66.7%	0.8%	29	90.6%	11.3%	4	100.0%	1.6%	0	0	234	91.4%
	ゲスト	6	4.4%	2.3%															6	2.4%
	カメラマン	8	5.8%	3.1%	4	5.0%	1.6%	1	33.3%	0.4%	3	9.4%	1.2%						17	6.5%
合計		137	100.0%	53.5%	80	100.0%	31.3%	3	100.0%	1.2%	32	100.0%	12.5%	4	100.0%	1.6%	0	0	256	100.0%
平均		a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	a		
	インタビュアー	2.7			5.7			6.5			8.7			2.5			0.0	0.0	26.0	
	ゲスト	2.2			—			—			—			—			—	—	2.2	
	カメラマン	1.8			3.3			14.0			7.0			—			—	—	26.0	
合計		6.6			9.0			20.5			15.7			2.5			0.0	0.0	54.3	

(注)「a」は、〈要求〉の数、「b」は、全参加者の各〈要求〉の合計に対する割合、「c」は、〈要求〉の総数に対する割合である。

インタビュアー C の 1 質問に対する発話数の平均で発話数が多かった順番は、平均 8.7 発話で〈説明要求〉、平均 6.5 発話で〈選択要求〉、平均 5.7 発話で〈判定要求〉、平均 2.7 発話で〈確認要求〉、平均 2.5 発話で〈単独行為要求〉である。〈共同行為要求〉と〈言い直し要求〉はそれぞれ 1 質問であるが、それに対応する発話はない。テレビのインタビュー番組においては、〈説明要求〉、〈単独行為要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉の順番で、その〈要求〉に対する発話が多かった。テレビのインタビュー番組においては、〈選択要求〉が、インタビュー取材においては、〈単独行為要求〉が 1 質問しかなかったことを考慮し、2 つの〈要求〉を除外して結果を見ると、〈説明要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉の順番で、発話数が多くなることは、テレビのインタビュー番組の談話、インタビュー取材の談話で共通した結果となる。従って、インタビュアーの〈要求〉は、〈説明要求〉を用いると、最も話が広がり、次いで、〈判定要求〉、〈確認要求〉という順番になることが言える。

インタビュアーの 1 質問に対する話の広がりを詳細に明らかにするために、度数分布を【表 19－3】に示す。

【表 19－3】【資料 2－3】のインタビュアーの〈要求〉 1 質問に及ぶ範囲の発話数

Q+□	① 確認要求			② 判定要求			③ 選択要求			④ 説明要求			⑤ 単独行為要求			⑥ 共同行為要求	⑦ 言い直し要求	合計	
0	4	3.3%	1.7%	2	2.7%	0.9%				4	13.8%	1.7%	2	50.0%	0.9%			12	5.2%
1	61	50.0%	26.3%	20	26.7%	8.6%	1	50.0%		1	3.4%	0.4%						83	35.8%
2	23	18.9%	9.9%	21	28.0%	9.1%				2	6.9%	0.9%	1	25.0%	0.4%			47	20.3%
3	4	3.3%	1.7%	5	6.7%	2.2%				3	10.3%	1.3%						12	5.3%
4	7	5.7%	3.0%	3	4.0%	1.3%				2	6.9%	0.9%						12	5.3%
5	5	4.1%	2.2%	2	2.7%	0.9%				4	13.8%	1.7%						11	4.9%
6	4	3.3%	1.7%	6	8.0%	2.6%				1	3.4%	0.4%	1	25.0%	0.4%			12	5.4%
7	3	2.5%	1.3%	3	4.0%	1.3%												6	2.6%
8	2	1.6%	0.9%	2	2.7%	0.9%				1	3.4%	0.4%						5	2.2%
9	2	1.6%	0.9%	1	1.3%	0.4%												3	1.3%
10	2	1.6%	0.9%	1	1.3%	0.4%				1	3.4%	0.4%						4	1.8%
11	2	1.6%	0.9%							2	6.9%	0.9%						4	1.8%
12							1	50.0%		1	3.4%	0.4%						2	0.9%
13	1	0.8%	0.4%							1	3.4%	0.4%						2	0.9%
14	1	0.8%	0.4%	2	2.7%	0.9%				1	3.4%	0.4%						4	1.8%
15	1	0.8%	0.4%	2	2.7%	0.9%				2	6.9%	0.9%						5	2.2%
16																			
17																			
18				1	1.3%	0.4%												1	0.4%
19																			
20																			
21				1	1.3%	0.4%												1	0.4%
22				1	1.3%	0.4%												1	0.4%
23																			
24																			
25										2	6.9%	0.9%						2	0.9%
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
31																			
32																			
33				1	1.3%	0.4%												1	0.4%
34																			
35																			
36																			
37																			
38																			
39																			
40																			
44										1	3.4%	0.4%						1	0.4%
81				1	1.3%	0.4%												1	0.4%
合計	122	100.0%	52.6%	75	100.0%	32.3%	2	100.0%	0.9%	29	100.0%	12.5%	4	100.0%	1.7%			232	100.0%

【表 19－3】のインタビュアーCの1質問に対応する発話数に注目すると、〈確認要求〉で最も多かったのは、「Q＋1」で、61 節あった。次いで、「Q＋2」で 23 節である。この結果は、テレビのインタビュー番組と同じ結果であり、発話数が少ない〈確

認要求〉は、ゲストの応答を確認する〈確認要求〉である。しかし、テレビのインタビュー番組では、「Q+10」発話以上の発話や、「Q+20」発話以上が見られ、〈確認要求〉は、発話が多かったものと少なかったものの差が大きく生じる結果であるのに対し、インタビュー取材においては、「Q+15」までしかみられなかった。テレビのインタビュー番組は、VTR 確認での始めの〈確認要求〉は、インタビューの話題導入の役割をしているため、発話が大きく広がる〈確認要求〉を用いているのである。しかし、インタビュー取材は、このような例はあまり見られなかった。

〈判定要求〉については、「Q+1」から「Q+2」が20例以上で他より大差を付けて最も多いという結果になった。これは、テレビのインタビュー番組の結果と異なるものである。しかし、中には「Q+33」や「Q+81」という発話もあり、テレビ番組と同様、〈応答〉＋〈事実説明〉という例である。番組の場合、インタビュアーの「～ですか。」という質問に対して、「はい」や「いいえ」というゲストの回答だけでは番組が成り立たないため、専門家のゲストが、〈応答〉＋〈事実説明〉により、視聴者に情報提供していることが考えられる。しかし、取材の場合は、視聴者や番組を意識しない分、自然なやりとりがなされているため、「はい」「いいえ」の1発話で回答しても特に支障はないため、このような結果になったことが考えられる。

〈説明要求〉については、「Q+0」から「Q+14」まで満遍なく分布しており、最高は、「Q+44」である。テレビのインタビュー番組では、「Q+10」以上「Q+30」未満の発話にも分布しているが、インタビュー取材には、ほとんどみられない。これも、〈判定要求〉での考察と同様、テレビ番組と自然談話という談話の種類が関係していると考ええる。

インタビュー取材において、出現した〈要求〉を度数分布表で見ると、「Q+0」という例が12例あった。テレビのインタビュー取材においては、1例のみであり、これは、インタビュー取材の談話の特徴であるといえる。例(30)は、その例である。

(30) 【資料2-3】

147C 今のWの練習内容とは異なるところはございますか？

148U Wはもう初心者から//、あの一、ずっとやってきた子までいて、

149C うん。

150U 幅広いので、

151C ああ。

- 152U 練習するのが難しくて、
- 153C そうなんですか？
- 154C 初心者の方もいらっしゃるんですか。
- 155U もうほんと最近、去年はインカレ出るのが目標で、
- 156C うん。
- 157U で、結局1回戦で、コールド負けだったんですけれども、
- 158U 今年は、最初からインカレ優勝するっていうふうについて、
- 159U 去年まで、あまり練習も少なかったんですけど、
- 160U 今年から多くして
- 161C ああ。
- 162U やるようになって、
- 163C うん。

インタビュアーCは、153Cの〈判定要求〉でゲストの回答を収集せずに、次の〈要求〉に移っている。このような談話は、日常談話で起こり得ることが多いであろう。テレビのインタビュー番組においては、撮影以前にある程度インタビュアーとゲストの間で打ち合わせが行われており、このような例が少ないと予想する。

以上、インタビュー取材【資料2-3】を例に、インタビュアーの〈要求〉について分析した。テレビのインタビュー番組のインタビュアーと共通の結果となったのは、〈要求〉1発話に及ぶ範囲の発話数の数が〈説明要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉の順番で多いということである。2種の談話における結果であるため、〈説明要求〉の表現を用いた質問は、応答者から多くの情報を収集できるということになる。

取材の談話の特徴は、番組と異なり、話題導入の役割の発話が大きく広がる〈確認要求〉の例が見られなかったことである。また、〈判定要求〉については、「Q+1」と「Q+2」という1、2発話での応答が多いことも特徴として挙げられる。〈判定要求〉の共通した結果は、「Q+33」や「Q+81」という〈要求〉の1発話が大きな範囲で及ぶ例が見られたことであり、それは、番組と同様、ゲストが〈応答〉+〈事実説明〉で応答しているためである。

以上、大学の広報紙のインタビュー取材を分析対象に、(1)情報収集の談話構造、(2)

情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式の3点の分析観点で分析した結果、以下のことが明らかとなった。

(1) 談話構造については、「Ⅰ．開始部」、「Ⅱ．展開部」、「Ⅲ．終了部」の3種の大話段が、「Ⅱ．展開部」には、「活動の背景の話段」、「バックグラウンドの話段」、「今後の活動の話段」、「アドバイスの話段」の4種の話段が認定された。自然談話であるインタビュー取材の談話の話段は、資料により、話段の数や順番が異なり、同じ種類の話段が複数回出現していることから、複雑な構造であることがいえる。

(2) 質問の提出順については、質問形式の3分類の結果、「Ⅱ．展開部」において、「事実を求める質問」を前半部にし、後半に「意見を求める質問」、最後に「助言を求める質問」がくる傾向があることが明らかになった。これは、インタビュー番組と同様の結果である。

(3) 表現形式について、インタビュアーは、〈Ⅲ．要求〉の〈確認要求〉、〈判定要求〉、〈選択要求〉、〈説明要求〉、〈単独行為要求〉を使い分けてゲストから情報収集をするが、その中でも主に、〈確認要求〉(387 発話、13.7%)、〈判定要求〉(236 発話、8.3%)、〈説明要求〉(118 発話、4.2%)を用いて情報収集をしている。番組は、多くの情報を要求する〈説明要求〉を、取材は「はい/いいえ」で答えられる〈判定要求〉を用いて、効率よく情報収集をしていると考えられる。

また、インタビュアーは、情報収集のために、「a. 応答確認」、「b. 前置き+質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」をしていた。【資料2】は自然談話であるため、【資料1】よりもインタビュアーの様々な方略が明らかとなった。

このように、インタビュー番組とインタビュー取材では、共通した結果と、異なる結果が明らかになった。それぞれの談話において、〈要求〉表現の使われ方が異なる結果となったのは、談話の種類や、参加者の目的が関係しているに違いない。本研究の分析結果を日本語教育に応用する際には、番組と取材のどちらのインタビュアーの談話を提示するかによって、質問者の〈Ⅲ．要求〉表現の提示の仕方を変える必要があると考える。

第6章 学部大学生と留学生による就職活動の相談における 談話の展開方法

6. 1 談話資料の収集方法と調査手順

日本語の母語場面と日韓の接触場面における学部大学生と留学生による就職活動の相談の談話¹⁹の参加者は、質問者の日本企業への就職活動中の主に3年生と、就職活動をしてすでに日本企業の内定を得た4年生である。

就活相談の談話資料を収集する目的は、以下の3点である。

第1に、大学生の就活の一環としての情報収集の機会が多いということにある。大学で日本語を学ぶ留学生の進路として、就職や進学が挙げられるが、最近、日本国内で日本企業への就職を希望する日本語学習者が増加する傾向にあるという。海外の大学においても、大学で学んだ日本語を活かすべく、現地の日系企業の就職を目指す学習者も多い。その際、必要になるのが、業界研究や企業研究のための情報収集である。企業説明会の会場で担当者に質問して必要な情報を収集し、OB・OG訪問で、卒業生から志望企業の様子を聞く機会もあることだろう。さらには、面接場面において、人事担当者から質問を求められることもある。

第2に、日常生活で起こり得る場面であり、日本語の会話教育に応用できることにある。日本語学習者が情報収集をする場面は、**課題1**の【資料1】のインタビュー番組や【資料2】のインタビュー取材のような目的よりも、身近な人に何かを相談するために情報収集をすることのほうが、より現実的で、実際に起こり得る自然な場面である。特に、大学生にとっての就活とは、将来にとっての重要な活動であり、悩みを抱える学習者も多い。実際に、大学の就職課やキャリアセンター等で大学職員からサポートを受けたり、就活を終えた先輩に助言を受けたりと、就活についての悩みを相談する機会も多い。それで、談話の参加者の動機も高く、より自然な談話を収集できるのではないかと考えられる。

第3に、企業業務において「質問する」という言語行為が必要不可欠だということにある。晴れて企業の内定を得て、社会人となった際に、日本語学習者は、より高度な口頭表現能力が必要とされる。社内の上司や同僚以外にも、取引先の担当者とのや

¹⁹ 以下、「就活相談の談話」と称する。

りとりをする中で、相手に配慮して情報収集をする機会もあるだろう。そのため、本調査の結果は、アカデミックな日本語だけでなく、社会人として必要なコミュニケーション・スキルの学習にも役に立つのではないかと考えられる。

以上の3点を目的として就職相談の談話を収集した。調査協力者を募集する際は、質問者は、就職活動中で、先輩の就職活動の経験を知りたい大学生であり、応答者は、就職先が内定し、就職活動の経験を後輩に助言できる大学生という条件で協力者を募集した。協力者の募集にあたり、日本語学習者の質問者については、A大学で行われている就職関連の日本語クラスを履修している学部留学生を、応答者については大学内のキャリアセンターやキャリアサポートを行っている機関で参加者を募った。調査対象とした首都圏の私立A大学では、実際に、学生サポーターの就職活動経験者や留学経験者が担当時間内にボランティアとして後輩に情報提供をするという相談機会が設けられている。

【表2-4】就活相談の談話資料（再掲）

資料 番号	就職活動経験者の大学生 (応答者)			就職活動中の大学生 (質問者)			
【3-1】	応答者 F	4年 (食品メーカー内定)	男性	NS1	質問者 K	3年	男性
【3-2】				NS2	質問者 O	3年	男性
【3-3】				NS3	質問者 T	3年	女性
【3-4】				NS4	質問者 K	3年	女性
【3-5】	応答者 N	4年 (総合商社内定)	男性	NS5	質問者 Y	3年	男性
【3-6】				NS6	質問者 I	3年	男性
【3-7】				NS7	質問者 S	3年	女性
【3-8】				NS8	質問者 H	3年	女性
【3-9】	応答者 F	4年 (食品メーカー内定)	男性	NNS1	質問者 K	3年	男性
【3-10】				NNS2	質問者 H	3年	男性
【3-11】				NNS3	質問者 B	4年	女性
【3-12】				NNS4	質問者 S	3年	女性
【3-13】	応答者 N	4年 (総合商社内定)	男性	NNS5	質問者 U	3年	男性
【3-14】				NNS6	質問者 C	3年	男性
【3-15】				NNS7	質問者 M	3年	女性
【3-16】				NNS8	質問者 J	1年	女性

談話資料は、母語場面と接触場面別に設定したため、応答者としての日本語母語話者2名（男性2名）、質問者としての日本語母語話者8名（男女各4名）と日本で就職活動をしている韓国人上級日本語学習者8名（男女各4名）に協力依頼をした。会話

は1対1形式の初対面のペアで、応答者には質問者の氏名を、質問者には応答者の氏名、学部、学年、内定した業種について事前に知らせておく。質問者には1回、応答者には全8回会話をしてもらう。談話は以下の【資料3-1】～【資料3-8】の母語場面の全8資料と【資料3-9】～【資料3-16】の接触場面の全8資料からなる全16資料である。

本研究では、質問者の役割に焦点を当てるために、資料の応答者を2名とし、各自8名の質問者と会話をしてもらった。

調査は、2012年12月22日に実施し、質問者の16名には、「15分でできる質問を順番に箇条書きにして、メモを用意する」よう指示した。就活の話を聞くという目的や動機があったとしても、何も準備せずに会話をするのが、困難だろうと考えたことによるものである。調査当日は、「メモ通りではなく、臨機応変に対応しても構わない」という指示をした。不自然さを避けるために、応答者には質問者の質問内容は伝えられていない。

以下は、質問者への調査指示と応答者への調査指示内容である。

質問者への調査指示

調査指示

【調査日前】

次の a. ～f. から 3 つ以上選んで、15 分間でできる質問を順番に簡条書きにし、メモを用意してください。それを当日（12/22）、出してください。また、同じ質問を **12/19(水)** までにメールで送ってください。

例) ① C、活動を始めたのはいつか。（順番、選択したアルファベット、質問内容）

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| a. 後輩へ一言・アドバイス | b. 活動で苦勞した点 | c. 活動を始めた時期 |
| d. 活動の方法・流れ | e. 活動で努力・工夫した点 | f. その他（自由） |

【調査日①】

1. メモをもとに、就活経験者と 15 分間で話をしてください。
2. その後、聞いて分かったことをシートにまとめてください。
3. アンケート

【調査日②】

録画を見ながら、調査者（小林）がフォローアップインタビューをします。

【会話】

- ・シートにまとめてもらうので、話をよく聞いてください。
- ・メモ通りでなく、臨機応変に対応しても構いません。
- ・会話中に答えを簡単にメモしても構いません。
- ・録画と録音をしますが、匿名にし、個人情報の取り扱いには注意します。
- ・デリケートなこと、記録されたくないことは避けてください。

【終了時】

- ・15 分間でタイマーが鳴ります。
- ・唐突に会話を止めず、その時話していたことを終わりまで話してから会話を終わってください。

応答者への調査指示

調査指示

【調査日①】

1. 次の a. ～f. (3つ以上) について、質問されますので 15 分間話してください。

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| a. 後輩へ一言・アドバイス | b. 活動で苦労した点 | c. 活動を始めた時期 |
| d. 活動の方法・流れ | e. 活動で努力・工夫した点 | f. その他（自由） |

2. その後、チェックリストを記入してください。

3. アンケート

【調査日②】

録画を見ながら、調査者（小林）がフォローアップインタビューをします。

各質問者には、会話終了後、聞いて分かったことをワークシートにまとめてもらった。これは、相談の目的を強化することで、その場限りの相談になることを防ぐためである。調査結果を教育現場に応用するため、このような活動と同様の設定をした。次頁のワークシートには、「②得た情報に満足しましたか。」という設問を設けて、5段階で評価してもらった。これにより、質問者が応答者の情報をどの程度、理解し、満足したかを把握することができるのではないかと考えた。

質問者のアンケートは、1. 就活で経験したことや活動時期を問う「A. 就職活動について」、2. 相談やインタビューの経験、インタビューの仕方を学んだ経験を問う「B. 情報収集の経験について」、3. 質問のメモ作成時に、会話中に気をつけた点、感想、難しいと思った点を問う「C. 調査について」の3構成となっている。尚、NNSの場合は日本語学習歴を問う「フェイスシート」に記入してもらった。

応答者のアンケートは、1. 今回の調査のように情報収集のために誰かに話をしたことがあるかについてや、OB・OG訪問の経験の有無を問う「A. 情報収集の経験について」、2. 会話中に気をつけた点、難しいと思った点を問う「B. 調査について」という2構成となっている。

質問者に課したワークシート

氏名 _____

①話した順番に、メモに記入した質問番号とa～fを書いてください。

a. 後輩へ一言・アドバイス	b. 活動で苦勞した点	c. 活動を始めた時期
d. 活動の方法・流れ	e. 活動で努力・工夫した点	f. その他

②得た情報に満足しましたか。1～5を書いてください。

「1. 全く満足していない」「2. あまり満足していない」「3. どちらともいえない」
 「4. やや満足している」「5. とても満足している」

③分かったことを簡単に書いてください。

※メモにない質問は①質問内容とa～f、②、③を記入してください。

①質問番号 a～f.	②	③分かったこと
例 2、c.	4	3年生8月に開始。8月自己分析、9月企業研究。

また、応答者には、会話後に以下のチェックリストに記入してもらい、質問者全員の評価を5段階でもらった。チェックリストの設問は、「質問」「聞き手」「進行」の3構成になっており、全11項目が設けられている。

応答者に課したチェックリスト

相手の名前			5段階評価	理由
質問	1	答えやすい質問内容だった。	5・4・3・2・1	
	2	答えやすい質問の順番であった。	5・4・3・2・1	
	3	1問1答でなく、質問を重ねて深く掘り下げることができた。	5・4・3・2・1	
	4	相手が答えに困った場合、言い直しや例の提示など補助ができた。(なかった場合は未記入)	5・4・3・2・1	
聞き手	5	あいづちを十分に使用できた。	5・4・3・2・1	
	6	答えに対して、理解表示や理解確認ができた。	5・4・3・2・1	
	7	答えに対して、感想や評価表明ができた。	5・4・3・2・1	
進行	8	挨拶などをして会話を始めることができた。	5・4・3・2・1	
	9	挨拶などをして会話を終えることができた。	5・4・3・2・1	
	10	全体的な進行ができた。	5・4・3・2・1	
	11	次の話題(質問)への転換がスムーズであった。	5・4・3・2・1	

①十分に情報を提供できましたか。1～5を書いてください。_____

②やりとりはどうでしたか。

5.全然難しくなかった 4.あまり難しくなかった 3. ふつう 2. 少し難しかった 1. とても難しかった

③「2」「1」→どんなところが難しいと思いましたか。

以上の手順で調査を実施し、【資料3】就活相談の談話を収集した。そして、この調査資料から、日本語母語話者²⁰と韓国人日本語学習者²¹の質問者は、限られた時間内にどのように情報収集を行うのかを分析し、**課題2**の「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の情報収集の談話の展開方法にはどのような特徴があるのか。」を明らかにすることにした。

6. 2 就職活動の相談における談話構造

就活相談における談話の展開方法を明らかにするために、(1) 情報収集の談話構造、

²⁰ 以下、NSと称す。

²¹ 以下、NNSと称す。

(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式という3種の分析観点で分析をする。

本節では、分析観点(1)の「談話構造」について論じる。

6. 2. 1 発話数

【表20-1】に、母語場面の【資料3-1】～【資料3-8】の全8資料の参加者別の発話数を示した。【表20-2】には、日韓の接触場面の【資料3-9】～【資料3-16】の全8資料の参加者別の発話数を示した。

【表20-1】母語場面の就活相談の談話における参加者別発話数

資料番号	質問者 (母語話者)		応答者 (日本語母語話者)		合計	各資料別発話総 数に対する割合 ²²
【資料3-1】	質問者K NS1(男)	236 (45.6%)	応答者F	282 (54.4%)	518 (100.0%)	25.1%
【資料3-2】	質問者O NS2(男)	268 (54.1%)		227 (45.9%)	495 (100.0%)	13.5%
【資料3-3】	質問者T NS3(女)	287 (54.2%)		243 (45.8%)	530 (100.0%)	24.0%
【資料3-4】	質問者K NS4(女)	283 (54.2%)		239 (45.8%)	522 (100.0%)	12.9%
【資料3-1】～ 【資料3-4】	4名	1074 (52.0%)		991 (48.0%)	2065 (100.0%)	25.7%
【資料3-5】	質問者Y NS5(男)	168 (42.4%)	応答者N	228 (57.6%)	396 (100.0%)	100.0%
【資料3-6】	質問者I NS6(男)	198 (38.4%)		318 (61.6%)	516 (100.0%)	53.7%
【資料3-7】	質問者S NS7(女)	127 (35.4%)		232 (64.6%)	359 (100.0%)	22.2%
【資料3-8】	質問者H NS8(女)	250 (49.1%)		259 (50.9%)	509 (100.0%)	10.3%
【資料3-5】～ 【資料3-8】	4名	743 (41.7%)		1037 (58.3%)	1780 (100.0%)	29.0%
計	8名	1817	2名	2028	3845	13.4%
参加者別発話総 数に対する割合		47.3%		52.7%	100.0%	46.3%

²² 上段に【資料3-1】～【資料3-4】の計4資料、【資料3-5】～【資料3-8】の計4資料の発話総数に対する割合を、下段に【資料3-1】～【資料3-8】の計8資料に対する割合を示す。

【表 20-2】接触場面の就活相談の談話における参加者別発話数

資料番号	質問者 (韓国人日本語学習者)		応答者 (日本語母語話者)		合計	各資料別発話総 数に対する割合 ²³
【資料 3-9】	質問者 K NNS1 (男)	223 (51.1%)	応答者 F	218 (49.4%)	441 (100%)	25.6%
【資料 3-10】	質問者 H NNS2 (男)	128 (36.3%)		225 (63.7%)	353 (100.0%)	13.1%
【資料 3-11】	質問者 B NNS3 (女)	200 (46.4%)		231 (53.6%)	431 (100.0%)	20.5%
【資料 3-12】	質問者 S NNS4 (女)	276 (55.2%)		224 (44.8%)	500 (100.0%)	10.5%
【資料 3-9】～ 【資料 3-12】	4名	827 (48.0%)		898 (52.0%)	1725 (100.0%)	25.0%
【資料 3-13】	質問者 U NNS5(男)	209 (44.1%)	応答者 N	265 (55.9%)	474 (100.0%)	12.9%
【資料 3-14】	質問者 C NNS6(男)	157 (45.4%)		189 (54.6%)	346 (100.0%)	29.0%
【資料 3-15】	質問者 M NNS7(女)	300 (54.9%)		246 (45.1%)	546 (100.0%)	14.9%
【資料 3-16】	質問者 I NNS8(女)	186 (42.3%)		254 (57.7%)	440 (100.0%)	100.0%
【資料 3-13】～ 【資料 3-16】	4名	852 (47.2%)		952 (52.8%)	1806 (100.0%)	51.5%
計	8名	1678	2名	1853	3351	
参加者別発話総 数に対する割合		47.5%		52.5%	100.0%	

就活相談の談話の母語場面と日韓の接触場面の発話数を分析すると、母語場面では総発話数 3,845 発話のうち、質問者が 1,817 発話で 47.3%、応答者が 2,028 発話で 52.7%である。接触場面では、総発話数 3,351 発話のうち、質問者が 1,678 発話で 47.2%、応答者が 1,853 発話であり、母語場面と接触場面の発話数は同等であり、違いはない。

これを応答者別に見ると、応答者 F の母語場面の【資料 3-1】～【資料 3-4】では、総発話数 2,065 発話のうち、質問者の方が 1,074 発話で 52.0%、応答者が 991 発話で 48.0%で、質問者がやや多い。一方、接触場面の【資料 3-9】～【資料 3-12】では、総発話数 1,725 発話のうち、質問者が 827 発話で 48.0%、応答者が 898 発話、52.0%で、

²³ 上段に【資料 3-9】～【資料 3-12】の計 4 資料、【資料 3-13】～【資料 3-16】の計 4 資料の発話総数に対する割合を、下段に【資料 3-9】～【資料 3-16】の計 8 資料に対する割合を示す。

応答者の方がやや多い。応答者Nの母語場面【資料3-5】～【資料3-8】では、総発話数1,780発話のうち、質問者が743発話で41.7%、応答者が1037発話で58.3%で応答者の方がやや多い。接触場面の【資料3-13】～【資料3-16】では、総発話数1,806発話のうち、質問者が852発話で47.2%、応答者が952発話で52.8%で、母語場面と同様に応答者が多い。

以上の点から、応答者Fとのペアと応答者Nとのペアには、発話総数や応答者と質問者の発話数に違いがあることが分かる。応答者Fの接触場面、応答者Nの母語場面、接触場面は、情報収集の談話における質問者と応答者の役割があり、情報提供をする応答者の方が発話数が多い。しかし、応答者Fの母語場面は、質問者の方が発話数がやや多く、母語話者の質問者は会話に積極的に参加している。

一方、応答者Nは応答者Fに比べて発話数が多く、1つの質問に関して、長く応答をするタイプの応答者だといえる。応答者Nの発話内容を分析すると、就職活動で悩んでいる質問者に、「どんな業界に興味があるのか」など、応答者が質問をして、就職活動に関して具体的に情報提供をしている資料が複数あり、これも応答者Nの発話数が多い理由だと考えられる。

以上のように、応答者のタイプによって、質問者の発話の仕方が異なるということがいえる。

資料別に見ると、母語場面も接触場面も各8資料のうち3資料で質問者の発話数が多く、これは、主に応答者Fのペアである。その他は、逆に応答者の発話数が多いが、中で、母語場面の【資料3-6】と【資料3-7】、接触場面の【資料3-10】の応答者の発話数は質問者の約2倍ある。

6. 2. 2 談話構造

就活相談の談話は、「大話段」と「話段」の2次元に分けることができる。「大話段」は、「Ⅰ. 開始部」「Ⅱ. 展開部」「Ⅲ. 終了部」の3種に分けられる。「Ⅰ. 開始部」では、質問者と応答者が挨拶し、「Ⅱ. 展開部」で相談を展開する。最後に、「Ⅲ. 終了部」で終了の挨拶をして談話が終了する。以下、「Ⅰ. 開始部」と「Ⅲ. 終了部」の発話例を示す。例(1)、例(2)は【資料3-4】の応答者Fと質問者Kの例である。

(1) (「【資料 3-4】母語場面「Ⅰ．開始部」質問者K、応答者F)

- 1 K よろしくお願ひします。
- 2 F よろしくお願ひします。
- 3 F Fです。
- 4 K あ、よろしくお願ひします。
- 5 K Kと申します。
- 6 F よろしくお願ひしまーす。
- 7 K お願ひしまーす。
- 8 F 何でも聞いてください。
- 9 K {笑い} ありがとうございます。

(2) (「【資料 3-4】母語場面「Ⅲ．終了部」質問者K、応答者F)

- 524 F じゃ、そろそろ時間//なので。
- 525 K はい、ありがとう//ございました。
- 526 F ありがとう//ございました。
- 527 K 参考になりました。
- 528 F ぜひ頑張ってください。
- 529 K はい、ありがとうございます---
- 530 F 体調に気をつけて//頑張ってください。
- 531 K ありがとうございます。

次に、「話段」について述べる。本研究では、相談の本題となる「Ⅱ．展開部」を主な分析対象とする。「話段」は、発話機能の組み合わせと質問の内容から区分し、「Ⅱ．展開部」の「話題」は内容でタイトルを付した。「質問の提出順」を明らかにするために、【表 21】の右の欄に、質問形式の3分類の「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」²⁴を示した。「1. 事実を求める質問」とは、エントリーした企業の数やOB・OG訪問の有無を問う質問で、主に〈事実説明〉の発話で応答する質問である。「2. 意見を求める質問」とは、落ち込んだ時の対処法や就活中に大事

²⁴ 【資料 3-1】にのみ「確認」が認められた。

にしていたことなど、〈見解表明〉や〈評価表明〉の発話で応答する応答者の意見や感想を問う質問のことである。「3. 助言を求める質問」とは、「2. 意見を求める質問」より、もう1歩踏み込んだ質問内容の自分への助言であり、質問者自身の就活の段階を〈情報提供〉して、どうすればいいのかという具体的なアドバイスを求めるものである。例えば、「面接のコツ」や「筆記試験のアドバイス」等が挙げられる。

以下、【表 21-1】～【表 21-16】に、全 16 資料の談話構造を示す。「3. 助言を求める質問」には囲み線を入れた。

【表 21-1】【資料 3-1】の談話構造

大話段	話段		
I. 開始部	1K-8K(8)	1. 開始の挨拶	
II. 展開部	9K-33F(25)	1. セミナーの回数	1. 事実を求める質問
	34K-82(49)	2. OB 訪問	1. 事実を求める質問
	83K-87F(5)	3. 会話の流れの確認	確認
	88K-146F(59)	4. 就活のコツ	3. 助言を求める質問
	147K-223K(77)	5. 会社選びの仕方	1. 事実を求める質問
	224K-301(78)	6. K の自己 PR の仕方	3. 助言を求める質問
	302K-306K(5)	7. 時間の確認	確認
	307K-338K(32)	8. リクルーターの付き方	1. 事実を求める質問
	339K-451K(113)	9. 就活で悩んだこと	2. 意見を求める質問
	452K-485K(34)	10. 面接の流れ	1. 事実を求める質問
	486F-517K(32)	11. 自分(F)が内定した理由	2. 意見を求める質問
III. 終了部	518F-521K(4)	1. 終了の挨拶	

(注) 「K」=質問者 NS1、「F」=応答者

【表 21-2】【資料 3-2】の談話構造²⁵

大話段	話段		
I. 開始部	1O-8O(8)	1. 開始の挨拶	
II. 展開部	9O-72O(64)	1. 就活中に頑張ったところとテクニック	2. 意見を求める質問
	73O-111(39)	2. 就活中で最も苦労したことと乗り切り方	2. 意見を求める質問
	112O-237O(126)	3. ES を書くときのテクニック	3. 助言を求める質問
	238O-295O(58)	4. 企業研究で調べたこと	1. 事実を求める質問
	296O-401O(106)	5. グループディスカッションの方法	1. 事実を求める質問
	402O-444F(43)	6. 面接での対処法	1. 事実を求める質問
	445O-491F(53)	7. 就活を通しての軸	2. 意見を求める質問
III. 終了部	492F-501F(10)	1. 終了の挨拶	

(注) 「O」=質問者 NS2、「F」=応答者

²⁵ 発話者が未記入の部分は沈黙を表す。

【表 21-3】【資料 3-3】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1T-10F(10)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	11F-20F(10)	1. F の内定先の業界と T の志望業界	話題提示
	21T-97T(77)	2. 食品にした理由	1.事実を求める質問
	98T-139T(42)	3. ES の対策	3.助言を求める質問
	140T-191(52)	4. エントリーした会社	1.事実を求める質問
	192T-239(48)	5. OB 訪問	1.事実を求める質問
	240T-297(58)	6. 商社の就活	1.事実を求める質問
	298T-394(97)	7. 面接の対策	3.助言を求める質問
	395T-407(13)	8. 食品以外のメーカー	1.事実を求める質問
	408T-462(55)	9. 長期的なビジョン	2.意見を求める質問
	463T-467F(5)	10. 〈応答者の単独行為要求〉	
	468T-530(63)	11. 就活中に悩んだことと対処法	3.助言を求める質問
III.終了部	531F-544F(1)	1. 終了の挨拶	

(注) 「T」＝質問者 NS3、「F」＝応答者

【表 21-4】【資料 3-4】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1K-9K(8)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	10K-26F(30)	1. 内定先	1.事実を求める質問
	27K-105F(79)	2. 落ち込んだ時の対処法	2.意見を求める質問
	106K-202K(97)	3. 企業を選ぶときの軸	1.事実を求める質問
	203K-272K(70)	4. エントリーの数、時期	1.事実を求める質問
	272K-362(91)	5. OB・OG 訪問	1.事実を求める質問
	363K-385(23)	6. テスト勉強の有無	1.事実を求める質問
	386K-453F(68)	7. 活動を通してのよかったところと反省点	3.助言を求める質問
	454K-518K(65)	8. 情報収集の方法	2.意見を求める質問
III.終了部	519F-526K(8)	1. 終了の挨拶	

(注) 「K」＝質問者 NS4、「F」＝応答者

【表 21－5】【資料 3-5】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1Y-8(8)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	9Y-20F(12)	1. 企業を決めた理由	1. 事実を求める質問
	21Y-46(26)	2. 就活で意識していたこと	1. 事実を求める質問
	47Y-63(17)	3. 年末年始にしたこと	1. 事実を求める質問
	64Y-76(13)	4. 就活で大変だったこと	2. 意見を求める質問
	77Y-114(38)	5. 内定先での目標	2. 意見を求める質問
	115Y-182(68)	6. 就活中に会った印象的な人、エピソード	1. 事実を求める質問
	183Y-404(222)	7. 就活を通してのアドバイス	3. 助言を求める質問
III.終了部	405Y-410Y(6)	1. 終了の挨拶	

(注) 「Y」＝質問者 NS5、「N」＝応答者

【表 21－6】【資料 3-6】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1I-8N(8)	1. 開始の挨拶	
	9I-19N(11)	2. 共通の知人	
II.展開部	20I-307(288)	1. 企業を選んだ基準	1. 事実を求める質問
	308I-388(81)	2. 就活で大変だったこと	2. 意見を求める質問
	389I-510(122)	3. 就活前と今とで変わったこと	2. 意見を求める質問
III.終了部	511I-526I(16)	1. 終了の挨拶	

(注) 「I」＝質問者 NS6、「N」＝応答者

【表 21－7】【資料 3-7】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1S-8(8)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	9S-57S(49)	1. 企業、業界を選んだ理由	1. 事実を求める質問
	58S-143S(86)	2. 就活で苦労した点	2. 意見を求める質問
	144S-205N(62)	3. 就活で工夫した点	2. 意見を求める質問
	206S-263(58)	4. 実際の面接の流れ	1. 事実を求める質問
	264S-298(35)	5. 就活で面接を受けた会社	1. 事実を求める質問
	299S-313(15)	6. 〈フィラー＋応答者からの単独行為要求〉	
	314S-349S(36)	7. 就活が不安	3. 助言を求める質問
	350N-370S(21)	8. アドバイス	3. 助言を求める質問
III.終了部	371N-373N(3)	1. 終了の挨拶	

(注) 「S」＝質問者 NS7、「F」＝応答者

【表 21－8】【資料 3-8】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1N-5H(5) 6H-26N(21)	1. 開始の挨拶 2. 共通の知人	
II.展開部	27H-199H(173) 200H-328H(129) 329H-393H(65) 394H-477N(84) 478H-521N(444)	1. 志望した業界、企業 2. 就活の流れと対策 3. 就活で工夫した点 4. 就活で苦労した点 5. メッセージ(アドバイス)	1. 事実を求める質問 2. 意見を求める質問 2. 意見を求める質問 2. 意見を求める質問 3. 助言を求める質問
III.終了部	522H-525H(4)	1. 終了の挨拶	

(注) 「H」＝質問者 NS8、「N」＝応答者

【表 21－9】【資料 3-9】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1F-8K(8)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	9K-58(50) 59K-133(75) 134K-152(37) 153-182(30) 183K-204(22) 205K-219(15) 220K-232(13) 233K-293K(61) 294K-346(53) 347-352(6) 353K-425(73) 426K-452(27)	1. 自己 PR の書き方 2. 面接で苦労した点 3. 面接の準備 4. 筆記試験のアドバイス 5. 就活中に大事にしたこと 6. キャリアセンターの利用 7. OB 訪問の有無 8. 企業のことを知るためにしたこと 9. 商社の面接 10. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉 11. 業界研究 12. 就活開始の時期	2. 意見を求める質問 2. 意見を求める質問 2. 意見を求める質問 3. 助言を求める質問 2. 意見を求める質問 1. 事実を求める質問 1. 事実を求める質問 1. 事実を求める質問 1. 事実を求める質問 3. 助言を求める質問 1. 事実を求める質問
III.終了部	453F-460K(8)	1. 終了の挨拶	

(注) 「K」＝質問者 NNS1、「F」＝応答者

【表 21-10】【資料 3-10】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1F-10H(10)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	11H-35(25)	1. エントリーした数と受かった数	1.事実を求める質問
	36H-93(58)	2. 活動を始めた時期	1.事実を求める質問
	94H-107(14)	3. 活動中のサークルやアルバイト	1.事実を求める質問
	108H-135(28)	4. エントリーシートの自分だけの特色	1.事実を求める質問
	136H-171(36)	5. SPI の準備	1.事実を求める質問
	171H-193(23)	6. 企業研究の仕方	1.事実を求める質問
	194F-195(2)	7. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	196H-220(25)	8. 説明会の参加の仕方	3.助言を求める質問
	221H-259(39)	9. SPI の勉強方法	1.事実を求める質問
	260H-289(30)	10.面接の仕方	1.事実を求める質問
	290H-346F(57)	11.内定した企業	1.事実を求める質問
	347-350F(4)	12.〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	1.事実を求める質問
	351H-376(26)	13.面接が不安	3.助言を求める質問
III.終了部	377F-383F(7)	1. 終了の挨拶	

(注) 「H」＝質問者 NNS2、「F」＝応答者

【表 21-11】【資料 3-11】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1F-9F(9)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	10B-37B(28)	1. 就活で一番苦労したこと	2.意見を求める質問
	38B-83B(46)	2. 就活で一番後悔したものと一番自慢できるもの	2.意見を求める質問
	84B-114(81)	3. 受けた会社の中で一番記憶に残る会社	1.事実を求める質問
	115B-140F(26)	4. 食品を選んだ理由	1.事実を求める質問
	141B-235(95)	5. 面接やエントリーシートの準備の仕方	1.事実を求める質問
	236F-238F(3)	6. 〈沈黙＋時間の確認〉	
	239B-251(13)	7. 英語での面接	1.事実を求める質問
	252B-260(9)	8. 面接の時の質問	1.事実を求める質問
	261B-263(3)	9. 〈質問を忘れる〉	
	264B-305(42)	10.会社を選んだ時に一番重要だったこと	2.意見を求める質問
	306B-380(75)	11.面接の回数、時間、結果通知の方法	1.事実を求める質問
	381B-418(38)	12.OB・OG 訪問やセミナー参加の必要性	2.意見を求める質問
	419B-442B(24)	13.就活のアドバイス	3.助言を求める質問
III.終了部	443B-448F(6)	1. 終了の挨拶	

(注) 「T」＝質問者 NNS3、「F」＝応答者

【表 21-12】【資料 3-12】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1F-11S(11)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	12S-49S(38)	1. 応答者の所属	1.事実を求める質問
	50S-86S(37)	2. 就活を始めた時期	1.事実を求める質問
	87S-122S(36)	3. インターンの必要性	2.意見を求める質問
	123S-132F(10)	4. 就活の期間	1.事実を求める質問
	133S-176F(44)	5. 自分が志望する会社の有無	1.事実を求める質問
	177S-232(56)	6. 就活の対策	3.助言を求める質問
	233S-269(37)	7. 会社を選ぶ時の条件	1.事実を求める質問
	270F-278(9)	8. 〈沈黙+応答者からの単独行為要求〉	
	279S-300F(22)	9. 会社を選ぶ時の条件(重複)	2.意見を求める質問
	301S-399(99)	10. 日本の就活と成績	1.事実を求める質問
	400S-430F(31)	11. 就活のアドバイス	3.助言を求める質問
	431S-455(25)	12. 就活での失敗	1.事実を求める質問
	456S-504F(46)	13. 面接の数と塾	1.事実を求める質問
III.終了部	505F-511S(7)	1. 終了の挨拶	

(注) 「S」=質問者 NNS4、「F」=応答者

【表 21-13】【資料 3-13】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1U-14(14)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	15U-63(49)	1. 就活で時間をかけたこと	1.事実を求める質問
	64U-170(107)	2. 内定した企業	1.事実を求める質問
	171U-254U(84)	3. 面接でアピールしたこと	1.事実を求める質問
	255U-338(84)	4. 面接で気を付けたこと	1.事実を求める質問
	339U-370U(32)	5. 就活で大変だったこと	2.意見を求める質問
	371U-478U(108)	6. 就活生にしてあげたいこと(アドバイス)	3.助言を求める質問
III.終了部	479N-482U(1)	1. 終了の挨拶	

(注) 「U」=質問者 NNS5、「N」=応答者

【表 21－14】【資料 3-14】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1T-4N(4)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	5C-43(39)	1. 就活中のストレス管理	1.事実を求める質問
	44C-69(26)	2. 内定先を選んだ理由	1.事実を求める質問
	70C-148(79)	3. 説明会の必要性	2.意見を求める質問
	149C-196(48)	4. エントリーを出した数	1.事実を求める質問
	197C-254(58)	5. 就活で努力したこと	1.事実を求める質問
	255C-275(21)	6. エントリーの有利な時期	2.意見を求める質問
	276C-307(32)	7. 就職活動の理想と現実	2.意見を求める質問
	308C-344C(37)	8. 就活での不安な気持ち	3.助言を求める質問
	345-347(3)	9. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	348C-359(12)	10.就職に役に立った経験	1.事実を求める質問
III.終了部	360C-364N(5)	1. 終了の挨拶	

(注) 「C」＝質問者 NNS6、「N」＝応答者

【表 21－15】【資料 3-15】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1N-7N(7)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	8M-94M(87)	1. 大学時に頑張ったことと後悔したこと	1.事実を求める質問
	95M-171(77)	2. 企業選びにおける基準	2.意見を求める質問
	172M-225(54)	3. 就活から学んだこと	2.意見を求める質問
	226M-247(22)	4. 就活の情報を得たところ	1.事実を求める質問
	248M-303M(56)	5. K学部でのメリット	2.意見を求める質問
	304M-338M(35)	6. 留学経験	1.事実を求める質問
	339M-450M(112)	7. 日本で就活した理由	2.意見を求める質問
	451M-487(37)	8. 就活を成功させたポイント	2.意見を求める質問
	488M-565N(78)	9. 志望する業種が分からない	助言を問う質問
III.終了部	566M-569M(4)	1. 終了の挨拶	

(注) 「M」＝質問者 NNS7、「N」＝応答者

【表 21-16】【資料 3-16】の談話構造

大話段	話段		
I.開始部	1J-16J(16)	1. 開始の挨拶	
II.展開部	17J-79J(63)	1. 大学時代にやっておいたほうがよいこと	2.意見を求める質問
	80J-101(22)	2. インターンの情報を集めたところ	1.事実を求める質問
	102J-163J(62)	3. 就活で一番苦労したこと	1.事実を求める質問
	163J-213J	4. 就活を始めた時期	1.事実を求める質問
	214J-224(11)	5. 〈質問が終わる 沈黙＋応答者からの確認要求〉	
	225J-232J(8)	6. インターンをして内定をもらえる人数	1.事実を求める質問
	233N-310J(78)	7. Jの志望業界	応答者からの 2.意見を求める質問
	311-360N(50)	8. 内定先	1.事実を求める質問
	361N-456J(96)	9. インターンした企業	1.事実を求める質問
III.終了部	457N-460J(4)	1. 終了の挨拶	

(注) 「J」=質問者 NNS8、「N」=応答者

【表 21】の「大話段」では、母語場面と接触場面は、「Ⅰ. 開始部」「Ⅱ. 展開部」「Ⅲ. 終了部」の 3 つの大話段があり、提出順も共通していた。

母語場面と接触場面の「Ⅱ．展開部」の「話段」の数は、応答者Fの母語場面の【資料3-1】は11話段、【資料3-2】は7話段、【資料3-3】は11話段、【資料3-4】は8話段、応答者Nの母語場面の【資料3-5】は7話段、【資料3-6】は3話段、【資料3-7】は8話段、【資料3-8】は5話段である。

一方、接触場面は、応答者Fの【資料3-9】は12話段、【資料3-10】は13話段、【資料3-11】は13話段、【資料3-12】は13話段で、応答者Nの【資料3-13】は6話段、【資料3-14】は10話段、【資料3-15】は9話段、【資料3-16】は9話段ある。応答者Fと応答者Nの話段数に違いはあるものの、接触場面の談話の方が、話段数が多いことが分かる。また、1話段の発話数は、接触場面のほうの発話数が少ない。つまり、母語話者の質問者は、1話段で発話を重ねて掘り下げるような談話の展開方法を取るのに対し、学習者の質問者は、多くの話題を提示し、それに対応する応答を収集する「質問-応答」を繰り返すような談話展開をしている。

また、【表 21】の発話者を示すアルファベット記号がないものは、沈黙を表すが、学習者の場合は「話段」が沈黙で終わる例が多数観察できる。また、質問者が沈黙をし、その後、応答者から「なんでも聞いてください。」や「もしぜひ聞きたいことがあれば。」「大丈夫ですか」という発話からなる「〈沈黙/フィラー+応答者からの単独行

為要求/確認要求〉の話段」は、接触場面全8資料のうち、5資料に見られた。これらのことから、接触場面では、会話が途中で止まり、スムーズに進行しない場面があることが分かる。その際、母語話者の応答者が発話権を取り、話題を提供して、会話を進行している。これは、以前、筆者が経験した初対面の接触場面と、先行研究の佐々木（1998：125）の「異文化間コミュニケーションの場面では、日本人が『インタビュー・スタイル』をとる顕著な傾向」という結果と同様である。

次に、就活相談の談話の発話例とともに、談話構造を分析する。例（3）に母語場面の発話例を、例（4）に接触場面の発話例を挙げる。左欄は話段の番号である。

（3）母語場面の発話例（「【資料3-4】質問者K（NS4）、応答者F）

- 5 272 K OB訪問とかOG訪問とかっていうのはどのぐらい//しましたか？
273 F 僕は最初、商社に//すごい
=行きたかったんで、
274 K はい。
275 F 商社にOB訪問したんで、
276 K はい。
277 F だいたい10人ぐらい//したんですけど。
278 K あーーー。
279 K そんなにしたんですね。
280 F OB訪問はしても、しなくても、どっちでも。
281 K いいん//ですかねー。
282 F いいと思います。
283 K あーーー。
284 F メーカーは1人もしなかったしー、
285 F うちの会社、のOB、特に、メーカーは//OB訪問やってませんってところが結構
=多いので、
286 K はい。
287 K ふーん。
288 F その、不公平//とかになっちゃうので、
289 K はい。

- 290 F 「やってません」っていうとこ結構。
- 291 K そーなんですか。
- 292 F あんまり関係ないですね。
- 293 K ふーん。
- 294 K 商社とかっていうのは？（関係ないんですか。）
- 295 F 商社は、その何にしたから、どうこう//っていうのじゃなくて、
- 296 K はい。
- 297 F その、やっぱり、あの、商社ってどの//会社も結構同じような仕事を//してるの
=で、
- 298 K うんうん。
- 299 K はいはい。
- 300 F その、「なんでうちの会社にしたの」って聞かれた//時に、
- 301 K はい。
- 302 F やっぱ、一つ言えることは、そ、「その社風が//私に合ってるからです」って、
- 303 K うん。
- 304 K 言え//る、言える。
- 305 F っていうのが//結構みんな言うんですね。
- 306 K あーーーー。
- 307 F その雰囲気を知るために、
- 308 F その、色んな働いてる社員の人に//会って、
- 309 K なるほど、なるほど。
- 310 F 違いを見つけるってのが OB 訪問なんだと思うんです。
- 311 K なるほど。
- 312 K あーーーー、わかりました。
- 313 K じゃ、あんま、選考には関係ないけど、
- 314 F 全然関係ないです。
- 315 K 情報収集のためっていう//感じですね。
- 316 F そうですね。
- 317 F 僕は、あと、OB 訪問する時//には、
- 318 K はい。

- 319 F エントリーシート//を添削して//もらってましたね。
- 320 K はい。
- 321 K あ————、なるほど。
- 322 — [沈黙 2 秒]
- 323 K キャリアセンターとかって活用してました？
- 324 F キャリアセンターは一、あの一、僕は、あの、OB 名簿//を見るぐらいしか//使っ
てなかったですね。
- 325 K あ、はい。
- 326 K あ一、
=なるほどなるほど。
- 327 K うーん。
- 328 — [沈黙 2 秒]
- 329 K OBOG 訪問した時ってのは、結構人のコネとかっていうのをよく聞くんですけど。
- 330 F いや、僕は//先輩、全然いなかったんで、
- 331 K キャリア
- 332 K キャリアセンター、
- 333 F 名簿見て、
- 334 K あ。
- 335 F 「A 大学の」//電話して、
- 336 K {笑い} 電話して、あー。
- 337 F 頑張りました。
- 338 K あー、{笑い} 大変でしたねー。

(4) 接触場面の発話例 (「【資料 3-11】 質問者 B (NNS 3)、応答者 F)

-
- 3 84 B あと、受けた会社の中で 1 番記憶に残る会社、は//どこですか。
- 85 F 1 番、
- 86 B 面接とかセミナーとか//行って一、
- 87 F うーん。
- 88 B 他の会社とは違うなと思う//会社とか。

- 89 F うーーーーん。
- 90 F そうですね、ま、僕の内定先//の会社は一、
- 91 B はい。
- 92 F やっぱりその面接を通して、
- 93 F その、やっぱり社員の人達、すごいいい人ばかりだったので、
- 94 F やっぱり1番いいなって思ったからこそ、
- 95 F あのー、内定//いただいたんですけど、
- 96 B うん。
- 97 B はい。
- 98 F 逆に、なんか、悪い意味で印象に//残ってるのは一、
- 99 B はい。
- 100 F あのー、商社の//会社で一、
- 101 B あー、はい、はい。
- 102 F 僕、商社2つ、実は最終面接で//、最終面接までいったんですけど、
- 103 B はい。
- 104 B はい。
- 105 F 両方最終面接落とされて、
- 106 B はい。
- 107 F それはちょっと精神的にきつかったですね。
- 108 F 最終面接まで行ったらー、
- 109 B はい。
- 110 F もういけるでしょ、
- 111 B あー//一、はい、はい、はい。
- 112 F 内定出るでしょって思ってたけど、
- 113 F 落とされたみたいなの。
- 114 — [沈黙2秒]

-
- 4 115 B 多分言われたのが一、
- 116 B しょうひんメーカーから内定をもらったと言われたん//ですけど、
- 117 F はい。
- 118 B しょうひんメーカーを選んだ理由って、なんですか？

- 119 F 食品ですね。
- 120 B あ、食品。
- 121 F 食品はそうですねー、
- 122 F 基本的に、僕、食べるの好き//なんで、
- 123 B あー、はい {笑い} 。
- 124 F それが、まー、まず//1番大きなことと、
- 125 B はい。
- 126 F あと、僕の会社はすごい海外に、食品メーカーの中で1番海外展開//してる
=んですね。
- 127 B うーん。
- 128 B うん。
- 129 F で、僕の就職活動の軸っていうのが、
- 130 F まず海外絶対行きたいなって思って//たのでー、
- 131 B あー、//はい。
だから、商社とかも受けて//
- 132 F =たんですけど、
- 133 B あー。
- 134 F やっぱりその、海外に行けるっていう点と、
- 135 F ま、しょ、食べるの好きだし、
- 136 B あー。
- 137 F で、やっぱ、あと、合ってた。
- 138 F 社員の人達がすごくいい人達だったので、
- 139 B うん。
- 140 F 選びましたね。

-
- 5 141 B はい、最後の質問です。
- 142 F はい。
- 143 B 面接の準備とかー、エントリーシートの準備とか、
- 144 B どーのーようにやったんですかー？

- 145 F そうですね、まずエントリーシートの準備から言うと、
- 146 F えっとー、ま、エントリーシートで聞かれることって
- 147 F だいたい結構決まってる、
- 148 B はい。
- 149 F 会社の志望理由とー、あと、学生時代頑張ったこと。
- 150 F だいたい、これ、必ず聞かれるんですけど、
- 151 B うん。
- 152 F ま、その、志望、会社の志望理由っていうのは、ま、それぞれの企業で考えるしかないので、
- 153 B は//い。
- 154 F これは別として、
- 155 F 学生時代頑張ったことっていうのは、
- 156 B うん。
- 157 F どの企業に行っても結構同じこと言わない//ですか、自分の経験だから。

以上の例（３）（４）は、母語場面と接触場面の典型的な談話展開の例であり、他の母語場面と接触場面の資料にも同じような談話展開が観察された。母語話者は、１つの話題に関連した質問を重ねたり、応答に対して「応答確認」や〈受容〉や〈提供〉を用いた発話で、「感想」、「共感」を示す発話をするなどして、積極的に話に参加している。そのため、「質問－応答」の単純なやりとりだけでなく、「質問－応答－反応」や「質問１－応答１－反応１＋質問２…」のように、一つの話題において、応答に関連した質問を重ねるなどの発展した発話のやりとりをしており、質問と応答者の双方向のやりとりから談話が形成されている。母語話者の談話は、１話段の「質問１－応答１」の中に小規模の「質問１.１－応答１.１」が含まれており、大小の話段からなる多重構造が存在するのである。これは、**課題１**の【資料２】インタビュー取材と同じ情報収集の談話構造の特徴である。

一方、学習者は、ある話題１の「質問１－応答１」から、別の話題２の「質問２－応答２」というように、質問者の「質問」と応答者の「応答」の発話連鎖から形成される談話構造で、「応答」から発展した発話のやりとりや、「応答」に対する「応答確認」や「感想」、「共感」等を示す反応が少ないという傾向が認められた。

従って、日本語母語話者と韓国語母語話者で、情報収集の談話構造には違いが認められ、異なる談話展開の方法があるといえる。これは、先行研究の高木（2013：61）の「日本語母語話者は先行発話への理解を示しながら、対話者の発話を引き出し、談話を進めていく『共有型』を好むのに対し、韓国語話者は先行発話への積極的な問いかけを行うことにより談話を進めていく『要求型』を好むという大きなスタイルの違いを見出すことができる。」という指摘と同様の結果になっている。

高木（2013）は、韓国語母語話者の韓国語の自由会話を分析した結果だが、本研究では、この母語の談話展開の特徴が、日本語の会話にも影響したということが明らかとなった。

以上の接触場面の談話展開について、筆者のフォローアップインタビューで、応答者が、「韓国語母語話者は、1回質問をしたところからの展開が短く、次の質問にいつてしまう傾向がある」とか、「日本語母語話者は、前置きというか、入口の質問があつて、その質問で話題を広げたら、広げた話題で質問して、次の話題に進んでいくやり方が多かった」という印象を述べており、一方、「日本語母語話者の方が話に流れがあり、予測ができるため答えやすかった」、「韓国語母語話者は話題が変わるため予測ができなくて難しかった」、「唐突に話題転換がされた」と指摘していた。以上のことから、韓国人日本語学習者の質問者は、質問をするという役割に重きを置き、応答者との相互作用が希薄な談話展開の方法になりがちという課題があると考えられる。そこで、応答者を意識した談話展開の方法や、話段のまとまりを意識させるような談話展開の方法を指導する必要を感じた。

6. 2. 3 質問の提出順

本節では、分析観点2の「質問の提出順」について分析する。【表 21】で質問形式の3分類に注目すると、質問の提出順は資料ごとに違いがあるが、全 16 資料のうち 13 資料は「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」という3種の話段が認定された。【資料 3-6】と【資料 3-16】は「1. 事実を求める質問」「2. 意見を求める質問」、【資料 3-10】は「1. 事実を求める質問」と「3. 助言を求める質問」だった。

3 種の話段の出現位置は、資料ごとに違いがあるが、「3. 助言を求める質問」は、「Ⅱ.

展開部」の後半の1か所、もしくは、中間と後半の2か所に位置するという共通点があった。

次に、事前に作成した質問が、実際の談話にどのように反映したのかを分析する。以下、質問者全16名の質問メモである。左から質問の順番、選択したアルファベット記号²⁶、質問内容を示す。調査当日は、メモ通りでなく、臨機応変に対応してもよいと指示した。

質問者各自16名が事前に準備した質問²⁷

【資料3-1】NS1の質問 1. d セミナーの回数 2. d OBOG 訪問の時期、数、やり方 3. e 就活を上手く乗り切る為のコツは？ 4. e 会社選びの仕方は？ 5. b 悩む時期はいつだったか？その対策は？ 6. f 自分のやってきたことに数値化が難しい、どうすれば？
【資料3-2】NS2の質問 1. e 就活中に1番自分自身が力をいれたことは何ですか？また、面接を何度も受けていくなかで得たテクニックのようなものはありますか？ 2. b 就活をしていた中で最も苦労したことは何ですか？またその苦労をどのように乗り切ったのかも教えていただきたいです。 3. c ESは具体的にいつ頃から書き出しましたか？また、ESを書く際に注意することがあったら教えてください。 4. a 最後に就活をしていた中で自分自身が最も大切にしていたことを教えてください。
【資料3-3】NS3の質問 1. d 就活の時に軸にしていたもの 2. f 志望業界とその理由 3. e ES書く際に気をつけたこと。ポイント。 4. e 面接の時に気を付けたこと。ポイント。 5. d OB訪問の有無。
【資料3-4】NS4の質問 1. b 活動で苦労した点 2. c 活動を始めた時期 3. e 活動で努力・工夫した点
【資料3-5】NS5の質問 1. e どのような業種を希望していましたか。また、それはなぜですか。 2. e 就職活動を通して常に意識していた目標を教えてください。 3. e 年末年始は企業も就職活動を行わない唯一の時期です。同時に就活生も活動が停滞すると思われそうですが、その時期には何をされていましたか。 4. b 就職活動を通して一番大変だったエピソードと、どのようにその苦難を乗り越えたのかを教えてください。 5. f 現在内定先で成し遂げたいと思っている夢を教えてください。 6. f OBや内定者、面接官などで、印象的な出会いがあれば、具体的なエピソードとともに教えてください。

²⁶ 調査指示に挙げたものに従う。

²⁷ 原文のまま。

<p>7. a 私は「何事もとにかくやってみてから判断する」ということを座右の銘にしています。そこで、(内定者)さんが就職活動や今までの人生を通して伝えておきたいアドバイスを教えてください。教えていただいたアドバイスを私はまず2012年が終わるまで5日間毎日必ず実行します。</p>
<p>【資料3-6】NS6の質問</p> <p>1. b 就活で1番大変だったことは何か。</p> <p>2. d どのような基準で企業を選ばれたか。</p> <p>3. f 就活前と現在で変わられたことは何か。</p>
<p>【資料3-7】NS7の質問</p> <p>1. d 就活の軸、企業選びの基準</p> <p>2. b 苦労した点、失敗談</p> <p>3. e 工夫した点、やってよかったこと</p> <p>4. a 一言、アドバイス</p>
<p>【資料3-8】NS8の質問</p> <p>1. f 志望した企業・業界の志望動機は？</p> <p>2. d 12月から就職活動終了までの活動の流れを教えてください。</p> <p>3. d 面接の練習はどのようにどなたと行いましたか。</p> <p>4. d 対策本は何を使いましたか。</p> <p>5. e 就職活動をなさったなかで、やっておいてよかったと思った点は何ですか。</p> <p>6. e 就職活動をなさったなかで、後悔している点は何ですか。</p>
<p>【資料3-9】NNS1の質問</p> <p>1. b 自己PRで苦労した点は？</p> <p>2. b 面接で苦労したエピソードは？</p> <p>3. b 筆記試験で一番苦労したのは？</p> <p>4. e 活動中に一番大事にしたのは？</p> <p>5. f キャリアセンターをうまく使う方法とは？</p> <p>6. f 企業研究はどのようにしたのか？</p>
<p>【資料3-10】NNS2の質問</p> <p>1. b 今までどんぐらい会社にエントリーして何個うかって何個落ちたか。</p> <p>2. c 活動をいつから続けて行ったか。</p> <p>3. f サークル、バイトは。</p> <p>4. e 自分だけの特徴は？</p> <p>5. e SPI どうやって準備した？私はWebTestですべて落ちたが。</p>
<p>【資料3-11】NNS3の質問</p> <p>1. b 就活で一番苦労したことは？</p> <p>2. e 就活で後悔するのは？(そうすれば良かったのにとか)</p> <p>3. f 受けた会社で一番記憶に残る会社は？(面接とか、社風)</p> <p>4. f 食品系を選んだ理由とは？</p>
<p>【資料3-12】NNS4の質問</p> <p>1. c 活動を始めた時期は？</p> <p>2. c 活動を始めて仕事が見つかるまでどれくらいかかりましたか？</p> <p>3. d 活動の方法は何でしたか？お勧めできるような自分の方法があったら教えてください。</p> <p>4. f 活動に対して一番大切なことはなんだと思いますか？</p> <p>5. f なぜ今の仕事を選びましたか？それは大学生の時からやりたかった仕事ですか？</p> <p>6. a 後輩に一番アドバイスしてあげたいことは何ですか？</p>
<p>【資料3-13】NNS5の質問</p> <p>1. b 就活に控えて何に一番時間をかけましたか？</p> <p>2. f 外国で働くチャンスは多いですか？</p> <p>3. a 会社に応募したところを教えてください。</p> <p>4. a 面接で一番気をつけたところは何ですか？</p>

<p>5. b 今まで一番大変だった経験を教えてください。</p> <p>6. a 就活が終わったところ、現在就活生に伝いたいことはありますか？</p>
<p>【資料 3-14】NNS 6 の質問</p> <p>1. b エントリーを多くのところに出すと頭がぐちゃぐちゃにならないのか</p> <p>2. b ストレスの管理はどういう風にしたのか</p> <p>3. c 早めにエントリーを出した方が有利なのか</p> <p>4. c 説明会は全て参加したほうがいいのか</p> <p>5. e それぞれの選考過程についていける方法は？</p> <p>6. e エントリーから面接までの流れで一番努力したことは何なのか</p>
<p>【資料 3-15】NNS7 の質問</p> <p>1. d 企業を選びにおいて基準は何ですか？（重要なことは3つ話してください）</p> <p>2. d 就職活動を成功させるポイントは？</p> <p>3. e 就職活動から学んだことは？</p> <p>4. e 活動して一番自分が足りないなって風に思ったことはなんですか？</p> <p>5. e 大学時、一番張り合いがあったことと後悔したところはなんですか？</p> <p>6. f なぜ日本で活動したいですか？</p>
<p>【資料 3-16】NNS8 の質問</p> <p>1. a 大学時代にやっておくべきことは何か（資格、ボランティア、サークル、活動など）</p> <p>2. b 就活で一番苦労した点は？</p> <p>3. c 就活はいつから始めたか、また、いつ始めるのが最もいいか。</p> <p>4. d インターンの情報はどこでどうやって集めたか。</p>

以上の質問メモが実際にどのように用いられたのかについて、以上の質問Aと【表 21-1】～【表 21-16】の就活相談の談話構造における「Ⅱ．展開部」の「話段」を比較する。

次の、【表 22-1】～【表 22-16】に全 16 名の質問メモと話段を示す。左の欄に「A. 質問メモ」を、右の欄に「B. 実際にした質問（話題）」を示し、上段に質問数を示す。メモにはないもので、実際の談話で新しく加えた質問は空白にした。

表の右側には「C. 満足度」として、応答者に課したアンケートの設問②「得た情報に満足しましたか。1～5を書いてください。1. まったく満足していない 2. あまり満足していない 3. どちらともいえない 4. やや満足している 5. とても満足している」の評価結果を示す。

【表 22-1】NS1 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(11)	C. 満足度
1. d セミナーの回数	1. セミナーの回数	4
2. d OBOG 訪問の時期、数、やり方	2. OB 訪問	4
	3. 会話の流れの確認	
3. e 就活を上手く乗り切る為のコツは？	4. 就活のコツ	4
4. e 会社選びの仕方は？	5. 会社選びの仕方	4
6. f 自分のやってきたことに数値化が難しい、どうすれば？	6. K の自己 PR の仕方	5
	7. 時間の確認	
	8. リクルーターの付き方	
5. b 悩む時期はいつだったか？その対策は？	9. 就活で悩んだこと	5
	10. 面接の流れ	
	11. 自分(F)が内定した理由	

【表 22-2】NS2 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(4)	B. 実際にした質問(7)	C. 満足度
1. e 就活中に 1 番自分自身が力をいれたこと何ですか？また、面接を何度も受けていくなか得たテクニックのようなものはありますか？	1. 就活中に頑張ったところとテクニック	4
2. b 就活をしていた中で最も苦労したことはですか？またその苦労をどのように乗り切ったかも教えていただきたいです。	2. 就活中で最も苦労したことと乗り切り方	4
3. c ES は具体的にいつ頃から書き出しましたか？また、ES を書く際に注意することがあったら教えてください。	3. ES を書くときのテクニック	4
	4. 企業研究で調べたこと	
	5. グループディスカッションの方法	
	6. 面接での対処法	
	7. 就活を通しての軸	
4. a 最後に就活をしていた中で自分自身が最も大切にしていたことを教えてください。		4

【表 22-3】NS3 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(4)	B. 実際にした質問(11)	C. 満足度
	1. F の内定先の業界と T の志望業界	
1. d 就活の時に軸にしていたもの 2. f 志望業界とその理由	2. 食品にした理由	4
3. e ES 書く際に気をつけたこと。ポイント。	3. ES の対策	3
	4. エントリーした会社	
5. d OB 訪問の有無。	5. OB 訪問	5
	6. 商社の就活	
4. e 面接の時に気を付けたこと。ポイント。	7. 面接の対策	3
	8. 食品以外のメーカー	
	9. 長期的なビジョン	
	10. 〈応答者の単独行為要求〉	
	11. 就活中に悩んだことと対処法	5

【表 22-4】NS4 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(3)	B. 実際にした質問(8)	C. 満足度
	1. 内定先	
1. b 活動で苦労した点	2. 落ち込んだ時の対処法	4
	3. 企業を選ぶときの軸	
2. c 活動を始めた時期	4. エントリーの数、時期	4
	5. OB・OG 訪問	
	6. テスト勉強の有無	
3. e 活動で努力・工夫した点	7. 活動を通してのよかったところと反省点	4
	8. 情報収集の方法	

【表 22-5】NS5 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(7)	B. 実際にした質問(7)	C. 満足度
1. e どのような業種を希望していましたか。また、それはなぜですか。	1. 企業を決めた理由	3
2. e 就職活動を通して常に意識していた目標を教えてください。	2. 就活で意識していたこと	3
3. e 年末年始は企業も就職活動を行わない唯一の時期です。同時に就活生も活動が停滞すると思われますが、その時期には何をされていましたか。	3. 年末年始にしたこと	3
4. b 就職活動を通して一番大変だったエピソードと、どのようにその苦難を乗り越えたのかを教えてください。	4. 就活で大変だったこと	3
5. f 現在内定先で成し遂げたいと思っている夢を教えてください。	5. 内定先での目標	4
6. f OB や内定者、面接官などで、印象的な出会いがあれば、具体的なエピソードとともに教えてください。	6. 就活中に会った印象的な人、エピソード	5
7. a 私は「何事もとにかくやってみてから判断する」ということを座右の銘にしています。そこで、(内定者)さんが就職活動や今までの人生を通して伝えておきたいアドバイスを教えてください。教えていただいたアドバイスを私はまず 2012 年が終わるまで5日間毎日必ず実行します。	7. 就活を通してのアドバイス	5

【表 22-6】NS6 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(3)	B. 実際にした質問(3)	C. 満足度
2. d どのような基準で企業を選ばれたか。	1. 企業を選んだ基準	5
1. b 就活で1番大変だったことは何か。	2. 就活で大変だったこと	4
3. f 就活前と現在で変わられたことは何か。	3. 就活前と今とで変わったこと	5

【表 22-7】NS7 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(4)	B. 実際にした質問(8)	C. 満足度
1. d 就活の軸、企業選びの基準	1. 企業、業界を選んだ理由	4
2. b 苦労した点、失敗談	2. 就活で苦労した点	4
3. e 工夫した点、やってよかったこと	3. 就活で工夫した点	5
	4. 実際の面接の流れ	
	5. 就活で面接を受けた会社	
	6. 〈フィラー+応募者からの単独行為要求〉	
	7. 就活が不安	
4. a 一言、アドバイス	8. アドバイス	5

【表 22-8】NS8 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(7)	B. 実際にした質問(5)	C. 満足度
1. f 志望した企業・業界の志望動機は？	1. 志望した業界、企業	5
2. d 12 月から就職活動終了までの活動の流れを教えてください。	2. 就活の流れと対策	5
4. d 対策本は何を使いましたか。		
5. e 就職活動をなさったなかで、やっておいてよかったと思った点は何ですか。	3. 就活で工夫した点	5
3. d 面接の練習はどのようにどなたと行いましたか。		
7. e 就職活動をなさったなかで、後悔している点は何ですか。	4. 就活で苦労した点	5
	5. メッセージ(アドバイス)	5

【表 22-9】NNS1 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(12)	C. 満足度
1. b 自己 PR で苦労した点は？	1. 自己 PR の書き方	5
2. b 面接で苦労したエピソードは？	2. 面接で苦労した点	4
	3. 面接の準備	
3. b 筆記試験で一番苦労したのは？	4. 筆記試験のアドバイス	未記入
4. e 活動中に一番大事にしたのは？	5. 就活中に大事にしたこと	未記入
5. f キャリアセンターをうまく使う方法とは？	6. キャリアセンターの利用	4
	7. OB 訪問の有無	
6. f 企業研究はどのようにしたのか？	8. 企業のことを知るためにしたこと	4
	9. 商社の面接	
	10. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	11. 業界研究	
	12. 就活開始の時期	

【表 22-10】NNS2 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(5)	B. 実際にした質問(13)	C. 満足度
1. b 今までどんぐらい会社にエントリーして何個うかって何個落ちたか。	1. エントリーした数と受かった数	4
2. c 活動をいつから続けて行ったか。	2. 活動を始めた時期	4
3. f サークル、バイトは。	3. 活動中のサークルやアルバイト	未記入
4. e 自分だけの特徴は？	4. エントリーシートの自分だけの特色	2
5. e SPI どうやって準備した？私は WebTest ですべて落ちたが。	5. SPI の準備	3
	6. 企業研究の仕方	
	7. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	8. 説明会の参加の仕方	
	9. SPI の勉強方法	
	10. 面接の仕方	
	11. 内定した企業	
	12. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	13. 面接が不安	

【表 22-11】NNS3 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(4)	B. 実際にした質問(13)	C. 満足度
1. b 就活で一番苦労したことは？	1. 就活で一番苦労したこと	4
2. e 就活で後悔するのは？(そうすれば良かったのとか)	2. 就活で一番後悔したものと一番自慢できるもの	5
3. f 受けた会社で一番記憶に残る会社は？(面接とか、社風)	3. 受けた会社の中で一番記憶に残る会社	4
4. f 食品系を選んだ理由とは？	4. 食品を選んだ理由	3
	5. 面接やエントリーシートの準備の仕方	
	6. 〈沈黙＋時間の確認〉	
	7. 英語での面接	
	8. 面接の時の質問	
	9. 〈質問を忘れる〉	
	10. 会社を選んだ時に一番重要だったこと	
	11. 面接の回数、時間、結果通知の方法	
	12. OB・OG 訪問やセミナー参加の必要性	
	13. 就活のアドバイス	

【表 22-12】NNS4 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(13)	C. 満足度
	1. 応答者の所属	
1. c 活動を始めた時期は？	2. 就活を始めた時期	4
	3. インターンの必要性	
2. c 活動を始めて仕事が見つかるまでどれくらいかかりましたか？	4. 就活の期間	4
	5. 自分が志望する会社の有無	
3. d 活動の方法は何でしたか？お勧めできるような自分の方法があったら教えてください。	6. 就活の対策	5
4. f 活動に対して一番大切なことはなんだと思いますか？		
5. f なぜ今の仕事を選びましたか？それは大学生の時からやりたかった仕事ですか？	7. 会社を選ぶ時の条件	5
	8. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	9. 会社を選ぶ時の条件(重複)	
	10. 日本の就活と成績	
6. a 後輩に一番アドバイスしてあげたいことは何ですか？	11. 就活のアドバイス	未記入
	12. 就活での失敗	
	13. 面接の数と塾	

【表 22-13】NNS5 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(6)	C. 満足度
1. b 就活に控えて何に一番時間をかけましたか？	1. 就活で時間をかけたこと	5
2. f 外国で働くチャンスは多いですか？	2. 内定した企業	4
3. a 会社に応募したところを教えてください。	3. 面接で応募したこと	5
4. a 面接で一番気を付けたところは何ですか？	4. 面接で気を付けたこと	5
5. b 今まで一番大変だった経験を教えてください。	5. 就活で大変だったこと	4
6. a 就活が終わったところ、現在就活生に伝いたいことはありますか？	6. 就活生にしてあげたいこと(アドバイス)	5

【表 22-14】NNS6 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(10)	C. 満足度
2. b ストレスの管理はどういう風にしたのか	1. 就活中のストレス管理	3
	2. 内定先を選んだ理由	5
4. c 説明会は全て参加したほうがいいのか	3. 説明会の必要性	4
1. b エントリーを多くのところに出すと頭がぐちゃぐちゃにならないのか	4. エントリーを出した数	
5. e それぞれの選考過程についていける方法は？		
6. e エントリーから面接までの流れで一番努力したことは何なのか	5. 就活で努力したこと	5
3. c 早めにエントリーを出した方が有利なのか	6. エントリーの有利な時期	5
	7. 就職活動の理想と現実	
	8. 就活での不安な気持ち	
	9. 〈沈黙＋応答者からの単独行為要求〉	
	10. 就職に役に立った経験	

【表 22-15】NNS7 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(6)	B. 実際にした質問(9)	C. 満足度
5. e 大学時、一番張り合いがあったことと後悔したところはなんですか？	1. 大学時に頑張ったことと後悔したこと	3
1. d 企業を選びにおいて基準は何ですか？	2. 企業選びにおいての基準	3
3. e 就職活動から学んだことは？	3. 就活から学んだこと	3
	4. 就活の情報を得たところ	
	5. K学部でのメリット	
	6. 留学経験	
6. f なぜ日本で活動したいですか？	7. 日本で就活した理由	5
2. d 就職活動を成功させるポイントは？	8. 就活を成功させたポイント	4
	9. 志望する業種が分からない	
4. e 活動して一番自分が足りないなって風に思ったことはなんですか？		

【表 22-16】NNS8 の質問メモと実際にした質問

A. 質問メモ(4)	B. 実際にした質問(9)	C. 満足度
1. a 大学時代にやっておくべきことは何か。	1. 大学時代にやっておいたほうがよいこと	4
4. d インターンの情報はどこでどうやって集めたか。	2. インターンの情報を集めたところ	3
2. b 就活で一番苦勞した点は？	3. 就活で一番苦勞したこと	2
3. c 就活はいつから始めたか、また、いつ始めるのが最もいいか。	4. 就活を始めた時期	4
	5. 〈質問が終わる 沈黙＋応答者からの確認要求〉	
	6. インターンをして内定をもらえる人数	
	7. Jの志望業界	
	8. 内定先	
	9. インターンした企業	

以上の【表 22-1】～【表 22-16】によると、質問者NNS15以外の全員がメモの質問を全て発話している。ただし、NNSの場合は、メモの質問を順番通りに前半部に発話してしまい、時間が余ったり、「〈沈黙＋応答者からの単独行為要求/確認要求〉の話段」が出現するなど、沈黙する場面が全8資料のうち6資料あった。これは、筆者が第1章で前述した、情報収集活動の授業を担当した際に遭遇した問題と同様であった。そのため、授業では、1話題を膨らませて情報収集をする練習が必要だと感じた。

また、質問者NNS4に関しては、同じ質問を2度反復してしまうというような場面が見られた。また、質問者NNS8は、準備した質問を始めに言ってしまい、残りの時間にどう会話をするか困惑する場面も見られた。従って、準備した質問のメモ通りではなく、応答者の応答を意識して臨機応変に対応する練習も必要なのではないかと考えられる。

6. 3 就職活動の相談における発話機能の出現傾向

6. 3. 1 参加者別の発話機能の出現傾向

本節では、就活相談の談話における全8資料における「大話段」と「話段」を構成する発話機能の特徴について分析する。

【表23-1】母語場面全8資料の「大話段」・「話段」の参加者別発話総数と発話機能総数

[illegible]

【23-2】接触場面の全8資料の「大話段」・「話段」の参加者別発話総数と発話機能総数

話段区分	発話機能合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	A.		B.								C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
大話段	参加者	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計	質	量	計</

【表 23-1】には、母語場面の全 8 資料の「大話段」の参加者別発話総数と発話機能総数、【表 23-2】には、接触場面の全 8 資料の「大話段」の参加者別発話総数と発話機能数を、それぞれ示した。

【表 24-1】～【表 24-16】²⁸に、各資料別の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数を示した。

【表 23-1】と【表 23-2】によると、母語場面の発話総数は 4,421 発話、接触場面は 4,094 発話で、母語話者のほうが発話機能を多く使用している。参加者別にみると、母語場面は、発話機能総数 4,421 発話のうち、質問者が 2,009 発話（45.4%）で、応答者が 2,412 発話（54.6%）である。接触場面は、発話総数 4,094 発話のうち、質問者が 1,830 発話（44.7%）、応答者が 2,264 発話（55.3%）で、いずれも応答者の方がやや多い。

【表 23】の下段の〈Ⅰ. 注目要求〉〈Ⅱ. 談話表示〉〈Ⅲ. 要求〉〈Ⅳ. 提供〉〈Ⅴ. 受容〉の 5 種類別に分けた発話機能種類別合計を見ると、母語話者と学習者の発話機能数は同等である。

質問者の発話機能数は、まず、〈Ⅱ. 談話表示〉の発話機能で、母語話者と学習者で差があるのは、〈話を変える機能〉と〈話をまとめる機能〉である。〈話を変える機能〉は、母語話者が 12 発話で、学習者が 3 発話だった。また、〈話をまとめる機能〉は、母語話者が 7 機能で、学習者が 1 機能だった。つまり、母語話者が〈Ⅱ. 談話表示〉を用いて話題展開をしていることがわかる。

〈Ⅲ. 要求〉では、母語話者の質問者の〈確認要求〉が 81 発話、学習者が 67 発話で若干母語話者が多い。母語話者は、〈確認要求〉を用いて、応答者の応答を確認しながら、談話を展開していると考えられる。また、〈Ⅳ. 提供〉では、母語話者の〈見解表明〉が 197 発話、学習者が 93 発話で 100 以上も差がある。また、〈評価表明〉も、母語話者が 43 発話で、学習者は半数の 23 発話である。このことから、母語話者は、〈Ⅲ. 要求〉を用いた発話で質問をするだけでなく、〈Ⅳ. 提供〉を用いた発話で自分の情報を提供したり、応答に対する感想を言ったりして積極的に会話に参加していると言える。

〈Ⅴ. 受容〉では、下位分類 10 種の分類を別に見ると、母語話者の〈興味〉が 160 発話、〈共感〉が 49 発話である。学習者は、〈興味〉が 84 発話、〈共感〉が 8 発話で大

²⁸ 巻末資料を参照のこと。

差が見られた。一方、母語話者は、〈興味〉や〈共感〉を用いた発話で、応答者に反応をしている。

以上のことから、就活相談の談話において、母語話者と学習者は、発話機能数は同等だが、発話機能の用いられ方が異なるということが分かった。質問をするという質問者の役割を担うにも関わらず、母語話者は、〈Ⅲ．要求〉の発話機能以外に、〈Ⅱ．談話表示〉で話題を進行させ、積極的に発話権を取って話題を展開させている。また、〈Ⅳ．提供〉や〈Ⅴ．受容〉の〈興味〉〈共感〉の発話により、情報収集をしているのである。これは、第5章で前述したインタビュー取材の談話の展開方法と同じ結果である。

一方、学習者は、〈Ⅲ．要求〉系の〈説明要求〉と〈判定要求〉を用いた発話で、応答者に質問をすることに重きが置かれている。母語話者より、〈確認要求〉で応答確認をする発話や、〈Ⅳ．提供〉と〈Ⅴ．受容〉の発話が少ないのである。〈Ⅵ．提供〉は、自分の就職活動の現状等を話す〈事実説明〉、応答者の応答や、就職活動に関する自分の見解や評価をする〈見解表明〉、〈評価表明〉である。〈Ⅴ．受容〉は、母語話者同様、〈継続〉、〈承認〉は多いものの、〈興味〉や〈共感〉が少ない。つまり、学習者は、応答者の発話への関わり方が希薄であると言える。

そこで、日本語の会話教育で、日本語で情報収集の談話展開の方法を学習する際は、〈Ⅲ．要求〉系のみならず、〈Ⅳ．提供〉や〈Ⅴ．受容〉で積極的に応答者の発話に積極的に関わり合う談話展開の方法を指導する必要があるだろう。また、学習者の発話には、「じゃ、～」、「じゃあ、～」などの〈Ⅱ．談話表示〉も少なかったため、話題の進行や話題転換の仕方も授業で取り入れたほうがよいと考える。

6. 3. 2 情報収集に用いる表現形式

本節では、情報収集のために質問者が用いる特徴的な発話を抽出し、分析観点3の「情報収集に用いる表現形式」について分析する。

就活相談の母語場面の談話には、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」という特徴が見られた。接触場面にも、「a. b. c. e」は共通して用いられたが、出現数は少なかった。以下、発話例を挙げて特徴を示す。

a. 応答確認

例（５）は質問者Ｏの「応答確認」である。応答者Ｆが最終面接で不採用になったという発話を受け、〈確認要求〉の「～んですね。」を用いて、応答確認をしている。

（５）（【資料３－２】母語場面、質問者Ｏ、応答者Ｆ）

- 79 F まだ内定が何もない段階でー、
80 O はい。
81 F 最終面接にぼんぼんって２つ企業いった時に、
82 O はい。
83 F あの一、これどっちか内定出るだろうって//思ってたら、
84 O はい。
85 F どっちも両方に落とされてっていう。
86 O え、最終面接で結構落とされることあるんですね？
87 F そうですね、企業によって//ですけど。
88 O あーーーー、はい。

b. 前置き＋質問

この発話は、母語場面と接触場面で共通した特徴であるため、複数の発話例とともに詳しく後述する。

c. 話題転換

例（６）は、メタ言語表現の「次なんですけれども、」用いて「話題転換」をする例である。

（６）（【資料３－２】母語場面、質問者Ｏ、応答者Ｆ）

- 2 73 O あの、次なんですけれどもー、
74 O 就活中で最も苦労したことと、
75 O またそれをどうやって乗り切ったのかっていうのを教えていただければ。
76 F 苦労したことはー//、その一、４月の中旬頃に、
77 O はい。

d. 応答のまとめ

例（7）は、「応答のまとめ」の例である。501K で、企業研究を何社ぐらいしていたかについて質問者Kが質問したことをについて、応答者Fが505F、508Fで応答する。その応答に対して、質問者Kが、509Kと515Kで言い換えてFの応答をまとめ、〈確認要求〉をする。質問者Kは、515Kで〈Ⅱ．談話表示〉〈話をまとめる機能〉の「じゃあ、」を用いている。

（7）（【資料3-4】母語場面、質問者K、応答者F）

- 501 K 何社ぐらいなんかこう、見たりしました？
- 502 F 30社ぐらいですねー。
- 503 — 【タイマー】
- 504 K あの、プレエントリーを出したぐらい？
- 505 F ま、エントリーシートを提出する//ぐらい、ですね。
- 506 K ぐらい。
- 507 K あー。
- 508 F 30社もなかった//かな。
- 509 K そんなに量は見ない感じですね。
- 510 F 行けないって//いう。
- 511 K そうですよね {笑い}。
- 512 F 時間がなくて。
- 513 K なるほどなるほど。
- 514 F はい。
- 515 K じゃあ、結構集中型って感じですね。
- 516 F そうですね、一日2個とか、2、3個行っても、
- 517 F あまり、そのぐらいの数だったんで、僕は。
- 518 K はい。

e. 応答に対する反応

質問者の応答者の「応答に対する反応」は、接触場面よりも母語場面の方が多い。例えば、例（8）のように、応答者Fの応答に対して、〈Ⅳ．提供〉の〈見解表明〉や〈評価表明〉、〈Ⅴ．受容〉の〈興味〉、〈共感〉で反応をする例は母語場面の全8資料

に見られた。例（８）は質問者Kが応答者Fに 338K と 345K で〈評価表明〉を用いて反応する。「～ね」、「～よね」を使用し、OB・OG 訪問の約束を取るために電話したことについて、338K「大変でしたね」、345K「緊張しますよね」という「共感」を表す反応の例である。

（８）（【資料 3-4】母語場面、質問者K、応答者F）

329 K OBOG 訪問した時ってのは、結構人のコネとかっていうのをよく聞くんですけど。

330 F いや、僕は//先輩、全然いなかったんで、

331 K キャリア、

332 K キャリアセンター、

333 F 名簿見て、

334 K あ。

335 F A 大学の//電話して、

336 K {笑い} 電話して、あー。

337 F 頑張りました。

338 K あー、{笑い} 大変でしたねー。

339 Fすごい緊張します。

340 F でも、1 回電話//始めたら、

341 K はい。

342 Fほんと結構//楽になるんで、

343 K はい。

344 F 最初の1 本目だけ緊張//します。

345 K 緊張しますよねー。

f. 共通の話題

例（９）は、質問者Tが応答者Fの応答に反応し、「私も～」という「共通の話題」を提示している。

（９）（【資料 3-3】母語場面、質問者T、応答者F）

36 F あの一、海外に行けるような企業で//探してたんですね。

37 T うーん。

38 T はい。

- 39 F だから、そのー、食品だけじゃなくて、
- 40 F もちろん、商社とか。
- 41 T はい。
- 42 F 実は、商社に一番行きた//かったんですけど、
- 43 T あ、そうなんですか。
- 44 F 商社とか、あと、ま、ほんとに銀行とかも//色んな業界受けましたねー。
- 45 T うんうん。
- 46 T あー、私も国際教養学部なんで、
- 47 F はい。
- 48 T なんか、2回ぐらい留学行ったんで、
- 49 T 結構、海{くしゃみ}外行きたいなとかって思ってた、
- 50 F はい。
- 51 T 食品って結構海外行けるんですか？
- 52 F 食品はそうですね、

以上のように、就職活動の相談は、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」を提示して、積極的に参加している。母語話者は、〈Ⅲ. 要求〉のみならず、〈Ⅳ. 提供〉や〈Ⅴ. 受容〉の様々な発話により、応答者の反応を意識しながら、情報収集をするというような談話展開の方法を取っている。

一方、学習者の質問者は、主として、〈Ⅲ. 要求〉の発話機能を用いた質問のみで話を展開させ、それに対応する応答から情報収集している。これは、「6. 2. 2」で前述した、日本語母語話者の「共有型」の談話展開と韓国語母語話者の「要求型」の談話展開という情報収集の談話の展開方法が異なることが原因ではないかと考えられる。学習者も「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「e. 応答に対する反応」の発話は、共通して見られたものの、出現数は少ない。そのため、応答者との相互作用を意識した談話展開のための表現形式を学習する必要がある。

次に「b. 前置き＋質問」について言及する。これは、母語場面と接触場面ともに見られた共通の特徴である。「前置き」の内容は様々で、例(10)の自分の就職活動の状況や、例(11)の自分の見解を「～思うんですけど、」と示すもの、例(12)の聞いた

話題を「～と聞いたんですけど、」と示すもの、例（13）の応答者の先行発話を、「先ほど～とおっしゃってたんですけど、」で反復するもの、例（14）の「～について聞きたいんですけども、」とこれから話す話題を予告するメタ言語表現などがある。

【資料 3-12】のみは、例（15）のように、韓国の事例を「前置き」で示し、その後、日本の状況を聞く質問が観察された。

以下、5種の発話例を例（10）～例（15）に示す。

（10）自分の活動状況＋質問（「【資料 3-3】母語場面、質問者T、応答者F）

98 T えーと、なんだ、あの、ESとか、今、書き出したんですけど、

99 F はい。

100 T どういうことに注意していけばいいですか？

101 F やっぱり、その、志望動機っていうのは、その会社ごとに考えるしかないので、

102 F なんとも言えないんですけど、

（11）自分の見解＋質問（【資料 3-4】母語場面、質問者K、応答者F）

2 27 K あの一ー一、なんかお、落ち込んだ時とかって、たくさんあったと思うんですけど、
＝ど、

28 F はい。

29 K どうやって対処しましたか？

30 F 僕はやっぱり、友達に話して//ましたね。

31 K あ一ー一、なるほど。

（12）伝聞＋質問（【資料 3-1】母語場面、質問者K、応答者F）

129 K あの、銀行とか商社って1日から始まるって言うじゃないですか、面接。

130 F はい。

131 K それで、バッティングっていうふうに聞いた//んですけど、

132 F はい、はい。

133 K それってありました？

134 F えっと、バッティング一ー、僕はーあんまりなかったですね。

(13) 応答者の先行発話＋質問（【資料 3－5】母語場面、質問者K、応答者F）

294 K あと一、さ、さっき商社とか、興味あったとかおっしゃったんですけど、

295 F はい。

296 K 商社の面接とか受けましたか？

297 F そうですね、商社は//一、7社全部受けて、

298 K はい。

299 K はい。

(14) 話題の予告＋質問（【資料 3－8】母語場面、質問者H、応答者N）

27 H はい、じゃあ、まず始めに、じゃ、志望した業界とか企業のことについて//聞きたいんですけども、

28 N はい。

29 H なんかどこを志望されましたか？

(15) 韓国の事例＋質問（【資料 3－12】接触場面、質問者S、応答者F）

472 S ちょっと、韓国は面接のために、

473 S これ、なんて言えばいいか、ちょっと分からないんですけど、

474 S なんかアカデミーみたいな//ものがあって一、

475 F 就活塾みたい//な？

476 S はい、塾ですね。

477 F は、いはい。

478 S 就活塾みたいのがあって一、

479 S 結構、なんか90%//の人たちが、1カ月ぐらいとか、い、1カ月経ったら、

480 F うんうん。

481 — {アラーム}

482 S 短いんですけど、

483 F はい、はい。

484 S 行きますね。

485 F は//い、はい。

486 S で、日本でもあるかなー。

487 F 日本でありますけど、

488 F そんなに//メジャーじゃないし、

この「前置き+質問」をどれだけ発話たのかを見るために、【表 25】に、資料別の 5 種の「前置き+質問」の数を示す。

【表 25】「前置き+質問」における種類別合計

前置き 資料番号	①活動状況	②見解	③伝聞	④応答の 先行発話	⑤話題の 予告	⑥韓国の 事例	合計
【資料 3-1】	5	2	2	1			10
【資料 3-2】	1	5	1				7
【資料 3-3】	6	2					8
【資料 3-4】		2	2				4
【資料 3-5】	4						4
【資料 3-6】					2		2
【資料 3-7】		3					3
【資料 3-8】	2	3		1	2		8
NS 合計	18	17	5	2	4	0	46
【資料 3-9】	2	1		1			4
【資料 3-10】			1				1
【資料 3-11】		3	1				4
【資料 3-12】	3	1	1			1	6
【資料 3-13】		1			1		2
【資料 3-14】	3				1		4
【資料 3-15】							0
【資料 3-16】		1		1			2
NNS 合計	8	7	3	2	2	1	23
全 16 資料	26	24	8	4	6	1	69

【表 25】によると、「前置き+質問」は全、16 資料のうちの 15 資料にあり、ほぼ全員の質問者が使用している。また、「①活動状況+質問」は、8 資料にあり、26 例、「②見解+質問」は 9 資料に 24 例、「③伝聞+質問」は 6 資料に 8 例、「④応答者の先行発話+質問」は 4 資料に 4 例、「⑤話題の予告+質問」は 4 資料に 6 例用いられていた。

以上のように、「前置き+質問」は、母語話者と学習者の質問者がともに用いる典型的な質問といえる。フォローアップインタビューによると、応答者 2 名にとっては、

この「前置き+質問」が、「応答の助けになる」ということだった。例えば、「活動状況を言ってもらえると、その活動について具体的に答えられる」とし、「見解」、「伝聞」の提示により、質問者が「どういうことに興味を持っているかが分かるので、その話題に触れながら答えられる」と応答者は述べている。

そこで、以上のような〈事実説明〉や〈見解表明〉の「前置き+質問」を、応答者に対する配慮として、授業の学習項目として取り扱うことを提案したい。

6. 4 質問者による応答者の評価分析

本研究の調査で、応答者に課したチェックリストの5段階評価の平均を【表26-1】に示す。設問4の「言い直しや例の提示」がない場合は未記入としてある。

【表 26-1】 応答者による質問者の評価（全設問における平均値）

資料	応答者	質問者	質問				聞き手			進行				平均値
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
			質問内容	質問の順番	質問の仕方	(言い直しや例の提示は未記入)	あいづち	理解表示や理解確認	感想や評価表明	会話の開始	会話の終了	全体的な進行	話題転換	
【資料3－1】	応答者 F	NS1	5	5	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4.7
【資料3－2】		NS2	3	4	4	4	5	5	5	5	5	5	4	4.5
【資料3－3】		NS3	5	5	5		4	4	5	5	5	5	5	4.8
【資料3－4】		NS4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
【資料3－5】	応答者 N	NS5	4	3	3		2	4	4	4	4	2	2	3.2
【資料3－6】		NS6	4	3	4		3	3	3	5	5	3	3	3.6
【資料3－7】		NS7	3	3	4	3	4	2	1	5	5	3	3	3.3
【資料3－8】		NS8	5	4	3		4	4	3	4	4	5	5	4.1
【資料3－9】	応答者 F	NNS1	5	4	5	4	2	3	4	5	5	4	3	4.0
【資料3－10】		NNS2	3	3	3	2	2	3	4	5	5	3	3	3.3
【資料3－11】		NNS3	5	4	3	2	4	4	4	5	5	4	4	4.0
【資料3－12】		NNS4	4	4	3		3	4	4	5	5	3	2	3.7
【資料3－13】	応答者 N	NNS5	4	3	4	2	5	4	4	5	4	4	4	3.9
【資料3－14】		NNS6	3	2	2	1	2	2	3	3	3	2	2	2.3
【資料3－15】		NNS7	4	3	3	1	3	3	2	4	4	3	3	3.0
【資料3－16】		NNS8	2	3	2	1	1	1	1	4	4	3	2	2.2
全資料の平均値			4	3.6	3.6	2.6	3.4	3.5	3.6	4.6	4.6	3.7	3.4	3.7
NSの平均値			4.3	4	4	4	4	4	3.9	4.8	4.8	4.1	3.9	4.1
NNSの平均値			3.8	3.3	3.1	1.9	2.8	3	3.3	4.5	4.4	3.3	2.9	3.3

2名の応答者（F、N）別に評価を見ると、応答者Fより応答者Nのほうが厳しい評価をしていることが分かる。平均値は、母語話者の方が0.8ほど高く、母語話者のほうが高く評価されている。資料別に見ると、母語話者は、3.2から5、学習者は2.2から4.0に評価され、資料によりばらつきがみられる。母語話者の中には、学習者よりも低い評価の例もあり、学習者の中には、母語話者よりも高い評価の資料もある。

応答者に課したチェックリスト²⁹の5段階評価の横の「理由」という欄に記されたコメントを、以下、【表 26-2】に項目別に示す。これにより、評価の低い理由と高い理由が分かる。

評価項目1「質問内容」については、母語話者NS2の理由がある。評価は「3」で、質問の内容についてコメントが「1回の質問の中に2つの質問が含まれていたことがあった」とあり、答えにくいことを示している。また、評価項目11の「話題転換」について、学習者NNS7の理由「「次に～」「最後に～」を使っていた。」というよい評価のコメントが記載されている。そのため、母語話者でも悪い評価があり、逆に、学習者でもプラスの評価をされているということがいえる。

【表26-2】評価「理由」

	評価項目		評価	理由
質問	1	答えやすい質問内容だった。	3	1回の質問の中に2つの質問が含まれていたことがあった。(NS2)
			3	ありがちな質問ばかりだったので。(NS7)
			5	内定先に興味を持たれていた。(NS8)
			4	具体的な質問もあった。(NNS5)
			3	ざっくりしすぎていて答え方に困る場面も。(NNS6)
			2	抽象的すぎた。(NNS8)
	2	答えやすい質問の順番であった。	3	前後していた部分があった。(NS5)
			3	聞きたいことから聞いたので、時系列がばらばら。(NS7)
			2	よくわからない順番でした。(NNS6)
	3	1問1答でなく、質問を重ねて深く掘り下げることができた。	3	用意した質問をそのまま質問している様子。脈絡がなかった。(NS2)
			5	前の質問に関連した質問が続いた。(NS3)
			4	質問数が少なかった分、1つが深くなかった(NS6)

²⁹ 6. 1の「応答者に課したチェックリスト」を参照のこと。

			4	興味のあるところはしっかりと聞いていた。(NS7)
			2	ほぼすべて単発。(NNS6)
			2	こちらからのリフリーズが多かった。(NNS3)
			1	こちらが確認しなければいけなかった。(NNS6)
聞き手	5	あいづちを十分に使用できた。	2	少なかった気がする。(NNS2)
			2	あまりなかった。(NNS3)
			2	緊張していた。(NS5)(NNS6)
			5	目を見て話をきいていた。(NS7)
			5	リアクションが大きかった。(NNS5)
			3	「たしかに」がログセ。(NNS7)
			1	だまったままで何を考えているのかわからなかった。(NNS8)
	6	答えに対して、理解表示や理解確認ができた。	2	ある程度は理解しているはずだが、表に出ていなかった。(NNS6)
			3	「たしかに」しか言わないので、どの程度かわかりませんでした。(NNS7)
			1	だまったままで何を考えているのかわからなかった。(NNS8)
進行	8	挨拶などをして会話を始めることができた。	4	げんきよかった。(NS5)
			5	すごくしっかりしていました。(NS6)
			3	名乗らなかった。(NNS6)
	9	挨拶などをして会話を終えることができた。	4	げんきよかった。(NS5)
			5	すごくしっかりしていました。(NS6)
	10	全体的な進行ができた。	2	緊張していた。(NS5)
			3	質問に困る場面が何度か。(NS7)
			5	すごく上手だったと思います。(NS8)
			2	スムーズではなかった。(NNS6)
	11	次の話題(質問)への転換がスムーズであった。	2	話をさえぎって別の質問をする場面があった。(NNS4)
			3	脈絡なく話題が変わる時があった。(NN5)
			4	「次に～」 「最後に～」を使っていた。(NNS3)
			5	会話のとぎれ目をあまり感じなかった(NS3)
			2	スムーズではなかった。(NS5)(NNS6)
			3	質問に困る場面が何度か。(NS7)
			5	すごく上手だったと思います。(NS8)

6. 5 評価に基づく質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の出現傾向と表現形式

本節では、全 16 資料の中で評価が最も高い【資料 3-4】(質問者 NS 4) と、同じ応答者 F が評価した評価が最も低い【資料 3-6】(質問者 NNS 2) の例について比較する。全 16 資料の中で最も評価が低かったのは、【資料 3-16】であるが、【資料 3-4】と比較分析するため、応答者 2 名 (F、N) のうち、会話の相手、評価者を同一人物にするため、応答者 F とペアになった【資料 3-4】と【資料 3-10】を取り扱う。

6. 5. 1 質問数

【表 27】に 2 資料の質問数と割合を示す。質問は文単位で数えた。これによると、情報収集の談話ということで、2 資料とも、当然のことながら質問者の方の質問数は多い。応答者の質問は少ないが、【資料 3-4】に 5 例、【資料 3-10】には 8 例あった。

【表 27】【資料 3-4】と【資料 3-10】の質問数

【資料 3-4】		【資料 3-10】	
応答者 F	5 (9.6%)	応答者 F	8 (17.8%)
質問者 K (NS 4)	47 (90.3%)	質問者 H (NNS 2)	35 (77.8%)
合計	52 (100.0%)	合計	45 (100.0%)

応答者からの質問の内容を見るために、以下、【資料 3-4】と【資料 3-10】に発話例を示す。

(16) 母語場面における応答者 F からの質問例 (【資料 3-4】質問者 K、応答者 F)

123 K 最終的な決め手になったのは何だったんですか？

124 F うちの会社一。

125 K はい。

126 F は、そーですね//、えっとやっぱり、その、僕、A (企業名) のインターンも行ってた＝んですけど、

127 K はい。

(17)接触場面における応答者Fからの質問例（【資料 3－10】 質問者H、応答者F）

- 11 H 今まで、どれぐらいの会社にエントリーして、
12 H 何個受かって、
13 H 何個落ちたんですか。
14 F えっとー、エントリーシートを提出して、
15 H はい。
16 F エントリーシートが通った数でもだいじょうぶですか。
17 F それとも、面接とかも含めてですか。
18 — [沈黙 2 秒]
19 H 面接とかも含め//て。
20 F 含めて。

(18)接触場面における応答者Fからの質問例（「【資料 3－10】 質問者H、応答者F）

- 260 H 面接の時は、どーやったんです、か。
261 F どうやったっていうのはー。
262 H なんか、自分、（2）自分の強みをどんなアピールした//んですか。
263 F あー、なるほど。
264 F ま、そんな、そんな特殊な言い方とか全然しなかったんですけど、
265 F うん、そうですねー、なるべく分かりやすく、
266 F 簡潔に、話すってことは、すごい意識して面接やってましたね。

例（16）（17）（18）によると、応答者Fが、質問者の質問の意図を確認するのに、〈要求〉系の発話機能を用いて応答者に尋ねている。全 16 資料についても、応答者の質問は、接触場面の方に多い。【表 23－1】と【表 23－2】の参加者別の発話総数と発話機能総数の応答者の〈確認要求〉の総数は、母語場面の応答者の〈Ⅲ．要求〉が 98 発話、接触場面は 70 発話である。中でも、〈確認要求〉は 20 発話だが、接触場面の応答者は 59 発話で約 3 倍もあり、接触場面の応答者は、〈確認要求〉を用いて、質問者の発話を確認しながら、話を展開しているといえる。また、「6．2．2」で前述したが、[沈黙]が生じる場合は、応答者が〈単独行為要求〉を用いて、話を進めたり、就

職活動に不安のある学習者に対して、応答者が、〈Ⅲ．要求〉の発話を用いて、情報を要求したりする場面が複数見られた。

6. 5. 2 質問の提出順

【表 28-1】に【資料 3-4】の質問者K（NS 4）の発話例を、【表 28-2】に【資料 3-10】の質問者H（NNS 2）の発話例を示した。

これによると、質問者K（NS 4）は、まず、応答者の具体的な内定先や就活での軸、エントリーの数や時期等、応答者の基本的な情報を聞いた上で、他の質問を重ねている。後半には、就活全般を通してよかった点と反省点、就活の情報収集の仕方について、応答者の意見や感想を求める質問をしている。1 話段中の発話連鎖に注目すると、質問者K（NS 4）が、応答者の応答を発展させた質問をしており、一つ的话题を深く掘り下げていくような談話展開の方法を用いている。

一方、質問者H（NNS 2）の始めの質問は、H11～13 の「受かった数と落ちた数」についてである。応答者は、フォローアップインタビューで、「はじめにこの質問がきたので驚いた。」という感想を述べている。このようにデリケートな個人情報に関する質問をいきなり前置きもせず、会話のはじめにすることは、応答者に心理的負担を与えるため、日本語の情報収集の談話では避けなければならないものである。その後の質問は、活動を始めた時期やサークル、アルバイト、企業研究、説明会等、内容が多岐にわたっていた。1 話段中の発話連鎖をみると、1 問 1 答ではないが、短い発話連鎖が多くなるという結果となった。

6. 5. 3 情報収集に用いる表現形式

【表 28-1】と【表 28-2】で、質問者の発話の表現形式を分析する。

これによると、質問者H（NNS 2）は「～か。」の表現が多いが、質問者K（NS 4）は「～か。」以外にも、「～ね。」、言いよどみ、上昇イントネーションなどの様々な言語表現を使用して、応答者からの情報を収集している。また、質問者K（NS 4）の方が、一つの質問の発話数が多く、〈Ⅱ．談話表示〉＋〈Ⅲ．要求〉や、〈Ⅳ．提供〉＋〈Ⅲ．要求〉等、発話機能を組み合わせて質問をしていることもわかる。これは、**課題 1**のインタビュー番組とインタビュー取材の母語話者の質問者と共通する特徴である。

【表 28－ 1】【資料 3－4】の質問者 K（NS 4）の発話例（1）

話段区分						I.	II.	III.	IV.
大話段	話段	質問番号	発話番号	参加者	発話例	注目要求	談話表示	要求	提供
II.	1	1	10	K	あのー、えーと、じゃ、ど、どういところに就職するかよつと聞いてもいいですか？	注目要求	始める	説明要求	
		2	15 16 17	K K K	いつぐらいに決めたんですか？ 決めたというか、 こう、第一希望とか第二希望とかっていうのは。			説明要求 説明要求 説明要求	
	2	3	27 28 30	K K K	あのー、なんかお、落ち込んだ時とかって たくさんあったと思うんですけど、 どうやって対処しましたか？	注目要求		説明要求	見解表明 見解表明
		4	44	K	結構、結構頻繁に[笑い]会ってました？			判定要求	
		5	61 63 64	K K K	なんかその最終で落とされるっていうのをー、 今さっきも聞いて、 そんなことがそんなに頻繁に起こるんだと思ったんですけど。			判定要求	事実説明 事実説明 見解表明
		6	73	K	終面でグループディスカッションがあるんですか？グループディスカッション。			判定要求	
		7	81	K	じゃあ、結構。		進める	確認要求	
		8	84 85	K K	まあ、じゃ、結構、落ち込まないようにするのが大事なんですかねー、 どうしたら。	注目要求	進める	確認要求 説明要求	
		3	9	106	K	あのー、それ、それって企業を選ぶ時の軸っていうのはどこに置いてたんですか？	注目要求		説明要求
	10	121	K	あー、もう幅広くー。			確認要求		
	11	123	K	最終的な決め手になったのは何だったんですか？			説明要求		
	12	138	K	あー、軸。			確認要求		
	13	142	K	インターンは他に行ってたんですか？			判定要求		
	14	148	K	3つ行っただけですね。			確認要求		
	15	152	K	いつ頃からそういうの行ってたん//ですか？			説明要求		
	16	158	K	何やったんですか？			説明要求		
	17	180	K	それで、結構こう社員さんともこう仲良くなってー？		進める	判定要求		
	18	183	K	ふいんき(雰囲気)も分かったっていら。			確認要求		
	19	184 185	K K	なんかむしろ、その損保系の会社とM(企業名)じゃなくて、 あの、最終的にA(企業系)がいいなとか思ったとかって理由ってありますか。	注目要求		判定要求 判定要求		
	4	20	203	K	何社ぐらいエントリーしましたか？最終//的に。			説明要求	
		21	209	K	プレエントリーだとか？			説明要求	
		22	217 218 221 222 224	K K K K K	なんかエントリーの時期もー、 業界によって違う//って今、聞いたんですけどー、 結構あれですか、 4月の私、その辺のイメージ湧かない//んですけど、 4月の1日から面接がどわって始まるイメージで、いいんですか？	注目要求		判定要求	事実説明 事実説明 事実説明
		23	227	K	その30社っていうのはー、全部その、4月1日の前に通る、出すっていら//イメージなんですか？			判定要求	
		24	245	K	くる、分かるん//ですか？			判定要求	
		25	249 250	K K	で、そこから、1日より分かる、分かって、 そこから、自分で面接の日を選んでって//いう感じなんですか。		進める	判定要求	
		26	253	K	1日にどれぐらい面接したんですか。			説明要求	

【表 28－ 1】【資料 3－4】の質問者 K（NS 4）の発話例（2）

5	27	272	K	OB訪問とかOG訪問とかっていろいろのはどのぐらい//しましたか？			説明要求	
	28	281	K	いいん//ですかねー。			確認要求	
	29	294	K	商社とかっていろいろのは？（関係ないんですか）			説明要求	
	30	313	K	じゃ、あんま選考には関係ないけど、		まとめる	確認要求	
		315	K	情報収集のためにいろいろ//感じですね。			確認要求	
	31	323	K	キャリアセンターとかって活用してました？			判定要求	
	32	329	K	OBOG訪問した時ってのは、結構人のコネとかっていろいろのをよく聞くんですけど。			判定要求	
	33	349	K	結構受け入れてもらえるもんですか？			判定要求	
	34	356	K	それって人事にかかるんですか？			判定要求	
	35	359	K	そこに直接かかるんですか？			判定要求	
6	36	363	K	あと、あれだ、テストとかSPIとかの勉強って結構しました？			判定要求	
7	37	386	K	あの一、あと一、就活全般を通して一、	注目要求	変える	単独行為要求	
		387	K	なんかよかったなーって思うところと一、			単独行為要求	
		388	K	あの、反省しているところとかってあったら教えてください。	注目要求		単独行為要求	
	38	407	K	あー一、これは結構大事ですよー。			確認要求	評価表明
	39	424	K	他に//ありますか？			判定要求	
	40	444	K	あと、なんか友達がこれやってて、		重ねる	判定要求	
		445	K	すごいよか、よかったなーとか、			判定要求	
		446	K	真似したかったなーとか思ったこと//とかありますか？			判定要求	
8	41	454	K	情報収集ってどういふふうにしてました？			説明要求	
		455	K	結構情報一杯来ちゃって、			判定要求	
		456	K	こう溢れたりしなかったですか？			判定要求	
	42	459	K	例えば、何月何日にテストがあつて一とか、		深める		事実説明
		460	K	なんかESの締め切りがあつて一//とか、				事実説明
		462	K	そういう情報とか。				事実説明
		463	K	あと、説明会でもらってきた資料を、		進める	説明要求	
		464	K	どういふふうファイリングしたりとか//してたんですか？。			説明要求	
		466	K	情報収集とそのまとめていらか。			説明要求	
	43	479	K	あんまり情報が溢れすぎちゃって一ってことはなかった。			確認要求	
	44	492	K	あんまりないんですよー？。			確認要求	
	45	501	K	何社ぐらいなんかこう、見たりしてました？			説明要求	
	46	504	K	あの、プレエントリーを出したぐらい？	注目要求		判定要求	
	47	515	K	じゃあ、結構集中型って感じですね。		まとめる	確認要求	

【表 28－2】【資料 3－10】の質問者 H（NNS2）の発話例

話段区分		質問 番号	発話 番号	参加者	発話例	I.	II.	III.	IV.					
大話段	話段					注 目 要 求	談 話 表 示	要 求	提 供					
II.	1	1	11	H	今まで、どれぐらいの会社にエントリーして、 何個受かって、 何個落ちたんですか。			説明要求						
			12					説明要求						
			13					説明要求						
	2	2	28	H	内定もらったんですか？			判定要求						
			3					36		H	説明要求			
								4			51		H	判定要求
	5	5	58	H	面接とか一は行ったんですか？			判定要求						
			6					84		H	だけどなんか説明会行ったら なんか色々(1)「外国行く機会たくさんあるよ」って言うんじゃないですか、外資系。 IT//企業は。	進める		見解表明
								85						見解表明
	3	3	7	94	H	あと、就活の時、サークルとかバイトは(1)どうやってたんですか。			説明要求					
			8	99	H	サークルは引退、(したんですか。)			判定要求					
			9	101	H	休みですか。			判定要求					
			10	104 105	H H	就職終わったら、 また//やったんですね。			確認要求 確認要求					
	4	4	11	108	H	エントリーシートで、シートで、自分だけの特色は何ですか。			説明要求					
			12	112	H	ないですか。			確認要求					
	5	5	13	136	H	あと、SPIとかは//どうやって準備したんですか。			説明要求					
			14	142	H	それ、それでも一、うかつた//という(ことですか。)	進める		確認要求					
			15	168	H	日本企業はまだウェブテストは始まってないんですよ。		確認要求						
	6	16	172	H	企業研究は//、どうやってやったんですか。			説明要求						
	8	8	17	196	H	合同説明会よりは//、1つの会社の説明会がいいですか。			判定要求					
			18	206	H	僕はその説明会行って、			判定要求					
				207	H	なんか質問とかしたほうがいいんですか。			判定要求					
			19	210	H	ふ、普通に無口でいて大丈夫ですか。			判定要求					
	9	9	20	221	H	ほんとにSPIの勉強を全然やってない//んですか。			判定要求					
			21	248	H	日本、企業は、ちょっと、あんまり難しくないんですか、SPIとか。			判定要求					
			22	251	H	ほとんど面接はいけるんですか。			判定要求					
	10	10	23	260	H	面接の時は、どーやったんです、か。			説明要求					
			24	262	H	なんか自分(2)自分の強みをどんなアピールした//んですか。			説明要求					
			25	269	H	必要な情報、だけ。			判定要求	言い直し				
			26	281	H	それって面接って、ひと、1対1じゃなくて。			判定要求					
	11	11	27	290	H	ほんとに行きたい会社に行ったんですか。			判定要求					
			28	310	H	内定が決まった時期はいつーですか。			説明要求					
			29	314	H	そんなに早いんですか。			判定要求					
			30	317	H	それが平均、ですか。			判定要求					
			31	320	H	日本の//企業もそんなに早いんですか。			判定要求					
			32	325	H	この冬、休み全然遊べないんじゃないんですか。			判定要求					
			33	339	H	この、今内定もらった会社以外に内定もらった会社はどこですか。			説明要求					
			34	341	H	日本の？			判定要求					
			35	373	H	笑顔、大事ですか。			判定要求					

以上、本章では、母語場面と接触場面における学部大学生と留学生による就活相談を分析対象に、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式という3種の分析観点から分析した結果、(1)～(3)に、日本語母語話者と韓国人日本語学習者の質問者には、共通点と相違点があることが明らかになった。また、両者の間には、談話展開の方法に違いがあることも明らかになった。これは、韓国語母語話者の母語の干渉によるものといえる。

そこで、韓国人日本語学習者を対象とした日本語の会話の授業では、応答者との相互作用に基づいた談話展開の方法を学習する必要があると考えられる。

第7章 会話教育への応用

本章では、7.1で課題1と課題2で明らかになった分析果をまとめ、7.2で「日本語教育における情報収集活動の取り扱い」について示す。その後、7.3で示した2009年から2013年までに実施した韓国の私立B大学と日本の私立C大学における授業実践から出た課題を踏まえ、7.4で上級の会話教育への応用を提案する。

7.1 日本語の情報収集の談話展開

本節では、課題1で分析した【資料1】テレビのインタビュー番組、【資料2】大学広報紙のインタビュー取材、【資料3】学部大学生と留学生による就活相談という3種類の情報収集の談話の展開方法を分析した結果をまとめる。3種類の談話を分析した結果、(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式に関する共通点が明らかになった。

7.1.1 情報収集の談話構造

3種類の情報収集の談話を分析した結果、【表29-1】のような基本的な談話構造が認められた。

【表29-1】情報収集の談話の基本的な談話構造

I. 大話段	II. 話段	III. 小話段
I. 情報収集の目的説明	1. 開始の挨拶	
	2. 自己紹介	
	3. 質問者の情報収集の目的説明	
II. 情報収集の展開	1. 基本的な情報収集(事前質問)	1.事実を求める質問 2.意見を求める質問 3.助言を求める質問
	2. テーマに関する情報収集	
III. 情報収集の目的完了	1. 情報収集に対する感想	
	2. 終了の挨拶	

本研究の対象とした質問者と応答者の相互作用により談話を展開する情報収集の談話は、質問者が応答者に対して、突然質問を始めるものではなく、段階的な手順を踏んで展開するものである。話段の種類は、基本的に3次元の大小のまとまりであり、3大話段と話段、小話段からなる。まず、「I. 情報収集の目的説明の大話段」では、

「1. 開始の挨拶」をし、お互い「2. 自己紹介」をする。その後に、「3. 質問者の情報収集の目的説明」をする。これは、取材の談話の「取材の目的説明の話段」に該当する。

次に、情報収集の中心となる「Ⅱ. 情報収集の展開の大話段」では、まず、応答者の所属等を問う「1. 基本的な情報収集（事前質問）」を行う。インタビュー番組においては、応答者（ゲスト）の専門分野、取材においては、所属などの「ゲストの紹介の小話段」に当たる。次に「2. テーマに関する情報収集」をするが、この話段がメインの情報収集の話段となる。最後の「Ⅲ. 情報収集の目的完了の大話段」では、応答者の発話に対する「1. 情報収集に対する感想」を述べ、「2. 終了の挨拶」で終わる。

「Ⅱ. 情報収集の展開の大話段」の「2. テーマに関する情報収集の話段」を質問形式の3分類である「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」に分類した結果、次のような段階的な手順が観察された。まず、「1. 事実を求める質問」でテーマに関する基本的な情報や簡単な質問をする。就活相談だと内定先、エントリーシート数や時期、志望業界などの主に〈事実説明〉で答えられる質問である。次に、それらの情報を押さえた後、「2. 意見を求める質問」で〈見解表明〉や〈評価表明〉を用いて応答者から意見や感想を求める質問をする。最後に「3. 助言を求める質問」で自分に引き付けた質問をする。番組の場合は、テーマに関して視聴者はどのようにすればよいか、取材の場合は、在校生へのアドバイス、就活相談では、この活動において具体的にどうすればよいか助言を求める。以上の4種の話段は一つの談話において3～10回反復され、多重構造を成す。これは、会話時間に影響している。

本研究は、「問い—答え」の隣接ペアも1話段と捉えている。全3種類の資料に観察された1話段中における発話連鎖を各種の発話機能の組み合わせとともに【表 29-2】に示す。5種類全ての発話が観察され、母語話者は、5種を適宜組み合わせて談話展開をしていた。この発話連鎖は、「Ⅲ. 小話段」の下位次元に位置し、それぞれ異なる発話連鎖の種類が反復される。日本語の情報収集の談話には、大小様々な話段からなる多重構造が認められた。

【課題2】において、接触場面の談話には、【表 29-2】の主に「種類1」の発話連鎖が多く観察された。ある話題1の「質問1—応答1」、別の話題2の「質問2—応答2」というように、質問者の「質問」と応答者の「応答」の発話連鎖から形成される談話

構造であった。そこで、授業で、情報収集の会話を取り扱う際に、情報収集は【表 29－1】のような談話構造に基づいて、談話が展開しており、情報収集には手順があることを意識させたい。

【表 29－2】 1 話段中における発話連鎖の種類

話段 参加者 種類	話段1						話段2
	①質問者	②応答者	③質問者	④応答者	⑤質問者	⑥応答者…	
1	質問	応答					質問
	〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉					〈要求〉
2	質問	応答	反応				質問
	〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉	〈受容〉/〈提供〉				〈要求〉
3	質問	応答	応答確認	応答確認反応			質問
	〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉	〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉			〈要求〉
4	質問	質問確認	質問確認反応	応答	反応		質問
	〈要求〉	〈受容〉/〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉	〈受容〉/〈提供〉	〈受容〉/〈提供〉		〈要求〉
5	質問1	応答1	反応1+質問2	応答2	反応2+質問3	応答3…	質問
	〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉	〈受容〉/〈提供〉 + 〈要求〉	〈受容〉/〈提供〉	〈受容〉/〈提供〉 + 〈要求〉		〈要求〉

7. 1. 2 情報収集の質問の提出順

「Ⅱ. 展開部の大話段」においては、まず、「1. 事実を求める質問」を最初にして、基本的な情報を押さえ、次に、「2. 意見を求める質問」を、最後に、自分への助言を例とする自分に引き付けた質問の「3. 助言を求める質問」をするという提出順が認められた。

7. 1. 3 情報収集に用いる表現形式

質問者の質問表現には様々な種類が観察された。発話機能においては、〈Ⅲ. 要求〉系の〈確認要求〉〈判定要求〉〈選択要求〉〈説明要求〉〈単独行為要求〉〈共同行為要求〉〈言い直し要求〉の7種が用いられる。母語話者は、様々な〈要求〉系の発話機能を用いた質問表現を使い分けて、情報収集をしているといえる。質問表現は、**課題2**の分析結果によると、疑問詞を使用する〈説明要求〉と終助詞「～か」による〈判定要求〉の基本的なものが多く、この外に、**課題1**で観察された「～ね」、「～かね」、言いよどみ、上昇イントネーションなどの様々な表現形式も授業の学習項目として取り扱う必要がある。

また、質問者には、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」という様々な特徴が認められ、【表 30】に

示した表現形式を用いている。

【表 30】日本語の情報収集に用いる表現形式

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈V. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈III. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか。(。/ね)	〈III. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈III. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き+質問	5 ～ですが、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈III. 要求〉
	6 ～ですけど、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈III. 要求〉
	7 ～ですけれども、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈III. 要求〉
	8 ～と思うんですが、～か。	〈IV. 提供〉〈見解表明〉+〈III. 要求〉
c. 話題転換	9 では、～	〈I. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃ、～	〈I. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	11 じゃあ、～	〈I. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	12 じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、	〈I. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉+〈事実説明〉
d. 応答のまとめ	13 じゃ、次は～についてなんですが、	〈I. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉+〈事実説明〉
	14 先行発話を繰り返す。 例:Aさんのお話を伺うと、～。	〈IV. 事実説明〉
e. 応答に対する反応	15 そうですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	16 そうなんですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	17 そうなんですね。	〈V. 受容〉〈承認〉
	18 なるほど。	〈V. 受容〉〈承認〉
	19 そうですよ。	〈V. 受容〉〈共感〉
	20 へー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	21 おー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	22 ほう。	〈V. 受容〉〈興味〉
	23 あー。	〈V. 受容〉〈興味〉〈共感〉
	24 分かりました(す/した)。	〈VI. 提供〉〈見解表明〉
f. 共通の話題	25 感想 例:～(形容詞)ですね。参考になりました。	〈IV. 提供〉〈評価表明〉/〈見解表明〉
	26 私も～。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉

最大の特徴は全 3 種類の資料に共通し、学習者の談話にも見られた「b. 前置き+質問」である。「前置き」は、「1. 応答者の先行発話」、「2. 自分の見解」、「3. 伝聞」、「4. 話題の予告」、「5. 自分(母国)の状況」が含まれるが、この質問表現は、質問者が応答を振り返り、まとめ、応答者に分かりやすく質問を理解してもらうための配慮による質問である。そのため、このような「前置き」を伴う〈III. 要求〉系の表現も授業で取り扱う必要がある。

また、母語話者の質問者の大きな特徴として、「a. 応答確認」、「e. 応答に対する反応」が挙げられる。質問者は、質問をするだけでなく、応答者の応答に理解を示し、反応しながら、情報収集をしているのである。特に、自然談話の【資料 2】のインタビュー取材と【資料 3】の就活相談においては、その特徴が顕著に表れた。

「a. 応答確認」

質問者の質問に対して、応答者の応答が発せられたあと、質問者は応答の内容を確認する。使用される表現形式は、〈Ⅴ. 受容〉〈確認〉の応答の繰り返し、〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉の「～です（ね/よね）。」「～ということですか（。/ね）」、「～というわけですね。」などである。これにより、応答者に理解を示し、確認し、話をまとめ、次の段階に進行する。

「e. 応答に対する反応」

質問者は、応答に対して〈Ⅴ. 受容〉の発話の「はい」、「ええ」、「そうですか」、「そうなんですか」、「そうなんですね」等の〈継続〉や〈承認〉の発話で会話を促したり、理解を示すのみならず、「そうですよね」、「へー」、「あー」という〈興味〉や〈共感〉、〈Ⅳ. 提供〉の〈見解表明〉、〈評価表明〉の「分かります」、「それは、大変でしたね」「参考になりました」などの感想を述べ、共感を示すことも多い。また、【資料2】インタビュー取材と【資料3】就活相談の質問者は、応答者との共通点を見つけ出し、「f. 共通の話題」で共通の知り合いの話題や共通の体験談を提示することもある。それにより、質問者と応答者の心理的距離が近くなり、応答者の応答を促す効果があると考えられる。

このように、質問者は、〈Ⅲ. 要求〉のみならず、〈Ⅴ. 受容〉や〈Ⅳ. 提供〉によって積極的に会話に参加する。つまり、質問者と応答者の相互作用により、談話が展開されるのである。そのため、応答者を意識した談話展開の方法の学習が必要になる。

「c. 話題転換」

「Ⅱ. 展開部」の大話段では、複数の話題についてやりとりがされるが、その際、話題転換が起きる。3種の談話における話題転換の表現形式は、〈見解表明〉で、「わかりました」の理解表明、〈確認要求〉「～ということですね」などの表現で話をまとめた後で、〈Ⅱ. 談話表示〉の〈話を始める機能〉、〈話を変える機能〉の「では、～」、「じゃ、～」、「じゃあ、～」や、メタ表現の「次の質問は～」「話は変わるんですけど、～」などであった。質問者は、これらの表現を用いて、次の話題へ移行する。**課題2**は、学習者の唐突な話題展開が見られたため、話題転換の方法も学習項目として取り扱ったほうがよいと考えた。

以上のように、**課題1**で3種の談話を分析した結果、(1)情報収集の談話構造、(2)情報収集の質問の提出順、(3)情報収集に用いる表現形式に関する共通点が明らかに

なった。質問者は、様々な発話機能、表現形式を話段ごとに使い分けて、応答者の反応を意識しながら、談話を掘り下げる談話展開をしている。これらにより、より多くの情報を収集できると考え、分析結果を応用し、7. 4で日本語の会話教育の提案をすることにする。

7. 2 日本語教育における情報収集の談話の取り扱い

筆者は、これまでの日本語教育の実践経験において、口頭表現能力の向上を学習目標とした情報収集の談話を取り入れた会話の授業を複数回担当したことがある。本節では、本研究における情報収集の談話は、日本語教育においてどのように取り扱われているのかについて分析するために、「インタビュー」と「ビジターセッション」の取り扱いについて論じる。

7. 2. 1 日本語教材におけるインタビューの取り扱い

7. 2. 1. 1 教材の種類

まず、情報収集活動の一種であるインタビューを取り扱っている教材について述べる。

国際交流基金(2007:28)の『日本語教授法シリーズ6 話すことを教える』で、「インタビュアーの役割には、(1) 知りたい情報を得るための質問をする役割、(2) インタビューで聞いた話についてその理解や感想を示す聞き手としての役割、(3) インタビューの開始、終了、話題の転換、継続、相手の話のうながしなど、インタビューの進行を管理する役割があります。」と前提を述べ、「このような役割を果たす際に必要とされる談話能力やストラテジー能力は、特にインタビュー活動を通して育てることができます。」ということで、日本語の授業におけるインタビュー活動の重要性を述べている。

市販の日本語教科書で、「インタビュー」を取り入れたものには、Ⅰ) インタビュー活動を取り上げている教科書と、Ⅱ) インタビューを材料に学習する教科書の2種類がある。

前者の教科書としては、初中級レベルには、『①実践力のつく日本語学習 インタビュー編』、中級には、『②文化中級日本語Ⅱ』があり、上級には、『③トピックによる日

本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』、アカデミック・ジャパニーズの習得を目的とした教科書には、『④大学生の日本語—効果学習のために—』等がある。後者のタイプ教科書としては、『インタビューで学ぶ日本語』があり、これは、インタビューをしている談話の聞き取り練習を行う聴解教材である。

本節では、前者のインタビュー活動自体を目的とした教科書（Ⅰ）の分析をする。ここで、教科書に①～④の番号を付す。

【表 31】日本語教材におけるインタビューの取り扱い

	テキスト	出版年/著者	レベル/対象	取り扱う課	各課の構成
①	実践力のつく日本語学習—インタビュー編	1992年 谷口聡人・堀歌子・野村美和子	初級～中級	※教科書全体でインタビューを取り扱っている。 「パートⅠ」はインタビュー活動が中心とした基本の課が15課と、最後に留学生が実際に行った調査報告の実例が収められている。巻末には、各課のイントロダクション部分の語彙、文型、文法事項等のまとめとイントロダクション及びことばの準備部分の語彙索引が掲載されている。	(1) イントロダクション (2) ことばの準備 (3) 調査票 (4) 集計表 (5) 調査結果の発表
②	文化中級日本語Ⅱ	1997年 文化外国語専門学校日本語過程	中級	第1課「ニュースと新聞」 「聞く練習、作文、活動」〔話す・書く〕この人についてみました（インタビューをしてまとめる）	〔Ⅰ〕話す前に、使う表現、話してみよう 〔Ⅱ〕書く前に、書いてみよう
③	トピックによる日本語構造演習テーマ探しから発表へ 上級	2001年 専修大学国際交流センター	上級	第2課「仕事」 Ⅴ. 調査発表：インタビューと口頭発表	(1) インタビュー計画 (2) インタビューの例 (3) インタビューの仕方 (4) インタビュー結果の発表
④	大学生のための日本語—効果的学習のために—	1990年 産能大学日本語教育研究室	大学、短大、専門学校、大学院で学ぶ留学生	第1章情報収集の方法 2. インタビューによる情報収集 1 教務の窓口で 2 先生の研究室で 3 さあ、やってみよう	1 教務の窓口で (1) 始め方の例 (2) あいづちの例 (3) 確認のしかたの例 (4) 次の質問への移り方の例 (5) 話の終わらせ方の例 2 先生の研究室で (1) はじめ方 (2) 終わり方 3 さあ、やってみよう (1) クラスの中で情報収集する (2) 情報収集にでかける

①～④の教科書に共通するのは、インタビュー活動をするに当たり、インタビューの実施後に、作文や調査結果を発表する活動を課すことである。インタビュー活動は、口頭表現能力の育成はもちろん、インタビューの「応答者」から必要な情報を聞き取り、活動後の作文や発表の準備として原稿を書くこと、原稿を発表するために読むことなどをするように計画されている。インタビューを扱う教室活動は、話す技能と同時に、聞く技能、書く技能、読む技能の4言語技能を含む総合的な学習活動であり、日本語学習において、意義のある教室活動であるといえる。また、問題解決のために、

学習者が主体となって、積極的にコミュニケーションをする活動であるため、教室外の人物ともかかわりが持てる活動でもある。

7. 2. 1. 2 掲載された表現形式の分析と提案

教科書①、②、③は、インタビューを行う際に使用する表現形式について取り扱っている。教科書①は、「1. 見知らぬ人に声をかける」6種、「2. インタビューに答えてもらうことを頼む」5種、「3. 問い返すとき／さらに説明を求めるとき」5種、「4. 話を終わらせる」4種を扱っている。

教科書②は、2種のフローチャートが提示されており、1つ目は、「依頼をする」という会話において、「話を始める」1種、「日時を相談する・確認する」7種、「話を終える」1種を扱っている。2つ目は、「インタビューをする」という談話で、「インタビューを始める」3種、「質問をする 相手の話を促す」5種、「お礼を言う」2種の簡単な発話例が提示してある。

教科書③は、「(3) インタビューの仕方」という項目で、「(1) 依頼」4種、「(2) 説明を求めるとき」4種、「(3) 聞き返す」4種、「(4) お礼」3種、「(5) あいづち」5種を扱っている。

以上の項目から、〈要求〉系の表現に注目する。〈要求〉系の表現は、教科書①の「3. 問い返すとき／さらに説明を求めるとき」5種、教科書②の「インタビューをする」という談話の「質問をする 相手の話を促す」5種、教科書③の「(2) 説明を求めるとき」4例、「(3) 聞き返す」4種である。以下、各項目を引用し、横に本研究の分析観点である5類39種の「発話機能」を記す。

教科書①「3. 問い返すとき／さらに説明を求めるとき」5種

(1) すみません もう一度お願いします。 〈関係作り・儀礼＋単独行為要求〉

(2) すみません もう一度おっしゃってください。

〈関係作り・儀礼＋単独行為要求〉

(3) すみません それはどういう意味でしょうか。 〈関係作り・儀礼＋説明要求〉

(4) すみません それはどういう意味でしょうか。 〈関係作り・儀礼＋説明要求〉

(5) たとえばどんなことでしょうか。 〈説明要求〉

(p. 12)

教科書②「インタビューをする」の「質問をする 相手の話を促す」5種

質問をする

A. ・今のお仕事を始められたきっかけを教えてくださいませんか。 〈単独行為要求〉

・休みの日はどのように過ごされていますか。 〈説明要求〉

相手の話を促す

・そうなんですか。 〈受容〉

・ええ。 〈受容〉

(p. 34)

教科書③「(2) 説明を求める」4種

・たとえば、どんな例がありますか。 〈説明要求〉

・もう少し詳しくお話しいただけませんか。 〈単独行為要求〉

・その「～」というのは、どういう意味ですか。 〈説明要求〉

・～についてどうお考えですか。 〈説明要求〉

「(3) 聞き返す」4種

・何とおっしゃっていましたでしょうか。 〈言い直し要求〉

・「何～」でしょうか。 〈説明要求〉

・もう一度お願いします。 〈単独行為要求〉

・はいっ？ 〈言い直し要求〉

(p. 100)

以上の〈要求〉系の発話機能は、〈説明要求〉が8文と最も多く、次に、〈単独行為要求〉が5文で多い。また、〈確認要求〉、〈判定要求〉、〈選択要求〉の表現は扱われていない。従って、この3種の教科書は、限られた表現のみであり、〈要求〉系の表現の提示が不十分であると言える。というのは、本研究の分析結果によると、〈確認要求〉、〈説明要求〉、〈判定要求〉が最も多く用いられることから、〈説明要求〉以外にも、〈確認要求〉、〈判定要求〉の例を提示する必要があるためである。応答発話数に最も多い〈説明要求〉は、「応答者」に負担をかけてしまうため、〈説明要求〉のみの提示は避けて、その他の〈要求〉系表現も使い分けるようにすることを提案する。また、課題1で明らかになった、質問者の特徴的な「前置き+質問」の〈要求〉系の表現も必

要である。本研究の資料には、〈要求〉系の表現以外に、質問者からの〈Ⅳ．提供〉、〈Ⅴ．受容〉、応答確認、〈Ⅱ．談話表示〉、メタ表現、応答をまとめる発話もあった。

教科書④については、「(3) 確認のしかたの例」という項目があり、〈確認要求〉を扱っている。これについては、後述する。

教科書②については、「相手の話を促す」表現として、「そうなんですか。」や「ええ。」という〈Ⅴ．受容〉の例が提示されている。この外に、以下に示す項目も提示されている。

教科書②「相手の話を促すには」

相手に気持ちよく話してもらうためには、次のことに注意しましょう。

- a 相手の話が一区切りしたところで「そうなんですか。」「ええ。」などの相づちを打つ。
 - b 相手の話で興味を持ったところを繰り返して確認する。また、相手の話について質問したり、感想を言ったりする。
- (p. 35)

また、教科書④においては、「(2) あいづちの例」という項目で、以下のような設問がある。

教科書④「(2) あいづちの例」

VTR

☆ 「B あいづち」を見てください。

- ① 張さんは藍原さんの説明の途中であいづちを打っています。どんなことばであいづちを打っていますか。
- ② あいづちには、他にどんなことばが使えると思いますか。クラスで話し合ってください。また、それぞれのことばはどんな相手に対して使うものかも考えてください。
- ③ 日本人は、相手が一文を言い終わらないうちにあいづちを打ちます。それはなぜだと思いますか。
- ④ もう一度ビデオを見てください。藍原さんの話を聞きながら下のスクリプトで張さんがあいづちを打っている場所に「／」を書き入れてください。(スクリプト省略)

- ⑤ あいづちを打つタイミングはイントネーションや表現などからもつかむことができます。もう一度ビデオを見ながら、張さんといっしょにあいづちを打つ練習をしてみましょう。上のスクリプトは見ないでください。
- (p. 15)

以上の設問は、インタビューをしている VTR を見ながら答えるものである。中上級やアカデミック・ジャパニーズを必要としている学習者にとって、教科書②、教科書④のように、インタビュアーの〈V. 受容〉について学習することが必要である。

次に、本調査資料にも出現した「応答」の繰り返しについては、教科書②と教科書④で扱われている。以下に、教科書④の「(3) 確認のしかた」を引用する。

教科書④「(3) 確認のしかたの例」

VTR

☆ 「C 確認のしかた」を見てください。

- ① 下線部分に張さんが言っていることを書き込んでください。

(スクリプト省略)

- ② 他にどんな確認のしかたがありますか。

相手が友達の場合は、どんな確認のしかたをしますか。

以上の設問①②の解答は、「同じことばを繰り返す等」、「～ね。」の表現であるという。課題1と課題2の分析結果において、応答者の応答を同じ言葉で繰り返したり、「～です (ね／よね。）」、「～ということですか (。／ね)」、「～というわけですね。」という〈確認要求〉の応答確認の発話が認められた。そこで、これらの表現形式も学習事項に加えることを提案する。

次に、〈Ⅱ. 談話表示〉にあたる接続表現についても述べる。接続表現について掲載されていたのは、教科書④のみであった。以下に、引用する。

教科書④「(4) 次の質問への移り方の例」

VTR

☆ 「D 次の質問への移りかた」を見てください。

① 下線部分に張さんが言っていることを書き込んでください。

(スクリプト省略)

② 下線の部分には、他にどんなことばが使えると思いますか。クラスで話し合ってください。また、それぞれのことばはどんな相手に対して使うものかも考えてください。

以上の設問①②の解答は、①は、「それで」、②「で／それから」である。本研究には、接続表現の〈Ⅱ．談話表示〉の外、「次の質問なんですが、～」「ちょっと話は変わるんですが、～」というメタ言語表現を効果的に用いて、次の質問に移行する発話例が見られた。また、質問から質問へというやりとりにとどまらず、談話の「Ⅰ．開始部→Ⅱ．展開部→Ⅲ．終了部」という大話段に移行する際にも用いられていた。

インタビューは、主に「質問者」が発話権を有することが多く、自分の目的達成のために、効率よく話題展開をする必要がある。そこで、〈Ⅱ．談話表示〉やメタ言語表現を用いた話題転換についても、授業で学習する必要があると考えられる。さらに、本資料の談話には、質問者が応答者の応答をまとめてから、次の質問へと移行する例もみられた。

このように、一つの表現、一つの質問の表現形式を学習するだけでなく、一つの質問から次の質問へ、ある話題から次の話題へと移行することを考慮し、単発的なやりとりを避けて、まとまりを意識した流れのある談話展開をすることを学習事項として提案する。

7. 2. 1. 3 掲載された談話展開の分析と提案

教科書②と④は、インタビュー談話の進め方のフローチャートが提示されている。教科書②には、2種のフローチャートがあり、第1は、「依頼をする」という談話において、「話を始める」「日時を相談する・確認する」「話を終える」の3段階で、第2は、「インタビューをする」という談話で、「インタビューを始める」、「質問をする 相手の話を促す」、「お礼を言う」の3段階での簡単な発話例が掲載されている。

教科書④の場合は、発話例はなく、「呼びかける」「聞きたいことがあると言う」「事情を説明する」「質問する」「答を聞く あいづちを打つ」「確認する」「はい、わかりました」「お礼」「別れるときのあいさつ」という段階のフローチャートが提示されており。このように、文型や表現の小さなレベルの提示ではなく、話の開始、展開、終了という「話段」の談話展開という大きなレベルを提示することは、インタビューをする準備として把握しておく必要があり、意義のあるものだといえる。それは、本研究の課題1の分析結果において、3種の情報収集の談話を「Ⅰ．情報収集の目的説明の大話段」、「Ⅱ．情報収集の展開の大話段」、「Ⅲ．情報収集の目的完了の大話段」という大話段に認定して、各大話段に特徴がある結果が認められたことによるものである。しかし、数少ない発話例で構成されたフローチャートは、実際の場面でその通りに展開するのか、また、全体の談話展開についてのみの提示であることについて2点の問題がある。

第1の問題は、本研究の情報収集の談話には、複雑な構造があることが明らかになった。そのため、教科書②と教科書④のフローチャートの通りに、すべての話題が展開するという可能性は低い。そこで、より具体的なフローチャートを作成する必要がある。

第2の問題は、談話全体についての簡単なフローチャートだけではなく、インタビューの主要部である「質問をする」場面の談話展開の方法も必要ではないかと考える。これにより、第1の問題の解決策にもなるはずである。

教科書②の「インタビューをする」の会話において、「質問をする 相手の話を促す」という段階があるが、その部分に提示された例は、「A：・今のお仕事を始められたきっかけを教えてくださいませんか。・仕事をなさっていて、何がいちばん大変ですか。・休みの日はどのように過ごされていますか。」「・そうなんですか。・ええ。」という発話例のみである。教科書④においては、「質問をする」「答を聞く あいづちをうつ」「確認する」という言葉のみで発話例が掲載されていない。この場合、どのような段階で、どの〈要求〉系表現を使用するのか扱われていないため、実際のインタビュー場面でとまどう可能性があると予想する。これは、本研究の分析結果で、インタビュアーが質問をしている「Ⅱ．情報収集の継続の大話段」において、インタビュアーである質問者は、段階的に質問を提出し、〈要求〉系表現を段階的に使い分けしていたためである。

以下、本研究で明らかになった【資料1】のテレビ番組のインタビュアーの情報収集の方法である。

談話の前半で「～ですね。」「～ですよ。」という表現の〈確認要求〉と、「～ですか。」という〈判定要求〉の表現で、VTRの内容を確認しながら、情報を収集し、「なぜ～ですか。」「どうして～か。」という〈説明要求〉で、発展した質問をして、より詳しい情報を収集する。その後、ゲストから得た応答を「～というわけですか。」という表現の〈確認要求〉を用いて応答確認をし、ゲストの応答をまとめ、整理をする。そして、後半部に、「～についてどう思いますか。」という〈説明要求〉の表現を用いて、核心に迫る質問をして、ゲストの意見や助言を収集する方法である。

教科書②が、中級レベルの学習者を対象とするため、以上のような談話展開の方法をすべて提示する必要はないが、「質問をする」ことにおける簡単な談話展開の方法やどの段階で、どのような〈要求〉系の表現を使用するかという会話例を提示することを提案したい。

7. 2. 2 日本語教育におけるビジターセッションの取り扱い

本節では、ビジターセッション活動が、日本語教育においてどのように取り扱われているかを概観する。

近年、「ビジターセッション」はインターアクション教育の有効な活動として日本語の授業に取り入れられている。ビジターセッションとは、「教師以外の日本語母語話者や準母語話者が『ビジター』として、学習活動の一環として日本語のクラスに参加し、学習者とインターアクションを持つ場のこと」（中井（2012：138））と定義され、国の内外を問わず、様々な形で行われてきた。ネウストプニー, J. V. (1982：147) は、ビジターセッションについて、「教室の場面を実際のコミュニケーションの場面に近づける」のに有効であるとしており、ビジターセッションに関する先行研究が報告されてきた。

海外の大学での実践報告も多く、村岡（1992：115）は、オーストラリアの大学の初級コースで、現地に滞在する日本人主婦を教室に招き、グループでインタビュー活動を行った。会話の録音テープを分析し、「自然な日本人とのコンタクト場面で生じるような、学習者の能力の構造的な使用、相手の話に対するおおまかな理解の必要性などが実践的に理解され、実際場面の日本語コースへの導入の有効性が確かめられた」と

報告している。

韓国の大学では、松浦・小川（2011）、松浦（2012）、松浦・小川（2011：159）が、韓国に在住する日本語母語話者を大学の授業に招き、グループで「学生が事前に決めた話題について話をする」という活動を行った。その際の学生の心理面の変化に注目し、「日本語を話すときの1つの壁となっていた『緊張』が、ビジターセッションの回数は多くはないが、段階的に少なくなっていく」ことを明らかにしている。

松浦（2012：45）も、韓国の大学において、日本語非母語話者を招いたビジターセッションを実施し、「日本語母語話者を招いた時のような緊張や誤用への不安が見られない」、「日本や日本語を見る目が学習者とゲストでは異なるため、新たな物の見方ができたようである」とし、「日本語母語話者を招いたものとは違う意味で有効だと言える」と述べている。

次に、国内での実践例を取り扱う。

横須賀（2003）は、日本の大学の中級日本語学習者を対象としたクラスの実践例を挙げ、ビジターセッションの参加者への効果として、「1. 自然なインターアクションができる。」、「2. 学習への高い動機付けができる。」、「3. 学習者・ビジター両者の文化能力を向上させることができる。」という3点を挙げている。

中井（2003：94）は、日本の大学において、「準備レッスン、ビジターセッション、反省会」を取り入れた会話授業の実践報告として、「学習者の談話能力の向上のみならず、会話をする事への動機付けと自信にもつながられる」と述べている。

江原・小林（2008）は、国内の大学の日本語の授業で、日系企業に訪問してインタビュー活動を行う「企業インタビュー」を実施した。学習者が、一連の活動において、ボランティア学生、教師、企業協力者との相互行為を通し、学習目標が変容し、達成されたとしており、「重要な学びの場」となったと述べている。

日本語の授業に会話分析活動を用いた先行研究には、中井（2010）がある。中井（2010：318）は、日本の大学の日本語選択科目において、日本語の初対面の会話や道聞きの会話などのビデオの視聴や、撮影した自由会話を分析するなどの活動を行った。さらに、ドラマや映画など学習者自身が分析したい会話データについて気がついた点を発表する活動を行い、「学習者が他の授業参加者と協力しながら、会話の特徴について学びたいと思う会話学習項目と分析データを自分自身で選択して主体的に学習していくこと」を授業活動の利点として挙げている。

以上のように、ビジターセッション活動の意義を述べた報告が多くなされている。

7. 3 筆者の情報収集活動の授業実践

筆者は、過去の13年間に及ぶ日本語教育経験において、情報収集活動を取り扱う授業に協力者として参加し、教師として授業科目を担当することが何度かあった。その活動内容は、主にインタビュー活動用いたビジターセッション活動である。

本章では、韓国の私立B大学での授業実践と日本の私立C大学における授業実践について報告する。

7. 3. 1 韓国の私立B大学における授業実践

筆者は、2009年～2010年の2年間、韓国の私立B大学の日語日文学科に専任講師として勤務していた。担当科目は、初級の「日本語会話1」、初中級の「日本語会話2」、中級の「日本語会話3」、中上級の「日本語会話4」の4科目だった。

韓国での在任中、日本語学習者たちから「文法や表現を勉強しても、なかなか日本語を使う機会がない」、「先生（筆者）以外の日本人と話したことがない」という声を何度も耳にした。日本語が外国語環境である海外の大学においては、日本語学習者が教師以外の日本語母語話者と接する機会は少ない³⁰。

そこで、中上級レベルの「日本語会話(4)」の授業で、韓国に在住する日本語母語話者の協力のもとに、インタビュー活動を用いたビジターセッションを取り入れた会話の授業を2学期にわたり実践した。

本活動は、韓国に在住する日本人を招き、インタビューをするグループと在釜山日本国総領事館を訪問して、領事館の日本語母語話者にインタビューをするグループを設けて、インタビュー活動を実施した。以下、2010年度の授業の概要と授業の進行を挙げる³¹。

ビジターセッションは、日本語学習者（質問者）3～4名の1グループ³²対協力者（応答者）1名という形式で、約90分間実施した³³。2クラス計61名のうち、20グループを作成し、そのうち3グループは在釜山日本国総領事館を訪問した。協力者は、釜

³⁰ 学習者の日本語環境を明らかにするために事前調査を行った。

³¹ 2009年度も同様の活動を実施した。

³² テーマ、協力者、実施時間等を考慮し、筆者がグループを作成した。

³³ 各グループに小部屋を確保し、インタビューは録音、録画をした。

山に在住する日本人で、大学生、語学留学生、主婦、教師、領事館の広報担当の領事と派遣員である。

授業の概要

実施時期 : 2010 年度後期後半の全 8 週
 実施クラス : 「日本語会話(4)」の受講生（日語日文専攻の 3 年生対象クラス）2 クラス
 学生数 : A クラス 26 名、B クラス 35 名（計 61 名）
 学生の国籍 : 韓国
 授業時間 : 1 週間に 2 日で計 3 コマ（50 分×1 コマが 1 日、50 分×2 コマが 1 日）

【表 32-1】授業の進行

週	活動内容	配布資料
1	オリエンテーション テーマ設定、サブテーマ設定	事前アンケート テーマを考えよう、サブテーマを考えよう
2	質問作成 類似テーマのグループでディスカッションとシミュレーション	質問票
3	サブテーマと質問の検討（内容、順番、表現） 類似テーマのグループ、決定グループでディスカッションとシミュレーション	【資料 1-8】「クローズアップ現代」VTR スクリプト
4	質問の検討 決定グループでディスカッションとシミュレーション	インタビューの表現
5	インタビューの実施、お礼の手紙	振り返りシート、手紙の書き方
6	振り返り、プレゼンテーションの準備	結果をまとめよう
7	プレゼンテーション、振り返り	
8	レポート提出、全体のまとめ	

インタビュー流れは、1. 挨拶、2. 自己紹介、3. グループの代表が基本的な情報収集（滞在期間、滞在理由等）を約 15 分間し、その後、4. グループ全体でやりとりをする。5. 各自テーマについて約 20 分間インタビューをし、6. お礼の挨拶をして終了となった。1 回のインタビュー時間は約 90 分間である。

授業準備として、まず、テーマを決め、その中にサブテーマを複数作り、テーマについての質問を考えるように指示した。【表 32-2】にグループ 1、【表 32-3】に領事館を訪問したグループ 7 のインタビューの例を示す。

ビジターセッションの後に、協力者の応答の聞き直しをするため、また学習者自身が会話の仕方を振り返るために、予め協力者の許可を得て、会話を録音、録画をした。

【表 32-2】グループ1のインタビューの例

質問者 (学習者)	テーマ	サブテーマの例	質問例	応答者 (協力者)
NNS 1	韓国の印象	市民意識、韓国の印象、韓国の交通機関	韓国人の行動で驚いたことはありますか。韓国の交通機関で感じたことはありますか。	現地の 大学生 30代女性
NNS 2	学生生活	韓国の大学生生活、日本の大学生生活、アルバイト	韓国の大学で適応できないことはありますか。日本ではアルバイトをしていましたか。	
NNS 3	日本の就職	社会経験、就職活動、会社の福祉制度	日本ではどんなお仕事をしていたんですか。仕事を選んだきっかけは何ですか。	

【表 32-3】グループ7のインタビューの例

質問者 (学習者)	テーマ	サブテーマの例	質問例	応答者 (協力者)
NNS 4	日本人から見る韓国	韓国の第一印象、共通点と違い、苦労点	韓国勤務が決定した時の心境はどうでしたか。韓国に来てから印象は変わりましたか。	領事 60代男性
NNS 5	韓国生活	日常生活、休日の過ごし方	ご家族も一緒ですか。お仕事が終わった後は、何をしますか。	
NNS 6	領事館の仕事	領事館の仕組み、仕事内容、今後の計画	どんなお仕事をしていらっしゃいますか。働くために必要とされる資格や能力は何ですか。	

ビジターセッションの後に、協力者の応答の聞き直しをするため、また学習者自身が会話の仕方を振り返るために、予め協力者の許可を得て、会話を録音、録画をした。

活動前は、日本語母語話者との会話に何らかの心理的負担を感じている学習者が、本活動において、日本語母語話者とある程度の長さの会話をしたことにより、自信や学習意欲を持たせることができた。しかしながら、3点の課題が残された。第1に、今回、ビジターセッション実施後のアンケート項目にある「うまくできなかった点」や「きちんと伝わらなかった原因」、「どのように対応したか」で得た回答をもとにフィードバックをする等の実施後の振り返りが十分にできなかったことである。実施後の振り返りの仕方を検討する必要があると感じた。第2に、ビジターセッションが1回だけだったため、反省点を次の活動に活かすことができなかったことである。そのため、学期中に複数回、日本語母語話者とセッションをする機会を設けたほうがよいと感じられた。第3に、グループで活動したため、時間配分がうまくできずに、会話時間に偏りが出たグループが複数存在した。この大学では、会話授業の履修者が多かったために、グループで実施したが、可能ならば、1対1の対話形式を取るほうがよいと思

った。

以上、3点の今後の課題を基に、帰国後に、日本の私立C大学において同様の活動を実施した。

7. 3. 2 日本の私立C大学における授業実践

2011年～2013年の3年間は、日本の私立C大学において、上級の会話授業を担当し、同大学の日本人大学生をビジターとして、ビジターセッション活動を実施した。ビジターセッションの内容は、自由会話とインタビュー活動である。今回は、7.3.1における課題を踏まえて、1対1の対話形式にして、複数回セッションの機会を設けることにした。さらに、全会話を録音・録画して、クラス全体で振り返りをする時間も設けることにした。

セッションは3回である。第1回は自由会話で、第2回と第3回はインタビュー活動である。以下、2012年度の授業の概要と【表 33-1】授業の進行を示す³⁴。

全3回のセッションは、日本語学習者1名対協力者1名³⁵という形式³⁶で、第1回セッションは、留学生と日本人大学生の交流を目的とした30分間の自由会話である。本活動のウォーミングアップも兼ねて、留学生がよく遭遇すると予想される初対面の場面を設定した。第2回セッションと第3回セッションは、各自興味のあるテーマについてのインタビュー活動である。インタビューの流れは、1. 挨拶、2. 自己紹介の後、3. 各自テーマについて約20分間のインタビューをして、4. お礼の挨拶をして終了する展開である。1回のインタビュー時間は約30分間である。

授業の概要

実施時期 : 2012年度前期の全14週（うち1回は祝日で休講、もう1回はテスト日であったため、実質12回で活動を実施した）

実施クラス : 「日本語会話」の受講生（交換留学生対象クラス）クラス

学生数 : 3名

学生の国籍 : 台湾2名、カナダ1名

授業時間 : 1週間に計1コマ（90分）

³⁴ 2011年度と2013年度も同様の活動を実施した。

³⁵ テーマ、協力者、実施時間等を考慮し、教師がグループを作成した。

³⁶ 各グループに小部屋を確保し、インタビューは録音、録画をした。

【表 33－1】授業の進行

回	活動内容	配布資料
1	オリエンテーション、活動導入	会話チェックリスト
2	第1回セッション準備	
3	第1回セッション（自由会話）	振り返りシート（宿題）
4	休講	
5	振り返り 学習者の VTR と日本語母語話者 VTR で会話を観察する。	
6	第2回のテーマと質問を考える。	質問票
7	第2回セッション（インタビュー活動）	振り返りシート（宿題）
8	学習者の VTR で会話を観察する。	
9	学習者の VTR で会話を観察する。あいづちを中心に観察。	
10	『国境を越えて タスク編』 p.102、112 テーマと質問の作成、表現の確認	『国境を越えて タスク編』 p.102 と p.112 質問票
11	第3回セッション（インタビュー活動）	振り返りシート（宿題）
12	学習者の録画 VTR で会話を観察する。フィードバック。	
13	テスト	
14	全体のまとめ	会話チェックリスト

【表 33－2】に第1回セッションのインタビューの例を、【表 33－3】に第2回セッションのインタビュー例を示す。

【表 33-2】第2回セッションのインタビューの例

質問者 (学習者)	テーマ	質問例	応答者 (協力者)
NNS1	高校時代の生活	高校時代で楽しかったことは何ですか。 どのような部活がありましたか。	同大学の 1年生
NNS 2	インターネット の使用の仕方	1日どのくらいインターネットを使用しますか。 インターネットの使用で問題となることはなんだと思いますか。	同大学の 3年生
NNS 3	大学生の休日の 過ごし方	休日はどのように過ごしていますか。 将来の計画はありますか。	同大学の 4年生

【表 33-3】第3回セッションのインタビューの例

質問者 (学習者)	テーマ	質問例	応答者 (協力者)
NNS 1	ストレスの感じ方	普段、どのような時にストレスを感じますか。 どのようにストレスを解消しますか。	同大学の 4年生
NNS 2	アルバイトの経験	どのようなアルバイトをしたことがありますか。 最も大変だったことはなんですか。	同大学の 3年生
NNS 3	趣味・はまっている こと	今はまっていることは何ですか。 サークルには入っていますか。入っている場合、サークルの中で学んだことは何ですか。	同大学の 3年生

各回のセッション後に、協力者の応答の聞き直しをして、学習者の会話の仕方を振り返るために、協力者の許可を得て会話を録音、録画した。

本授業の実践は、同年代同士の参加者からなる交流を目的とした活動でもあったため開始時から心理的負担は少なく、終始和やかな雰囲気ではじめられた。韓国の私立B大学の実践の反省を基に、全3回のセッションを実施したが、学習者から、「1回目の反省を2回目に、2回目の反省を3回目にと注意して会話ができた」という意見が出た。

また、1対1の対話形式にしたため、「自分のペースで話ができ、じっくりと話すことができた」という感想もあった。今回は、実施後の振り返りとして、セッション時の学習者と日本語母語話者のVTRを用いて、会話の観察を行った。日本語母語話者同士の会話は、第1回のセッションの会話形式と同様の自由会話と、第2回と第3回目のセッションの会話形式同様のインタビュー場面の談話である。同大学の日本語母語話者に協力をしてもらい、会話を録画し、授業でVTRを使用した。学習者のVTRの観察により、「うまくできた点」、「うまくできなかった点」、「きちんと伝わらなかった原因」、「どのように対応したか」について振り返ることができた。そして、日本語母語話者のVTRにより、母語話者の会話の特徴や表現を観察した。

以上のことから、今回の授業実践は前回の活動より改善されたものであるといえる。しかし、時間の制約と学習者のレベルを理由に、学習者の会話の観察の際に、教師である筆者が特徴ある部分のみをピックアップしてVTRを視聴させたことから、学習者が主体的となって、会話全体を詳細に振り返る時間が取れなかったことが課題として残された。そのため、次回は、教師が一部を提示するのではなく、学習者が主体的に会話全体を詳細に振り返り、観察だけでなく、分析する活動を取り入れる活動も試みようと考えた。

以上、この5年間に、試行錯誤しながら情報収集活動を国内外の大学の授業で扱った結果、いくつかの課題が出た。そこで、これらの授業実践の課題や反省点を改善し、さらに、その後実施した課題2の調査結果を基に、新たな授業案を提案する。

7. 4 日本語の会話授業への提案

本節では、本研究の課題1と課題2の分析結果をはじめ、教材分析、2つの国内外

教育機関での会話授業実践を踏まえ、情報収集活動の一種としてのビジターセッション活動を取り入れた韓国人日本語学習者を対象とした日本語の会話クラスにおける授業案を提示する。

課題1と課題2で明らかにした(1) 情報収集の談話構造、(2) 情報収集の質問の提出順、(3) 情報収集に用いる表現形式の3点を日本語の会話教育に応用する。授業では、情報収集の談話展開の方法を学習するため、(1) 情報収集の談話全体の展開方法、(2) 情報収集の話段の展開方法、(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法という3点が重要であると考えた。以下、この3点に焦点を当てて、授業案について論じる。

7. 4. 1 情報収集の談話全体の展開方法

「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」には、分析観点1の「情報収集の談話構造」が関係している。

課題1を分析した結果、情報収集の談話には【表 29-1】のような基本的な構造があり、それに基づき、談話展開をしている。この段階的な手順を、会話の流れとして学習者に伝える必要がある。まず、談話全体の展開方法を学習するため、3種の大話段である「Ⅰ. 開始部」、「Ⅱ. 展開部」、「Ⅲ. 終了部」を導入する。授業では、「Ⅰ. はじめ→Ⅱ. インタビュー→Ⅲ. おわり」で導入する。

次に、下位次元である話段を導入する。分析結果では、「Ⅰ. 開始部」の「1. 開始の挨拶」、「2. 自己紹介」、「3. 質問者の情報収集の目的説明」、「Ⅱ. 展開部」の「1. 基本的な情報収集(事前質問)」、「2. テーマに関する情報収集」、「Ⅲ. 終了部」の「1. 情報収集に対する感謝」、「2. 終了の挨拶」という話段が認定された。授業では、「1. 情報収集の開始の挨拶→2. 自己紹介→3. 事前質問→4. テーマ質問→5. 感想→6. 終了の挨拶」という会話の手順で示すと、情報収集に手順があることが意識化されるだろう。

文型や表現のような小さなレベルのみの提示から、話の開始、展開、終了という談話展開の大きなレベルに至る学習を提示し、さらに、3種の大話段の中に、それぞれ手順があることも、インタビュー活動をする準備として把握しておく必要があると考える。

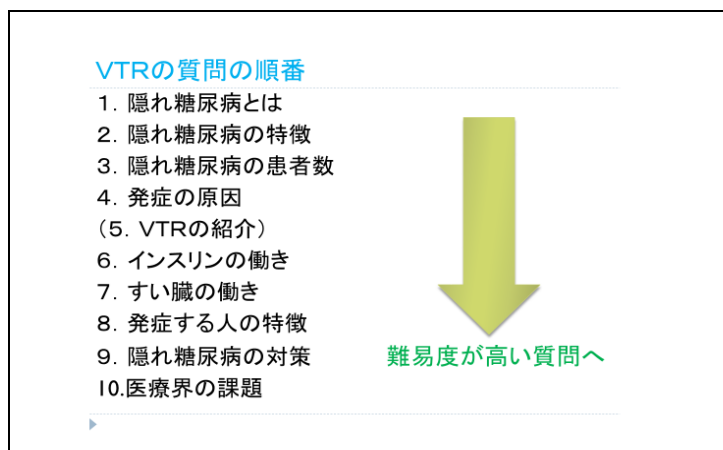
7. 4. 2 情報収集の話段の展開方法

談話全体に大きな展開方法があるように、下位次元である話段にも展開方法が存在する。「(2) 情報収集の話段の展開方法」には、分析観点2の「情報収集の質問の提出順」が重要となる。

質問者の質問のレベルや種類は様々で、答えやすい軽い質問から、応答に時間のかかる重い質問もある。質問者が効率よく情報収集をするため、応答者が答えやすい「質問の提出順」に話段を展開させる必要がある。そこで、ヒントになるのが、**課題1**における【表 29-1】の「情報収集の基本的な談話構造」の「2. テーマに関する情報収集の話段」の中の小話段である。それは、「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」の3種であるが、まず、話題を提示した後、前半部に事実を求める質問をして、後半部に意見を求める質問、最後に、核心をつくような質問や助言を例とする自分に引き付けた助言を求める質問をする。

授業では、「質問の順番」という用語を使用し、インタビューの質問には相手が答えやすい順番があることを学習する。提案としては、**課題1**のインタビュー番組のVTRを視聴し、質問の順番についてクラスで考えるという活動である。以下に示す【図2】は、授業で使用する会話指導のためのスライドである。

【図2】質問の提出順を提示するためのスライド



ここで使用するVTRはインタビュー番組の【資料 1-8】「隠れ糖尿病」がテーマであるが、番組の SCRIPT を配布し、インタビュアーがどのような手順で質問をしているのかについて、学習者が会話分析をする案を考えた。これによって、談話の前半部

に「隠れ糖尿病」の定義や特徴、患者数等、事実で答えられるような質問をし、後半部で、対策や医療界の課題という大きく、意見を求める質問が位置していることが理解できる。この活動を通して、質問の順番を決める際に、このようなものを参考にするのもいいのではないかと思う。

次に、授業で提示する〈Ⅲ．要求〉系の機能を用いた質問の提出順のモデル案について述べる。まず、一つの話題に関する質問を複数用意して、その提出順を考える。話題に関する質問は、〈説明要求〉で話題を提示し、応答を受けた後、〈判定要求〉や〈説明要求〉に切り換えて、詳しい情報を収集するなど、関連する質問を考える。最後に、〈確認要求〉で応答を確認する質問を考える。

このように、段階的に質問して、〈説明要求〉、〈判定要求〉、〈確認要求〉を使い分けることが、情報収集をする際の成功の鍵となる。また、1問1答のやりとりにならないように、段階的な質問を心がけて、応答を予測した吟味された質問項目を準備し、談話の全体的構造を考える必要がある。

7. 4. 3 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法

課題2の分析結果で、母語話者の質問者は、〈Ⅲ．要求〉を用いた質問のみならず、〈Ⅴ．受容〉や〈Ⅳ．提供〉で応答者の応答に理解、共感を示すなど反応をしながら、効果的に情報を収集していた。一方、韓国人日本語学習者は、質問することに重きを置く、単発的な談話展開を好む傾向にあるため、韓国人日本語学習者の質問者は、応答者との相互作用を意識した談話展開の方法を学習する必要があると感じた。

そこで、授業では、【資料2】のVTRを視聴し、応答者との相互作用に基づく談話展開の方法を導入する。そのためには、課題1で明らかになった質問者の「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」などが談話展開に重要となってくる。分析観点3の「情報収集に用いる表現形式」は第5章でまとめた。

情報収集の談話は、質問者と応答者の相互によって成立するため、会話の最中に、質問者は質問をするのみならず、応答に対して、質問者が理解や感想を示し、反応することも重要になってくる。その際、必要となってくるのが、「a. 応答確認」である。また、「b. 前置き＋質問」は、質問者が応答者の応答を振り返り、まとめて、応答者に質問を正しく理解してもらうための配慮による質問である。応答者が応答に困った場

合、「韓国では～ですが、日本では～ですか。」や「私は～思うんですが、Aさんはどう思いますか。」などの「前置き」を示すことで、応答者が答えやすくなる。このような、〈Ⅳ. 提供〉＋〈Ⅲ. 要求〉表現の「前置き＋質問」の表現についても紹介することを提案する。

情報収集の談話では、主として質問者が発話権も有して、自分の目的を達成するために効率よく談話展開をする必要がある。その際、「c. 話題転換」が生じる。ある話題について、〈見解表明〉で「わかりました。」という理解の表明や「～ということですね。」などの表現で「d. 応答のまとめ」をし、〈Ⅱ. 談話表示〉の〈話を始める機能〉や〈話を変える機能〉の「じゃ」「では」という接続表現や、「次の質問です。」「話は変わるんですけど、」などのメタ表現によって会話の進行を促し、次の話題へと移行する。このように、唐突な話題転換を避けるために、話題転換の方法についても学習することも必要である。

最後に、応答者から提供された情報に積極的に反応し、理解を示し、応答に対して共感したり、意見や感想を述べる「e. 応答に対する反応」も会話参加において必要となる。具体的には、〈Ⅴ. 受容〉の〈継続〉で応答者の話を促し、〈承認〉で理解を示す。そして、「へー」「あー」などの〈興味〉、「分かります。」「そうですね。」などの〈共感〉、「それは、大変でしたね。」などの〈Ⅳ. 提供〉で、応答者の話に対する聞く姿勢と興味、共感を示す。また、「f. 共通の話題」を提示するのも効果的だろう。質問者は、情報収集を効果的にするために、質問だけに捉われず、応答者の応答を傾聴し、応答者の応答内容を把握することは、情報収集をする上での基本となる。

教材分析では、これらの表現の提示が不十分であるため、授業では、質問表現の種類、それら各機能と用法、使い分けについて取り扱うことを提案する。

授業では、1つの話題のまとまりを意識し談話を展開することも重要であることを指導し、どの段階で、どの「表現形式」を使用するのかということを、筆者が作成した教材の「会話の進め方・表現例」³⁷を配布し、段階的に表現形式を使い分けるよう指導する。

³⁷ 本教材は、筆者が2007年～2008年度にTAとして参加した某私立大学日本語センターで開講されていた日本語選択科目「企業インタビュー」で使用した教材が基になっており、担当教員の許可を得て改良を加えたものである。

会話の進め方・表現例

1. はじめのあいさつ

- ◇ 自己紹介をする 名前、所属などを簡単に伝える。「はじめまして。〇〇学部のと申します。」
- ◇ あいさつ 「どうぞよろしくお願いします。」

2. 事前質問に入る時

- ◇ 切り出しのことば 「最初に、Aさんについて簡単にお聞きしたいんですが。」
「テーマの質問に入る前にAさんについて簡単にお聞きしてもよろしいでしょうか。」

3. テーマ質問に入る時

- ◇ 目的（テーマ）を説明 「本日は、〇〇についてお話をお聞きしようと思います。」
「私のテーマは〇〇で、主に〇〇や〇〇、〇〇（サブテーマ）についてお聞きします。」
「私は、〇〇に関心がありまして、〇〇というテーマにしました。」
- ◇ 切り出しのことば 「それでは、質問します。」
「では、早速ですが、〇〇についてお聞きしたいんですが。」
「まず/最初は/1つ目は 〇〇（サブテーマ）についての質問です。」
- ◇ プライバシーに関わる質問について 「ちょっとプライベートなことになるかもしれませんが、〇〇のことなど、お聞きしてもよろしいでしょうか。」
「失礼ですが、～。」

4. 質問の順番

- ◇ 話題ごとにまとめる。同じカテゴリーごとにまとめる。
- ◇ 前半：簡単な/軽い質問や事実を聞くような質問 → 後半：難しい質問や意見を聞くような質問、核心をつくような質問

5. 質問の仕方

- ◇ 答えに関連した質問を重ねる。1問1答ではなく、話を掘り下げる。
- ◇ Yes No 質問、選択質問、確認質問、5W1H質問を組み合わせる。
- ◇ 詳しく聞きたい時 「例えば、どんなことですか。」
「もう少し詳しくお話をもらえませんか。」
「どうしてそう思ったんですか」「他には何か理由がありますか」
- ◇ 分らない場合、聞き返し 顔をしかめたり、首をかしげたりしない。
「はい?」「すみません、もう一度お願いします。」
「〇〇ってどういう意味ですか」
- ◇ 回答確認をする時 同じ言葉を繰り返す、「～ですね。」「～ですよ。」「～ということですか。」
「だから、～なんです。」「つまり/それは、～ということですか。」
- ◇ 前置き+質問（答えの引用、韓国の場合、自分の話や意見、具体例等）
「～けれども、～か。」
「～と思いますが、～か。」
「先ほど、～と言っておりましたが、～か。」
- ◇ 意見を聞く時 「〇〇についてどのように思いますか。」

6. 聞き手の反応

◇ あいづち・反応

- 聞いていることを示す
 - 相手の話の途中に、短い切れ目（「～て、」や「～なんですけど、」）が来た時
「はい」「はあ」「ええ」 声を出さずにうなづく。
 - 話の内容が区切りに来た時
「そうですか」「そうなんですか」「そうです（よ）ね」「そうなんですね」

興味・関心を持っていることを示す

「へー」「あー」「ほんとうですか」

理解を示す

「なるほど」「そうなんですか」「そうなんですね」

共感を示す

「そうですよね」「私もそう思います」「分かります」「本当ですよ」

感想・評価を表す時

「面白いですね」「いいですね」「それは、大変でしたね」

促す

「それでどうなったんですか」「それからどうしたんですか」

◇ 共通話題を出す

◇ アイコンタクト、表情、笑い

7. 1つのサブテーマの質問が終わった時

- ◇ 相手の話を簡単にまとめる、確認をする 「だから、～なんですね」
- ◇ 短い感想・評価を言う
- ◇ 相手の話が分かったことを伝える 「分かりました。」「〇〇について分かりました」

8. 次の質問に入る時

- ◇ 話題転換
質問と質問の間につなぎの表現を入れる。唐突に入るのを避ける。
接続詞：「では」「じゃ」「じゃあ」、前置き
「それでは、次の質問です。」「次に〇〇についてお聞きしたいんですが」
「では、2番目の質問に移ります。」

9. 次のサブテーマに入る時

- ◇ 話題転換
「では、次の質問に入ってもよろしいでしょうか」
「じゃ、2番目のサブテーマに移ります」
「それでは、次に〇〇についてお聞きします」

10. インタビューを終える時

- ◇ 質問を終える時
「以上で私の質問は終わりです。ありがとうございました」
「では、これで終わりにします」
「そろそろ時間ですね。今日は色々とお教えくださり、ありがとうございました」

11. その他

- ・臨機応変に対応する。（同じ質問はしない。質問リストの順番に縛られずに会話を進める。流れに合わせてリスト以外の質問もする。）
- ・時間の管理をする。
- ・文を最後まで話す。
- ・相手の話をさえぎらない。傾聴する。
- ・発音やなめらかさ。焦らないでゆっくり話す。
- ・丁寧体で話す。
- ・楽しい雰囲気作り。

以下に、本研究で明らかになった情報収集の談話展開の方法について発話機能と表現形式とともに示す。

質問者は、最初に「まず、～についてお聞きしたいんですが」などで話題を提示し、「～ですか。」の〈判定要求〉や〈説明要求〉で、「1. 事実を求める質問」をし、基本的な情報を収集する。次に、「なぜ～ですか。」「どうして～か。」という〈説明要求〉で、関係した質問をして、詳しい情報を収集する。その後、応答について「～というわけですか。」の〈確認要求〉の発話を用いて応答確認をし、応答をまとめて整理する。「～についてどう思いますか。」という表現の「〈説明要求〉を用いた「2. 意見を求める質問」で応答者の意見を収集した後、それよりも一步踏み入った質問である「3. 助言を求める質問」をする。情報収集の一つの話題において、以上のような一連の展開方法がある。また、質問するだけでなく、応答者が応答する際は、質問者は、〈V. 受容〉や〈IV. 提供〉で理解や共感を示すことも重要となる。

しかし、実施の際、事前に用意した質問やパターンにとらわれずに、臨機応変に対応し、質問内容や〈要求〉表現の流れによって調整したり、応答が話題から外れたら、質問者が誘導して中心のテーマに引き戻すなど、結論に導くように話を展開することも必要である。

7. 4. 4 学習活動

本節では、インタビューの VTR を教材として用いた学習活動を提案する。

インタビューの VTR を授業で取り扱う場合、先行研究や実践報告では、【資料 1】テレビ番組のインタビューのようなフォーマルな種類が多い。そこで、本研究で分析対象としたメディアを通さない、自然談話である【資料 2】インタビュー取材や【資料 3】就活相談の談話も授業で使用することを提案する。

まず、【資料 1】テレビのインタビュー番組は、限られた放映時間内に一般の視聴者に向けて情報収集を行うことから、基本的なやりとりがされており、日本語の情報収集の談話のひな型が存在している。【図 2】に示したように、質問の順番については、インタビュー番組の VTR で紹介するのが効果的だろう。また、番組であるため、音声聞き取りやすく、番組の構成も存在するため、日本語学習者にも分かりやすい談話であるといえる。

次の段階としては、自然談話の VTR を授業で取り扱うことにする。本研究における

【資料2】インタビュー取材や【資料3】就活相談の談話は、【資料1】インタビュー番組よりも、複雑な構造があり、様々な〈要求〉表現や特徴のある発話が用いられている。このような情報収集の談話は、教室活動のインタビューの外にも、日常生活における情報収集の際に活用でき、口頭表現能力の向上にも役立てることができる。

また、これら2種の談話は、質問者の質問と応答者の応答が成立しない場面もあり、このようなことは、日常生活でも実際に起こりうる可能性が高い。授業では、質問を考えることだけではなく、情報収集に失敗した原因やその対処法を考えることも準備としてする必要がある。例えば、VTRを視聴して、情報収集が成立しない場面について成立しなかった理由、その後の「質問者」の対応、あるいは、もし自分なら、どのように対応するかなどについてクラスで話し合うのもいいだろう。このように、インタビューの授業の発展練習として、与えられた表現形式を使うだけでなく、自分ならどのように、どんな表現をいつ使用するかなどの表現形式を応用する方法も考えさせるとよい。実際の場面では、パターンやモデル通りに準備しても、その通りにはいかない場合もある。このような発展練習をすることは、実際の場面や日常生活での情報収集に役に立ち、口頭表現能力の向上につながるに違いない。

7. 4. 5 授業案の提示

本節では、具体的な授業案を提示する。この授業で扱う学習活動は、インタビュー活動を用いた全2回からなるビジターセッション活動と会話分析活動である。ここでいう「ビジターセッション」とは、教室に日本語母語話者の協力者をビジターとして招き、学習者がインタビュー活動をするというものである。新たな試みとして、ビジターセッション活動に加えて、「会話分析活動」も取り入れる。

この授業は、1コマ90分間で全15回の1学期間、学習者は上級日本語学習者15名の授業を設定する。使用教材は、教師が作成のワークシートと本研究で収集した【資料1】と【資料2】の母語場面のVTRである。「ビジターセッション」は、1回目の反省や授業で学習したことを活かすために、全2回実施する。

「会話分析活動」とは、「1. 自己会話の分析」、「2. 日本語母語話者の会話分析」、「3. クラス全体での会話分析」の3種からなる。「1. 自己会話の分析」では、2回のビジターセッションにおける自分の会話を分析するものである。「2. 日本語母語話者の会話分析」は、**課題1**で収集した【資料1】テレビのインタビュー番組と**課題2**

で収集した【資料2】就活の相談の日本語母語話者の資料を授業で取り上げ、母語話者の話し方や表現の特徴を分析することである。「3. クラス全体での会話分析」は、クラスメートの会話を分析するというものである。中井（2012）も、都内某私立大学の中級後半～上級前半の学習者を対象のクラスにおいて「会話データ分析活動の教育実践例」を報告し、「会話の分析の視点の獲得」、「実際使用、アカデミック・スキル向上」、「学習者の主体性」などを挙げている。この授業においても、同様の効果があると期待している。中井（2012）は「複数の設問が記載されている「分析ワークシート」を使用しているが、この授業の「1. 自己会話の分析」では、学習者自らが文字化して「スムーズに進まなかった点」「気になった部分」について分析する活動を提案する。

授業では、本章で提案した1. 情報収集の談話全体の展開方法、2. 情報収集の話段の展開方法、3. 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法を考慮し、授業を実施する。

以下、【表34】に、韓国人日本語学習者を対象にしたビジターセッションの授業の計画案を示す。

【表 34】授業の計画案

回	活動内容	配布資料
1	活動の導入 テーマ作成・質問作成	活動の日程 テーマ・質問を考えよう
2	質問の検討	振り返りシート
3	第1回 ビジターセッション	
4	振り返り ディスカッション	報告しよう 振り返りシート
5	会話分析の方法 第1回セッション時の会話分析活動	会話分析の方法
6	母語話者 VTR 1 ³⁸ の会話分析活動 ビジターからのフィードバック	VTR 1 スクリプト コメントシート
7	母語話者 VTR 2、VTR 3 の会話分析活動 ディスカッション	VTR 2、VTR 3 のスクリプト コメントシート
8	第2回セッションのテーマ作成 質問の作成	テーマ・質問を考えよう
9	クラスメートの会話分析 類似テーマのグループで質問の検討 表現例の紹介	会話のスクリプト コメントシート 表現例
10	シミュレーション 質問の検討	
11	第2回 ビジターセッション	
12	振り返り ディスカッション	
13	会話分析活動	
14	振り返り ディスカッション ビジターからのフィードバック	
15	最終レポート提出、全体のまとめ	

³⁸ VTR1 はインタビュー番組、VTR 2 と VTR 3 は母語話者同士の就職相談の談話である。

第8章 韓国の国立D大学の上級日本語会話クラスにおける ビジターセッション活動の授業実践

第7章では、(1) 情報収集の談話全体の展開方法、(2) 情報収集の話段の展開方法、(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法という3点が、情報収集の談話の展開方法を学習するために重要であると考え、授業案を提示した。本章では、実際に授業実践を行い、その提案が有効か否かを検証する。

筆者は、2013年から2015年にかけての2年間、韓国の国立D大学の日語日文学科に勤務し、上級日本語の会話クラスを担当した。その際、7.4で示した授業案を基に、韓国在住の日本語母語話者の協力のもとで、情報収集活動であるビジターセッションの授業実践をした。本章では、その中から、2014年度の授業実践を取り上げる。

8. 1 本活動の位置づけ

本活動は、全2回のビジターセッション活動と会話分析活動からなっている。これまでのビジターセッションに関する先行研究や実践報告には、複数の学習者に1名のビジターというグループ形式の活動が多く見られた。その場合、参加者の発話数に偏りや話の遮り、割り込みなど他者の影響が生じることがあった。そのため、終始個人で会話に参加し、その後、自身の日本語を客観的に分析させたいと思い、本活動では、1対1の対話形式を取ることにした。また、事前に学習者にビジターとの親疎関係を聞き、全てのペアを初対面の関係とした。

初対面のペアに決めた理由は2点ある。第1に、学習前と学習後の談話の展開や評価を比較するためである。本活動では、質問者への評価を応答者に課したが、同じビジターが第1回と第2回の同じ学習者の会話を評価する際に、先入観から第2回のほうを高く評価する可能性があり、それを避けるために、第1回と第2回のペアを初対面と、同じ条件に設定して会話に参加してもらった。

第2に、初対面の場面は、学習者が多く遭遇する場面であり、未知の情報が多く、相互に関する情報が活発に交換されることから、会話の練習に適しているのではないかと考えたためである。

本活動で実施した「会話分析活動」の分析の方法は2種類あり、一つは、母語話者

の VTR やクラスメートの会話スクリプトからどのような特徴があるのか、ワークシートに書き込むもので、もう一つは、学習者自身が、実際の会話を録音した後、録音を聞いて、文字化資料を作成し、それをもとに、どのような特徴があるのかを自己分析するというものである。この活動は、母語話者やクラスメートがどのように会話をしているのか、また、実際に日本語母語話者と会話をしてみて、学習者が自分の日本語と向き合い、自分の日本語能力がどの段階にあるのか、自分の日本語の長所や短所はどこにあるのか、今後どのような学習が必要かを把握することにある。自分の会話を分析する際は、録音を聞いた後、文字化資料の作成を課した。これは、自分の日本語を視覚的に分析することで、細かい誤用や癖に気づき、その原因を確認することができるのではないかと考えたことによるものである。そして、1 回目の実施における反省点を改善する機会を設けるために、ビジターセッションを 2 回実施した。

筆者の授業への関わり方としては、学習者の主体的な学びを重視することから、教師が授業を主導することはせず、学習者自身、または、学習者同士で学び合いが起こるような環境を整えるというスタンスで授業を進行した。学習者が中心となり、会話分析活動、気づき、改善や工夫をしていく過程を重視したため、教師の方からは具体的な指示や答えを与えず、ヒントを与えるような形を取った。

8. 2 実践報告

8. 2. 1 クラスおよび学習者の日本語環境

本活動の実施時期は、2014 年度 1 学期（1 回 75 分間、週 2 回）の後半の全 14 回である。実施したクラスは、3、4 年生対象の上級レベルの「日本語会話Ⅲ」で、受講生は 17 名だった。初回の授業で、学習者の日本語環境を把握するために、松浦・小川（2011）の「レディネス調査」と同様に、事前アンケートを実施し、質問内容も松浦・小川（2011）に従った。以下、その結果を示す。

事前アンケートの結果によると、学習者は教師以外の日本語母語話者との接触が少ないことがわかる。そのため、せっかく日本語を学習しても、実際に日本語母語話者と日本語で会話をする機会は限られている。一方、学習者が接触した日本語母語話者は、「同大学の留学生」や「アルバイト先の客（観光客）」で、「長時間会話する機会は少ない」ということだった。また、母語話者と日本語で話す際は、大半が「緊張する」

ということで、「間違えるのが怖い」、自分の日本語力に「自信がない」という心理的負担を感じている学習者が多いことが明らかになった。また、アンケートの結果から、学習者が自分の会話能力のレベルや問題点を把握できていない可能性が予想された。

学習者に対する事前アンケートの結果

回答人数：全 17 名
質問 1. 最近、教師以外の日本人と話したことがありますか。 ：「はい」4 名 (23.5%) 「いいえ」13 名 (76.5%)
質問 2. 「はい」を選んだ人はどんな人と話したことがありますか。 ：「同大学の留学生」、「アルバイト先の客（観光客）」
質問 3. 日本人と話をすると緊張しますか。 ：「しない」1 名 (5.9%)、「少しする」8 名 (47.1%)、 「する」5 名 (29.4%)、「すごくする」3 名 (17.6%)
質問 4. 緊張する理由は何ですか。 ：「間違えるのが怖いから」、「言っていることが伝わるか不安だから」、 「表現、文法、発音が気になる、自信がないから」、「失礼なことがあると思って」等

ビジターセッション活動を実施した理由として、学習者たちに、教師以外の日本語母語話者とある程度の長さ会話をする機会を作りたいということの外、学習者のニーズがあったことも挙げられる。박혜성、조남성 (2003 : 444) は、「일본어 회화 수업의 현황과 과제 (日本語会話授業の現在と課題)」について、「学習者は会話の授業において小数の人員で、多くの会話の機会、及び時間を優先的に要求している」ことを明らかにしている。そして、「授業での個人の会話の機会は先の経済的な問題が解決されればより多く與えられると思われるが、その際、教師の会話の授業の運営に注意が必要となる。」と述べている。授業実践をした韓国の D 大学において、「日本語会話」のクラスを担当する日本語母語話者の教師は、筆者を含め 2 名であったため、박혜성、조남성 (2003 : 444) の指摘と同様に、学習者は、会話の授業で、少人数の多くの会話の機会、時間を期待していた。そこで、今回、日本語母語話者の協力のもとで、ビジターセッション活動の授業実践を実施することにしたのである。

8. 2. 2 授業の概要と進行

以下、本授業の概要を述べる。

授業の実施

実施時期 : 2014 年度 1 学期の全 14 回 (全 14 回のうち、2 回は休講だったため、
実質 12 回分で活動を実施)

実施クラス : 「日本語会話Ⅲ」の受講生

学生数 : 17 名

学生の国籍 : 韓国

授業時間 : 1 週間に 2 日で計 2 コマ (75 分×2 コマ)

【表 35】授業の進行

回	活動内容	配布資料	宿題
1	導入 質問作成	活動の日程 質問を考えよう 1	質問リストの作成
2	祝日のため休講		
3	第 1 回 ビジターセッション	振り返りシート	録音を聞き、答えを入力
4	振り返り ディスカッション		会話分析
5	創立記念日のため休講		
6	ディスカッション 母語話者 VTR 1 の会話分析活動 ビジターからのフィードバック	VTR 1 スクリプト コメントシート	
7	母語話者 VTR 2、VTR 3 の会話分析活動 テーマ作成 質問の作成	VTR 2、VTR 3 のスクリプト コメントシート テーマ・質問を考えよう	質問リストの作成
8	クラスメートの会話分析 類似テーマのグループで質問の検討 表現例の紹介	会話のスクリプト コメントシート 会話進め方・表現例	
9	シミュレーション 質問の検討		最終質問リストの提出
10	第 2 回 ビジターセッション	振り返りシート 2	報告をしよう
11	振り返り ディスカッション		
12	振り返り ディスカッション ビジターからのフィードバック		
13	全体のまとめ		
14	最終レポート提出		

本ビジターセッション活動の目的は、韓国人学生と日本人学生の交流を目的としている。D 大学には韓国留学中の日本人学生が多く在籍している。「日本語会話Ⅲ」の韓国人学生も、そのことは知りながら、なかなか接点がなくて、知り合うチャンスがな

いということだった。また、日本人留学生も同様に、韓国人の友人を作りたいということで、筆者の担当する日本語クラスにボランティアとして参加する者も何名かいた。そこで、本授業では、韓国人学生と日本人学生の交流の場を作るという目的もあり、ビジターセッション活動を計画した。

授業の主な展開は、「導入・準備→第1回ビジターセッション→振り返りと会話分析活動→準備→第2回ビジターセッション→振り返り→最終レポート提出」である。ビジターセッションは、学習者1名に対してビジター1名³⁹という対話形式で約20分間実施し⁴⁰、ビジターは同大学の日本人交換留学生に参加を依頼し、9名⁴¹に協力してもらった。

第1回のテーマは全員共通の「日本の大学生活」で、授業1回目に、学習者が各自、自由に質問を作成した。質問内容は主に、大学の授業や文化祭、サークル、アルバイトの経験、本大学とビジターの大学の違いについてだった。

事前に学習者には会話の時間と会話の流れを伝え、当日は録音機と質問リストを持参するように指示した。ビジターセッションの当日、クラス全体で簡単に挨拶をした後、ペアになって20分間会話をさせた。セッション後、学習者には振り返りシートを、ビジターには以下のアンケートを記入してもらい、全体でまとめをして、授業を終了した。その後、学習者には、録音を聞いて、質問リストの下に簡単に答えを入力する宿題を課した。授業の3回目から、振り返りと会話分析活動を行った。難しかった部分や会話がスムーズに進まなかった部分はどこか、どうすればよかったのかを考え、グループでディスカッションをしたり、自分の会話やクラスメートの会話、日本語母語話者の会話を分析したりした。そして、これらの活動において気がついたことを考慮し、第2回ビジターセッションの準備に取り組んだ。

³⁹ ビジターセッションの2回とも親疎関係、テーマ、質問に考慮し、教師がペアを作成した。

⁴⁰ 3ペアに1教室を確保し、各教室にタイマーをセットした。会話はビジターに許可を取り録音をした。

⁴¹ ビジターには事前に授業の概要や会話時間、テーマについては伝えたが、不自然さを避けるため質問内容は伝えていない。当日は特に準備などは必要なく、テーマについて質問されるのでそれについて日本語で会話をしてほしいと指示をした。ビジターセッション当日、ビジターには2名の学習者の会話相手になってもらった。

応答者に課したアンケート

ビジターセッション①アンケート

名前 _____ VS (1人目)相手の名前 _____

			5段階評価	理由
質問	1	答えやすい質問内容だった。	5・4・3・2・1	
	2	答えやすい質問の順番であった。	5・4・3・2・1	
	3	1問1答でなく、質問を重ねて深く掘り下げることができた。	5・4・3・2・1	
	4	ご自身が答えに困った場合、言い直しや例の提示など補助ができた。(なかった場合は未記入)	5・4・3・2・1	
聞き手	5	あいづちを十分に使用できた。	5・4・3・2・1	
	6	答えに対して、理解表示や理解確認ができた。	5・4・3・2・1	
	7	答えに対して、感想や評価表明ができた。	5・4・3・2・1	
進行	8	挨拶などをして会話を始めることができた。	5・4・3・2・1	
	9	挨拶などをして会話を終えることができた。	5・4・3・2・1	
	10	全体的な進行ができた。	5・4・3・2・1	
	11	次の話題(質問)への転換がスムーズであった。	5・4・3・2・1	

1. やりとりはどうでしたか。(日本語母語話者相手と比べて)

5. 全然難しくなかった 4. あまり難しくなかった 3. ふつう/まあまあ 2. 少し難しかった 1. とても難しかった

2. 「2」「1」の方→どんなところが難しかったですか。

3. 会話はスムーズに進みましたか。

5. 大変スムーズに進んだ 4. スムーズに進んだ 3. ふつう/まあまあ 2. スムーズさに少々欠けた 1. スムーズではなかった

4. 学生のよかった点

5. 頑張してほしい点、このような話し方(質問の順番、質問の仕方、話の聞き方、話題転換)をしてくれたら答えやすかった、スムーズに進んだ、このような話し方を勉強すれば、会話能力が向上するのではないかと思った点を書いてください。

6. 会話をしているときに、どんなことに気をつけましたか。○を書いてください。(複数可)

- a. 短文で話した
- b. 分かりやすい表現
- c. 表現の修正
- d. 話すスピードを遅くした
- e. 発言しやすいように話を振った
- f. どちらかといえば、こちらが進行役になって話を進めた
- g. 相手が分からない様子の際に言い直しをしたり、詳しい説明を加えたりした
- h. 相手が理解しているか不安だった際に理解を確認して話を進めた
- i. 相手が言おうとしていることを予測して、こちらから情報を提供した
- j. その他: _____

7. (ご自身)十分に情報を提供できましたか。

5. 十分にできた 4. できた 3. まあまあできた 2. あまりできなかった 1. できなかった

第2回は、会話形式と会話時間、流れは1回目と同様であるが、テーマは各自自由とし、ペアを変更した。質問を作成した後、シミュレーションをするなどして質問の検討を行い、最終質問リストを作成させた。第2回のビジターセッションと振り返りの流れは、第1回と同様である。最終的に、本活動についての報告と意見をまとめたレポートを課し、全体のまとめをして授業を終了した。

教材は、筆者作成のワークシートや準備したVTRなどを用い、毎回スライドも使用した。宿題は主にメールに添付して提出させ、直接添削することは避け、表現が間違っていた場合は、その箇所にアンダーラインを引いたり、改善点がある箇所にコメントをつけたりして返却した。

8. 3 学習前の学習者の談話

本節では、学習前の学習者の談話がどのようなものであったのかについて述べる。応答者（ビジター）には、第1回セッション（学習前）と第2回セッション（学習後）の全2回のセッション後に、**課題2**の就活相談の調査で用いた5段階評価のチェックリストに類似したリストとその外、設問を記載したアンケートを記入してもらった。

【表 36-1】は、第1回セッション（学習前）の5段階評価である。右側と下段に学習者の5段階評価の「平均値」を示す。設問網掛けの部分は5段階評価の「2」「3」と低い評価の部分で、最下段には、各項目の合計人数を示した。

「2と3の人数」によると、「3. 質問の仕方」と「11. 話題転換」が16名中9名で、最も多く、次いで、「2. 質問の順番」が7名、「聞き手」に属する「5. あいづち」、「6. 理解表示や理解確認」と「10. 全体的な進行」が6名という結果になった。

以上により、学習前の学習者は、「質問の仕方」、「質問の仕方」、「話題転換」、応答に対する反応である「あいづち」や「理解表示や理解確認」、「全体的な進行」をすることに何らかの困難さが見られる談話が多い傾向にあり、それに対して、ビジターは低い評価をしているといえる。そこで、情報収集の談話を学習する際には、それらのことに考慮した学習項目や学習活動を授業に取り入れる必要があると考えられる。

【表 36－1】 ビジターによる第1回セッション（学習前）の評価

学習者	質問				聞き手			進行				平均値
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
	質問内容	質問の順番	質問の仕方	（言い直した場合や例の提示）	あいづち	理解表示や理解確認	感想や評価表明	会話の開始	会話の終了	全体的な進行	話題転換	
NNS14	5	5	5		5	5	5	5	5	5	5	5
NNS15	5	5	5		5	5	4	5	5	5	5	4.9
NNS11	5	5	4		3	4	4	5	5	5	5	4.5
NNS7	5	4	3		4	4	4	5	5	4	4	4.2
NNS4	4	5	3	3	3	4	4	5	5	5	4	4.1
NNS5	3	3	4	3	3	4	4	5	5	5	5	4
NNS6	5	3	4	3	5	4	5	5	4	4	2	4
NNS12	4	3	2		4	5	2	5	5	5	3	3.8
NNS2	3	3	3	3	4	3	4	5	5	4	4	3.7
NNS13	4	4	2		4	4	4	4	4	4	3	3.7
NNS3	4	3	2	4	4	4	4	5	4	3	3	3.6
NNS8	4	3	4	4	5	3	3	5	3	3	3	3.6
NNS16	4	4	3		3	3	4	5	5	3	2	3.6
NNS10	4	4	4		3	3	4	4	4	2	3	3.5
NNS1	4	2	2	2	3	3	3	5	5	3	3	3.2
NNS9	3	4	2		4	3	4	4	3	2	2	3.1
平均値	4.1	3.8	3.3	3.1	3.9	3.8	3.9	4.8	4.5	3.9	3.5	
2と3の人数	3	7	9	5	6	6	3	0	2	6	9	

【表 36－2】 に設問とそれに対する5段階評価、その横に理由を示す。記入は任意であるため、未記入の部分もあり、そこは斜線で示した。高い評価の上位者は、1問1答ではなく、「質問の答えに関連する質問」をし、「あいづち」や「理解表示や理解表明」などの応答者の応答に反応をしたりする談話が高く評価されている。

【表 36－3】 に、アンケートの設問4「よかった点」と設問5「頑張ってたほしい点」の設問の回答を参加者別に示す。回答内容の中からキーワードを抽出し、チェックリストの11項目とその他の「表現」、「話し方」、「話題」、「誠意」、「発音」、「敬語」の6項目に分類した。【表 36－4】 に、分類の合計を示す。

【表 36－2】第 1 回セッション（学習前）の評価理由

学習者	平均値	設問項目	評価	理由
NNS14	5	質問の仕方	5	質問の答えに関連する質問もしてくれた。
NNS15	4.8			
NNS11	4.5	理解表示や理解確認	4	理解しているのが分かった。
NNS7	4.4	質問の仕方	3	準備した質問に私が答えていくという感じだった。
		あいづち	4	たくさんうなづいてくれて安心した。
		理解表示や理解確認	4	理解できているなど感じた。
NNS4	4.2			
NNS5	4.3			
NNS6	4.1	質問内容	5	答えにくい質問はなかった。
		質問の順番	3	質問の順番に少し脈絡がなかった。
		質問の仕方	4	私の返答に対して、さらに深く質問をしてくれた。
		言い直しや例の提示	3	答えに困った際に、自分の日本の友達の話を出してくれて答えやすくなった。
		理解表示や理解確認	4	難しい表現をした時に、言い直しをしたら、きちんと理解してくれた。
		会話の終了	4	少し終わり方が唐突だったかなと思う。
		話題転換	2	次の質問に移るタイミングが唐突な時が多かった。
NNS12	4	話題転換	3	時々急に話が転換することがあった。
NNS2	4	質問内容	3	答えやすいものと理解できないものがあった。
		質問の順番	3	挨拶からの導入はよかったが、その後が唐突な質問があった。
		あいづち	4	よくしてくれた。
NNS13	3.9			
NNS3	3.8	質問の仕方	3	大学生生活全般という感じで、色々な話題があったため。
		言い直しや例の提示	4	すぐに答えられない時、「例えば～」などと話してくれたのがよかった。
NNS8	3.5	質問の順番	3	話題がまとまっていなかった。
		質問の仕方	4	1つの質問に対して自分の意見もまぜながら会話していた。
		言い直しや例の提示	4	例を出して会話してくれた。
		あいづち	5	相づちをしっかりとっていたが、理解していたか不安。
NNS16	3.4			
NNS10	3.4	質問内容	4	専門分野が合っていたため。
		質問の仕方	4	質問のつながりが非常にスムーズでよかった。
NNS1	3.4			
NNS9	3.2	質問の順番	4	ジャンルにまとめられた質問だった。
		質問の仕方	2	一問一答感のある質問だった。
		会話の終了	3	日本語的な表現ではなかった。

【表 36－3】設問 4 「よかった点」と設問 5 「頑張ってたほしい点」

学 習 者	5 段 階 評 価	設 問 4 ／ 設 問 5	回 答	内 容 項 目	キ ー ワ ー ド
NNS14	5	4	あいづちもそうですが、私の話だけでなく自身の考えも話してくれたことでより質問に答えやすかった。	4	例の提示
		5	話していて特に違和感は感じなかった。話の広げ方や話題転換も上手だった。		話題転換
NNS15	4. 9	4	リアクションも多く話しやすかった。	5, 6, 7	反応
		5	一般的な日本語は身につけていると思うので、敬語などをもう少し話すことができれば完璧だと思う。		敬語
NNS11	4. 5	4	聞き取りやすい日本語だった。イントネーションも自然。		発音
		5	日本語が上手で慣れているため、話し方がタメロになっている。表現や発音などは完璧なので、敬語を話すことに心がけてほしい。		敬語
NNS7	4. 2	4	発音がきれいで、イントネーションも上手だった。少し難しい話題も話せたのもよかったと思う。		発音
		5	相づちをもっと多めにしてみたらいいと思う。「へえー」など。	5	あいづち
NNS4	4. 1	4	韓国の例を出してもらえたので、回答を考えやすかった。	4	例の提示
		5	質問をいっぱい考えていて、話題を振れるように心がけていた。「読んでいる」という感じだったので、質問文もスラスラ言えたらもっとスムーズに進んだと思う。		話し方
NNS5	4	4	話の流れがスムーズでよかったと思う。会話の流れがとぎれなかったように感じた。	11	全体的な進行
		5	質問が少し曖昧なところがあった。具体的な質問やそれに対する韓国人の例などを出してもらえたらよかったと思う。	1, 4	質問内容、例の提示
NNS6	4	4	質問の答えに対して、さらに自分の話を付け加えて、反応してくれたのがよかったと思う。	7	感想や評価表明
		5	質問を重ねて深く掘り下げる際に、言葉を途中で止めてしまうことが多かったのですが、最後まできちんと文章を作って話せたら、相手も質問を理解しやすいし、もっと会話がスムーズに進むと思った。	3	質問の仕方
NNS12	3. 8	4	言葉が出てこない時に他の言い回しに変えて発言していた。	4	言い直し
		5	あいづちをもっと使うと、もっとスムーズになると思う。	5	あいづち
NNS2	3. 7	4	はっきり話してくれたところ。		話し方
		5	後半、話題がいつたりきたりしていたので、そこを整理するといと思う。	10	全体的な進行
NNS13	3. 7	4	発音がきれいだった。		発音
		5	1つの話題でもう少し掘り下げて話せるといいと思う。前半の1つ1つの質問に対して話した内容がうすい気がした。	3	質問の仕方
NNS3	3. 6	4	自然に会話ができた。話すスピードもよかったと思う。		発音
		5	韓国語っぽい言い回しをたまにしたのが気になった。		韓国語の表現
NNS8	3. 6	4	一生懸命話を聞こうと私の目を見てあいづちを打っていた。	5	あいづち
		5	単語や文法が分からず、会話が止まることが多く、まちがった言葉、表現を使っているところもあったので、スムーズに会話できるように頑張ってたほしい。		表現
NNS16	3. 6	4	すごく一生懸命に話していて、その誠意が伝わってよかった。		誠意
		5	一つの質問が終わると、あまりつながっていない質問をすぐ出していたので、質問の順番と1つの質問に対して深く掘り下げるのができればスムーズに進むのではないかと思います。	2, 3	質問の順番、質問の仕方
NNS10	3. 5	4	質問が一問一答ではなく、スムーズに話してくださったのですごく答えやすかった。	3	質問の仕方
		5	質問が若干、抽象的な部分があったので、もう少し具体的に絞った質問をしてくれるとより答えやすい。全体的に内容が重めだったので、答えやすい質問（軽い質問）から順に構成するとおよい。	2, 3	質問内容、質問の順番
NNS1	3. 2	4	質問をいっぱい考えていて、話題を振れるように心がけていた。		話題
		5	話を掘り下げるよりも話題を振ることで手一杯になってた気がした。1問1答な感じ。	3	質問の仕方
NNS9	3. 1	4	次に質問する内容（ジャンル）をあらかじめ言ってくれた点。（今からサークル活動について聞きたいと思います）	3	質問の仕方
		5	一問一答の感が強かったので、会話のつながりをスムーズにできたら、よりなめらか会話になると思う。また、慣用的な日本語表現を覚えたほうがいいと感じた。（よく話してくれて→お答えいただき）	3, 11	質問の仕方、表現、話題転換

【表 36－4】設問4「よかった点」と設問5「頑張っしてほしい点」の分類

	内容項目	設問4	設問5	合計
1	質問内容	0	0	0
2	質問の順番	0	2	2
3	質問の仕方	2	6	8
4	言い直しや例の提示	3	1	4
5	あいづち	2	1	3
6	理解表示や理解確認	1	0	1
7	感想や評価表明	2	0	2
8	会話の開始	0	0	0
9	会話の終了	0	0	0
10	全体的な進行	0	1	1
11	話題転換	1	2	3
他	表現	0	3	3
他	話し方	1	1	2
他	話題	1	0	1
他	誠意	1	0	1
他	発音	4	0	4
他	敬語	0	2	2

【表 36－3】の高く評価されている上位者は、例の提示があり、応答に反応がある談話が高く評価されている。一方、低く評価されている下位は、質問を掘り下げず、1問1答の談話の傾向があって、低く評価されている。

【表 36－4】によると、設問4の「よかった点」で最も多かったのが、4名の「発音」であり、設問5の「がんばっほしい点」は6名の「質問の仕方」であった。

以上の結果、学習前の学習者の談話は、質問を深く掘り下げる談話の展開というよりは、1問1答の談話の展開方法で情報収集をするという傾向がある。その点に関して、応答者は評価が低く、掘り下げるような談話展開の方法や、例の提示、応答への反応がある談話は、評価が高いということが明らかになった。そこで、本授業の設計において、応答者を意識した「質問の仕方」、「例の提示」、あいづちや理解表示などの「反応」、「話題転換」を学習できるような学習項目や学習活動を取り入れることを試みることにした。

8. 4 学習前と学習後の応答者の質問者に対する評価分析

本節では、全16名⁴²の学習前後の応答者（ビジター）の質問者に対する評価分析について論じる。以下、【表 36－5】に学習前と学習後の評価を、学習前と学習後の平

⁴² 受講生全17名の内、1名の学習者が第2回ビジターセッションの日に欠席したため、評価分析は全16名を対象とした。

均値の差が大きい順に示す。

【表 36－5】学習前と学習後の応答者の質問者に対する評価

学習者	学習前／学習後	質問				聞き手			進行				平均値	学習前と学習後の平均値の差
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
		質問内容	質問の順番	質問の仕方	(言ない直しや例の提示 ない場合は未記入)	あいづち	理解表示や理解確認	感想や評価表明	会話の開始	会話の終了	全体的な進行	話題転換		
NNS9	前	3	4	2		4	3	4	4	3	2	2	3.1	1.8
	後	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	4.9	
NNS1	前	4	2	2	2	3	3	3	5	5	3	3	3.2	1.4
	後	5	5	5	4	4	4	4	5	5	5	5	4.6	
NNS10	前	4	4	4		3	3	4	4	4	2	3	3.5	1.1
	後	4	5	4		5	5	5	5	4	5	4	4.6	
NNS2	前	3	3	3	3	4	3	4	5	5	4	4	3.7	0.8
	後	4	5	4	4	5	5	5	5	5	4	4	4.5	
NNS7	前	5	4	3		4	4	4	5	5	4	4	4.2	0.7
	後	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	4.9	
NNS12	前	4	3	2		4	5	2	5	5	5	3	3.8	0.7
	後	5	5	5	4	4	4	4	4	5	4	5	4.5	
NNS3	前	4	3	2	4	4	4	4	5	4	3	3	3.6	0.6
	後	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4.2	
NNS5	前	3	3	4	3	3	4	4	5	5	5	5	4	0.5
	後	5	5	4	4	4	5	4	5	5	5	4	4.5	
NNS11	前	5	5	4		3	4	4	5	5	5	5	4.5	0.3
	後	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5	4	4.8	
NNS13	前	4	4	2		4	4	4	4	4	4	3	3.7	0.3
	後	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4	3.8	
NNS16	前	4	4	3		3	3	4	5	5	3	2	3.6	0.3
	後	4	4	3	3	3	3	4	5	5	5	5	3.9	
NNS6	前	5	3	4	3	5	4	5	5	4	4	2	4	0.2
	後	5	5	4	4	4	3	3	5	5	4	4	4.2	
NNS8	前	4	3	4	4	5	3	3	5	3	3	3	3.6	0.1
	後	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	3	3.7	
NNS4	前	4	5	3	3	3	4	4	5	5	5	4	4.1	-0.4
	後	3	4	3	4	4	3	4	5	4	4	3	3.7	
NNS14	前	5	5	5		5	5	5	5	5	5	5	5	-1
	後	4	3	3	3	4	5	5	5	5	4	3	4	
NNS15	前	5	5	5		5	5	4	5	5	5	5	4.9	-1.1
	後	4	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	3.8	
平均値	前	4.1	3.8	3.3	3.1	3.9	3.8	3.9	4.8	4.5	3.9	3.5	3.9	
平均値	後	4.4	4.5	4.1	3.8	4.3	4.3	4.3	4.6	4.6	4.4	4.1	4.3	

2 5 6 1 2 3 1 0 1 4 5

平均値によると、学習前と学習後で、評価が高くなった学習者は、全 16 名中 14 名、一方、評価が低くなった学習者は 3 名だった。学習前と学習後の平均値の差は、「1」以上の差があった学習者が 3 名、マイナスになった学習者も 3 名だった。

11 項目において、学習前と学習後で「2」以上上がった項目を濃い網掛けにし、表の最下段に合計を示した。これによると、学習前と学習後で評価が最も高くなった項目は、「質問の仕方」で 6 名、次いで「質問の順番」と「話題転換」が 5 名という結果となり、授業で取り扱った学習項目が学習後である第 2 回セッションで改善されたことが分かる。

以上の結果には、学習者は、第 1 回セッションでの反省を第 2 回に活かしたことで、授業で取り扱った学習項目や学習活動の効果があったことが示唆されている。

【表 36-6】に評価の「理由」について、学習前と学習後別に示す。設問とそれに対する 5 段階評価、その横に理由を示す。記入は任意であるため、未記入の部分については斜線で示した。

これによると、設問 1 の「1. 質問内容」、設問 2 の「2. 質問の順番」、設問 3 の「3. 質問の仕方」について主に理由を記入した応答者が多いことが分かる。理由の内容を見ると、1 問 1 答の談話展開をしている学習者が複数いることが分かる。これは、先行研究の高木 (2013) と本研究の課題 2 の韓国語母語話者の特徴である、「要求型」で談話展開をするという結果と同じである。一方、母語話者は、1 問 1 答の形式の談話の展開方法よりも (NNS 7、NNS 9)、自分の応答に対して意見を述べたり (NNS 2)、関連した質問をしたりと (NNS 6、NNS 8、NNS10、NNS14)、1 話題について掘り下げるような談話の展開方法を好む傾向があることも分かった。これも、高木 (2013) と課題 1 で明らかになった「共有型」の談話展開の結果と同様である。さらに、授業で取り扱った「前置き+質問」について、肯定的なコメント (NNS 3、NNS 6、NNS11) も確認できたことによって、「前置き+質問」が応答者の応答を促す効果があることが明らかになった。

【表 36-6】評価理由

学習者	学習前／学習後	設問番号	設問の概要	5段階評価	評価理由
NNS1	前後				
NNS2	前	1	質問内容	3	答えやすいものと理解できないものがあった。
		2	質問の順番	3	挨拶からの導入はよかったが、その後が唐突な質問があった。
	後	4	あいづち	4	よくしてくれた。
		1	質問内容	4	少し難しかった。
NNS3	前	3	質問の仕方	4	答えに対して意見を述べてくれたのがよかったと思う。
		3	質問の仕方	3	大学生生活先般という感じで、色々な話題があったため。
	後	4	言い直しや例の提示	4	すぐに答えられない時、「例えば～」などと話してくれたのがよかった。
NNS4	前後				
NNS5	前	1	質問内容	3	「この質問しても大丈夫ですか」との配慮があった。
	後				
NNS6	前	1	質問内容	5	答えにくい質問はなかった。
		2	質問の順番	3	質問の順番に少し脈絡がなかった。
		3	質問の仕方	4	私の返答に対して、さらに深く質問をしてくれた。
		4	言い直しや例の提示	3	答えに困った際に、自分の日本の友達の話を出してくれて答えやすくなった。
		6	理解表示や理解確認	4	難しい表現をした時に、言い直しをしたら、きちんと理解してくれた。
		9	会話の終了	4	少し終わり方が唐突だったかなと思う。
		11	話題転換	2	次の質問に移るタイミングが唐突な時が多かった。
	後				
NNS7	前	3	質問の仕方	3	準備した質問に私が答えていくという感じだった。
		5	あいづち	4	たくさんうなづいてくれて安心した。
	後	6	理解	4	理解できているなど感じた。
NNS8	前	2	質問の順番	3	話題がまとまっていなかった。
		3	質問の仕方	4	1つの質問に対して自分の意見もまぜながら会話していた。
		4	言い直しや例の提示	4	例を出して会話してくれた。
		5	あいづち	5	相づちをしっかりしていたが、理解していたか不安。
	後				
NNS9	前	2	質問の順番	4	ジャンルにまとめられた質問だった。
		3	質問の仕方	2	一問一答感のある質問だった。
		9	会話の終了	3	日本語的な表現ではなかった。
	後	1	質問内容	5	例も挙げてくれてわかりやすかった。
		2	質問の順番	5	似たような問題ごとに分けてあってよかったと思う。
		9	会話の終了	5	しめの挨拶も上手だった。
NNS10	前	10	進行	5	流れもスムーズだった。
		1	質問内容	4	専門分野が合っていたため。
	後	3	質問の仕方	4	質問のつながりが非常にスムーズでよかった。
		1	質問内容	4	抽象的な質問があり、少し答えづらかった。
		4	言い直しや例の提示	4	私の答えに対してさらに深く掘り下げた質問をしていた。
NNS11	前	9	会話の終了	4	終わり方が少し唐突だった。
		6	理解表示や理解確認	4	理解しているのが分かった。
	後	2	質問の順番	5	質問の順番が自然でよかった。
		3	質問の仕方	5	「さっき～とおっしゃっていましたが、～」というフレーズを使っていてすごいと思った。
		4	言い直しや例の提示	4	例の提示があって分かりやすかった。
		5	あいづち	5	すごく話を聞いてくれてるなと感じられた。
NNS12	前	6	理解表示や理解確認	5	答えに対して、さらに自分の考えを付け加えたりできていた。
	後	11	話題転換	3	時々急に話が転換することがあった。
NNS13	前				
	後	8	会話の開始	3	あいさつをもうちょっと丁寧にしてもよかった。
		9	会話の終了	3	あいさつをもうちょっと丁寧にしてもよかった。
NNS14	前	11	話題転換	4	話に合わせた進行をしてくれた。
	後	5	質問の仕方	5	質問の答えに関連する質問もしてくれた。
NNS15	前後				
NNS16	前後				
	後	6	理解表示や理解確認	3	話の途中で伝わっていないことがあった。

【表 36-7】に、アンケートの設問 4「よかった点」と設問 5「頑張ってたほしい点」の設問の回答を参加者別に示す。

【表 36-7】設問 4 と設問 5 の回答（1）

参加者	学習前／学習後	設問 4／設問 5	回答
NNS1	前	4	質問をいっぱい考えていて、話題を振れるように心がけていた。
		5	話を掘り下げることよりも話題を振ることで手一杯になってた気がした。1 問 1 答な感じ。
	後	4	答えに対して同意してくれたり、意見を言ってくれたので話しやすいし、楽しかった。
		5	こちらの応答に対する反応がもっとバリエーションがあれば会話がもっと弾むと思う。
NNS2	前	4	はっきり話してくれたところ。
		5	後半、話題がいったりきたりしていたので、そこを整理するといーと思う。
	後	4	答えに対して意見を述べてくれたり、韓国の日本と違う入試についても答えてくれたので勉強になった。
		5	もう少し、話の切り替えをスムーズにできると聞きやすと思った。
NNS3	前	4	自然に会話ができた。話すスピードもよかったと思う。
		5	韓国語っぽい言い回しをたまにしていたのが気になった。
	後	4	1 問 1 答でなく話題を掘り下げて話してくれたところ。「難しい質問なんですが…」という前置きがあった。
		5	開始の部分で「自己紹介お願いします」と一言あればよかった。
NNS4	前	4	韓国の例を出してもらえたので、回答を考えやすかった。
		5	質問をいっぱい考えていて、話題を振れるように心がけていた。「読んでいる」という感じだったので、質問文もスラスラ言えたらもっとスムーズに進んだと思う。
	後	4	あいづちや答えに対する反応がよくできていた。質問の順番がよかった（答えやすい順だった）
		5	一問一答感が（本人も自覚していたが）やはりあったので、前の質問を踏まえて次の質問をするなど、工夫があればよい。少し、理解しているか不安な反応、表情をしているときがあったので、分からない時は聞き直すなどしてもいいと思う。
NNS5	前	4	話の流れがスムーズでよかったと思う。会話の流れがとぎれなかったように感じた。
		5	質問が少し曖昧なところがあった。具体的な質問やそれに対する韓国人の例などを出してもらえたらよかったと思う。
	後	4	最初にアイスブレイキング的な話題からスタートしたのがよかったと思う。少しスピードを落として話したりはしましたが、私の話をだいたい理解していることが分かった。また、「例えば～」など例示を入れてくれたので、こちらも答えやすかった。
		5	会話の仕方が自然でよかったと思うが、語尾などがやや自信なさそうに話していた時があったように感じた。
NNS6	前	4	質問の答えに対して、さらに自分の話を付け加えて、反応してくれたのがよかったと思う。
		5	質問を重ねて深く掘り下げる際に、言葉を途中で止めてしまうことが多かったのも、最後まできちんと文章を作って話せたら、相手も質問を理解しやすいし、もっと会話がスムーズに進むと思った。
	後	4	答えやすい質問だった。「韓国では～です」などと比較していたのもよかったと思う。進行も自然でよかった。
		5	全体的にはとても上手だったと思うが、より自然に会話できるようになりたいのであれば、もう少しスピードを速く話した方がいいと思った。また、漢字語の日韓の違いなども練習してみたらいいと思う。
NNS7	前	4	発音がきれいで、イントネーションも上手だった。少し難しい話題も話せたのもよかったと思う。
		5	相づちをもっと多めにしてみたらいいと思う。「へえー」など。
	後	4	私が話したことをしっかり理解して、さらに話を進めていった。
		5	ほんの少しだけイントネーションが気になった。

【表 36－7】設問4と設問5の回答（2）

NNS8	前	4	一生懸命話を聞こうと私の目を見てあいづちを打っていた。
		5	単語や文法が分からず、会話が止まることが多く、まちがった言葉、表現を使ったりいるところもあったので、スムーズに会話できるように頑張っ てほしい。
	後	4	一つ一つの質問に対して深く話を広げていくところが話しやすくてとても よかったと思う。
		5	敬語の使い方も話題転換も十分にできていたので、小さい過去や未来表現 などの使い方をもう少しスムーズに的確にできれば完璧だと思う。
NNS9	前	4	次に質問する内容（ジャンル）をあらかじめ言ってくれた点。（今から サークル活動について聞きたいと思います）
		5	一問一答の感が強かったので、会話のつながりをスムーズにできたら、よ りなめらか会話になると思う。また、慣用的な日本語表現を覚えたほうが いいと感じた。（よく話してくれて→お答えいただき）
	後	4	あいづちをしながら聞いてくれたし、答えに対しても少し触れながら話し てくれたので、答えやすかった。
		5	日本語は上手なので、もう少し自信をもって堂々と話すといいと思った。
NNS10	前	4	質問が一問一答ではなく、スムーズに話してくださったのですごく答えや すかった。
		5	質問が若干、抽象的な部分があったので、もう少し具体的に的を絞った質 問をしてくれるとより答えやすい。全体的に内容が重めだったので、答え やすい質問（軽い質問）から順に構成するとなおよい。
	後	4	私の答えに対して、自分の経験だったり考えだったり、感想を詳しく付け 加えていた点がよかった。
		5	抽象的な質問をして、相手が少し考えている間が生じたら、質問の言い回 しを変えたり、具体例を提示してみたりするとさらによいと思う。
NNS11	前	4	聞き取りやすい日本語だった。イントーネーションも自然。
		5	日本語が上手で慣れているため、話し方がタメ口になっている。表現や発 音などは完璧なので、敬語を話すことに心がけてほしい。
	後	4	前の質問に対する私の答えを引用してさらに深く次の質問をしてくれたの で、話をきちんと聞いてくれている、一方通行のインタビューではないと 感じた。
		5	話し方、会話の勧め方については、言うことなしだと思った。
NNS12	前	4	言葉が出てこない時に他の言い回しに変えて発言していた。
		5	あいづちをもっと使うと、もっとスムーズになると思う。
	後	4	お互い楽しく会話がスムーズに進めるよう話題転換もよく、聞き取りやす い日本でもよかった。
		5	敬語をもう少し適切に的確にすることができればよりよいと思う。
NNS13	前	4	発音がきれいだった。
		5	1つの話題でもう少し掘り下げて話せるといいと思う。前半の1つ1つの 質問に対して話した内容がうすい気がした。
	後	4	形式に捉われず、こちらが話す内容に合わせて進行をしてくれたので、話 がしやすかった。
		5	タメ口の表現がまざっている箇所があったので、そこを気を付けて直せ ば、公の場でも十分通用する力がつくと思う。あいづちや相手の返納を もっとすればよりスムーズな会話になると思う。
NNS14	前	4	あいづちもそうですが、私の話だけでなく自身の考えも話してくれたこと でより質問に答えやすかった。
		5	話していて特に違和感は感じなかった。話の広げ方や話題転換も上手だっ た。
	後	4	会話が切れないように質問をしていくつも考えていてやりやすかった。
		5	短文でもいいので、会話中にあいづちや自分の意思表示を入れた方がい いと思った。
NNS15	前	4	リアクションも多く話しやすかった。
		5	一般的な日本語は身についていると思うので、敬語などをもう少し話すこ とができれば完璧だと思う。
	後	4	会話が切れないようにに質問をいくつも考えていて分かりやすかった。
		5	短文でもいいので、会話中にあいづちや自分の意思表示を入れた方がい いと思った。
NNS16	前	4	すごく一生懸命に話していて、その誠意が伝わってよかった。
		5	一つの質問が終わると、あまりつながっていない質問をすぐ出していたの で、質問の順番と1つの質問に対して深く掘り下げるころができればス ムーズに進むのではないかなと思う。
	後	4	言葉がごくくても、話す姿勢が見られたのでよかった。
		5	文法の誤りがところどころ見られたので、そこを直せばよくなるのではな いかなと思った。

【表 36－7】によると、学習前の設問4「よかった点」は、「発音」について評価するコメントが多くみられた。学習前の設問5「頑張してほしい点」については、「3. 質問の仕方」、「2. 質問の順番」、「11. 話題転換」などだったが、学習後の設問4「よかった点」では、それに対する肯定的なコメントが多数確認できたため、第1回セッションでの反省点や課題が、第2回セッションで改善されたといえる。従って、授業で取り扱った、「2. 情報収集の話段の展開方法」や「3. 有効な日本語の情報収集の談話の展開方法」に関して、多少の学習効果があったといえるのではないかな。

8. 5 学習者の意識変化

本節では、第1回ビジターセッションの導入から第2回ビジターセッションの振り返りに至る具体的な学習活動を示しながら、学習者の意識にどのような変化があったのかを検証する。その結果を踏まえ、本活動の有効性について検討する。

8. 5. 1 分析方法

一連の活動の中で学習者の意識にどのような変化があったのかを明らかにするために、受講者全16名の学習者のデータを概観したところ、大部分に意識の変化が見られた。中でも、学習者NNS1の意識変化が最も顕著に表れていたため、本節では、学習者NNS1の事例について、質的に分析することにする。

分析データは、学習者NNS1の(1)事前アンケート、(2)振り返りシート、(3)会話分析シート、(4)コメントシート、(5)最終レポートと(6)ビジターと(7)第3者によるアンケート、そして(8)筆者の授業記録ノートである。

会話の評価や印象に関しては、主に学習者NNS1の振り返りシート、ビジターと第3者である評価者のアンケートを用いる。ここで、授業の参加者ではない第3者のアンケートを用いる理由は、評価の妥当性と信頼性を高めるためである。学習者の会話を評価する際、第1回と第2回の会話の相手のビジターが異なるため、ビジター2名の評価に個人差が表れる可能性がある。それで、第3者の立場である評価者2名に第1回と第2回のビジターセッションの会話の録音を視聴した後、アンケートに評価を記入するように依頼した。この2名は、いずれも日本語教育の経験がある日本語母語話者である。

8. 5. 2 学習者の背景

一連の活動における学習者 NNS1 の意識の変化に焦点を当てる。学習者 NNS1 は、日本語を主専攻とし、JLPT 1 級保持者、大学のプログラムで 1 度日本を訪れたことがある。事前アンケートによると、普段は母語話者との接触はなく、話す場合は「少し緊張する」、その理由として、「会話するとき適当な言葉を選ぶことが難しい。」と答えていた。

以下、学習者 NNS1 の第 1 回ビジターセッションの質問リストを示す。

第 1 回ビジターセッションの質問リスト⁴³

【事前質問】

- ①お名前は何ですか？
- ②趣味は何ですか？
- ③ご出身はどちらですか？
- ④日本でどの大学に行きましたか？
- ⑤専攻は何ですか？日本での専攻と韓国での専攻を聞きたいです。
- ⑥韓国に来たとき、日本と違った点などがありますか？

【テーマ質問】「日本の大学生活」

- ①日本の大学の授業と韓国の大学の授業の違いについて聞きたいです。
- ②試験の勉強はどうしますか？韓国の学生はほとんど夜通し勉強するのが普通です。
- ③日本の大学にも祭りがありますね。祭りの時、どんなことをしますか？
- ④日本の大学生の飲み会はどうですか？もし韓国の大学生と飲み会に行ったら何があれば比べて説明してください。
- ⑤日本の大学も韓国のように MT を行きますか？
- ⑥サークルの活動はどうですか？韓国よりサークル活動が活発にできるそうですね。
- ⑦日本でしていたサークルがありますか？

⁴³ 原文のまま。

これによると、一応「日本の大学生生活」というテーマの質問にはなっていたが、授業、試験勉強、文化祭、飲み会、MT、サークル活動と、話題が多岐に分かれて、1つの話題について深く尋ねるような談話展開にはなっていないことが確認できる。これは、**課題2**で明らかにした韓国語母語話者の談話展開の方法と同様であり、高木（2013）の韓国語母語話者の「要求型」の談話展開の影響があることが示唆されている。

8. 5. 3 第1回ビジターセッション

授業3回目で実施した第1回ビジターセッションの終了後、学習者 NNS1 は「よく話せました。」と明るい表情で教室に戻って来た。

【表 36-1】に、セッション後の学習者 NNS1（振り返りシート）とビジター1（アンケート）、評価者1と評価者2（アンケート）評価⁴⁴を示す。

【表 36-1】によると、学習者 NNS1 が、全体的にやや高く自己評価をしているのに対し、ビジターと評価者1、2の評価は低いことが分かる。学習者 NNS1 は振り返りシートに、「質問の順番を決めたのでスムーズに進んだと思う。前から質問を準備したので、思ったよりうまくコミュニケーションできたと思う。」と記し、準備した質問が時間内に全てできたので、予想以上にうまく会話ができたと述べていた。これによると、やや高い自己評価をした主な理由として、準備した質問が全部できたことが考えられる。それに対して、ビジターと評価者1、2は、「⑦質問の内容」以外の評価が低く、「③頑張っしてほしい点」として、3名とも、話題を振ることや質問をすることで精いっぱいになってしまい、質問の仕方が改善を要すると共通に指摘している。また、話題の展開方法やあいづち、反応に課題が残ることも指摘されている。

⁴⁴ 質問①、④、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩は5段階評価である。

【表 37-1】学習者 NNS1 とビジター 1、評価者の評価

	質問内容	学習者 NNS1	ビジター1	評価者1	評価者2
①	相手とうまくコミュニケーションできたと思いますか。	4	2	2	2
②	よかった点/頑張った点	準備した質問を全部できた。 自然に話した。	質問をいっぱい考えていて、話題を振れるように心がけていた。	日本語で会話をしようという一生懸命さは伝わった。	質問自体、答えにくいものはなかったが、何を一番聞きたかったのか意図が分からない。
③	反省点/弱いと感じた点	緊張して少しどもる。時々、適当な言葉を選べなかった。	話を掘り下げることよりも話題を振ることで手一杯になってた気がした。1問1答な感じ。	時間内に準備した質問をすることに一生懸命。話の流れがなく、唐突に話題が変わる。反応も薄い。	質問しなければという気持ちが勝ってしまい、相手の言ったことを理解したり、話を展開させたりするという感じが無い。
	頑張ってたほしい点				
④	会話はスムーズに進みましたか。	3	2	2	2
⑤	相手の日本語はどのくらい理解できましたか。	80%			
⑥	テーマについて十分話が聞けましたか。	4			
	十分に情報提供できましたか。		3		
⑦	質問の内容	4	4	4	3
⑧	質問の順番・仕方 ⁴⁵	4 スムーズに質問が進んだから。	2	2 進行が早く、機械的。1問1答な感じ。	2 準備していたテーマへスムーズにつなげられるような順番で質問をすべき。
⑨	答えに対する反応 ⁴⁶	4	3	2 基本的に反応が薄い。不自然な部分もある。後半、ビジターがカバーしている部分が多い。	2 納得できていないであろうところで「そうですか」と言っている場面もある。ビジターの方が理解表示や理解確認をしている。
⑩	緊張しましたか。	4 した。			

⁴⁵ 授業で扱う「(2) 情報収集の話段の展開方法」の「質問の提出順」を反映させた設問である。

⁴⁶ 授業で扱う「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」を反映させた設問である。

8. 5. 4 会話分析活動

8. 5. 4. 1 自己会話の分析

第1回セッションの終了後、サンプルと共に会話分析の宿題を課した。会話分析の指示は、「まず、録音を聞いて、スムーズに進まなかった部分や気になった部分のみ、発話を文字化する。文字化は、はじめに、発話例の番号、その横に発話の開始時間を記入する。その左側に発話者を記入する。気になった発話や表現に下線を引き、そこをどうすればよかったのか、→の後に記入する。」である。文字化は、本研究の3. 2のような研究に用いた規則ではなく、学習者用に簡略化した規則である。学習者の負担を軽減するため、取り上げる部分は3例以上でよいと指示した。以下に、学習者 NNS1の会話分析シート⁴⁷を示す。分析した発話例は3例で、表現の誤用や話題転換に関してであった。ここから、学習者 NNS1 は、会話の反省点として会話の表現の誤用に重点が置かれ、ビジター1や評価者1、2が低く評価した質問の仕方や答えに対する反応には意識が向いていないことが考えられる。

NNS1 の会話分析シート⁴⁸

(1) 00:02:35
学習者 NNS1: そろそろ(→それでは)、テーマですけど日本の大学生活について質問してもよろしいでしょうか。
ビジター1: はい。
学習者 NNS1: 始めに、日本のたいがく(→だいがく)の授業と韓国の大学の授業と比べてちがさ(→違う点)がありますよね。
ビジター1: はい。それは結構日本の大学は大講義と言って何百人とかで受ける授業が一人の教授がずっと話してそれを聞くだけ、教科書とかメモとか取ったりして聞くだけの授業があるんですけど結構韓国こち来て受ける授業は何百人とかの授業じゃなくて多くても四十人とか授業で受けて先生もちゃんと生徒が言わない点とかしっかりしてやってるんでその点は僕に入り込みやすくていいやり方だと思います。
学習者 NNS1: そうですね。
→単語を選ぶ時、間違いをしたことや発音を間違ったことが問題点だった。単語の選択や発音にもっと気を使うのが大切だと思う。

(2) 00:06:19
ビジター1: 出席とかとるんじゃないですか。
学習者 NNS1: あ、はい。
ビジター1: 出席とるとかでも日本のその大講義などでは人数が多すぎて、例え僕がその日授業

⁴⁷ 会話参加者の名前は本来、本名が記入されていたが、筆者が「学習者 NNS1」「ビジター1」と変更した。

⁴⁸ 原文のまま。

に行くのがめんどくさくて休みたいと思うじゃないですか。そしたら、一緒に授業とってる友達にメールとかして僕のぶんまで返事しておいてと

学習者 NNS1: あ、はいはい。そんなことがありますよ。

ビジター 1: 結構そういうのが日本では頻繁にあってるけど韓国ではどうですか。

学習者 NNS1: 韓国も同じかも知れませんが。私はそんなことしないけど友達のなかでは結構います(→あります)。

→質問をもらおうと適当な単語が覚えなくて言い淀したりしたのが問題点だと思う。そして会話する時は時々いるとあるを間違えることも問題点だと思う。

(3) 00:10:12

ビジター 1: 日本は休みなので、二日？二日間は授業がなくて休みにします。

学習者 NNS1: それは韓国より本当にいいですよ。

ビジター 1: 何か有名人とかも呼んだりするんですよ。例えば歌手とか呼んだりして歌手のライブを見たりするんですけどそういうのが韓国にもありますか。有名人呼んで

学習者 NNS1: 私の学校でも時々歌手とか芸能人は来る時もありますけど、本当に有名な人はないし(→じゃなくて)時々テレビとか出る人くらいですよ。少女時代とかそんな人はだめ(→無理)ですけど、芸能人は時々来ます。そうですね。何かサークルの活動が(→を)活発にしますよね日本では。日本ではサークルとかしましたか？

→話題を急に転換したのでスムーズにできなかったと思う。単語の選択にも間違えたことがたまたま見える。

8. 5. 4. 2 日本語母語話者の会話分析活動

授業6回目(5月20日)には、日本の報道番組のVTR1⁴⁹を、授業7回目(5月22日)には日本人大学生同士の就職相談場面の自然談話のVTR2、VTR3⁵⁰を視聴し、会話分析活動を行った。全発話のスクリプトを作成し、それを見ながら番組を視聴した。

2種のVTRを教材として扱った理由は、VTR1の女性キャスターが、視聴者に分かりやすく情報提供をするために、様々な方略を駆使して会話を展開させており、質問の提出順や質問の仕方、表現形式が参考になると考えたためである。また、特に、【資料1-8】は「質問の順番」が学習に適した種類であり、「(2) 情報収集の話段の展開方法」について学習することができる。授業では、7.4.2で提案したスライドを教材として使用した。また、VTR2とVTR3は、番組であるVTR1とは異なる自然談話であり、会話参加者も学習者と同世代であり、会話のスタイルも近い。また、話題転換や「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」について、参考になる部分が多いため、授業で用いることにした。視聴後、学習者に気づいたことをコメン

⁴⁹ VTR1は、【課題1】の調査対象としたテレビのインタビュー番組の【資料1-8】「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」である。

⁵⁰ VTR2は、【課題2】の調査対象とした就活相談の【資料3-3】で、VTR3は【資料3-4】である。

トシートに記入させた。

以下、学習者 NNS1 のコメントを示す。

NNS1 のコメントシート⁵¹

VTR 1 (5月20日)	VTR 2 (5月22日)	VTR 3 (5月22日)
相手の言うことを聞きながら、次の質問にスムーズにできたと思う。ずっとあいづちをしたこともよかったと思う。	時々笑いながらよい雰囲気 で話している。	相手の言葉を繰り返して会話をスムーズにしている。

このシートの記述から、相手の答えから発展させて、次の質問をするという質問の仕方やあいづち、笑い、繰り返しなどの「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」に関して、気づきがあった様子が確認された。

8. 5. 4. 3 クラス全体による会話分析活動

授業8回目では、発話に特徴のある学習者数名の発話をスクリプト⁵²にして、会話分析活動をクラス全体で行った。発話例の中に学習者 NNS1 の発話の一部も含めた。

以下、学習者 NNS1 の発話例を示す。

学習者 NNS1 の発話

1	NNS1	はじめまして。
2		日語日文学科の NNS1 と申します。
3		よろしくお願いします。
4	ビジター 1	よろしくお願いします。
5	NNS1	あー、お名前はなんですか？
6	ビジター 1	ビジター1 です。
7	NNS1	はい。
8	ビジター 1	E 大学。
9	NNS1	あー、E 大学。
10		なんか特別な趣味とかはありますか？
11	ビジター 1	趣味はー、旅行をすることです。
12	NNS1	あー、旅行することですか。
13		今までどこに？
14	ビジター 1	日本の結構、国内とかが。
15	NNS1	日本国内。

⁵¹ 原文のまま。

⁵² 会話参加者の名前や所属等は伏せて、筆者がスクリプトを作成した。左から発話番号、発話者、発話である。

16	ビジター 1	福岡とか大阪とか東京とか。
17	NNS1	あ、ご出身地は？
18	ビジター 1	大分県です。
19	NNS1	あー。
20	ビジター 1	わかりますか？
21	NNS1	大分県はどこかな。
22	ビジター 1	九州の福岡わかりますか？
23	NNS1	はい、福岡。
24	ビジター 1	福岡の横にある。
25	NNS1	あー、福岡は釜山と近いですね。
26	ビジター 1	はい。
27	NNS1	あー、はい。
28		日本での専攻はなんですか？
29	ビジター 1	日本での専攻は経営学部です。
30	NNS1	韓国の専攻は？
31	ビジター 1	国際貿易。
32	NNS1	国際貿易ですか。
33		あー、そうですね。 [沈黙 2 秒]
34	NNS1	それでは、韓国にはじめて来た時、日本の違った点とかありますか？
35	ビジター 1	結構、僕が感じたのは一、 (省略)

発話 9 と 10、27 と 28、33 と 34 に NNS1 の唐突な話題転換があり、ビジター 1 の答えに対する反応や応答から発展した話段の展開が見られず、「質問」と「応答」という単発な発話連鎖が繰り返されているように感じられる。これに関して、ビジター 1 と評価者 1、評価者 2 もアンケートでそれを指摘している。クラス全員で分析した結果、クラスメートからも、「1 問 1 答になっている。ビジターの答えに対してコメントしたり、新しい質問をするといいと思う。」「次の質問への流れが不自然。」などの意見が出た。学習者 NNS1 もそのことに気づき、再度意識し、質問の仕方について、「軽い質問から重い質問をするほうがよいと思った。」「関連がある話題の質問をして話題転換をすることもよいと思った。」「相手が確実に答えられるように例を出したりすることもいい仕方と思う。」とコメントをしていた。NNS1 は、内省後に、対応策を検討したのである。このことから、学習者 NNS 1 が「(2) 情報収集の話段の展開方法」について学習したことが確認できる。

授業 8 回目には、「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」について、課題 1 で明らかにした「1. 談話構造」を導入した。まず、3 種の大話段を「Ⅰ. はじめ→Ⅱ. インタビュー→Ⅲ. おわり」として導入し、話段を「1. 開始の挨拶→2. 自己紹介→3. 事前質問→4. テーマ質問→5. 感想→6. 終了の挨拶」という会話の手順で示

した。また、「会話の進め方・表現例」の資料を配布し、どの段階でどの表現形式を使用するかを確認した。

授業9回目には、事前に作成した「質問リスト」でシミュレーションを行った。テーマが近い学習者同士がペアになり、片方がビジター役となった。「1. 開始の挨拶」から「6. 終了の挨拶」までの流れで実際に会話をし、ビジター役からアドバイスを受け、質問の内容や提出順と表現形式を検討した。

以上のように、自分の会話や他者の会話の分析をして、分析結果を参考にして、第2回ビジターセッションに向けての準備を行った。

以下、学習者 NNS1 の第2回セッションの質問リストを示す。NNS1 の今回のテーマは「日本の食文化」である。第1回の質問リストに比べ、話題が絞られており、具体的な質問になっている。また、【テーマ質問】を見ると、前半の質問①～⑤は事実で答えられるような質問になっており、⑤の2つ目の質問～⑦は、「意見を問う質問」になっている。授業で扱った「質問の提出順」が反映された結果である。また、自分の経験や韓国のことを前置きにして質問するなど、「日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」が応用されている。

第2回ビジターセッションの NNS1 の質問リスト⁵³

【事前質問】

- ① 名前は？
- ② ご出身地はどちらですか？
- ③ 日本でどの大学に行きましたか？
- ④ 専攻は何ですか？日本での専攻と韓国での専攻を聞きたいです。
- ⑤ 趣味は何ですか？
- ⑥ 韓国に来るようになったきっかけがありますか？
- ⑦ 韓国に来たとき、日本と違った点などがありますか？

⁵³ 原文のまま。

【テーマ質問】「日本の食文化」

- ①韓国の料理は口に合いますか。
- ②和食のなかで一番好きな料理は何ですか。
- ③韓国料理と和食を比べてどんなことが違うと思いますか。
- ④韓国の和食レストランに行ったことがありますか。日本の和食レストランと比べて違うことがありますか。
私の日本人の友人は韓国のほうがもっと塩辛いと言いましたけど。
- ⑤韓国のビール飲んだことがありますか。
日本のビールは世界で有名だから韓国人たちは韓国のビールより日本のビールを好む人が多いです。私も日本のビールが好きですけど、どう思いますか。
- ⑥日本のドラマなどで見ると、夕食で父親や男の人がビールを飲んでいるシーンをよく見ます。韓国にも夕食を食べながらビールを飲む人はいますが、日本のほうが韓国よりこんな場合が多いと思いますが、なぜでしょうか。
- ⑦自分の出身地で特別な料理がありますか。あったら紹介してください。

8. 5. 5 第2回ビジターセッション

授業 10 回目は、第 1 回と同様の展開で第 2 回ビジターセッションを実施した。【表 37-2】に実施後の学習者 NNS1（振り返りシート）とビジター 2（アンケート）、評価者 1、評価者 2（アンケート）の評価⁵⁴を挙げる。その下には学習者 NNS1 の最終レポートの記述の一部を挙げる。

⁵⁴ 振り返りシートとアンケートの内容は、第 1 回目の内容とほぼ同様であるが、第 1 回目と比較して評価するように指示した。

【表 37-2】学習者 NNS1 とビジター 2、評価者の評価

	質問内容	学習者 NNS1	ビジター 2	評価者 1	評価者 2
①	相手とうまくコミュニケーションできたと思いますか。	4	4	4	5
②	よかった点/頑張った点	1 回目より臨機応変がよくできた。もっと詳しい質問をしたりした。	答えに対して同意してくれたり、意見を言ってくれたので話しやすいし、楽しかった。	回答の繰り返しや反応がよくなっていた。会話に流れがあった。話すスピードや進行の仕方もよくなっていた。	ただ相手の話を聞いて、一方的に進めるのではなく、自分の意見も発言できていた。
③	反省点/弱いと感じた点	自己紹介を忘れた。適切な表現。			
	頑張ってたほしい点		こちらの応答に対する反応がもっとバリエーションがあれば会話がもっと弾むと思う。	自信がないのか、相手の反応をうかがっているのか、声が小さくなる部分があった。	質問する際に、声が尻すぼみになる。「なぜですか」と少し尋問のように感じられる部分もあったが、大きく改善されていた。
④	会話はスムーズに進みましたか。	4	4	4	4 前はブツ切りしたような内容だったが、改善されていた。特に出だしからの質問への流れは自然だった。
⑤	相手の日本語はどのくらい理解できましたか。	95%			
⑥	テーマについて十分話が聞けましたか。	5			
	十分に情報提供できましたか。		4		
⑦	質問の内容	4	5	5	5
⑧	質問の順番・仕方	4 同じカテゴリの質問をしたのでよかったと思う。回答確認や例を出して質問したこともよかったと思う。	5	4 流れがあった。自分の話や韓国の例を前置きにして質問していたため、ビジターは答えやすかったように思える。	5 相手の反応を待って次の質問をしていた。質問に流れがあったので、転換がスムーズであった。
⑨	答えに対する反応	4	4	4 前回より相づちが多い。回答確認や評価表明もしていた。	5 質問 1 つ 1 つに反応していた。相手の意見を受け止めた後に、自分の意見も伝えられていた。
⑩	1 回目と比べて緊張しましたか。	2 あまりしなかった			

NNS1 の最終レポートの一部

1 回目のビジターセッションよりは 2 回目は全体的によくできたと思う。質問についてもそうだし、聞き手としての役割や会話をスムーズにできるように努力をしたところがよかった。特に、最後に時間が残った時、臨機応変ができて質問を即席で作ったのは本当によくできたことだと思う。

関連がある質問を順にしたので、会話もスムーズにできた。質問の仕方も 1 回目よりはよくできたと思う。会話がスムーズにできるように気をつけたし、基本的な質問、答えやすい質問から始めて細かい質問、難しい質問をしたので仕方もよかったと思う。2 回目のビジターセッションを準備する時、VTR で見た聞き手としての役割も参考した。相槌とリアクションをしたらもっとよい会話ができるからこれについても頑張ったと思う。

【表 37-2】から、学習者 NNS1 の自己評価は、ビジターと評価者 1、2 よりやや低いが、ほぼ同じであり、第 1 回ビジターセッションの評価と比較して、4 名とも評価が高くなっている。これは、学習者 NNS1 が準備した質問にとらわれず、「日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」を学び、質問の仕方や応答に対する反応に注意して会話をした成果であると考えられる。このことは、学習者 NNS1 の最終レポートの「1 回目より 2 回目は全体的によくできた」、「質問について、ゲストを意識して会話をスムーズにできるように努力をした」という記述からも分かる。また、【表 37-1】と【表 37-2】の質問⑩から、第 1 回に比べて心理的負担が軽減されたことが明らかになった。

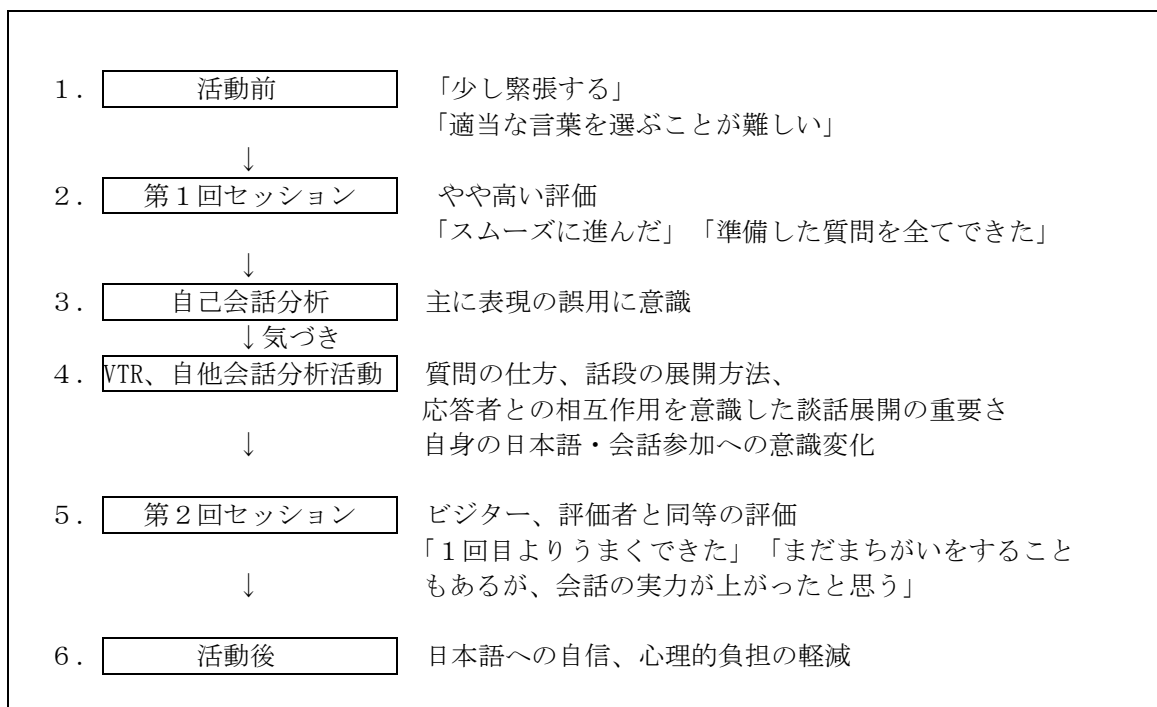
8. 5. 6 まとめ

【図 3】に、本活動における学習者 NNS1 の意識の変化をまとめて示す。

活動前に、学習者 NNS1 は、正しい表現の選択をしなければならないという理由で、日本語母語話者との会話に少々心理的負担を感じていた。第 1 回ビジターセッションでは、質問がスムーズにできた点、準備した質問が全てできたことをよしとし、ビジターや評価者よりも高い自己評価をしており、その時の自己会話分析でも、活動前と同様に、主に表現形式の誤用に意識が向いていた。しかし、母語話者の VTR である【資料 1】テレビのインタビュー番組や【資料 3】就活相談の談話や、他の学習者の会話、再度自分の会話を分析した結果、質問の仕方や「(2) 情報収集の話段の展開方法」、

「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」も重要であることに気がつくなど、自分の日本語や会話参加に対する意識が変化したことが明らかになったのである。最終的には、「日本語に自信があるようになったと思う。⁵⁵⁾」と、日本語の自信へとつながり、心理的負担も多少軽減された。

【図3】学習者 NNS1 の意識変化



学習者 NNS1 は、この全2回のビジターセッション活動について、「最終レポート」に次のように記述している。

「本当にいい経験をした。特に、会話をしながら相槌やコミュニケーションにとって必要なリアクションなどの練習ができたことがよかった。日本語を専攻として学んでいても、日本語を使う機会があまりなかった筆者にとって日本語を使う機会もできたし、それで日本語会話の実力にも役に立ったので私にとってよい授業になったと思う。」

⁵⁵⁾ NNS1 の最終レポートでの記述。

これによると、授業で扱った「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」を学習したことが確認でき、さらに、本活動が日本語の会話能力の向上につながったことも伺える。

また、「これから就職や未来について計画を立てなければならない。この授業で習ったことはコミュニケーションの仕方は、すべて筆者の未来に必要なものになると思う。」というレポートの記述から、日本語の会話の学習のみならず、コミュニケーションの学習や動機付けにもなり得たことが確認された。

8. 6 本授業実践に関する考察

本章では、**課題1**の分析結果と**課題2**の知見を応用した7. 4で提示した授業案をもとに、韓国の国立D大学の上級日本語会話クラスにおいて実施したビジターセッション活動の実践報告と分析について述べた。本授業では、「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」、「(2) 情報収集の話段の展開方法」、「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」という3点に焦点を当てて授業を実施し、これらを学習するために、教室活動として、2回のビジターセッションと3種類の会話分析活動を取り入れた。以下、本授業実践について考察を述べる。

まず、教室活動のビジターセッション活動について、日本語が外国語の環境にあるD大学の学習者にとっては、日本語母語話者と直接会話をするすることで、自分の日本語のレベルを把握することができるという有意義な活動となり得たのではないかと考えられる。

韓国語と日本語は、文法や語彙が類似することから、互いに学習しやすい言語とされており、以前より韓国では、日本語学習の人気は高い。筆者の勤務校であったD大学でも、日本語が主専攻の学科があり、筆者の担当した「日本語会話Ⅲ」の受講生は、日本語能力試験N1の取得者が大半で、いわゆる上級レベルの学習者たちであった。しかしながら、第8章の8.2.1で示した「事前アンケート」からも分かるように、周りには日本語母語話者が少ないため、日本語で会話をする機会が限られており、そのため、学習した文法や表現を実際に運用する機会が少なく、自分の日本語レベルの把握も難しいという声が見られていた。日本語母語話者との接触機会が少ないことで、心理的負担も生じており、会話に苦手意識を持つ学習者が大半だったのである。

そこで、本活動は、日本語母語話者と2回、一定の長さの時間に会話をする機会を設けることにした。学習者とビジターが、ともに同D大学の学生同士の日韓交流を望んでいたこともあり、そのよいきっかけ作りにもなり、授業終了後には、連絡先を交換する場面も見られた。

これは、2009年～2010年に、筆者が韓国の私立B大学で行った実践とは異なり、本実践は、同じ所属大学内で、同年代の大学生同士の活動だったことも、会話のしやすさに影響したのではないかと思う。

次に、本実践で扱った学習項目について述べる。日本語の授業では、情報収集の談話展開の方法を学習するために、「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」、「(2) 情報収集の話段の展開方法」、「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」という3点が重要であると考え、授業で扱った。

「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」は、「談話構造」を応用して、会話の流れとして導入し、インタビューには手順があることを学習した。

「(2) 情報収集の話段の展開方法」は、授業では、「質問の提出順」という用語を使用し、インタビューの質問には相手が答えやすい順序があることを【資料1】のVTRで学習した。また、1つの話題のまとまりを意識して談話を展開することも重要であると指導し、どの段階で、どの「表現形式」をどのように使用するのかについて、筆者が作成した教材の「会話の進め方・表現例」を配布し、段階的に表現を使い分ける運用力を身に付けさせることを目指した。

「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」は、【資料2】のVTRを視聴し、応答者との相互作用を意識した「共有型」の談話展開の方法を導入した。また、質問者は、〈Ⅲ. 要求〉を用いた質問のみならず、〈Ⅴ. 受容〉や〈Ⅳ. 提供〉で応答者の応答に理解、共感を示すなどの反応をしながら、効果的に情報を収集していたことを学習した。

応答者による質問者の評価分析の結果によると、学習前に比べ、学習後の方が大半の学習者の評価が高くなり、学習項目の3点について、学習者が習得し、実際の会話に反映させた。その結果、ビジターからも評価されたということが明らかになった。つまり、学習効果があったことが認められたのである。

以上の結果から、「(1) 情報収集の談話全体の展開方法」、「(2) 情報収集の話段の展開方法」、「(3) 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」という3点

が、韓国人日本語学習者を対象にした会話教育において必要であることが、本授業実践で検証され、確認することができた。

また、全2回のビジターセッションと会話分析活動という教室活動に関して、学習者のアンケートやレポート、一つの事例として、学習者 NNS 1 の意識変化の分析により、実際に母語話者と会話をし、自分の日本語を客観的に捉え、気づきや学びがあったこと、さらなる日本語学習の意欲へとつながったという意見が多数確認でき、本活動が肯定的に評価され、有効であったことが確認された。

しかしながら、本授業実践にはいくつかの課題も残った。第1に、当初、録音を聞くことに抵抗を示す学習者がいたが、個々の活動の動機付けの必要だったと感じている。第2に、会話分析活動を初めてする学習者が多く、文字化に苦勞する学習者もいたため、会話分析をどの段階まで学習者に要求するかについても課題が残された。また、会話を客観的に分析する能力にも差があったため、事前に会話分析活動をする意義を明確に提示して、分析方法を丁寧に導入した上で、実践する必要があると思った。以上の課題について、改善を加えた上で、今後も継続的に実践をしていく必要があると思う。

第9章 結論と今後の課題

本研究は、韓国人日本語学習者に対する日本語の会話教育に応用することを目的として、日本語の情報収集の談話の展開方法について解明するものである。

本研究の「情報収集の談話」とは、何らかの目的で、ある情報を必要とする質問者が、それに関する情報を有する応答者に対して、情報提供を口頭で求め、必要な情報を得るという一連のコミュニケーション過程のことである。一般に、情報収集は、質問者と応答者の相互作用によりなされるものだが、本研究では、学習者が質問者の場合を設定し、情報収集をする際の質問者の役割に焦点を当てて分析した。

本研究では、以下の3種の談話資料を分析対象として用いた。

【表2-1】本研究の分析対象（再掲）

種類	【資料1】	【資料2】	【資料3】
	テレビのインタビュー番組	大学広報紙のインタビュー取材	就職活動の相談
所要時間	各資料約7分間 【資料1-1】～【資料1-10】 全10資料、計約1時間 発話総数1,761発話	各資料約1時間 【資料2-1】～【資料2-3】 全3資料、計約3時間 発話総数5,544発話	各資料約15分間 【資料3-1】～【資料3-16】 全16資料(母語場面全8資料/接触場面全8資料) 計約4時間 母語場面: 発話総数3,845発話 接触場面: 発話総数3,531発話
参加者	質問者(女性キャスター)1名 応答者(各テーマに関する専門家)10名	質問者(大学生生活課の担当者)2名 応答者(卒業生、在校生)3名	母語場面 質問者(活動中の母語話者)8名 応答者(活動経験者の母語話者)2名
			接触場面 質問者(活動中の韓国人上級日本語学習者)8名 応答者(活動経験者の母語話者)2名
内容	テーマについてのVTRとインタビューから構成されている。本研究ではインタビュー部分のみ分析する。	人物紹介の記事のインタビュー取材。	就職活動中の大学生(質問者)が経験者の大学生(応答者)から、活動経験や助言を聞く。

9.1 本研究の概要

本論文は、「序論」(第1章)、「本論」(第2～8章)、「結論」(第9章)の全9章より構成される。各章の概要を以下に記す。

第1章 本研究の目的と課題

第1章では、「1.1 本研究の目的」「1.2 本研究の課題」「1.3 本研究の方法」「1.4 本論文の構成」について述べた。

本研究は、日本語の情報収集の談話の展開方法を明らかにし、韓国人日本語学習者の

会話教育の提案をすることを主な目的とする。本研究での課題として、次の3点を設けた。

課題1 日本語の情報収集の談話の展開方法には、どのような特徴があるのか。

課題2 日本語母語話者と韓国人日本語学習者の情報収集の談話の展開方法には、どのような特徴があるのか。

課題3 韓国人日本語学習者に対する会話教育において、情報収集の談話の展開方法を学習するために何が必要か。

課題1と**課題2**の分析結果を踏まえて、**課題3**で日本語の会話教育について提案する。そして、実際に授業を実践し、その提案の有効性について検証する。

第2章 先行研究

第2章では、2.1で「日本語の談話分析に関する先行研究」を概観するために、談話構造と「話段」に関する佐久間（1987, 2000, 2003）および、「発話機能」に関するザトラウスキー（1993, 1997）と鈴木（2003, 2007, 2009）の研究を取り上げた。本研究では、参加者の発話の〈要求〉系と〈提供〉系の発話機能の相互作用のやりとりを詳細に分析するため、網羅的に細分化された鈴木（2003, 2007, 2009）の「発話機能」の分類を用いることにした。

次に、「情報収集の談話に関する先行研究」として、鈴木（2003, 2007, 2009）、佐々木（1998）、中井（2003）等を取り上げた。先行研究は主に「自由会話」が分析対象なのに対し、本研究は、質問者と応答者の役割が明確な情報収集の談話が対象であるため、参加者別の特徴に相違があると予想して、より詳細な分析結果を出すことを目的とすることを述べた。

2.2の「日本語の会話教育に関する先行研究」は、教材の課題を指摘した斎藤（1989）、「聞き手のストラテジー」に関する横須賀（2000）を取り上げた。

最後に、2.3「韓国語母語話者を対象にした先行研究」に関しては、日韓の接触場面の発話連鎖を分析した梅木（2009）と日本語と韓国語の自然談話に現れる「くり返し発話」を分析した高木（2013）を取り上げた。本研究は、韓国語母語話者を主な対象にしているため、同様の発話連鎖や談話展開が観察される可能性があるとして仮説を立てた。

第3章 本研究の方法

本章では、まず、【資料1】テレビのインタビュー番組、【資料2】大学広報紙のインタビュー取材、【資料3】就職活動の相談の3種の「談話資料の収集方法」と「談話資料の文字方法」を示した。「談話の分析方法」では、「談話」「話段」「発話」の定義と規定について、次のように述べた。

「談話」： 一人の質問者、一人の応答者（インタビュー番組の2資料は、一人のカメラマンも加わる）が、開始の挨拶から終了の挨拶に至る音声言語の最大のまとまりである。インタビュー番組では放送一回分を、インタビュー取材では一人の取材を、就活相談は一人の相談を「談話」とする。

「大話段」：内容上のまとまりと参加者の目的、発話機能により区分される部分である。開始の挨拶などの「Ⅰ．開始部」、情報収集が中心となる「Ⅱ．展開部」、終了の挨拶などをする「Ⅲ．終了部」の3種類に区分される。

「話段」： 「大話段」の下位の要素である。「大話段」の下位として、内容上のまとまりと参加者の目的、発話機能により分類される。

「小話段」：「話段」の下位の要素である。「話段」の下位として、内容のまとまり、発話機能の違いによって区分される。本研究では、質問者の質問とそれに対する応答者の応答をひとまとまりとして考え、「問い——答え」の隣接応答ペアも手がかりとして考えた。

「発話」： 杉戸（1987, 1994）の「一人の参加者の一まとまりの音声言語連続（ただし、笑い声や相づちも含む）で、他の参加者の音声言語連続（同上）とかポーズ（空白時間）によって区切られる」の定義に従う。

分析観点は、（1）情報収集の談話構造、（2）情報収集の質問の提出順、（3）情報収集に用いる表現形式の3点である。（1）で、談話の全体構造を明らかにし、（2）で、「話段」の展開方法を明らかにするために、「話段」の中の質問の提出順を分析する。（3）で、情報収集に用いられる質問者の表現形式を分析する。

（1）情報収集の談話構造については、ザトラウスキー（1993）の「発話機能」を再分類した鈴木（2003, 2007, 2009）の「発話機能」の【表3-1】の全5類39種の分類を用いて、全発話を分類した。

【表 3－1】鈴木（2009）の相談の談話における「発話機能」の分類（再掲）

I. 相手に対する呼びかけや、自身の発話に含まれる間投表現	
1 注目要求☆	2 間投表現
II. 談話表示★	
A話題開始機能	
a1 話を始める機能	a2 話を再び始める機能
B話題継続機能	
b1 話を重ねる機能	b2 話を深める機能
b3 話を進める機能	b4 話をうながす機能
b5 話を戻す機能	b6 話をはさむ機能
b7 話をそらす機能	b8 話をさえぎる機能
b9 話を变える機能	b10 話をまとめる機能
C 話題終了機能	
c1 話を終える機能	c2 話を一応終える機能
III. 要求	
1 確認要求＊	2 判定要求＊
3 選択要求＊	4 説明要求＊
5 単独行為要求☆	6 共同行為要求☆
7 言い直し要求☆	
IV. 提供	
1 事実報告	2 意見説明
3 感情表出	4 意志表明
5 選択情報提供	6 言い直し☆
7 応答	
V. 受容	
1 関係作り・儀礼☆	2 自己注目表示☆
3 相手への注目表示	
a 継続	b 承認
c 否認	
d 確認	e 興味
f 共感	
g 終了	h 同意

(注)鈴木(2009:78)の【表3-6】の転載。

「II. 談話表示」の下位項目 14 種(★)は、佐久間(2002)の「接続表現の文脈展開機能」による。

「III. 要求」の下位項目 7 種のうち、＊で示した 4 種は、国立国語研究所(1960)による。

☆で示した(単独行為要求)〈共同行為要求〉〈言い直し要求〉、IV.の提供の〈言い直し〉、および V.受容の〈関係作り・儀礼〉、〈自己注目表示〉はザトラウスキー(1993)による。

本研究の「発話機能」の〈I. 注目要求〉、〈III 5. 単独行為要求〉、〈III 6. 共同行為要求〉、〈III 7. 言い直し要求〉、〈IV 6. 言い直し〉、〈V 1. 関係作り・儀礼〉、および、〈Va. 継続〉、〈Vb. 承認〉、〈Vd. 確認〉、〈Ve. 興味〉、〈Vf. 共感〉、〈Vg. 終了〉、〈Vh. 同意〉については、ザトラウスキー(1993)に従う。また、〈II. 談話表示〉(佐久間(2002:168)の「接続表現の文脈展開機能による分類」)、〈III. 要求〉、〈IV. 提供〉、〈V. 受容〉、〈V c. 否認〉については、鈴木(2007,2009)に従う。

本研究の分析対象の発話の名称に相応しいことから、鈴木(2009:78)の〈IV 1. 事実報告〉、〈IV 2. 意見説明〉、〈IV 3. 感情表出〉は、鈴木(2003)の〈IV 1. 事実説明〉、〈IV 2. 見解表明〉、〈IV 3. 評価表明〉の名称に従う。

【表 3－2】本研究における「発話機能」の分類全 5 類 39 種（再掲）

I. 注目要求	
II. 談話表示	
A 話題開始機能	
a1 話を始める機能	a2 話を再び始める機能
B 話題継続機能	
b1 話を重ねる機能	b2 話を深める機能
b3 話を進める機能	b4 話をうながす機能
b5 話を戻す機能	b6 話をはさむ機能
b7 話をそらす機能	b8 話をさえぎる機能
b9 話を变える機能	b10 話をまとめる機能
C 話題終了機能	
c1 話を終える機能	c2 話を一応終える機能
III. 要求	
1 確認要求	2 判定要求
3 選択要求	4 説明要求
5 単独行為要求	6 共同行為要求
7 言い直し要求	
IV. 提供	
1 事実説明＊	2 見解表明＊
3 評価表明＊	4 意志表明
5 選択情報提供	6 言い直し
7 応答	
V. 受容	
1 関係作り・儀礼	2 自己注目表示
3 相手への注目表示	
a 継続	b 承認
c 否認	
d 確認	e 興味
f 共感	
g 終了	h 同意

（注）＊印は、鈴木（2003）に従う。

「発話機能」の組み合わせと内容上のまとまり、参加者の目的をもとに、佐久間（2003：95）の「話段」を認定し、その結果から談話構造を明らかにする。また、話段を構成する発話連鎖についても分析する。

（2）情報収集の談話における質問の提出順は、各「話段」における質問者の〈Ⅲ. 要求〉系の発話機能の出現傾向を分析する。また、質問形式を「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」の3種に分類し、どの質問がどのように提示されるのかを明らかにする。

（3）情報収集に用いる表現形式は、質問者の情報収集の特徴的な発話を抽出し、表現形式と発話機能を明らかにする。

以上の分析観点から、日本語の情報収集の談話の展開方法を解明する。**課題 1**で、【資料 1】～【資料 3】の種類の異なる母語場面の情報収集の談話に共通する特徴があるのか、談話の展開方法を明らかにする。**課題 2**で、会話の授業に応用する目的から、【資

料3】就職活動の相談を用いて、日本語母語話者と韓国人日本語学習者による情報収集の談話の展開方法の特徴を明らかにし、課題を考察する。最後に、課題1と課題2の分析結果から、課題3の日本語の情報収集の談話の展開方法をどのように会話教育に応用するのかを提案し、韓国の国立D大学における授業実践によって検証する。

第4章 テレビのインタビュー番組における談話の展開方法

(1) 情報収集の談話構造

【資料1】テレビのインタビュー番組の全10資料を分析した結果、以下のような談話構造が明らかとなった。【資料1】は番組の編成によって「話段」を認定したため、全10資料、同じ種類の話段と同じ数、同じ提出順序が認められた。

【表6】テレビのインタビュー番組における基本的な談話構造(再掲)

大話段1	大話段2	話段	小話段
I. 開始部		1. 開始の挨拶	
		2. テーマ提示のVTR放映	テーマ提示のVTR放映
		3. テーマ提示	
II. 展開部	II-1. 開始部	1. VTR①放映	VTR①放映 (1) ゲストの紹介
	II-2. 本題部	1. VTR①の確認	(2) (3)
		2. VTR②放映	(4) VTR②の紹介 VTR②放映
		3. VTR②の確認	(5) (6) (7)
		4. 意見質問と応答	(8)
	II-3. 終了部	1. 感謝の挨拶	(9)
III. 終了部		1. 終了の挨拶(予告)	

(注)「小話段」の(2)～(9)は、各資料の話題が入る。「小話段」の数は、全10資料の平均である。

(2) 情報収集の質問の提出順

質問形式の3分類によると、はじめにVTRの確認やテーマに関する「1. 事実を求める質問」をする。次に、応答者の「2. 意見を求める質問」から「3. 助言を求める質問」という提出順である。

(3) 情報収集に用いる表現形式

インタビュアーは、主に〈Ⅲ. 要求〉の〈確認要求〉(171発話、22.5%⁵⁶)、〈説明要求〉(38発話、5.2%)、〈判定要求〉(29発話、3.8%)の3機能を用いて、

⁵⁶ インタビュアーの発話総数 761 発話における割合である。

ゲストから情報収集をする。また、情報収集のために、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」をしていた。これは、放送時間内に視聴者に情報を分かりやすく提供するためのインタビュアーの方略として考えられる。【表 9】に表現形式と発話機能を示す。

【表 9】テレビのインタビュー番組の情報収集に用いる表現形式（再掲）

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈Ⅴ. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか(。/ね)	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き＋質問	5 ～ですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
	6 ～ですけども、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
	7 ～と思うんですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈見解表明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
c. 話題転換	8 では、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	9 じゃ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃあ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉

第 5 章 大学広報紙のインタビュー取材における談話の展開方法

（１）情報収集の談話構造

【資料 2】には、3 種の大話段が、「Ⅱ. 展開部」には、「活動の背景」、「バックグラウンド」、「今後の活動」、「アドバイス」の 4 種の話段が認定された。自然談話のインタビュー取材の談話の話段は、資料により、話段の数や順番が異なり、同じ種類の話段が複数回出現することから、複雑な構造であることがいえる。

（２）情報収集の質問の提出順

質問形式の 3 分類の結果から、「Ⅱ. 展開部」の大話段には、「1. 事実を求める質問」を前半部にし、後半に「2. 意見を求める質問」、最後に「3. 助言を求める質問」が用いられる。これは、【資料 1】インタビュー番組と同様の結果である。

（３）情報収集に用いる表現形式

質問者であるインタビュアーは、主に〈確認要求〉(387 発話、13.7%⁵⁷)、〈判定要求〉(236 発話、8.3%)、〈説明要求〉(118 発話、4.2%) を用いて情報収集をする。【資料 1】のインタビュー番組は、多くの情報を要求する〈説明要求〉を、【資料 2】のインタビュー取材は、「はい/いいえ」で答えられる〈判定要求〉を用いて、効率よく情報収集を

⁵⁷ インタビュアーの発話機能総数 2,824 発話における割合である。

する。インタビュアーには、「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」という特徴があった。

【表 18】インタビュー取材の情報収集に用いる表現形式（再掲）

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈V. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか。(。/ね)	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き＋質問	5 ～ですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
	6 ～ですけども、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
	7 ～と思うんですが、～か。	〈Ⅳ. 提供〉〈見解表明〉＋〈Ⅲ. 要求〉
c. 話題転換	8 では、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	9 じゃ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃあ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	11 じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉＋〈事実説明〉
d. 応答のまとめ	12 先行発話を繰り返す。 例:Aさんのお話を伺うと、～。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉
e. 応答に対する反応	13 そうですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	14 そうなんですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	15 そうなんですね。	〈V. 受容〉〈承認〉
	16 そうですよ。	〈V. 受容〉〈共感〉
	17 へー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	18 あー。	〈V. 受容〉〈興味〉〈共感〉
	19 分かります。	〈Ⅳ. 提供〉〈見解表明〉
	20 感想： ～(形容詞)ですね。	〈Ⅳ. 提供〉〈評価表明〉/〈見解表明〉
f. 共通の話題	21 私も～。	〈Ⅳ. 提供〉〈事実説明〉

「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」は【資料 1】インタビュー番組と共通するが、自然談話である【資料 2】インタビュー取材は、その外の特徴も認められた。インタビュー取材のインタビュアーは、〈V. 受容〉の〈Va. 継続〉や〈Vb. 承認〉の外、〈Ve. 興味〉や〈Vf. 共感〉、〈Ⅳ. 提供〉を用いて「e. 応答に対する反応」をしたり、応答者との「f. 共通の話題」を提示したりするなどして、話題を共有し、会話に積極的に参加していることが明らかになった。

第 6 章 学部大学生と留学生による就職活動の相談における談話の展開方法

【資料 3】を分析した結果、学部大学生と韓国人日本語学習者の留学生とでは、情報収集の談話の展開方法に相違があることが明らかとなった。9. 2 で後述する。

第 7 章 会話授業への応用

本章では、**課題 1**と**課題 2**における明らかになった分析結果をまとめた。また、「日本語教育における情報収集活動の取り扱い」として、4 種の教材を分析した。その後、

2009年から2013年に至る筆者のビジターセッション活動の会話の授業実践における課題を通して、韓国人上級日本語学習者を対象とする会話教育への応用を提案した。

第8章 韓国の国立D大学の上級日本語会話クラスにおけるビジターセッション活動の授業実践

第8章では、第7章で提示した授業案をもとに、韓国の国立D大学において、韓国在住の日本語母語話者の協力のもとに、全2回のビジターセッション活動と会話分析活動を取り入れた授業を実施し、授業の実践報告を述べた。

第9章 結論と今後の課題

第9章で、本研究の各章の概要をまとめ、結論と今後の課題を述べる。

9.2 本研究の結論

本研究の結論は、以下の3点にまとめられる。

結論 1

日本語の情報収集の談話展開の方法に関して、日本語の3種の情報収集の談話の「1. 談話構造」、「2. 質問の提出順」、「3. 表現形式」を分析した結果、次のような共通点があることが明らかになった。

1. 談話構造

本研究の情報収集の談話は、質問者が応答者に対して、段階的な手順を踏んで展開するものである。分析の結果、【表 29-1】に示すような基本的な談話構造が認められた。

【表 29-1】情報収集の談話の基本的な談話構造（再掲）

I. 大話段	II. 話段	III. 小話段
I. 情報収集の目的説明	1. 開始の挨拶	
	2. 自己紹介	
	3. 質問者の情報収集の目的説明	
II. 情報収集の展開	1. 基本的な情報収集(事前質問)	1. 事実を求める質問 2. 意見を求める質問 3. 助言を求める質問
	2. テーマに関する情報収集	
III. 情報収集の目的完了	1. 情報収集に対する感想	
	2. 終了の挨拶	

本研究は、「問い—答え」からなる発話の隣接ペアも1話段として捉えている。【表29-2】に、全3種の情報収集の談話に観察された1話段中の発話連鎖を、各種の発話機能の組み合わせとともに示す。

【表 29-2】 1話段中における発話連鎖の種類（再掲）

話段	話段1						話段2
参加者 種類	①質問者	②応答者	③質問者	④応答者	⑤質問者	⑥応答者…	
1	質問 〈要求〉	応答 〈受容〉/〈提供〉					質問 〈要求〉
2	質問 〈要求〉	応答 〈受容〉/〈提供〉	反応 〈受容〉/〈提供〉				質問 〈要求〉
3	質問 〈要求〉	応答 〈受容〉/〈提供〉	応答確認 〈要求〉	応答確認反応 〈受容〉/〈提供〉			質問 〈要求〉
4	質問 〈要求〉	質問確認 〈受容〉/〈要求〉	質問確認反応 〈受容〉/〈提供〉	応答 〈受容〉/〈提供〉	反応 〈受容〉/〈提供〉		質問 〈要求〉
5	質問1 〈要求〉	応答1 〈受容〉/〈提供〉	反応1+質問2 〈受容〉/〈提供〉 +〈要求〉	応答2 〈受容〉/〈提供〉	反応2+質問3 〈受容〉/〈提供〉 +〈要求〉	応答3…	質問 〈要求〉

5種類全ての発話が使用されており、母語話者は、それらを適宜組み合わせて、談話を展開する。この発話連鎖は、「Ⅲ. 小話段」の下位次元に位置し、それぞれ異なる発話連鎖の種類が反復される。日本語の情報収集の談話は、大小様々な話段が多重構造をなして展開する。

2. 質問の提出順

「Ⅱ. 展開部」の「2. テーマに関する情報収集」の話段は、まず、「1. 事実を求める質問」をして、基本的情報を押さえ、次に、「2. 意見を求める質問」を、最後に、「3. 助言を求める質問」をするという典型的な提出順で展開する。

3. 表現形式

質問者は、【表 30】の「a. ～f.」の様々な発話機能の組み合わせによる表現形式を用いる。全3種の資料に共通したのは、「b. 前置き+質問」である。「前置き」には、「1. 応答者の先行発話」、「2. 自分の見解」、「3. 伝聞」、「4. 話題の予告」、「5. 自分（母国）の状況」の5種が含まれるが、これは、質問者が応答を振り返り、要点をまとめ、応答者に質問を理解してもらう配慮をする質問である。質問者は、情報収集の目的達成に向けて、様々な表現形式を用いている。

【表 30】日本語の情報収集に用いる表現形式

特徴	表現形式	発話機能
a. 応答確認	1 語レベルの応答のくり返し。	〈V. 受容〉〈確認〉
	2 ～です(ね/よね)。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	3 ～ということですか。(。/ね)	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
	4 ～わけですね。	〈Ⅲ. 要求〉〈確認要求〉
b. 前置き+質問	5 ～ですが、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈Ⅲ. 要求〉
	6 ～ですけど、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈Ⅲ. 要求〉
	7 ～ですけども、～か。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉+〈Ⅲ. 要求〉
	8 ～と思うんですが、～か。	〈IV. 提供〉〈見解表明〉+〈Ⅲ. 要求〉
c. 話題転換	9 では、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	10 じゃ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	11 じゃあ、～	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉
	12 じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉+〈事実説明〉
	13 じゃ、次は～についてなんですが、	〈Ⅱ. 談話表示〉〈話を始める機能〉/〈話を再び始める機能〉/〈話を変える機能〉+〈事実説明〉
d. 応答のまとめ	14 先行発話を繰り返す。 例:Aさんのお話を伺うと、～。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉
e. 応答に対する反応	15 そうですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	16 そうなんですか。	〈V. 受容〉〈承認〉
	17 そうなんですね。	〈V. 受容〉〈承認〉
	18 なるほど。	〈V. 受容〉〈承認〉
	19 そうですよ。	〈V. 受容〉〈共感〉
	20 へー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	21 おー。	〈V. 受容〉〈興味〉
	22 ほう。	〈V. 受容〉〈興味〉
	23 あー。	〈V. 受容〉〈興味〉〈共感〉
	24 分かりました。	〈IV. 提供〉〈見解表明〉
f. 共通の話題	25 感想 例:～(形容詞)ですね。参考になりました。	〈IV. 提供〉〈評価表明〉/〈見解表明〉
	26 私も～。	〈IV. 提供〉〈事実説明〉

ただし、テレビ番組の【資料1】と自然談話の【資料2】、【資料3】では、「発話機能」の用いられ方が異なっていた。【資料1】は、質問者が主に〈Ⅲ. 要求〉系の発話で情報収集をするのに対し、【資料2】、【資料3】では、〈Ⅲ. 要求〉系の外、〈V. 受容〉、〈IV. 提供〉の発話で「e. 応答に対する反応」を示し、会話に積極的に参加して情報収集をしている。この相違は、談話の種類や参加者の役割と情報収集の目的によるものである。

結論 2

日本語母語話者と韓国人日本語学習者の談話の展開方法に関して、【資料3】の学部大学生の就職活動の相談を分析した結果、日本語母語話者と韓国人日本語学習者で、「1. 談話構造」、「2. 質問の提出順」、「3. 表現形式」に共通点と相違点があることが明らかになった。

1. 談話構造

「大話段」の出現数と提出順は共通しているが、「話段」の出現数は、学習者の方が

多く、話題が多岐に渡る。日本語母語話者は、【表 29－2】の5種を適宜組み合わせて談話を展開しており、「質問－応答－反応」や「質問1－応答1－反応1＋質問2…」のように、一つの話題について、応答に関連する質問を重ねて発展するやりとりをしており、質問者と応答者の相互作用により、談話が展開されている。1話段中の「質問－応答」に、小規模の「質問－応答」が含まれ、大小の話段からなる多重構造が展開している。これは、**課題1**の【資料1】インタビュー取材と【資料3】就職活動の相談と同じ傾向である。一方、韓国人日本語学習者は、話段数が多く、1話段中の発話数は少ない。学習者は、【表7】の「種類1（質問－応答）」の発話連鎖が多い。1話段中の「質問－応答」の小話段が少なく、質問者の「質問」と応答者の「応答」の単一の発話連鎖から形成される話段が多い。

また、母語話者は、1つの話題において発話を重ねて掘り下げる談話展開の方法によって、〈Ve. 興味〉や〈Vf. 共感〉で反応し、〈IV. 提供〉で共通の話題提示をして、相互作用の顕著な情報収集をする。学習者の質問者は、主に〈III. 要求〉の表現で、多くの話題提示をし、それに対応する応答を収集する「質問－応答」を繰り返すような談話展開の方法を取り、応答への反応や〈IV. 提供〉が少なく、相互作用が希薄な傾向がある。

2. 質問の提出順

【資料3】の全16資料において、質問の提出順は資料ごとに異なるが、そのうち、13資料に「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」という3種の質問形式が用いられていた。また、「3. 助言を求める質問」が、「II. 展開部」の大話段の中間と後半の2か所に位置するという共通点があった。

3. 表現形式

母語話者は、【表30】の表現形式を用いている。1つの話題に関連する質問を重ねたり、応答に対する「a. 応答確認」、「b. 前置き＋質問」、「c. 話題転換」、「d. 応答のまとめ」、「e. 応答に対する反応」、「f. 共通の話題」を提示して、積極的に話に参加する。学習者も「a. b. c. e」は共通するが、出現数や表現形式の種類は少ない。学習者は、主に〈III. 要求〉系の発話を用いて談話展開をしており、「応答」から発展したやりとりや「e. 応答に対する反応」が少ない。そのため、応答者との相互作用を意識した談話展開のための表現形式を学習する必要がある。

結論 3

結論 1 と結論 2 における「1. 談話構造」、「2. 質問の提出順」、「3. 表現形式」を応用した「1. 情報収集の談話全体の展開方法」、「2. 情報収集の話段の展開方法」、「3. 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」の3点が、情報収集の談話展開の方法を学習するために有効だと判断された。

1. 情報収集の談話全体の展開方法

日本語の情報収集の談話は、【表 29-1】のような基本的な談話構造に基づく談話展開の方法がある。会話の授業では、3種の大話段を「Ⅰ. はじめ→Ⅱ. インタビュー→Ⅲ. おわり」として導入し、話段を「1. 開始の挨拶→2. 自己紹介→3. 事前質問→4. テーマ質問→5. 感想→6. 終了の挨拶」という5段階の会話の手順で示す。

2. 情報収集の話段の展開方法

質問者が日本語で効率よく情報収集をするには、基本的な「質問の提出順」に沿って、話段を展開する必要がある。授業では、応答者が答えやすい質問の提出順として、「1. 事実を求める質問」、「2. 意見を求める質問」、「3. 助言を求める質問」を提示し、質問者が、話題を提示した後、前半部に「1. 事実を求める質問」をして、後半部に「2. 意見を求める質問」、最後に、「3. 助言を求める質問」をする手順があることを【資料 1】テレビのインタビュー番組の VTR を視聴して学習させる。また、1つの話題のまとまりを意識して談話を展開することの重要性を指導し、「会話の進め方・表現例」のプリントを配布して、段階的な「表現形式」の使い分けをするよう指示する。

3. 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法

質問者は、〈Ⅲ. 要求〉系の発話機能による質問のみならず、〈Ⅴ. 受容〉や〈Ⅳ. 提供〉を用いて、応答者の応答に対する理解や共感を示しつつ、応答者との相互作用を意識した談話の展開方法を用いていた。授業では、【資料 3】就職活動の相談の VTR を視聴し、相互作用に基づく談話の展開方法を導入する。

以上の3点が日本語の情報収集の談話展開の方法を学習するために、有効か否かについて、韓国の D 大学で、インタビュー活動を用いた全2回のビジターセッション活動と会話分析活動を導入した会話の授業を実践した。その結果、応答者であるビジターの評価（11 設問の5段階評価）において、質問者である受講生 16 名中の 14 名が学習前よりも学習後が高く評価され、学習後の「2. 質問の順番」、「3. 質問の仕方」、「11. 話題転換」に関する肯定的な評価記述が確認された。また、教室活動の中で学習項目を習得し、

実際の会話に反映させたことも確認でき、それをビジターに評価されたことが確認できた。さらに、学習者のワークシートや意識変化を分析した結果、学習後の方が自己評価が高く、気づきや学び、自身の日本語や会話参加への意識が変化したことが明らかになった。

従って、「1. 情報収集の談話全体の展開方法」、「2. 情報収集の話段の展開方法」、「3. 日本語の情報収集の談話の相互作用に基づく展開方法」の3項目に基づく授業実践が、情報収集の談話展開の方法を学習するために有効だと考えられる。

9. 3 本研究の意義と今後の課題

本研究は、日本語の会話教育に応用することを目的として、日本語の情報収集の談話の展開方法を明らかにした。

情報を得るために質問するという基本的な言語行動に関する研究や情報収集活動における談話展開の技術を解明する研究はさほど多いとはいえない中で、【資料1】テレビのインタビュー番組、【資料2】大学広報紙のインタビュー取材、【資料3】学部大学生と留学生による就職活動の相談という種類が異なる3種の情報収集の談話を分析して、それぞれの談話展開の方法を解明した点に、本研究の一つの意義がある。

特に、【資料3】の就職活動の相談においては、近年、日本内外で日本企業への就職を希望する日本語学習者が増加する傾向にあり、日常生活でもしばしば起こる場面である。従って、会話の授業のみならず、日常生活の情報収集の機会においても、学習したことを応用できる可能性があると考えられる。

また、本研究では、談話分析によって、談話展開の方法を明らかにするにとどまらず、**課題1**と**課題2**で明らかになった分析結果について、韓国人日本語学習者を対象とした会話教育に応用して、授業実践をしたことも本研究の意義といえる。

しかしながら、わずか数回の授業実践であることから、様々な課題も出した。第1に、当初、録音を聞くことに抵抗を示す学習者がいたこともあり、個々の活動の動機付けの必要性を感じた。第2に、会話分析活動をはじめて体験する学習者が多く、会話を文字化するにも苦勞する学習者もいたため、会話分析をどの段階まで学習者に要求するかについても問題になった。会話を客観的に分析する能力にも重ねて差があったため、事前に会話分析活動をする意義を明確に提示し、会話分析の方法を必要な範囲で丁寧に指導する必要がある。

情報収集の談話は、相互作用により形成されているが、本研究は、主に質問者に焦点を当てて分析を行った。そこで、今後は、質問者と応答者の相互作用による情報収集の談話の展開方法をより精密に解明する必要がある。また、本実践の反省を踏まえて、情報収集の日本語の会話教材を開発し、授業実践を重ねていく所存である。

【参考文献】

- 安達太郎（1989）「日本語の問い返し疑問について」『日本語学』8-8 明治書院
- （1999）『日本語研究叢書 11 日本語疑問文における判断の諸相』
くろしお出版
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 梅木俊輔（2009）「ターン管理と発話連鎖への期待に関する一考察—韓日接触場面における情報要求場面を中心に—」『言語科学論集』13. pp. 71-82
- 江原美恵子、小林友美（2008）「企業インタビューをプロジェクトワークとした日本語初級学習者と授業参加者の協働 ～ボランティア学生・教師・企業協力者との相互行為で何を学んだか～」『電子情報通信学会技術研究報告』108. pp. 33-36
- 尾崎明人、藤原雅憲、靱山洋介（1992）（編）『日本語研究と日本語教育』名古屋大学出版会
- 柏崎雅世・足立さゆり・福岡理恵子（1997）「インフォーマルな「と」相談における提案の分析」『日本語教育』92. pp. 60-71
- 加藤好崇（2000）「日本人母語話者と日本語学習者のインタビュー場面における言語管理の研究」『東海大学紀要』20. pp. 57-69
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵（1998）『敬語表現』大修館書店
- 河内彩香（2009）「日本語の雑談の談話における話題の展開方法」『早稲田大学日本語教育研究』3. pp. 41-55
- 黄英哲（2003）「情報要求に対する応答発話の準備と展開技術について」『比較社会文化研究』一 14. pp. 25-34. 14
- 国立国語研究所（1960）『話しことばの文型（1）—対話資料による研究—』国立国語研究所報告 18
- （1963）『話しことばの文型（2）—対話資料による研究—』国立国語研究所報告 23
- （1971）『待遇表現の実態—松枝 24 時間調査資料から—』国立国語研究所報告 41 秀英出版
- （1987）『談話行動の諸相—座談資料の分析—』三省堂
- （1994）『日本語教育映像教材 中級編 関連教材 伝え合うことば 4

機能一覧表』

- 熊谷智子・木内直之 (2010)『三者面接調査におけるコミュニケーション—相互行為と参加の枠組み』くろしお出版
- 小林友美 (2008)「テレビのインタビューの談話における『話段』の展開」『国語研究』73. pp. 34-46
- (2010)「日本語のインタビューの談話の構造分析—大学広報紙のインタビュー取材の談話を対象に—」『比較日本學』23. pp. 77-105
- (2010)「日本語のインタビューの談話における談話展開の分析—テレビのインタビュー番組と大学広報紙のインタビュー取材の談話を対象に—」『日語日文學』49. pp. 185-205
- (2011)「韓国の大学におけるインタビューを用いたプロジェクトワークの試み」大韓日語日文学会 2011 年度春期國際學術發表會 予稿集 pp. 12-17
- (2015)「韓国の大学におけるビジターセッションと会話分析を取り入れた授業」『日語日文學』67. pp. 99-114
- 小宮千鶴子 (1986)「相づち使用の実態—出現傾向とその周辺—」『語学教育研究論叢』大東文化大学語学教育研究. pp. 43-62
- 久野暲 (1978)『談話の文法』大修館書店
- 斉藤里美 (1989)「日本語教育における疑問文・質問文—コミュニケーション上の機能からみた日本語教材の課題—」『日本語学』8-8 明治書院. pp. 41-56
- 佐久間まゆみ (1987)「文段認定の一基準 (I)—提題表現の統括—」『文藝・言語研究言語編』11. pp. 89-135
- 編 (1989)『文章構造と要約文の諸相』くろしお出版
- (1992)「接続表現の文脈転開機能」『日本女子大学文学部紀要』41
- (1995)「中心文の『段』統括機能」『日本女子大学文学部紀要』44
- (2000)「文章・談話における『段』の構造と機能」早稲田大学『早稲田大学日本語教育センター紀要』13
- (2002)「3. 接続詞・指示詞と文連鎖」野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則共著『日本語の文法 4 複文と談話』岩波書店 pp. 119-189
- (2003)「第 5 章 文章・談話における「段」の統括機能」『朝倉日本語講座 7 文章・談話』朝倉書店 pp. 91-119

- 編著（2010）『講義の談話の表現と理解』くろしお出版
- 佐々木由美（1998）「初対面の状況における日本人の「情報要求」の発話—同文化内および異文化間コミュニケーションの場面」『異文化間教育』12. pp. 110-117
- 下平菜穂（2002）「インタビュー・プロジェクトにおける聞き返しの指導」『信州大学留学生センター紀要』3. pp. 83-94
- 泉子・K・メイナード（1997）『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性—』くろしお出版
- 鈴木香子（1995）「内容区分調査による対話の「話段」設定の試み」『国文目白』34. pp. 76-84
- （2003）「発話機能に基づく日本語の相談の談話の構造分析」早稲田大学日本語教育研究科修士論文（未公刊）
- （2009）『機能文型に基づく相談の談話の構造分析』早稲田大学モノグラフ 11a 早稲田大学出版部
- 須藤文恵（1991）「インタビューにおける会話の進め方」日本女子大國文学科 卒業論文（未公刊）
- 高木丈也（2013）「日本語と韓国語の自然談話に現れる『くり返し発話』『待遇コミュニケーション研究』10. pp. 52-67
- 田窪行則他（2004）『言語の科学7 談話と文脈』岩波書店
- 筒井佐代（2012）『雑談の構造分析』くろしお出版
- 寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹、半澤幹一（1990）『ケーススタディ日本語の文章・談話』おうふう
- 中井陽子（2003a）「談話能力の向上を目指した会話教育—ビジターセッションを取り入れた授業の実践報告—」『講座日本語教育』第39分冊 pp. 79-100
- （2003b）「話題開始部で用いられる質問表現—日本語母語話者同士および母語話者／非母語話者による会話をもとに」『早稲田大学日本語教育研究』2. pp. 37-54
- （2012）『インターアクション能力を育てる日本語の会話教育』ひつじ書房
- 永野賢（1996）『文章論総説』朝倉書店
- 能田陽子（1994）『テレビの相談番組における談話構造についての一考察』日本女子

大学文学部国文科卒業論文（未公刊）

久永進（1994）「日本語学習の教室内質問」『日本語教育論集』姫路獨協大学大学院言語教育研究科日本語教育領域.

福富奈美（2005）「日本語会話における情報要求場面の発話交換—母語話者と非母語話者の相違を中心に—」『人間社会学研究集録』1. 199-214

ポリリー・ザトラウスキー（1986）「談話の分析と教授法（Ⅰ）—勧誘表現を中心に—」日本語学』5-11 明治書院. pp. 27-41

—————（1986）「談話の分析と教授法（Ⅱ）—勧誘表現を中心に—」日本語学』5-12 明治書院. pp. 99-108

—————（1987）「談話の分析と教授法（Ⅲ）—勧誘表現を中心に—」『日本語学』6-1 明治書院. pp. 75-85

—————（1993）『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版

—————（2000）「共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について」『日本語科学』7. pp. 44-69

堀口純子（1997）『日本語教育と会話分析』くろしお出版

松浦恵子、小川靖子（2011）「日本人ゲストを招いた会話授業の試み—韓国の大学における接触場面での学生心理の変化—」『日本語文化学報 49 輯』 pp. 149-164

松浦恵子（2012）「韓国の大学における日本語非母語話者を招いたビジターセッションの意義」『日本語文化学報 54 輯』 pp. 35-50

三牧陽子（1999）「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析」『日本語教育』103. pp. 49-52

村岡英裕（1992）「実際使用場面での学習者のインターアクション能力について『ビジターセッション』場面の分析」『世界の日本語教育』第2号 pp. 115-127

横須賀柳子（2003）「ビジター・セッション活動の意義とデザイン」『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト』明治書院 pp. 335-352

南不二男（1974）『現代日本語の構造』大修館書店

—————（1983）「第2章 質問文の構造」『朝倉日本語新講座4 文法と意味Ⅱ』朝倉書店

—————（2003）「文章・談話の全体構造」『朝倉日本語講座7 文章・談話』朝倉書

店

宮地裕 (1980) 「質問表現」『国語学大辞典』国語学会編

森田良行 (2003) 「文章・談話における語彙の意味」『朝倉日本語講座 7 文章・談話』
朝倉書店

横須賀柳子 (2000) 「情報取りにおける聞き手のストラテジー」『ICU日本語教育センター紀要』10. pp. 41-57

J. V. ネウストプニー・宮崎里司編 (2002) 『言語研究の方法』くろしお出版

박혜성, 조남성 (2003) 「『일본어 회화 수업의 현황과 과제 (日本語会話授業の現状と課題) 』」『일본연구』20. pp. 429-444

「特集 疑問文・質問文」(1989)『日本語学』8-8 明治書院

【引用教材】

産能短期大学日本語教育研究室 (1990) 『大学生のための日本語』産能大学出版部

専修大学国際交流センター (2001) 『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 上級』株式会社スリーエーネットワーク

谷口聡人・堀歌子・野村美知子 (1992) 『実践力のつく日本語学習 インタビュー編』アルク

文化外国語専門学校編 (1997) 『文化中級日本語Ⅱ』文化外国語専門学校

堀歌子・三井豊子・森松映子 (1991) 『中・上級用聞き取り教材 インタビューで学ぶ日本語』にほんごの凡人社

【表8-1】【資料1-1】テレビのインタビュー番組「値段0円フリーペーパーの舞台裏」の「大話段」・「話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分		発話数合計		I.	II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
大話段	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	A.		B.								C.		1							2							3							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
					話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をささむ機能	話をそらす機能	話をさえぎる機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感				終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
II 1 1	質	2	100.0%	1.0%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

【表8-2】【資料1-2】テレビのインターネット番組「公共施設は変わるのか」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計												
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	A.		B.						C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合			
					話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能																																	話をそらす機能	話をささげる機能	話をまとめる機能
I		質	1	100.0%																																								1	100.0%	0.5%	
			応	0	0.0%																																									0.0%	0.0%
			計	1	100.0%																																							1	100.0%	0.5%	
II		質	42	30.0%																																								54	26.7%	26.5%	
			応	98	70.0%																																							148	73.3%	72.5%	
			計	140	100.0%																																							202	100.0%	99.0%	
1		質	14	28.0%																																								17	26.2%	8.3%	
			応	36	72.0%																																							48	73.8%	23.5%	
			計	50	100.0%																																							65	100.0%	31.9%	
II		質	4	100.0%																																								5	100.0%	2.5%	
			応	0	0.0%																																								0.0%	0.0%	
			計	4	100.0%																																							5	100.0%	2.5%	
3		質	13	25.0%																																								16	22.2%	7.8%	
			応	39	75.0%																																							56	77.8%	27.5%	
			計	52	100.0%																																							72	100.0%	35.3%	
4		質	11	32.4%																																								13	30.2%	6.4%	
			応	23	67.6%																																							30	69.8%	14.7%	
			計	34	100.0%																																							43	100.0%	21.1%	
III		質	1	100.0%																																								1	100.0%	0.5%	
			応	0	0.0%																																								0.0%	0.0%	
			計	1	100.0%																																							1	100.0%	0.5%	
発話総数		質	44	31.0%																																								56	27.5%	27.5%	
			応	98	69.0%																																								148	72.5%	72.5%
			計	142	100.0%																																							204	100.0%	100.0%	
発話機能種類別合計		質問者		6(2.9%)		3(1.5%)		17(8.3%)		12(5.9%)		18(8.8%)		56		27.5%		27.5%		148		72.5%		72.5%		204		100.0%		100.0%		204		100.0%		100.0%											
発話機能種類別合計		応答者		23(11.3%)		27(13.2%)		0(0.0%)		96(47.1%)		2(1.0%)		148		72.5%		72.5%		204		100.0%		100.0%		204		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%											
発話機能種類別合計		計		29(14.2%)		30(14.7%)		17(8.3%)		108(53.0%)		20(9.8%)		204		100.0%		100.0%		204		100.0%		100.0%		204		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%											

【表8-3】【資料1-3】テレビのインタビュ番組「大学大競争時代」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数

話段区分		発話数合計		Ⅱ. 談話表示										Ⅲ. 要求				Ⅳ. 提供				Ⅴ. 受容				発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
大話段	話 段	参加者	発話数	総数に対する割合	Ⅰ.		Ⅱ. 談話表示								Ⅲ. 要求				Ⅳ. 提供				Ⅴ. 受容				参加者別発話機能合計	話 段 における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
					注目要求	話を始める機能	Ⅱ.A.	Ⅱ.B.	Ⅱ.C.	Ⅲ.1	Ⅲ.2	Ⅲ.3	Ⅲ.4	Ⅲ.5	Ⅲ.6	Ⅲ.7	Ⅳ.1	Ⅳ.2	Ⅳ.3	Ⅳ.4	Ⅳ.5	Ⅳ.6	Ⅳ.7	Ⅴ.1	Ⅴ.2	Ⅴ.3																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
Ⅰ	Ⅰ	質	1	100.0%	0.6%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														</

【表8-4】【資料1-4】テレビのインターネット番組「病を未然に防げ」大話段・話段における参加者別発話総数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	A.										B.							C.							1							2							3							参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
					話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさへぎる機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意思表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・機札	自己注目表示	継続	承認	確認	興味	共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
I		質	1	100.0%	0.7%	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</

【表8-5】【資料1-5】テレビのインタビュ―番組「急増するひき逃げ」大話段・談話における参加者別発話機数と発話機能数

[illegible]

【表8-6】【資料1-6】テレビのインタビュー番組「体質は改善されたのか」話段・談話における参加者別発話機能数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容										発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	A.		B.						C.	III. 要求							IV. 提供							V. 受容										参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
					話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をささむ機能	話をそらす機能		話をさへぎる機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6				7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3

【巻末資料】

【表8-7】【資料1-7】テレビのインタビュ－番組「微生物ハンター」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求					IV. 提供							V. 受容										発話機能数合計													
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	I.		B.								C.		III. 要求					IV. 提供							V. 受容										参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合								
					注目要求	話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をささざる機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感	終了	同意															
I		質	1	100.0%	0.6%	1																																						1	100.0%	0.4%			
		応	0	0.0%	0.0%																																								0.0%	0.0%			
		計	1	100.0%	0.6%	1																																						1	100.0%	0.4%			
		質	63	36.6%	36.0%	13	1	1	3	1	1		1																																82	35.3%	34.7%		
		応	109	63.4%	62.3%	22			5	4	3	1	1																																150	64.7%	63.6%		
		計	172	100.0%	98.3%	35	1	6	7	4	2	2	2																																	232	100.0%	98.3%	
II	1	質	29	36.3%	16.6%	5	1	1					1																																	31	32.6%	13.1%	
		応	51	63.8%	29.1%	8	4	2	1		1																																			64	67.4%	27.1%	
		計	80	100.0%	45.7%	13		5	3	1	2																																			95	100.0%	40.3%	
		質	5	100.0%	2.9%		1																																						6	100.0%	2.5%		
		応	0	0.0%	0.0%																																								0	0.0%	0.0%		
		計	5	100.0%	2.9%		1																																						6	100.0%	2.5%		
III	2	質	19	33.3%	10.9%	6		1	1																																						27	33.8%	11.4%
		応	38	66.7%	21.7%	9	1	2	2																																					53	66.3%	22.5%	
		計	57	100.0%	32.6%	15	1	3	3																																					80	100.0%	33.9%	
		質	10	33.3%	5.7%	2		1																																					11	35.5%	4.7%		
		応	20	66.7%	11.4%	5																																							20	64.5%	8.5%		
		計	30	100.0%	17.1%	7	1																																							31	100.0%	13.1%	
IV	3	質	1	50.0%	0.6%																																										1	50.0%	0.4%
		応	1	50.0%	0.6%																																									1	50.0%	0.4%	
		計	2	100.0%	1.1%																																								2	100.0%	0.8%		
		質	65	37.1%	37.1%	14	1	1	3	1		1																																		85	36.0%	36.0%	
		応	110	62.9%	62.9%	22			5	4	3	1	1																																	151	64.0%	64.0%	
		計	175	100.0%	100.0%	36	1	6	7	4																																				236	100.0%	100.0%	
発話機能総数		質問者			14(5.2%)	7(3.0%)										39(16.5%)					15(6.4%)							10(4.2%)										85	36.0%	36.0%									
		応答者			22(8.1%)	13(5.5%)										0(0.0%)					86(36.4%)							30(12.7%)										151	64.0%										
		計			36(13.3%)	20(8.5%)										39(16.5%)					101(42.8%)							40(16.9%)										236	100.0%										
発話機能種類別合計																																																	

【卷末資料】

【表8-8】【資料1-8】テレビのインタビュ—番組「あなたは大丈夫? 隠れ糖尿病」大話段・話段における参加者別発話機数と発話機能数

話段区分		発話数合計		I.		II. 談話表示										III. 要求			IV. 提供							V. 受容			発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	注目要求		A. B. C.										1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15			16			17			18			19			20			21			22			23			24			25			26			27			28			29			30			31			32			33			34			35			36			37			38			39			40			41			42			43			44			45			46			47			48			49			50			51			52			53			54			55			56			57			58			59			60			61			62			63			64			65			66			67			68			69			70			71			72			73			74			75			76			77			78			79			80			81			82			83			84			85			86			87			88			89			90			91			92			93			94			95			96			97			98			99			100			101			102			103			104			105			106			107			108			109			110			111			112			113			114			115			116			117			118			119			120			121			122			123			124			125			126			127			128			129			130			131			132			133			134			135			136			137			138			139			140			141			142			143			144			145			146			147			148			149			150			151			152			153			154			155			156			157			158			159			160			161			162			163			164			165			166			167			168			169			170			171			172			173			174			175			176			177			178			179			180			181			182			183			184			185			186			187			188			189			190			191			192			193			194			195			196			197			198			199			200			201			202			203			204			205			206			207			208			209			210			211			212			213			214			215			216			217			218			219			220			221			222			223			224			225			226			227			228			229			230			231			232			233			234			235			236			237			238			239			240			241			242			243			244			245			246			247			248			249			250			251			252			253			254			255			256			257			258			259			260			261			262			263			264			265			266			267			268			269			270			271			272			273			274			275			276			277			278			279			280			281			282			283			284			285			286			287			288			289			290			291			292			293			294			295			296			297			298			299			300			301			302			303			304			305			306			307			308			309			310			311			312			313			314			315			316			317			318			319			320			321			322			323			324			325			326			327			328			329			330			331			332			333		

【表8-9】【資料1-9】テレビのインタビュー番組「パチンコ依存症」大話段・談話における参加者別発話機能と発話機能数

話段区分		発話数合計		I.										II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
大話段	話段	参加者	発話数	総数に対する割合	注目要求	A.		B.								C.		1							2							3							参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
						話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を反す機能	話をささげる機能	話をまとめる機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	確認	興味	共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
I		質	1	100.0%	0.6%	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</

【表8-10】【資料1-10】テレビのインタビュ-番組「認知ドライバー30万人」大話段・話段における参加者別発話機能数と発話機能数

話段区分	発話数合計		II. 談話表示										III. 要求					IV. 提供					V. 受容					発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	大話段	参加者	発話数	総数に対する割合	I.		A.			B.					C.		III. 要求					IV. 提供					V. 受容					参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
					注目要求	話を始める機能	話を重ね始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさえぎる機能	話を交える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一心終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供				言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
I		質	1	100.0%	0.6%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

【巻末資料】

【表 10-2】【資料 1-2】インタビュー番組「公共施設は変わるのか」の質問者の質問発話

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	発話例
Ⅱ	1	(2)	2	①	K	コストも下げ、 そして、サービスも向上し、 住民、そして、行政にとってもメリットということで、 民間産業の効果、大変大きいですねー？
			3			
			4			
		(3)	5	②	K	NPOの方々の明るい表情が印象的だったんですけども、 あの一、民間企業が公共施設の管理運営を受けようと、 あるいは、任せられると。 これ、初めてのケースなんですけれども、 企業にとっての魅力っていうのは、どう受け止めたらいいいですか。
			30			
			32			
	3	(5)	33	④	K	ああ、例え、採算が合わなくなっても、 継続していけない義務があるわけですね？
			34			
			35			
		(6)	49	⑤	K	宮脇さん、せっかくこの制度ができましたけれども、 蓋を開けたら、 実際に民間が参入できる後部作業そのものが行われていないと。 これ、大きな要因は、今の効用ですか？
			50			
			56			
	4	(7)	58	⑥	K	その行政側の対応ですけれども、 その、レポートにもありましたように、 「選考基準の不透明だ。」という批判の声も出ていますよねー？
			59			
			60			
			86	⑦	K	その連携ができるような仕組みですけれども、 そのプロセスというのが大事になってくるのではないですか？
			87			
			88			ただ、あの一、本当にこの指定管理者制度、 美術館や保育園、そうした公共施設に、あの一、「馴染むのかどうか」という声もすでに上がってきてい ますけれども、 その、公共の質ということ、あつ、サービスの質ということでだけでなく、 その仕分けというのにも必要になってくるのではないですか？

【巻末資料】

【表 10－3】【資料 1－3】インタビュー番組「大学競争時代」の質問者の質問発話

大 話 段	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	
Ⅱ	1	(2)	2	①	K	え、授業、研究、そしてコストのリストラ。
			3			この交付金が削減されているということで、
			4			とりわけ地方の国立大学の影響が大きいというふうに見えていいんでしょうか？
			41	②	K	まー、あの今回はその資金が減ったということで、
			42			地元との連携を強めようという動きが見られましたけれども、
			43			国立大学がそうやって地元っていうところをもっと、関わりを深めるということは、やはり大切なこと、
		(3)	60	③	K	ま、すぐにその資金獲得に繋がらないような学科は切り捨てられる//傾向があると言われてはいますけども、
			63			本当にその一、あの今回の法人化に対する反発、
			64			まあ、国立大学内からも大きいんですけども、
			65	④	K	この改革というものは本当に必要だったんですか？
			76			あまりにも、その、平等でその、あまりにも、格差がない//というところに甘んじすぎていたところがある、と。
		(5)	86	⑤	K	小柴さんは懸念も一、あの、表してらっしゃいましたけど、
			88			しかし、資金難を補う手法として、
			90			産学連携一気に進みそうですねー？
		(6)	102	⑥	K	ま、こうやって改革が進められると本当に大学教育の質、//大学教育はどうあるべきかということを、//考えさせられるんですけども、
			106			あの一、本来の、その一、基礎研究、あるいは、あの一、文学、そういったものがきちんと居場所のある大学の大切さというのは、どのように認識されていますか？
			120	⑦	K	どんな成果が期待されるか分からなくて、
			122			その副産物で何か//強いものが出てきた？
		(7)	133	⑧	K	まー、大学がこれから切磋琢磨して、
			134			競争ってということになっていくわけなんですけれども、
			135			競争力ってことを、あの一、社会の中でこの大学は必要なんだっていうふうに認められるためには今、大学っていうのは何をすべきだと思いますか？
			145	⑨	K	社会に必要とされる人材、
			147			まー、付加価値の高いものを//日本は生まない//といけないことを言われていますけれども、
			149			そうした人材を作るために、
			150			どんなカリキュラムが必要なのかっていうことですか？

【巻末資料】

【表 10-4】【資料 1-4】インタビュー番組「病を未然に防げ」の質問者の質問発話

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	発話例
Ⅱ	1	(2)	2			<p>本当に熱心に一、病気の予防に取り組んできた一町で、 大幅な予防医療の縮小という住民の方々にとっては本当に残念な結果になったと思うんですけども、 この予防医療の効果の検証というものは難しいんですねー？</p> <p>9 ② K 予防医療のみで判断すべきでない？</p> <p>14 ③ K こちらにありますね？</p> <p>25 26 ④ K つまり、この予防医療を始める時に、 どのなんの、項目を決めて、 あの、削減の効果があつたかどうかを図れるようにすべきだったという//ことですかー。</p> <p>31 32 ⑤ K あの一、VTRの中で、 あの一、縮小が決まって、 33 涙を流してらっしゃいましたよねー？</p> <p>35 ⑥ K やっぱりその一、予防医療の効果っていうのは本当にもっともっと広いものなんですね？</p> <p>44 ⑦ K まー、それだけにその地域にあった予防医療を広げることが、その地域全体を元気にしていくと//いうことになるわけですか？</p>
			3	①	K	
			4			
			9	②	K	
			14	③	K	
			25			
			26	④	K	
			28			
			31			
			32	⑤	K	
			33			
			35	⑥	K	
			44	⑦	K	
	3	(5)	57			<p>ま、Tさーん。 全く新しいことに、ま、行政は取り組もうとしている中で、 59 ⑧ K 行政がしっかりしたそのシステムを作っても、 60 人々が継続的に参加しないと効果は出ない、 62 ですねー。</p> <p>72 73 ⑨ K そして、やっぱり便利にしてあげるだとか 達成感を感じられる仕組みを作らないと、 75 継続的な参加というのは望めないんでしょうか？</p> <p>87 88 ⑧ K さー、その一歩を踏み出すためのそのインセンティブなんですけども、 実際にその一、予防医療を行ってきて、 89 予防医療費削減の効果に一、結びついていくためにはどのくらいの年月がかりますか？</p> <p>96 97 ⑨ K えー、自治体としてはその予防医療にお金を投資し、 すぐに結果が出ることをあまり期待してはいけなと、 98 5、6年は忍耐強く待たなければいけない//ということですねー？</p>
			58			
			59	⑧	K	
			60			
			62			
			72			
			73	⑨	K	
			75			
			87			
			88	⑧	K	
			89			
	4	(7)	102			<p>あの一、国の、その一、思惑としては、そのハイリスクの人々を健康診断などで、あの見出して、 その人々に集中的にプログラムに参加してもらうことで、 104 ⑩ K ま、生活習慣病を改善しようという狙いがあるわけですけども、 そうしたその健康にまあ不安のある人々を、あの、効果的にそのプログラムに参加してもらうためにインセンティブ//動機付けというのは、どういうことが考えられますか？</p> <p>123 ⑪ K 例えば、あの一、海外では、保険料に一、そのインセンティブみたくないのをつつ、盛り込んでいところもある そうですね？</p> <p>132 133 ⑫ K ま、いずれにしても、 先程おっしゃったように、 134 健康の意識は、今、人々の間で高まってはいるんだけど、 135 行動に移す人がまだまだ少ないと。</p> <p>137 138 ⑬ K あの一、こういった、その一、医療費削減の流れの中で、 本当に、まさに、個人の参加//ということが、一番大事になってきますね？</p> <p>150 ⑭ K それを地域全体で行っていく時代が新たに登場した//ということですね？</p>
			103			
			104	⑩	K	
			105			
			123	⑪	K	
			132			
			133	⑫	K	
			134			
			135			
			137	⑬	K	
			138			
			150	⑭	K	

【巻末資料】

【表 10－5】【資料 1－5】インタビュー番組「急増するひき逃げ」の質問者の質問発話

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	発話例
Ⅱ	2	(2)	2			今のレポートの中の受刑者へのアンケートの中で、 「お酒を飲んでいてから逃げた、 処分が厳しいから逃げた」といったような答えがあつて、 ま、故意に逃げている姿が浮かび上がってきていまして、 本当に悪質なドライバーがいるんです//ねー？
			4			
			6	①	K	
			7			
			9			
			15			あの一、お酒を飲んで 死亡事故を起こし、 そして、その場から逃げてしまう。 アルコールが一、体から抜けた後に一、 その一、出頭した場合と、 ま、その場で捕まった場合との、量刑の差が大きいから、 こういうことが起きているのではないかと、 いうことなんですけれども、 具体的にはどういった差があるんですか？
			17			
			18			
			19			
			21	②	K	
			22			
			23			
			25			
			26			
			32	③	K	ああ、いえいえ、先生、横に。
		(3)	48	④	K	ま、平成13年に危険運転致死罪というのが//遺族達の声で、あの一、できたわけですけども、
			50		K	どれくらいの適用件数があるのですか？
			56	⑤	K	なぜそんなに少ないんですか？
			61	⑥	K	例えば、真っ直ぐ歩けないとか？
			69	⑦	K	正常な運転が困難だ//との立証ですね。
	3	(5)	75			ま、それにしても、アルコールが検地されなくなつてから、 出頭したり、 重ね飲みをして、 その当時のアルコール度数が分からなくするというのは一、本当に悪質で、 被害者や遺族の方々からするとやりきれないでしょうねー？
			77			
			78	⑧	K	
			79			
			80			
			94			ただでさえ、事故にあつただけで、 大きな傷を受けているのに、 さらにですよー？
			96	⑨	K	
			97			
		(6)	100			ま、正常な運転が困難だったかどうか、 この立証が難しいということで、 あの一、危険運転致死罪のその、適応があまりされていないということですけども、 しかし、その現場の状況、//あるいは、目撃証言などを積み重ねていけば、 立証もできるんじゃないですか？もう少し。
			102			
			104	⑩	K	
			106			
			108			
		(7)	131	⑪	K	しかし、実際に、そういった捜査の積み重ねで、 あの一、危険運転致死罪に問われたケースも実際にでますよね？
			132			この場合は、同窓会に出席していた//8人の人々が一、あの事故にあつたというケースですね。 再現実験ですか？
			135	⑫	K	
			145	⑬	K	
			145			
	4	(8)	153			しかし一、その一方で一、操作の限界//ということも先程おっしゃったんですけども、 例えば、どうすれば飲酒、ひき逃げ事件//ということが起きないようにできるのか、 抜本的にその、逃げるのが得にはならないようにするには、どうすればいいのでしょうか？ ま一、とにかく飲酒、運転、をし、 飲酒運転をとにかくなくすという//強い決意で法律作りもしないといけないということですね？
			156	⑭	K	
			158			
			182	⑮	K	
			183			

【巻末資料】

【表 10－6】【資料 1－6】インタビュー番組「体質は改善されたのか」の質問者の質問発話

話段区分					
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者
					発話例
Ⅱ	1	(2)	6 7 8 9	①	K 補整員が足りない。 安全を重視しようにもー、 これまでの合理化のツケが見えてきたっていうことで、 厳しい状況ですねー？
		(3)	24 25 28 29 30	②	K えー、そして、その事故後、 事故の芽を、//ま、くみ上げる//いうことが要因のように、 あの一、匿名で報告できるようにしたところ、 半年間で2000件もの一、まー、ミスの報告などがあったということなんですけれども、 あの一、これによって、まー、相当そのミスの原因というのが見えてくる可能性はありますか？
			49 50 51 52	③	K あの一、実際に事故あるいはミスは一、個人のせいではないと、 いうことを徹底するためにはそういうと、 あの一、つまり、か、会社全体の中で、 上と下の信頼関係を構築するのが、//大事だと。
	3	(5)	77 78 79	④	K ま、無理のあるダイヤが一、その事故に繋がったのではないかっていうことで、 余裕を持たせるダイヤに見直したということなんですけれども、 まだまだ、余裕、足りないのではないのですかー？
		(6)	100 102 103 104 105 106 107	⑤	K あの一、107人の方が亡くなられた大惨事。 JR西日本、ま、信頼回復には本当に徹底した安全対策が必要なんですけども、 こうやってダイヤの見直しですとか、 あの一、その他の安全対策のほうを見ていると、 何かまだ中途半端な印象を持ってしまうんですけども、 なぜもっと徹底して、 取り組むことができないのでしょうか？
			121 122 124 126	⑥	K あの一、山崎社長は、今日の慰霊式で、 とにかく社員一丸となって、 やるという決意を表明していますけども、 何がそれを難しくさせているんですか？
	4	(7)	148 149 150 152 153	⑦	K 収益重視を優先させて、 成功体験を、まー、体験するようになったと。 そこから、本当に安全対策重視に向くことができるのか//ということなんですけれども、 どうすれば、 どういう対策が必要だと見てらっしゃいますか？
			167	⑧	K そして、もともと現場の声、ミスやトラブルが一こう上に上がっていく仕組みっていうのも 必要ではありませんか？

【巻末資料】

【表 10－7】【資料 1－7】インタビュー番組「微生物ハンター」の質問者の質問発話

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	発話例
Ⅱ	2	(2)	2	①	K	ご自身もキャリア30年の微生物ハンター。
			4	②	K	ご専門は？
			13	③	K	ルーペを手には？
			15	④	K	探してらっしゃるんですねー？
		(3)	17	⑤	K	あの一、微生物というのは、まだまだ極一部しか発見されていないというんですけど。
			23	⑥	K	やはり、ペニシリンも含む。
		(4)	26	⑦	K	かなりカビだけでも医薬品への//期待っていうのはあるんですか？
			29	⑧	K	あの一、医薬品の中で、
			30			その一、生物、//自然の物を使ってできた物って、多いんですか？
			35	⑨	K	これでご説明していただきましょうか。
			41	⑩	K	代謝産物。
			43	⑪	K	例えば、どんなもの？
			45	⑫	K	汗みたいなもの。
			57	⑬	K	え一、医薬品にまでなるものの確率がどれだけ//なるか、
		(5)	65	⑭	K	あの一、今日のニュースで、特許が効かなくなった、
			66			そして、院内感染が原因になっているNMRSも効果があるというある新しい抗生物質を、アメリカの製薬会社が見つけた、ということなんですけれども、
			67			南アフリカの土から25万種類の細菌などを採取して、
			68			成分を検出して、
			69			分析した。
			77	⑮	K	でも、25万種類の細菌を調べたと、いうことわけなんですけれども、
			79			ほんとにまあ、宝探し。
	3	(7)	87	⑯	K	Oさん、ほんとに先進国の間での利益配分を巡る対立というのは、深刻ですね？
			94	⑰	K	一方、その先進国からすると、
			95			1つのその製品が実際の売り上げが上がるまで、
			96			大変なコスト//がかかっていると。
			103	⑱	K	失敗した分のコストも//あの一、大振りで負担してほしいという声ですか。
			106	⑲	K	あの一、できた製品に対して、
			107			例えば、医薬品の場合、
			108			途上国側では、売り上げの10パーセントから20パーセントを求めるとい声もありますよねー？
		(8)	113	⑳	K	ほんとに開きが//大きいんですけども、
			115			どうやってその溝を埋めていくのか、
			116			人類にとって有益な//製品が出てくる可能性を秘めてるだけに、
			119			売れていきたいですよー？
128	21		K	あの一、国がインドシナ政府と交渉を重ねて、		
130				技術移転の//代わりに、		
132		あの一、資源を//探索する許可を得た、				
134		そういうことで、最初のVTRにあったWさんたちも、あの一、//インドネシアの中で、				
136	え一、資源を、微生物を//探すことができる//というわけなんです。					
4	(9)	139	22	K	しかし、そういう枠組みにいないと、	
		140			なかなか企業としては、積極的に踏み込めない//ですよー？	
		144	23	K	あの一、Oさん自身も、抗生物質に、の、その物質というものを//見つけられたことがある//ということですけども、	
		147			この微生物が持つ、可能性、//どのように見て//らっしゃいますか？	
		151	24	K	例えば、薬を作る時、	
		153			人間では、化合物でできるんじゃないかと//いうことですね？	
		163	25	K	人間の創造できない//物を作り出してきた微生物が、50億年の中で、ずっと育まれてきた//わけですよー？	
		166	26	K	それを本当に、あの一、人類ができる一、そのシステムというか	
168	枠組みというのは、//やっていか//なければいけない。					

【巻末資料】

【表 10-8】【資料 1-8】インタビュー番組「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」の質問者の質問発話

話段区分						
大話段 2	話段	小話段	発話 番号	質問 番号	参加者	発話例
II	1	(2)	3 4 5	①	K	本当に、健康診断では、まったく以上がないとされた方が、心臓発作を起こした後に、調べてみると、隠れ糖尿病だって怖いですねー？
			16 17	②	K	で、その大きな特徴というのは、お食事をした後に、急激に血糖値が上がる、ですよー？
			30 31 33	③	K	自覚症状がなくて、気づいてらっしゃらない方が多いんじゃないかと//言われてきていますけれども、この隠れ糖尿病の方って、どれくらいいらっしゃるというふうに見えますか？
			46 47 50 51 52	④	K	あの一、どうも糖尿病というと、その一、太ってらっしゃる方、//肥満の方、がリスクが高いというふうには、あの一、思ってしまうんですけども一、必ずしも一、その体重にその大きな問題がない方でも、これは、起きてる可能性があるんですね？
			71 72 73 75	⑤	K	え一、筋肉の細胞内に、脂肪というのが溜まっていくと、なかなかその、血糖値が下がらなくなる。これ、どういうことなんですか？
			81	⑥	K	インスリンがその働きをするんですか？
			101 103	⑦	K	常時高い血糖値であると、すい臓は、どういうことをするわけですか？
			114 117	⑧	K	あの一、隠れ糖尿病、先ほど、教授は、若い人も//多いと言っておりましたけども、どんな方がなりやすいんですか？
			122	⑨	K	甘い//ジュースだったり。
			175 177	⑩	K	あの一、一旦、あの、隠れ糖尿病になった場合、元に戻すということとはできますか？
			197	⑪	K	1人もいなかったんですか？
			199 201 203	⑫	K	それだけ、やはり運動というのが重要なんですけれども、しかし、糖尿病学会の、//今、開かれている学会の会長をされているわけなんですけれども、は、見つかっていない人が非常に本当に多いと思われる。
			205	⑬	K	しかし、早期発見が大事ですよー？
			207	⑭	K	すごく医療界の課題というのは大きいですよー？
	3	(7)	71 72 73 75	⑤	K	え一、筋肉の細胞内に、脂肪というのが溜まっていくと、なかなかその、血糖値が下がらなくなる。これ、どういうことなんですか？
			81	⑥	K	インスリンがその働きをするんですか？
	4	(10)	175 177	⑩	K	あの一、一旦、あの、隠れ糖尿病になった場合、元に戻すということとはできますか？
			197	⑪	K	1人もいなかったんですか？
	(11)		199 201 203	⑫	K	それだけ、やはり運動というのが重要なんですけれども、しかし、糖尿病学会の、//今、開かれている学会の会長をされているわけなんですけれども、は、見つかっていない人が非常に本当に多いと思われる。
			205	⑬	K	しかし、早期発見が大事ですよー？
			207	⑭	K	すごく医療界の課題というのは大きいですよー？

【巻末資料】

【表 10－9】【資料 1－9】インタビュー番組「パチンコ依存症」の質問者の質問発話

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	発話例
Ⅱ	1	(2)	2 3	①	K	実際に、そのパチンコ依存症の方の治療も行っているんですけども、クリニックを訪れている方が増えているということですねー？
		(3)	12 13 14	②	K	パチンコに歯止めがかからないというのは、その、意志の弱い人、人格の問題ではないかと、ずーと考えられてきましたけども、衝動をコントロールすることができないこれは、病気？
			23 24 25 26	③	K	10項目ありまして、このうちの5もうこく（項目）以上当てはまると、依存症である可能性があるということなんですけれども、この中で重要なポイントというのはどこですか？
		(5)	38 39 40 41 42 43	④	K	まあ、こうやって依存症になると、社会的信用を失うような、ま、ことが起きてしまったり、あるいは、まきが込んで、まったく手元にお金がなくなるのに、ま、きつと気分が落ち込むだろうと思うんですけども、なぜ止められないんですか？
		(6)	57 64	⑤ ⑥	K K	早期発見って難しいんですか？ 実際に、その、心の病気として症状は出ますか？
		(7)	72 74 75 77	⑦	K	で、自殺される方も//出てくるということですけども、あの一、最近、特に、社会問題化してきますけども、パチンコというのは、ほんとに古くからある身近な、まあ、娯楽//でありますよね？なぜ、最近、社会問題化されているとお思いですか？
		(9)	98 99	⑧	K	「長い作業」という言葉がありましたけども、本当に依存症を克服するには、長い時間がかかるんですねー？
	3		117 118 119	⑨	K	ただ、あの一、退院した後も、その、パチンコをしたいという衝動に駆られるというふうな話がありましたけども、回復できますか？
		(10)	129 130	⑩	K	あの一、周りの家族の方々の方が早く気づくと思えるんですけども、どんな対応が必要ですか？
		(11)	141 142	⑪	K	あの一、こうしたその、ハイリスク、ハイリターンな機械が、依存症に陥る人々を増やしているとすると、業界の社会的責任もありますよねー？
			164 165	⑫	K	まあ、消費者保護という観点で、やっぱり業界の取り組みもって積極的に行ってほしいですね？

【巻末資料】

【表 10－10】【資料 1－10】インタビュー番組「認知ドライバー30 万人」の質問者の質問発話

話段区分					
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者
					発話例
Ⅱ	1	(2)	2		厚生労働省の認知症ドライバーの、関する研究班の班長を務められていることがあるわけなんですけれども、
			3	①	K とにかく一、一緒に乗っている家族は怖い。
			4		なんとか運転をやめてほしいと思っけていても、
			5		なかなかその運転を断言してくれない。
			7	②	K 難しいですねー？
		(3)	17		まあ、医師の方に言われても、
			18	③	K 家族の方にお願ひされても、
			19		止めたくない。
			21		その心うちというのは、どういふものなんですか？
		(4)	33		K そして一、まあ、あの一、認知症ドライバーの方々の診断もされてますけれども、
			34	④	K どんない兆候が出るんですか？
			47	⑤	K この空間認知ってどういふものなんですか？
			55	⑥	K 親指を//重ねるんですね？
			64	⑦	K ま、そうやって、
			65		センターラインと自分の車の位置が分からなくなってしまうと。
			67	⑧	K それから、例えば、赤信号なんかを無視してしまうことなんかも//ありますよね？
			74	⑨	K これ、守る気がなくなると//いふ障害ですね？
		(5)	76	⑩	K ただ、こういふたその、事故が相次いでいるので、
			77		K え一、法律が改正されてまして、
			78		K 認知症の方の免許を取り上げることができるようになっていふますよね？
			80	⑪	K なぜうまく機能してないいんですか？
	3	(7)	99		今の土佐清水市の取り組みですけれども、
			100	⑫	K 割引などを導入して、
			101		なんとか高齢者に免許の返納を促していふますけれども、
			102		まだ、返納した人は僅か。
			104	⑬	K どのようにご覧になっていらっしやいますか？
			115		2つ、あの一、両輪が求められているわけですけれども、
			116	⑭	K まず、その、え一、安全面での取り組みですけれども、
			117		あの一、こちらご覧いただきまっしょう。
			118		今までは、あの一、自己申告を//で、病状の深刻は、自己申告だったわけですけれども、
			121		今度からは、警察署、その認知機能検査//というのを導入して、
		(15)	123	K	え一、危険な運転をする認知症ドライバーを把握していこうとていふしているわけですけれども、
			125		これを見て、
			126		かなり改正されると思ひますか？
			136	⑯	K 医師の診断だけでは、この人が本当に危険な運転をする人かどうか分かりにくいということですね？
		(9)	140	⑰	K そして一、もう少し大きな問題が一//生活ができなくなる方々がいらっしやるといふわけですね？//運転できなくなると。
	4	(10)	155		まあ、O先生にお伺ひした中にも、
			156		一人暮らしの方の中で、
			157	⑱	K 車を運転できなくなったら、
			158		一体どうしたらいいのか、
		(160)	160		二人暮らしの方でも、どうしたらいいのか、
			162		ていふ切実な問題に直面されていふるわけですね？
			167	⑲	K そういふた意味で、例えば、介護保険で、その一、運転の、あの一、補助ができなかどうかなど、クリエイティブな解決策が必要ですよね？

【巻末資料】

【表 11－2】【資料 1－2】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	5	①	K	24						
		(3)	35	②	K				16			
			50	③	K	1						
	3	(5)	60	④	K		25					
		(6)	88	⑤	K	19						
	4	(7)	109	⑥	K	8						
			121	⑦	K	20						
発話総数						72	25		16			
質問数の合計						5	1		1			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						14.4	25.0		16.0			

【表 11－3】【資料 1－3】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	4	①	K	36						
			43	②	K	16						
			65	③	K		10					
			76	④	K	4						
	3	(5)	90	⑤	K	11						
	4	(6)	106	⑥	K				26			
			122	⑦	K	10						
		(7)	135	⑧	K				18			
			150	⑨	K	3						
発話総数						80	10		44			
質問数の合計						6	1		2			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						13.3	10.0		22.0			

【巻末資料】

【表 11－4】【資料 1－4】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	4	①	K	4						
			9	②	K	15						
			14	③	K	0						
			28	④	K	2						
		(3)	33	⑤	K	1						
			35	⑥	K	8						
			44	⑦	K	6						
	3	(5)	62	⑧	K	9						
		(6)	75	⑨	K		11					
		(7)	89	⑩	K				5			
			98	⑪	K	3						
	4	(8)	105	⑫	K				17			
		(9)	123	⑬	K	8						
		(10)	135	⑭	K	1						
			138	⑮	K	14						
			150	⑯	K	2						
発話総数						73	11		22			
質問数の合計						13	1		2			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						5.6	11.0		11.0			

【表 11－5】【資料 1－5】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	9	①	K	5						
			26	②	K				21			
			32	③	K					2		
		(3)	50	④	K				5			
			56	⑤	K				14			
			61	⑥	K		6					
			69	⑦	K	1						
	3	(5)	80	⑧	K	13						
			100	⑨	K	2						
			(6)	108	⑩	K	22					
		(7)	132	⑪	K	20						
			135	⑫	K	2						
			145	⑬	K	1						
			4	(8)	158	⑭	K				29	
	183	⑮	K		4							
発話総数						70	6		69	2		
質問数の合計						9	1		4	1		
〈要求〉1発話に対する平均発話数						7.8	6.0		17.3	2.0		

【巻末資料】

【表 11－6】【資料 1－6】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話段 2	話段	小話段	発話 番号	質問 番号	参加者	確認 要求	判定 要求	選択 要求	説明 要求	単独 行為 要求	共同 行為 要求	言い直 し要求
2	1	(2)	9	①	K	13						
		(3)	30	②	K		18					
			52	③	K	19						
	3	(5)	79	④	K	19						
		(6)	107	⑤	K				13			
			126	⑥	K				21			
	4	(7)	153	⑦	K				24			
			167	⑧	K		9					
	発話総数						51	27		58		
質問数の合計						3	2		3			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						17.0	13.5		19.3			

【表 11－7】【資料 1－7】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	2	①	K	1						
			4	②	K				13			
			13	③	K		1					
			15	④	K	1						
		(3)	17	⑤	K	7						
			23	⑥	K		1					
			26	⑦	K		2					
		(4)	30	⑧	K		4					
			35	⑨	K						30	
			41	⑩	K	1						
			43	⑪	K					3		
			45	⑫	K	1						
			57	⑬	K					7		
		(5)	69	⑭	K	7						
			79	⑮	K	1						
	3	(7)	87	⑯	K	6						
			96	⑰	K	16						
			103	⑱	K	2						
			108	⑲	K	4						
		(8)	119	⑳	K	8						
			136	21	K	2						
			140	22	K	22						
		(9)	147	23	K					25		
			153	24	K	9						
			163	25	K	2						
			168	26	K	4						
発話総数						94	8		48	30		
質問数の合計						17	4		4	1		
〈要求〉1発話に対する平均発話数						5.5	2.0		12.0	30.0		

【巻末資料】

【表 11－8】【資料 1－8】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小話 段	発話 番号	質問 番号	参加 者	確認 要求	判定 要求	選択 要求	説明 要求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	5	①	K	10						
		(3)	17	②	K	12						
		(4)	33	③	K				12			
		(5)	52	④	K	12						
	3	(7)	75	⑤	K				25			
			81	⑥	K		1					
		(8)	103	⑦	K				10			
		(9)	117	⑧	K				57			
			122	⑨	K	1						
	4	(10)	177	⑩	K		21					
			197	⑪	K		1					
		(11)	203	⑫	K	1						
			205	⑬	K	1						
			207	⑭	K	14						
発話総数						51	23		104			
質問数の合計						7	3		4			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						7.3	7.7		26.0			

【表 11－9】【資料 1－9】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分												
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	質 問 番 号	参 加 者	確 認 要 求	判 定 要 求	選 択 要 求	説 明 要 求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求
2	1	(2)	3	①	K	8						
		(3)	14	②	K		6					
			26	③	K				11			
		(5)	43	④	K				13			
		(6)	57	⑤	K		6					
			64	⑥	K		7					
		(7)	75	⑦	K	1						
			77	⑧	K				18			
	3	(9)	99	⑨	K	17						
			119	⑩	K		9					
	4	(10)	130	⑪	K				10			
		(11)	142	⑫	K	22						
		(12)	165	⑬	K	1						
発話総数						49	28		52			
質問数の合計						5	4		4			
〈要求〉1発話に対する平均発話数						9.8	7.0		13.0			

【巻末資料】

【表 11－10】【資料 1－10】の〈要求〉1 質問に対する平均発話数

話段区分													
大話 段 2	話 段	小話 段	発話 番号	質問 番号	参加 者	確認 要求	判定 要求	選択 要求	説明 要求	単 独 行 為 要 求	共 同 行 為 要 求	言 い 直 し 要 求	
2	1	(2)	5	①	K	1							
			7	②	K	9							
		(3)	21	③	K	1							
			21	④	K				11				
		(4)	34	⑤	K				41				
			47	⑥	K				28				
			55	⑦	K	1							
			65	⑧	K	1							
			67	⑨	K	8							
			74	⑩	K	1							
		(5)	78	⑪	K	1							
			80	⑫	K				13				
	3	(7)	102	⑬	K	1							
			104	⑭	K				6				
			117	⑮	K						0		
			126	⑯	K		13						
			136	⑰	K	3							
		(9)	140	⑱	K	14							
	4	(10)	162	⑲	K	6							
			167	⑳	K	1							
発話総数						48	13		99		0		
質問数の合計						13	1		5		1		
〈要求〉1発話に対する平均発話数						3.7	13.0		19.8		0.0		

【卷末資料】

【17-1】【資料2-1】インタビュー取材「先輩に乾杯 Kさん」の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能数

[illegible]

299

【17-3】【資料2-3】インタビュー取材「ぴーぶる うさん」の「大話段」「話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求				IV. 提供							V. 受容										発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
大話段	参加者	発話数	総数に対する割合	A.		B.								C.																							参加者別発話機能合計	話段における割合	発話機能数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
				話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をささげる機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意図表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	承認	否認	興味	共感	終了				同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
I	質	3	50.0%	0.2%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

【卷末資料】

【表24-1】【資料3-1】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

[illegible]

【表2-2】【資料3-2】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

302

【表24-3】【資料3-3】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
大話段	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	A.		B.								C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をささげざる機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	確認	興味				共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
I.		5	50.0%	0.9%	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

【表24-4】【資料3-4】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

[illegible]

【表24-5】【資料3-5】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計	II. 談話表示										III. 要求					IV. 提供							V. 受容							発話機能合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		I.		A.		B.						C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3			参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
大話段	参加者	発話数	総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

【卷末資料】

【表24-6】資料3-6 就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

[illegible]

【表24-7】【資料3-7】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分		発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																										
				A.			B.							C.		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	大話段における割合						参加者別発話機能合計			発話機能総数に対する割合																																				
大話段	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	話を始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさえぎる機能	話を交える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答				関係作り・儀礼	自己注目表示	継続							承認	否認	興味	共感	終了	同意																												
																																5(0.2%)						27(6.4%)												40(9.5%)							54(12.9%)																				
																																質問者S		6(1.4%)				29(6.9%)												6(1.4%)							209(49.9%)							25(6.0%)							132	31.5%					
																																応答者N		18(4.3%)				34(8.1%)												33(7.9%)							249(59.4%)							79(18.9%)							287	68.5%					
計		24(5.7%)		34(8.1%)										33(7.9%)							249(59.4%)							79(18.9%)							419	100.0%																																									

【巻末資料】

308

【表24-9】【資料3-9】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

[illegible]

【表24-10】【資料3-10】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計			II. 談話表示										III. 要求					IV. 提供							V. 受容					発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	参加者	発話数	大話段における割合	A. B. C.										1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3					参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
				話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさえぎる機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続				承認	否認	興味	共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
大話段			総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

【表24-11】【資料3-11】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計		Ⅱ. 談話表示										Ⅲ. 要求							Ⅳ. 提供							Ⅴ. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
			Ⅰ.		B.								C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	Ⅴ. 受容																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
大話段	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	A.										B.										C.	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

【表24-12】【資料3-12】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	I.		B.										C.	1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7							1 2 3 4 5 6 7							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
					注目要求	話を始める機能	話を重ね始める機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさへぎする機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感				終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
大話段	質S	6	54.5%	1.2%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

【巻末資料】

【表24-13】【資料3-13】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計			II. 会話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	大話段	話段	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	I.										A.							B.							C.							1							2							3							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
						注目要求	話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさえぎる機能	話をまとめる機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感	終了	同意																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
I.	質U		7	53.8%	1.5%	1												1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

【表24-14】【資料3-14】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計				
	大話段	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	I.		A.										B.							C.							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合				
						話を開始する機能	話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさへざる機能	話を交ざる機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7				
I.		質C	1	25.0%	0.3%																												1	25.0%	0.2%			
		応N	3	75.0%	0.9%																												3	75.0%	0.7%			
		計	4	100.0%	1.2%																												4	100.0%	1.0%			
II.		質C	154	45.7%	44.5%	6					1																						163	41.1%	40.0%			
		応N	183	54.3%	52.9%	22					7	18																					234	58.9%	57.5%			
		計	337	100.0%	97.4%	28					7	19																					397	100.0%	97.5%			
III.		質C	2	40.0%	0.6%																												4	66.7%	1.0%			
		応N	3	60.0%	0.9%																												2	33.3%	0.5%			
		計	5	100.0%	1.4%																												6	100.0%	1.5%			
発話総数		質C	157	45.4%	45.4%	6					1																						168	41.3%	41.3%			
		応N	189	54.6%	54.6%	22					7	18																					239	58.7%	58.7%			
		計	346	100.0%	100.0%	28					7	19																					407	100.0%	100.0%			
						質問者C	6(1.5%)	1(0.2%)										18(4.4%)							46(11.3%)							97(23.8%)			168	41.3%		
						応答者N	22(5.4%)	26(6.4%)										9(2.2%)							158(38.8%)							24(5.9%)			239	58.7%		
						計	28(6.9%)	27(6.6%)										27(6.6%)							204(50.1%)							121(29.7%)			407	100.0%		

【巻末資料】

【表24-15】【資料3-15】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話数合計		II. 談話表示										III. 要求							IV. 提供							V. 受容							発話機能数合計						
	参加者	発話数	大話段における割合	総数に対する割合	I.		B.								C.	1							2							3							参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合	
					注目要求	話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさへざる機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認	興味	共感	終了	同意					
I.	質M	3	42.9%	0.5%	1																																	4	50.0%	0.6%
	応N	4	57.1%	0.7%																																	4	50.0%	0.6%	
	計	7	100.0%	1.3%	1																																8	100.0%	1.2%	
II.	質M	295	55.1%	54.0%	9						3																											329	52.0%	51.0%
	応N	240	44.9%	44.0%	20						9	16																									304	48.0%	47.1%	
	計	535	100.0%	98.0%	29						9	19																									633	100.0%	98.1%	
III.	質M	2	50.0%	0.4%																																	2	50.0%	0.3%	
	応N	2	50.0%	0.4%																																2	50.0%	0.3%		
	計	4	100.0%	0.7%																																	4	100.0%	0.6%	
発話総数	質M	300	54.9%	54.9%	10						3																											335	51.9%	51.9%
	応N	246	45.1%	45.1%	20						9	16																									310	48.1%	48.1%	
	計	546	100.0%	100.0%	30						9	19																									645	100.0%	100.0%	
発話機能種類別合計					質問者M		6(0.9%)										40(6.2%)							46(7.1%)							233(36.1%)							335	51.9%	51.9%
					応答者N		25(3.9%)										12(1.9%)							224(34.7%)							29(4.5%)							310	48.1%	
					計		31(4.8%)										52(8.1%)							270(41.9%)							262(40.6%)							645	100.0%	

【表24-16】【資料3-16】就職活動の相談の「大話段」における参加者別発話数と発話機能数

話段区分	発話機能数合計			II. 談話表示										III. 要求					IV. 提供					V. 受容					発話機能数合計																												
	大話段	参加者	発話数 大話段における割合 総数に対する割合	A.		B.								C.		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3					参加者別発話機能合計	大話段における割合	発話機能総数に対する割合																		
				話を始める機能	話を再び始める機能	話を重ねる機能	話を深める機能	話を進める機能	話をうながす機能	話を戻す機能	話をはさむ機能	話をそらす機能	話をさへざる機能	話を変える機能	話をまとめる機能	話を終える機能	話を一応終える機能	確認要求	判定要求	選択要求	説明要求	単独行為要求	共同行為要求	言い直し要求	事実説明	見解表明	評価表明	意志表明	選択情報提供	言い直し	応答	関係作り・儀礼	自己注目表示	継続	承認	否認				興味	共感	終了	同意														
I.		質	8	50.0%	1.8%														1														1	1													8	50.0%	1.6%								
		応	8	50.0%	1.8%														2														1	2												8	50.0%	1.6%									
		計	16	100.0%	3.6%														3															2	3												16	100.0%	3.1%								
II.		質	176	41.9%	40.0%	2													17	2													3	49	33	1												9			190	38.9%	37.3%				
		応	244	58.1%	55.5%	15													9	2																											3			299	61.1%	58.7%					
		計	420	100.0%	95.5%	17													17	9	19	2												3	50	46	1											12			489	100.0%	96.1%				
III.		質	2	50.0%	0.5%																													1																2	50.0%	0.4%					
		応	2	50.0%	0.5%																																												2	50.0%	0.4%						
		計	4	100.0%	0.9%																																												4	100.0%	0.8%						
発話総数		質	186	42.3%	42.3%	2													17	3																																9			200	39.3%	39.3%
		応	254	57.7%	57.7%	15													9	2	2																														3			309	60.7%	60.7%	
		計	440	100.0%	100.0%	17													17	9	19	5																														12			509	100.0%	100.0%
発話機能種類別合計		質問者	2(0.4%)		9(1.8%)														34(6.7%)																																200	39.3%					
		応答者	15(2.9%)		35(6.9%)														16(3.1%)																																				309	60.7%	
		計	17(3.3%)		44(8.6%)														50(9.8%)																																				509	100.0%	

【巻末資料】

【謝辞】

最後に、修士課程から、熱心にご指導してくださった指導教員であります佐久間まゆみ教授に心より感謝申し上げたいと思います。先生に出会い、文章・談話論研究という分野を知ることができました。新卒で修士課程に入学し、日本語教育の経験がなかった筆者に、先生は、研究の仕方や日本語教育の教授法について、丁寧にご指導くださいました。現在、こうして、国内外の教育機関で日本語教育に携わることができるのは、先生から日本語教育の基礎をご指導していただいたからだと思っています。厚く御礼申し上げます。

また、日本語教育学の博士論文として、ご指導、ご助言を賜りました蒲谷宏教授、小宮千鶴子教授にも御礼申し上げます。四者面談等では、貴重なご助言をいただきました。修士論文のご指導を承りました故・鈴木義昭教授（当時）、川口義一教授（当時）に御礼申し上げます。

國學院大學文学部の卒業論文のご指導を賜りました久野マリ子教授に御礼申し上げます。

そして、研究室の先輩である鈴木香子氏、田口みゆき氏、宮澤太聡氏をはじめ、皆様には、大変励まされました。厚く御礼申し上げます。

本研究で分析対象とした音声データを快く提供してくださった早稲田大学学生生活課のみなさま、調査協力者のみなさま、韓国で共に過ごした学生のみなさまにも感謝申し上げます。

本研究は、日本語教育への応用を目的としておりますが、日本語教育に興味を持ったのは、大学3年時の留学生のボランティアがきっかけでした。その後、早稲田大学大学院に通う傍ら、国内、海外において日本語教育の経験を積むことができました。今後も、日本語の会話教育に貢献できるよう、真摯に研究に臨む所存です。また、多様化している日本語教育の現状に対応できる質の高い日本語教師を目指し、精進して参ります。

最後に、これまで自分の思う道を進むことに対し、温かく見守り、そして、辛抱強く支援してくれた両親と兄弟に、感謝の意を表して謝辞と致します。

日本語教育のための情報収集の談話の展開方法
— 韓国人日本語学習者の会話教育の提案 —

【談話資料】

2017 年 7 月

早稲田大学大学院日本語教育研究科

小林 友美

日本語教育のための情報収集の談話の展開方法 — 韓国人日本語学習者の会話教育の提案 —

【談話資料】

目次

テレビのインタビュー番組

【資料 1-1】 「値段 0 円フリーペーパーの舞台裏」	1
【資料 1-2】 「公共施設は変わるのか」	5
【資料 1-3】 「大学大競争時代」	9
【資料 1-4】 「病を未然に防げ」	13
【資料 1-5】 「急増するひき逃げ」	17
【資料 1-6】 「体質は改善されたのか」	22
【資料 1-7】 「微生物ハンター」	26
【資料 1-8】 「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」	30
【資料 1-9】 「パチンコ依存症」	36
【資料 1-10】 「認知ドライバー 30 万人」	40

大学広報紙のインタビュー取材

【資料 2-1】 「先輩に乾杯 K さん」	45
【資料 2-2】 「ぴーぷる M さん」	86
【資料 2-3】 「ぴーぷる U さん」	127

就職活動の相談

【資料 3-1】 質問者 K (NS1) と応答者 F	157
【資料 3-2】 質問者 O (NS2) と応答者 F	166
【資料 3-3】 質問者 T (NS3) と応答者 F	175
【資料 3-4】 質問者 K (NS4) と応答者 F	185
【資料 3-5】 質問者 Y (NS5) と応答者 N	195
【資料 3-6】 質問者 I (NS6) と応答者 N	203

【資料 3-7】 質問者 S (NS7) と応答者 N	213
【資料 3-8】 質問者 H (NS8) と応答者 N	220
【資料 3-9】 質問者 K (NNS1) と応答者 F	230
【資料 3-10】 質問者 H (NNS2) と応答者 F	238
【資料 3-11】 質問者 B (NNS3) と応答者 F	245
【資料 3-12】 質問者 S (NNS4) と応答者 F	253
【資料 3-13】 質問者 U (NNS5) と応答者 N	262
【資料 3-14】 質問者 C (NNS6) と応答者 N	271
【資料 3-15】 質問者 M (NNS7) と応答者 N	278
【資料 3-16】 質問者 J (NNS8) と応答者 N	288

【資料1-1】テレビのインタビュー番組
「値段0円フリーペーパーの舞台裏」インタビュアー：K, ゲスト：S

話段区分				
大話 段2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1			VTR①
		(1)	1	K えー、今夜は、H総合研究所顧問で、
			2	K T大学教授のSさんにお越しいただきました。
II	1	(1)	3	K えー、伝統のある文芸誌がページ数を減らして、
			4	K 無料に//踏み切って、
			5	S そうですねー。
			6	K そして、大手出版社も//有料な情報誌を出しながら、
			7	S うん。
			8	K 同じような無料の雑誌を出すと。
			9	S うん。
			10	K 有料情報というのは、そんなに売れなくなっているんですか？
			11	S なかなかねえ、厳しいんでしょうねえ。
			12	S 自分に興味がないものは、全然見ないという形になってきましたからー、
			13	S 出版社側としたら、
			14	S こう、売ってる場合ってのは、対象を絞るというのは、やはり怖いわけなんですね？
			15	K はい。
			16	S 少しでも売れるように、
			17	S こっちの人にも読んでほしいと広げますよね？
			18	K はい。
			19	S そうすると、興味がなくなるということで、
			20	S 広告でいきますと、
			21	S ぐっと絞れますよね？
			22	S ターゲットを絞れる。
			23	S そうすると、広告主は、広告を出しやすくなる。
			24	S というメカニズムなんでしょうねー。
			25	K そうすると、ただその一方で最近書店も減ってきていますから、
			26	S そうなんですよー。
			27	K 置き場所に、//がなくなっているというわけですか？
			28	S ええ。
			29	S 有料のものというのは、おいとく場所。
			30	K はい。
			31	S 住所、書店がね、//すごく大事だったんですけども、
			32	K はい。
			33	S どんどん、どんどんなくなっていますよね？
			34	S そうなりますと、新しい拠点を見つけたい。
			35	S それから、普通書店に行かない人をね、
			36	S どうやって捕まえるか。
			37	S その人がこういちいち動いている。
			38	K ええ。
			39	S 行動のね、プロセスを見て、
			40	S ここなら、
			41	S このシーンなら
			42	S それが通勤時間帯のことだったのでしょうね？
		(2)	43	K ただ、売ることによって、
			44	K 得られる収入がなくなるのは、出版する側にとって痛手ではないのでしょうか？
			45	S それは、もちろん痛手ですけども、
			46	S ただ、その場合、もうすでにね、広告の収入というのは、雑誌の場合は、とても大きいですから、
			47	K はい。
			48	S ただ、雑誌にもよりますけれどもね。
			49	S ですから、それだったら、

【資料1-1】テレビのインタビュー番組
「値段0円フリーペーパーの舞台裏」インタビュアー：K、ゲスト：S

		50 S 不安定なものを除いて、
		51 S こちらの広告収入をしっかり取って、
		52 S そうすると、先行きが見えますよね。
		53 S コストを下げれば、
		54 S きちっとそういう気持ちで、見れると、
		55 S 将来的に見られると、
		56 S そうすると、こう長いサイクルでやっていけるというか、
		57 S まあ、見通しがよくなるんですね。
		58 S そして、玄関口を広くすれば一、
		59 S 読者もつきますよね。
		60 S そうすると、その先へ行ってくれるということだと思いますよね。
		61 K とにかく、まず、手に取ってもらおう機会を増やしたいという//ことですか？
		62 S そうなんですよー。
(3)		63 K ただ、あの、大手企業も乗り出していますけれども、
		64 S ええ、はい。
		65 K 先ほどおっしゃったピンポイントのそのフリーペーパー。
		66 K つまり、対象をはっきりとさせた//フリーペーパーの影響力が大きくなっているんですか？
		67 S はい。
		68 S 大きいですねえー。
		69 S なかなか到達しない人にこう非常に絞った。
		70 S いくという効果があるかどうか。
		71 S ただ続くかどうかというのは、読者も浮気っぽいですから、
		72 S それはわかりませんけれども、
		73 S ただ試してみようか、
		74 S インターネットを試してみようか、
		75 S この雑誌を試してみようかという形になってきているんでしょうね。
		76 S はい。
(4)		77 K では、読み手としては、本当にその、無料な情報っていうのは、//むしろ有料なものは、信頼できたんじゃないかっていう感覚が一ずっとあったかと思うんですけれども、
		78 S はい。
		79 S それは、ありますね。
		80 K それは、かなり変わったんですか？
		81 S まあ、あれでしょうね。
		82 S ただ、怖いものはないと言いますけれど、
		83 S ただではなく、
		84 S そのお金は誰が出してくれているか。
		85 S 広告主がきちっと出してくれている。
		86 S で、きちっとした広告を出してくれている。
		87 S そのメカニズム、仕組みが分かれば一、
		88 S 今の人は、うまく付き合えますね。
		89 S 距離をとって、
		90 S ものすごく広告集が強い場合は、クーポンだけ使って、
		91 S まあ楽しむと。
		92 S そうじゃない場合は、これは、なかなかいいじゃないかと。
		93 S 距離がね、距離間を取るのがすごく上手だと思うんですね。
		94 K えー、えー、はい。
2	(5)	95 K お伝えているように、
		96 K 情報はただという感覚を持つこの若い読者をターゲットを、にしているフリーペーパーなんですけれども、
		97 K インターネット世代の指示をどうやって集めるのか、
		98 K フリーペーパーの戦略、ご覧いただきましょう。
		VTR②
3	(6)	99 K 情報はただでもいらないという//このターゲットですけれども、
		100 S そうですね。
		101 K でも、ニュースは、知りたいと。
		102 K ただ、受け取りやすい//時間が分からないという。
		103 S 800字で。

【資料1-1】テレビのインタビュー番組
「値段0円フリーペーパーの舞台裏」インタビュアー：K, ゲスト：S

104 K そう、情報の送り手としては、非常に難しい//ですね。
105 S そうですね。
106 S 800字できちっとした要約。
107 S でも、考えてみればね、
108 S 今短い文で十分という人が増えてて、
109 S 例えば、着歌、あれで十分。
110 S CDなんかも1曲もいらないうふうに、
111 S なんでも短くなってきているかもしれませんね。
112 S ビンポイントでいうと。
113 S いうことだと思うんですね。
114 S あの一、私たちがやってる調査でも、
115 S 情報が多ければ多いほどいいという人がですね、
116 S 20代の男性は、96年度36パーセントだったのに、
117 S 2004年、23パーセントに減っている。
118 K うーん。
119 S 女性も同じ//ですけどね。
120 K うん。
121 S だから、ポイントでいって、
122 S 情報も索引であって、
123 S インデックスであって、
124 S その先は、自分がほしだけいくと。
125 S いう形になってきたんでしょうね。
126 K そうすると、インターネットのああいった見出し、みたいな//ものが好まれる。
127 S まさに、同じです。
128 S 活字メディアでもそうになってきたということだと思います。

(7) 129 K テレビ欄も夜10時以降でいいというわけですが、
130 K かなり忙しい//ですね。
131 S あーそうなんですねー。
132 S 特に、この雑誌を読む層というのは、この90年代の不況の中で、
133 K はい。
134 S 正社員になった場合は、すごくこき使われるわけですね。
135 S そうした中で、時間がない。
136 S 労働環境の中で時間がない。
137 S それから、パソコンにしがみ付いているせいもあるんですけども。
138 K うん。
139 S まあ、そうした中で、情報を取捨選択して、
140 S 必要な時だけほしいと。
141 S 検索してということなんでしょうね。
142 K まあ、情報という意味でも、
143 K 情報の接点を広く浅くという//あまり深い
144 S うん。
145 S あまり他者に興味がないというか、
146 S 自分が狭い狭い世界で、趣味の世界で、狭く広く。
147 S それ以外は、てんでちょっと知っていればいいんでしょうね。

(8) 148 K まあ、いずれにしても、フリーペーパーは、どんどんどんどん支持を//集めていきますと、
149 S はい。
150 K 有料の//雑誌、新聞が競合してくるんですけども、
151 S はい。
152 S そうですね。
153 K 出版界の中で、このフリーペーパーというのは、接見していきませんか。
154 S そうですね。
155 S 世界的にも、非常に接見していて、
156 S 例えば、これをご覧いただければと思うんですが、
《パネル》
157 S これは、もともとスウェーデンで発刊されたものですけども、
158 K 新聞ですか。

【資料1-1】テレビのインタビュー番組
「値段0円フリーペーパーの舞台裏」インタビュアー：K、ゲスト：S

		159 K 日刊紙？
		160 S 新聞ですね。
		161 S 日刊、日刊の無料日刊新聞ですね。
		162 S それで、スウェーデンで95年に発刊されて、
		163 S 今や、世界中で20ヶ国以上、600万部が読んでいると。
		164 S 600万人が読んでいるということで、
		165 S まあ日本やドイツは、なかなかこういうのは定着しないんですが、
		166 S 世界的に、こういう傾向が強くなってきていますね。
		167 K 新聞ポストもダイジェスト版をださないと、
		168 S そうですね。
		169 K 接触率が下がっている。
		170 S 有力紙もそういうダイジェスト版を出している。
		171 S ですから、その一、既存のメディアとしてはですね、反発する。
		172 S 最初はですよ。
		173 K うん。
		174 S それから、それに対して対抗措置を何か取る。
		175 S それから、取り込もうとする。
		176 S いろんな仕掛けをやっているんですね。
4	(9)	177 K 有料紙としては、こうしたフリーペーパーとのせめぎ合いの中で、
		178 K どうやって生き抜いていけばいいと//ふうにお思いでしょうか。
		179 S あーそうですね。
		180 S やっぱ、原点みたいなものですが、
		181 S 情報というのは、点だけですとね、
		182 S あっちもこっちも、こっちもあっちもある。
		183 S それだけですけれども、
		184 S 線に繋いでいくと、
		185 S 面に繋いでいくと、
		186 S とっても世界が大きくなる。
		187 S まー難しく言えば、
		188 S 情報化するってことでしょうかね。
		189 K はい。
		190 S そうすると、点がよく見えて、
		191 S 面白いと思うんですが、
		192 S 既存メディアもそれをすべきだと思います。
		193 S つまり、ジャーナリズムの原点だし、
		194 S やっぱ編集の力だし、
		195 S やっぱそういうものは、必要ですね。
		196 K そして、まあ、お金を出して
		197 K 買ってみた時に、
		198 K 読んでみたら、
		199 K 非常に多面的に物事が分かって、
		200 K 面白かったという//ふうに、やはり、
		201 S そうですね。
		202 S そうなってほしいですね。
		203 S ですから、フリーペーパーも見て、
		204 S 生活支援の中にうまく位置づけていますから、
		205 S 既存メディアもね、そうした支援の中で、
		206 S ここはこうした方がいいのかということをもっと考えるべきだと思います。
		207 K はい。
Ⅲ	(1)	208 K ありがとうございます。

【資料1-2】テレビのインタビュー番組
「公共施設は変わるか」インタビュアー：K, ゲスト，M

話段区分				
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1			VTR①
		(1)	1	K 今夜は、地方の財政に大変お詳しいH大学大学院長のMさんにお越しいただいています。
II	1	(1)	2	K コストも下げ、
			3	K そして、サービスも向上し、
			4	K 住民、そして、行政にとってもメリットということで、
			5	K 民間産業の効果、大変大きいですねー？
			6	M はい。
			7	M あの一、公共施設というのは、今まで行政機関が管理を運営してきたわけです。
			8	M で、そういいますと、
			9	M どうしても公共サービスが質が同じになってしまったり、
			10	M いろんな制約があったり、
			11	M あるいは、費用が掛かってしまうようなことがございました。
			12	M そこで、民間事業者ですとか、あるいは、NPO。
			13	M こういったところで、新しい発想で、色々と公共サービスを少し、えー、見直してもらおうと。
			14	M そうしますと、質もよくなりますし、
			15	M 費用も掛けないで、
			16	M えー、済むといったようなことが実現できる。
			17	M そういった制度として、
			18	M この指定管理者というのが、まあ、民間に導入されたわけです。
			19	M 特に、えー、青少年科学館、室蘭市の。
			20	K はい。
			21	M あ、NPO。
			22	M えー、こういったところをお願いしているわけですが、
			23	M それから、えー、大量退職の時代になります。
			24	M えー、そうしますと、いろんな知識ですとか、経験お持ちの方が地域で活躍できる。
			25	M そうしますと、そういう方々に、公共サービスをお願いすると。
			26	K うーん。
			27	M いうためには、やはり、行政がもっと開かれた存在になっていなければいけないと思います。
			28	M そのための第一歩の制度であると言えます。
			29	K うん。
		(2)	30	K NPOの方々の明るい表情が印象的だったんですけども、
			31	M はい。
			32	K あの一、民間企業が公共施設の管理運営を受けようと、
			33	K あるいは、任せられると。
			34	K これ、初めてのケースなんですけれども、
			35	K 企業にとっての魅力っていうのは、どう受け止めたらいいいですか。
			36	M はい。
			37	M これは、公共施設というのは、今まで、えー、独占されてきました。
			38	M えー、そこで、独占されてきたところを民間でも担えるように、
			39	M ある意味では、市場開放しようというのがこの制度です。
			40	M ですから、民間にとってみますと、
			41	M 新しい行動領域が増える。
			42	M しかも、一定の期間、これは、独占をすることができます。
			43	M えー、ですから、非常に魅力的であるということがいえると思います。
			44	M で、ただ、ちょっと注意しなければいけないのは、これ、あくまでも公共サービスを民間にお願いするということで、
			45	M 民営化とは違うということです。
			46	M えー、ですから、当初予定した通りにいかないという場合であったとしても、
			47	M 公共サービス、きちんと継続して、
			48	M 提供していただくという責任というのは、民間側にも負っていただくかなくてはならないという//そういう制度。

【資料1-2】テレビのインタビュー番組
「公共施設は変わるか」インタビュアー:K, ゲスト, M

			49 K	が合わなくなっても、	ああ、例え、採算
			50 K	継続していけない義務があるわけですね？	
			51 M	はい。	
2	(3)		52 K	指定管理者問題という大きな問題というのは、どの公共サービスを民間に開放するべきなのか、	
			53 K	そして、開放するということを決断する場合、	
			54 K	どのような選考基準で指定する団体を選ぶかです。	
			55 K	ご覧いただくのは、北海道で議論を呼んだ2つのケースです。	
			VTR②		
3	(4)		56 K	Mさん、せっかくこの制度ができましたけれども、	
			57 M	はい。	
			58 K	蓋を開けたら、	
			59 K	実際に民間が参入できる後部作業そのものが行われていないと。	
			60 K	これ、大きな要因は、今の効用ですか？	
			61 M	あの一、これ理由というのは、3点あると思います。	
			62 M	1つは、やはり、雇用の問題です。	
			63 M	今まで公務員の方々がそうやった公共施設、こういうものを担ってきた。	
			64 M	そうしますと、これを民間にお願いしてしまいますと、	
			65 M	今まで働いてこられた、えー、公務員ですとか、	
			66 M	あるいは、公務員を退職された方々。	
			67 M	この方々の雇用問題というのが、非常に大きな課題になります。	
			68 M	ま、大量退職まで、もう少し先の話しですので、	
			69 M	で、この点がやはり、大きな壁になると思います。	
			70 M	えー、それから、2番目なんです、	
			71 K	はい。	
			72 M	えー、これは今まで地域にお願いしていたことが、もし、指定管理者をやってしまつて、	
			73 M	外から企業とかが入ってきてしまうと、	
			74 M	なかなか地域にこう所得が落ちないという。	
			75 M	そういう問題が出てきています。	
			76 M	えー、そうしますと、地域経済がもしかしたら、悪くなってきてしまうのではないかと。	
			77 M	そうい恐れが発生してしまう。	
			78 M	それから、3つ目ですが、	
			79 K	はい。	
			80 M	どうしても今まで、行政が公共サービスを担うんだという形で、	
			81 M	制度設計がされています。	
			82 M	こういった制度というものを乗り越えてはいかなければならないんですが、	
			83 M	まだまだ行政側も、こういったものをどう受け止めていったらいいか//というところで、	
			84 K	うーん。	
			85 M	悩みがあるんだろうと思います。	
	(5)		86 K	その行政側の対応ですけれども、	
			87 K	その、レポートにもありましたように、	
			88 K	「選考基準の不透明だ。」という批判の声も出ていますよねー？	
			89 M	えー、これは、やはり、選考基準というのは、明確であり、	
			90 M	かつ、公平である必要性があると思います。	
			91 M	やはり、公共サービス。	
			92 M	どういった質のものををお願いするかということは、選考基準の本質だと思いますので、	
			93 M	え、これは、えー、きちつと民間側に伝わらなくてはならないと思います。	
			94 M	また、このNPO。	
			95 M	ここは、財務耐力が弱い。	
			96 K	うん。	
			97 M	あるいは、えー、民間企業が営利を追求する。	
			98 M	これは、組織の本質的な性格だと思います。	
			99 M	もし、こういった本質的な性格で、	

【資料1-2】テレビのインタビュー番組
「公共施設は変わるか」インタビュアー:K, ゲスト, M

		100 M 対象からは排除されてしまうとすれば、
		101 K うん。
		102 M 例えば、指定管理ですとか、あるいは、共同の仕組みというのは、育っていかないとになってしまいます。
		103 M やはり、そういう本質的な性格を受け止めて、
		104 M どういうふうな関係を作って、
		105 M 公共サービスを担っていただくのか、
		106 K うん。
		107 M そういった仕組みを作るのを行政がもっともっと努力をしていかなければいけないのではないかと思います。
4	(6)	108 K その連携ができるような仕組みですけれども、
		109 K そのプロセスというのが大事になってくるのではないですか？
		110 M はい。
		111 M えー、これは、今までの行政の民間の関係というのは、行政は、支持をする人。
		112 M 民間は、作業する人という概念で成り立ってきました。
		113 M これは、やはり、一緒に考え、
		114 M 一緒に行動するということが必要になります。
		115 M えー、したがって、公共ですとか、あるいは、えー、実際に事業を行っていく時の評価ですとか、
		116 K はい。
		117 M こういったことをどういった視点で行うのかというのを一緒に考えなければならぬといけなくなってくるとは思いますが。
		118 K ただ、あのー、本当にこの指定管理者制度、
		119 K 美術館や保育園、そうした公共施設に、あのー、「馴染むのかどうか」という声もすでに上がってきていますけれども、
		120 K その、公共の質ということ、あつ、サービスの質ということだけでなく、
		121 K その仕分けというのにも必要になってくるのではないですか？
		122 M これは、非常に重要なことだと思います。
		123 M まず最初にやらなければいけないことは、公共サービスとして
		124 M これからも継続して必要ですかというその判断は、必要だと思います。
		125 K はい。
		126 M 必要のないものを民間にお願いして、
		127 M 担っていただくというのは、一番代償としては、無駄になってしまいますので、
		128 M まずは判断しなくてはいけない。
		129 K はい。
		130 M で、博物館ですとか、いろんな施設、こういったものを、一律で民間にお願いできないかというのは、そうでないと思いますけれども、
		131 M 例えば、博物館、//あるいは、図書館でも、
		132 K はい。
		133 M 例えば、歴史といったようなものを地域に伝えていくとか
		134 M 目的を明確に議論をして、
		135 M そういった目的を達成していくためには、やはり、財政で、きちっとお願いしていかなければならない。
		136 M という判断を地域全体で議論していくことだと思います。
		137 M そういった議論ができる地域というのは、やはり、えー、これからどんどん行政が小さくなって、
		138 M そして、地域全体で公共サービスを担っていただくと。
		139 M その地域全体が活力のある、
		140 M そういった町作りですとか、できる地域になっていくと思います。
		141 K はい。

【資料1-2】テレビのインタビュー番組
「公共施設は変わるか」インタビュアー:K, ゲスト, M

Ⅲ	1	(1)	142	K	ありがとうございました。
---	---	-----	-----	---	--------------

【資料1-3】テレビのインタビュー番組
「大学大競争時代」インタビュアー：K、ゲスト：T

話段区分				
大話 段2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1		VTR①	
		(1)	1	K 今夜は、教育社会学者のK大学教授のTさんにお越しいただいています。
II	1	(1)	2	K え、授業、研究、そしてコストのリストラ。
			3	K この交付金が削減されているということで、
			4	K とりわけ地方の国立大学の影響が大きいっていうふうに見えていいんでしょうか？
			5	S ええ、そうだと思いますよね。
			6	S あの一、えー、先程あの一、ビデオで見ましたけども、
			7	S あの一、特に、教育大学なんかはですねー、
			8	S あの一、そういうすぐお金を(?)ということはなかなかできないですからね、
			9	S ただ、私はもっと、あの、地方国立大学はね、
			10	S 頑張っしてほしいと思うんですよ。
			11	K うんうん。
			12	S というのはですね、あの一、目に見えないところで、
			13	S 非常に社会的貢献をしているんですよね。
			14	S というのは、私はあの一、去年あの一、えー、九州のある地方国立大学にね、
			15	K はい。
			16	S 集中講義に行ったんですよ。
			17	K はい。
			18	S そうしたら、「どうしてこの大学に来たんですか。」って一、
			19	S あの一、尋ねたんですね。
			20	S そしたら、「生活費が安い。」と。
			21	S で一、そしたら、「部屋代はいくらですか？」と言ったら、
			22	S 「3万5千円だ。」と、月。
			23	S で、私はあの一、それは部屋代だけだと思ったら
			24	S 食事もついてると言われるんですよね。
			25	K あー。
			26	S それから、あの一、あの、中には自宅から通えるところで、
			27	S あの大学、親が許してくれたと。
			28	K うん。
			29	S だから、そういう意味では、経済的に恵まれない人に地方国立大学は、いかに役立っているかということもね、
			30	K うん。
			31	S もっとアピールしたほうがいいと思うんですよね。
			32	K うん。
			33	S それと、もう一つの理由は、いわゆる、あの一、文化格差というのがありますよね？
			34	K うん。
			35	S 地方国立大学があることによってですね、
			36	S これもやっぱり地方の文化というものもいろんなことでね、
			37	S 貢献してると思うんですね。
			38	K うん。
			39	S そういところをもっとアピールしたらどうだろうかとね、
			40	S 私は思います、けれども。
			41	K まー、あの今回はその資金が減ったということで、

【資料1-3】テレビのインタビュー番組
「大学大競争時代」インタビュアー：K、ゲスト：T

		42 K 地元との連携を強めようという動きが見られましたけれども、
		43 K 国立大学がそうやって地元ってところをもっと、関わりを深めるということは、やはり大切なこと、
		44 S だと思いますよね。
		45 S あの一、だから、まあどちらかというとですね、
		46 S 今までせっかくあの一、地方に国立大学があっても、
		47 K うん。
		48 S あの一、全く関係のないというところで研究をしているっていう面も多々ありましたから、
		49 K うーん。
		50 S そういう意味では、この機会にもうちよつとね、
		51 S これも先程ビデオでもありましたけれども、
		52 S あの一、地方のそういう産業なんかと提携してっていうことはね、
		53 S いいと思うし、
		54 S それはそれで、あの一、お金は結果的には資金が得られなくとも、
		55 K はい。
		56 S あの一、何ていうんでしょう、
		57 S 地方の人とのこうつながりっていうのができますからね、
		58 S そういう意味は十分あると思います。
		59 K うん。
2	(2)	60 K ま、すぐにその資金獲得に繋がらないような学科は切り捨てられる//傾向があるとされていますけども、
		61 S うん。
		62 S うん。
		63 K 本当にその一、あの今回の法人化に対する反発、
		64 K まあ、国立大学内からも大きいんですけども、
		65 K この改革というものは本当に必要だったんですか？
		66 S うん、あの一、基本的にはですね一、
		67 S それは一、あの一、必要って言うか、
		68 S 今まではあまりにもですね、
		69 S その一、象牙の塔というか、
		70 S 世間のことは知らない、
		71 S 俺は学問やってるんだよ、
		72 S みたいなのがちょっとありすぎましたから、
		73 S そういう意味では、もっと社会と接点をもってやっていくというですね、
		74 S そういう流れはやっぱり必要ではなかったかと思います。
		75 K うん。
		76 K あまりにも、その、平等でその、あまりにも、格差がない//というところに甘んじすぎていたところがある、と。
		77 S うん。
		78 S うん、それは、ありますよね。
		79 S だから、ある程度の成果主義っていうのはこれはやっぱり仕方がないっちゃないかと思います。
		80 S はい。
2	(3)	81 K さて、えー、国からの予算削減で、厳しい変革の波にさらされているのは地方の国立大学だけではありません。
		82 K 規模の大きい大学。
		83 K こちらご覧いただきましょう。 《パネル》
		84 K 大きいところでもですね、
		85 K 教育の水準、あるいは研究水準を維持するために資金獲得に乗り出しています。
		VTR②

【資料1-3】テレビのインタビュー番組
「大学大競争時代」インタビュアー：K, ゲスト：T

3	(4)	86	K	小柴さんは懸念も一、あの、表してらっしゃいましたけど、	
		87	S		はい。
		88	K	しかし、資金難を補う手法として、	
		89	S		うん。
		90	K	産学連携一気に進みそうですねー？	
		91	S	うん、そうですね、	
		92	S	あの一、30年前まではね、	
		93	S	大学で、産学協同教授というものがあつたんですよ。	
		94	S	今は、産学連携しない人は、悪というかですね、	
		95	S	だから、ま一、ちょっと両方とも私は極端だとは思いますがね。	
		96	S	ある程度はやっぱ社会というものを考えなければ、	
		97	S	なんかさつき、オタク、超世間的なオタクだけ大学に行ったらいいというわけではありませんから、	
		98	K		うん。
4	(5)	99	S	ちょっと極端かなとね、	
		100	S	両方ともね思います。	
		101	K		うん。
		102	K	ま、こうやって改革が進められると本当に大学教育の質、//大学教育はどうあるべきかということを、//考えさせられるんですけども、	
		103	S		うーん。
		104	S		うーん。
		105	S		うーん。
		106	K	あの一、本来の、その一、基礎研究、あるいは、あの一、文学、そういったものがきっちりと居場所のある大学の大切さというのは、どのように認識されていますか？	
		107	S		うん。
		108	S	あの一、ビデオでね、	
		109	S	小柴先生も言ってたけれども、	
		110	K		うん。
		111	S	要するに、ま、実学と非実学、あの一、小柴先生言ってるのは、文学とか医学ですよ？	
		112	K		はい。
		113	S	これ、あの、役に立つ学問っていうのも非実学的なものと組み合わせって役に立っていくっていうそういうものだと思うんですよね。	
		114	S	それから、もう一つ大切なことは、あの、あまりにもその産業にすぐ役立っていうことをやらないで一、	
		115	K		うん
		116	S	科学技術が副産、あの一、研究のための研究から副産物で一、	
		117	K		うん。
		118	S	役に立つものが出てきたっていうのは、非常に多いと思うんですよ。	
		119	K		あー。
		120	K	どんな成果が期待されるか分からなくて、	
		121	S		うん。
		122	K	その副産物で何か//強いものが出てきた？	
		123	S		うん、それが多いですよねー。
		124	S	だから、やっぱり復学的というんですか？	
		125	S	実学と、やっぱり非実学があって、	
		126	S	それと組み合わせって、	
		127	S	ある時はコンフリクトを起こすということですね、	
		128	K		うん。

【資料1-3】テレビのインタビュー番組
「大学大競争時代」インタビュアー:K, ゲスト:T

			129 S	あの一、強くなっていくんだと思います。	
			130 S	だから、ちょっと、ま一、極端な感じ、	
			131 S	今の大学改革は、かたっぽに行き過ぎているという感じがしますよね。	
			132 S		うん。
		(6)	133 K	ま一、大学がこれから切磋琢磨して、	
			134 K	競争っていうことになっていくわけなんですけれども、	
			135 K	競争力っていうことを、あの一、社会の中でこの大学は必要なんだっていうふうに認められるためには今、大学って いうのは何をすべきだと思いますか？	
			136 S	大学はね、結局ね、//あの一、自分達は、あの一、どういことをしたらいいかってのを結局はね、	
			137 K		うん。
			138 K		うん。
			139 S	カリキュラム、ユニークなカリキュラムを作っていくっていうことだと思うんですよね。	
			140 K		ああ。
			141 S	だから、カリ、カリキュラム開発競争っていうものをですね、	
			142 K		うん。
			143 S	ぜひ、あの一、それをやってほしいと。	
			144 S	何をそれは教えるかっていうことに繋がると思うんですよね。	
			145 K	社会に必要とされる人材、	
			146 S		うん。
			147 K	ま一、付加価値の高いものを//日本は生まない//といけないということを言われていますけれども、	
			148 S		うん。
			149 K		そうした人材を作るために、
			150 K	どんなカリキュラムが必要なかっていうことですか？	
			151 S	ええ、それぞれの大学ですね。	
			152 S	独自のもの作るのがこれから要されてると思いますね。	
			153 K		はい。
Ⅲ	1	(1)	154 K	どうもありがとうございました。	

【資料1-4】テレビのインタビュー番組
「病を未然に防げ」インタビュアー：K, ゲスト：T

話段区分					
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	参 加 者	発話例
I	1				VTR①
		(1)	1	K	え、今夜は公衆衛生学がご専門のH大学大学院教授のTさんにお越しいただいています。
II	1	(1)	2	K	本当に熱心に、病気の予防に取り組んできた一町で、
			3	K	大幅な予防医療の縮小という住民の方々にとっては本当に残念な結果になったと思うんですけども、
			4	K	この予防医療の効果の検証というものは難しいんですねー？
			5	T	ただいまの実では、平成の大合併の後、
			6	T	これから全国の市町村で多々を超えると思います。
			7	T	で、今おっしゃった医療費の削減の効果の？は大変難しいですね。
			8	T	で、また医療費のみで予防事業の効果を判断すべきでもありません。
			9	K	予防医療のみで判断すべきでない？
			10	T	はい。
			11	T	つまり、あの一、単なる事業ではなくて、
			12	T	住民の満足度とか、安心とか、そういった問題もありますね？
			13	T	で、最初おっしゃった医療費の削減効果に関しましては、半減した後の、 《画面》
			14	K	こちらにありますね？
			15	T	移動したため一、
			16	T	え一、町は、移動費の削減、迷ったと思います。
			17	T	え、総額で見ますと、
			18	T	高齢者の増加による自然増であれば、
			19	T	当時の所長の主張は理解できます。
			20	T	しかし、あの一、半減したことには、すべてが予防事業によるものではなくて、
			21	T	介護保険への移行とか、あるいは薬の使用の適正化など、こういった点もありますので、
			22	T	今回に関しては、あらかじめチェックする項目を決めて、
			23	T	そして、え一、検証すれば、
			24	T	どこかで合意点があったかもしれません。
			25	K	つまり、この予防医療を始める時に、
			26	K	どのなんの、項目を決めて、
			27	T	はい。
			28	K	あの、削減の効果があったかどうかを図れるようにすべきだったという//ことですか一。
			29	T	はい。
			30	T	はい、そう思います。
		(2)	31	K	あの一、VTRの中で、
			32	K	あの一、縮小が決まって、
			33	K	涙を流してらっしゃいましたよねー？
			34	T	はい。
			35	K	やっぱりその一、予防医療の効果っていうのは本当にもっともっと広いものなんですね？
			36	T	はい、そうですねー。
			37	T	で一、予防医療が目指すというのは、ま一、今後のわが国を活力のある健康社会とすることなんです、
			38	T	これは人々を、そして、地域を、そして、市町村を元気にするということですねー。

【資料1-4】テレビのインタビュー番組
「病を未然に防げ」インタビュアー：K, ゲスト：T

		<p>39 T 特に高齢者の方々には一、単純に元気でなくても、</p> <p>40 T 一人でも多くの方々に地域や社会の関わりの中で、</p> <p>41 T えー、社会参加とか社会貢献をしてもらうことで、</p> <p>42 T 生きていてよかった、</p> <p>43 T 住んでよかったと思っていただくことです。</p> <p>44 K まー、それだけにその地域にあった予防医療を広げることが、その地域全体を元気にしていくと//いうことになるわけですか？</p> <p>45 T はい。</p> <p>46 T はい、そうなります。</p> <p>47 T ですから、市町村は、人づくりとか地域づくりとか街づくりと、こういった視点で持って、そういう責任を持って、</p> <p>48 T 予防医療に取り組んで、</p> <p>49 T まー、そういう効果をよくはかっていただきたいと思います。</p> <p>50 K はい。</p>
2	(3)	<p>51 K さてー、あの一、国は4年前から生活習慣病の予防を目指しまして、</p> <p>52 K 予防医療の効果を厳密に評価しようと</p> <p>53 K モデル事業を全国で、8箇所行ってきました。</p> <p>54 K で、参加している自治体は独自のプログラムをそれぞれ行ってきたんですけども、</p> <p>55 K 今回の検証を進める中で、</p> <p>56 K 浮かび上がってきた予防医療の大きな課題というのが住民の継続的な参加の問題です。</p>
		VTR②
3	(4)	<p>57 K ま、Tさん。</p> <p>58 K 全く新しいことに、ま、行政は取り組もうとしている中で、</p> <p>59 K 行政がしっかりしたそのシステムを作っても、</p> <p>60 K 人々が継続的に参加しないと効果は出ない、</p> <p>61 T はい。</p> <p>62 K ですねー。</p> <p>63 T 健康作りの主役は個人ですね？</p> <p>64 T で、国は20年ほど前から国民健康作り運動、あるいは老人保健(?)で取り組んできましたが、</p> <p>65 T あー、相応の効果がありましたが、</p> <p>66 T 健康意識が高まったものの、</p> <p>67 T 実際に一歩踏み出して健康行動を取る人、</p> <p>68 T 例えば、栄養の問題や運動をすると、</p> <p>69 T こういった意識はまだまだ日本は低くて、</p> <p>70 T えー、実際行動を取る人は、大変すくのうございます。</p> <p>71 K うーん。</p>
	(5)	<p>72 K そして、やっぱり便利にしてあげるだとか</p> <p>73 K 達成感を感じられる仕組みを作らないと、</p> <p>74 T はい。</p> <p>75 K 継続的な参加というのは望めないんでしょうか？</p> <p>76 T はい。</p> <p>77 T あの一、こういった、あー、身近にですね、</p> <p>78 T 安全で、効果が分かりやすくて、</p> <p>79 T 長続きするプログラムを作るということは、国の責任ですし、</p> <p>80 T 研究者の責任ですね。</p>

【資料1-4】テレビのインタビュー番組
「病を未然に防げ」インタビュアー：K, ゲスト：T

		81	T	しかし、実際に一、そういったプログラムを自分の市町村にあったものとして、
		82	T	えー、ちゃんと取り組むと言うことは1つの責任です。
		83	K	うん。
		84	T	しかし、やはり主役は国民一人一人の個人ですから、
		85	T	一人一人がまず一歩を踏み出すと、
		86	T	これが一番大切だと思います。
	(6)	87	K	さー、その一歩を踏み出す一のためのそのインセンティブなんですけども、
		88	K	実際にその一、予防医療を行ってきて、
		89	K	予防医療費削減の効果に一、結びついていくためにはどのくらいの年月がかかりますか？
		90	T	まー、一般に調査がいくつかありますが、
		91	K	はい。
		92	T	行政の方には2、3年で定着させるという答えが返ってきます。
		93	K	うーん。
		94	T	しかし、取り組んだ結果は、その倍、5年か6年は最低必要だと言うことが結果として//でております。
		95	K	あー。
		96	K	えー、自治体としてはその予防医療にお金を投資し、
		97	K	すぐに結果が出ることをあまり期待してはいけなと、
		98	K	5、6年は忍耐強く待たなければいけない//ということですねー？
		99	T	はい。
		100	T	そういう息が長いのがこの事業の特徴です。
		101	K	なるほど。
4	(7)	102	K	あの一、国の、その一、思惑としましては、そのハイリスクの人々を健康診断などで、あの見出して、
		103	K	その人々に集中的にプログラムに参加してもらうことで、
		104	K	ま、生活習慣病を改善しようという狙いがあるわけなんですけども、
		105	K	そうしたその健康にまあ不安のある人々を、あの一、効果的にそのプログラムに参加してもらうためにインセンティブ//動機付けというのは、どういことが考えられますか？
		106	T	はい。
		107	T	あの一、見附市の例がいい例なんですけれども、
		108	T	やはり、手近なところにまず場所があること。
		109	K	はい。
		110	T	それから、プログラムが安心、安全で、
		111	T	しかも効果が出やすいと、さっき申しました。
		112	K	ええ。
		113	T	こうやって、
		114	T	後は一、一人ではなかなか寂しくて、
		115	K	えー。
		116	T	長続きしませんから、
		117	T	仲間で楽しくやってくと、
		118	T	そういった工夫も必要ですし、
		119	T	ま、人それでは脱落した方の一、例をよく分析して、
		120	T	なぜ脱落されたか、
		121	T	それも一つの反省になると思います。
		122	K	うん。

【資料1-4】テレビのインタビュー番組
「病を未然に防げ」インタビュアー：K, ゲスト：T

		(8)	123 K	例えば、あの一、海外では、保険料に一、そのインセンティブみたいなものをつくつ、盛り込んでいるところもあるそうですね？
			124 T	はい。
			125 T	あの一、北欧ではですね一、アルコールを飲まない人のための保険。
			126 T	日本でもタバコを吸わない方の保険というものがありまして、
			127 K	ええ。
			128 T	保険料が割安になってます。
			129 T	そういったことは民間では、現在取り組みが出てますし、
			130 T	研究者もそういったことを制度化しようという勉強を始めてます。
			131 K	うん。
		(9)	132 K	ま、いずれにしても、
			133 K	先程おっしゃったように、
			134 K	健康の意識は、今、人々の間で高まってはいるんだけど、
			135 K	行動に移す人がまだまだ少ないと。
			136 T	はい。
			137 K	あの一、こういった、その一、医療費削減の流れの中で、
			138 K	本当に、まさに、個人の参加//ということが、一番大事になってきますね？
			139 T	はい。
			140 T	はい。
			141 T	おっしゃるように、
			142 T	まさに一、健康行動ですが、
			143 T	一人で健康を作ることは不可能です。
			144 T	しかし、健康の主役は個人ですから、
			145 T	海外でもそういった動きがありますので、
			146 T	え一、個人が努力をして実行をする。
			147 T	そのための施設とか、指導とか、行政とか、あるいは社会がそれを作ってですね、
			148 T	今後、本気で健康になりたい人、ますます増えると思いますし、
			149 T	今、不健康な人は、本当に健康になっていただく時期があると考えています。
			150 K	それを地域全体で行っていく時代が新たに登場した//ということですね？
			151 T	はい。
			152 T	はい、そうです。
Ⅲ	1	(1)	153 K	どうもありがとうございました。

【資料1-5】テレビのインタビュー番組
「急増するひき逃げ」インタビュアー：K，ゲスト：M

話段区分				
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1		VTR①	
		(1)	1	K えー、今夜は、交通事故の被害者、遺族の支援を続けていらっしゃいます弁護士のMさんにお越しいただいております。
II	2	(1)	2	K 今のレポートの中の受刑者へのアンケートの中で、
			3	M はい。
			4	K 「お酒を飲んでいたので逃げた、
			5	M はい。
			6	K 処分が厳しいから逃げた」といったような答えがあつて、
			7	K ま、故意に逃げている姿が浮かび上がってきていまして、
			8	M はい。
			9	K 本当に悪質なドライバーがいるんです//ねー？
			10	M はい。
			11	M あの一、特に、飲酒運転をするドライバーっていうのは一、あの一、再犯率が非常に高いんですね。
			12	M それで一、法改正は非常に敏感でありまして一、
			13	M その一、法律の格差、つまり、厳罰化を恐れて、
			14	M 逃げてしまうというのが非常に増えているというのが現実だと思います。
			15	K あの一、お酒を飲んで
			16	M うん。
			17	K 死亡事故を起こし、
			18	K そして、その場から逃げてしまう。
			19	K アルコールが一、体から抜けた後に一、
			20	M はい。
			21	K その一、出頭した場合と、
			22	K ま、その場で捕まった場合との、量刑の差が大きいから、
			23	K こういうことが起きているのではないかと、
			24	M はい。
			25	K いうことなんですけれども、
			26	K 具体的にはどういった差があるんですか？
			27	M ちょっと説明しますと、 《パネル》
			28	K はい。
			29	M えー、アルコールが残っていた時の例としては、新しくできた危機運転致死罪。
			30	K うん。
			31	M それが25年、25年以下の、
			32	K ああ、いえいえ、先生、横に。
			33	M ごめんなさい。
			34	K そうですねー、はい。
			35	M そして一、えー、翌日、ま、出頭したりして、
			36	M アルコールが抜けてると、
			37	M 一定のアルコールが抜けているというような場合では、救護義務違反、つまりひき逃げですね。

【資料1-5】テレビのインタビュー番組
「急増するひき逃げ」インタビュアー：K、ゲスト：M

		38 M それと酒気帯びと酒酔い、飲酒運転の禁止、道交法違反という法律です。
		39 M これが、刑法上の業務上過失致死、5年以下の懲役。
		40 M で、併合罪を所用しても、
		41 M 7年、7.5年以下となってしまう。
		42 M これが、その一、両家の差と言われるものです。
		43 M た、い、約3倍近い格差がある。
		44 M これを、まー、悪質な飲酒運転のドライバーは知っていると。
		45 M これを知って、
		46 M 逃げてしまうと。
		47 M ということですね。
(2)	48 K	ま、平成13年に危険運転致死罪というのが//遺族達の声で、あの一、できたわけですけども、
	49 M	はい。
	50 K	どれくらいの適用件数があるのですか？
	51 M	これは平成16年度の起訴率の起訴件数なんですけども、 《パネル》
	52 K	はい。
	53 M	うー、まず、うー、業務上過失致死だけに絞ると4900件くらい。
	54 M	危険運転致死罪で41件。
	55 M	約1%の件数だというのが実情ですね。
	56 K	なぜそんなに少ないんですか？
	57 M	あの一、危険運転致死罪というのは、酒を飲んでるだけで、
	58 M	適用されるものじゃなくてですね、
	59 M	正常な運転が困難な場合という用件が課されるんですね。
	60 M	そのために、あの一、非常に厳格な要件が必要だとされてるんですね。
	61 K	例えば、真っ直ぐ歩けないとか？
	62 M	そうですね。
	63 M	例えば、あの一、歩行ができないような状況であるとか、
	64 K	うん。
	65 M	あの一、小灯つけたら、
	66 M	異常であるとか、
	67 M	一定の検知量つまり、アルコール量が一定数異常であるとか、
	68 M	そういった様々な要件が必要であるとされているんですね。
	69 K	正常な運転が困難だ//との立証ですね。
	70 M	はい。
	71 M	はい。
2	(3)	72 K えー、厳罰化を目指して作られましたこの危険運転致死罪ですけども、
	73 K	それがなかなか適用されないのはなぜか、
	74 K	詳しくご覧いただきましょう。
		VTR②
3	(4)	75 K ま、それにしても、アルコールが検地されなくなってから、
	76 M	はい。
	77 K	出頭したり、
	78 K	重ね飲みをして、
	79 K	その当時のアルコール度数が分からなくするというのは一、本当に悪質で、

【資料1-5】テレビのインタビュー番組
「急増するひき逃げ」インタビュアー：K、ゲスト：M

80 K 被害者や遺族の方々からするとやりきれないでしょうねー？

81 M はい。

82 M あの一、分かりやすく言いますとですねー、

83 M あの一、大量にお酒を飲んで、

84 M 故意に飲酒運転をする。

85 M ま、故意にひき逃げをする。

86 M それから、危険運転致死を免れるために、

87 M 故意に立証妨害をする。

88 M ある意味で三重の故意ないし、

89 M 悪質の、悪意があるんですね。

90 M この人たちがどうして危険運転にされないのか。

91 M 正直な運転者だけが、あの一、危険運転で処罰される。

92 M 非常に不条理じゃ、不条理じゃないかと。

93 M こういう思いが遺族にはあると思いますね。

94 K ただでさえ、事故にあっただけで、

95 M はい。

96 K 大きな傷を受けているのに、

97 K さらにですよー？

98 M あの一、ある意味で二次被害の最たるものだと思いますね。

99 M 非常に、あの一、捜査に対する不信感も出てくると思いますね。

(5) 100 K ま、正常な運転が困難だったかどうか、

101 M はい。

102 K この立証が難しいということで、

103 M はい。

104 K あの一、危険運転致死罪のその、適応があまりされていないということですが、

105 M はい。

106 K しかし、その現場の状況、//あるいは、目撃証言などを積み重ねていけば、

107 M はい。

108 K 立証もできるんじゃないですか？もう少し。

109 M はい。

110 M あの一、交通事故ってのは、まあ、実は年間93万件くらい発生していて、

111 M 非常に多いんですね。

112 M ですから、警察としても非常に忙しい中で、

113 M 危険運転罪を操作しなければいけない。

114 M そういう部分で非常に難しい部分がある。

115 M 特に、正常な運転が困難という立憲を立証するためには何が必要かということが、まず必要なんですね。

116 K うん。

117 M えー、正常な運転が困難というためには、例えば、アルコール見地量がどれくらいあったらいいのか、

118 M さかのぼって、

119 M 操作することができるのかどうか、

120 M あるいは、衝突形態が異常であったか、

121 M 正常であったか、

122 M 例えば、反対車線に飛び込んでいけば、

123 M まー、ちょっと異常じゃないかとか、

【資料1-5】テレビのインタビュー番組
「急増するひき逃げ」インタビュアー：K、ゲスト：M

		124	M	それから、目撃者の証言とかどれくらいあるかとか。
		125	M	その、多くの立証資料、つまり、証拠を積み重ねていくことが必要なんですね。
		126	M	ある意味で殺人罪に匹敵するほどの証拠を積み重ねなければいけない。
		127	M	そういう意味で非常に現場が混乱していることもあるでしょうけども、
		128	M	マニュアル的なものがまだできていない。
		129	K	はい。
		130	M	というのが前提だと思いますね。
	(6)	131	K	しかし、実際に、そういった捜査の積み重ねで、
		132	K	あの一、危険運転致死罪に問われたケースも実際にでてますよね？
		133	M	え、千葉県松生町のひき逃げ事件ではですね、
		134	M	地検が走行実験を行うなどの緻密な立証活動を行いまして、
		135	K	この場合は、同窓会に出席していた//8人の人々が一、あの事故にあったというケースですね。
		136	M	そうですね。
		137	M	そうですね。
		138	M	それで、一応アルコール量がですね、
		139	M	翌日出頭したためにですね、
		140	M	あんまり残っていなかったんですけれども、
		141	M	ま、地検の方で、
		142	M	補充捜査して、
		143	K	はい。
		144	M	再現実験を行って、
		145	K	再現実験ですか？
		146	M	再現実験。
		147	M	それで、あの一、立件できて、
		148	M	懲役20年の言い渡しまでしたと。
		149	M	そういう事例ですね。
		150	M	非常に積極的な活動、捜査活動をされたという意味で評価できる事件だと思いますね。
		151	M	ですから、警察とか検察が積極的に捜査、立件しなければいけない事件で、
		152	M	一般の交通事故のような、その一、消極的な態度では済まないということを肝に銘じるべきだと思いますけどね。
4	(7)	153	K	しかし一、その一方で一、操作の限界//ということも先程おっしゃったんですけれども、
		154	M	はい。
		155	M	はい。
		156	K	例えば、どうすれば飲酒、ひき逃げ事件//ということが起きないようにできるのか、
		157	M	はい。
		158	K	抜本的にその、逃げるのが得にはならないようにするには、どうすればいいのでしょうか？
		159	M	あの、まずは、あの一、警察、検察に対するその、ま一、どちらかというと、
		160	M	泳ぎがちな態度ですか？
		161	K	はい。
		162	M	あの、これを一、あのまず、辞めて、
		163	M	あの一、積極的に操作することが本業面で必要だと思いますね、
		164	K	うん。
		165	M	それを超えて、
		166	M	え一、ま一、問題となっているのはそれでも、あの一、厳罰をかいぐる運転者がいるということが問題ですから、
		167	M	そのために法律改正が必要だと、私は思いますね。

【資料1-5】テレビのインタビュー番組
「急増するひき逃げ」インタビュアー：K、ゲスト：M

			168	K	うーん。
			169	M	一つはですね、 《パネル》
			170	M	この救護義務やひき逃げ、えー、というのを一5年以下の懲役というのを、例えば、7年8年に引き上げる。
			171	K	はい、
			172	M	それから、従来の業務上過失致死罪、これも、あの一、昭和43年に3年から5年に引き上げられたんですけども、
			173	M	これも、5年から7年8年に引き上げるという法律の改正がまず必要じゃないかと思います。
			174	M	それ以外に、あの一、危険運転致死罪の法律要件となっている正常な運転が困難だという抽象的な要件はもう少し 分かりやすくする。
			175	M	例えば、一定のアルコール量が出れば、
			176	M	あの一、原則として、
			177	M	危険運転として処罰されるというふうにしていく。
			178	M	もう一つはですね、
			179	M	飲酒ひき逃げ罪という特別の行為類型を捕らえて、
			180	M	「飲酒ひき逃げ罪」という罪名を作る。
			181	M	こういったことも考えていいじゃないかと思います。
			182	K	まー、とにかく飲酒、運転、をし、
			183	K	飲酒運転をとにかくなくすという//強い決意で法律作りもしないといけないということですね？
			184	M	はい。
			185	M	そうですね。
			186	M	まー、今まで大目に見てきた飲酒運転を絶対に許さない社会。
			187	M	これが、まー、臨まれているということだと思います。
			188	K	はい。
Ⅲ	1	(1)	189	K	どうもありがとうございました。

【資料1-6】テレビのインタビュー番組
「体質は改善されたのか」インタビュアー：K、ゲスト：A

話段区分				
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1		VTR①	
		(1)	1	K えー、ご覧頂きましたように、
			2	K 安全を重視した環境を現場に作っていかうとしているJR西日本ですけれども、
			3	K えー、これまでの合理化で、
			4	K それにも限界がでてきているのです。
			5	K え、今日は、公益事業の安全マネジメントがご専門のK大学教授のAさんにお越しいただいています。
II	1	(1)	6	K 補整員が足りない。
			7	K 安全を重視しようにもー、
			8	K これまでの合理化のツケが見えてきたってことで、
			9	K 厳しい状況ですねー？
			10	A そうですねー。
			11	A ですからー、JR西日本は発足して20年近くになるんですが、
			12	A 最初はですね、5万1千人くらいでスタートしたと。
			13	A ところが、今では、3万人ほどになっています。
			14	A でー、全部もんでですねー、
			15	A 金融、あるいは、保険、あらゆる部門でですねー、
			16	A あの一、かなり厳しい代償になりましたのですねー、
			17	A あの一、かなり現場が厳しい状況になってきていますね。
			18	A で、さらに、あの、2009年度までにもう4000人程ですねー、
			19	A あの、人を減らしていくという計画がありますので、
			20	A これ以上人を減らすとですね、
			21	K うん。
			22	A 鉄道の現場のどう悪くなるのかというその危惧を覚えます。
			23	K うん。
		(2)	24	K えー、そして、その事故後、
			25	K 事故の芽を、//ま、くみ上げる//いうことが要因のように、
			26	A はい。
			27	A はい。
			28	K あの一、匿名で報告できるようにしたところ、
			29	K 半年間で2000件もの一、まー、ミスの報告などがあったということなんですけれども、
			30	K あの、これによって、まー、相当そのミスの原因というのが見えてくる可能性はありますか？
			31	A あの一、事故のメドが大変良いやり方ですね、
			32	A あの一、大事故に至るいろんな要因があるわけですね。
			33	A それをですね、自分で潰してしまおうと。
			34	A で、こういう事故の芽というのを、ま、左はっ戸の段階ですね、
			35	A 要素を取り除く、取り除こうというですね。
			36	A これは大変いいことなんですけどね、
			37	K うん。
			38	A こういう制度を効果的に始めたと言うことは、評価できるのですが、
			39	A これが有効に作用するためにはですね、
			40	K うん。
			41	A 職場で信頼関係がないとですね、
			42	A 例えば、自分のミスを報告すると、
			43	A 勤務評定の対象になるのではないかとありますので、
			44	A 有効に作用しません。

【資料1-6】テレビのインタビュー番組

「体質は改善されたのか」インタビュアー：K、ゲスト：A

		45 A ですから、何よりもこの制度が有効に作用するためにはですね、
		46 A えー、職場の、こう信頼関係とチームワークをどう構築するか、
		47 A それが大きな課題ですね。
		48 K うーん。
		49 K あの一、実際に事故あるいはミスは一、個人のせいではないと、
		50 K いうことを徹底するためにはそういうと、
		51 K あの一、つまり、か、会社全体の中で、
		52 K 上と下の信頼関係を構築するのが、//大事だと。
		53 A え、そうなんですねー。
		54 A あ、事故前はですね、
		55 A JR西日本に特徴的なのはですねー、
		56 A 事故というのは、個人のあ、個人や規則やマニュアルを破るからだという捉え方が非常に強いんですよねー。
		57 K はい。
		58 A ところがあの一、えー、個人はですねー、
		59 A 誰もエラーなんて犯したくない、
		60 A ミスは犯したくない、
		61 A というふうに思っているんですが、
		62 A なんらかのいろんな要因ですね、
		63 A エラーを犯してしまう。
		64 A ですから、最悪の場合、
		65 A エラーを犯した時に、
		66 A どうバックアップシステムを作ってやるかというのが非常に重要でね、
		67 A これが、まー、ヒューマンエラー対策とっていいと思うんですが、
		68 A それが今のですね、
		69 A 正しい安全の仕方、安全対策なんですね。
		70 A こういった考え方をどう組織に浸透させるということがですね、
		71 A 求められていると思います。
		72 K はい。
2	(3)	73 K えー、さて、今年の3月、JR西日本は事故原因の一つとされたダイヤを改定しました。
		74 K ゆとりをもったダイヤの見直し、なんですけども、
		75 K えー、見直された後も、
		76 K 日常的にダイヤの遅れが出ています。
		VTR②
3	(4)	77 K ま、無理のあるダイヤが一、その事故に繋がったのではないかとということで、
		78 K 余裕を持たせるダイヤに見直したということですけども、
		79 K まだまだ、余裕、足りないのではないのですかー？
		80 A そうですね。
		81 A あの一、余裕のないダイヤはですねー、
		82 A 電車のスピードアップというのが事故の背景要因の一つではないかと指摘されたわけですね。
		83 K うーん。
		84 A で、今回あの一、新快速を中心にしてダイヤに余裕を作りました。
		85 A で、これは非常に意味がある画期的なことだと思いますが、
		86 A まだ個別にですね、
		87 A 検討してみますと、
		88 A いろんな問題点が残っています。
		89 A で、大事なことはですねー、
		90 A 余裕のあるダイヤを組んで、
		91 A これが乗務員の人たちが、うん、運転しやすいようにすると。
		92 K うーん。
		93 A いろんなことでダイヤが乱れないようにする状態を作ることが大事だと思いますから、

【資料1-6】テレビのインタビュー番組
「体質は改善されたのか」インタビュアー:K, ゲスト:A

	94	A	で、えー、3月にやりましたですねー、
	95	A	数ヶ月これでやってみて、
	96	A	実際どういう問題点がでてくるのか、
	97	A	で、これを検証して、
	98	A	さらにですねー、より良いものに変えていくという、そういう仕組みを作ったらいいいと思います。
	99	K	うん。
(5)	100	K	あの一、107人の方が亡くなられた大惨事。
	101	A	はい。
	102	K	JR西日本、ま、信頼回復には本当に徹底した安全対策が必要なんですけども、
	103	K	こうやってダイヤの見直しですとか、
	104	K	あの、その他の安全対策のほうを見えても、
	105	K	何かまだ中途半端な印象を持ってしまうんですけども、
	106	K	なぜもっと徹底して、
	107	K	取り組むことができないのでしょうか？
	108	A	JR西日本は、あの一、事故後1ヶ月たったですねー、
	109	A	5月の末に、昨年5月の末に一、安全性向上計画というものを作ったんですね。
	110	A	この中で、ハード題材、いろんな情報共有のありかた等々の政策を提言しているわけですが、
	111	A	ハード面ではですね、
	112	A	ATSをカード期間に接続したりなど、
	113	A	一定の改善が見られるのですが、
	114	K	はい。
	115	A	大きなですね、
	116	A	安全対策の見方、あるいは、非常に信頼関係のある職場環境作りといったような点ではですね、
	117	A	まだまだ不十分な点が多いですね。
	118	A	つまり、先頭に立って頑張るべき委員の人、あるいはですね、中間管理職の人たちが、まだですね、
	119	A	改革という大鳥に立って、
	120	A	一丸になってないんじゃないかと思われれます。
	121	K	あの、山崎社長は、今日の慰霊式で、
	122	K	とにかく社員一丸となって、
	123	A	はい。
	124	K	やるという決意を表明していますけども、
	125	A	はい。
	126	K	何がそれを難しくさせているんですか？
	127	A	あの一、大変大掛かりな国鉄がですね、
	128	K	うーん。
	129	A	解体をして、
	130	A	JRを出発させたわけですね、
	131	A	で、20年近く頑張ってきてですね、
	132	A	えー、経常利益で言えば、
	133	A	700億円800億円を上げるような会社になりました。
	134	K	うーん。
	135	A	で、完全民営化をしました。
	136	A	これはですねー、まー、西日本というエリアで、
	137	A	大きな成果であったわけなんですねー。
	138	K	うーん。
	139	A	この選考会見という言葉。
	140	A	私は、かえって重荷になっていると思います。
	141	A	で、その時、一度原点に帰ってですね、
	142	K	うん。
	143	A	見つめ直す必要があるのではないかと、

【資料1-6】テレビのインタビュー番組
「体質は改善されたのか」インタビュアー:K, ゲスト:A

			144 A 新しい鉄道会社として、
			145 A どう生まれ変わるかということのをですね、
			146 A 真剣になって考える。
			147 A 全社が一丸となって考える必要があるんじゃないかと思います。
4	(6)	148 K 収益重視を優先させて、	
		149 K 成功体験を、まー、体験するようになったと。	
		150 K そこから、本当に安全対策重視に向くことができるのか//ということなんですけれども、	
		151 A うん、そうですね。	
		152 K どうすれば、	
		153 K どういう対策が必要だと見てらっしゃいますか？	
		154 A あの一、昨年からですんねー、	
		155 K ええ。	
		156 A 昨年5月から、安全向上計画をやってきたんですけどね、	
		157 K うーん。	
		158 A これは、いわゆるJR内部の努力なんです。	
		159 K うーん。	
		160 A で、問題は、私はですね、	
		161 A 例えば、安全諮問委員会という外部の専門家や委員会を作ってるんですが、	
		162 A 個々がもう少し機能強化をしていくとですね、	
		163 A 安全性向上計画が新曲状況によりもう少し苦言を呈すと。	
		164 A その理論過程を外部に公開することによって、	
		165 A あの一、社会的な、えー、社会的に評価できる仕組みを作る必要があるんじゃないか。	
		166 A こういうふうに思います。	
		167 K そして、もっともっと現場の声、ミスやトラブルが一こう上に上がっていく仕組みっていうのも必要ではありませんか？	
		168 A あの一、事故との目とも言うんですけども、	
		169 A これはですね、会社の内部でやることと同時に、	
		170 A 私は、第三者機関でも作ってですね、	
		171 A 個々の事故の目というのを外に集中させると。	
		172 A で、えー、JR西日本じゃなくてですね、	
		173 A 他の鉄道会社も事故漏れを外に集中させてですね、	
		174 A 共通して、	
		175 A 事故の芽を根絶する仕組みを作っていく、	
		176 A そういう時期がきているんじゃないかというふうに思います。	
		177 K はい。	
Ⅲ	1	(1)	178 K どうもありがとうございました。

【資料1-7】テレビのインタビュー番組
「微生物ハンター」インタビュアー:K, ゲスト:O

話段区分					
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者	発話例
I	1		VTR①		
		(1)	1	K	えー、今夜は一、微細物の産業廃棄にお詳しい、T大学教授のOさんにお越しいただいております。
II	2	(1)	2	K	ご自身もキャリア30年の微生物ハンター。
			3	O	はい。
			4	K	ご専門は？
			5	O	カビです。
			6	K	カビ。
			7	O	カビを探しています。
			8	O	あの一、日本中、あちこち行きますけど、
			9	O	えー、森の中の、えー、落ち葉の下とか、
			10	O	あるいは、腐った木とか、
			11	O	竹とか、
			12	O	そういうものを集めています。
			13	K	ルーペを手には？
			14	O	そうです。
			15	K	探してらっしゃるんですねー？
			16	O	はい。
			(2)	17	K
	18	O		ええ、その通りで、	
	19	O		私の専門のカビに限って言いますとですね、	
	20	O		この世の中で、これまで8万種だけのカビが知られています。	
	21	O		ところが、おそらく、150万種以上は、いるだろうというふうに言われています。	
	22	O		しかも、この8万種の中で、実験室の中で培養できるのは、パーセントだというふうに言われています。	
	23	K		やはり、ペニシリンも含む。	
	24	O		そうです//ね。	
	25	K		なんですよねー。	
	(3)	26	K	かなりカビだけでも医薬品への//期待っていうのはあるんですか？	
27		O	ええ。		
28		O	高いです。		
29		K	あの、医薬品の中で、		
30		K	その一、生物、//自然の物を使ってできた物って、多いんですか？		
31		O	はい。		
32		O	はい。		
33		O	あの一、そのもの、微生物の代謝産物がそのまま医療品になったとは限らないんですね。		
34		O	はい。		
35		K	これでご説明していただきましょうか。 《パネル》		
36		O	だいたいあの、えー、微生物をまあ、自然界から集めてきます。		
37		K	はい。		
38		O	で、その微生物を実験室の中で培養して、		
39		O	で、その微生物の生産する、		
40		O	作る代謝産物。		
41		K	代謝産物。		

【資料1-7】テレビのインタビュー番組
「微生物ハンター」インタビュアー:K, ゲスト:O

		<p>42 O 代謝、代謝。</p> <p>43 K 例えば、どんなもの？</p> <p>44 O えー、ペニシリンみたいなもの、汗みたいなものですね。</p> <p>45 K 汗みたいなもの。</p> <p>46 O はい。</p> <p>47 O それーの中に、新しい作用があると、</p> <p>48 O あるいは、新しい構造だと、</p> <p>49 O 特許が、//取れます。</p> <p>50 K 特許。</p> <p>51 K はい。</p> <p>52 O はい。</p> <p>53 O で、初めて、その、えー、特許を取ったものについて、</p> <p>54 O 動物試験とか毒物試験が行えます。</p> <p>55 O それで、えー、臨床試験を経て、</p> <p>56 O 最終的には、医薬品になるわけです。</p> <p>57 K えー、医薬品にまでなるものの確率がどれだけ//なるか、</p> <p>58 O ものすごく低いです。</p> <p>59 K このようになって//ます。</p> <p>60 O はい。</p> <p>《パネル》</p> <p>61 O 10万もサンプルを集めてきて、</p> <p>62 O それを、そこから、まあ、特許を取れるようになるのがだいたい10くらい。</p> <p>63 O そこから、医薬品になるのが、おそらく1つです。</p> <p>64 O 10万分の1の確率。</p>
(4)		<p>65 K あの一、今日のニュースで、特許が効かなくなった、</p> <p>66 K そして、院内感染が原因になっているNMRLも効果があるというある新しい抗生物質を、アメリカの製薬会社が見つけた、ということなんですけれども、</p> <p>67 K 南アフリカの土から25万種類の細菌などを採取して、</p> <p>68 K 成分を検出して、</p> <p>69 K 分析した。</p> <p>70 O はい。</p> <p>71 O だけど、まだ製品になったわけではないと思うんですよ。</p> <p>72 O 私も今日聞いたばかりですけども、</p> <p>73 O プラテインマイシンという抗生物質だそうで、</p> <p>74 O これまでになかった働きを持っているそうです。</p> <p>75 O 期待したいとは思っております。</p> <p>76 K そうですねー。</p> <p>77 K でも、25万種類の細菌を調べたと、いうことわけなんですけれども、</p> <p>78 O はい。</p> <p>79 K ほんとにまあ、宝探し。</p> <p>80 O 宝探しです。</p> <p>81 K はい。</p>
2	(5)	<p>82 K さて、日本でですけども、</p> <p>83 K 味噌やしょうゆ、お酒など、古くから、えー、養った微生物の利用技術では、世界のトップクラスにあります。</p> <p>84 K その技術を活かして、</p> <p>85 K バイオ産業での競争力を高めようと、</p> <p>86 K 今日日本は、微生物の確保に国を挙げて取り組んでいます。</p>
		VTR②

【資料1-7】テレビのインタビュー番組
「微生物ハンター」インタビュアー:K, ゲスト:O

3	(6)	<p>87 K Oさん、ほんとに先進国の間での利益配分を巡る対立というのは、深刻ですね？</p> <p>88 O 完全に平行線ですね、議論が。</p> <p>89 O あの一、結局、それは一、資源国が一その歴史的に見ると、</p> <p>90 O あの一、生物資源、えー、ゴムとか、コーヒーとか、あるいは、それこそ奴隷制度の時代のその搾取されてきたっていう、えー、背景があるんです。</p> <p>91 O ですから、こ、これから、もう、あの、資源国は、先進国の思い通りにはさせないぞ、</p> <p>92 O 搾取はさせないぞ、という思いがあるわけです。</p> <p>93 O で一、生物資源、イコール製品だどちょっと勘違いしているところもあるんです。</p> <p>94 K 一方、その先進国からすると、</p> <p>95 K 1つのその製品が実際の売上げが上がるまで、</p> <p>96 K 大変なコスト//がかかっていると。</p> <p>97 O そうですね。</p> <p>98 O あの一、さきほどの《パネル》でありましたように、</p> <p>99 O まあ、あの例で言っても、</p> <p>100 O 10万分の1なわけなんですね？</p> <p>101 O ですが、先進国の企業としては、あの一、利益を配分するんであったら、</p> <p>102 O リスクを配分してくださいよという</p> <p>103 K 失敗した分のコストも//あの、大振りで負担してほしいという声ですか。</p> <p>104 O ええ。</p> <p>105 O ええ。</p> <p>106 K あの一、できた製品に対して、</p> <p>107 K 例えば、医薬品の場合、</p> <p>108 K 途上国側では、売上げの10パーセントから20パーセントを求めるという声もありますよねー？</p> <p>109 O ええ。</p> <p>110 O これは、もう莫大な量、あの一、お金で、そんなのあの一、企業がお受けするはずもないです。</p> <p>111 O まあ、え、上限で言っても、</p> <p>112 O 医薬品の場合は、せいぜい0.5パーセントから1パーセントだというふうに言われています。</p>
	(7)	<p>113 Kほんとに開きが//大きいんですけども、</p> <p>114 O はい。</p> <p>115 K どうやってその溝を埋めていくのか、</p> <p>116 K 人類にとって有益な//製品が出てくる可能性を秘めてるだけに、</p> <p>117 O ええ。</p> <p>118 O はい。</p> <p>119 K 売れていきたいですよねー？</p> <p>120 O そうですね。</p> <p>121 O それには、やっぱり、さきほどのビデオでありましたように、</p> <p>122 O 安藤さんたちがやっているような地道な努力ですね。</p> <p>123 O あの一、日本の研究者が現地に入って、</p> <p>124 O 一緒に研究をする。</p> <p>125 O あるいは、現地の研究者を日本に呼んで、</p> <p>126 O 一緒に研究する、</p> <p>127 O 一緒に何かをするっていう、その、あの、対人間的な関係がものすごく重要だと思います。</p> <p>128 K あの一、国がインドシナ政府と交渉を重ねて、</p> <p>129 O はい。</p> <p>130 K 技術移転の//代わりに、</p> <p>131 O はい。</p> <p>132 K あの一、資源を//探索する許可を得た、</p> <p>133 O うん。</p>

【資料1-7】テレビのインタビュー番組
「微生物ハンター」インタビュアー:K, ゲスト:O

		134 K	そういうことで、最初のVTRにあった渡辺さんたちも、あの一、//インドネシアの中で、
		135 O	そうですね。
		136 K	えー、資源を、微生物を//探すことができる//というわけなんですね。
		137 O	はい。
		138 O	あの一、今では、企業の人も、あの一、えーと、東南アジアにいけるようになったわけです。
		139 K	しかし、そういう枠組みにいないと、
		140 K	なかなか企業としては、積極的に踏み込めない//ですよー？
		141 O	そうですね。
		142 O	はい。
		143 O	結局、えーと、何か後で、後ろ指、指されるのは、事業としては一、好ましくないわけですから。
4	(8)	144 K	あの一、Oさん自身も、抗生物質に、の、その物質というものを//見つけられたことがある//ということですけども、
		145 O	はい。
		146 O	はい。
		147 K	この微生物が持つ、可能性、//どのように見て//らっしゃいますか？
		148 O	可能性ですね。
		149 O	この微生物をしている人は、みんなそう思ってると思うんですけれども一、
		150 O	あの一、やっぱり人間の頭で考えた化学構造っていうのは、限りがある。
		151 K	例えば、薬を作る時、
		152 O	ええ。
		153 K	人間では、化合物でできるんじゃないかと//ということですね？
		154 O	ええ、ああ。
		155 O	もちろん、微生物もその化合物を使ってるかもしれないんですけど、
		156 O	それ、その形を、最初は、想像できないわけなんですよー。
		157 K	はい。
		158 O	人の力では。
		159 K	はい。
		160 O	それは、確かに、微生物は、50億年の、その、えー、生命の歴史の中で、
		161 O	自らが、その、えーと、選択、取捨選択してきたわけですから、
		162 O	あの一、そういう自然に学ぶっていうのは、これから、ぜひとも続けたいと思いますね。
		163 K	人間の創造できない//物を作り出してきた微生物が、50億年の中で、ずっと育まれてきた//わけですよー？
		164 O	ええ。
		165 O	はいはい、ええ。
		166 K	それを本当に、あの、人類ができる一、そのシステムというか
		167 O	はい。
		168 K	枠組みというのは、//やっていか//なければいけない。
		169 O	はい。
		170 O	はい。
		171 O	えー、そのためにも、一緒に仕事をするという、
		172 O	あの一、資源国と一緒に仕事をするというのが1番いいんじゃないでしょうか。
		173 K	はい。
Ⅲ	1	(1)	174 K どうもありがとうございましたー。
			175 O どうもありがとうございました。

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K、ゲスト：T

話段区分				
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1			VTR①
		(1)	1	K 今夜は、T医科大学の教授で、
			2	K 今日から始めました日本糖尿病学会会長を務めていらっしゃいますTさんにお越しいただきました。
II	1	(1)	3	K 本当に、健康診断では、まったく以上がないとされた方が、心臓発作を起こした後に、
			4	K 調べてみると、
			5	K 隠れ糖尿病だって怖いですねー？
			6	T ほんとに怖いですねー。
			7	T あ、の、「隠れ糖尿病」という言葉なんですけども、
			8	T ま、専門家のイメージとしては、糖尿病なのに、
			9	T 見逃されていた方たちということなんですけど、
			10	T あ、ここでは、糖尿病の前段階の方ということに敢えてしているわけですね。
			11	T といいますのも、
			12	T おー、その段階から、
			13	T あー、心筋梗塞や、あー、脳卒中などの危険度が、あー、正常の方に比べて高いと。
			14	T まあ、程度の差はありますけれども、
			15	T そのために、隠れ糖尿病というふうに言っているわけなんですよねー。
		(2)	16	K で、その大きな特徴というのは、お食事をした後に、
			17	K 急激に血糖値が上がる、ですよねー？
			18	T ええ、その通りです。
			19	T あの一、24時間血糖値が高い状態が続くと、
			20	T まあ、心筋梗塞などのリスクが高まる。
			21	T ま、これは、分かっていたことわけなんですけれども、
			22	T そうではなくって、
			23	T 例え、その食後の後だけ、
			24	T 急峻の高血糖、スパーク状の高血糖といったほうがいい//んですけれども。
			25	K はい。
			26	K はいはい。
			27	T 長く続かなくてもですねー、
			28	T ふ、普通の方、正常の人に比べて、
			29	T 心筋梗塞や脳梗塞の危険度が2倍も高いということが、最近分かってきたんです。
		(3)	30	K 自覚症状がなくて、
			31	K 気づいてらっしゃらない方が多いんじゃないかと//言われてきていますけれども、
			32	T ええ、ええ。
			33	K この隠れ糖尿病の方って、どれくらいいらっしゃるというふうに見えますか？
			34	T ええ。
			35	T まだ、正確な数字はないんですけども、
			36	T おそらく、500万人とか600万人くらいはいらっしゃるんじゃないでしょうか。
			37	T といいますのも、
			38	T あの一、普通検査をする時、
			39	T 血糖検査をする時、
			40	T 空腹時に行いますね？
			41	K はい。

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K、ゲスト：T

		42 T えー、でも、空腹時の血糖値だと隠れ糖尿病は見つからないんですね。
		43 T あ、ぜひ、その、食後の血糖値を計っていただきたい。
		44 T でも、もっと正確に見つけるためには、「糖付加試験」といいますもっと詳しい検査を受けていただきたいんですね。
		45 T で、そうすると、隠れ糖尿病が確実に見つかります。
	(4)	46 K あの一、どうも糖尿病というと、
		47 K その一、太ってらっしゃる方、//肥満の方、がリスクが高いというふうに、
		48 T はい。
		49 T ええ。
		50 K あの一、思ってしまうんですけども一、
		51 K 必ずしも一、その体重にその大きな問題がない方でも、
		52 K これは、起きてる可能性があるんですね？
		53 T ええ、その通りですねー。
		54 T あ、肥満で糖尿病になる、
		55 T 心筋梗塞のリスクが高まるってのは、欧米の方の特徴なんですね。
		56 T 日本人の場合には、もともとその、体質的にすい臓が弱い。
		57 T インスリンを出す能力が、あー、低いんですね、
		58 T したがって、特に、その欧米型の食事を摂っていると、
		59 T そんなに、ふと、そんなに太らない、まいんですね。
		60 T 糖尿病になってしまうということがあるんですね。
		61 K そうやって、
		62 K その、気がついてないうちに、
		63 K すい臓が疲れて//いってしまうということになりかねないわけですけども。
		64 T はい。
		65 K はい。
2	(5)	66 K さて、その隠れ糖尿病の患者の方、今お話にありましたように、
		67 K えー、今の段階では、インスリンの分泌には問題がない。
		68 K それにもかかわらず、えー、血糖値が極端に、食事の後、
		69 K なぜ上昇するのか、
		70 K 最近の科学が解き明かしましたメカニズムから、大きなポイントが筋肉の状態にあることが分かってきました。
		VTR②
3	(6)	71 K えー、筋肉の細胞内に、
		72 K 脂肪というのが溜まっていくと、
		73 K なかなかその、血糖値が下がらなくなる。
		74 T はい。
		75 K これ、どういうことなんですか？
		76 T はい。
		77 T あの一、ここの研究がすごく進んでいるところなんですねー。
		78 T で、簡単に申し上げますと、 画面
		79 T あの一、筋肉が、あー、糖に入っていく時には、
		80 T 普通の人の場合には、あー、インスリンが、あー、その、おー、糖が入っていくとこの入り口、ドアを開けてくれるんですねー。
		81 K インスリンがその働きをするんですか？
		82 T はい。
		83 T それから、その後、

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K, ゲスト：T

		84 T	その糖が、エネルギーとして、えー、代謝されていく時に、
		85 T	使われていく時もは、特別の3つの糖を通るんですね？
		86 T	そして、その通路をスムーズに通らせるっていうのも、
		87 T	これはまた、インスリンの役目なんですね。
		88 T	ま、しかし、その隠れ糖尿病の場合にはですね、
		89 T	そこがうまくいかない。
		90 K	うん。
		91 T	なぜならば、その通路のところを筋肉の中にある脂肪がブロックしてしまうわけですねー。
		92 T	したがって、血中には、糖が増えてくると。
		93 T	そして、その溢れた糖が何をするのかというと、
		94 T	血管の内側を傷つける、
		95 T	さきほどのお話にありましたねー？
		96 K	ええ。
		97 T	それと同時に、また、その高い血統がすい臓の方に悪さをして、
		98 K	うん。
		99 T	インスリンの出す能力をまた下げてしまう。
		100 K	うん。
(7)	101 K	常時高い血糖値であると、	
	102 T	ええ。	
	103 K	すい臓は、どういうことをするわけですか？	
	104 T	常時高い、血糖値がずーと高いということは、すい臓は、常にインシュリンを出して、	
	105 T	そして、下げようとするわけなんですねー。	
	106 T	でも、あー、日本人の場合にはー、	
	107 T	もともとすい臓の力が弱い。	
	108 T	インスリンの出す能力が低いとなると、	
	109 T	こううまく、下げてやれなくなってしまう。	
	110 T	そして、早く糖尿病になってしまうということになってしまうということなんですね。	
	111 K	すい臓が疲れて、	
	112 T	疲れてしまうわけですねー。	
	113 K	ねえ。	
(8)	114 K	あの一、隠れ糖尿病、先ほど、教授は、若い人も//多いと言っておりましたけども、	
	115 T	ええ。	
	116 T	ええ。	
	117 K	どんな方がなりやすいんですか？	
	118 T	あの一、太っていらっしゃる方ですねー、//やっぱり。	
	119 K	うん。	
	120 T	と一、後、若い方は、最近、ペットボトルを抱えて、	
	121 T	盛んに、あの一、飲みますねー。	
	122 K	甘い//ジュースだったり。	
	123 T	そうですね、ええ。	
	124 T	そうすると、急激に血糖が上がる。	
	125 T	それで、もう一瞬だけですわね。	
	126 K	うん。	
	127 T	決して、長くは続かないんですよ。	
	128 T	そのことを続けていると、	
	129 K	うん。	

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K、ゲスト：T

- 130 T 本当の糖尿病になってしまうってことになりますですね。
- 131 K で、その糖尿病になりやすいという目安というのが、こちらにまとめて//あるんですけども、
- 132 T はい。
- 133 T はい。
- 《パネル》
- 134 T 「高血糖、高血圧を指摘されたことがある」
- 135 T 「高血圧、高血糖、糖尿病の家族がいる」
- 136 T そして、「40歳以上」というのは、これは、誰しものがこういう項目があると、
- 137 T 糖尿病になると、
- 138 T なりやすいなあと思われますよね。
- 139 K ええ。
- 140 T ちょっと気をつけていただきたいのは、「運動する機会が少ない」。
- 141 T これは、月1のゴルフじゃだめなんですね。
- 142 T 体をこう、いつも動かして、
- 143 T そして、エネルギーを消費する状態になっている、
- 144 T つまり、歩行でいいんですけども、
- 145 T まあ、そういうふうなチャンスが少ないと。
- 146 T で、「食事の内容に気を使っていない」というのは、まあ、おかず食いで、
- 147 T そして、その、高カロリー、高、こー、脂肪の食事を好んで食べる、
- 148 T つまり、欧米風の食事ですね。
- 149 K はい。
- 150 T やっぱそういうこと、そういう食事が多い方。
- 151 T そして、また、「20歳の時より体重が増えた」、
- 152 T これは、誰でも増えていきますよね？
- 153 K そうですよー。
- 154 T あの一、20歳から、
- 155 T 例えば、5パーセント以上増えたとしてもですね、
- 156 K うん。
- 157 T いったい何が増えたということだと、
- 158 T 身長が高くなったわけではない。
- 159 K うん。
- 160 T 筋肉が増えたわけではないと。
- 161 T 増えたのは、脂肪。
- 162 T そして、特に、お腹の中に溜まった脂肪ですね。
- 163 T ですから、ま、このように、すみま、あ、そうだ、
- 164 T お腹の中だけではなくて、
- 165 K うん。
- 166 T えー、肝臓にも溜まりますねー。
- 167 T そして、筋肉にも溜まってく。
- 168 T ま、そういうふうなことがおき、お気、気をつけていただきたい。
- 169 T 少なくともこの7項目の内、いくつかには当てはまる方というのは、隠れ糖尿病かも知れない。
- 170 T あるいは、糖尿病になってるかもしれない。
- 171 T ですから、注意をして、
- 172 K うん。
- 173 T 食後の血糖を計っていただきたいし、
- 174 T ま、さらには、精密な検査、ぶどう糖付加検査を受けてほしいと思うわけです。

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K, ゲスト：T

4	(9)	175 K あの、一旦、あの、隠れ糖尿病になった場合、
		176 T うん。
		177 K 元に戻すということはできますか？
		178 T ええ、大丈夫ですね。
		179 K はいはいはいはい。{笑い}
		180 T あの、フィンランドで、
		181 T 6年、7年にわたる、あの一、研究をしたんですね。
		182 T で、どういうことをしたかといいますと、
		183 T 隠れ糖尿病の方を集めて、
		184 T で、そして、毎日30分以上歩くこと、
		185 T まあ、運動することですねー？
		186 K はい。
		187 T 細切れでもいいんですね。
		188 T 30分以上すること。
		189 T それと、お一、脂肪をたくさん摂らないこと。
		190 T 特に、動物性の脂肪を摂らない。
		191 T それから、食物繊維を豊富な食事を摂る。
		192 T それから、あ一、現在の体重を5パーセント減らす。
		193 T そういう4項目、項目挙げまして、
		194 T 5こ、5項目ですけれども、
		195 T ま、一生懸命がんばっていただいた。
		196 T そした、そうしましたところ、その、5項目をまじめにやった方からは、隠れ糖尿病から、糖尿病になった方は1人もいなかった。
		197 K 1人もいなかったんですか？
		198 T ええ、そして、運動をするという、運動習慣をつけるということが、1番達成率が高かったんですね。
	(10)	199 K それだけ、やはり運動というのが重要なんですけれども、
		200 T ええ、そうですねー。
		201 K しかし、糖尿病学会の、//今、開かれている学会の会長をされているわけですが、
		202 T ええ、ええ。
		203 K は、見つかっていない人が非常に多いと思われる。
		204 T ええ。
		205 K しかし、早期発見が大事ですよー？
		206 T ええ、ええ。
		207 K すぐ医療界の課題というのは大きいですよね？
		208 T ええ。
		209 T 早期発見、早期治療というのは、とても大切なところなんですよー。
		210 T もともとその日本人はすい臓が弱いんですね、
		211 T したがって、その欧米化した食事を続けていると、
		212 T ちょっと太っただけでも、
		213 T もともとすい臓が弱いですからねー、
		214 T インスリンがちゃんと出ない。
		215 T したがって、糖尿病になりやすい。
		216 T 隠れ糖尿病なんかもうなってるかもしれない。
		217 T で、しかし、今のけん、健康診断では、空腹時の血糖値から計りますから、
		218 T なかなか見つからないということなんですね。
		219 T まあ、どのようにその早期に発見して、

【資料1-8】テレビのインタビュー番組

「あなたは大丈夫？隠れ糖尿病」インタビュアー：K, ゲスト：T

			220	T	どのように予防対策を立てるのか、
			221	T	早急に取り組んでいかなくてはいけないというふうに私たちは思っているわけです。
			222	K	はい。
Ⅲ		(1)	223	K	どうもありがとうございました。

【資料1-9】テレビのインタビュー番組
「パチンコ依存症」インタビュアー:K, ゲスト:I

話段区分						
大話 段 2	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者	発話例	
I	1		VTR①			
		(1)	1	K	えー、今夜は、依存症の研究を続けていらっしゃいます精神科医のIさんにお越しいただいています。	
II	1	(1)	2	K	実際に、そのパチンコ依存症の方の治療も行っていらっしゃるんですけども、	
			3	K	クリニックを訪れている方が増えているということですねー？	
			4	I	そうですね。	
			5	I	あの一、ただし、その、公的な統計がなにもないのが一番の問題なんですけども、	
			6	I	だいたい私どものところでは、1ヶ月20ケースぐらいの方達がいらっしゃって、	
			7	I	右肩上がりですね。	
			8	I	内容を見ますと、	
			9	I	だいたい男の方が9割ぐらいで、	
			10	I	その中の30代40代の方達がだいたい半数ということですから、	
			11	I	中年の男性がだいたい中核部ということが言えると思います。	
				(2)	12	K
	13	K			ずーと考えられてきましたけども、	
	14	K			衝動をコントロールすることができないこれは、病気？	
	15	I			そうですね。	
	16	I			あの一、昔から、脳を使うは、法ともののやることだと。	
	17	I			いわば、人格の問題だというふうに考えられてきましたけれども、	
	18	I			今は、そうではありません。	
	19	I			むしろ、今おっしゃったように、	
	20	I			それこそ分かっちゃいるけど止められない状態に陥ってしまう心の病であるというふうに考えられています。	
		(3)	21	K	そのギャンブル依存症なんですけど、	
			22	K	こちらに、アメリカ精神学会の、えー、診断基準というものがあります。 《パネル》	
			23	K	10項目ありまして、	
			24	K	このうちの5もうこく(項目)以上当てはまると、	
			25	K	依存症である可能性があるということなんですけれども、	
			26	K	この中で重要なポイントというのは//どこですか？	
			27	I	ポイントは、この1ですね。	
			28	I	とにかくに依存するということですね、	
			29	I	要するに、止めようということができないという、	
			30	I	これがあるかないかということに1番に重要です。	
			31	I	これに加えて、	
			32	I	えーと、まあ、違法行為の問題ですとか、	
			33	I	あるいは、仕事の問題ですとか、	
			34	I	あるいは、借金の問題。	
			35	I	こういうものが加わってきて、	
			36	I	1つの病気として、	
			37	I	ある意味形ができてきます。	
			(4)	38	K	まあ、こうやって依存症になると、
				39	K	社会的信用を失うような、ま、ことが起きてしまったり、

【資料1-9】テレビのインタビュー番組
「パチンコ依存症」インタビュアー：K、ゲスト：I

	<p>40 K あるいは、まきが込んで、</p> <p>41 K まったく手元にお金がなくなるのに、</p> <p>42 K ま、きっと気分が落ち込むだろうと思うんですけども、</p> <p>43 K なぜ止められないんですか？</p> <p>44 I うん。</p> <p>45 I まあ、あの一、1つはですね、</p> <p>46 I 愛好家と依存者になる分かれ道というのは、やっぱり、負けたことそのことを受けとめることができない。</p> <p>47 I 悔しくてまたやりたくなってしまうんですね。</p> <p>48 I あるいは、負けるはずがない、というふうに、</p> <p>49 I 正しい理論を掴んでないから負けてしまうんだ、</p> <p>50 I だから、お金をつぎ込むというふうに考えます。</p> <p>51 I もう少しエスカレートしてきますと、</p> <p>52 I 今度は、実際に借金があるんだけど、</p> <p>53 I えー、一発逆転をして、</p> <p>54 I いつでも返せるというふうに思ってるか、</p> <p>55 I あるいは、どうかなるさというふうに思ってるので、</p> <p>56 I なかなか問題をこう深刻化して考えることができません。</p>
(5)	<p>57 K 早期発見って難しいんですか？</p> <p>58 I そうですね。</p> <p>59 I 大変難しいですね。</p> <p>60 I やはり、本人がなかなか認めにくい。</p> <p>61 I そして、周囲の人たちも病気だというふうに思っていない。</p> <p>62 I ということで、だいたい私どものところまでいらっしゃるまで、</p> <p>63 I 約10数年かかるというのが一般的なコースです。</p> <p>64 K 実際に、その、心の病気として症状は出ますか？</p> <p>65 I あの一、色々症状は出ますが、</p> <p>66 I 一番深刻なのは、やはり、その一、えー、た、たまにギャンブルをやらない時がありますと、</p> <p>67 I 少し眠れないことがあるとか、</p> <p>68 I あるいは、気持ちがイライラしたり、</p> <p>69 I 気持ちが落ち、落ちてしまったりとか、</p> <p>70 I いわゆる鬱の状態になりまして、</p> <p>71 I それが非常に深刻な打撃を与えることになることもあります。</p>
(6)	<p>72 K で、自殺される方も//出てくるということですけどもー、</p> <p>73 I そう、そうですね。</p> <p>74 K あの一、最近、特に、社会問題化してきますけども、</p> <p>75 K パチンコというのは、ほんとに古くからある身近な、まあ、娯楽//でありますよね？</p> <p>76 I うん。</p> <p>77 K なぜ、最近、社会問題化されているとお思いですか？</p> <p>78 I あの一、主な原因は2つあると思います。</p> <p>79 I 1つは、本人の側ともう1つは、業界の側ですね。</p> <p>80 I で、本人の側からしますと、</p> <p>81 I やはり、その、人と、あの、付き合うことが要は、楽しくできない。</p> <p>82 I 心を通わせたり、</p> <p>83 I あるいは、愛を通わせたりということできない人たちが社会に出て苦しむと。</p> <p>84 I こういった機会に、</p> <p>85 I 自分の癒しを求めるわけです。</p>

【資料1-9】テレビのインタビュー番組
「パチンコ依存症」インタビュアー:K, ゲスト:I

		86 I で、もう一方で、あの一、ま、その、業界側が作ってる機械の問題がありますよね。
		87 I その、ハイリスク、ハイリターンは今、機械が非常に多く出回っていますけれども、
		88 I あそこありますけれども、 《画面》
		89 K はい。
		90 I 一人の方が面会に160万も使うぐらいになってますので、
		91 I これは、やはり恩恵になっているというふうに考えられます。
		92 K 嘗ては、51万人だったのが、
		93 K 年間160万円。
		94 K 膨らんでいる//ということも要因ではないかと。
		95 I そうですね。
2	(7)	96 K さて、えー、パチンコ依存症から、どうすれば脱却できるのか、
		97 K 治療の現場をご覧くださいませ。
		VTR②
3	(8)	98 K 「長い作業」という言葉がありましたけども、
		99 K 本当に依存症を克服するには、長い時間がかかるんですねー？
		100 I そうですね。
		101 I まあ、あの一、今ビデオに出てきましたけれども、
		102 I 依存症を治すためには、ああやって入院治療、
		103 I あるいは一、リハビリプログラムを持った社会復帰施設に入るもいいし、
		104 I あるいは、当事者の団体である地所グループの自営(?)に通うのもあります。
		105 I ケースバイケースによって使い分けていただくということが大事です。
		106 I なぜ長い時間がかかるかといいますと、
		107 I やはり、自分の病気に気づくまでに非常に時間がかかる。
		108 I それから、気づいてから、
		109 I 自分の問題を客観化させる、
		110 I つまり、こういう困った問題が実は、あったんだとか、
		111 I 自分の生きにくさはこういうことなんだということ。
		112 I いわば自分探しをしていただく。
		113 I そして、最終的には、ま、自分と等身大の自分を認めることによって、
		114 I えー、まあ、背伸びをしない生き方を見についていくと。
		115 I そうすると、ギャンブルのような非常に強い興奮は必要はなくなると。
		116 I まあ、こういう段取りを踏みます。
		117 K ただ、あの一、退院した後も、
		118 K その、パチンコをしたいという衝動に駆られるというふうな話がありましたけども、
		119 K 回復できますか？
		120 I ええ、これは、回復いたします。
		121 I ただし、やはり時間がかかると。
		122 I あの一、病気、そのものに関しては、直接的な治療はしてはいないわけですので、
		123 I もちろん、ギャンブルを遠ざけるということは、当面の目標になります。
		124 I ですから、これは年単位でもって、
		125 I いつ？忘れて、
		126 I 暑さを忘れないようにしながら、
		127 I 当事者グループに通いながら、
		128 I 自分に向き合っていくという作業を続けます。
4	(9)	129 K あの一、周りの家族の方々の方が早く気づくと思えるんですけども、

【資料1-9】テレビのインタビュー番組
「パチンコ依存症」インタビュアー:K, ゲスト:I

			<p>130 K どんな対応が必要ですか？</p> <p>131 I そうですね。</p> <p>132 I あの一、やはり、ご本人は、ギャンブルをすることによって、</p> <p>133 I いろんな痛みを抱えております。</p> <p>134 I 大きな痛みは、借金です。</p> <p>135 I で、それを代わりに、</p> <p>136 I ご家族の人たちが返してしまいますと、</p> <p>137 I ご本人の痛みがなくなってしまうと、</p> <p>138 I 治療に繋がらないんですね。</p> <p>139 I ですから、むしろ、あの一、きちっと、あの一、自分のやったことは、ご本人で責任を取らせるということが大変重要ですから、</p> <p>140 I 家族の人が一旦手を引くということが、大事なサポートになるというふうに思います。</p>
(10)			<p>141 K あの一、こうしたその、ハイリスク、ハイリターンな機械が、依存症に陥る人々を増やしているとなると、</p> <p>142 K 業界の社会的責任もありますよねー？</p> <p>143 I そうですね。</p> <p>144 I まあ、だいたい対処は、三位一体が必要だと思ってます。</p> <p>145 I それは、医療と業界と法律家ですね。</p> <p>146 I 医療の側からすれば、</p> <p>147 I もっと洗練された治療法をやはり、み、見つけなければいけません。</p> <p>148 I それから、法律家の方に関して言うならば、</p> <p>149 I ただたんに、あの、借金の返済をしていたんでは、これは、あの一、再発を繰り返すだけですので、</p> <p>150 I やはり、ち、治療を視野に入れて、</p> <p>151 I 取り組んでいただきたい。</p> <p>152 I それから、業界の人に関しては、あ一、最近ありましたけれども、</p> <p>153 I 相談の施設ですよ？</p> <p>154 K はい。</p> <p>155 I ああいうものも、あの一、作っていただいた。</p> <p>156 K 先月、業界が「電話相談機関」というのを作った。</p> <p>157 I うんうん。</p> <p>158 I あーそうですね。</p> <p>159 K はい。</p> <p>160 I そういった機関を作っていただいた。</p> <p>161 I それから一、店にポスターを貼るようにもなりましたし、</p> <p>162 I あるいは、社交性の低い、ある機関にも広めようとしています。</p> <p>163 I 大変評価できると思います。</p> <p>164 K まあ、消費者保護という観点で、</p> <p>165 K やっぱ業界の取り組みももっと積極的に行ってほしいですよ？</p> <p>166 I おっしゃる通りです。</p> <p>167 K はい。</p>
Ⅲ	1	(1)	<p>168 K どうも、ありがとうございました。</p>

【資料1-10】テレビのインタビュー番組
「認知ドライバー 30万人」インタビュアー:K, ゲスト:I

話段区分				
大話 段 2	話 段	小話 段	発 話 番 号	参 加 者
				発話例
I	1		VTR①	
		(1)	1	K 今夜は、医師で、老年精神医学がご専門のA大学助教授Iさんにお越しいただいております。
II	1	(1)	2	K 厚生労働省の認知症ドライバーの、関する研究班の班長を務められていることがあるわけなんですけれども、
		(1)	3	K とにかく一、一緒に乗っている家族は怖い。
			4	K なんとか運転をやめてほしいと思っていても、
			5	K なかなかその運転を断言してくれない。
			6	I はい。
			7	K 難しいですねー？
			8	I そうですね。
			9	I あの一、自分の患者さんでも、？したことがあるんですけど、
			10	I えー、長く時間をかけて、
			11	I ようやく運転をやめていただけた患者さんは、後で調べてみると、
			12	I ほとんどの方がなんらかの事故をしているか、
			13	I あるいは、重大な違反をしていることが分かりました。
			14	I ですから、まあ、言い換えますと、
			15	I 事故を起こして、
			16	I 初めて運転を止めれるということが実態だと思います。
		(2)	17	K まあ、医師の方に言われても、
		(2)	18	K 家族の方をお願いされても、
			19	K 止めたくない。
			20	I はい。
			21	K その心うちというのは、どういうものなんですか？
			22	I はい。
			23	I 認知症の患者さんの共通の特徴というのは、自分のハンディキャップがわかりにくくなることです。
			24	I ですから、危険な運転をされていても、
			25	I それが自覚できないということですね。
			26	I 自覚がなくなるということがまずあります。
			27	I それから、もう1つは、高齢者にとって、
			28	I この自動車の運転をするということは、ある意味では、自立の象徴です。
			29	I で、例えば、奥さんを、の、病院に連れていくと、
			30	I いうような通院をサポートするような、
			31	I えー、家族の中での存在意義になるということがあります。
			32	I ですから、自分から止めにくいということになります。
		(3)	33	K そして一、まあ、あの一、認知症ドライバーの方々の診断もされてますけれども、
		(3)	34	K どんな兆候が出るんですか？
			35	I はい。
			36	I えー、例えば、あの一、行き先を忘れるといったようなことがでできます。
			37	I それから、センターラインを越えると。

【資料1-10】テレビのインタビュー番組
「認知ドライバー 30万人」インタビュアー:K, ゲスト:I

- 38 I えー、越えて、
- 39 I 蛇行してしまうような運転の兆候が出てきます。
- 40 I で一、これは、ここにありますように、
- 41 I 脳の後方部の症状ということになります。
- 42 I で一、気を司る海馬というところが障害されますと、
- 43 I 行き先を忘れてしまう。
- 44 I あるいは、脳の後方部が障害されますと、
- 45 I 空間認知の障害が起こって、
- 46 I センターラインを越えてしまうということになります。
- 47 K この空間認知ってどういうものなんですか？
- 48 I はい。
- 49 I 空間認知というのは、例えば、ちょっと一緒にやっていただきたいんですが、
- 50 K はい。
- 51 I 私と同じようにやってみてください。
- 52 K はい。
- 53 I こうやって、
- 54 I こういう形を作ってみてください。
- 55 K 親指を//重ねるんですね？
- 56 I 親指を重ねてください。
- 57 I で、相手の動きを見て、
- 58 I 自分を空間の中で動かすと。
- 59 K うん。
- 60 I いうようなことが、アルツハイマーの患者さんでは、非常に難しくなります。
- 61 K はい。
- 62 I 例えば、ずれて//しまうこともあります。
- 63 K ずれてしまう。
- 64 K ま、そうやって、
- 65 K センターラインと自分の車の位置が分からなくなってしまうと。
- 66 I はい、そうです。
- 67 K それから、例えば、赤信号なんかを無視してしまうことなんかも//ありますよね？
- 68 I はい。
- 69 I 脳の前頭部を障害されますと、
- 70 I 今度は、標識や信号を守れない。
- 71 I あるいは、車間距離を守らないといったような、
- 72 I 交通ルールを守る気がなくなるといったような、
- 73 I 障害が出てくる認知症もあります。
- 74 K これ、守る気がなくなると//いう障害ですね？
- 75 I はい。
- (4) 76 K ただ、こういったその、事故が相次いでいるので、
- 77 K えー、法律が改正されてまして、
- 78 K 認知症の方の免許を取り上げることができるようになっていきますよね？
- 79 I はい。

【資料1-10】テレビのインタビュー番組
「認知ドライバー 30万人」インタビュアー:K, ゲスト:I

		80 K なぜうまく機能していないんですか？
		81 I はい。
		82 I これも、あの一、ここにありますように、 《画面》
		83 I まず最初のステップとして、
		84 I 病状を自己申告するというシステムになっています。
		85 I 認知症の患者さんの場合、
		86 I 自分の病気の症状が分かりにくいと。
		87 I 自覚がなくなるという症状が共通してありますから、
		88 I この最初のステップで、スクリーニングから洩れてしまうということになります。
		89 I で、もう1つは、その免許の更新の時に、
		90 I 運転をチェックする制度があるんですが、
		91 I そこでもその行政指導という形で、
		92 I 危険な運転を指導することに留まっていて、
		93 I 実際に運転の中心までは繋がってないということが実態です。
		94 K はい。
2	(5)	95 K さて、えー、認知症の人にどうや、どうすれば、
		96 K えー、免許の自主的な返納が促すことができるのか、
		97 K それに取り組んでいる自治体があります。
		98 K しかし、実際に、高齢者に運転を断念してもらうには、様々な問題があります。
		VTR②
3	(6)	99 K 今の土佐清水市の取り組みですけれども、
		100 K 割引などを導入して、
		101 K なんとか高齢者に免許の返納を促していますけども、
		102 K まだ、返納した人は僅か。
		103 I はい。
		104 K どのようにご覧になっていらっしゃいますか？
		105 I はい。
		106 I このように、その車の代わりとなるような交通機関を、り、あの一、サポートする、あの自治体の取り組みは、あ、評価 できると思います。
		107 I ただ、VTRにもありましたように、
		108 I このような地域では、高齢者の方は、車を通院や仕事そのものに使ってますので、
		109 I よほどその、制度が充実しないと、
		110 I なかなか中止まではいかないと思います。
	(7)	111 K ま、いかにして、その道路の安全を確保していくのか、
		112 K 本人の安全もそうですけども、
		113 K 一方で、生活支援と。
		114 I はい。
		115 K 2つ、あの一、両輪が求められているわけですけども、
		116 K まず、その、えー、安全面での取り組みですけども、
		117 K あの、こちらご覧いただきましょう。 《パネル》

【資料1-10】テレビのインタビュー番組

「認知ドライバー 30万人」インタビュアー:K, ゲスト:I

		118 K	今までは、あの、自己申告を//で、病状の深刻は、自己申告だったわけですが、
		119 I	はい。
		120 I	はい。
		121 K	今度からは、警察署、その認知機能検査//というのを導入して、
		122 I	はい。
		123 K	えー、危険な運転をする認知症ドライバーを把握していこうとしているわけですが、
		124 I	はい。
		125 K	これを見て、
		126 K	かなり改正されると思いますか？
		127 I	はい。
		128 I	あの一、社会の安全を考えますと、
		129 I	その一、認知症の方の運転になんらかの規制をかけるということは、非常に重要なことだと思います。
		130 I	ただし、えー、この場合、
		131 I	その、誰もが納得して、
		132 I	免許を、や、重視するようなシステム作りが必要だと思います。
		133 I	例えば、その最後の段階では、医師ではなくて、
		134 I	交通の専門家が、ほんとに危険な運転をしているドライバーだけを見定めて、
		135 I	中止に持っていくというようなみんな納得していくような制度じゃないと思います。
		136 K	医師の診断だけでは、この人が本当に危険な運転をする人かどうか分かりにくいということですね？
		137 I	はい。
		138 I	認知症かどうかは一、診断できると思いますけれども、
		139 I	運転が危険かどうかは分かりにくいです。
	(8)	140 K	そして一、もう少し大きな問題が一//生活ができなくなる方々がいらっしゃるというわけですね？//運転できなくなると。
		141 I	はい。
		142 I	はい。
		143 I	そうですね。
		144 I	一人暮らしの方や、まあ、VTRにも出てきましたけれども、
		145 I	ご主人が認知症になられて、
		146 I	奥さんの買い物なんかをサポート、支援していると。
		147 I	全部そういう役目を担ってる方の場合、
		148 I	運転を中止しますと、
		149 I	今度は、社会から孤立してしまうと。
		150 I	地域社会そのものに住めなくなると。
		151 I	いうことが、始まると思うんですね。
		152 I	ですから、これは、認知症に限らず、
		153 I	これからの高齢化社会にとって、
		154 I	えー、社会全体で考えていく大きな問題だと思います。
4	(9)	155 K	まあ、小川先生にお伺いした中でも、
		156 K	一人暮らしの方の中で、
		157 K	車を運転できなくなったら、
		158 K	一体どうしたらいいのか、

【資料1-10】テレビのインタビュー番組

「認知ドライバー 30万人」インタビュアー:K, ゲスト:I

			159 I はい。
			160 K 二人暮らしの方でも、どうしたらいいのか、
			161 I はい
			162 K ていう切実な問題に直面されているわけですよね？
			163 I そうですね。
			164 I もう地域社会から離れて、
			165 I 息子さんと住むとか、
			166 I あるいは、施設に入らざるを得なくなります。
			167 K そういった意味で、例えば、介護保険で、その一、運転の、あの、補助ができなかどうかなど、クリエイティブな解決策が必要ですよね？
			168 I そうですね。
			169 K はい。
Ⅲ	1	(1)	170 K どうもありがとうございました
			171 I ありがとうございました。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
I	1	1	1	N	あの一、もちろんご存知だと思うんですが、
			2	K	ええ、ええ、ええ。
			3	N	大学が発行する、
			4	N	あの一、学生向けに発行する広報紙で、
			5	K	あ、はいはい。
			6	N	その中の月1の企画なんです、
			7	K	ええ。
			8	N	「先輩に乾杯」ということで、
			9	K	ええ、はいはいはいはい。
			10	N	校友の方々に登場していただいて、
			11	K	うーん。
			12	N	生き方というか、//特に(契約)環境が多様化していますので、
			13	K	はいはいはい。
			14	K	ええ、ええ、ええ。
			15	N	あの一、こういう生き方もありだというお話を。
			16	K	うーん、そうですね。
			17	K	結構ネットで見たら、
			18	K	いろいろな人がいて。
			19	N	そうですね。
			20	K	ユニークな人が多いですね。
			21	N	そうですね。
			22	K	社会的にすごく頑張っている企業のなんかとかっていうんじゃないくて、
			23	K	はいはい。
			24	K	面白い。
			25	N	今、あれですね？
			26	N	例えば、有名企業にご就職したからといって、
			27	K	ああ。
			28	N	決してそれがいい人生だというのは、//言えないような状態ですので、
			29	K	うん。
			30	K	なるほど。
			31	N	その中でこう、些細な校友がいますので、
			32	K	ああ。
			33	N	いろんな活動をされている中で信念を持って
			34	K	ああ。
			35	N	生きていく生き方っていうのを紹介していくことで、
			36	K	ええ。
			37	N	学生たちの何か参考になればなあ。
			38	K	ああ、なるほど、そうですね。
			39	K	わかりました。
			40	N	はい。
	2		41	K	えっと、一応あの一、プロフィールみたいなの。
			42	N	ありがとうございます。
			43	K	ええ。
			44	N	ああ、K高出身なんですか？
			45	K	ええ。
			46	N	えーと、私、学生のころに、
			47	N	Wの、Wというわけじゃないんですけど、
			48	K	ええ。
			49	N	劇団に入っております、
			50	K	ええ。
			51	N	それが桐高の演劇部が中心に、あの一、やっております、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			52	K	あー、そうなんですか。
			53	K	へー。
			54	N	ちょうどKさんの後輩の3つ下くらいの//Kという者が作っていたんですが。
			55	K	ふーん。
			56	K	そうですか。
			57	N	桐生はよく行っていたんですよ。
			58	K	あ、そうなんですか。
			59	N	桐生の市民会館。
			60	N	市民会館ホールみたいのありますよね？
			61	K	学校のすぐ横の。
			62	N	そうですね。
			63	N	公演させていただきました。
			64	K	そうですか。
			65	N	龍園とかの。
			66	K	龍園、懐かしいですね。
			67	N	{笑い}
			68	K	今でも行きますよ。
			69	K	懐かしくて。
			70	N	あー、そうですか。
			71	K	ふーん。
II	1	1	72	N	教育学は、何先生？
			73	N	こちらいただいて？
			74	K	ああ、どうぞ。
			75	K	先生。
			76	N	はい。
			77	N	卒論関係は、ゼミかなんか。
			78	K	教育学部は、卒論がないんですよ。
			79	N	そーですよ、なるほど。
			80	N	じゃあ、ゼミみたいのは特に入られていなかった。
			81	K	そーですね。
			82	N	競走部ってあれですもんね。
			83	K	勉強よりも運動ばかりやってて。
			84	N	{笑い}
			85	K	恥ずかしいんでね、そのへんは。{笑い}
			86	N	{笑い}
			87		[沈黙]
			88	N	競走部時代は、中距離の。
			89	K	一応、長距離だったんですけども、
			90	N	あつ、長距離。
			91	K	もちろん、箱根駅伝にも出たことないし、
			92	N	はい。
			93	K	本当に無名だったんですよ。
			94	N	43年くらいですと、
			95	N	あれですかね？
			96	K	一番すごかった時期。
			97	N	そうですよ。
			98	K	あの黄金時代//と言われていた時なんですよ。
			99	N	はー、なるほど、なるほど。
			100	N	Wさん、今監督をやられているWさんの？
			101	K	そう、僕の一つ下なんですよ。
			102	N	一個下。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			103	K	2つ下。
			104	N	2つ下くらいの。
			105	K	3つだ。
			106	K	3つ下になるんですかね。
			107	N	ああ、じゃあ、ちょうど私、あれですね、高校生の頃で。
			108	K	ああ。
			109	N	テレビを見て、
			110	N	「ああ、W入りたい」って、
			111	K	ああ、そうですね。
			112	N	直接のきっかけになった。
			113	K	僕の場合は、競走部は3年までだったんですよ。
			114	N	ああ、そうなんですか。
			115	K	腰をちょっと痛めちゃって、
			116	N	ああ、なるほど。
			117	K	それなんで、//同好会っていうのがあんですよ、Wの。
			118	N	はい。
			119	N	へー。
			120	K	そこでリハビリをしながら、
			121	K	やっていたんで、
			122	N	ああ、なるほど。
			123	N	腰ってかなり致命的ですね。
			124	N	私も趣味なんですけど、ジョギングを。
			125	K	ああ。
			126	N	腰を痛めてしまうと、
			127	N	走れなくなってしまうですね。
			128	K	そうですね。
			129	K	腰は、致命的でしたね。
			130	K	結局、だから、ハードな練習はできなくなっちゃったんですね。
			131	N	ああ、なるほど、なるほど。
			132	K	悩んだんですけどもね。
			133	K	なんか、これやるために大学一生懸命頑張って入って、
			134	N	はい。
			135	K	目標が無くなったっていうのもあるんですけどもね。。
			136	N	始めは、やっぱり、あの一、Wの駅伝っていう。
			137	K	そうですね。
			138	K	「箱根駅伝出たいなあ」っていう。
			139	N	中高と部活で長距離を走っていたんですよ。
			140	K	そうですね。
			141	K	特に、えんじのWって//惹かれるものがありまして、
			142	N	はい。
			143	N	ありますよね。
			144	N	えっと、桐生。
			145	N	桐生からWって、結構ありますもんね。
			146	K	そうですね。
			147	N	結構知り合いが多いんで。
			148	K	ああ、そうですね、確かに。
			149	N	浪人は？
			150	K	2年浪人したんですよ。
			151	N	あ、それでもWについていう。
			152	K	そうですね。
			153	K	当時は、Wは弱かったんですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			154	N	Kさんが入る前は？
			155	K	そうですね。
			156	K	今じゃ信じられないかもしれないけど、
			157	K	すごい弱くてー、
			158	N	今でも長距離って意味では、低迷。
			159	K	あんなもんじゃなかった。
			160	K	弱かったですね。
			161	K	当時は、箱根駅伝が脚光を浴びてなかったんでー、
			162	N	ああ、そうですか。
			163	K	普通のところで言うと、
			164	K	インターハイ行った選手ばかりだったからー、
			165	N	はい。
			166	K	とても出られないだろうなあって思って、
			167	K	自分が走るとしたら、
			168	K	Wしか//ないんだろうなあって。
			169	N	はい。
			170	K	で、Wどうしても行きたいって。
			171	N	はい。
			172	N	で、もう迷うことなく、
			173	N	競走部の方に。
			174	K	そーですね。
			175	K	迷うことなくっていうか、
			176	K	さすがに、2年間浪人したんで、
			177	N	はい。
			178	N	ブランクが//長いですね。
			179	K	ちょっと自信がなくなっちゃった//ってこともあって、
			180	N	はい。
			181	K	1年生の途中から、4月じゃなくて、
			182	K	6月くらい//から入ったんですかね。
			183	N	はい。
			184	K	ついていけないだろうということ。
			185	N	はい。
			186	N	トレーニングを？
			187	K	ええ、ええ、ええ。
			188	K	ブランクがですかね。
	2		189	N	どうでした？練習は。
			190	N	きついものでしたか？
			191	K	やっぱりそうでしたね。
			192	K	高校時代とは比べ物にならないくらい練習量が多かったですね。
			193		[沈黙]
			194	N	その、あれですよ？
			195	N	Wの駅伝、例えば、篠田まさひろ監督なんかもー、//競走部出身で、
			196	K	はいはいはい。
			197	K	ああ、そうですよね。
			198	N	伝統のつてのがあって、
			199	K	ああ。
			200	K	Wの体育学部の中でもかなり強い//ところがあるんですけども。
			201	N	そうですね。
			202	K	ラグビーとか野球とかね、そうですね。
			203	N	あと漕艇の4つ//ですね。
			204	K	あー漕艇もですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			205	K	伝統があるだけあって、
			206	K	OBなんかもね、そうそうたるメンバーがわーって来て。
			207	N	あ、そうですか。
			208	N	で、もうずーっと練習に明け暮れる感じですかね？
			209	K	そうですね。
			210	N	競走部は、どこで？
			211	K	今も同じなんですけれども、
			212	K	//所沢の人間科学部だったんですよね。
			213	N	所沢。
			214	N	はいはい。
			215	N	西早稲田にいるよりっていうようになって感じですか？
			216	K	そうですね。
			217	K	どっちかっていうよりだから。
			218	N	寮もありますよね？
			219	K	寮もね。
			220	K	僕はー、ホームキャンパスだったんでー、
			221	N	はい。
			222	K	寮じゃなくて、
			223	K	だいたいね、9割以上人間科学部の人間なんでー。
			224	N	ああ、なるほどー。
			225	K	うーん。
			226	K	いいんだか、
			227	K	どういう流れなんだか分からないけどー。
			228	N	{笑い}
			229		[沈黙]
			230	N	大学時代は、もう勉強とかそういう//いわゆるそういう//楽しい華やかな生活というよりは、まずは、競走というのが。
			231	K	うん。
			232	K	うん。
			233	K	そーー、ですね。
			234	K	そんな感じでしたよね。
			235	N	うん。
			236	K	なんとなく、やっぱり、だから、みんなあの頃はね、
			237	K	もうバブルというか、バブルに余裕があった時代だったからー、
			238	N	ああ、なるほど。
			239	K	やっぱり大学が華やかでしたよね、なんとなくね。
			240	K	まさにレジャーランド化していた。
			241	N	よく言われてましたよねー。
			242	K	うーん。
			243	K	そういう時代だったですけどねー。
			244	K	自分は、なんとなく、ちょっと距離を置いていた感じは、//ありましたよね、やっぱりね。
			245	N	はいはい。
			246	N	普通のクラスの友達って、例えば、テニサ、テニスサークルとか//ほんとにもうすごいじゃないですか？
			247	K	ええ、ええ、ええー。
			248	K	そうですよねー。
			249	K	そういう感じじゃなかったですねー。
			250	N	うーん。
			251	K	周りは派手だったけど、もう色々。
			252	K	自分は、一線を画したっていうか、
			253	K	そこまで立派じゃないですけど、
			254	K	うん。
			255	K	そんな感じはありましたよねー、なんとなく。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			256	N	授業は、出られて、
			257	N	授業終わってすぐという感じだったんですか？
			258	K	そう。
			259	K	あんまり授業は、あんまり授業でなかったですよー、
			260	K	正直言っちゃうと。
			261	K	正直言っちゃうとほんとに。
			262	N	私も全然出ていなかった口なので。{笑い}
		3	263	N	どういった大学生活だったんですか？
			264	N	練習は、基本的に午後からですよー？
			265	K	うーん、そうですね。
			266	K	午後からなんでー、
			267	K	午前中から、授業がある日、だから、なるべく午前中に//授業は、集中してとってー、
			268	N	授業。
			269	K	午前中に出て、
			270	K	午後はー、所沢に行って練習ですよー？
			271	N	はい。
			272	K	その日々ですよー。
			273	K	うーん。
			274	N	授業さぼって、
			275	N	例えば、映画観に行くようなことはあんまりしなかった。
			276	K	あんまりしなかったですよー。
			277	K	正直ほんとに、練習ばっかりしましたね。
			278	N	うーん。
			279	N	練習終わっちゃうと、
			280	N	へとへとになって、
			281	N	帰ってくるだけ//でっていう。
			282	K	そうですね。
			283	K	で、練習終わった後も、
			284	K	色々なんなんですかね、
			285	K	色々、体ケアしなくちゃならない。
			286	N	ああ、//なるほど。
			287	K	マッサージしたり、
			288	K	ストレッチしなくちゃなんないんでー、
			289	N	終わるのが夜遅くなる。
			290	K	うーん。そうですね。
			291	K	結構、それでだいぶ時間かかっちゃって。
			292	N	で、終わって
			293	N	帰ってくると。
			294	N	どこらへんにお住まいだったんですか？
			295	K	僕はー、Kなんでね。
			296	N	じゃあ、また帰ってくると、
			297	N	もうあれですね？
			298	K	そうそうそうそう。
			299	N	で、翌日にまた授業出ていう。
			300	K	そうですね。
			301	N	へー。
			302	N	あまり、そういう、他の友達を、競走部以外の友達//を見て、
			303	K	ああ。
			304	N	いいなあ、羨ましいなあって//いうのはそんなになかった？
			305	K	ああ。
			306	K	そうですね、そんなに。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			307	K	やっぱり目標があったんで、
			308	N	はい。
			309	K	たまには、いいなあ、気楽でいいっていうか、
			310	N	うん。
			311	K	なんとなく、なんでも夜遅くまでできるじゃないですか？
			312	N	はいはい。
			313	K	そういうのは、そういう意味ではね、精神的に不自由な感じがしたけど、
			314	N	はい。
			315	K	まあ、目標があったんで、
			316	N	うん。
			317	K	そんなに一、なんかね、やだーって//いう感じじゃなかったですね。
			318	N	うんうんうん。
			319	N	目標っていうのは、やっぱり、「箱根駅伝//出たい。」ということですか？
			320	K	「箱根駅伝出たい。」っていうのはね一、
			321	K	そうですねー。
			322	N	何人くらい？
			323	N	箱根目指してWに入ってくる人って相当、今でもたくさんいるんですが。
			324	K	当時は何人かな。
			325	K	長距離ブロックが一//40人はいなかったけど、
			326	N	はい。
			327	K	30人はいましたね。
			328	N	30人から40人。
			329	K	30人くらいはいて、
			330	K	走るのが10//人ですかね。
			331	N	10人。
			332	K	と言っても、3、40人と言っても、
			333	N	はい。
			334	K	やっぱり、それなりの人材は、//から集まるからねー。
			335	N	そうですねー。
			336		[沈黙]
	4		337	N	中高のころは、あれですか？
			338	N	相当、記録は//残らないと、
			339	K	うーん。
			340	N	ある程度走りには、自信あり//みたいなの。
			341	K	うーん。
			342	K	いや、あの一、ただやっぱり、その一、地方レベルなので一、
			343	N	うーん。
			344	K	やっぱり、僕は、箱根駅伝で走ったメンバー、いわゆる走った人達に比べれば、
			345	K	やっぱりそれほどの記録は持っていなかったですね。
			346	N	うんうん。
			347	N	その、同じ学年の同級生たちは、相当な方がたくさん集まってきているんじゃない。
			348	K	うーん、そうですね。
			349	N	うーん。
			350	K	実績はなかったですね。
			351	K	中学高校の頃はね、//そんなに。
			352	N	うーん。
			353	K	だから、よく浪人して、
			354	K	箱根目指そうなんて、
			355	K	今考えたら、
			356	K	思ったなああってくらい。
			357	N	結構、そういう、あの一、//始めの初動の気持ちがかかなり後に響いてくるってのは多い。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			358	K	うん。
			359	K	そうですねー。
			360	N	やっぱり、テレビとかで見ていて、
			361	N	いいなあっていう。
			362	K	やっぱり、いいなあっていう。
			363	N	うーん。
			364		[沈黙]
			365	N	他の大学、ではなくて、
			366	N	「Wで走りたい」っていうのは、そのまあ、Wがあまり強くなかった//ということですか？
			367	K	うーん。
			368	N	それ以外に他はなかったんですか？
			369	K	まあ、もちろん「Wに行きたい」って//いう。
			370	N	うん。
			371	K	校風とかね、//すごく憧れもあって、
			372	N	はいはい。
			373	K	自由な、すごく憧れました//よねー。
			374	N	はいはい。
			375	K	けど、結構みんなそうじゃないんじゃないんですか？なんとなく。
			376	N	Wカラーというか。
			377	K	そうそう。
			378	N	Wがなんか醸し出しているような//雰囲気。
			379	K	そうそう。
			380	K	うーん。
			381	N	よく特に、あの一、私も地方から//Wに来たんですが、
			382	K	ああ。
			383	N	分かんない。
			384	N	分かんない中でなんか漠然としたことで、
			385	N	東京にでたいなあという。
			386	K	あーそう。
			387	K	まあ、たぶん同じですよ、たぶん。
			388	N	うんうん。
			389	K	そんなに、立派な何かがあったのではなくて、
			390	N	うん。
			391	K	やっぱり、校風に引かれたっていう感じですよ、やっぱりね。
			392		[沈黙]
	5		393	N	で、今、今でも、今もう少し多いのかなあと//思うんですけど、
			394	K	ええ。
			395	N	その3、40人だと、
			396	N	まあ、粒ぞろいとはいえ、
			397	K	ええ。
			398	N	頑張れば、
			399	N	こう狙えるかもしれないっていう。
			400	K	あーそうですね。
			401	N	3年生とか4年生になったら、
			402	N	いうようあれだと思うんですが。
			403	K	そうですね。
			404		[沈黙]
			405	K	腰がね、あの一、順調にいったら、
			406	N	うんうん。
			407	K	走れたかもしれないですよ、最終的にね。
			408	N	腰は、何年生のいつぐらいに？

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			409	K	何年というか、
			410	K	1年生の時ぐらいからずっと痛めてたんでね。
			411	N	あーそうですか。
			412	K	もうちょっとだましまし//やってて、
			413	N	はい。
			414	K	3年なって、
			415	K	もう、やっぱり練習についていけなくなっちゃってー。
			416	N	うんうん。
			417	N	練習は1年生の時から始めた時に、
			418	N	ちょっともう、
			419	K	そうですね。
			420	K	もう始めっから。
			421	K	やっぱり練習量が高校と全然もう格段と。
			422	N	ああ、なるほど。
			423	K	それで、痛めてしまって。
			424	N	ああ、そうですね。
			425	K	やっぱり1年浪人したんでね、
			426	N	はい。
			427	N	急にこう動かしたっていう。
			428	K	そうですね。
			429	K	それもあったと思うんですね。
			430	N	あれですよ？
			431	N	相当その、だましましやってた腰が悪化しちゃった時は、
			432	N	相当落胆も大きかったと思うんですが。
			433	K	ええ。
			434	K	うん、そうですねー。
			435	K	やっぱりそのためにね、一生懸命受験勉強頑張ってきたから、
			436	K	それはショック。
			437	N	そうですね。
			438	N	それでもその一、陸上自体走るっていうのを、//よく野球選手とか、//高校球児とか肘を痛めてしまっ、
			439	K	ええ。
			440	K	ええ。
			441	K	ええ。
			442	N	野球からも離れちゃう//っていう話を伺うんですが、
			443	K	ああ。
			444	K	うん。
			445	N	陸上の同好会っていう、
			446	K	うん。
			447	K	やっぱりなんて言うんだろうな。
			448	K	自分自身が、昔からそうなんですけど、
			449	N	うん。
			450	K	目標がなくちゃ//生きていけないタイプなんですよ。
			451	N	うん。
			452	N	はい。
			453	K	受験勉強するのに、やっぱり何か、
			454	N	W。
			455	K	Wとか、//八大とかいう。
			456	N	駅伝。
			457	N	はい。
			458	K	で、止めてみて、
			459	K	整理してみて、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			460	K	やっぱり走ることにしなかったんでね。
			461	N	うーん、うんうんうん。
			462	K	だから、好きだったんですね、走ること自体がね。
			463	K	競走っていうのがね。
			464	N	うーん、うんうんうんうん。
			465	K	走ること自体が好きだったんでね。
			466	K	やっぱり、もしかしたら、
			467	K	だから、治療しながら、
			468	N	はい。
			469	K	自分のペースでやれば、
			470	N	うん。
			471	K	スリーラントレーニングでずっとやってきているんでね、
			472	N	はい。
			473	K	無理しなくちゃならないんですよね。
			474	N	そうですね。
			475	N	かなりトップレベルの//練習量をもってことになりますもんね。
			476	K	そうですね。
			477	K	同好会入って、
			478	K	自分のレベルで、ペースでやれば、
			479	N	はい。
			480	K	もしかしたら、
			481	K	また走れるんじゃないかなあっていう//そういうの考えてましたよね。
			482	N	うんうんうん。
	6		483	N	同好会に移られることは、目標ってのはどういったものだったんですか？
			484	K	うーん。
			485	K	目標って、
			486	N	陸連みたいのに登録は？
			487	K	そうですね。
			488	K	登録して、
			489	K	学年登録っていうのが、//もちろん競走だったんですけど、
			490	N	はい。
			491	K	陸連登録というのがあって、
			492	N	はい。
			493	N	学生ではなくて、
			494	N	陸上の、//選手としての陸連で登録するもんですよね？
			495	K	うん。
			496	K	そうですね。
			497	N	はい。
			498	K	うーん。
			499	K	去年も、去年は、学生時代の話だけじゃなくて、
			500	N	はい。
			501	K	その時、もう少し箱根駅伝に切り換えて、
			502	N	はい。
			503	K	なんつうんですかね、
			504	K	もうちょっとだから、
			505	K	長く、//続けようっていうふうに。
			506	N	長く、走るっていうふうなことを。
			507	K	学生時代じゃなくて、
			508	K	もうちょっと先の目線で、//長く走りたいなって//いう。
			509	N	うん。
			510	N	うんうん

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			511	K	特に、なんか目先のなんの大会で何//っていうことじゃなかったですね。
			512	N	はい。
			513	N	うん。
			514	N	本当にあの一、ただ走るってことっていう、
			515	N	その行為自体が好き//っていう。
			516	K	そうですね。
			517	N	走らないと、
			518	N	私もそうなんです、
			519	K	ああ。
			520	N	気持ち悪いなっていう//ような感じなんです。
			521	K	そうそう、そういう感じですよ。
			522	K	うん。
			523	N	お話を伺っていると、
			524	N	ほんとにその大学受かる前//からの希望というような//感じのその箱根駅伝が(?)れた時に、
			525	K	ええ。
			526	K	ええ。
			527	N	よく切り換えしができなかったなっていう。
			528	K	うーん、そうですよねー。
			529	K	やっぱり悩みましたけど。
			530	N	うーん。
			531	K	相当悩んで。
			532	N	他の選択肢っていうのは、どういったものがあつたんですか？
			534	K	まあ、色々話は食い違っちゃうんですけど、
			535	K	なんていえばいいんだろうなあ。
			536	K	僕、元々で、山岳マラソン、山が好きだったんですよ。
			537	N	ああ。
			538	K	趣味として走ること意外に、山が好きだったんで、
			539	K	山が好きだったんで、
			540	N	はい。
			541	K	ほんと正直、ほ、山、本格的な登山//ってねえ、いわゆるヒマラヤとか、//ああいうのも考えてもいいかなあって//いう時もありましたね、
			542	N	登山。
			543	N	はい。
			544	N	はいはい。
			545	K	辞めた時にね。
			546	N	はい。
			547	K	でも、やっぱり、どっちかっていうと、
			548	K	自分の、自分のスタイルで、やっぱり、一人でできるような、//走る方が、色々海外遠征とか、遠征隊組まなくちゃならないんでね、それが。
			549	N	うんうん。
			550		[沈黙]
	7		551	N	練習しながら、
			552	N	就職活動して。
			553	K	そうですね。
			554	K	そうですね。
			555	K	そこがね、就職活動も自分でも色々考えてみたんですけどね、
			556	N	はい。
			557	K	色々民間企業とかも受けてみたりしたんですけどね、
			558	N	はい。
			559	K	自分やっぱり、多少もう少し走りたいなって//いう気持ちがありましてね、
			560	N	うん。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			561	K	じゃあ、走れる身分は何かって考えた時に、
			562	N	うん。
			563	K	まあ、結局公務員っていう選択肢を選んだんですけどもね。
			564	N	やっぱりあれですかね、
			565	N	当時のその先輩とかの話とかも聞いて、
			566	K	うーん。
			567	N	情報を集めてらしたと思うんですけども、
			568	K	そうですねー。
			569	N	企業はもう全然もう、
			570	K	そうですね。
			571	N	そのころバブルはじけて、
			572	K	そう。
			573	N	一番きつい時期だったと思うんですよ、不況で。
			574	K	そうですねー。
			575	K	民間行けば
			576	K	ほんと夜遅くまで、残業してー、
			577	N	うんうんうんうん。
			578	K	だいたいもう、上の先輩見ていけばね、
			579	N	はい。
			580	K	大手企業入った人なんて、こう、みんな仕事に振り回されて、
			581	N	うんうん。
			582	K	走る暇がないっていう//のが自分でも目に見えてたんで。
			583	N	うんうん。
			584	N	はい。
			585	N	受けたりはされませんでした？
			586	K	受けました。
			587	K	受けました。
			588	N	やっぱりちょっと違うなっていう。
			589	K	受けて、
			590	K	内定も取りましたけどね、
			591	N	はい。
			592	K	結局内定取ってね、
			593	K	年があけて、
			594	K	考え直して、
			595	K	採用断ったんですよ。
			596	N	あーん。
			597	K	うん。
			598	K	もう1年、留年って形で、
			599	N	はいはい。
			600	K	それで、まあ、公務員試験やったって感じですかね。
			601	N	はい。
			602	N	この内定って、その当時6月とか、今より遅いぐらい。
			603	K	そうですね。
			604	K	6月とか、夏前にできましたからね。
			605	N	そこからちょっとまたその半年くらい考えて、
			606	K	そうですね。
			607	N	一旦そこで就職っていうのも。
			608	K	一旦は、就職してって、思ったんですけど、
			609	N	はい。
			610	K	色々そこはこう、//そこは模索の時期でしたね。
			611	N	はい。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			612	K	走りながら
			613	K	色々考えて、
			614	N	はい。
			615	K	やっぱり、就職するのは、半年で、
			616	K	もうね、走ること自体は別にできなくなるんじゃないんですけど、
			617	N	はい。
			618	K	やはり、1つの競技として、//競技者として、これがねえと考えていくと、
			619	N	うん。
			620	K	だんだん寂しくなっちゃってね、もう。
			621	N	ああ、なるほど。
			622	K	やり残したこといっぱいあるなあなんて思いながら、こう。
			623	N	うん。
			624	N	そういう大会とかには、出れる調整とか色々難しいですね？
			625	K	そうですね。
			626	K	もう1年ちょっと、公務員になって、
			627	N	うん。
			628	K	環境が変わって。
			629	N	そこから、内定断って、
			630	K	ええ。
			631	N	勉強され//て、
			632	K	勉強して、
			633	N	そこから時間が正直なかったかと思うんですが。
			634	K	なかったですね。
			635	K	大変でしたねー、結構ねー。
			636	N	もうかなりずーと。
			637	K	もう集中して、
			638	K	勉強して。
			639	N	ふーん。
	8		640	N	私、全然そういう、あの、趣味で走る程度なので、
			641	K	ええ、ええ、ええー。
			642	N	陸連に登録してとか、
			643	N	そういうことはまったく分からないんですが、
			644	K	ああ、はいはいはいはい。
			645	N	東京に居た方がそういう大会に出やすいってことは特にはないんですか？
			646	K	特に、//そういうのは。
			647	N	うん。
			648	K	そういうのは各地で、ランニング大会とかほんとにもう毎週いろんなところでやっていますからね、
			649	N	＝ああ、なるほどなるほど。
			650	K	そういう不便ってのはないですねー。
			651	K	うーん。
			652	K	やっぱり、
			653	N	じゃあ、その、特にこういう、地元に戻って、
			654	K	えーえー。
			655	N	就職ってことはそんなにあれではなかった。
			656	K	ああ、そうですね、それは。
			657	K	「定期的にきちっと仕事が終わるような仕事を//探したいな」っていう。
			658	N	はい。
			659	N	以前伺った人でも、フラメンコ//をやりたい//っていうので、
			660	K	ああ、はい。
			661	K	えーえー。
			662	N	そっちがもうメインでやっていくっていう、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			663	K	ああ。
			664	N	しばらくは派遣の//契約で、こうやりながら、
			665	K	ええ。
			666	N	5時以降はやりながら、
			667	K	ああ、ええ。
			668	N	で、5年くらい経って、
			669	N	もうフラメンコ教えられる立場になって、
			670	K	ええ。
			671	N	そっちで、なんとかご飯をという//人もいました。
			672	K	へー、なるほどね。
			673	N	確かに企業に入ってしまうと
			674	N	5時上がり6時上がりは厳しい//と思うんですけども、
			675	K	やー、もうねー。
			676	N	ここは、実際入る後と入る前では//違うと思うんですが、印象自体が。
			677	K	{笑い}
			678	K	やっぱりそうですね。
			679	N	はい。
			680	K	僕、だからね、認識がなかったんですよ、
			681	K	公務員だったら、
			682	K	みんなね、公務員って楽だってイメージしかなくて、
			683	N	うん。
			684	K	
			685	N	私も大学職員に//なる時に、
			686	K	ええ。
			687	N	色々やろうと思ってまして、
			688	K	ええ。
			689	N	だいたいここであがるっていう認識しなかったの。
			690	K	自分で決め付けてしまったんですね。
			691	N	うんうん。
			692	K	認識が浅かったですね。
			693	K	絶対、民間は遅くまで、//公務員は、定時に終わるっていう、きれいなのがあんまりなかったのですからね。
			694	N	はい。
			695	N	はい。
			696	K	実際入ってみたら、
			697	N	はい。
			698	K	やっぱり、どんな仕事とかもそうじゃないんじゃないですか？
			699	N	うん。
			700	N	うん。
			701	K	もちろんね、こうやって残業もあるし。
			702	N	はい。
			703	N	普段だいたいどのくらいまで？
			704	K	ほんと、時期によって、
			705	N	自分の仕事の？
			706	K	そうですね。
			707	K	その時は、10時くらいまで残業するとか。
			708	N	普通の民間と全然変わらないですよ？
			709	K	うん、変わらないですよ。
			710	N	なんかね、始めは、就職する、してすぐのころは、//全然走れずについているような感じでしたか？
			711	K	ええ。
			712	K	そうですね。
			713	K	やっぱり、就職して、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			714	K	やっぱりそれで、人間ってリセットされちゃうんですね。
			715	N	ああ。
			716	K	新しい流れに任せて。
			717	N	ああ、なるほど。
			718	K	やっぱり、そこで、見失っちゃったところがありました//ね、最初。
			719	N	うんうんうんうん。
			720	N	新しい環境に慣れるっていうことが//まず第一ですよね？
			721	K	そうそう、そうですね。
			722	K	まあ、もちろん少しずつやってたんですけど。
			723	N	はい。
			724	K	実践からは、退いちゃったんですよ。
			725	N	うん。
			726	K	就職して。
		9	727	K	で、えー、で。
			728	N	はい。
			729	N	趣味で走るのとまったく違うものなんですか？
			730	K	うーん。
			731	N	ある大会に臨む調整の仕方みたいなのは。
			732	K	そうですね。
			733	K	モチベーションなんですよね。
			734	K	大学時代は、外の試合にね。
			735	N	うーん。
			736	K	だから、すぐに全部のエネルギーとか時間を練習に。
			737	K	まあ、企業対象、企業っていうことになると、
			738	N	はい。
			739	K	やっぱり、仕事しながらそれをするというと、
			740	K	なかなか寝れなかったという、自分自身、ねー。
			741	N	なるほどね。
			742	K	大学時代は、比較的自分の行動を作りさ、やす//いんですよね？
			743	N	そうですね。
			744	N	バイトをしたり。
			745	K	そうそうそうそう。
			746	K	トレーニングに集中できたんですよ。
			747	K	でも、なかなかね、仕事やりながら、
			748	K	仕事両立しながらでは、難しい、難しくて、
			749	N	うんうんうん。
			750	K	そののね、なんていうんですかね、
			751	K	プランニングできなくて、やっぱり。
			752	N	はい。
			753	K	やっぱやんなっちゃったっていうか。
			754	N	うーん。
			755	K	行きたくてね、
			756	K	公務員行っただのがね、
			757	K	そこでね、ちょっと挫折っていうか。
			758	N	うん。
			759	K	心境の変化が出ちゃったっていうか。
			760	N	実際こう、競技の中で言ったら、
			761	N	あるかんもしれないんですけど、
			762	K	ええ。
			763	N	こっちで言うと、
			764	N	仕事の面白さっていうか、//あるんですが、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			765	K	ああ。
			766	N	なかなかできないって。
			767	K	まあそうでしたね。
			768	K	大変な部分が、ある意味、別の価値観が出てくる時があるじゃないですか？
			769	N	うんうんうん。
			770	K	今まで走ることしか価値観がなかったんで。
			771	K	そういうの、だから、なんていうの、
			772	K	別の方向から走ることを見るようになって、
			773	N	うーん。
			774	K	だから、初めその価値感が揺れてましたよね、色々の。
			775	N	ああ。
	10		776	N	で、しばらく退いていたものが//またやり始めるきっかけってのは、新聞にも載っていたんですが、
			777	K	ええ。
			778	K	ええ。
			779	N	どういった経緯で参加されたんですか？
			780	K	そこはやっぱり、そこに書いてあるんですけどね。
			781	N	はい。
			782	K	ここですね。
			783	K	28歳で、が、ブランクがあって、
			784	N	はい。
			785	N	で、28歳までは、個人的に、夜仕事があって、
			786	K	あ、そうですねー。
			787	K	ほんと趣味程度でー、//ジョギングをやっていた感じなんだったんですけども。
			788	N	はい。
			789	K	これが結構大きく地元の新聞に出るんですよ。
			790	N	はい。
			791	K	で、その時にー、
			792	K	あの一、大会があるんだっていうんで、
			793	N	うん。
			794	K	ここでまた競技心に//火がついたというか。
			795	N	うんうんうん。
			796	N	はい。
			797	N	でも、今まで走るというか、
			798	N	その競走とマラソン、//この登山競走というのは違いますよね？
			799	K	ええ、ええ、ええー。
			800	K	そうですね。
			801	K	違いますよねー。
			802	K	ただね、僕が一、山が、さっきも言ったように、
			803	K	山が好きだったんでね。
			804	N	うんうん。
			805	K	自分上の息抜きみたいな感じで山を走っ、歩いてたんですね、山歩き。
			806	N	あ、はい。
			807	K	その時、登山だったんですけども、
			808	N	はい。
			809	K	そうすると、やっぱり、入っていきやすかったですよ、比較的ね。
			810	N	うーん。
					{インタビュー中断}
			811	N	大丈夫です、
			812	N	大丈夫です。
			813	K	すみませんね。
			814	N	いつもそうなんで、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			815	N	大丈夫です。
			816	K	本当にねえ、気づかなくて。 {インタビュー再開}
			817	N	で、やってみようかな//っていう？
			818	K	ええ、ええ、えええー。
			819	K	そうですね。
			820	N	初出場でいきなりこう優勝っていう？
			821	K	そうですね。
			822	N	で、あ、やってみようかなっていう//流れなんですか？
			823	K	そうですね。
			824	K	そんな時に、だから、短期間で、3ヶ月の調整で//できたんですよね。
			825	N	はい。
			826	N	うん。
			827	K	やっぱり自分に向いてるのかなあっていうのが、それで、味しめてしまったというか。
			828	N	はい。
			829	N	そういう正式な、こう大会で、なんか優勝っていうような、//賞をとったのは、これが初めてなんですか？
			830	K	ええ。
			831	K	うん、これが初めて。
			832	N	あ、はいはい。
			833	K	もちろん、陸上競技時代はねえ、まあ色々、
			834	N	中高から。
			835	K	そうですね。
			836	K	色々大会出て、
			837	K	勝ったこともあるし、
			838	N	はい。
			839	K	山岳の時は、
			840	K	それは、初めてで。
			841	N	うん。
			842	K	初めて出た大会で優勝できたって//いうことなんですけれどもね。
			843	N	はい。
			844	N	それはすごいですよね、3ヶ月くらいで。
			845	K	うーん。
	11		846	N	どういった調整になるんですか？それは。
			847	N	要素がまったく分からないんで。
			848	K	ああ、そうですね。
			849	N	空気が薄くなるっていう、後、筋肉の作り方が違う。
			850	K	そうですね。
			851	K	もう全然作り方が違うんで、
			852	K	走るトレーニングを。
			853	K	平地じゃ駄目なんですよね、どうしても。
			854	N	なるほど。
			855	K	土日に、//山に籠って、
			856	N	はい。
			857	N	ふーん。
			858	K	まあ、ひたすら走るトレーニングを。
			859	N	御一人でやられてる？
			860	N	知り合いが//なんかこういう競技をやっている。
			861	K	いや、
			862	K	もう一人で。
			863	N	ええ。
			864	K	一人でやりましたね、一人で。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			865	N	へえー。
			866	N	走り方みたいな、トレーニング方法みたいな//はあるんですか？
			867	K	これはもう自分で編み出しというか、
			868	N	模索しながら？
			869	K	模索しながら。
			870	N	本を読みながら、
			871	K	あ、本も何もないんですよ。
			872	K	まったく新しいジャンル//なんで。
			873	N	はい。
			874	K	模索してー、
			875	K	結局なんて言うんですかね、
			876	K	ロードの場合は、単調にこう、足を動かしてればいいんですよ、
			877	N	はい。
			878	K	山岳マラソンの場合は、本当に説明、難しいですけど、
			879	K	岩場とかもあるし、
			880	N	ああ、なるほど。
			881	K	道もこーんなん、ぐっちゃぐちゃになったところを、//色々体勢を変えたりして、
			882	N	はい。
			883	K	こう、なんと言うんですか、
			884	K	バランス感覚というか、
			885	N	あ、もう、えーと、獣道みたいなところを走っていい感じになるんですか？
			886	N	そんなところもありますね。
			887	K	枝でこうわけながらとか、
			888	N	はい。
			889	K	岩場をすって手でおしながら
			890	K	こっち体をすり抜けていったり、
			891	N	へー。
			892	K	こういうような段差とかをぴょんて飛び降りたり、
			893	K	四つんばいでこう上り、
			894	K	岩場なんかもある、もちろんありますから。
			895	N	はい。
			896	N	ある一定のスタートとゴールまでが決まっていて、
			897	K	ええ。
			898	N	その過程もやっぱりある一定のコースがあるんですか？
			899	N	そこは、もう自分で選んでいいみたいな？
			900	K	あ、一応コースは設定されているので、
			901	N	はい。
			902	K	そのコースを、ただそのコースは決まっていない。
			903	N	へー。
			904	K	ただ整備されていない登山道をあの、コースにしていますんで。
			905	N	はい。
			906	K	もうほんとに、だから、あれですよ、
			907	K	こんなどころを走るのと思うようなとこを、
			908	N	{笑い}
			909	K	平気でビュンビュンいく感じなんですよ。
			910	N	はい。
			911	N	へー。
			912		[沈黙]
			913	K	ロードさえね、全然。
			914	N	ロードは息を整えて、
			915	K	そうですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			916	N	走って行く感じですか？
			917	K	そうですね。
			918	K	たんたんと行く感じとは違うんですね。
			919	K	また、「クロスカントリー」っていう//競技があるんですよね。
			920	N	はいはい。
			921	K	ゴルフ場みたいなの。
			922	N	はい。
			923	K	あーれみたいなの、あんなもんじゃなくて、
			924	K	もう//激しい感じで。
			925	N	もっともっと。
			926	N	岩場でやってるっていうか。
			927	K	そうですね。
			928	K	岩場とかががんがん行きますからね。
			929	N	ああ。
			930	N	新聞を見てて、
			931	N	先ほどどおっしゃっていましたが、
			932	K	うん。
			933	N	全然違うスポーツですよね？ほんとに。
			934	K	たぶんそうですね。
			935	K	これは海外でやったレースなんですけれども、
			936	K	こういうところもビューンって、
			937	K	ものすごいスピードで降りてきたり。
			938	N	一步間違ったら、
			939	N	大怪我しますね？
			940	K	そうですね。
			941	K	これも、だから、こういうとこなんでね。
			942	N	ええ、ええ、ええ。
			943	K	だから、バランス感覚というか。
			944	N	ふーん。
			945	N	体の柔軟、筋肉の柔軟性。
			946	K	そうですね。
			947	K	柔軟性とか違う要素がかなり必要になってくる。
			948	N	そうですね。
			949		[沈黙]
	2	12	950	N	それで、優勝されて、
			951	N	そこから完全にソフトチェンジで。
			952	K	ソフトチェンジで。
			953	K	そこから、こういう感じで、もう、うまい具合に、ほんとに、眠ってた才能//みたいなものが、こう。
			954	N	{笑い}
			955	N	本当にすごいですね、これは。
			956	N	本当に全国に行かれてっていう？
			957	K	そうですね。
			958	N	で、その一、ロードを走るマラソンと違った//魅力があったと思うんですけど、
			959	K	うん。
			960	K	そうですね。
			961	N	どういう、Kさん自体、どういう、競走の、登山競走の//魅力っていうのは、どういったものなんですか？
			962	K	ああ、ええ。
			963	K	ロードだと、トラックとか//なんかも1周1周//あったりして、
			964	N	はい。
			965	N	はい。
			966	N	1周何分のペースを守ってみたいなの。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			967	K	精神的に、だれてくるんですよね。
			968	N	ああ、
			969	N	分かります
			970	N	分かります。
			971	K	1分1秒とか、誰に勝つか
			972	K	すごくそういう//いろんな煩わしい部分っていうのが出てくるんですよ、やっぱり。
			973	N	はい。
			974	N	うん。
			975	K	山の場合はもちろん、その競走は、競走なんですけれども、
			976	N	はい。
			977	K	やっぱり自然をね、フィールドにだけやってるだけあって、
			978	N	はい。
			979	K	すごくそのへんがねえ、//なんというんですかね、
			980	N	はい。
			981	K	開放感があるというかね。
			982	N	ふーん。
			983	K	分かんないんですよね、
			984	K	競技をやっているというか。
			985	N	はい。
			986	N	それは、あの一、タイムっていうチャレンジ精神//じゃ。
			987	K	そうですねー。
			988	K	人だけ、対人だけの//集中しかできなくなっちゃって、
			989	N	はい。
			990	N	競走に//なっちゃうと。
			991	K	競走になっちゃうと。
			992	K	それに対して、対自然っていうのがプラスされることで、
			993	N	ああ、なるほど。
			994	K	いい、こう、なんというか、//気持ちが楽になれるというか
			995	N	はい。
			996	N	うーん。
			997	N	例えば、その一、えー、富山の山岳、山でやるとしたら、
			998	K	えーえー。
			999	N	高知の山と違う。
			1000	K	そうですね。
			1001	K	コースによっていろんなところがあるんで、
			1002	K	競技なんですけど、
			1003	N	うーん。
			1004	K	楽しみながら、
			1005	K	こう取り組めるっていうか。
			1006	N	で、その一、体の調整の仕方とかも違うものなんですか？
			1007	K	そうですね。
			1008	N	コースを見て。
			1009	K	コースによって違うんで。
			1010	K	そのバラエティーさが面白いっていうか。
			1011	N	はい。
			1012	K	もうちょっと。
			1013	N	あ、大丈夫ですよ。
			1014	K	こっち側に。 {移動する}
		13	1015	N	生活自体も変わっていくものなんですか？
			1016	K	あもう、そうですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1017	K	競技中心、競技中心ではないか、
			1018	K	仕事もやってますけど。
			1019	N	はい。
			1020	N	だいたい練習自体は、土日に山に籠るっていう？
			1021	K	そうですね。
			1022	K	土日が山で、//普段は、結局、山をいかに多く走るかってことが//ポイントになるんで、
			1023	N	はい。
			1024	N	はい。
			1025	N	うんうん。
			1026	K	普段は、仕事があるので、
			1027	N	そうですね。
			1028	K	土日に集中して山で。
			1029	N	はい。
			1030	K	もちろんロード的な平地のランニングなんかもあるんですけど、
			1031	N	はい。
			1032	K	あとはスポーツジムとかで、//やる時もありますね。
			1033	N	あーなるほど。
			1034	K	どうせ平路にすると、
			1035	N	はいはい。
			1036	K	体重の、どっちかというと、山の方が垂直平行の動きなんで、
			1037	N	あ、こういった感じ？
			1038	K	はい。
			1039	K	体をこ持ち上げる筋肉というのを作らなければならないんですよ。
			1040	N	はい、なるほど。
			1041	K	付ける筋肉というか強化する筋肉がだいぶ違うんでね、
			1042	N	はい。
			1043	K	そのへんで、
			1044	N	重要、ウェイトトレーニング的な。
			1045	K	ウェイトトレーニングはあまりなくて、
			1046	K	ステップとか踏み台昇降//みたいなマシンとか、
			1047	N	はい。
			1048	N	ああ。
			1049	K	あとは、よくあの一、階段登りですよ。
			1050	N	はい。
			1051	N	上がったたり。
			1052	K	そうですね。
			1053	N	お昼休みとかに。
			1054	K	お昼休み。
			1055	K	そうですね。
			1056	K	やったりして、
			1057	K	山にいないで、
			1058	K	山にいるように
			1059	K	鍛えるか。
			1060	N	なるほど。
			1061	K	それがポイントになるような感じですかね。
			1062	N	昼休み、33階でしたっけ？
			1063	N	えー、ちょっと早めに着いたので、
			1064	N	上の展望見てたんですが、
			1065	K	ええ。
			1066	N	相当高いですよ？
			1067	K	高い。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1068	N	もう昼休みをこう？
			1069	K	そうですね。
			1070	K	4本から5本。
			1071	N	往復？
			1072	K	往復ですね。
			1073	N	へー。
			1074		[沈黙]
			1075	N	え、そのスーツ姿で//やっているんですか？
			1076	K	ええー、もちろん着替えてもう、着替えて。
			1077	N	着替えて。
			1078	N	へー。
			1079	K	この格好で、こんな格好してやってますね。
			1080	N	あー。
			1081	N	その、かなり社内の皆さんにも注目されるんじゃないですか？
			1082	K	そうですね。
			1083	K	もう、「又あの人か。」ってね。
			1084	N	{笑い}
			1085	K	もうそういう人って感じですかね。
			1086	N	{笑い}
			1087	K	もうそんなに抵抗ないですね、もうね。
			1088	N	でも、1時間の休み時間だと思うんですが、
			1089	K	えーえー。
			1090	N	着替えて、
			1091	N	もう4往復されてて、
			1092	K	ええ。
			1093	N	昼休みって、昼食も摂らなくてはいけないということですね。
			1094	K	そうですね。
			1095	K	ばばーって食べてって感じで。
			1096	N	へー。
			1097	N	もう慌しい//というか。
			1098	K	慌しいですね。
			1099	N	やっぱりあれですか？
			1100	N	その一、両立の仕方を工夫するようになっていったというか。
			1101	K	そうですね。
			1102	K	そうですね。
			1103	K	そうなんですよ、確かに。
			1104	K	やりながらっていう、
			1105	K	プロスポーツ選手じゃないんで、
			1106	N	はい。
			1107	K	そのへんがすっごくやっぱり悩むところですよ。
			1108	N	たぶん今もその問題は//格闘されていらっしゃると思うんですが。
			1109	K	そうですね。
			1110	K	常に大きいテーマですよ？
			1111	K	両立というのが。
			1112	K	1ヶ月に仕事集中する時は
			1113	K	集中して、
			1114	N	はい。
			1115	K	で、なるべくバツと切り上げて、
			1116	K	練習っていう形で。
			1117	N	はい。
			1118	K	いつもどっちもこう引きずってちゃ駄目なんですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1119	N	うん。
			1120	K	そこは切って、
			1121	K	切り捨ててやらないって感じで。
			1122	N	やっぱり、仕事を立て続けにあると
			1123	N	11時帰りが続いてしまうと、
			1124	N	どうしても練習に行くとかができなくなってしまうと思うんですが。
			1125	K	そうですね。
			1126	K	そういう時は、
			1127	K	だから、ほんとにこういう補助的に階段とかでトレーニングと//集中的にやって、
			1128	N	はい。
			1129	K	そこは体力の維持により専念する。
			1130	N	なるほど。
			1131	K	で、仕事を楽しになれば、
			1132	N	はい。
			1133	K	強化のほうに少しウエートを上げていくとか、
			1134	N	はい。
			1135	K	柔軟にスケジュールをこう。
			1136	N	はい。
			1137	K	競技者であるけど、
			1138	K	仕事は//メインですからね。
			1139	N	うんうん。
			1140	K	スケジュールを//立てるっていうのは、//仕方がないことかなっていう。
			1141	N	はい。
			1142	N	うんうん。
			1143	N	その初の公務員になった//時には、
			1144	K	えーえー。
			1145	N	別の価値感が//揺らいだってことが、28歳、優勝されてから、
			1146	K	そうですね。
			1147	N	今まで一本化っていうか。
			1148	K	ええ、ええ、ええ。
			1149	K	そうですね。
	14		1150	N	その大きな変化というのはなんだったんでしょう？
			1151	N	たぶん、あの一、//28歳で優勝して、
			1152	K	はいはい。
			1153	N	「ああいい思い出になった」って言ってしまえる人もいると思うんですが、
			1154	K	ああ、はいはい。
			1155	N	それを続けていこうって、
			1156	N	もちろん仕事もあるので、
			1157	K	ああ。
			1158	N	自分で工夫をし始めたきっかけとか、
			1159	N	その//モチベーションはどういったものなんでしょうか？
			1160	K	うん。
			1161	K	なんていうんだろう。
			1162	K	やっぱりねえ、階段上ると、
			1163	N	はい。
			1164	K	上った時に、
			1165	K	初めていっぱい上に階段があることに気がつくんですよ。
			1166	N	なるほど。
			1167	K	より高い階段が。
			1168	N	はい。
			1169	K	その時、階段上りなくちゃ、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1170	K	階段があることさえも分からないし、
			1171	N	はい。
			1172	K	上って
			1173	K	初めて次の階段がわーって見えてきて、
			1174	N	はい。
			1175	K	わー、これ勝ったんだ。
			1176	K	次勝とう、
			1177	K	まだ上にもあるんだっていうふうに、
			1178	K	モチベーションがわーってあがるわけですね。
			1179	N	はい。
			1180	K	うんうん。
			1181	K	そうすると、なんとかそのモチベーションを保っているから、
			1182	N	はい。
			1183	K	でも、仕事やんなきゃなんないってのがある。
			1184	K	そこで、なんかいい馬力を身につけたというか、
			1185	N	うん。
			1186	N	モチベーションを維持する工夫みたいなものとかはあるんですか？
			1187	K	そうですねー、
			1188	N	はい。
			1189	K	目標を明確にして、
			1190	N	うんうんうん。
			1191	K	このレースにか勝ちたいとかいう
			1192	N	うん。
			1193	K	常に頭の中にイメージすることですねー。
			1194	N	うんうん。
			1195	K	いつまでに、何歳くらいまでには、
			1196	K	このレースに勝ちたいとか、
			1197	N	はい。
			1198	K	そのためには、このレースに勝とうとか、
			1199	K	そういうのって自分の競技人生の中にあるんですね、
			1200	K	このレースの次は、このレースみたいのが。
			1201	N	はい。
			1202	N	あの、世間的なランクという//感じの？
			1203	K	ランク。
			1204	K	それをやっぱり明確に、
			1205	K	こう自分の頭の中に。
			1206	N	はい。
			1207	K	いつかやらなくてはならない。
			1208	N	はい。
			1209	K	じゃあ、そのためには、サボってる場合ではないな//とかね。
			1210	N	うんうん。
			1211	K	モチベーションがでてくるなっていう。
			1212	N	ある程度計画みたいなスケジュールみたいのを、
			1213	K	ええ。
			1214	N	まず先の、その先の、何年後とか//今年の12月の//この大会のとか、こう言って決めて、
			1215	K	ええ。
			1216	K	ええ。
			1217	N	そこから逆算していく。
			1218	K	ええ、ええ、ええ、そうですね、
			1219	K	そうですね。
			1220	K	なんとか5ヵ年計画とかでやったりしましたね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1221	N	ふーん。
			1222	[沈黙]	
		15	1223	N	Kさんのお話伺ってると、
			1224	N	目標っていうのが、かなり癖として、技として、//何か目標を立てて、
			1225	K	ああ。
			1226	N	目標に向かって、
			1227	N	それに向かってっていうのがその競技人生だけではなく、
			1228	K	ああ、そうですね。
			1229	N	よくやられているようなんですが、
			1230	K	ええ。
			1231	N	けっこう大学生って、あの一、いい意味でも悪い意味でも、大学に入るまでに、
			1232	N	例えば、高校の先生になりたいと思って入ってきて、
			1233	K	ああ、はいはいはい。
			1234	N	それがまたがらっと変わる。
			1235	N	価値観が変わるのが大学生活のいいところだと思うんですが、
			1236	K	ええ、ええ、ええー。
			1237	N	その目標がなくなってきたりしてしまってるっていう学生もやっぱりいると思うんですよ、//今の時点で。
			1238	K	ああ、はいはいはいはい。
			1239	K	ええ、ええ、ええ。
			1240	N	そういった学生に何かアドバイスみたいなものはありますか？
			1241	N	もしくは、Kさん自身がこういうふうにやっていったという、//事例が1つのアドバイスになる場合もあると思うんですけども。
			1242	K	うーん。
			1243	K	ああ、そうですね。
			1244	K	確かに、まずは目標がないと、
			1245	K	だめなんですね。
			1246	N	うんうん。
			1247	K	だから、目標を無理やりでも//探してみたいな。
			1248	N	はい。
			1249	N	うーん。
			1250	K	一点集中みたいなの。
			1251	K	何か一つ二つ、集中してやらないと、
			1252	N	はい。
			1253	K	性分というか。
			1254	N	うん。
			1255	N	それは昔から変わらないんですね？
			1256	K	そうですね。
			1257	K	オールマイティーじゃないんですよ、//やっぱり。
			1258	N	うーん。
			1259	K	こつこつ、こつこつ//石を積み上げてったら、
			1260	N	はい。
			1261	N	うーん。
			1262	K	「だいぶ高くなったなあ」って感じの。
			1263	N	はい。
			1264	N	大学生活の、で、今までの聞いたように、
			1265	N	オールマイティー、私もオールマイティーじゃないんですけども、まったく。
			1266	K	ああ。
			1267	N	オールマイティーに見える人っているじゃないですか？
			1268	K	あーー。
			1269	N	すごく、自分の、羨ましいなあって思うんですけども、
			1270	K	ああ。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1271	N	振り返って自分はそうじゃないからって、
			1272	K	ええ、ええ、ええ。
			1273	N	割り切って、こう、
			1274	K	ああ、そうですね。
			1275	K	で、もう、自分のスタイルなんだと、
			1276	K	自分も割り切ってますね、それはね。
			1277	N	でも、この道っていうのを、が定めて、
			1278	N	こうやっていってっていう？
			1279	K	そうですね。
			1280	K	決してね、素質があるっていうわけじゃないんですけどもね。
			1281	N	はい。
			1282	K	やっぱりね、(根本的)なものってのは多かったですよ。
			1283	K	後はなんだろうなあ。
			1284	K	うーん、分からないですねー、ちょっとね。
			1285		[沈黙]
			1286	N	こつこつやるっていうのが嫌になる時期はあまりないんですか？
			1287	K	やっぱり人間ですからありますよね。
			1288	K	そこは、いかに初めの目標の設定を明確にできるかなんかと思うんですよ。
			1289	N	なるほど。
			1290	K	そこが、だから、1番のポイントだと思うんですね。
			1291	K	それをよく念じて、
			1292	N	はい。
			1293	K	ただ見失わないようにするように、
			1294	N	はい。
			1295	K	レベルか目標か、思い込みというか。
			1296	N	はい。
			1297	N	で、あれですか？
			1298	N	Kさん自身にしても、その、競技、今やっている登山の時の//目標のやり方、立て方っていうのと、//就職した時すぐの目標の立て方は違うものですか？
			1299	K	ええ。
			1300	K	ええ。
			1301	K	うん、そうですね。
			1302	K	就職してからは、漠然としていたものでね、やっぱりね。
			1303	K	なんか分かんないけど、
			1304	K	走っていききたいみたいな//ことしかなかったんで、
			1305	N	うん。
			1306	K	そうすると、やっぱり、違う価値感がでてくると、すぐに揺らいで、
			1307	N	そうですね。
			1308	K	なくなっちゃうんですよ。
			1309	K	やっぱりー、そこでね、あの一、1つ出てくると、
			1310	K	それに向かって、
			1311	K	すべてのことをうまくやっていこうといういい流れになったんですね。
			1312	N	ライフスタイルから変えていくみたいな感じになりますね？
			1313	K	そうですね。
			1314	K	すべての生き方と//だいが変わっていくという。
			1315	N	はい。
	16		1316	N	ここらへんの近くのお住まいなんですか？
			1317	K	ええ、そうですね。
			1318	K	T。
			1319	N	あつ、そうですか。
			1320	K	ここから10キロくらいなんですけれども。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1321	N	おひ、お一人？
			1322	N	ご家族は？
			1323	K	一応、結婚して、2人。
			1324	K	今は子供はいないんですけどね。
			1325	N	はい。
			1326	K	2人で生活しているんですけどね。
			1327	N	奥さんは結構、応援してくださっているんですか？
			1328	K	うーん。
			1329	K	うちのは、大学の同好会の後輩だったんですよ。
			1330	N	あー、なるほどなるほど。
			1331	N	じゃあ、もう、ともに？
			1332	N	2人とも走るのが好き？
			1333	K	そうですね。
			1334	K	当時はね、だから、走ったんですけどもね、
			1335	K	やっぱり、最近、彼女は走ってないですね、全然。
			1336	N	違うスポーツに、Kさん自身変わっていってしまいましたのですね。
			1337	K	そうですね。
			1338	K	理解はしてますね。
			1339	K	同じ競技をやってきたんで、
			1340	N	うーん。
			1341	K	競技者心みたいなものがあるって。
			1342	N	ああ。
			1343	N	それは、強い見方ですね。
			1344	K	うん、そういった意味では、すごくいいなって感じはしますよね。
			1345	N	はい。
			1346	K	走ってる時とか、競技とか、「こうしたらいいんじゃない。」とかって。
			1347	N	うーん。
			1348	K	同じ競技をやってきた人間だからこそ、
			1349	K	言えるかなっていうところがありますよね。
			1350	N	客観視して、
			1351	N	アスリートとして見れるみたいな//のはありますよね。
			1352	K	そうですね、そうそうそうそう。
			1353	N	その土日の、で、まあ、やっぱり、唯一の休みといいですか、
			1354	K	ええ、ええ、ええー。
			1355	N	かなりの時間が//山に持っていかれてしまうと
			1356	K	ああ、はい。
			1357	K	喧嘩しますよ。
			1358	N	〔笑い〕
			1359	K	でも、うまくやってますよ、そのへんもね。
			1360	K	一緒にどっかにドライブ行って、
			1361	N	はい。
			1362	K	「どっかちょっと待っててね」って、
			1363	N	はい。
			1364	K	「2、3時間待ってて、
			1365	K	時間潰してて。」って言って、
			1366	K	自分、着替えて、
			1367	N	ああ、はいはいはい。
			1368	K	山登って、
			1369	K	トレーニングしてって、
			1370	N	はー。
			1371	K	その後、一応温泉入るかみたいな。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1372	N	{笑い}
			1373	N	なるほど。
			1374	K	そのへんうまくね、やってますね。
			1375	N	{笑い}すごいですねー。
			1376	N	でも、山の向こうに行っちゃえば//ってことがありますよね？
			1377	K	うん。
			1378	K	そうですね。
			1379	K	そうなんですよ。
			1380	K	やっぱり家庭でなくちゃ、
			1381	K	やっぱりね。
			1382	N	ああ。
			1383	K	自分でも色々苦労しながら、
			1384	K	やってますからね、//色々ねー。
			1385	N	うんうん。
			1386	N	私、まだ結婚してないんで、
			1387	K	ああ。
			1388	N	そこのありがたみと辛さってのが//正直よく分かっていないんですけどね。
			1389	N	ああ。
			1390	K	大変ですよ。
			1391	N	両立、さらに、悪く言ってしまうと、
			1392	N	仕事もあって、
			1393	N	家族もあってっていうのが//疲れるってこともあると思うんですが、
			1394	K	ああ。
			1395	K	そうですね。
			1396	N	逆に、家族がいるからこそっていうのもありますか？
			1397	K	うん。
			1398	K	一長一短で。
			1399	K	いいところだけうまく作って、
			1400	N	はい。
			1401	K	悪いところでは、悪くならないように、
			1402	N	{笑い}
			1403	K	常にフォローしているというか。
			1404	N	なるほど。
			1405	K	そういつてくると、
			1406	K	気使ってますね、色々ねー、そういうのもねー。
			1407	N	それは、必要になってきそうですね。
			1408	K	うーん。
			1409	K	まあ、でも、十分理解してるんで、
			1410	N	はい。
			1411	K	とことんやれるところまで、やんなきゃ、
			1412	K	納得しないの分かっているから、
			1413	N	うんうん。
			1414	K	「もうこいつは駄目だ。」って、ある意味納得してるんかなっていう、
			1415	N	ちょっと呆れられてる。
			1416	K	呆れ、呆れてますよね。
			1417	N	うん。
			1418	K	でも、最低限のケアーだけは。
			1419	N	そうですねー。
			1420	K	一緒に遊びいたり、
			1421	N	はい。
			1422	K	それだけはね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1423	N	でも、あれですよね？
			1424	N	何も目標がなくて、
			1425	K	うん。
			1426	N	こう、だらだら過ごすよりも、
			1427	N	何か目標があって、
			1428	N	やっている人が隣にいと、
			1429	K	うん。
			1430	N	顔が生き生きしてくると思うんで、
			1431	K	ああ、そうですね。
			1432	N	元気を貰えるんじゃないかな一って思うんですが。
			1433	K	そうですね。
			1434	K	と思いますよね。
			1435	K	ないですけど、というふうに思っていますけどね。
			1436	N	{笑い}
			1437	N	また、あれかもしれないんですけど、
			1438	N	お子さんができるとすると、
			1439	N	あそう。
			1440	N	また、違う要因も//出てくるんで。
			1441	K	ありますね。
			1442	K	そうですね。
3	17		1443	N	海外などの大会にもチャレンジされてるんですか？
			1444	K	そうですね。
			1445	K	先ほど、長期的に計画立てたってことだったんですけども、
			1446	K	最終的に、僕は、富士登山競走てのが一番の目標だったんですね、
			1447	N	はい。
			1448	K	競技する時の。
			1449	N	はい。
			1450	K	それが最終的にできて、
			1451	N	はい。
			1452	K	で一、自分の考えるその時点で、
			1453	K	もう、最高の、なんていうんですか。
			1454	K	やるべきことってのは、そこで、当時、想定時の//到達点までいったんで、
			1455	N	はい。
			1456	N	もうその富士登山競走ってのが国内のトップレベルの//戦いって感じ？
			1457	K	そうですね。
			1458	K	そこ、一番に勝てたってことで、
			1459	N	はい。
			1460	K	モチベーションみたいな、ために、
			1461	K	目標なんです、
			1462	N	はい。
			1463	K	じゃあ、次は、海外行こうじゃないかって、
			1464	K	日本は取りあえず征したから、
			1465	N	はい。
			1466	K	次は海外だろうってことで、
			1467	K	今年、去年か。
			1468	N	はい。
			1469	K	去年の10月に、そのキナバル国際クラバル大会でのに、
			1470	N	はい。
			1471	K	最高峰の大会。
			1472	N	ああ、すごい。
			1473	N	日本人最高タイムまでいかれたんですね？

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1474	N	キナバルタンってのはどこにあるん？
			1475	K	マレーシア。
			1476	N	ああ、はいはいはい。
			1477	K	マレーシアの一、ボルネオ島っていう島があるんですけども。
			1478	N	はい。
			1479		[沈黙]
			1480	K	ボルネオ島の、東南アジアの最高峰で、4000メ、4000何メートル、高いんですよ。
			1481	N	はい。
			1482	N	空気がないところの、「日本経済新聞」見ると、
			1483	K	ええ。
			1484	N	心拍数を30程度抑えるって。
			1485	K	そうですね。
			1486	K	あの一、やっぱり空気の薄いとこで激しいとレーニング、激しいことをやるので、
			1487	K	もう心拍数を？なんですね。
			1488	N	はい。
			1489	K	富士山なんかでトレーニングしていると、
			1490	N	はい。
			1491	K	あの一、かなり消耗するんですけど、
			1492	N	はい。
			1493	K	平地に戻ってくると、
			1494	K	心拍数かなり遅くなるんですよ。
			1495	N	は一。
			1496	N	え、今、こういう仕事をしている時とかは、
			1497	N	3、40台でっていう感じなんですか？
			1498	K	ああ、それも無理なんですよ。
			1499	K	ほんとに、連シーズンの//最高のレベルまでに持ってくる時は
			1500	N	はい。
			1501	K	30台まで落ちるんですけどね。
			1502	K	だから、40か50くらいで。
			1503	N	それは、相当低いほうですねー。
			1504	K	元々低い。
			1505		[沈黙]
			1506	N	10台。
			1507	N	2秒に1回ぐらいということですよ？
			1508	K	そうですね。
			1509	N	2秒に1回ぐらい。
			1510	N	そんな時だけ//ほんとに体を摂生して、
			1511	K	はい。
			1512	K	そこまで高めるって感じなんですよけどもね。
	18		1513	N	どういった調整が、その、まあ、トレーニング方法があると思うんですが、
			1514	K	ええ、ええ。
			1515	N	食べ物とかもやっぱり、//体を変えていかなくちゃならないと思うんですけども。
			1516	K	そうですね。
			1517	K	その場合、連シーズンの山岳マラソンの場合、夏場//とか、春メインで//秋のはじめとか。
			1518	N	はい。
			1519	N	はい。
			1520	N	うーん。
			1521	K	山って走る時期決まっても、
			1522	N	はい。
			1523	K	雪が降っているの、
			1524	N	そうですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1525	K	そんな時に絞って、
			1526	K	春先から体力が、ぐーって、体力をだんだん。
			1527	N	ふーん。
			1528	K	冬場は比較的怠慢な生活をしていたので、
			1529	N	はい。
			1530	K	食べる物とか飲むものとかも、お酒を節制したり、
			1531	N	はい。
			1532	K	塩分油ものを摂らないようにして、
			1533	N	はい。
			1534	K	ピークに持っていけるように、
			1535	K	摂取していくという感じ。
			1536	N	完全にあれですよ。
			1537	N	その一、世界の、いや、日本の大会で、その30代半ばってのは//決して、あの一、年寄りの方ではない。
			1538	K	ええ。
			1539	K	年寄りの方ではなくはないんですけど、
			1540	K	まだ上でやっている人もいますからね。
			1541	N	そうなんですかー。
			1542	K	比較的競技年齢が長いというか、
			1543	N	うんうん。
			1544	N	まだ、今の時点で体力の限界とか、そういうことを考える必要はない。
			1545	K	うーん、
			1546	K	そういうことはまだ考えてないですよ。
			1547	K	40ぐらいまではなんとかいけるかなっていう。
			1548	N	うーん。
			1549	K	なんかですね、体力だけじゃなくて、
			1550	K	規律みたいなものもあるんで、
			1551	N	はい。
			1552	N	経験がものを言う//走り方っていうものが。
			1553	K	はい。
			1554	N	それは面白いですね。
			1555	K	そうですね。
			1556	K	そこは、出て、
			1557	K	鍛えないと。
			1558	N	ふーん。
			1559	K	身につかないっていう部分なので。
			1560	N	うん。
			1561	K	やっぱり、競技年齢//高くなりますもんね。
			1562	N	はい。
4	19		1563	N	現在のところで、その今の段階の//5ヵ年計画みたいな長期計画はどういったものなんですか？
			1564	K	ええ。
			1565	K	キナバル山で//なんとか、上位入賞したいなあーってのが。
			1566	N	はい。
			1567	N	うーん。
			1568	N	それは、全然調整の仕方であつたりとか変わってきますか？
			1569	K	まあ、あれなんですからね、
			1570	N	はい。
			1571	K	やっぱりレベルが違いますからね、世界とね。
			1572	N	うんうんうん。
			1573	K	プロ、ヨーロッパの選手が強いんですけど、
			1574	N	はい。
			1575	K	ほとんどプロなんですよ、プロ。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1576	K	「プロフェッショナル、マラソン」っていうジャンルも。
			1577	N	あるんですね？
			1578	N	そういう、個々で、スポンサー契約みたいなのを結んでー。
			1579	K	そうですね。
			1580	N	ああ、なるほど。
			1581	K	「トレイル・ランニング」っていうジャンルなんですけれども、
			1582	N	はい。
			1583	K	そういった選手に勝つっていうか、
			1584	K	対等にやるには、
			1585	K	それなりの//レベルの格差があるので、
			1586	N	ふーん。
			1587	K	それを埋めるような、また違ったトレーニングとかをこれから考えなければ。
			1588	K	まだ模索中ですね。
			1589	N	うんうんうん。
			1590	N	普段の漠然と、筋トレであったり、
			1591	N	トレーニングじゃ、
			1592	N	とてもやっぱり、太刀打ち、全然違いました？キナバル山の大会とこれまでの日本の大会とは。
			1593	K	ええ。
			1594	K	ああ、全然違いますね。
			1595	K	自分も日本人、日本のトップだったんでね、
			1596	N	はい。
			1597	K	いづらかやれるのかなって思ったんですけど、
			1598	N	うーん。
			1599	K	やっぱりレベルは違いますね。
			1600	N	また1つ上の//階段が。
			1601	K	はい。
			1602	K	階段が。
			1603	K	今度の階段は、高くなっていう。
			1604	N	{笑い}
			1605	N	で、また同時にやりがいにものなっている。
			1606	K	そうですね。
			1607	K	やっぱりレベル、というか、
			1608	K	山岳マラソン自体確立されてないところが//あるんで、
			1609	N	はい。
			1610	K	競技とか浅くて。
			1611	K	その、他のノウハウってのが蓄積されていないんですよ。
			1612	N	なるほど。
			1613	K	ええ。
			1614	N	普通の短距離の100メートル//っていったような競技とは違うんですね。
			1615	K	ええ。
			1616	K	そうそうそうそう。
			1617	K	だから、試行錯誤なんですよ。
			1618	N	うん。
			1619	K	いかにすれば強くなるかっていうことをしながら、
			1620	K	研究していく。
			1621	K	だから、誰も歩んでいない道なんで、
			1622	N	ああ、なるほど。
			1623	K	自分で切り開いて//いきたいなあって思うんですけどね。
			1624	N	はい。
			1625	N	じゃあ、そういうトレーニング論の本なども読んでたりして。
			1626	K	そうですね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1627	K	(?)から本が出るんですよ。
			1628	N	あ、Kさんの？
			1629	K	僕が、共同で、4人ぐらいで執筆して//いるんですけど。
			1630	N	へー。
			1631	K	それが本にも色々書いているんですけど、
			1632	N	へー。
			1633	K	初めて、その、具体的なトレーニング方法みたいなものを。
			1634	N	はい。
			1635	N	これまでの//中で、経験の中で。
			1636	K	これまでの蓄積を。
			1637	N	へー。
			1638	N	どういった？
			1639	N	ちょっと紹介をしたいんですけども。
			1640	N	タイトルは？
			1641	K	タイトルはねー、これなんですけれどもー、
			1642	N	はい。
			1643	K	『トレールランニング入門』っていう。
			1644	N	『トレールランニング入門』。
			1645	K	えーえー。
			1646	N	じゃあ、これも構成の段階で。
			1647	K	そうですね。
			1648	K	I書店、//新書ってやつだったと思うんですけども。
			1649	N	I書店。
			1650	N	は、まさにアクティブですね。{笑い}
			1651	K	えーえー。
			1652		[沈黙]
			1653	K	イキナバル狙おうとすると、
			1654	K	それに、プラス何か違うものを加えていかないと、
			1655	N	うん。
			1656	K	どうすれば、
			1657	N	うん。
			1658	K	自分のね、肉体が強くなるというか。
			1659	N	はい。
			1660	K	競技の勝負けよりも、そっちの方が面白いなっていう。
			1661	N	ああ、なるほど。
			1662	K	そういうのが、最近思っていますよね。
			1663	N	こうやったらっていう、
			1664	K	そうそうそう。
			1665	N	自分の筋肉が分かるっていうことですね。
			1666	K	そうなんですよ。
			1667	N	こういうトレーニングやってみたら、
			1668	N	ああいけたとか、
			1669	K	このへん結構いけるかなっていう。
			1670	K	自分で人体実験してるんですよ、//色々。
			1671	N	はい。
			1672	K	色々試行錯誤してみて。
			1673	N	はい。
			1674	N	これは面白いと思います。
			1675	K	はい、そうですね。
			1676	K	これだけ言っても、
			1677	K	誰も見たことない世界なんでね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1678	N	はい。
			1679	K	そういう面でね、パイオニアになって、
			1680	K	切り開いていってみたいなのはありますよね。
			1681	N	それはもう、恐れてるのもやりがいに繋がる//ものですかね？
			1682	K	やりがいですよね。
			1683	K	あの一、//2連敗して、
			1684	N	はい。
			1685	K	去年、3位で負けたんですよ。
			1686	N	はい。
			1687	K	その負けた時に、
			1688	K	なんだろうな、
			1689	K	その時、1回勝つ時に守りに入っていたんですよ、すべてがね。
			1690	N	ああー、なるほど。
			1691	K	守ることにディフェンディングチャンピオンっていう、
			1692	N	はい。
			1693	K	ディフェンディングすることに常におおっぴらになっちゃって、
			1694	K	すごくストレス感じて、
			1695	N	はい。
			1696	K	で、去年富士山三連覇しようと思って、
			1697	K	負けて、
			1698	N	はい。
			1699	K	できなくて、
			1700	K	また負けた時に、
			1701	N	はい。
			1702	K	ああ、やっていけないなっていう。
			1703	N	うーん。
			1704	K	すごく負けちゃいけないなっていう。
			1705	K	ほんと、だから、楽しいはずの世界の取り組みが//すごく、うんと苦痛に思えたんですよ、そんな時に。
			1706	N	はい。
			1707	N	はい。
			1708	K	もう少し新しいチャレンジというか、
			1709	N	はい。
			1710	K	思考の転換をしようっていうふうに思っ。
			1711	N	うん。
			1712	N	沢木幸太郎なんか、スポーツジャーナリズムを見ると、
			1713	K	あー。
			1714	N	その道を極めてトップになった人の//孤独といいますか、苦しみ。
			1715	K	うん。
			1716	K	そうですね。
			1717	N	上がないんで
			1718	N	目指していけるものがない。
			1719	K	そう。
			1720	K	モチベーションの維持が、下ばかり見て、
			1721	N	はい。
			1722	K	誰が誰を倒されているんだろうみたいな、//そういうのはものすごく辛いんですね。
			1723	N	うん。
			1724	K	ほんと、だから、去年の大会前は、ほんと、胃が痛くなるような感じでした。
			1725	K	そんな時、切り換えて、
			1726	N	はい。
			1727	K	新しいチャンス、海外行こうとか、
			1728	N	はい。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1729	K	後は、自分を、試行錯誤できるような//新しいトレーニングメニューを考えようとか。
			1730	N	はい。
			1731	K	上に上に考えようというか。
			1732	N	なるほど。
			1733	N	それは、あれですよね？
			1734	N	階段を上ってこなかったら、
			1735	N	見えなかった世界、想像しなかった別の階段みたいな感じですよね？
			1736	K	そうですね。
			1737	K	そうですね、確かに。
			1738	N	始める前、
			1739	N	ここまでのめりこむというのはおそらく//考えなかったと思うんですけれども。
			1740	K	思わなかったですね。
			1741	K	富士登山競走で優勝できるのは、夢のようでしたね。
			1742	N	なるほど。
			1743	N	この1番初めの、28歳の山田の記念オールハイと//格が全然違った。
			1744	K	ええ。
			1745	K	格が違いましたよね、全然。
			1746	K	山田の方で200人300人ですけど、
			1747	N	はい。
			1748	K	こっちは3000人//4000人の規模ですからね。
			1749	N	そんなに。
			1750	N	だいたい何キロぐらいの公定なんですか？
			1751	K	約1キロで、
			1752	N	はい。
			1753	K	下から、ふじこうは700メートルぐらいあるんですよね、//だいたい。
			1754	N	はい。
			1755	K	3000メートルぐらい。
			1756	N	はい。
			1757	N	3000メートルじゃ、相当ありますよね？
			1758	K	で、21キロの3000メートル。
			1759	N	はい。
			1760	N	普通のマラソンより長くなってしまうんじゃないですか？
			1761	K	時間ですか？
			1762	N	はい。
			1763	K	時間は長いですよ。
			1764	K	2時間。
			1765	N	時間、距離も。
			1766	N	距離は倍にはならないか。
			1767	K	いや、距離はさすがにね。
			1768	K	これは21キロ。
			1769	K	あ、すみません。
			1770	K	こうじゃなくて、こうだ。
			1771	K	これは21キロですね。
			1772	N	21キロで。
			1773	K	21キロで、3000メートルを越えるんじゃないんですかね。
			1774	N	あ、そうですね。
			1775	N	すごいですねー。
			1776	K	うーん。
			1777	K	すごいですねー。
			1778		[沈黙]
			1779	N	じゃあ、今は自分の肉体改造というか、//トレーニング論を構築するといひいますか。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1780	K	ええ。
			1781	K	そうそうそうそう。
			1782	N	開拓、切り開いていくのと、
			1783	K	そうそうそうそう。
			1784	N	まあ、世界の大会でという？
			1785	K	そうですね。
			1786	N	大きな目標ですよ？
			1787	K	うーん。
			1788	N	まあ、日本ではそんなに、個人のジャンルではスポンサー計画とかあまりないんですか？
			1789	K	ないんですね。
			1790	K	あの一、単発で色々メーカーの人が//色々送ってくれるんですけどね。
			1791	N	はい。
			1792	N	ああ、なるほど。
			1793	N	靴であつたりとか？
			1794	K	靴であつたり、そういうものは。
			1795	K	まだ長期的には。
			1796	K	じゃあ、やっぱり仕事っていうのも//しっかりやってていう両方は、もう大変ですよー。
			1797	N	うーん。
			1798	K	大変ですよー。
			1799	K	やっぱり仕事は仕事で。
			1800	K	だんだん仕事も任されるようになったんでー。
			1801	N	そうですね。
			1802	K	これからは、やってくるんだらうなーっていう。
			1803	K	上には上の世界が//残ってるだらうしー、
			1804	N	はい。
			1805	N	はい。
			1806	N	一般的には、ほんとにこう回してる中核となるような世代と//言われてきてる。
			1807	K	そうなりますもんね。
			1808	K	やっぱりやらなくちゃならないことも出てきてるんで。
			1809	N	はい。
			1810	K	そういったことでは、仕事も多いし、
			1811	N	はい。
			1812	K	走ることも難しい年代なんだからあてもあると思ってますからね。
	20		1813	N	お話を伺っていて、
			1814	N	両立をされている方って、//いい面も悪い面もやっぱりあって、
			1815	K	ええ、ええ、ええ。
			1816	N	どちらかが忙しくなって、
			1817	N	できなくなつて、
			1818	N	こちらもやらなきゃいけないし、
			1819	K	ええ。
			1820	N	負のスパイラルになっちゃう方と、
			1821	N	こう、振り子のように、
			1822	N	こっちもがんばったからこっちもがんばれるっていう。
			1823	N	どちらに一方に集中するとはないとはいえないと思うんですけども、
			1824	K	そうですね。
			1825	N	やっぱり、両方持ってるものだと思うんですが、
			1826	K	そうそうそう。
			1827	N	その切り変えをどういふふうにしているのかなって？
			1828	K	まさにそうですね。
			1829	K	悪循環になって、
			1830	K	こういくとね、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1831	K	なっちゃだめなんですよ。
			1832	K	切り換えだと思うんですよ。
			1833	N	Kさんの場合はどうされていますか？
			1834	N	どうしてもやっぱり忙しい時であったり、
			1835	K	ええ。
			1836	N	大会直前というのは、負荷がかかってしまうと思うんですが。
			1837	K	そうですねー。
			1838	K	大変ですよー。
			1839	K	切り換えるしかないですよー、もう。
			1840	N	うーん。
			1841	K	すべてのことをやっぱり考える。
			1842	N	うんうんうん。
			1843	K	悪く考え、
			1844	K	例えば、仕事があつて、
			1845	N	はい。
			1846	K	練習ができない時は、
			1847	K	これは、いい休養なんだと思う。
			1848	K	ストレスを感じさせないようにする。
			1849	N	うん。
			1850	K	やっぱり仕事の方を頑張る。
			1851	K	いいように、
			1852	K	いいようなところがあるんで、
			1853	N	はい。
			1854	K	楽観、そのへんがいいのかもしいんですよ。
			1855	K	あまり深刻に考えないんですよ。
			1856	N	はい。
			1857	N	経営者の本などを読むと、
			1858	K	うん。
			1859	N	そういう「楽観主義こそがすべてだ」みたいなというようなことを//よく伺います。
			1860	K	ああ。
			1861	K	ま、言いようですけどね。
			1862	N	{笑い}
			1863	N	でも、すごくお話を伺ってますと、
			1864	N	すごい気を使えるのはすごいとても上手な方だと思うんで、
			1865	K	ああ。
			1866	N	「あんま知らないや」みたいな感じではなさそうで、
			1867	K	うーん。
			1868	N	でも、ちゃんと準備もしてっていうのは、
			1869	K	切り変えかなっていう。
			1870	N	くよくよしないで
			1871	N	ポジティブに、
			1872	N	綿密についていう感じですよ？
			1873	K	そうですね。
			1874		[沈黙]
			1875	N	はい。
5	21		1876	N	そろそろお時間になってしまったんで、
			1877	N	最後にあれなんです。
			1878	K	あつ、そうですね。
			1879	N	これ読むのが大半がW大、今のWの大学生なんですけれども、
			1880	K	ええ。
			1881	N	Wの学生って結構いろんな分野で活躍しているんですが、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1882	K	ああ、そうですね。
			1883	N	学生時代の95パーセント以上が//いわゆる何効をなさずに、
			1884	K	ええ。
			1885	K	うん。
			1886	N	普通の学生として過ごしていく。
			1887	K	うんうんうん。
			1888	N	で、悩んでいる学生達だと思うんですね。
			1889	K	うん。
			1890	N	でも、そういう学生でもまじめであったり、
			1891	K	うん。
			1892	N	誠実にこつこつやっていたら、
			1893	K	うん。
			1894	N	必ず花開く。
			1895	K	ええ。
			1896	N	実際、今社会で花開いている早大生のほとんどは、実際学生時代すごかったかという、
			1897	N	決してそうではないと思うんですよ。
			1898	K	うん、そうですね。
			1899	N	まさに原石って、と呼ばれている//学生たちにアドバイスをつて言った時に、
			1900	K	あーあーあー。
			1901	N	例えば、登山競走する学生は、//正直そこまでいないと思うんですが、
			1902	K	うん。
			1903	K	はいはいはい。
			1904	N	Kさんのそのご自身の生き方からできるアドバイスがあれば、
			1905	N	お願いします。
			1906	K	なんでしょうねー、
			1907	K	すごく挫折をエネルギーにしたなってことは言えるんですねー。
			1908	N	うんうんうん。
			1909	K	怪我もしたし、
			1910	N	腰も。
			1911	K	腰もそうだし。
			1912	K	そういうのがあるんですよ、エネルギーとしてね。
			1913	N	うんうん。
			1914	K	次のエネルギーに生きるんですよ。
			1915	N	はい。
			1916	K	それで、僕の場合、それができなくて、
			1917	N	はい。
			1918	K	いつまでもよくよくよくよして、
			1919	K	(?)がほしかったというか、
			1920	N	うん。
			1921	K	まあ、この世界だったんですけどもねー、
			1922	K	挫折とか、そこまで、
			1923	N	今、今もやっぱり、その「なにくそ」っていうような形でありますか？
			1924	K	そうですね。
			1925	K	モチベーションの持ち方とか明確な目標とか言ったんですけども、
			1926	N	はい。
			1927	K	その建立、一番下の部分にそういうものがあるのかもしれないね。
			1928	K	うーん。
			1929	K	なんて言ったらいいんだろうな。
			1930	K	それ、アドバイスにならないなあ。
			1931	N	でも、あれですよね？
			1932	N	その挫折から逃げると言いますか、

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1933	K	ええ。
			1934	N	辛いことって誰もが、
			1935	K	そう、あのね、忘れちゃわないようにしたほうがいいかなっていう。
			1936	N	挫折自体は、もうどんな人間にも降りかかることだと思いますからね。
			1937	K	そうですね。
			1938	K	そうすると、くよくよする。
			1939	K	いつまでもくよくよしるっていうわけではないんですけどもねー。
			1940	N	はい。
			1941	N	決してくよくよするわけでもなく一、
			1942	K	悔しさみたいのを、
			1943	N	火をつけるものとして。
			1944	K	そういうふうには、
			1945	K	思、執念深いところもありますよね。
			1946	N	{笑い}
			1947	N	Fアナウンサー、日テレの方も、//2浪、2留して一、
			1948	K	ええ。
			1949	K	ええ。
			1950	N	ずっと劇団に入って、
			1951	N	なんか、あの、研究生として入っていて、
			1952	K	ええ。
			1953	N	で、大学も2年間留年して、
			1954	K	ええ、ええ、ええ。
			1955	N	で、結局、それで入れるかっていうと、
			1956	N	そこで駄目になっちゃって、
			1957	K	ああ。
			1958	N	大学も全然行ってないから、
			1959	N	留年もしちゃって、
			1960	K	ああ。
			1961	N	劇団の方も駄目になっちゃって、
			1962	K	ああ。
			1963	N	「この社会を、呪ってやる」っていう//勢いが、今のアナウンサー時代に、
			1964	K	ああ。
			1965	N	若いころ叫んだのはそのせいです。」みたいなことをおっしゃっていて、
			1966	K	ああ、分かる
			1967	K	分かる。
			1968	N	決して、そのくよくよ、いじいじするんじゃないくて、
			1969	K	うん。
			1970	N	「なにくそ」っていう。
			1971	K	そうですね。
			1972	N	原点になるっていうのは、
			1973	K	大きいですね。
			1974	K	決して社会を呪うとか、
			1975	K	他人に転化されるということではないんですけども一、
			1976	N	うんうん。
			1977	K	自分自身の中でやる気としてやっぱり持ってますよね、
			1978	N	はい。
			1979	K	持ってましたよね一、ずっと。
			1980	N	その富士登山、その日本の//頂点に立って、
			1981	K	ええ。
			1982	N	忘れないってことは、おそらく、あの一、こちらのキナバルの方で優勝しても、
			1983	K	うんうん。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1984	N	それで解消されるっていうものではないと？
			1985	K	ああ、そうですね。
			1986	K	いつまで経っても、
			1987	K	たぶんないんでしょう。
			1988	K	だから、いいんかなあっていう。
			1989	N	うんうんうん、そうでしょうね。
			1990	K	それを納得するんだったら、
			1991	K	競技やめると思いますよね、僕はね。
			1992	N	はい。
			1993	N	Kさん自身がその、今競技をやめるとっていう区切りってのは、あるんですか？
			1994	K	モチベーションが切える時でしょうねー。
			1995	N	うーん、そうでしょうね。
			1996	N	その、その段階に行かなくちゃ、
			1997	N	分からない。
			1998	K	分からないんですよ。
			1999	N	うんうん。
			2000	K	だから、いつまでにやめるとかはないですしー、
			2001	N	うん。
			2002	K	自分の納得いく走りができなくなったら、
			2003	K	もう//モチベーションがなければやめるとか。
			2004	N	うん。
			2005	N	うん。
			2006	K	たぶんいろんなスポーツ選手がそういうとこなんでしょうねー。
			2007	K	だって、そうじゃないですかー？
			2008	N	はい。
			2009	K	決してね、肉体的にもう駄目だっていう//のはなくて、
			2010	N	うん。
			2011	K	気持ちのほうが大きいんじゃないかと思うん//ですよねー。
			2012	N	うん。
			2013	K	やっぱりその、一番は心なんでー、
			2014	N	はい。
			2015	K	心がやっぱりモチベーションが、それで体が//それに反応してー、
			2016	N	はい。
			2017	K	(?)したってよく言うけどー、
			2018	N	うん。
			2019	K	そういうこともあるんじゃないんですけどねー、
			2020	N	うん。
			2021	K	ないんだったら、
			2022	K	ないんだろなーっていう自分は思う。
			2023	N	自分、その、富士の三連覇を目指す時のありました？精神的な。
			2024	K	ありましたねー。
			2025	K	メンタルこそがすべてだってことがあるんですよ。
			2026	N	うん。
			2027	K	どっちかっていうと、
			2028	K	体よりも。
			2029	K	自分、元々素質がない、
			2030	K	高校時代からなにもない選手だったんでー、
			2031	N	はい。
			2032	K	気持ちだけでここまでもってきたって//いうのがあるんで。
			2033	N	うん。
			2034	K	やっぱり気持ちだなんていうのはね。

【資料2-1】大学広報紙のインタビュー取材
「先輩に乾杯 Kさん」インタビュアー:N, ゲスト:K

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			2035	N	なるほど。
			2036	K	それを維持できるような。
			2037	N	まあ、S学部に、前二文に入学して、
			2038	N	今Sにいるんですがー、
			2039	K	ええ、ええ。
			2040	N	タレントのSさんって。
			2041	K	ああ、はいはいはいはいはい。
			2042	N	あの方も、月400キロくらい//走っていて、
			2043	K	ああ、すごいですよねー、あの人もねー。
			2044	N	でー、60、今で50代なんですけれどもー、
			2045	K	ええ。
			2046	N	60までに今の？山も走るって、
			2047	K	はい。
			2048	N	頂点に持っていくって//いうのを明確に言っていて、
			2049	K	ああ。
			2050	K	ああ。
			2051	N	すごく自分の励みにもなりました。
			2052	N	まだ20代の私が何言ってるの、
			2053	K	ああ。
			2054	N	3、40がピークっていうのが馬鹿らしいっていうような。
			2055	K	ああ。
			2056	N	かっこいいなあっていう生き方ですよね。
			2057	K	そうですねー。
			2058	K	もう終わりだとかー、
			2059	K	固定観念持たない。
			2060	N	うんうんうん。
			2061	K	東京でやっていたら、
			2062	K	さすがにそれはなかったと思うんですけど、
			2063	K	東京を離れたところでやっているんで、
			2064	N	はい。
			2065	K	自然にそういう発想が出てくるんですよね。
			2066	N	なるほど。
			2067	N	腰の方は特にあれなんですか？
			2068	K	腰はね、大丈夫ですね、今はね。
Ⅲ	1	1	2069	N	ありがとうございました。
			2070	K	ああ、いえいえ。
			2071	N	長い間。
			2072	N	ああ、1時間もかかった。
			2073	K	ありがとうございました。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
I	1	1	1	N	あの一、ウィークリーの一面に//ある左側のところって分かる？人紹介の//メインの。
			2	M	はい。
			3	M	あー、
			4	M	もしかして、あれが載ってたところですか？
			5	M	あの一、サッカー部の、
			6	N	Tとか？
			7	M	Tとか。
			8	M	えー、あそこに載るんですか？
			9	N	うん、そうそうそうそう。
			10	N	あそこに載る。
			11	M	あ、そうなんですか？
			12	N	うん。
			13		[沈黙]
			14	M	いいんすか？{笑い}
			15	N	{笑い}あの一、内容にいたることをしゃべって//くださいなんで。{笑い}
			16	M	{笑い}
			17		[沈黙]
2	2	2	18	K	どうも申し遅れました。
			19	K	カメラマンのKです。
			20	M	//お願いします。
			21	K	よろしくお願いします。
			22	M	広告研究会のMと申します。
			23	K	はい、どうも。
			24	N	なんか、どっちでもいいっていうんで、
			25	N	あの一、帽子取ってもらいたかったら
			26	N	帽子取って。
			27	K	あなるほど。
			28	N	取ってもらって大丈夫です。
3	3	3	29	M	まず活動経歴といいますと。
			30	N	そうだね。
			31	N	今回は、その一、CMの//カンヌ出展ってのが//すごいことなんで、
			32	M	はい。
			33	M	はい。
			34	M	はい。
			35	N	そのことについてメインに聞いて、
			36	M	はい。
			37	N	あの一、記事にしようと思うんで、
			38	N	例えば、広告研究会として、
			39	N	今までやってきたことであったり、
			40	M	は一、は一、は一、は一。
			41	N	あとは、M君自身が、なんか例えば、広告に関するものであったり、
			42	M	は一、は一、は一、は一。
			43	N	なんかのことで、なんか載せてほしいな一って思うことがあれば。
			44		[沈黙]
			45	N	すみません。
			46	N	はい。
			47	N	こんな感じですね。
			48	M	あー、
			49	M	ここ？
			50	N	ここに。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			51	K	よろしくお願いします。
			52	M	よろしくお願いします。
			53		[沈黙]
		4	54	M	広告研究会ですね。
			55	N	自分の友達も学生の時やっていて、
			56	N	H君って分かる？//映像系の。
			57	M	はい。
			58	M	はい。
			59	N	あの子と友達だったんですよ。
			60	M	ああ、そうなんですか。
			61	N	自分芝居やってたんで、
			62	N	彼、映像のあれでよく流してもらって、
			63	M	へー。
			64	N	作ってもらったりして。
			65	M	へー。
			66	N	今何やってるか分かる？彼って。
			67	M	あの一、//すごいですよ。
			68	N	もうフリーでやっちゃってる？
			69	M	今、だれだったっけ、
			70	N	む//かし
			71	M	M(歌手)の事務所あるじゃないですか。
			72	N	うん。
			73	N	T(事務所名)？じゃない。
			74	M	そうです。
			75	M	T(事務所名)の一、楽曲提供してる作曲者の人//誰でしたっけ？
			76	N	K(作曲家)。
			77	M	そう、K(作曲家)のお事務所に所属してるらしいですよ。
			78	N	あ、そうなんだ。
			79	M	それで、もうM(歌手)の専属のVJやってるって。
			80	N	へー//――。
			81	K	へー。
			82	M	だから、うちの広研の会員もPV出さしてもらったことがあって一、
			83	N	ほんと？
			84	M	2、3年くらい前。
			85	N	じゃあ、(?)持ってるだろうな。
			86		[沈黙]
			87	K	将来はそっちの方進みたいの？
			88	M	いやー、全然そんな。
			89	M	全然(笑い)。
			90	N	{笑い}。
			91	K	{笑い}。
			92	N	来年3年生だよな？
			93	M	そうです。
			94	K	へー。
			95	M	まだ、まだまだ。
			96	K	VJになりたいとか。
			97	M	いやー、なんか思わなくなってきましたね。
			98	N	あ、ほんとに。{笑い}
			99	M	{笑い}むしろ嫌な面の方が見えちゃって。
			100	N	ああ、ほんとに、へー。
			101	M	なんかもちよっと気楽にメーカーでなんか面白い商品開発とか//の方が楽しそうに見えてきています。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			102	N	へー。
			103	[沈黙]	
	3	5	104	M	趣味。
			105	[沈黙]	
			106	M	活動経歴。
			107	N	うんうんうんうん。
			108	M	(?)からPV//に限っては。
			109	N	そうだよね。
			110	N	よくお願いしています。
			111	[沈黙]	
			112	N	そうですね、
			113	N	あの一、フットワークがすごく広告研究会は軽くて、
			114	M	はい。
			115	N	しかも、質が高いものをやらさせてもらっているんで、
			116	M	ああ。
			117	N	うちのライブでは、どうしても低いっていうのが[笑い]。
			118	M	ああ。
			119	N	なんでお願いをしてしまっているんですが。
			120	M	いや。
			121	N	割とやすいお金でお願いしちゃうってよね？
			122	M	まあ、安いと言っても、
			123	N	俺が学生だったら切れるな一みたいな。
			124	M	ああ、
			125	M	でも、終わった後に飲みやいいんで[笑い]。
			126	N	[笑い]
			127	[沈黙]	
	4	6	128	N	書きながらで、
			129	N	あれなんですけど、
			130	M	はい。
			131	N	取材協力してくださる方にいつも//ふくちゃんっていう//昔の、
			132	M	はい。
			133	M	はい。
			134	M	はい。
			135	N	今Wベアーっていう熊がいるじゃないですか？
			136	M	はいはい。
			137	N	あれの前に、漫画家の横山さんっていう人が//ふくちゃんっていうテレビでもアニメにもなったあれなんですけど、
			138	M	はいはいはいはい。
			139	M	はい
			140	N	Wのキャラクターとして、
			141	M	はい。
			142	N	ちょっと前まで使われていて、
			143	M	はいはい。
			144	N	でー、その時に使ったストラップなんですけれどもー、
			145	N	今も売られてないしー、
			146	M	えー。
			147	N	どこにもないんで、
			148	N	デットストックということで。
			149	M	え、そうなんですか。
			150	N	その価値があるという[笑い]//のみであげてるんで。
			151	M	えー。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			152	M	レアで。
			153	N	レアで。
			154	M	あーーーありがとうございます。
			155	N	だから、先輩の、広告研究会って先輩とかOBの関係はある？
			156	M	あります。
			157	M	あります。
			158	N	それにこれをちょっと見せると、
			159	N	今思っている以上のリアクションが{笑い}返ってくると思う。
			160	M	ああ、そうなんですか。
			161	M	へー、じゃあ、これ大事にします。
			162	N	はい。{笑い}
			163	N	{笑い}どうぞ。
			164	M	そんなところかな。
		7	165	M	活動経歴ってそんなぱつとしてることしてないんで、
			166	N	そうだよな。
			167	M	たぶんPV製作ということで。
			168	N	OKOK。
			169	N	広告研究会っていうと分かるかもしれないんで。
			170	N	あとね、今後の予定でカンヌに上映されるのが6月でしたっけ？
			171	N	あの一、//秋に持っていかれるのが。
			172	M	そうですね、はいはい。
			173	N	で、具体的にその日にちって、ごめなさい。
			174	M	6月19から25ですね。
			175	N	6月19から25ですね。
			176	M	はい。
			177	N	それって地上波が2月下旬に流れるっていうことなんだけど、
			178	N	これ掲載されるのが4月なんですよー。
			179	M	はい。
			180	N	それ以降で、//一般の学生が見れるチャンスってのはありますか？
			181	M	はい。
			182	M	えーと、一応うちのホームページで、//あの一、自由に見てもらえるよう//にはしようかなーとは//思ってるんですけど。
			183	N	うん。
			184	N	うんうん。
			185	N	あ、ほんと？
			186	M	はい。
			187	N	そっか。
			188	N	じゃあ、それかは、もしかしたら、
			189	N	書いちゃうんで、
			190	M	はい。
			191	N	(?)出したら、
			192	N	教えてください。
			193	M	はい、分かりました。
			194	N	広告研究会のあれですね？
			195	M	はい。
			196	M	あとは一、4月に入ってから、
			197	M	MXでももしかしたら、
			198	M	流れてるかもしれないですねー。
			199	N	MXで。
			200	M	MXで。
			201	M	これから放送に行って、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			202	M	打ち合わせするんですけどー。
			203	N	ああ、ほんと。
			204	N	じゃあ、それ原稿のやり取りの時に、
			205	N	4月、3月下旬とかに//(げら?)を見せて、
			206	M	はい。
			207	M	はい。
			208	N	構成したりしますんでー、
			209	M	はい。
			210	N	そんな時になんか、あの一、もしそれが実現するんであれば、
			211	N	書き加えていただければ。
			212	M	なるほど。
			213	M	これって4月の？
			214	N	の14日号。
			215	N	4月の7日から始まるんですけどー、
			216	N	一発目はもう決まっちゃっていて、
			217	M	へー。
			218	N	その時の週。
			219	M	じゃあ、これ新歓の時に。
			220	N	新歓迎の時かなりいいと思いますよ。
			221	M	すーごい助かります。
			222	N	{笑い}そうだね。
			223	N	いつもお世話になっているのでそれぐらいは。
			224	M	いやいやもう。
			225	M	いつも違反ばかりで、
			226	M	申し訳ない。
			227	N	{笑い}確かに。
			228	M	(?)の席だったら、
			229	M	いつでも手伝います。
			230	N	{笑い}
			231	N	じゃあ、そうですね、
			232	M	はい。
			233	N	また、やりとりの中で、
			234	N	今後の予定は何っていくということで。
			235	M	はい。
			236	M	はい。
			237	N	だいじょぶ？
			238	N	荷物置いちゃってだいじょぶ？
			239	K	荷物は。
			240	K	じゃあ、帽子取っていただいてよろしいですか？
			241	M	はいはい。
					[撮影]
			242	N	OK。
			243	N	はい。
Ⅱ	1	1	244	N	じゃあ、えーと、まあ、今回出るのがその一、何、Mさん自身が幹事長ということもあるんだけど、
			245	M	はい。
			246	N	広告研究会として
			247	N	出品されたんですよね？
			248	M	そうです。
			249	N	その一、経緯みたいなことを。
			250	M	はい、そうですね。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			251	M	まー、事の発端がちょうど1年前で、
			252	N	うん。
			253	M	あの一、僕は今幹事長なんですけど、
			254	M	その前、映像の責任者をやってまして、
			255	N	はい。
			256	M	ちょうど1年前に//なったんですけど一、
			257	N	うん。
			258	N	うん。
			259	M	で、
			260	N	代替わりの時//だよー。
			261	M	代替わりして。
			262	M	それで、今年は何やろうっていう時に、
			263	N	うん。
			264	M	僕がカンヌ行きたいって言い出して、
			265	N	うんうん。
			266	M	で一、今年は1年かけて、
			267	M	カンヌ行ってみよう。
			268	M	なんかカンヌ行けるだけの面白い映像作ろうと。
			269	N	うんうん。
			270	M	というようなところがことの発端で、
			271	N	うん。
			272	M	で、まあまず、カンヌ作る、
			273	M	行くために、
			274	M	どうすればいいかってことで、
			275	N	うん。
			276	M	色々調べたら、
			277	M	基本的にあれば、プロを対象として//いる。
			278	N	そうだよー、うんうん。
			279	M	だから、当然テレビで1回だけでも放送されることが条件で、地上波で。
			280	N	うんうん。
			281	M	そんで、地上波で流すと、
			282	M	結構お金がかかると。
			283	N	うんうん。
			284	M	で、自分達でお金を出すことを考えたんですけど、
			285	N	うん。
			286	M	まあ、広告研究会、研究しているからには、本来の流れに乗って//いいだろうかということで、
			287	N	うん。
			288	M	例えば、全国100ぐらいの自治体に//「クライアントとして、
			289	N	うんうん。
			290	M	僕らのやりたいことに協力してくれませんか。」という。
			291	N	うーん。
			292	N	依頼を出して。
			293	M	はい。
			294	N	なんでそういう自治体っていう制限を、制限というか、
			295	N	企業もある中で、
			296	M	はい。
			297	N	なんで自治体だったんだろう。
			298	M	そうですねー、
			299	M	そこが//ポイントというか、
			300	N	うん。
			301	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			302	M	まずカンヌ行こうって言った時に、
			303	M	カンヌ行くことが前提になっているんじゃないですか？
			304	N	そうだよね。
			305	M	なんで一、たぶんこう元企業とか、
			306	N	うん。
			307	M	やっぱり、もっと簡単だったと思うんだけど、
			308	N	あー、なるほど。
			309	M	でも、そうすると、
			310	M	知らないじゃないですか？//海外の人が商品見ても。
			311	N	うんうん。
			312	N	ああ。
			313	M	だから、僕らの実力にも限界があるんで、
			314	M	やっぱりある程度、どんな国でも分かる、分かりやすいテーマを扱おうという//ところだけだったんですけども。
			315	N	うんうん。
			316	N	はいはいはい。
			317	M	割と万国共通の、//こう公共的なテーマを取り扱えば、
			318	N	ああ。
			319	N	うんうん。
			320	M	まあ、同じ//土俵で少しは戦えると思ったんで。
			321	N	なるほどなるほど。
			322	M	それで、まあ自治体に電話掛けて、
			323	M	企画書送りまくったんですけど、
			324	N	うんうん。
			325	M	ほとんど門前払いで。
			326	N	実際そうだねー。
			327	N	うん。
			328	M	かなり厳しかったんですけどもー、
			329	N	うんうん。
			330	M	そんな中で、たまたま川崎市が//予算を、そういう何か市のイメージアップのための//漠然と、そのために予算を取ってて。
			331	N	うんうん。
			332	N	うんうん。
	2		333	N	プロジェクトチームみたいなのは川崎市にあったのかな？
			334	N	できたのかな。
			335	M	そうですね。
			336	N	うんうん。
			337	M	シティーセールズっていう。
			338	N	ああ、そうだそうだ。
			339	N	シティーセールズだ。
			340	N	うん。
			341	M	で、そのシティーセールズに予算があったんでー、
			342	N	うん。
			343	M	そこで、「話を聞いてみたい。」というふうに言ってきてくれて、
			344	N	うんうんうん。
			345	M	で、まあ、1回全国の自治体に送っているのとおんなじ企画書を送ったんですけども、
			346	N	うんうん。
			347	M	今思えば、
			348	M	中身がすかすかの企画書で、
			349	N	うん。
			350	M	ただCM作りたいっていうだけの//企画書だったんで、
			351	N	海外生行きたいと？

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			352	M	そう。
			353	N	{笑い}「目指すはカンヌです。」みたいな。
			354	M	思いは伝わったんですけど{笑い}、
			355	N	うん。
			356	M	出口になんのメリットがっていうのは、//「所詮、学生が作るCM程度で、
			357	N	うん。
			358	N	うん。
			359	M	その市のイメージアップなんて。」てことで、
			360	N	うん。
			361	M	同じようなことを言われたんですけど一、
			362	N	うん。
			363	M	川崎市が他と違ったのは、「もう1度企画書練り直し来てよ。」って言ってくれて、
			364	N	うんうん。
			365	M	そこから、色々考えて、
			366	M	で一、まあ今回の話とはあまり関係なくなるんですけど、
			367	N	うん。
			368	M	で、あの一、川崎市が受け入れてくれたのは、話題性というので、
			369	N	うんうんうん。
			370	M	目標対効果が高いということで、
			371	M	学生と市が協力して、
			372	M	カンヌを目指しますっていうことが話題性を呼んで、
			373	M	川崎市に注目が行くっていうところに、
			374	M	向こうは魅力を感じて、
			375	N	うん。
			376	M	で、お互いの理外が一致して、
			377	M	活用してくれたということになったと。
			378	N	特にあれですね。
			379	N	公共的なテーマとかは、//例えば、プラスとCMだと商品の売り上げとかになると思うんですけど、
			380	M	はい。
			381	M	はい。
			382	N	そうじゃなくて、
			383	N	話題になるということで、
			384	M	はい。
			385	N	川崎市自体のイメージが上がっていくみたいだね。
			386	M	そうですね。
			387	N	あっちのニーズもあったんだ、やっぱり。
			388	M	そうですね。
			389	N	うん。
			390	M	あと、川崎市自体が柔軟な姿勢があるというか、
			391	N	うん。
			392	M	いわゆる行政というカチカチした感じじゃなくて、
			393	N	うん。
			394	M	「面白いことやってみよう。」という
			395	N	優しいよね？
			396	M	はい。
			397	N	自分神奈川県出身なんだけど、
			398	N	川崎にそんなイメージない、
			399	N	抱いたことはない{笑い}。
			400	M	あーそう。
			401	M	でも、その部署が新しいだけあって
			402	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			403	M	「色々やってみよう。」っていう。
			404	N	何人くらいのチームだったの？あっちは。
			405	M	向こうは、いや、すごい少ないですよ。
			406	M	数人。
			407	M	僕らと直接関わっていたのは、//2人の担当の方で、
			408	N	うん。
			409	N	うんうん。
			410	M	あとは一、広報部の中に、
			411	N	うん。
			412	M	ある1つのセクションみたい。
			413	N	うんうん。
			414	M	人数は多くても4、5人//ぐらいじゃないですか。
			415	N	そうかそうかそうか。
			416	M	名刺に。
			417	M	それで、あとは、まあ、いざ川崎市が「じゃあ、何か作って、
			418	M	まずは絵コンテ持って来て。」って//いうふうに。
			419	N	うん。
			420	M	だいたいそこらへんで、
			421	M	企画は、契約自体は結ばなかったんですけど、
			422	N	うん。
			423	M	もうぼぼやる方向で、
			424	N	動き出す。
			425	M	動き出そうと。
			426	M	それで、それが決まったのがだいたい、まあ夏休みの間全部使って、
			427	M	その一、生涯活動をやってて一、
			428	N	うんうん。
			429	M	それが夏休みラスト1週した頃に、
			430	M	やっと川崎市が決まって、
			431	N	うん。
			432	N	//で、
			433	M	で、後期になって、
			434	M	「じゃあ、実際川崎市に持っていく絵コンテどうしようか。」って、
			435	M	そこで、第一歩になったと。
			436	M	まあ、その一、今後は、川崎市のCMを作るっていう段階に//なるんですけど、
			437	N	うん。
			438	M	まあ、そんな時に気をつけたのがコン、CMのコンセプトですね。
			439	N	うん。
			440	M	なんのために、CM作るかっていうと、
			441	N	うん。
			442	M	川崎市、//川崎市の要望としては、//やっぱりイメージがよくないと、川崎市の。
			443	N	うん。
			444	N	うん。
			445	M	で、それをなんとかしたいから、
			446	M	今回、学生と一緒にやると。
			447	N	うんうん。
			448	M	その意図を、まあ、うちの作品に伝えて、
			449	N	うん。
			450	M	川崎市というのは、公害のイメージを//外部からいだ、持たれてるけど、
			451	N	うん。
			452	M	実際行ってみたら、
			453	M	分かったんですけど、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			454	M	公害とかって印象はなくて、
			455	N	うん。
			456	M	近代的なきれいな
			457	N	駅前とかもきれいだよね？
			458	M	そうですね。
			459	M	すごい普通のよくある//まあ政令指令都市//みたいな。
			460	N	うんうん。
			461	M	全然公害のイメージがないのに、
			462	M	現実とイメージとのギャップがあるから、
			463	N	うん。
			464	M	それをCMの力で少し埋めようと。
			465	N	うん。
			466	M	そういうコンセプトでいこうと。
			467	N	うん。
			468	M	実はよくなってる、
			469	M	川崎は昔の姿から変化してるっていうのを
			470	N	うん。
			471	M	気づいてもらえるようなCMにしようと思いましたね。
			472	N	うん。
			473	N	要望として、川崎のイメージアップ、すごく要望を出す側としては、//めっちゃくちゃ漠然で[笑い]、
			474	M	はい。
			475	M	うんうんうんうん。
			476	N	やり手としては何でもできるじゃないですか？//そのイメージを。
			477	M	はい。
			478	N	かこつければっていうわけじゃないですけど。
			479	M	うんうんうんうん。
			480	N	公害っていうのは話し合って、公害問題っていうのは。
			481	M	いや、そこもう、//全振りというか
			482	N	うん。
			483	N	うん。
			484	M	「コンセプトというか、
			485	M	何から何まですべてお任せ//するから、
			486	N	お任せ。
			487	M	とにかく面白いのなんか持って来てよ。」って言われて、
			488	N	うん。
			489	M	最低限イメージアップに繋がるものっていうようなすごい縛りの少ない中で、
			490	N	うん。
			491	M	「やって。」って言われて、
			492	N	じゃあ、まず話題性ありきの方だったのかなあ？
			493	M	ていうわけでも//ないんじゃない//かな。
			494	N	なく。
			495	M	まあ、CMさく、今回の1つの企画の中のCM//という位置づけで、
			496	N	うんうんうんうん。
			497	N	うん。
			498	M	あんまりCM作りにあたっては、まあ、川崎市が抱かれているような現実とは違うイメージを変えれる//ものっていう//くらいですね。
			499	N	うん。
			500	N	うん。
			501	M	話題性っていうのはその企画全体//で、
			502	N	全体で。
			503	K	組んだっていうことだよな？

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			504	M	はい。
			505	M	で、組んだっての、
			506	M	話題性を呼んで、
			507	M	どーいうCMを作ったかっていうところで、
			508	N	うんうん。
			509	M	まあ、イメージアップに繋がる。
			510	M	イメージアップに//まあ、結局最終的に残ったCMってのは、公害を克服して、
			511	N	うん。
			512	N	うん。
			513	M	よくなってる街だということが、
			514	M	伝わる内容になっているんですけども、
			515	N	うん。
			516	M	他にも色々、その一、そういった僕らとの取り組みをするような、
			517	M	柔軟な姿勢を//持ってる行政を押し出したもの//もありましたし、
			518	N	うん。
			519	N	うん。
			520	M	そんなところに焦点を当てた、
			521	N	そうなんですか？
			522	M	はい。
		3	523	N	ごめんなさい。
			524	N	えーと、なんかメディアでこう見ると、
			525	N	なんかたまちゃん関係の//公害の、昔の話ですよ、みたいなCMを4本作ったっていう//印象だったんですけども、
			526	M	はい。
			527	M	はいはい。
			528	N	それ以外に色々なんか作られたんですか？
			529	M	はい。
			530	M	最終的に通ったのは、
			531	M	たまたま4本で、1シリーズの//やつ。
			532	N	うん。
			533	N	あー、うん。
			534	M	えー、まあ結局はその4本を1セットで1作品。
			535	N	うん。
			536	M	他にも10作品あったんですよ。
			537	N	ふーん。
			538	M	その10作品は落っこちちゃったんですけど、
			539	N	うん。
			540	M	向こうの、最終的には向こうの要望に沿わなかったっていうのと、
			541	N	うん。
			542	M	行政のよさをアピールする。
			543	N	だから、視点としては公害とかの//問題以外のところでも何個かやっぱりあって、
			544	M	はい。
			545	M	はい。
			546	N	進めてたんですね？//同時並行で。
			547	M	はい。
			548	M	はい。
			549	N	なるほどなるほど。
			550	M	それを同時に向こうに絵コンテという形で向こうに出して、
			551	N	うん。
			552	M	で、まあその段階ではまだ、よさがあったみたいで、
			553	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			554	M	「今度実際に映像に起こしてきてみてよ。」って形になって、
			555	N	うん。
			556	M	最後作品として、
			557	M	11作品として、
			558	M	持っていて、
			559	N	うん。
			560	M	そこで、第一次選考で、3作品に絞られたんですよ。
			561	N	うん。
			562	M	で、1つがその一、4本1セットのまあ今回最終的に残ってるやつ。
			563	N	うん。
			564	M	で、あと2本//残ったのが結局は。
			565	N	うん。
			566	M	で一、それで3本選ばれて、
			567	M	で、まあそれにも色々注文を付けられて、
			568	N	うん。
			569	M	「もっとこここうしてくれ。
			570	N	ああ、してくれ。」っていうのに答えて、
			571	M	1週間後に、もう一度作り直して、
			572	M	提案。
			573	N	うんうん。
			574	M	最終的に、1本に絞られたと。
			575	N	うん。
			576	M	最後の決断は、市長さんがしたらいいんですけど、
			577	N	うん。
			578	M	にいたるとい感じですね。
			579	N	うーん。
			580	N	こういうCM自体を作るのは、
			581	N	Mさんも初めての経験でした？Mさんにとっては。
			582	M	ああ。
			583	N	広告研究会では何回か？
			584	M	はい。
			585	N	やってる経験自体は、会自体はあると思うんですけど。
			586	M	はい。
			587	M	えーと、僕ですか？
			588	N	はい。
			589	M	僕自身はあの一、テレビで流れるCMということですか？
			590	N	はい。
			591	M	TVで流れるCMはたぶん広研では初めて//ですね。
			592	N	あー、
			593	N	ほんとですか？
			594	M	はい。
			595	M	今まで何本もずーと作って、
			596	M	CMを作るのは、
			597	M	コンクール出したりとか、
			598	N	うんうん。
			599	M	他大でコンテストしたとかはあるんですけど、
			600	N	うんうん。
			601	M	地上波で流す前提のCM作りは。
			602	N	ああ、そうなんだ。
			603	N	じゃあ、すごい快挙ですねー？広告研究会自体としては。
			604	M	そーかもいれないですね。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			605	N	{笑い}
			606	M	{笑い}自分のことなんで、
			607	M	よく分からないですけどね。
			608	N	なるほど。
			609		[沈黙]
			610	N	えーと、カンヌに出展っていうのはそんなに、
			611	N	出品っていうのは、そんなに簡単にはできない。
			612	N	実際に、地上波に流したら、
			613	N	全部持ってけるっていうものなんですか？
			614	M	はい、そうですね。
			615	N	あ、なるほどなるほど、そっかそっか。
			616	M	まあ、あんまり学生で、わざわざ地上波で流してまで、
			617	M	カンヌに出そうっていう、
			618	M	めんどくさいことあんまり思わなかったんじゃないですかね。
			619	N	ああ、なるほどね。
			620		[沈黙]
2	4		621	N	じゃあ、ちょっと話は変わるんですけど、
			622	M	はい。
			623	N	Mさん自身がそういう映像とか、
			624	M	はい。
			625	N	映像に興味を持っていたのかな？
			626	M	そうですね。
			627	M	広研に入った時は、
			628	M	やっぱり漠然と、なんか映像作るの面白そうだったので、
			629	N	うんうん。
			630	M	入りましたね。
			631	N	それまでに、高校の時とか、
			632	N	映像に興味があったんですか？
			633	M	あーーーー、そうですねー、
			634	M	Wを受ける前に、
			635	N	うん。
			636	M	あの一、僕1浪なんですけれども、
			637	N	うんうん。
			638	M	現役の時までは、
			639	M	あの一、芸大志望だったんですよ。
			640	N	おーーーーー。
			641	M	で、挫折して、
			642	M	こっち来んですけど。
			643	N	うん。
			644	M	まあ、元々そういうのに、映像だけじゃなくて、
			645	M	映像とかデザインとか、
			646	M	何か作る一//ことに興味があって一、
			647	N	うん。
			648	M	高校の時は、
			649	M	芸大に入るための受験勉強をしていたんですけど、
			650	N	ああ。
			651	M	実際受けてみて、
			652	N	うん。
			653	M	落ちて、
			654	M	で、もう1回自分のやりたいこと何かな一つ//考え直した時に、
			655	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			656	M	まあ、もうちょっと可能性の幅を広げて、
			657	M	W受けてみようかなーって。
			658	M	そしたら、たまたま広告研究会ってのが縁を感じる。
			659	N	{笑い}
			660	M	映像も作ってるし、
			661	M	それ以外もできることもそうだったので、
			662	M	入ってみて。
			663	M	まあ、入ったら
			664	M	映像にも色々あって、
			665	N	うん。
			666	M	まあ、あの一、イベントのVJとかも//やってみたんですけど、
			667	N	うん。
			668	M	そういう広告に関係ない映像作り//とかもやってみたんですけど、
			669	N	うん。
			670	M	やっぱり1番面白いのはPVとかCMとか作るのが面白くなっていうので。
			671	N	うんうん。
			672	N	PVとかCMの面白さってなんですか？
			673	M	そうですねー、
			674	M	何というか、
			675	M	コミュニケーションが前提というか、
			676	N	うんうん。
			677	M	あの一、何作るにしても、
			678	N	うん。
			679	M	こうPVだったら、
			680	M	その体育局の人の//話し聞いて、
			681	N	うん。
			682	N	うん。
			683	M	で、それを前提として作ったり、
			684	M	それを見る人が//どう思ってたことを考えて作ったり。
			685	N	うん。
			686	N	うんうん。
			687	M	こう絶対不可欠なんですけどー、
			688	N	うんうん。
			689	M	まあ、やっぱりVJとか映画とかって、
			690	M	まず自分ありきで、
			691	M	自分の作りたい物を//作るっていうので、
			692	N	広すぎて、
			693	N	うーん。
			694	M	時として、それが自己満足として、
			695	M	終わっちゃったりすることもあるんで、
			696	N	うん。
			697	M	(?)というか。
			698	N	うん。
			699	N	ある程度の縛りがあった方が、
			700	M	うん。
			701	N	あの一、れを乗り越えられるアイディアというか、
			702	N	浮かびやすいみたいなの？
			703	M	そうそう。
			704	N	なんか制約の中でやるのが面白いっていうか、
			705	N	うん。
			706	M	誰かがが言ってたのか、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			707	M	よく言うんですけど、
			708	M	「広告とは製作、制約のあるアートだ。」って//いうふうに。
			709	N	うーん。
			710	M	まあ、そこが、そこに面白さを見出したたというか。
			711	N	あーん。
			712	M	制約があるからこそ、
			713	M	面白いのようになって。
			714	N	うん。
			715	M	CMだったら、
			716	M	30秒40秒しかないじゃないですか？
			717	N	ええ。
			718	M	その中にどれだけ詰め込んで、
			719	M	面白い、一瞬で面白いと思わせるものができるかとか、
			720	N	うん。
			721	M	VIにしたって、ある程度いろんなこう、こう、たいく部ならたいく部に絡む要素とか、
			722	M	実際に流す//進学ビジョンの制約とか、
			723	N	うん。
			724	M	いろんな制約の中で、
			725	M	どれだけできるかっていう、
			726	N	うん。
			727	M	同じ制約があつたら、
			728	M	こう他にも作る人がいた時に、
			729	M	こう勝負しやすいというか。
			730	N	うんうんうん。
			731	N	まったく無で、
			732	N	どんどんっていうアートっぽいものを出すよりもっていうか。
			733	M	そうですね。
			734	N	うん。
			735	N	でも、広告研究会の中でも、
			736	N	「別に自分はそういう制約がない方が好きだ。」っていう人とかもいますよね？
			737	M	そう//ですね。
			738	N	そうでもない？
			739	M	いまーすー。
			740	N	うーん。
			741	M	どうか。
			742	M	やっぱり、まあ、いるっちゃいますね。
			743	N	うーん。
			744	M	いますけど、
			745	M	やっぱり//少なからず、
			746	N	うん。
			747	M	その制約の中で、
			748	M	やることに面白みを//感じるから、
			749	N	うんうん。
			750	M	やっぱり、やってる//と思うんですけども。
			751	N	うんうん。
			752	M	なんかこう逆行が逆にチャンス//というか。
			753	N	うんうん。
			754	N	分かります
			755	N	分かります。
			756	M	[笑い]なんか別にCM作りだけじゃなくて、
			757	M	すべてにおいて言えるかなって。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			758	N	なんか発想を転換した時の面白さというのがね。
			759	M	そうですね。
			760	N	うん。
	3	5	761	N	絵コンテとかどうやって、
			762	N	みんなで意見出し合って、
			763	N	作っていくというか、
			764	N	それぞれが持ち寄って、
			765	N	「いっせーのせ。」で//出してみたいな感じで、
			766	M	うん。
			767	N	やっていったんですか？
			768	M	今回に限って、
			769	M	今回に限ったことじゃないんですけど、
			770	N	うん。
			771	M	本当に、色々ですよ。
			772	M	なんかこうアイデアが//たまたま出やすい時もあるし、
			773	N	うん。
			774	M	出にくい時もあるし。
			775	N	うん。
			776	M	出やすい時は、
			777	M	みんな一人でたくさん書いてきて、
			778	N	うん。
			779	M	出にくい時は、
			780	M	もう白紙を前にどうしようみたいな//感じになる時もあるし。
			781	N	なるほど。
			782	N	みんなでやる作業？
			783	N	一人でやる作業？
			784	M	ああ、そういうのを一つの絵コンテにまとめていく作業。
			785	N	あ、それぞれが自分ちかな、
			786	N	電車に乗っている時、
			787	N	わーって書いたのを//持ち寄って、
			788	M	うん。
			789	N	一個の、一個とかなんか数個の//絵コンテに集約していくって感じ//なんですか？
			790	M	うん。
			791	M	うん。
			792	M	そうですね。
			793	M	ばらばらの絵コンテが1つに勝ち残っていくって//感じ。
			794	N	あー、なるほどなるほど。
			795	M	これとこれをくっつけるって//いうか。
			796	N	うん。
			797	M	まあ考えたものの中で、
			798	M	どれが1番面白いかっていうのを//1回決めて、
			799	N	うんうん。
			800	M	それをさらに全員でこうブラッシュアップする//って感じですか。
			801	N	うんうん。
			802	N	なん、何個ぐらいのあれが、
			803	N	何、母体っていうか、
			804	N	始め、何個ぐらいの//募集欄が//あったんですか？
			805	M	ああ。
			806	M	そーですね。
			807	M	だいたいいつあったかな？
			808	N	結構、川崎市と契約を結べたっていうか、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			809	N	一緒にやることになったってだけで、
			810	N	ちょっとしたムーブメントというか、
			811	N	盛り上がりを見せたでしょう？
			812	M	そうですね。
			813	M	それはもう、それはもうありましたね。
			814	N	ねえ。
			815	N	//で一、
			816	M	一夏かけましたから。
			817	N	{笑い}そうだよな。
			818	K	貴重な一夏。
			819	M	{笑い}
			820	N	たぶんそれぞれのやつが「願わくば俺が。」//ていうか、
			821	M	そうですね。
			822	N	やっぱり//頭の中で自分が書いたのがっていうのがあると思うんで、
			823	M	ああ、ああ、ああ。
			824	N	やっぱりやる気が//を出して、
			825	M	やる気はそうですね。
			826	N	が一ってきた分それを集約していく作業が、
			827	N	下手したら、
			828	N	喧嘩になるんじゃないかなー{笑い}と。
			829	M	ああ、そうですそうです。
			830	M	だから、僕ができるだけ、
			831	M	僕にこう//矛先が来ないように、
			832	N	うん。
			833	N	{笑い}
			834	M	選んでやって//もらったんですけど、
			835	N	{笑い}
			836	N	あーそうなんだ。
		6	837	N	でも、ある程度の選別は何、
			838	N	Mさんがこう中心こうやって。
			839	M	あー、完全にあの一、去年の僕の方針で、
			840	M	もう放置するっていうのが僕の方針だったんで。
			841	N	放置するっていうのはどういう感じなの？
			842	M	ほったらかしで、
			843	N	うん。
			844	M	好きにやってって。
			845	M	もう完全にほっといて
			846	N	うん。
			847	M	あの一、出来上がったものには僕から何もけち付けずに、
			848	N	うん。
			849	M	あの一、アドバイスを求められたら、
			850	N	うん。
			851	M	「こうした方がもっとよくなる。」というか、
			852	N	うん。
			853	N	自分の意見を言って。
			854	M	自分の意見はもう見せてもらって、
			855	N	うん。
			856	M	「もっとこうすればよくなる。」とは言いましたが、
			857	N	うん。
			858	M	「駄目だ。」っていうようなことは言わずに、
			859	N	うんうん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			860	M	で、それで、各グループ、50人ぐらいをグループに分けて、
			861	N	うん。
			862	M	それぞれの中で、
			863	N	うん。
			864	M	それぞれが思うように、
			865	M	1つないしは2つ//にしてもらったんですよ。
			866	N	うん。
			867	M	で、それで向こうに持っていったって感じになるんですけど。
			868	N	うーん。
			869	M	僕の意志は挟まずに。
			870	N	あつ、あとは、その一、あの一、各チームの//話し合いの中で、
			871	M	はい。
			872	N	精査がまあそれぞれが行って、
			873	N	選ばれてきた何十作品っていうのを、
			874	N	市の方に持っていったって感じ。
			875	M	そうですね。
			876	N	結構、50人っていうとさ、
			877	N	ちょっとした大集団じゃない？
			878	M	はい。
			879	N	で一、まだ2年生、3年生とかも、上級生とかもいたの？
			880	N	上級生とかもいたの？
			881	M	その時は、あんまり//いなかった。
			882	N	あんまりいなかった。
			883	N	そっか。
			884	M	はい。
			885	N	じゃあ、そんなに上、年上を気にすることは必要ないかもしれないけど、
			886	M	はい。
			887	N	それでもやっぱりね、
			888	N	同級生と1個下をまとめるっていうか、
			889	N	なんか、ちょっと大げさかもしれないんですけど、
			890	M	ああ、ああ、ああ、ああ。
			891	N	やっぱ気使いました？
			892	M	それは結構気使いましたねー。
			893	M	なんか、今思い出すと結構、
			894	N	うん。
			895	M	CM作る時に、
			896	M	なんかコンセプトを決めるんですよ、//このCMのコンセプトっていうのを。
			897	N	うんうん。
			898	M	それをこう一応あの一、好きにやらせるとはいつでも、
			899	M	ある程度途中段階で、
			900	M	こう全員の前で報告させて、
			901	N	うん。
			902	M	どういうコンセプトで作るっていう、
			903	N	ああ、
			904	N	の発表会みたいな？
			905	M	はい。
			906	N	ゼミみたいですね。
			907	M	うん。
			908	M	それで、結構ぐずぐずだったんですよ、その段階が。
			909	N	うんうん。
			910	M	あの一、これじゃ全然絶対にまずいと思って、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			911	N	うん。
			912	M	そんな時はまあ、まあ嫌われ役に徹して、
			913	N	うん。
			914	M	ここはもう、あの一、「駄目なところは駄目」って言う作業の繰り返しでしたね。
			915	M	色々まとめるって、
			916	M	どんな感じですか？
			917	N	結構あの一、何？
			918	N	あの一、学生がやるイベントって//そのサークル活動以外でも色々あるじゃないですか？
			919	M	うん。
			920	N	で一、まとめ役になる学生って//いろんなパターンで//嫌われ役に徹するとか、
			921	M	はい。
			922	M	はい。
			923	M	はい。
			924	N	もう何もしないとか、
			925	M	うん。
			926	N	もしくは、些細な//指示を与えていくとか、
			927	M	はい。
			928	N	//それぞれのやり方があると思うんですけど、
			929	M	あー、はいはいはいはい。
			930	N	M君は、そのどういうスタイルを好むのか//って、
			931	M	あーー。
			932	N	{笑い}ちょっと興味があつて。
			933	M	あーー、なるほど。
			934	N	うん。
			935	M	結構それは1年間こう模索して、
			936	M	ある程度見つけた//ところはあるんですけど。
			937	N	うん。
			938	N	うん。
			939	N	割と好きにこう放置していく感じ//なんですかね？
			940	M	そーですね。
			941	M	もう、僕は、そうですね、
			942	M	やり方としては、そうですね、
			943	M	たぶん最初の//こうスタートの段階は、すごくシビアに//見るんですけど、
			944	N	うん。
			945	N	うんうん。
			946	N	うん。
			947	M	一端こうシビアに見て、
			948	M	あの一、今回の例でいけば、
			949	N	うんうん。
			950	M	CM作りのコンセプトとかだけはシビアに見て、
			951	M	後はもう//とにかくほったらかすという。
			952	N	うん。
			953	M	もう野放し//というか。
			954	N	うんうん。
			955	M	放牧する//感じ、の一やり方が好きですね。
			956	N	{笑い}
			957	M	たぶん、その一、て言うのも、
			958	M	こう僕自身の経験というか。
			959	N	うん。
			960	M	僕がこう1年生だった時に、
			961	M	「やらせてくれればいいのにな。」っていうのが。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			962	M	こうたぶん分かっていることを上から言われると、
			963	M	すごくかちんとくるじゃないですか？
			964	N	うんうんうん。
			965	M	でー、その人の能力をいかに引き出すのかっていうのは、
			966	M	何も制約を与えないのが1番いいのかなって。
			967	N	うん。
			968	M	CM作りとまあ、矛盾するかもしれないんですけど//、制約って。
			969	N	うん。
			970	M	とりあえず、ほったらかして、
			971	M	あおって
			972	N	うん。
			973	M	「もっとできるもつとできる。」って言って、
			974	M	こうできるだけこう前向き、前向かすようにすることに徹しましたね。
			975	N	うん。
			976	N	Mさん自身は、自分の自分で絵コンテ、絵コンテ作ったり//されてたんですよね？
			977	M	はい、作ったりしました。
			978	N	何、そのー、思いが先行したりとかはしなかった？
			979	N	すごく他のスタート時点で、
			980	N	そんなみんな割りとぐずぐずだった時に、
			981	M	はい。
			982	N	「畜生、じゃあ、俺がやんなきゃ。」みたいな。
			983	M	あーーーーー。
			984	M	あー、多少はありましたーけどー、
			985	N	うん。
			986	M	でも、そんなに//そんなにまあ//思わなかったですね。
			987	N	はい。
			988	N	うん。
			989	M	まあ作る時は、
			990	N	はい。
			991	M	まあ僕も他のやつ//と同じ立場に作るんで。
			992	N	はいはい。
			993	N	自分、広告研究会のそのH君とか、
			994	M	うん。
			995	N	自分の、が学生時代の友達とか//のPVとか
			996	M	うん。
			997	N	そのVJ用とかのあれを撮影したりとかを見てるだけなんで、
			998	M	うん。
			999	N	広告1本のCMを作るってことの過程をちょっと知らないんですけど、
			1000	M	はい。
			1001	N	50人って結構大所帯ですよね？
			1002	M	はい。
			1003	N	10人いれば、
			1004	N	できるかなーって//思うんですけど。
			1005	M	そうそうそうそう。
			1006	N	ですよね？
			1007	N	その中で、1個の物を作っていくというのはやっぱり大変さもあるし、
			1008	N	面白さも//やっぱりあるのかなーって。
			1009	M	そうですね。
			1010	M	まあ、だから、突き詰めれば、
			1011	M	別に個人作業でできちゃうことだと//思うんですよ。
			1012	N	うんうんうん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1013	M	単に自分で絵コンテ考えて、
			1014	M	それを撮影して、
			1015	N	うん。
			1016	M	編集してっていうだけの作業ですから。
		7	1017	N	きよ、あの一、去年でいうか、
			1018	N	去年のプロジェクトがスタートするまでの、
			1019	N	毎年なんか、こういう広告研究会全体でなんか1個の何かにチャレンジするっていうのは、
			1020	N	毎年やってるんですか？
			1021	M	うーうーうん、そうですね、
			1022	M	何かにチャレンジする。
			1023	N	うん。
			1024	N	例えば、その映像責任者になった時に、
			1025	N	「じゃ、カンヌ行くぞ。」//って言って、
			1026	M	うんうん。
			1027	N	で、その50人が//こういうセクションなんかにわかれて、
			1028	M	はい。
			1029	N	やっていったと思うんですけど、
			1030	M	はい。
			1031	M	その前の去年、入ってきたばかりの時は、
			1032	M	あの、1個上の先輩達が。
			1033	M	ああ、は一、は一、は一、は一。
			1034	N	ていうのは、毎年広告研究会でなんかをやるってのは。
			1035	M	うん、そうですね。
			1036	M	毎回、スタート時点で、
			1037	M	今年は何やる//ってのは決めてやって。
			1038	N	やるっていうような。
			1039	N	ああ、その中で、その各メンバーが//そういうふうなセクションにわかれて
			1040	M	はい。
			1041	N	やっていくって感じ//なんですね。
			1042	M	はい。
			1043	M	はい。
			1044	M	僕の一前の代では、僕は目標を//カンヌっていうのに設定したんですけど、
			1045	N	うん。
			1046	M	僕の前代の映像の人は、//その「Wの電通になる。」って//いう目標を。
			1047	N	うん。
			1048	K	{笑い}
			1049	N	{笑い}分かりやすい。
			1050	M	分かりやすい。
			1051	M	で、「Wの電通になるんだ。」と。
			1052	M	で、どういうことかという、
			1053	N	うん。
			1054	M	今、結構学生生活課とうちが、あの一その、仲良くさせてもらっているんですけど、//PVの件とかでも。
			1055	N	うん。
			1056	N	うん。
			1057	M	そういう働きかけがくるきっかけになったの、
			1058	M	きっかけを作ったのがその人で、
			1059	N	うんうん。
			1060	M	電通っていうのは、こう、よそのだい、サークルとか、たいく部とかが「PVとかを作りたい。」ってなった時に、
			1061	N	うん。
			1062	M	まず、「広研頼もう。」って思われるようになっていた。
			1063	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1064	M	で一、あっちこっちに声掛けて、
			1065	N	うん。
			1066	M	劇団とかのPVを作るという意味での「Wの電通」に、//目指して、
			1067	N	うんうん。
			1068	M	で、今は一、それまではなかったんですよ。
			1069	N	うん。
			1070	M	よそのサークルのPV作ったりというのは。
			1071	N	うん。
			1072	M	今は、それを当たり前に結構やっているんですけど、//それなりに。
			1073	N	うん。
			1074	M	で、まあその年は、そう意味では、「Wの電通になろう。」「//というのがあって、
			1075	N	うん。
			1076	M	で、それを1年間通してずっとやってて、
			1077	N	うん。
			1078	M	僕がそれ、1年生の時に、//そういう。
			1079	N	うん。
		8	1080	N	その1年間ってすごいやっぱりなんか、自分、M君の中で、
			1081	M	はい。
			1082	N	これが面白かったっていうようなエピソードとか、
			1083	N	これは印象に残ってる？
			1084	N	感動したみたいな。
			1085	N	この1年間まだ終わっちゃいない、
			1086	N	出品するまで終わっちゃいないんですけど、//これまでで。
			1087	M	はい。
			1088	M	ああ。
			1089	M	これが面白かったとか、
			1090	N	嬉しかったとか、
			1091	N	感動したとか、
			1092	N	きつかったとか//でもいいんですけど。
			1093	M	ああ。
			1094	M	そうですねー、
			1095	M	だからー、たぶんなんすかねー。
			1096	M	きつかったていうと、
			1097	M	こういう面で、サークル運営面とか//実際に作る時のつらさとか色々あると思うんですけど、
			1098	N	うん。
			1099	N	うんうん。
			1100	N	すごくなにか、ぱっと1年間で浮かんだ、
			1101	N	「この1年間。」って言われて、
			1102	N	ぱっと浮かんでいる//やつとしたら。
			1103	M	ああ。
			1104	N	もう1個1個、個々の作業とか//CMごとに面白さとか、
			1105	M	ああ。
			1106	N	つらさとかやっぱりそれぞれあると思うんですよ。
			1107	M	うん。
			1108	N	でも、その中で、今ぱっと浮かぶようなものは。
			1109	M	具体的なものがいいですかね？
			1110	N	ああ、そうですね。
			1111	M	具体的だとー。
			1112	N	具体的じゃないやつだと、
			1113	N	どういう感じなんですか？
			1114	N	あー。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1115	N	なんでもいいよ。
			1116	M	そうですね。
			1117	M	まず、具体的なやつだと、
			1118	N	うん。
			1119	M	結局は、終わった時の飲み会だと思うんですねー。
			1120	N	ああ、なるほどね。
			1121	M	集まる場所は、もうなんか映像チームを結成して、
			1122	M	1年やる。
			1123	N	うん。
			1124	M	それがまあ、こう、最初に決めた12月半ばっていう日をもって、
			1125	N	うん。
			1126	M	解散するんですけど、
			1127	N	うん。
			1128	M	その解散する飲み会をして、
			1129	N	うん。
			1130	M	それで、まあ、1年間のお役ごめんになるん//ですけど、
			1131	N	うんうん。
			1132	M	その時はもうやっぱり、//今までにない達成感というか。
			1133	N	うん。
			1134	N	うんうんうんうん。
			1135	M	何やってもそうだと思うんですけど、
			1136	N	うん。
			1137	N	普通にその、作ってる時に、
			1138	N	飲みに行ったりして、
			1139	M	うん。
			1140	N	あの一、飲みの場所でも盛り上がったりするじゃない//アイデアが出て、
			1141	M	はい、はいはい。
			1142	N	そういう楽しさとは全然違う？
			1143	M	そう。
			1144	N	達成感というか、感無量の。
			1145	M	ていうのも、やってて、
			1146	M	こう箇所箇所で、すごいつらいことが何回もあったんですけど、
			1147	N	うん。
			1148	M	その都度、思い浮かべたのが、たぶん終わった後の最後の//飲み会っていうことを、
			1149	N	{笑い}
			1150	M	その時、最高の形でお酒を飲めることを、
			1151	M	イメージして、
			1152	M	ずっとやってたんで、
			1153	N	うんうん。
			1154	M	だから、無駄に期待も大きかった分//、みんなからのいろんな、すごくよく言うサークル的な感じですけどね。
			1155	N	うん。
			1156	N	うーん。
			1157	M	精神論的なこと//くらいしか残らないですけども。
			1158	N	うん。
			1159	N	なるほど。
4	9		1160	N	精神論的なのはどいう？
			1161	M	サークルにおいてだけでなく、
			1162	M	今後の生き方の//1つの、あの一、自分の基準みたいのをこう見つけた年のような気がして。
			1163	N	うんうんうん。
			1164	N	どいう感じ？
			1165	N	すごく漠然として、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1166	N	言いづらいかもしれないんだけど、
			1167	N	どういう感じの？
			1168	M	書くものありますか？
			1169	N	あ、いいよいいよ。
			1170	M	図を。
			1171	N	いいよいいよ。
			1172	M	この目標設定というか、
			1173	N	うん。
			1174	M	目標設定の仕方をいうか
			1175	N	うん。
			1176	M	あの一、去年見出したことの1つに、可能だと思うところには、
			1177	N	うん。
			1178	M	可能性てのは絶対に生まれないものだなと。
			1179	N	うん。
			1180	M	というのは、今自分がいるじゃないですか？ここに。
			1181	N	うん。
			1182	M	今がいて、
			1183	M	で、1年後があつて、
			1184	N	うん。
			1185	M	で、カンヌに行こうって言った理由はこれなんですけど、
			1186	N	うん。
			1187	M	カンヌっていう一見、たぶん不可能なことが、
			1188	N	うん。
			1189	M	ここに行くことすら、
			1190	M	不可能だと思われる目標があるじゃないですか？
			1191	N	うん。
			1192	M	で、いて、
			1193	M	去年、映像チーム、なんか目標ほしいなと思って、
			1194	M	たぶんこう、学内の賞とか//国内の学生賞ところに目標を設定しようかと思ったんですよ。
			1195	N	うんうんうん。
			1196	N	うん。
			1197	M	まあ、
			1198	N	通過点としてってこと？
			1199	M	通過点というか、
			1200	N	うんうん。
			1201	M	最終目的//としてこれを。
			1202	N	あー。
			1203	N	カンヌがもうあまりにも天の上みたいな感じなのね。
			1204	M	でも、こう違うなど。
			1205	M	たぶんこう確実に昇っていけば、
			1206	N	うん。
			1207	M	ここに頑張れば
			1208	M	到達できるんですけど、
			1209	N	うん。
			1210	M	この、でも、Wを目指していたら、
			1211	M	Wに行けないかもしれないじゃないですか？
			1212	N	うんうん。
			1213	M	T大目指していたら、
			1214	M	きっと、Wには行けるじゃないですか？
			1215	N	うんうん。
			1216	M	それと一緒に、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1217	M	これが言わば東大で、
			1218	M	こっちがWで、
			1219	M	//こっちを目指さない限り、
			1220	N	うん。
			1221	M	たぶんこっちが目標にしてたら、
			1222	M	絶対このへんとかには行けないと思うんですよ。
			1223	N	うんうんうん。
			1224	M	こっちを目指してて、
			1225	M	仮にここに行けなかったとしても、
			1226	N	うんうん。
			1227	M	ここに行ければ、
			1228	M	この自分でこう行けると思っていたここよりも、
			1229	N	うん。
			1230	M	2ステップいけなかったここよりも高いところにいるじゃないですか？
			1231	N	あれじゃないの？
			1232	N	自分の理想以上に自分はよくならないみたいな//感じだよね？
			1233	M	そうそうそう。
			1234	M	だから、こう、もうだから、たぶん今後、生きてく上で、
			1235	N	うん。
			1236	M	こっちにすごく価値観を置いているいるというか、
			1237	N	うんうんうん。
			1238	M	あの一、こう不可能に思うところに、
			1239	M	目標を設定しないと、
			1240	M	たぶん//今自分が思っている理想以上のところには行けないと。
			1241	N	うん。
			1242	N	うんうん。
			1243	M	ここに行くことは、
			1244	M	ここに目標を設定すれば、
			1245	M	できるんですけど、
			1246	M	絶対にそれに設定してる限りはここにはたどりつかないと。
			1247	M	仮に、だから、ぶっちゃけ、別にカンヌには行けなくてもよかったんですよ。
			1248	N	うんうんうんうん。
			1249	M	カンヌ行けなくても、
			1250	N	その1年後に、その実際に達した//ところのね、高さを見ればっていう。
			1251	M	そうです。
			1252	M	そうです。
			1253	M	そうです。
			1254	M	だから、今このへんなんですよ。
			1255	M	たぶん賞は取れない、カンヌで。
			1256	N	ううーん。
			1257	M	カンヌに出品することはできたんですけど、
			1258	N	うんうん。
			1259	M	でも、賞は取れないと思いますよ。
			1260	N	うん。
			1261	M	でも、それなりにしろ、
			1262	M	たぶんこのへんにいると思うんですよ。
			1263	M	たぶんここよりは。
			1264	N	うん。
			1265	M	ていうこの低いところに目標を設定しなくてよかったかなっていうのは、
			1266	M	3段分くらい//普通よりこう。
			1267	N	うんうん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1268	M	それは普通にCMを作ることだけではなくて、
			1269	M	こう、こういうのが、すべてのことにおいて、モチベーションになって、
			1270	N	うん。
			1271	M	やる気に繋がるというか、//たぶん。
			1272	N	うん。
			1273	M	という仮説を立てたという、1年前に。
			1274	N	うん。
			1275	M	それを1年やって
			1276	M	実証できたと//いう感じが。
			1277	N	ああ、なるほどね。
			1278		[沈黙]
			1279	M	それがまあ1番やってて得られた//もの。
			1280	N	得られたもの。
			1281	N	それはすごくあれだよな。
			1282	N	よくそういう人の話とかで言われるけど、
			1283	N	それをよく//皮膚感覚で//実感できたってのはすごく大きいよね。
			1284	M	うん。
			1285	M	そうですね。
			1286	M	そうですね。
			1287	M	たぶん説明されりや
			1288	M	「そうかもね。」って思うんですけど、
			1289	N	うん。
			1290	M	それを実際にやってみて、
			1291	N	分かります、
			1292	N	分かります。
			1293	M	それが本当にそうだったなど。
			1294	M	思ったのがたぶん1年通して、
			1295	M	「やればできる、
			1296	M	やればできる。」って言い続けて、
			1297	N	うんうん。
			1298	M	やってきて、
			1299	M	やれば確かに、ここが賞取るかは分からないんですけど、
			1300	M	「やればできないことはないんだなあ。」と。
			1301	N	うんうん。
			1302	M	だから、やればできると思うことと、
			1303	M	あとは、有言実行の大切さ//といいますか。
			1304	N	{笑い}
			1305	M	{笑い}もうほんとに。
			1306	N	{笑い}言ったからには//やらなくちゃならない、
			1307	M	言ったからには。
			1308	N	動いていかなくてはならないみたいだね。
			1309	M	そうですね。
			1310	M	書面に落として
			1311	M	約束するんですよ。
			1312	M	「ここに行きます。」っていうのを、こう最初に。
			1313	N	うんうん。
			1314	M	だから、
			1315	N	え、川崎市にとか？
			1316	M	いや違います。
			1317	M	その広研の中で。
			1318	N	中で。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1319	M	その一、レジュメの形で。
			1320	N	あー、なるほどね。
			1321	M	それで、みんなの前で約束して、
			1322	M	「これでやるから、
			1323	M	やらしてくれ。」って。
			1324	M	それで、OKってなって
			1325	M	動き出すんで、
			1326	N	うん。
			1327	M	一回言ったからには、
			1328	M	絶対にいかないと、
			1329	M	後がないっていうので。
			1330	N	うん。
			1331	N	かっこ悪いしね。
			1332	M	そうですね。{笑い}
			1333	M	{笑い}もうこれで、駄目でしたってなったら、
			1334	M	どうしようって、
			1335	M	有言実行の精神とやればできると、
			1336	M	もう自分に言い聞かせるように、
			1337	N	うん。
			1338	M	やってきた感じで。
			1339	N	へー。
			1340	N	それはすごく分かる//感じですね。
			1341	M	{笑い}
	10		1342	N	で、はい。
			1343	N	えーと、実際1年やって、
			1344	N	あのー、この話、すごい面白かったんですけど、
			1345	M	ああ。
			1346	N	まあ、映像に興味があって、
			1347	M	はい。
			1348	N	でー、Wに来て、
			1349	M	はい。
			1350	N	広研に入って、
			1351	N	こう映像やってきて、
			1352	N	で、今は映像関係じゃなくても、
			1353	N	1番始めの話、会話に//戻るんですけど、
			1354	M	はい。
			1355	N	「物作りやったら、
			1356	N	面白そうだな。」って思って、
			1357	M	うんうん。
			1358	N	そういうある意味、視点が広がった//じゃないのかなって思ったんですけど、
			1359	M	はいはい。
			1360	M	そうですね。
			1361	N	きっかけというのはあるんですか？
			1362	M	あー、そうですね、うーん。。
			1363	N	要は、例えば、学研の付録とかも//面白そうだなと、
			1364	M	はいはいはい。
			1365	N	付録作りとかと思うんですが、
			1366	N	そうですね。
			1367	M	きっかけって何かな。
			1368	M	たぶんまだその、物作りだけじゃなところにまあ興味があって、
			1369	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話 段	話 段	小 話 段	発 話 番 号	参 加 者	発話例
			1370	M	最初の広研に入ったことも、
			1371	N	うん。
			1372	M	映像作りたいとか、
			1373	M	何かを作りたいという思いがあったんですけど、
			1374	N	うん。
			1375	M	割と今はその一、ただ就職活動の時の、//話、たぶん候補として挙がるのは、
			1376	N	うん。
			1377	N	コンサルティングというところに興味を抱き始めて、
			1378	N	なるほど。
			1379	M	なんでそういうところに興味を抱くのかなって自分でもちょっと、自問//自答をしたんですけど、そんな時。
			1380	N	うんうん。
			1381	M	なんですかねー。
			1382	M	たぶんこの1年でやってきたことがきっかけになのは間違いないかな。
			1383	N	物なんだ？
			1384	N	それは意外だったんですけど、
			1385	N	映像から別の物作りにシェアが広がったのかなって、
			1386	N	一番始めの時//思ったんですけど、
			1387	M	ああ。
			1388	N	コンサルになると、
			1389	N	その一、制作の、システムですよ？
			1390	M	うん。
			1391	N	システム過程を作っていくという//形になるじゃないですか。
			1392	M	うんうんうん。
			1393	N	そっちの方も面白そうだなって。
			1394	M	そうですね。
			1395	M	あつ、分かった。
			1396	M	たぶん問題解決能力というか、
			1397	N	うん。
			1398	M	すべてに共通しているのは。
			1399	N	うん。
			1400	M	CMもそうですし、
			1401	M	CMもこう何かしら、
			1402	N	うん。
			1403	M	今回で言えば、
			1404	N	うん。
			1405	M	あのー、あれがあるじゃないですか？
			1406	N	うん。
			1407	M	なんだ、
			1408	M	川崎市のイメージアップを作る。
			1409	N	うん。
			1410	M	イメージが悪いっていう問題があって、
			1411	M	これをいかにして、
			1412	M	解決するかっていうので今回。
			1413	M	元々は、カンヌに行きたい//つてのがあって、
			1414	N	うん。
			1415	M	それだけじゃ足りないってことに気づいて、
			1416	N	うんうん。
			1417	M	何か問題解決能力と、それを提案するだけの力が必要なんだっていうことに気づいて、
			1418	N	うん。
			1419	M	それを実際に形に落とした時に、
			1420	M	受け入れられた時の喜びとかっていうんで、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1421	M	意外と自分はそういうことに喜びを覚える。
			1422	M	何かこう、問題があるところに、
			1423	M	自分なりの解決を提案して、
			1424	M	それが受け入れられた時に、
			1425	M	楽しいと思って、
			1426	N	うん。
			1427	M	たぶんこう商品開発にしても、
			1428	N	うん。
			1429	M	こう、なんにしてもすべてに。
			1430	M	だから、たぶんそのコンサルティングにしても、
			1431	M	あの一、企業の経営コンサルタントとかも、
			1432	M	経営状態をいかにして//立て直すかというその問題解決能力と提案能力じゃないですか？//現状意分析とか。
			1433	N	うん。
			1434	N	うん。
			1435	N	うん。
			1436	M	ていうところの力を身に着けたいなと思ってるんだと思うんですよ。
			1437	N	うーん。
			1438	M	だから、依然VJというのに興味を抱かないし、
			1439	N	うん。
			1440	M	アーティストになろうと思わないのは//たぶんそういうことかな。
			1441	N	うん。
			1442	N	その、何、軸はぶれてないのかなって聞いてて。
			1443	M	うん。
			1444	N	あの一、要は、VJとか、あの一、物作りのアートって言うか、
			1445	M	うん。
			1446	N	自分が作りたくて、
			1447	M	うん。
			1448	N	これが面白いものだっていう商品開発よりは、
			1449	N	何か世の中にある//漠然とした問題であったり、
			1450	M	うん。
			1451	M	うん。
			1452	N	目の前にいる誰かが困っている人のためにも//開発であったり、
			1453	M	うん。
			1454	M	うん。
			1455	N	コンサルティングって方がやりがいがあるんだね。
			1456	M	そうですねー。
5	11		1457	M	あの一、僕が今年やろうと思ってることで、
			1458	N	うん。
			1459	M	ラウンジのマナー改善。
			1460	N	おーーーーー。
			1461	N	ぜひやってもらいたいね。
			1462	N	うん。
			1463	M	だから、学生生活課とうまく協力して、
			1464	M	できないかなと思って。
			1465	N	何それ。
			1466	N	ちょっと、今から連れてって、
			1467	M	{笑い}
			1468	N	言ってきたいよ。
			1469	M	{笑い}だから、今度話させてもらいたいなと。
			1470	N	ほんとに？
			1471	M	ラウンジマナーを一、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1472	N	ラウンジとかね。
			1473	N	今だとなんかさ、
			1474	N	うちウィクリーだから、
			1475	M	はい。
			1476	N	ちょっと、同じ学生課でもちょっと//違うんだけどさ、
			1477	M	はい。
			1478	N	ねえ、「マナーが悪い、
			1479	N	じゃあ、撤去します。」とか、
			1480	M	はい。
			1481	N	その二段とびはないだろうって//いう感じだね？
			1482	M	そう、
			1483	M	そう思うんですよ。
			1484	M	たぶん、こう問題を解決するためにはそれにふさわしい方法が絶対あるはずで、
			1485	N	うん。
			1486	M	それを僕らは提案するサークルであろうというのが。
			1487	N	もう広告研究会じゃないよね？
			1488	M	[笑い]なんかね。
			1489	M	でも、広告の1つなんですけど、
			1490	N	うんうん。
			1491	M	なんか問題があって、
			1492	M	それをいかに改善するかっていう時に、
			1493	N	うん。
			1494	M	ああいう、「撤去しますよ。」っていう紙も1つの広告//として捉えてて、
			1495	N	うん。
			1496	N	うん。
			1497	M	でも、広告としては、もっとできることがあって、
			1498	N	うんうん。
			1499	M	そういう、こうなんて言うか、
			1500	M	「撤去します。」っていうそういう二段とびじゃなくて、
			1501	M	何かこう、うまい解決方法を//それを何か1つのイベント的なものであったり、
			1502	N	うん。
			1503	N	うん。
			1504	M	いろんな広告物であったり、
			1505	N	うん。
			1506	M	あの一、まずは自分達で机をきれいにしるところから始まるかもしれないし。
			1507	M	特に、12号館のマナーが悪いことを僕は感じてて。
			1508	N	12号館ってごめん、
			1509	N	どこだっけ。
			1510	M	えーと、あそこですね。
			1511	N	あそこか、あの一階のどこでしょ？
			1512	M	1階のどこです。
			1513	N	うんうん。
			1514	M	あそこがひどい。
			1515	N	タバコ吸い放題だもんない、あれない。
			1516	M	ゴミブリは出るしー、
			1517	N	うん。
			1518	M	10時頃行ったら、
			1519	M	ごみの散乱がひどくて、
			1520	N	うんうん。
			1521	M	で、あそこで、たまに長引いた時、
			1522	M	たまにミーティングで使ったりするんですけど、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1523	N	うん。
			1524	M	なんかならんかなーって思ってた、
			1525	N	うん。
			1526	M	それをこう、大学当局側からこう学生に対して言うんじゃないくて、
			1527	M	なんかもっと面白いアプローチ方法で、
			1528	N	うん。
			1529	M	それを変えれたら、
			1530	N	うん。
			1531	M	それこそ、僕の//僕の中にある、
			1532	N	うん。
			1533	M	その、面白い、
			1534	M	役にも立つし、
			1535	N	うん。
			1536	M	これ程いいことないだろうって。
			1537	N	ないよね。
			1538	N	ないよねって、
			1539	N	あと、やっぱりその、声として、
			1540	N	ウィークリーとしての広報の//公聴っていう感じで、
			1541	M	はい。
			1542	N	学生の声も聞けるところでもあるんですけど、
			1543	M	はい。
			1544	N	すごくそのラウンジであったり、
			1545	N	タバコのマナーであったり、
			1546	N	「改善してよ。」って、
			1547	N	「改善したいよ。」とか、
			1548	N	そういう早大生が恥ずかしいと思う潜在的な//声っていうか、
			1549	M	うん。
			1550	N	受容がすごくあるんですよ。
			1551	M	ほー、ほー、ほー、ほー。
			1552	N	だから、その例えば、その一、M君がさくつと、
			1553	N	その同じ学生の視点でやってくれたら、
			1554	M	うんうんうんうん。
			1555	N	すごく反応する？
			1556	M	ああ。
			1557	N	あの一、私情っていうのがすごくあるっていうだけは//分かりますね。
			1558	M	ああ。
			1559	N	へー――。
			1560	M	だから、なんかそういう、たぶん広告研究会としても、
			1561	M	僕としても、なんかこう自分1人だけがやりたいこととかをやるんじゃないくて、
			1562	N	うん。
			1563	M	その一、W広告研究会で行うイベントにしても、
			1564	N	うん。
			1565	M	自分一人がやりたいということよりかは、
			1566	M	なんらかのニーズがある時に、
			1567	M	こう僕らなりの//提案をできるような。
			1568	N	うん。
			1569	M	だから、そういうあの一、ラウンジのねえ、
			1570	M	マナーをどうのこうの言うのが恥ずかしいと思うんだったら、
			1571	N	うん。
			1572	M	むしろ逆に面白いことだと言いたいんですけどね。
			1573	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1574	M	学校がきれいであることって、
			1575	M	誰にとってもメリットなはずだし、
			1576	N	うん。
			1577	M	きれいに使わないのかっていうのは、
			1578	M	すぐまず、それから、こう分析するところから始めようかなと思って。
			1579	N	もう立ち、立ち上げたいなっていう感じ？
			1580	N	立ち上がろうとしての感じなんですか？
			1581	M	はい。
			1582	M	今、話を決めている段階です。
			1583	N	ああ、ほんとですかー。
			1584	M	今、代替わり完全に終わってないんで、
			1585	N	あ、そうかそうかそうか。
			1586	M	これからなんですけれども。
			1587	N	今年から幹事長ですもんね？
			1588	M	そうですね。
			1589	N	なるほどね。
			1590	N	あーじゃあ、ぜひ4月に載せるんで。
			1591	M	はい。
			1592	N	ホームページとか連絡先とか(笑い)教えてね。
			1593	N	なるほどね。
6	12		1594	N	で、そっか。
			1595	N	そしたら、なんか、なんだろう。
			1596	N	Eメールとかは特に公開しなくていい？
			1597	M	あー僕のですか？
			1598	N	うん。
			1599	N	あの一、広告研究会自体のホームページって結構立派じゃないですか？
			1600	M	ああ。
			1601	N	なんか、//CM自体は一、を載せるっていうんで、
			1602	M	あ、じゃあ。
			1603	M	はい。
			1604	N	URLはぜったい載せようと思うんですけど、
			1605	M	はい。
			1606	N	あとは、興味ある人Eメールみたいなの。
			1607	M	ああ、そうですね。
			1608		[沈黙]
			1609	K	WEBには載せる載せないって話は？
			1610	N	あーー、そうだ。
			1611	N	それ持ってくるの忘れた。
			1612	N	ありがと。(笑い)
			1613	N	そう、それでー、//えーと、ごめんなさい。
			1614	M	はい。
			1615	N	これ「ウィークリー」にまあ//掲載するということで、
			1616	M	はい。
			1617	M	はい。
			1618	N	あの一、今取材をさせてもらっているんですけど、
			1619	N	えー、それ以外の「Wコム」であつたりとか、
			1620	N	他のW大学が管理して、
			1621	M	はい。
			1622	N	「ウィークリー」って学生広報の立場なんですけども、
			1623	M	はい。
			1624	N	校友の広報とか、//対外の広報とか

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1625	M	はい。
			1626	M	はい。
			1627	N	進学生、受験生がいる高校とかの広報媒体が何個かあるんですよ。
			1628	M	はい。
			1629	N	そこにも「ウィークリー」の掲載ということで、
			1630	N	あの一、転載してしまう可能性があるんですけど、
			1631	N	それは特に構わないです//かね？
			1632	M	あ、はい。
			1633	M	じゃんじゃんしちゃってください。
			1634	N	分かりました。
			1635	N	で、基本的に、ウェブで掲載する場合は、
			1636	M	はい。
			1637	N	あの一、ウイルスメールとかがWにきてしまうんで、
			1638	M	はい。
			1639	N	紙面には//こちら載せるんですけど、
			1640	M	はい。
			1641	M	はい。
			1642	N	あの一、ウェブの方は、これ載せないという形にしますんで。
			1643	M	はい。
			1644	M	そうなんですか？
			1645	N	はい。
			1646	M	この「waseda.com」とか？
			1647	N	あの一、どうしよう。
			1648	N	URL//は載せた方がいいよね？
			1649	K	URLは。
			1650	M	こっちはぜひ載せていただけると。
			1651	N	Eメールは？
			1652	K	Eメールもばんばんたくさんくる//っていうリスクよりも、
			1653	N	うん。
			1654	N	載せたいということであれば、
			1655	K	載せたければ、
			1656	K	載せますけど。
			1657	M	でも、あの、Eメールはこちらに飛んでいただければ、
			1658	N	うん。
			1659	K	送れますよね？
			1660	N	送れますんで。
			1661	M	じゃあ、あの一、これだけ載せていただければ。
			1662	N	分かりました。
			1663	K	分かりました。
			1664	M	はい。
			1665	M	ちょっとヒット数が少なくて
			1666	M	喘いでいますんで。
			1667	N	あーー、やつぱりそうだよね。
			1668	N	うーん。
			1669	N	なんかポータルとかって見てます？Mさん自身。
			1670	N	Wポータルとか。
			1671	M	はい、見てます。
			1672	N	そうか。
			1673	N	こころへんで使えるのがあったらいいな。
			1674	M	なんかもっとWネットポータルで、
			1675	M	こう学生と、たぶん学生団体とかっていうのと、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1676	M	もっとポータルサイトとか、
			1677	N	リンクすればいいのにね。
			1678	M	立てるとか。
			1679	N	そう。
			1680	N	こう、ポータル自体が出来上がったばかりで、
			1681	M	あー、あー。
			1682	N	なんかそこらへんのことが今改善中で、
			1683	M	はい。
			1684	N	福田君とかも今考えてるんだと思うんで。
			1685	M	はい。
			1686	N	今年度だよ。
			1687	N	来年度か、来年度。
			1688	N	それもどンドン言ってあげて。
			1689	M	ああ。
			1690	N	叩きつけられると思うんで。
			1691	M	はい。
	13		1692	N	後は、もう時間もちょっとないんで、
			1693	N	なんか言い残した、
			1694	N	このCMに関係すること以外の面ことでも、
			1695	M	はい。
			1696	N	その後のことでもなんでも、
			1697	M	はい。
			1698	N	なんかありますか？
			1699	N	言い残したこと、もしくは
			1700	N	まあ、メインが読者、W大生になるんで、
			1701	M	うんうん。
			1702	N	とかに伝えたいこととか。
			1703	M	そうですねー。
			1704	N	(?)の話は置いといて。{笑い}
			1705	M	{笑い}そうですねー。
			1706	N	はい。
			1707	M	何か言ってた。
			1708		[沈黙]
			1709	M	うーん。
			1710	N	すごく充実した、
			1711	N	なんか聞けたっていう感じ{笑い}なったんで{笑い}。
			1712	M	{笑い}
			1713	N	1時間も。
			1714	K	あの、帽子もかぶっていただいて。
			1715	M	ああ、はい。
			1716	N	たた、立ってもらってもいい？{笑い}
			1717	M	{笑い}
			1718	M	うーん、そうですねー。
			1719	N	上向いた方がいい。
			1720	K	そう。
			1721	M	あー、僕、偏見かもしれないんですけど、
			1722	N	うん。
			1723	M	あの一、インターンシップとか、
			1724	N	うん。
			1725	M	起業したりする学生に、僕、共感できないんですよ。
			1726	N	うんうん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1727	M	別にこれと全然関係ないんですけど。
			1728	N	うんうんうん。
			1729	M	あの一、ていうのも//なんかどうも。
			1730	N	うん。
			1731	N	割とちょっと上め向いて。
			1732	M	ああ。
			1733	M	なんか学生でもできると思って、
			1734	N	うん。
			1735	M	やってるのかなって気がしてしまって、
			1736	N	あーーーー。
			1737	M	社会人になる、あの一、準備として、
			1738	N	うん。
			1739	M	インターンシップしたりとか、
			1740	N	うん。
			1741	M	そうじゃない人もいるかもしれないんですけど、
			1742	N	うん。
			1743	M	なんかこう、僕がこう今年幹事長をやろうと思ったのは、
			1744	N	うん。
			1745	M	学生でもできるというよりは、
			1746	M	学生だから//できるということを、
			1747	N	うん。
			1748	M	大学4年間って楽しいんだろうなって
			1749	M	感覚的に思って、
			1750	N	なるほどね。
			1751	M	だから、インターンシップも今年もする気はないし、
			1752	N	うん。
			1753	M	ましてや起業も、//起業っていう学生の立場でありながら、
			1754	N	うん。
			1755	N	うん。
			1756	M	社会人と対等な立場で戦おうとすることじゃないですか？
			1757	N	うん。
			1758	M	それってなんか違うなと僕は思ってた、
			1759	N	なるほど。
			1760	M	それって社会に出てからでもできるのに、
			1761	M	なんでそれを学生にしかできないことをやろうとせずに、
			1762	N	うん。
			1763	M	学生でも社会人でもできることを//するのが。
			1764	N	うん。
			1765	M	もっと学生にしかできないことはあるはずで、
			1766	N	うんうん。
			1767	M	それはたぶん、ラウンジマナーにしても、
			1768	M	こう大学側が言うよりは、
			1769	M	僕らが言ってるからこそ、
			1770	N	うん。
			1771	M	響くものだとあるはずだし、
			1772	N	うん。
			1773	M	CM作りにしても、//去年は、カンヌっていう社会人と同じ立場で戦おうとしましたけれど、
			1774	N	ああ。
			1775	M	今年はまた違った//学生にしかできないような//映像作りしたいと。
			1776	N	うん。
			1777	N	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1778	N	そうだねー。
			1779	N	あの、スポーツとか、ほんとに今、競技スポーツ(?)とか//ほんとにおんぶに抱っこというか、PVの。
			1780	M	うん。
			1781	N	あれがないとほんとに、//言えてないっていう状態なんで、
			1782	M	うん。
			1783	M	ああ。
			1784	N	あと、ラグビーとかアディダスとかと組んだりとか、
			1785	N	ねえ。
			1786	N	あの一、お金かからないように、
			1787	N	動いてくれる企業もあるんだけど、
			1788	N	そうじゃなくて、
			1789	M	うん。
			1790	N	いわゆる伝統があって、
			1791	M	うん。
			1792	N	でも、地味って、
			1793	M	うん。
			1794	N	活動自体は知られてないんだけど、
			1795	N	実はすごいことやってるっていう、
			1796	N	体育学部もすごくあるじゃないですか？
			1797	M	はい。
			1798	N	それをね、うまく救い上げる//というか、
			1799	M	うんうんうん。
			1800	N	が、やってもらえたら、
			1801	M	ああ。
			1802	N	すごく嬉しいなと思うんですけどね。
			1803	M	うん。
			1804	N	で、インターンシップと起業の話で、
			1805	M	うん。
			1806	N	人によっても違うんだけど、
			1807	N	自分、こうウィークリーやって、
			1808	M	うん。
			1809	N	色々な人の話を聞くと、
			1810	N	あの一、まず、起業、起業に関しては、
			1811	N	あのねー、企業に就職しちゃうとと、
			1812	N	しずらくなる//という、
			1813	M	ほー、ほーほーほーほー。
			1814	N	言われて、
			1815	N	起業を決心したって人も
			1816	N	結構いるのよ。
			1817	M	うん。
			1818	N	確かに入っちゃうと、
			1819	M	うん。
			1820	N	ボーナスとかもらったりとかして、
			1821	M	あー。
			1822	N	で、高低?管理とか、始めはやつといた方がいいって、
			1823	M	うんうん。
			1824	N	社会人になってから起業した人は、
			1825	M	うん。
			1826	N	「社会人の経験も全然ありだった。」
			1827	N	っていうふうに言うんだけど、
			1828	M	うんうん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1829	N	そうじゃなくて、
			1830	N	あの一、結局そうやって起業した人があの一、社会人を経て、
			1831	M	うん。
			1832	N	起業した人がしゃべってる分には、//「社会人でよかった。」って言ってるんだけど、
			1833	M	うん。
			1834	N	そうじゃない人も絶対いるじゃん？
			1835	M	うんうん。
			1836	N	「起業するんだ。」って言うておいて、
			1837	M	うん。
			1838	N	就職して、
			1839	M	うん。
			1840	N	いつまでたっても起業しないとか。
			1841	M	うん。
			1842	N	「この会社に馴染んだ。」とか、
			1843	M	うん。
			1844	N	そうじゃなくて、
			1845	N	その学生のうちだから、
			1846	M	あー、なるほど。
			1847	N	まったく無だから、
			1848	N	今だから、//踏み込めるっていうような機転を持っている人もいるよね。
			1849	M	ああ。
			1850	M	あー、確かに。
			1851	M	そういう意味だったら、
			1852	M	僕もすごく共感するし、
			1853	N	うんうん。
			1854	M	たぶん僕もそう考えたら、
			1855	M	起業するじゃないかな//って。
			1856	N	ちょっと面白そうだと思うよね。
			1857	N	ああ、なるほどなって自分も関心した部分があつて。
			1858	M	うんうん。
			1859	N	で、あと、インターンシップはね、すごく//今色々な人があると思うんだけど、
			1860	M	うん。
			1861	N	今ちっと流行になってるっていう//のがあるじゃないですか？
			1862	M	うん。
			1863	N	なんかそれをすごく疑問に思ってるん//ですよ。
			1864	N	そうだよ。
			1865	N	進路選択//自分が今キャリアプランというのが低年齢化っていうか、
			1866	M	うんうん。
			1867	N	「13歳のハローワーク」じゃないけどさ、
			1868	M	うん。
			1869	N	中3、あ、ごめん。
			1870	N	大学3年の秋に就職を考えるんじゃないで、
			1871	M	うん。
			1872	N	もっと自分に合ったというのを、
			1873	N	大学としても//言っちゃってるんだけど、
			1874	M	うん。
			1875	M	うん。
			1876	N	そういう中で、自分にあつた企業、//もしくは職種//であつたり、
			1877	M	うん。
			1878	M	うん。
			1879	N	労働形態っていうのがなんなんだろうって、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1880	M	うんうん。
			1881	N	純粹に知らなくて、
			1882	N	不安なやつが//、「じゃあ、あの、今すごく話題になってるし、
			1883	M	うん。
			1884	N	行ってみて、
			1885	N	やってみよう。」っていうのが、じ、結構多いかな、
			1886	N	自分の中の//感想では多いんかなって思うんですけど。
			1887	M	ああ、うん。
			1888	M	ああ。
			1889	N	うん。
			1890	N	それで、結構インターンシップに、がーで、実際の社会のひと//話に触れて、
			1891	M	うんうん。
			1892	N	あの、結構進路が変わったっていうのも進路体験記とか見て、
			1893	M	うんうん。
			1894	N	結構あるんで、
			1895	M	うん。
			1896	N	自分は、インターンシップやったことないから、
			1897	M	うん。
			1898	N	一概には言えないんだけど、
			1899	N	インターンシップでやらされることって、
			1900	M	うん。
			1901	N	結構ピンからキリまであって、
			1902	M	うんうん。
			1903	N	ほんとバイトっぽいことを自給0円でやらせてもらうとこもあれば、
			1904	N	もっと面白い、すごい上司が理解してくれて、
			1905	M	うんうん。
			1906	N	製作のどこまで聞いてとか、
			1907	M	うんうん。
			1908	N	やらされるところもあるんで、
			1909	N	一括りでは括れないなって思うんだけどね。
			1910	M	ああ、うん。
			1911	M	たぶん、僕がこう思うのを、
			1912	M	こうぼんと言っちゃうと、
			1913	M	言いすぎだと思われるかもしれないんですけど、
			1914	N	うん。
			1915	M	それがブームになっちゃってるのが1番問題、//起業もインターンシップも。
			1916	N	分かる
			1917	N	分かる。
			1918	N	うん。
			1919	M	僕はそれ自体、その行為自体は興味深いものだと思うんですけど、
			1920	N	うん。
			1921	M	まだ僕自身に必要だと感じないし、
			1922	N	うん。
			1923	M	だから、必要だと思った時に、
			1924	M	初めてやるべきで、
			1925	N	うんうん。
			1926	M	ブームになってるから、
			1927	M	3年生のこの時期だから、やろうと思ってやるってのが、
			1928	M	すぐもったいないなっていうふうにして、
			1929	N	うん。
			1930	M	で、まあ、こう考えるんですけど。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1931	M	たぶん僕も3年の秋ぐらいになって、
			1932	M	本当に知りたいと思ったら、
			1933	M	たぶん、インターンシップやるかなって思うんですけど、
			1934	N	うん。
			1935	M	1年の頃から、
			1936	M	「大学生になったから、
			1937	M	インターンシップやらなきゃ。」
			1938	M	って言っていた友人とかを見てるんで、
			1939	M	たぶんできることなら。
			1940	N	そうか、そういう感じなんだよねー。
			1941	M	うん。
			1942	M	だから、なんでこんなにブームになってるのかなって疑問。
			1943	N	私が学生の頃、
			1944	N	4年前まで学生だったんですけど、
			1945	N	その時はインターンシップってかなりコアな。
			1946	M	あー、あー、あー。
			1947	N	今で言うと、
			1948	N	起業と同じくらい//コアで、
			1949	M	ああ。
			1950	N	留学より全然コアだったんですよ。
			1951	M	あ、そうなんですか。
			1952	M	うん。
			1953	N	だから、青田買いかなみたいな。
			1954	M	ああ。
			1955	N	全然知らな[笑い]かったから、
			1956	N	青田買いかなーみたいな。
			1957	M	ああ。
			1958	N	で、実際インターンシップ制度のやつもどこもP(企業名)//とかもあったんで、
			1959	M	ああ。
			1960	M	うん
			1961	N	「どういのかなー。」っていう話をしている、
			1962	M	うんうん。
			1963	N	ほんとこの1、2、3年くらいで、
			1964	M	うん。
			1965	N	爆発的に増えていて、
			1966	M	うんうん。
			1967	N	ていうのがあって、
			1968	N	どうだろうね。
			1969	M	うん。
			1970	M	1つのマーケットになってますよねー？//あれが。
			1971	N	そうだよな。
			1972	N	で、学生にやらせるというと、
			1973	N	あっちもなんか//ちょっとイメージアップっていうか、
			1974	M	うん。
			1975	N	なんかやっぱり、//楽、楽っていうか、
			1976	M	うん。
			1977	N	なんかの効果が//ありますしね？
			1978	M	うん。
			1979	M	うん。
			1980	N	でも、例えば、この5年10年でどう変わっていくかっていうのは、
			1981	M	うん。

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1982	N	結局大学って、職業専門学校じゃないじゃないですか。
			1983	M	うん。
			1984	N	で、4年間なんて、特に、Wなんかは何が起こるか分からないけど、
			1985	M	うん。
			1986	N	その起きた4年間とか、//大学院まで行くと6年間で振り返ってみると、
			1987	M	うん。
			1988	N	「あー、糧になった。」っていう。
			1989	N	こういう話じゃないけど、
			1990	M	うん。
			1991	N	ていう部分が、すごく自分の中で、大きな力になってくるとは思うんで、
			1992	M	はい。
			1993	N	一番初めからこう、レールに敷かれて
			1994	N	「はい、1年半経ったら、
			1995	N	留学しましょう。」とか、
			1996	M	うん。
			1997	N	そこから先は、インターンシップ2個経験して、
			1998	N	OB訪問して、
			1999	N	はい就職でってっていうのは、
			2000	M	うん。
			2001	N	すごくコンパクトな//既製品を作るとして、
			2002	M	うん。
			2003	N	Wの学生5万人がいるから、
			2004	M	うん。
			2005	N	すごくばらばらなんで、
			2006	N	あの一、ばらばらっていうのは、すごいいいことなんだけど、
			2007	M	うん。
			2008	N	全体、何、あの、M君みたいな人に言って、聞かないことは、
			2009	N	あの聞かない、
			2010	N	自由にやって、
			2011	N	成果を上げて、
			2012	N	そうじゃない人もちよつといるから、
			2013	M	うんうん。
			2014	N	そこには、あの、安全策じゃないんだけど、
			2015	M	うん。
			2016	N	「こういうのもありますよ。」
			2017	N	っていうのも提示しなくちやいけない。
			2018	N	ってのが大学のあれなの//かなっていう。
			2019	M	ああ。
			2020	N	ちょっと責任なのかなって。
			2021	N	それだから、Wの総局が怒っている、
			2022	N	そんなことは全然なくて、
			2023	N	むしろ、「ラウンジ違うんじゃないの。」
			2024	N	とか//言ってくれるとか、
			2025	M	うん。
			2026	N	全然こっちが言ってもしないことを、
			2027	M	うん。
			2028	N	そうじゃなくても、
			2029	N	やってくれてるのが、
			2030	M	うんうん。
			2031	N	方が、方がって言っちゃうと、
			2032	N	自分の個人的なあれになっちゃうけど、

【資料2-2】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Mさん」 インタビュアー:N, カメラマン:K, ゲスト:M

話段例					
大話 段	話 段	小話 段	発 話 番 号	参 加 者	発話例
			2033	N	面白いなーって思いますね。
			2034	N	はい。
Ⅲ	1	1	2035	N	じゃあ、また何かあったら、
			2036	N	ぜひぜひ、教えてください、面白いことがあったら。
			2037	M	はい。
			2038	M	分かりました。
			2039	N	F君にはどんどん言っちゃって、
			2040	N	構わないんで、
			2041	M	はい。
			2042	N	自分が言ってたってことを言えば、
			2043	N	だいじょうぶなんで。
			2044	M	はい。
			2045	N	どうもありがとう。
			2046	N	写真だいじょうぶ？
			2047	K	だいじょうぶです。
			2048	N	はい。
			2049	K	はい。
			2050	N	どうもあ//りがとうございました。
			2051	M	どうもありがとうございました。
			2052	K	どうもありがとうございました。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
I	1	1	1	U	お願いします。
			2	C	お願いします。
			3	C	インカレ優勝おめでとうございます。
			4	U	{笑い}ありがとうございます。
			5	C	お疲れ様でした。{笑い}
			6	U	{笑い}
II	1	1	7	C	あの、ソフトボールはいつからなさっていたんですか？
			8	U	小学校4年生から。
			9	C	小学校4年生から。
			10	C	そうしますと、かれこれ10何年。
			11	U	もうじゅう一、今年が11年目。
			12	C	あ、長いですねー。
			13	C	あの、元々始められたきっかけって何だったんですか？
			14	U	お母さんが一、//あの一、ソフトボールやってて、
			15	C	はい。
			16	C	あ、そうなんですか。
			17	U	私もインターハイ優勝してんですけど、
			18	U	お母さんも高校の時に、
			19	U	優勝してて、
			20	C	ああ。
			21	U	もうずっと、小さい頃からやってみたいで、
			22	U	たまたまその住んでるところに一、
			23	U	ソフトボールのクラブチーム、少年団があって、
			24	C	うんうんうん。
			25	U	「じゃあ、やってみる？」みたいな//感じになって。
			26	C	あ、そうなんですか？
			27	C	お母様もなさって、
			28	C	親子二代で。
			29	U	はい。
			30	C	今でもなさってるんですか？
			31	U	今は、高校の体育の教員。
			32	C	あっ、そうなんですか。
			33	U	そう。
			34	C	じゃあ、教えていただいたりすること。
			35	U	もう、今はないですけど、
			36	C	はい。
			37	U	中学まではありました。
			38	C	ああ。
			39	C	ソフトボールを？
			40	U	はい。
			41		[沈黙]
			42	C	その、始められたのが小学校2年生ってことなんですからけれども、
			43	C	その前から興味はあったんですか？
			44	U	いや、全然ソフトボールという競技も知らない{笑い}。
			45	C	あ、そうなんですか。
			46	C	じゃあ、その時になって、
			47	C	初めて「やってみようかなー。」って//いう感じですね。
			48	U	はい。
			49	C	お母様から前々からお話を聞いたりとかいうことは？
			50	U	は、その、たまたま友達が、仲良い友達が、「やってるんだー。」みたいな感じになって、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			51	U	じゃあ、やろうかな一ってなった時に、
			52	U	母親が「私もやってたのよー。」みたいな//感じになって、
			53	C	ああ。
			54	U	で、たまたま偶然//にやるようになったんですけど。
			55	C	{笑い}あーそうなんですか。
			56	C	実際にやってみていかがでしたかー？
			57	U	最初は、小学校は、なんかすごい弱かったんで、
			58	U	楽しいな楽しいなって//感じで、
			59	C	うん。
			60	U	中学校入ったら、
			61	U	中学校が、たまたま、その一、少年団が多く集まったところの中学校で、
			62	C	うん。
			63	U	みんなが強くて、
			64	U	最初は、しんどかったんですけど。
			65	C	はい。
			66	U	まあ、なんか、結構強かったんで、
			67	U	前よりできたんなら、
			68	U	じゃあ、高校でもやろうかな一って思っ。
			69	C	うーん。
			70	U	たまたま埼玉って、ソフトボールが盛んで、
			71	U	こう、星野ってすごいソフトボールが有名なんですけど、
			72	C	はい。
			73	U	その高校に入っ。
			74	C	それはもう、そこが強いから//こう入った？
			75	U	うん。
			76	U	もう本当に辞めてしまうか、
			77	U	やるんだったら、
			78	U	強いところでやろうと思っ。
			79	C	うんうん。
			80	U	で、高校選んで。
			81	C	そのまま受験して
			82	C	入ったということですか？
			83	U	単願推薦。
			84	C	あ、単願推薦。
			85	U	スポーツ推薦とかなくて、
			86	C	うん。
			87	U	単願で。
			88		[沈黙]
			89	C	中学校では、部活動をやっていた？
			90	U	そうです。
			91	C	部活動は、割と強いところで。
			92	U	はい。
			93	C	小学校の部活はどうですか？
			94	U	小学校の時は、少年団。
			95	C	あ、少年団。
			96	U	地域のチームに入っ。
			97	C	そうしますと、あの一、男の子の混ざって一っていう？
			98	U	いや、男の子は野球で、
			99	U	女の子は//ソフトボールで。
			100	C	ソフトボールで。
			101	C	たまに、あの一、男の子とやるってことは。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			102	U	ないです。
			103	C	ない。
			104		[沈黙]
			105	C	あの一、その、実際に、強い高校に入られて、
			106	C	相当厳しかったと思うんですけども一、
			107	U	うん。
			108	C	いかがでしたか？
			109	U	なんか文武両道な高校だったので、
			110	C	うん。
			111	U	まあ、全国に出るところに比べれば、
			112	U	あまり、なんか、量より質？//をこうやるタイプの高校だったんで、
			113	C	うーん。
			114	C	うーん。
			115	U	まあ、確かに、毎日やってたんですけど。
			116	U	その一、今Wにいる子で、
			117	U	厚木商業っていうところのその子たちの練習内容を聞いてると、
			118	C	はい。
			119	U	全然やってなかったんだなーって//思うくらいの練習を。
			120	C	あーそうなんですかー。
			121	C	あ、それなのに、競合だっていうのはさ、教え方がいい？
			122	U	たぶん指導してくださった先生がよかった。
			123	C	そこで強く//練習して。
			124	U	はい。
			125	C	どんな練習をなさったんですか？
			126	U	うーーん、結構オーソドックスなんですけど、
			127	C	はい。
			128	U	普通にアップして、
			129	C	うん。
			130	U	キャッチボール、トス、フリーバッティング。
			131	C	うん。
			132	U	あの一、実践が多かったですね、実践の練習が。
			133	U	トレーニングとか//よりも、
			134	C	体を作るという//よりはー？
			135	U	よりも一、実践を多くやって、
			136	U	あの、オリンピックに出たピッチャーの子が私たちの//代のピッチャーで、
			137	C	はい。
			138	U	メンバーが集まったから
			139	U	勝てたんですけど。
			140	C	うん。
			141	C	元々、できる子達が集まったからさらに？
			142	U	そうですね。
			143	U	で、その一子達をうまくその一、指導してくださった先生達が伸ばしてくれて、
			144	C	うーーーん。
			145	C	じゃあ、特殊のことをやった//というわけではなくて、
			146	U	わけではない。
2	2		147	C	今のWの練習内容とは異なるところはございますか？
			148	U	Wはもう初心者から//、あの一、ずっとやってきた子までいて、
			149	C	うん。
			150	U	幅広いので、
			151	C	ああ。
			152	U	練習するのが難しくて、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			153	C	そうなんですか？
			154	C	初心者の方もいらっしゃるんですか。
			155	U	もうほんと最近、去年はインカレ出るのが目標で、
			156	C	うん。
			157	U	で、結局1回戦で、コールド負けだったんですけども、
			158	U	今年は、最初からインカレ優勝するっていうふうについて、
			159	U	去年まで、あまり練習も少なかったんですけど、
			160	U	今年から多くして
			161	C	ああ。
			162	U	やるようになって、
			163	C	うん。
			164		[沈黙]
			165	C	初心者の方があまりってということは、あの一、練習の内容を変えてやっているって感じ。
			166	U	じゃなくて、
			167	U	別々、多少別々なんですけども一、
			168	U	もうほとんどみんなやって。
			169	U	だから、難しい。
			170	C	難しいですねー、
			171	U	そういうバランスを取るのも。
			172	C	はい。
			173	C	じゃあ、指導なんかもやはり。
			174	U	はい。
			175	C	今入部している人って、どれくらいでしたっけ？
			176	U	さんじゅう一。
			177	K	写真を撮らせていただきます。
			178	K	Kと申します。
			179	U	はい。
			180	K	よろしくお願いします。
			181		[沈黙]
			182	C	だいたい、だいたい。
			183	U	30人ぐらい。
			184	C	30人ぐらい。
			185	U	はい。
	3		186	C	今回は、あの一、世界選手権、世界選手権大会に出られたのがUさん？
			187	U	はい。
			188	C	それは、決まった時はいかがでしたか？
			189	U	「え、Wからでも選ばれるんだ。」くらいな感じで。
			190	C	{笑い}
			191	U	ほんとに一、今回インカレ優勝したんですけど、
			192	C	うーん。
			193	U	全然周りからも、「弱い。」っていうふうには思われてない。
			194	C	ソフトボール//部が？
			195	U	はい。
			196	U	だったので一、選ばれたんだ一みたいな、結構びっくり。
			197	K	数字は、どのへんが名門なんですか？
			198	U	に、T大、N大、T大学、//去年、T大が優勝したので、
			199	C	ふーん。
			200	C	うん。
			201	U	T大、あと、S大。
			202	C	学校がどことかいうのはあるんですか？
			203	U	たぶんなんか、{笑い}それよりもインカレを//優勝したいという感じのが。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			204	C	うんうん。
			205	U	ほんとに今年は乗りにのって、
			206	U	一戦一戦こうやってくうちにのっちゃって、
			207	C	うーん。
			208	U	なんか「優勝してしまった。」//って感じ{笑い}。
			209	C	{笑い}いい乗りにのれたんですね。
			210	U	はい、そうです。
			211	U	なんか応援部にも来てくれて、//準決勝は。
			212	C	うん。
			213	U	もうほんとに乗りにのって。
			214	C	ああ、そうなんですか。
			215	C	あの一、だんだんでも、試合が進むうちに、
			216	C	あの、(?)大会から世界選手権からずれちゃうんですけど、
			217	C	インカレの方もですけど、
			218	U	はい。
			219	C	(?)、生きるか落ちるかという感じですよ?
			220	U	そうですね。
			221	C	うーん。
			222	C	じゃあ、実際に、あの一、大会が始まる前は、「優勝するかも。」っていう感じでは?
			223	U	うん。
			224	U	「優勝しよう。」っていうふう目標はそこだったんですけど、
			225	U	まさか//できるとは思ってたなくて、
			226	C	うん。
			227	C	うん。
			228	U	まだあんまり信じれてない//ですけど。{笑い}
			229	C	昨日の今日ですからね。
			230	C	これからだんだん実感に//なって。
			231	U	そうですねー。
			232	C	昨日決まった頃に、
			233	C	あの一、こちらにも連絡が入ったので、
			234	C	(?)今日いらっしゃるからね{笑い}。
			235	U	{笑い}
			236	C	{笑い}そうですかー。
			237	C	でも、やっぱり嬉しかったですよ?
			238	U	そうですね。
			239	C	みなさんで祝杯を?
			240	U	祝勝会などをやりました。
			241	C	じゃあ、ほんとにお疲れになって。
			242	U	いいえ、大丈夫です。
	4		243	C	今日は練習ないんですか?
			244	U	はい。
			245	U	10日まで//オフ。
			246	C	あ、プレイオフ?
			247	U	はい。
			248	U	そっからまた初日。
			249	C	あ、また、それで一区切りで//入ってって。
			250	U	はい、そう。
			251	U	4年生は、引退。
			252	C	じゃあ、今度は最上級?
			253	U	そう。
			254	C	ふーん、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			255	C	じゃあ、責任がちよつと重くなるけど、
			256	C	大丈夫なんですかね？それはね。
			257	U	でも、私は主将は、主将ではないので。
			258	C	特に、気負いはないという感じで。
			259	U	はい。
			260	U	頑張りたいです。
			261	U	今年優勝してしまったので、
			262	U	周りからもマークされると、
			263	U	勝つのは難しくなるんですけど。
			264	C	うんうん。
			265	C	そうですね。
			266	C	逆に、「Wの(?)」って含みで、
			267	U	そうですね。
			268	U	なるので。
			269	U	はい。
			270	C	来年度の、4年生も出て、
			271	C	自分たちが最上級生になって、
			272	C	それに関する目標みたいなものは。
			273	U	うん。
			274	U	今回も、4年生あんまり出なくて、
			275	U	下がレギュラー。
			276	C	ああ。
			277	U	3年生より下級生が出てる。
			278	U	4年生2人だけ//だったので、
			279	C	あ、そうなんですか。
			280	U	あんまりメンバー変わらないので、
			281	C	がらりととは。
			282	U	はい。
			283	U	今年、来年も優勝したいです。{笑い}
			284	C	ぜひ優勝してください。
			285	C	じゃあ、今のチームをより強く。
			286	U	はい。
			287	C	あ、そんなに変わらないん//だったら、
			288	U	はい。
			289	C	今のメンバーで。
			290	U	そうですね。
			291	C	変わりはない。
			292		[沈黙]
			293	C	ソフトボール部のメンバーは仲がいいですか？
			294	U	あの一、周りからも試合やってて、
			295	U	「すごく雰囲気がいい。」
			296	U	「楽しそうにやってるね。」って
			297	C	ああ。
			298	U	言われるので、
			299	C	うーん。
			300	U	それを崩さずに、
			301	U	伝統として受け継いで。
			302	C	うん。
			303	C	元々そういう雰囲気もいいですねー。
			304	U	そうですね。
			305	U	笑顔でやろうっていうふうに、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			306	U	声を出して。
			307	C	うーん。
			308	C	上下関係が厳しいとか//はないですか？
			309	U	全然。
			310	U	ないです。
			311	U	大学は入ってから
			312	U	ほんとに全然なくて、
			313	U	みんな仲いい。
			314	C	ああ。
			315	C	なんか、日本テレビ拝見させていただいたんですけど、
			316	C	インカレ前のすべての写真で、
			317	U	ああ。
			318	C	(?)で変わって、
			319	U	私世界選手権行って一、
			320	C	ああ。
			321	U	いない時に、
			322	C	{笑い}
			323	U	{笑い} みんなで写真撮ってて、
			324	C	{笑い}
			325	U	変わってて、
			326	U	「へー？」みたいな感じだったんですけども。
			327	C	自分が写ってないって、
			328	U	{笑い}
			329	C	あーいうの見て、
			330	C	仲良いいんだろうなって。
			331	C	でも、世界選手権に行ったらしたってことは、
			332	C	ちょっとみんなと練習が違いますよね？
			333	U	そうですね。
			334	U	2週間台湾に行ってたので。
			335	C	うん。
			336		[沈黙]
	5		337	C	世界選手権で苦労されたことはありましたか？
			338	U	逆に行って一、
			339	U	そのレベル高い中でやって、
			340	U	声の出し方だとか、
			341	U	盛り上げ方だとかそういうの学んで帰ってきて、
			342	C	うん。
			343	U	帰ってきて、
			344	C	うん。
			345	U	じゃあ、4年生を気持ちよく引退させてあげるために、
			346	U	1、2、3年生を集めて、
			347	C	うん。
			348	U	「こういうふうに出していい。」みたいな感じで、
			349	U	ゆったりできて、
			350	U	それで、すごいアップとかでも盛り上がったって、
			351	C	うん。
			352	U	それで、すごく雰囲気よかったので、
			353	C	あーそうなんですか。
			354	U	逆にほんとに行ってよかったなあっていうふうに。
			355	C	ああ。
			356	U	チームのためにも、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			357	U	自分のためにも、
			358	U	行ってきてよかったなって思います。
			359	C	なんかそれもきっかけで、インカレもいいふうに盛り上がったとか？
			360	U	そうですねー。
			361	U	うん。
			362	C	声の出し方って結構重要な？
			363	U	そうですね。
			364	U	やっぱり雰囲気が一、よくないと//駄目なので。
			365	C	うん。
			366	C	例えば、具体的にはどういうふうな。
			367	C	そうやってたって言うのは難しいと思うんですけども。
			368	U	アップで走っている最中に、
			369	U	動作と動作の間とかに、誰かにこうなるとかって、
			370	U	キャプテンの人、Tさんっていうんですけど、
			371	U	「Tさんいきましょう。」みたいに振って、
			372	C	うん。
			373	U	主将の人に、「声出していこう。」みたいな感じに言ってもらったりして、
			374	C	うん。
			375	U	みんなでそれにつて、
			376	C	うん。
			377	U	「おー。」みたいな感じで。
			378	C	うん。
			379	C	試合中も割と声を出していくみたいな感じで。
			380	U	そうですね。
			381	U	もうみんな帰り声ガラガラで、
			382	C	ああ。
			383	U	もう声おかしくなってる子が多くて{笑い}。
			384	C	{笑い}
			385	U	うん。
			386	C	それはそれでいい？
			387	U	そうですね。{笑い}
			388	U	はい。
			389	C	野球なんかでも声出し合ってますよねー。
			390	U	そうですね。
			391	C	はい。
			392		[沈黙]
	6		393	C	えっと、台湾に行かれたということで、
			394	C	むこうの環境が、日本と結構違う部分ってありました？
			395	U	なんか、あんまりこう、選手村みたいなのがあったんですけど、
			396	U	普通の大学の寮で、
			397	C	うん。
			398	U	全然もう、ユニットバスだしー、
			399	C	ああ。
			400	U	湯船とかにも全然浸かれなくて、
			401	U	で、日本は靴脱ぐけど、
			402	U	脱がないし。
			403	C	ああ、そうなんですか？
			404	U	はい。
			405	U	で、料理もおいしくなくて、
			406	U	気候もなんか、毎日湿度80パーセント以上とかで、
			407	U	しかも気温が高くて、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			408	U	それで、私熱出しちゃってー、
			409	C	そうなんですか？
			410	U	{笑い}もう結構大変でした。
			411	C	そうなんですかー。
			412	U	なんか環境はもう、よくなかったです。{笑い}
			413	C	(?)に行ってるみたい。
			414	U	{笑い}
			415	C	じゃあ、逆に、私なんか日本にずっといたのでー、
			416	C	暑いと思っていたんですけど、
			417	U	はい。
			418	U	なんか日本の暑さとは全然違う。
			419	U	グランドに出たら、
			420	U	たぶん40度以上あったんじゃないかなくらい暑くて、
			421	U	試合終わったら、
			422	U	もう倒れちゃう子とかいて。
			423	C	あー、そうなんですか。
			424	U	集中力とかもすごい続かなくて、
			425	U	試合終わった瞬間ばたんってなった子といて、
			426	U	それくらい暑かったです。{笑い}
			427	C	辛かったですね。
			428	C	試合中も朦朧としてきちゃうんじゃない？
			429	U	私は内野手じゃないのでー、
			430	U	あまりこう守備の位置とかー、
			431	U	考えなくてよかったので、
			432	C	うん。
			433	U	だいじょぶだったんですけど、
			434	U	内野手はもう配球から、何から、自分の守備位置まで考えなくちゃいけないので、
			435	C	うん。
			436	U	たぶんすごい集中力を使って。
			437	C	それはもうばたんっていっちゃいますよね。
			438	U	はい。
			439	C	熱出されて、
			440	C	だいじょぶだったんですか？その時。
			441	U	はい、だいじょぶでした。
			442	U	あの一、1週間雨が降って、
			443	U	ほんとは、リーグ戦で2回ずつ、その一、他の国とやってー、
			444	C	うん。
			445	U	決勝トーナメントで、4チーム残るっていう仕組みだったんですけどー、
			446	U	それが雨で、台風が来てて、
			447	C	ああ。
			448	U	1週間ずっと雨が降って、
			449	C	うーん。
			450	U	リーグ戦が1回ずつになって、
			451	C	あ。
			452	U	その1週間の間に熱出したんで、
			453	C	ああ。
			454	U	だいじょぶでした。
			455	C	よかった。
			456	C	じゃあ、ほんとに雨降って
			457	C	よかったのかもしれない。
			458	C	恵みの雨ですね。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			459	U	ほんとによかったです。
			460	C	そうですか。
		7	461	C	で、あの一、国によって、チームの雰囲気とか違ったりするものなんですか？
			462	U	そうですねー、
			463	U	全然。
			464	U	アメリカとかオーストラリアとかはもう体が大きくて。
			465	C	ああ、そうですねー。
			466	U	アメリカが優勝したんですけど、
			467	C	うん。
			468	U	アメリカの選手とかは、やっぱすごい力が、パワーが全然違って、
			469	U	日本はヒットをぼんぼん打てないので、
			470	C	うん。
			471	U	エンドランとか//そういうので。
			472	C	うんうん。
			473	C	肩とか使って打つからー。
			474	U	はい。
			475	C	向こうはパワーがね、すごいですもんねー。
			476	U	全然違う。
			477	U	ほんとにびっくりしました。
			478	U	足も速いし、
			479	U	身体能力の差がありすぎて。
			480	C	そういうなんか投げきても
			481	C	(?)から怖くないですか？あーいう。
			482	U	とりあえず迫力が//ありました。
			483	C	迫力が。
			484	C	あれって、年齢は何歳ぐらいまでなんですか？
			485	U	なんか26とかの人もいたみたいで、
			486	C	あ、そうなんですか。
			487	U	台湾は、なんか大学でしかソフトボールがあまりできないらしくてー、
			488	C	あ、そうなんですか。
			489	U	なんか卒業したけど
			490	U	もう1回入り直して、
			491	U	この大会のために//やったりとか。
			492	C	えー。
			493	U	私達は大学の選抜だけど、
			494	U	台湾はそのチームでほんとにオール代表みたいな//感じで。
			495	C	ああ、オール台湾みたい//な。
			496	U	はい。
			497	U	なってて。
			498	C	大学出たら、
			499	C	むしろ向こうは//日本に？
			500	U	はい。
			501	U	台湾はなんか違う。
			502	U	日本は実業団があるので、
			503	C	うん。
			504	U	そっちに行って、
			505	U	そこから選ばれて
			506	U	オリンピックとか//行くんですけど、
			507	C	うんうんうん。
			508	U	なんか仕組みが違うみたいで。
			509	C	あ、そうなんですかー。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			510	C	台湾は強いんですか？
			511	U	台湾。
			512	U	はい。
			513	U	アメリカと台湾に負けてしまって、
			514	C	じゃあ、アメリカと台湾が強いっていう。
			515	U	台湾とはたぶん同じくらいでした。
			516	C	ああ。
			517	U	いい試合。
			518	U	はい。
			519	C	アメリカが優勝ですか？
			520	C	台湾が優勝？
			521	U	はい。
			522	C	で、
			523	U	日本が3位。
			524	C	日本も強いですねー？
			525	U	うん。
			526	C	やっぱアメリカって野球もすごいですね。
			527	U	そうですね。
			528	K	？
			529	U	(笑い)そうだ。
			530	C	間違えました。
			531	C	そうだ。
			532	U	(笑い)そうですね。
			533	C	あの一、あれは良くないですね。
			534		[沈黙]
			535	C	アメリカって実際対戦してみて、
			536	C	チーム作りとかは、「ああいう感じにしたな。」とかありますか？
			537	U	いや、日本人なので、
			538	U	プレーとか見てて、
			539	C	うん。
			540	U	日本人が一番堅実で、
			541	C	うん。
			542	U	フォームとかもきれいなんですよ。
			543	C	あーそうなんですか。
			544	U	一番まとまっていたのは、日本だったかなっていうふうに、
			545	U	行ってみて思いました。
			546	C	あーそうなんですか。
			547	C	日本の、日本人ってやっぱりきっちりきっちりって、
			548	U	はい。
			549	C	サッカーでもなんでも試合見ると、
			550	C	そういう印象があります。
			551		[沈黙]
	8		552	C	これ一、だいがく一、全員大学生で行かれたんですか？
			553	U	はい。
			554	C	じゃあ、(?)
			555	U	そうですね。
			556	C	元々顔を合わせたことのある人もいたんですか？
			557	U	あの一、同じ高校の先輩と後輩が一、//私合わせて星野高校なんですけど、5人。
			558	C	うん。
			559	C	すごい。
			560	C	やっぱ強豪なんですね。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			561	U	はい。
			562	U	多かったです。
			563	C	「懐かしいねー。」っていう感じ//ですか？。
			564	U	そうですね。
			565	C	「一緒にまたできる。」なんて。
			566	U	はい。
			567	C	どういう基準で選ばれたと思いますか？
			568	U	選考会に、4月の下旬に一、行って、
			569	C	うん。
			570	U	そこで、選考されました。
			571	C	今までの成績などを見てー、
			572	U	たぶん加見されていると思うんですけども。
			573	C	選考会に行くのは、あの一、呼ばれていくって//感じ。
			574	U	いや、書類を、「出ませんか。」みたいな感じで、各大学に。
			575	C	うんうん。
			576	U	で、で、その書類を提出して、
			577	U	最初、書類審査なんですけれども、
			578	U	それで、Wから6人くらい出したんですけれども、
			579	U	2人だけ書類通って。
			580	C	うん。
			581		[沈黙]
			582	C	で、その中で、また実際に、
			583	U	うん。
			584	U	その中で、実技選考で、4月の下旬に。
			585	C	で、そこで、受かった//という。
			586	U	はい。
			587	C	「受かった時は、それで満足かなあっていう感じがあった。」と先程、
			588	U	ああ、そうですね。
			589	U	びっくり、ほんとに。
			590	U	え、って思いました。
			591	U	なんか駄目元で、「他の国の大学のトップレベルの技術を見に行こうかー。」みたいな感じで//簡単な、単純な感じで出したのでー、
			592	C	うんうん。
			593	U	まさか、受かって、
			594	U	行けるとは思いませんでした。
			595	C	うんうん。
			596	C	じゃあ、急にスケジュール変わってきちゃいましたね。
			597	U	そうですね。
			598	U	試験とかとも重なっていたのでー、
			599	C	そう。
			600	U	これから(?)試験とかあるんですけどー、
			601	C	あーそうなんですか。
			602	U	{笑い}
			603	C	ゆっくり休む暇もないですねー。
			604	U	そうですね。
			605	C	お疲れ様です。
			606	C	ああ、じゃあ、今ようやく夏休みですよーね？
			607	U	そうですね。
			608	C	お疲れ様です。
			609	C	それで、あの一、決まって、
			610	U	はい。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			611	C	「あっ、ほんとに。」ってなってから、
			612	C	またばたばたしてっていうのかは。
			613	U	うん。
			614		[沈黙]
		9	615	C	今回も、例えば、会長を務める務め方とかも変わってきたりするんですか？
			616	U	ドーピングがあったので、
			617	C	ああ。
			618	U	薬とかサプリメントとかも//飲まないようにしたりとか、
			619	C	うん。
			620	C	うん。
			621	U	とりあえず、暑いっていうのを聞いていたんで。
			622	C	うん。
			623	C	暑さ対策とかうまくいったんですか？
			624	U	いやー、(笑い)熱出したんで、
			625	U	うまくいかなかったんじゃないですかねー。
			626	C	暑さ対策ってどういうことするんですか？
			627	U	あの一、普通に着込んだり、
			628	C	うん。
			629	U	着込んだままアップをしたり。
			630	C	暑くても大丈夫なようにね。
			631	U	はい。
			632	C	先ほど、熱中症とかって。
			633	U	私なりやすくて一、(笑い)
			634	C	なのに、台湾っていう。
			635	U	あーそうですね。
			636	U	でも、試合中とかは、全然大丈夫でした。
			637	C	ああ、そうですか。
		10	638	C	大体台湾でやるんですか？世界選手権。
			639	U	いや、たまたま今年は台湾。
			640	U	来年、来年、ユニバーシアードはタイって聞きましたけども。
			641	C	何カ国ぐらい、何カ国ぐらい出たんですか？
			642	U	えーと、最初は一、9カ国の出場予定だったんですけど、
			643	U	なんか台風とかで飛行機が飛ばなかったりとかして、
			644	U	結局、//6？、6カ国しか来なかった。
			645	C	うん。
			646	C	そうですね。
			647	C	残念でしたね。
			648	U	あと、なんか他の大会とかとも被ってて、
			649	U	カメラ撮影なんかも入ってて、
			650	U	そういうので、来ない。
			651	C	やっぱりソフトボールの本場っていうのは夏なんですか？
			652	U	そうですね。
			653	U	シーズンは夏ですね。
			654	C	暑いシーズンが本番なんですね。
			655	U	(笑い)
			656	C	じゃあ、結構服も暑いんですよね？
			657	C	暑いですよー。
			658	U	はい。
		11	659	C	ポジションは？
			660	U	ポジションは、Wはファーストやっているんですけど、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			661	C	あ、ファースト。
			662	U	世界選手権は、ファースト、ライト、あとDPで。
			663	K	その時、バッティングを、
			664	U	バッティングを買われて一、
			665	C	うん。
			666	C	ホームなんかもありましたよね？
			667	U	はい。
			668	C	あと、3塁打、2//塁打。
			669	U	2塁打。
			670	C	ホームラン返す時
			671	C	いかがでしたか？
			672	U	いや、私日本でもまだ、なんだろう、
			673	U	公式戦で3本くらいしか打ってなくて、
			674	U	まさか//そんな世界の舞台でホームラン打てるとは思ってなくて、
			675	C	{笑い}
			676	K	勝負強い感じだね。
			677	U	//{笑い}
			678	C	そうですね。
			679	U	嬉しかったです。
			680	C	びっくりしました？
			681	U	はい。
			682	C	やっぱり回っている時は、
			683	C	気分はどうでした？
			684	U	えー、入っちゃった一って感じです。
			685	U	嬉しかったです、すごく。
			686		[沈黙]
			687	C	バッティングはやっぱり、2塁打って結構すごいですよね？
			688	U	うん。
			689	C	試合結果が分かれるような。
			690	U	守備よりバッティングの方が好きなんで、
			691	C	あ、そうですか。
			692	C	昔から？
			693	U	そうですね。
			694	U	バッティングの方が。
			695	C	高校時代もそのポジション//なんですか？
			696	U	は、ライトです。
			697	C	じゃあ、外野が専門ということで。
			698	U	そうですね。
			699	U	もう今は、全然やってないんですけど。
			700	U	たぶん守備も両方ファーストもライトもどっちもっていうので、
			701	U	17人しか//選手がいないので、
			702	C	うん。
			703	U	その一、2ポジションできる人が一、
			704	C	ああ。
			705	U	やっぱ有利だったみたいで、
			706	C	うーん、うんうんうん。
			707	U	そういうので、受かったっていうのがたぶんあると思うんですけども。
			708	C	Wでは、ファ//ースト。
			709	U	ファーストです。
			710	C	で、どうして(?)が好きですか？ファーストとライトと。
			711	U	ファーストの方が。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			712	C	あ、どうして。
			713	U	なんかー、外野はもう一球が、
			714	C	うん、
			715	U	重たいっていうか、
			716	C	うん。
			717	U	その来た打球をエラーしてしまうと
			718	U	全部有頂打に//なるのでー、
			719	C	そうですね。
			720	C	こうやってきたら、
			721	U	なんか外野の方に緊張します。
			722	C	そうですね。
			723	C	落としたらっていう。
			724	U	はい。
			725	C	ファーストだったら、
			726	C	例え、足元に落ちてても。{笑い}
			727	U	はい、そうですね。
			728	K	{笑い}
			729	C	外野では、そうですねー？
			730	C	怖いですね。
			731	U	もうなんか点に全部繋がってしまうのでー。
			732	C	うーん。
			733	C	落ち込んだじゃいますねー、//やっぱり。
			734	U	はい。
			735	C	あと、ホームランがを越えてつちやうのも嫌ですね？
			736	U	{笑い}一番近くで見えます。
			737	C	それをやんなくちやいけないんで嫌です。
			738		[沈黙]
			739	C	バッティングの練習は結構やってらっしゃるんですか？
			740	U	バッティングー、そうですね。
			741	U	バッティングの方が好きなので、
			742	U	バッティングをやっぱ買われて入ったっていうのを自分で分かったんでー、
			743	C	うん。
			744	U	そっちの方で貢献していかなくちやいけないなあって。
			745	C	うん。
			746	C	じゃあ、それは、期待に応じて、
			747	C	ホームランを//打たれて。
			748	U	{笑い}
			749	C	世界の舞台はいかがでしたか？
			750	U	やっぱり緊張しましたがけど、
			751	C	うーん、
			752		[沈黙]
			753	U	色々学ぶものが//多かったんで、
			754	C	うん。
			755	U	よかったです。
			756	C	また行きたいと？
			757	U	はい。
			758	U	来年また、なんか1年ごとに世界選手権とユニバーシアードが交互にあるみたいなのでー、
			759	C	うん。
			760	U	来年はユニバーシアードのも選考会があるので、
			761	U	選ばれて、
			762	U	また行きたいです。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			763	C	ああ、頑張ってください。
			764	C	またWが応援しに{笑い}。
			765	U	{笑い}
			766		[沈黙]
	3	12	767	C	Wを選ばれた理由って何かあるんですか？
			768	U	そう言われてしまうと、
			769	U	あれなんです、
			770	U	ほんとに弱くて、Wって。
			771	C	うん。
			772	U	で、高校で疲れてしまって、
			773	C	はい。
			774	U	勝って、
			775	U	終わったので、
			776	U	そんなにいいかなあっていうふうに//思っていたんですけど、
			777	C	はい。
			778	U	その、スポーツ推薦があって、
			779	U	Wに入れるっていうふうになったので、
			780	U	Wに入れるんだったら、
			781	C	うん。
			782	U	やるしかないんじゃない//みたいな感じになって、{笑い}
			783	K	{笑い}
			784	C	そうですね。
			785	U	はい。
			786	C	{笑い}
			787	U	だってWだよーみたいな。{笑い}
			788	C	{笑い}
			789	U	それってすごいよねーっていう。
			790	C	確かにすごいですよね。
			791	U	はい。
			792	U	勉強じゃ入れないからー。
		13	793	C	いかがですか？Wの雰囲気は。
			794	U	たまたま、本当に全然弱かったんですけど、
			795	U	私の代でたまたま国体で、私優勝で、
			796	U	その2位の子と、2位3位の子が4人集まって、
			797	U	そんなに入ってきたんなら、
			798	U	強くするしかないっていう雰囲気になって一、
			799	C	うん。
			800	U	徐々に私達が上に上がるにつれて、
			801	C	うんうん。
			802	C	強く//なって、
			803	U	強くなって、
			804	C	それから、優勝して。
			805	U	はい。
			806	U	じゃあ、ほんとにその一、たまたまほんとに運がよかったですね、
			807	U	周りに恵まれたっていうのがあって。
			808	C	うん。
			809		[沈黙]
			810	C	もう、じゃあ、ここらへんでいいかなって感じの終わりに、
			811	C	まあ楽な気持ちで入っ//たら、
			812	U	入ったら、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー：C, カメラマン：K, ゲスト：U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			813	C	結局、
			814	U	ほんとに周り恵まれので、
			815	U	こんなにできる子達がいるんなら、
			816	C	うん。
			817	U	じゃ、もう1回狙おうかっていうふうに、
			818	U	自分の中では思っ。
			819	C	うん。
			820	C	もう1度スポーツが。
			821	U	そうですね。
			822	U	また頑張ろうってなりました。
			823	C	何かが憑いているんですかね？ソフトボールの神様が。
			824	U	そうですねー。
			825	U	本当にそうなのかなって思います。
		14	826	K	高校はいわゆる競合校だった。
			827	U	そうですね。
			828	K	やっぱり厳しいというか、
			829	K	もう「ソフトボールやんなくてもいいや。」って思えるくらいきつかったりしたの？
			830	K	練習とか、あるいは、チーム。
			831	U	学校自体が厳しくて、もう校則とか。
			832	C	そうですか。
			833	U	日焼け止め塗っちゃ駄目だしー、
			834	C	えー。
			835	U	髪の毛も耳に出さなくちゃ//いけない。
			836	C	日焼け止め駄目ってのは嫌ですねー。
			837	U	よく分かんない規則とかいっぱいあつて、
			838	U	で、先輩も怖いしー(笑い)、
			839	C	学校全体が規則で駄目だったんですか？
			840	U	学校全体の規則、はい。
			841	U	学校自体が厳しくて、
			842	U	眉毛とか、全然いじっちゃ//駄目なんですよ。
			843	C	うーん。
			844	U	なんかすごい縛られて(笑い)。
			845	K	それで、Wに来て//どう？
			846	U	Wに来て、
			847	U	全然ふいんき違って、
			848	U	結構自由なので、
			849	C	うん。
			850	U	それで、ほんとにのびのびやれてるから、
			851	U	結果出てるのかなって思います。
			852	C	ああ。
			853	C	厳しいと逆に、生活とかも。
			854	K	いわゆる我々がイメージする体育会系。
			855	U	ああ、そうですね。
			856	C	私、高校私立だったんですけどー、
			857	C	日焼け止めまではなかったんですけどー(笑い)、
			858	U	なんで日焼け止めが駄目なのかよく分からないんですけども、
			859	U	ソフトボールって、白いと弱そうだからじゃない//ですかね？
			860	K	(笑い)
			861	K	そういうのはありますよね。
			862	U	なんか練習してないって思われるからじゃないですか。
			863	C	それはあるかも知れない。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			864	U	{笑い}黒い方が練習いっぱいしているっていうふうに、
			865	C	威圧感を与える。
			866	U	はい、なのかなーって考えたんですけども。
			867	U	なんで駄目だったのかよく分からないですね。
			868	C	余談なんですけど、
			869	C	私、高校の時に、
			870	C	ほんと弱小の雅楽部だったくせに、
			871	C	ほんと弱小だったんですよ。
			872	C	なのにー、厳しくて、
			873	C	ほんと厳しくて、
			874	C	なんか中庭とかがあって。
			875	C	中庭って、普通真ん中を通るじゃないですかー。
			876	C	「真ん中通っちゃ駄目。」って言われて、
			877	C	わざわざ馬鹿みたいに端っこ//に行って、
			878	U	{笑い}
			879	U	周りの人に「何やってんの。」って言われて、
			880	U	「うちの部、真ん中通っちゃいけないんだ。」//って。
			881	K	{笑い}庭でかよ。
			882	C	すごい弱小なんですよ。
			883	K	それなのに弱小だったんだ。
			884	C	そういうのに比べたら、
			885	C	日焼け止めは、いいのかなって感じがします。
			886	U	なんか変。
			887	U	でも、靴下は立って、
			888	U	履かなくちゃいけないとか。
			889	U	ほんと変な{笑い}。
			890	U	1年生は3年生に話しかけちゃいけないとか。
			891	C	へー。
			892	U	先輩が見てる時はー、
			893	U	他の友達と、他の部の友達としゃべっちゃいけないとか。
			894	K	{笑い}
			895	U	だから、全然意味が分からないって、今になって。
			896	C	厳しい。
			897	K	漫画でみるような//境遇。
			898	U	はい。
			899	U	でも、なんか2年生になって、
			900	U	そのー、1個上の先輩がすごい先輩だったので、
			901	C	うんうん。
			902	U	なんか「いいよー。」みたいになくしてくれたんですけど、
			903	C	やっぱずっとおかしいと思っていて、
			904	U	ずっと思ってた、
			905	C	おかしいと。
			906	U	明らかにあおかしいと。
			907	U	それで、高2の時、
			908	U	優勝しているんで、
			909	C	あーやっぱり。
			910	U	なくしてやっぱよかったのかなーって。
			911	C	意味分かんないと、
			912	C	「え。」って//思いながら
			913	U	{笑い}
			914	C	やってると、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー：C、カメラマン：K、ゲスト：U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			915	C	靴下とかに気がいっちゃって
			916	U	{笑い}
			917	C	大変ですよね？それね。
			918	C	やっぱり、のびのびとした//ふいんきの方が。
			919	U	そうですねー。
			920	U	ほんとに、のびのびとやらせていただいて、
			921	U	今の4年生とかも、たぶん私結構わがままでー、
			922	U	先輩に「こうしたらいいじゃないですかねー。」みたいに口出したり//してたので。
			923	C	うーん。
			924		[沈黙]
			925	C	選手としては、あの一、厳しい、スパルタみたいなところと、
			926	C	割にびのびとしたところと、どちらの方が好きですか？
			927	U	えー、結果が出ているので{笑い}、
			928	U	やっぱり、のびのびとやった方が楽しいですね、そっちの方が。
			929	C	うーん。
			930	U	なんか他の大学見ると、
			931	U	先生にこう押さえつけられてる感じで、
			932	C	うーん。
			933	U	先生に怯えて、
			934	U	自分のプレーができないとかー、
			935	C	うんうん。
			936	U	そういうのが結構あるのかなーというふうに見えるので、
			937	C	うん。
			938	U	Wでよかったなって{笑い}思います。
			939	C	色々いい方向にいつている//ということ。
			940	C	はい、そうですね。
			941		[沈黙]
		15	942	K	あとは、ずっとインタビューっていうか、
			943	K	写真撮ってたんですけど、
			944	K	いい成績が出た人が来るわけなんですけど、
			945	K	「うちの部、すごく厳しいんですよ。」って言ってた人がいませんね。
			946	U	あ、そうなんですか？
			947	C	あ、そうですね。
			948	C	あの一、スキーとかもフィギアに出てた人とか、
			949	C	インタビューやった時は、
			950	C	「うちは緩いんですよ。」って言ってたんで、
			951	K	色々いて、
			952	K	サッカーや、ら野球やら、みんな厳しくない。
			953	U	ただ、みんな高校と比べたらー、
			954	U	たぶん全然。
			955	C	高校よりは厳しい。
			956	U	だって、大学生って大人ですねと思います。
			957	K	そういうふうな人達に言わせると、
			958	K	「よその大学が厳しい。」って。
			959	U	あー。
			960	K	「うちだけのびのびしてるから強い。」って、言ってたけど。
			961	C	Wの伝統なんですかねー。
			962	C	あまり
			963	K	あるいは、のびのびやってる代が強くなるって。
			964	U	//ああ。
			965	C	ああ、そうかもしれないですね。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー：C, カメラマン：K, ゲスト：U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			966	C	高校はやっぱ厳しくしないと、
			967	C	收拾つかななくなっちゃいますもんねー。
			968	U	どうなんですかねー{笑い}。
			969	C	しなければと思っちゃうところがあるんですかねー。
			970	U	うん。
			971	C	体育会系といえば、
			972	C	厳しくみたいなのが。
			973	U	どうなんですかね。
			974		[沈黙]
		16	975	C	Wでは、どういった勉強をされているん、スポーツ科学部。
			976	U	教員免許を取っててー、
			977	U	ゼミがスポーツ運動学なので、
			978	C	うん。
			979	U	なんかでも、土屋先生って、なんか体操部の先生で、なんか忙しいらしくて、
			980	U	前期なかったんですけど{笑い}。
			981	C	はい。
			982	U	どういう勉強、
			983	U	無難に単位取ってます{笑い}。
			984	K	//{笑い}
			985	C	{笑い}
			986	U	とりあえず卒業することを{笑い}。
			987	C	卒業は、大丈夫そうですか？
			988	U	はい、大丈夫です。
			989	C	あ、じゃあ、勉強はちゃんとやって、
			990	U	はい。
			991	C	運動部もしっかりやってという//いう感じで。
			992	U	はい。
			993	C	そうなると、あの一、遊ぶ時間も削られてきてしまうんじゃないですか？
			994	U	なんか1、2年の頃は、ほんとに部活の日って練習する日も少なくて、
			995	U	バイトばかりしてたんですけど。
			996	C	あ、そうなんですか。
			997	U	3年になって、
			998	U	練習量も増えて、
			999	U	その一、選考会にも受けに行くってことで、
			1000	U	その、心入れ替えて、
			1001	U	練習するようになった。
			1002	C	{笑い}
			1003	K	//{笑い}
			1004	U	ほんとにもう、なんか今年うまく行き過ぎて、
			1005	U	怖いくらいです。
			1006	C	あ、そうですか。
			1007	U	はい。
			1008	C	じゃあ、いい流れで。
			1009	U	なんかほんとに、1、2年間サボってたようなものののにー、
			1010	C	うん。
			1011	U	なんか、とんとん拍子で事が運んで。
			1012	C	このまま
			1013	U	つきすぎてて、
			1014	U	いいことないんじゃないかなって思うくらい。
			1015	K	それは強くなった原因があるん//じゃない。
			1016	C	あるんじゃないですか。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分				
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者
				発話例
			1017	U 早実効果ですかねー{笑い}。
			1018	C {笑い}
			1019	K //{笑い}
			1020	U なんかもう。
		17	1021	C あ、でも、野球なんかも観戦されるんですか？
			1022	U 弟が、U学院のキャプテンやっててー、
			1023	C そうなんですか。
			1024	U 今年、甲子園出たので。
			1025	C えーー。
			1026	U 観てましたね、甲子園。
			1027	C うんうん。
			1028	U 今年、負けちゃったんですけど。
			1029	K 甲子園まで行ったの？
			1030	U いや、自分の方がよくなかってー{笑い}、
			1031	U ちょっと行けなかったですね。
			1032	U 母親はずっと行ってたんですけどー。
			1033	C そうなん//ですかー。
			1034	U はい。
			1035	C じゃあ、必勝妥当早実な感じで。
			1036	U あー、どうなんですかね。
			1037	U なんか「とりあえず一戦必勝で頑張る。」って、ずっと言ってたんですけど、
			1038	U ころって負けちゃって{笑い}。
			1039	C 甲子園出ただけでもすごいですから。
			1040	U ああ。
			1041	C あーじゃあ、2人で、話も合ったりしますか？野球とソフトボールと。
			1042	U やっぱ全然違いますね、野球と//ソフトボール。
			1043	C ああ、やっぱ違いますかー。
			1044	U しかも、男と女なので。
			1045	C うん。
			1046	C 参考にできる部分は？
			1047	U なんかありますけど、
			1048	U たくましくて、弟の方が。
			1049	C ああ。
			1050	U 考え方が大人なんでー。
			1051	C やっぱそうなんですか//高校生でも。
			1052	U はい。
			1053	[沈黙]
			1054	U チームをまとめるリーダー、
			1055	U 私そういうのってのは向いてなくて、
			1056	U 弟は主将とかやってて、
			1057	U そういうの聞くと、
			1058	U あー、すごいなって思います。
			1059	C うーん、そうですね。
			1060	U 私にはないものを持っているので。
			1061	C でも、ほんとに高校野球のキャプテン、主将の人達見ると、
			1062	U はい。
			1063	C すごいなーって。
			1064	U そうですよ。
			1065	U ほんとにすごいなーって。
			1066	C びっくりしちゃいますよねー。
			1067	C 早実のS君も高校生とは思えない//ですよ。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1068	U	そうですね。
			1069	C	弟さんのこととかは載せない方がいいですか？
			1070	U	いや、だいじょうぶです。
			1071	C	大丈夫ですか。
			1072	U	今年、W受験するので、
			1073	C	はっ。
			1074	U	まあ、でも、受かるか分からないんで。
			1075	K	推薦が、キャプテンなら推薦が。
			1076	U	あー、でも、スポーツ推薦はもう埋まっちゃってるみたいなので、
			1077	C	あ、そうなんですか。
			1078	U	自己推で、受験予定で。
			1079	C	じゃ、「ぴーぷる」2人続けて。
			1080	U	そうですね(笑い)。
			1081	C	(?)することを期待しております。
			1082	C	ああ、そうなんですか。
			1083	C	じゃあ、もう3年生とは違うんですね。
			1084	U	そうですね。
			1085	U	まだずっと部活行って、
			1086	U	練習のサポートを//してますけど。
			1087	C	うんうん。
			1088	C	お母様はソフトボールやってて、
			1089	C	弟さんは野球やってて、
			1090	C	みなさん球技好きの//一家ですね。
			1091	U	そうですね。
			1092	K	ちなみにお父さんは？
			1093	U	お父さんは一ー、うちは一、あれなんです。
			1094	U	離婚してるの//で。
			1095	K	あ、そう。
			1096	K	申し訳ございません。
			1097	U	{笑い}いえいえ。
			1098	U	でも、野球やって、
			1099	U	なんかお父さんは色々やってたんで。
			1100	C	じゃあ、お母様の影響ですか？
			1101	U	そうですね。
			1102	C	娘も世界選手権で、弟君は、甲子園となったら、お母様は。
			1103	U	そうですね。
			1104	U	すごい喜んです。
			1105	U	でも、もうなんか、やっぱ母親は男の子の方がかわいくて、
			1106	U	あれなのでー{笑い}、
			1107	C	うーん。
			1108	U	{笑い}弟の方に付きっ切り//ですね。
			1109	K	{笑い}
			1110	C	ああー、
			1111	C	だって、まだ高校生ですもんね。
			1112	U	そうですね。
			1113	C	ご飯の世話とか{笑い}。
			1114	U	{笑い}
			1115	C	男の子は、ほんととく何食べているか、
			1116	C	分からないですもんね。
			1117	U	{笑い}
18			1118	C	今ご実家ですか？

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1119	U	はい。
			1120	C	じゃあ、ご飯とかは一、お母さんが。
			1121	U	そうですね、
			1122	U	はい。
			1123	C	体調管理はきちっとできますね。
			1124	U	そうですね。
			1125	C	ご趣味は？
			1126	C	スポーツ観戦をなさるんですよね？
			1127	U	うん。
			1128	C	スポーツ観戦というのは、他に何か？
			1129	C	ソフトボールだけでなく。
			1130	U	こないだから、甲子園を観るのも好きだし、
			1131	C	うん。
			1132	U	Wのは、アイスホッケーとか観ます。
			1133	C	あ、そうですか。
			1134	C	他にやってみたいスポーツ等はございますか？
			1135	U	テニス。
			1136	U	あの一、授業で取った時に、
			1137	U	先生に「ソフト辞めて、テニスやれ。」って//言われて、
			1138	C	ああ。
			1139	K	{笑い}
			1140	C	{笑い}すごい楽しかったです。
			1141	C	じゃあ、テ、テニスの才能も。
			1142	U	{笑い}そうですね。
			1143	C	もしかしたら。
			1144	U	なんか道具を使うスポーツが好きで一、
			1145	C	うん。
			1146	U	卓球とかバドミントンとか好きです。
			1147	C	球技もみたいのも？
			1148	U	そうですね。
			1149	U	そういうのが向いてるみたいです。
			1150		[沈黙]
			1151	C	音楽鑑賞というのは、どういった音楽を聴かれるんですか？
			1152	U	普通に一、J-POP//とか。
			1153	C	うん。
			1154	C	それが例えば、Qちゃんがマラソンの高橋選手が走る時とか。
			1155	U	それはないです{笑い}。
			1156	U	でも、バス、試合のバス移動とか一、
			1157	C	うん。
			1158	U	周りといっぱい話すというよりは、
			1159	U	音楽を聴いて、
			1160	C	うん。
			1161	U	集中して。
4	19		1162	C	それまで世界選手権行って？
			1163	C	戻って来た時に、
			1164	C	チームメートはどんな言葉を掛けてくれましたか？
			1165	U	「すごいねー。」って言う。
			1166	C	「すごいねー。」って。
			1167	U	「ホームラン打ったのー？」みたいな感じです。
			1168	C	{笑い}
			1169	C	でも、やはりほっとしたところかな。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1170	U	はい。
			1171	U	ほんともうみんなばりばりずっと大学でもばりばり練習して、
			1172	U	たぶん私が一番練習しなくちゃいけないな、
			1173	U	メンバーの中でもやっていけるのかなーって//いうのがすごい心配だったんですけどもー。
			1174	C	うん。
			1175	C	うん。
			1176	U	とりあえず、無事帰ってこられてほっとしました。
			1177	C	それからまた、1ヶ月くらい。
			1178	U	1ヶ月ですね。
			1179	U	ちょうど1ヶ月。
			1180	C	で、他の人達がやっていた練習と同じような感じに戻るという。
			1181	C	どうでした？
			1182	U	レベル高いのを見て、
			1183	U	「なんかこうしたほうがいいんじゃないか、
			1184	U	ああしたほうがいいんじゃないか。」ってのが結構思ったりしたんですけども、
			1185	C	うん。
			1186	U	その、初心者の子達もいるので、
			1187	C	うん。
			1188	U	やっぱり、「ああ、これで勝てるのかなー。」とか//思ったんですけど。
			1189	C	うんうん。
			1190	C	どこまで言えるかって難しいですよー。
			1191	U	そうですね。
			1192	U	この子達がここまで言って、
			1193	U	どこまで着いてこられるかっていうのも、
			1194	U	結構難しくて、
			1195	C	うんうん。
			1196	U	やっぱり女の子って、傷ついたり
			1197	C	うん。
			1198	U	言ったら、
			1199	U	傷つくしー、
			1200	C	うーん。
			1201	U	すぐ辞めちゃったりとか、
			1202	U	しちゃうので、
			1203	C	うん。
			1204	U	そういうの気づかせて、
			1205	U	難しい//ですね。
			1206	C	難しいですね。
			1207	C	そうですねー。
			1208	C	男の
			1209	U	子はまあ、失敗しても
			1210	U	「ちゃんとやれー。」みたいなことを言ってもー、
			1211	C	うん。
			1212	U	奮起したり、
			1213	U	するんですけど、
			1214	C	うん。
			1215	C	確かにね。
			1216	U	女の子は//弱いー子が多いので、
			1217	C	うん。
			1218	U	ほんとアスリートが集まった集団ではないので、//Wのソフト部は、
			1219	C	うん。
			1220	U	だから、そういうのは、どこまでこの子達に言っているのか、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー：C, カメラマン：K, ゲスト：U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1221	C	うん。
			1222	U	先輩にもどこまでこう、心配して
			1223	U	「できますよ。」みたいなことを言っているのか。
			1224	U	で、結構難しいですけど。
			1225	C	うん。
			1226	C	でも、うまく優勝まで//持っていって、
			1227	U	そうですね。
			1228	U	よかったです。
			1229	C	本当におめでとうございます。
5	20		1230	C	来年は、もう(?)1つの中からいっていいかなーっていう。
			1231	U	そうですね。
			1232	C	またこれで、(?)かもしれないですね、優勝するとなると。
			1233	U	そうですねー。
			1234	U	でも、こうなると、
			1235	U	初心者の子が入っ、どうなんですかね、
			1236	U	いずらくなったり。
			1237	C	あー。
			1238	U	もう下から、推薦の子がすごく多くて、
			1239	C	うん。
			1240	U	実際出てるのも一、
			1241	U	ほとんど推薦の子っていう//状態で。
			1242	C	ああ。
			1243	C	うん。
			1244	C	特に、あの一、人数制限っていうのは？
			1245	U	ないです。
			1246	C	そうなってくると、
			1247	C	やっぱり難しくなってきますよね。
			1248	U	そうですね。
			1249	U	やってきた子が入ってきて、
			1250	C	うーん。
			1251	U	後、今の初心者、大学から始めた子達が、やっぱりやりづらい状況になるので、
			1252	C	そうですね。
			1253	U	難しいなって。
			1254	C	やっぱり、初心者も入れるっていう部分は、
			1255	U	変えないで、
			1256	U	先生、うちの先生は「人は宝」ってことを//よくおっしゃるので、
			1257	C	うんうん。
			1258	U	そういう人材を大切に。
			1259	C	選別とはせずに？
			1260	U	はい。
			1261	U	なので、チームを作るとなると難しいんですけども。
			1262	C	うーん、そうですね。
			1263	C	チームに入れる人も人数は必ず決まっちゃってますからね。
			1264	U	はい、そうです。
			1265	U	実際ベンチに入れないのは、初心者の子達だったりするわけで、
			1266	U	よく着いてきてくれるなーって思います。
			1267	C	そうですね。
			1268	C	個人競技だったら、
			1269	C	例えば、体操みたいに、
			1270	U	はい、そうですね。
			1271	C	初心者でも自分なりにできるんですけど、

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1272	U	はい。
			1273	C	チー//ムなので。
			1274	U	チームなので。
			1275	C	初心者はどう伸ばすかつ//てことが課題。
			1276	U	そうですね。
			1277		[沈黙]
		21	1278	C	来年も勝つように、
			1279	C	色々大変だと思うんですけど、
			1280	U	はい。
			1281	C	夏休みですか。
			1282	U	いえ。
			1283	C	そうですね。
			1284	C	10日間は休みがあって、
			1285	C	今回テスト勉強とかもしなくてはならない忙しい日々です。
			1286	U	{笑い}
			1287	K	//{笑い}夏休みはないじゃないですか？
			1288	U	そうですね。
			1289	U	今年はほんとにもう、てんてこ舞です{笑い}。
			1290	C	ゆっくり休めたら、
			1291	C	行きたいっていう。
			1292	U	えー。
			1293	K	何をしたいとか。
			1294	U	何をしたい。
			1295	U	寝たいですね。
			1296	U	寝るんですけど、
			1297	U	家でゆっくり
			1298	C	家でゆっくり
			1299	U	温泉でも、温泉にでも行きたいです。
			1300	K	{笑い}
			1301	U	もうおばさんですよ。
			1302	C	いやいやいや。
			1303	C	大事なことです。
			1304	C	日本には温泉があります//から。
			1305	U	はい。
			1306	U	すごい、お湯に浸かれないっていうのは{笑い}結構厳しかったです{笑い}。
			1307	K	台湾には//ないんですしたっけ？
			1308	U	なんかもう、たぶん全然悪いところだったので。
			1309	U	ユニットバスだともう、もう部屋に、3人部屋だったんですけど、
			1310	U	ユニットバスだと溜めれないじゃないですか？
			1311	U	3人交互に入るとなると。
			1312	C	うんうんうん、そうですね。
			1313	C	確かに、お湯にゆっくり浸かって、
			1314	U	はい。
			1315	U	疲れが取れるじゃないですか？
			1316	U	それがなかったのでー。
			1317	C	日本人はそれに慣れてるから。
			1318	U	はい。
			1319	C	で、同室は3人で(?)だったんですか？
			1320	U	あの一、その前に合宿を一、強化合宿を2回やってるので、
			1321	U	そういうので、色々話したりして、
			1322	U	まあ、チームなので知ってる、ちょっと。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1323	C	あ、だったら、その時は気を使いあつて。
			1324	U	そんなに。
			1325	U	ほんとに、ほんとにいいチームで、
			1326	C	ああ、そうなんですか。
			1327	U	4年生、4年生が何人だろう、
			1328	U	結構いたんですけど、
			1329	U	なんか上下とかこだわる人がいなくて一、
			1330	C	うんうん。
			1331	U	ほんとに優しくて、
			1332	C	うんうん。
			1333	U	すごいいいチーム。
			1334	C	あーー。
			1335	U	いいチーム過ぎて、
			1336	U	「帰りたくない。」って言ってましたね。
			1337	C	{笑い}あーほんとですか。
			1338	C	先ほどから、お話伺つてると、
			1339	C	ほんとに恵まれて//いる。
			1340	U	そう//ですね。
			1341	C	人に恵まれている。
			1342	U	ほんとに恵まれて。
			1343	C	Uさんご自身が呼びやすい力があるんじゃないですか？ やすい感じじゃ？
			1344	U	ああ、{笑い}そうですかー。
			1345	C	これだけ恵まれてくるとなると。
			1346	U	ああ。
			1347	U	なんか小学校とかも弱小だったんですけど、
			1348	U	私の時だけ人がすごい集まって、
			1349	U	運動神経のいい子達が集まったので、
			1350	U	なんか大会の成績とかもよくて、
			1351	U	中学校も一、今でも「私の代が強かった。」って言われるくらい。
			1352	C	そうですか。
			1353	U	ほんとに恵まれて一。
			1354	C	それはUさんの力じゃ//ないんですか。
			1355	U	{笑い}
			1356	U	よかったです。
			1357	C	そうすると、こう幸せオーラで。
			1358	U	{笑い}だといいです。
			1359	C	出てからも、
			1360	C	どこへ行くかによって、
			1361	C	その行った先の運命が//変わる{笑い}。
			1362	U	そうですね。
			1363	C	{笑い}
			1364	U	いやいやいやいや。
	22		1365	C	今後は、どうなさるおつもりなんでしょうか？
			1366	C	もう決めていらっしゃるんですか？
			1367	U	今回、愛知に行つて一、
			1368	C	うん。
			1369	U	実業団から、後輩が行ってる実業団から、「来ないか。」みたいなふうに言われたんですけど、
			1370	U	ソフトボールはいいかなって思うので、
			1371	U	就活をこれからして。
			1372	U	でも、どういう系に進みたいとかは全然、//分からないんですけど、
			1373	C	うん。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1374	U	これからやりたいことを見つけて。
			1375	C	まだでも、3年生ですから。
			1376	U	うん。
			1377	C	じゃあ、ソフトボールにこだわった人生というわけでは。
			1378	U	まあ、これからどうなるかなんですけども{笑い}、
			1379	C	{笑い}
			1380	U	なんかとんとん拍子で事が進んで、
			1381	U	結構通用するのかなって//思い始めているので、
			1382	C	うん。
			1383	U	迷っています。
			1384	C	チームのことはゆっくり//考えて、
			1385	U	はい。
			1386	U	考えて、
			1387	U	やっていきます。
			1388	U	はい。
			1389		[沈黙]
	23		1390	C	そうしましたら、ちょっと色々伺ってきたんですけども、
			1391	C	あの一、例えば、あつ、ちょっと、すみません、その前にちょっと。
			1392	C	W大学で、なんかイベントとか参加されたりってことあります？早慶戦とか。
			1393	U	早慶戦は、去年の春、春に初めて行きました。
			1394	U	それっきり行ってないですけど。
			1395	C	どの選手がっ、いらっしゃる方の中でありますか？
			1396	U	やっぱり応援部がすごいなっていう。
			1397	U	今回も来てもらって一、
			1398	U	あと、その力がすごくて、
			1399	U	去年男子部が優勝したんですけども、
			1400	C	あ。
			1401	U	その時も、私達は負けて、
			1402	U	男子ベンチ行って
			1403	U	応援してたんですけど一、
			1404	U	とても楽しくて一、
			1405	C	うーん。
			1406	U	一緒にやってて、
			1407	U	ほんとに応援部様様だなって{笑い}//思いました。
			1408	C	そうですね。
			1409	C	暑いのに。
			1410	U	今年は逆で、男子部が途中で負けちゃったので、
			1411	U	応援来てくれて、
			1412	C	あー。
			1413	U	応援部と一緒に。
			1414	C	力になりますか？応援部。
			1415	U	はい、そうですね。
			1416	U	ほんとそのおかげかなって思います、勝てたの。
			1417	C	ああ。
			1418	C	やっぱりそういうの、
			1419	U	相手もやじゃないですか？
			1420	U	ソフトボールって、応援とか、学ラン着た人がこうやるのとかないので、
			1421	C	うん。
			1422	U	相手もすごくやだったろうなって思うし、
			1423	C	ああ。
			1424	U	影の立役者。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1425	C	そうですね。
			1426	U	無敗なんです、応援部が来て。
			1427	C	すごーい。
			1428	U	男子部も去年準決来でもらってー、
			1429	U	勝ってて、
			1430	U	今年女子部が準決決勝来でもらって、
			1431	U	勝ってー、
			1432	C	すごいですよねー。
			1433	U	ぜひ来年もお願いしますという。
			1434	C	自主的に来てもらうんですか？
			1435	U	いや、頼んで。
			1436	C	ふーん、そんなんですか。
			1437	C	炎天下の中。
			1438	C	(?)が早慶戦観に行った時、
			1439	C	笑っちゃいましたとか言ってるなんか。
			1440	C	早慶戦だど慶応もすごいですよね。
			1441	U	そうですね。
			1442	C	両方の応援合戦みたいな。
			1443	C	相手が相手に、応援がなかったら、
			1444	C	びっくりしちゃいますよね。
			1445	U	はい。
			1446		[沈黙]
	6	24	1447	C	ありがとうございました。
			1448	C	そうしたら、最後なんですけれども、
			1449	C	あの一、なんでしょう、
			1450	C	学生に向けてのメッセージか、自分がモットーにされているようなことを。
			1451	U	モットー。
			1452	U	は、私はいつも笑顔でいることがモットーです。
			1453	U	モットーというか、
			1454	U	そうしたいなっていう思いで生活しています。
			1455	C	すばらしい//モットーです。
			1456	U	[笑い]
			1457		[沈黙]
			1458	C	ちなみに尊敬している選手とかっているんですか？
			1459	U	うーん、特に。
			1460	C	特に。
			1461	C	そういう選手になりたいとか、
			1462	C	例えば、目標にしているとか。
			1463	U	あー。
			1464	U	なんか。
			1465		[沈黙]
			1466	C	特になかったら。
			1467	U	特に。
Ⅲ	1	25	1468	C	ありがとうございました。
			1469	C	すみません、
			1470	C	お忙しいところお時間来ていただいて。
			1471	C	何か特に、このことを言いたいとか、
			1472	C	言い直したいところとかは？
			1473	U	いえ、大丈夫です。
			1474	U	はい。

【資料2-3】大学広報紙のインタビュー取材
「ぴーぷる Uさん」インタビュアー:C, カメラマン:K, ゲスト:U

話段区分					
大話段	話段	小話段	発話番号	参加者	発話例
			1475	C	今言った中で、
			1476	C	このことは載せないでとかいうのは？
			1477	U	あ、大丈夫です。
			1478	U	はい。
			1479	C	何か、KさんもUさんご自身に関することでも聞きたいことがあったら。
			1480	K	大丈夫です。
			1481	C	大丈夫ですか。
			1482	K	はい。
			1483	K	ありがとうございました。
			1484	U	ありがとうございました。

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	K	よろしく//お願いします。
		2	F	よろしくお願いします。
		3	F	Fです。
		4	K	Kです。
		5	K	よろしくお願いします。
		6	F	お願いします。
		7	F	もうなんでも聞いてください。
		8	K	はい。
II.	1	9	K	一応書いてきたんで。
		10	F	はい。
		11	K	この通りに。
		12	K	なんかその――、今、セミナー、今やってるじゃないですか。
		13	F	はい。
		14	K	それってー、今後2月からセミナー、また違う感じのセミナー、なんですかね、
		15	K	あの――、採用に関係ありそうなセミナーが、
		16	K	12月と2月に分かれているんですけど、
		17	F	はい。
		18	K	それって何回くらい行きました？
		19	K	あの――、1社につき。
		20	F	僕は――、1回ですかね。
		21	K	あ、そーなんすか。
		22	K	結構、その――、何回行ったとかいうのはあんまり数えてないんですね。
		23	F	あんまり関係ないです。
		24	K	あ、そうなんですか。
		25	F	たまにその――、金融とかでー、
		26	F	例えば、銀行だったら、
		27	F	違う種類の//あの、セミナーっていうのは、
		28	K	はい。
		29	F	何回か開いて、
		30	F	その数を数えてるらしいんですけど、
		31	F	僕はー、そんなに――、行かなかったですね。
		32	K	あ、そうなんですか。
		33	F	はい。
	2	34	K	今のところ金融がセミナー多くて、
		35	F	はい、そうですね。
		36	K	そういうの見てるんですけどー、
		37	K	それってなんか、みんな内定者とかがなんか来るじゃないですか、何回か、
		38	F	はい。
		39	K	その、「OB訪問したほうがいいよ」とか、
		40	F	うん。
		41	K	人事部の人とかも「OB訪問しなさい」とかって
		42	F	うん。
		43	K	言ってくるんですけど、
		44	K	あれって何人ぐらいしました？
		45	F	僕、銀行は1つしか受けてなくて、
		46	K	あ、そうなんですか。
		47	F	あの――、それも、普通の採用コースじゃなくて、
		48	F	あの、海外要因の//グローバルコースみたいので受けたんで、
		49	K	あ――。
		50	F	普通の人とちょっと違うんですけど、
		51	F	でも、銀行のOB訪問はしなかった//ですね。
		52	K	あ――、そうなんですか。
		53	F	はい。

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

	54 K	うん。
	55 K	他にOB訪//問は。
	56 F	OB訪問は商社//は結構行っていましたね。
	57 K	あーー、商社。
	58 K	それはやり方とかってゼミの先輩とかそれともキャリアセンター//とか。
	59 F	僕、知り合い全然いなかった//んで、
	60 K	あー。
	61 F	キャリアセンターでOB名簿開いて電話。
	62 K	あー。
	63 F	「A大学の」っていう。
	64 K	あれ結構大丈夫なんですか？
	65 K	すごいまだやってなくて。
	66 F	すごいやで、
	67 K	{笑い} ですよ。
	68 F	先延ばしにしてたんですけど、
	69 K	{笑い}
	70 F	全然大丈夫です。
	71 F	向こうもすごい慣れてる。
	72 F	OB訪問に慣れてるんで、
	73 F	「じゃ、何日の何時でどこどこで待ち合わせねー、
	74 K	あー。
	75 F	会いましょうね、
	76 F	よろしくねー」
	77 F	ピッ//てすぐ終わるので。
	78 K	なるほど。
	79 K	それって向こう側で指定してきて、
	80 K	こっちが合わせるっていう。
	81 F	そうですね。
	82	[沈黙 1 秒]
3	83 K	大丈夫ですかね。
	84 K	あ、次の話いったほうがいいですかね？
	85 F	あ、もう全然好きなように。
	86 K	{笑い} あ、そうですか。
	87 F	はい。
4	88 K	あのー、まあ、4月とか5月まで就活やっていくと思うんですけど、
	89 F	はい。
	90 K	コツとかってありました？
	91 K	その「コツ掴んでいった」ってみんなが言うんですけどー。
	92 F	うーん。
	93 K	あの、うち、浪人、僕、浪人してるんでー、
	94 F	はい。
	95 K	その高校の時の同期とか//に対して、
	96 F	はい。
	97 K	「やっていくうちに、
	98 K	コツ掴めるから大丈夫だよ」ってこと言ってくるんですけど、
	99 F	うん。
	100 K	そういうの具体的にどういうコツがあったりしました？
	101 F	コツというか、
	102 F	たぶんみんなが言ってるのは、
	103 F	面接に//、面接のコツのことかと思うんですけどー、
	104 K	うん。
	105 F	やっぱりその、面接は一、みんな言うように、
	106 F	やればやるほど、
	107 F	回数をこなせばこなすほど、
	108 F	やっぱりうまくなっていくんですよ、
	109 F	慣れてきたりもするしー。
	110 F	だから、そのー、面接、僕は、その本番の4月に始まる前に、
	111 F	面接っていうのは、
	112 F	他の企業で、練習で面接を受けてたんで、

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

	<p>113 F あの、なるべく早目に、その、コッー、何がコツかはよく分かんないんですけどー、</p> <p>114 F 自分が場慣れするために、</p> <p>115 F 練習っていうのはすごい早目にやってま//した。</p> <p>116 K それ、自分の興味が無い業界でもー。</p> <p>117 F それでもやってました。</p> <p>118 F あとはインターンの面接とかもやって//ました。</p> <p>119 K あー。</p> <p>120 K 商社とかって早いじゃないですかー？</p> <p>121 F 面接一で//すか。</p> <p>122 K 面接もその書類、エントリーとか出すのとかって。</p> <p>123 F 商社はたぶん3月の中旬//に、</p> <p>124 K そうですか。</p> <p>125 F エントリーシート提出、締め切りで、</p> <p>126 F で、4月の1日から面接開始で、</p> <p>127 K あ、そうなんだ。</p> <p>128 F なんか遅いほうだと思いますよ。</p> <p>129 K あの、銀行とか商社って1日から始まるって言うじゃないですか、面接。</p> <p>130 F はい。</p> <p>131 K それで、バッティングっていうふうに聞いた//んですけど、</p> <p>132 F はいはい。</p> <p>133 K それってありました？</p> <p>134 F えっと、バッティングー、僕はあんまりなかったですね。</p> <p>135 F 結構、最初はその、ウェブ上に、マイページのほうに、</p> <p>136 F こう何日の何時から何時って</p> <p>137 F ばばばって選択肢があってー、</p> <p>138 F それの早いもの順で埋めてくって感じなんですけど。</p> <p>139 F それをこう早目に予約して、</p> <p>140 F 調整して、</p> <p>141 F バッティングしないようにやってました。</p> <p>142 F でも、ただその4月1日から、</p> <p>143 F 商社と銀行だけでなく、</p> <p>144 F どの業界も例えば、損保とかもそうですし、</p> <p>145 F メーカーも4月1日から始まるんで、</p> <p>146 F 結構そこは、最初のほうは忙しいですね、面接で。</p>
5	<p>147 K じゃあ、そうっすね。</p> <p>148 K なんかあのー、会社選びって3つあると思ってて、</p> <p>149 K プレエントリーする時の段階でー、</p> <p>150 F はい。</p> <p>151 K どの会社にもプレエントリーしようとか、</p> <p>152 F はい。</p> <p>153 K あと、本エントリーの段階でここES出してみよう//とかいうのがあったり、</p> <p>154 F はい。</p> <p>155 K あと、内定もらったあと、</p> <p>156 K この企業にこうっていう3つの方法があると思うんですけど、</p> <p>157 F はい。</p> <p>158 K それぞれどういう感じの選び方をして。(したんですか)</p> <p>159 F プレントリーは、あんまり、どうやったのか//全然記憶にないくらい。</p> <p>160 K はい。</p> <p>161 K はい。</p> <p>162 F ほんとボタン1つでできるじゃないですかー。</p> <p>163 F だから、ほんとに一、</p> <p>164 K 気づけばプレエントリーみたいな。</p> <p>165 F そ//ーですね。</p> <p>166 K {笑い} 何社くらい出しました？</p> <p>167 F プレエントリー50社ぐらいですかね。</p> <p>168 K あー。</p> <p>169 F でも、プレエントリーしなくても、</p> <p>170 K きますよね。</p> <p>171 F きますし、</p>

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

- 172 F HPをいけば、
- 173 F 普通にマイページとかも作れるじゃないですか。
- 174 F だから、あまりプレエントリーは気にしないで//いいかなって思います。
- 175 K あーーーー。
- 176 F で、エントリーシート出す時には、
- 177 F やっぱその一、やっぱ志望理由を書く時に一、
- 178 K うん。
- 179 F どうしても一、ね一なって、
- 180 F 書けないなっていう企業が//何社かあって、
- 181 K あー。
- 182 K あー。
- 183 F そういう企業はやっぱ自分、興味ないんだって思って、
- 184 F そういう時はあまり出さなかったですね。
- 185 K なるほど。
- 186 F 面接の時、
- 187 F 時間が無駄//かなって。
- 188 K 受かってもみたいな。
- 189 F はい。
- 190 K なるほど。
- 191 K あと、じゃ、内定もらった//後はどうでしょう。
- 192 F 内定もらった後は一、
- 193 F そうですね、あの一、ま、その、面接//の時に、
- 194 K うん。
- 195 F 色んな社員の人とか会うんですけど、
- 196 F やっぱそれまではその、社員の雰囲気とかどうのこうのっていうよりは、
- 197 F 会社のこととか、
- 198 F その会社の業界とかを重視して見てってたんですけど、
- 199 F その内定もらって、
- 200 F こういざ選ぶ時っていうのは、
- 201 F その社員さん、その態度とか、
- 202 F 自分の扱い方ってやっぱり結構大きく影響してくるので、
- 203 F そういのはすごい見ましたね。
- 204 K それって結構、じゃー、あの一、第一志望群とか決めてなかったということですか。
- 205 F 第一志望群はやっぱりありましたね。
- 206 F でも、どの企業に絶対//行きたいっていうのはなかったですね。
- 207 K うん。
- 208 K それって何社も第一志望群、だいたい何社ぐらい具体的に。
- 209 F 僕は、第一志望群は一、まあ、だいたい5社とかそんぐらいですかね。
- 210 F あと何かありましたっけ。
- 211 K その中で//、1個決まったら、
- 212 F はい。
- 213 K 例えば、それ以下の志望する会社の選考は一、
- 214 K もう辞退って感じですかね。
- 215 F そーーですね。
- 216 F ま、僕、結構内定出るの遅かった//んで一、
- 217 K はい。
- 218 F 4月の中旬くらいだったんで一、
- 219 F あの、それまでに行きたかった第一志望群の企業が結構落ちてたんで、
- 220 F で、その、たまたまその今行きたかった会社の内定が、
- 221 F 内定もらったのが2番目ぐらいだったんで、
- 222 F そこでもう、選びました。
- 223 K あー、なるほど。
- 6 224 K じゃあ、なんか自分、あの一、サークルーーのこと、結構自己PRとか//でやってきたことを言おうと//
思ってるんですけど、
- 225 F はい。
- 226 F ーはい。
- 227 K なんか代表みたいのやってて、1年くらい。
- 228 F はい。
- 229 K それって人間関係が結構重視で、自分の中では、

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

- 230 F はい。
- 231 K そういうことを言っていこうかなって思ったんですけど、
- 232 K 色んな人に聞いてみると、
- 233 K 色々数値化が必要みたいな、
- 234 K ES書くにも、
- 235 F はい。
- 236 K あと面接で頑張ったって//ことを言うにも、
- 237 F はい。
- 238 K なんかそういうの//出したほうがいいよって。
- 239 F はい。
- 240 K それがなんか自分で考えてて、
- 241 K 難しいなって//面が多くて、
- 242 F うーん。
- 243 K どうしたらいいのかなってすごい思ってるんですけど。
- 244 F ま、数値化っていうのは、
- 245 K うん。
- 246 F やっぱりその、具体的な数値がないと、
- 247 F 聞いている側もイメージが湧かない//っていうのがあると思うんですけど、
- 248 K そうですね。
- 249 F 例えば、サークルだったら、
- 250 F 何人の何十人のサークル//をこうまとめて、
- 251 K うん。
- 252 F 例えば、イベントとかを開いた時に、
- 253 K うん。
- 254 F 何人でイベントを用意して、
- 255 K うん。
- 256 F 何人の人を呼ぶことができたとか、
- 257 F そういう、そういうイメージを、そういうやっぱり数字を挙げることによって、
- 258 F 聞く側も、あのどの程度の人なのかとか、
- 259 F イメージがつくんで、
- 260 F やっぱり、そのことだと思うんですよね。
- 261 F 数字やその、人間関係に関して、
- 262 F 数値化って//なかなか難しいので、
- 263 K うーん。
- 264 F 数値化っていうよりは具体例。
- 265 K うん。
- 266 F 具体的な//エピソードが必要になってくると思うんです。
- 267 K なエピソード。
- 268 K なんかそのー、代表をしてて、
- 269 K 色々係りがあるわけじゃない//ですか、
- 270 F はい。
- 271 K 合宿係とか。
- 272 K テニサーだった//んで、
- 273 F はい。
- 274 K 練習する係とか、
- 275 K イベント係って。
- 276 K ま、自分が直接イベントに関わっているわけでも//ないので、
- 277 F はい。
- 278 K 自分が練習を直接やってるわけじゃないから。
- 279 F はい。
- 280 K なんか、なんて言うんですかね、
- 281 K 話す時に、
- 282 K 練習をやりましたって言うよりは、
- 283 K 練習係の人と協力して、
- 284 K 練習を作りましたって話になると。
- 285 K それを数値化って難しいなって思ったんですよね。
- 286 F そうですね、数値化を必ずしなくて//もいいと思うんですけどー、
- 287 K うーん。
- 288 F それよりはこう、まー、分かりやすくてー、

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

	289 K うん。
	290 F 且つ、具体的なエピソードがあれば、
	291 F そっちを話したほうがいいと思いますね。
	292 F やっぱ、その一、人間関係っていうと、
	293 F どの事柄も人間関係って//言えるちゃうじゃないですかー、
	294 K うん。
	295 F だから、こう、具体性っていうのはすごいやっぱ求められるし、
	296 F そこで、やっぱ面白いエピソードがあったら、
	297 F そういうのを盛り込まないと、
	298 F 聞いている側もこうイメージがつきにくいて、
	299 K うんうん。
	300 F そっちの問題だと思いますね。
	301 [沈黙 1 秒]
7	302 K すみません、
	303 K あと何分。
	304 F あと 5 分ぐらいですね、
	305 F そんなあんまり気にしないでいいですよ。
	306 K 分かりました。
8	307 K そーですね、あとなんか、最近、ここには書いてないんですけど、
	308 F はい。
	309 K 最近、知ったこと（で）、
	310 K なんかリクルーターのことよく分かってなかった//んですけど、
	311 F はい。
	312 K なんかそのインフラとか
	313 F はい。
	314 K 銀行でも何社があるよみたいな、
	315 K あと、メーカーとか付くところあるよって、
	316 K あれってなんかどういう感じですかね。
	317 K 漠然と//してるんですけど。
	318 F 僕もリクルーターは//、ついたことがなかったんでー、
	319 K はい。
	320 F つくような企業は//受けなかったんで、
	321 K はい。
	322 F あんまり分かんないんですけど、
	323 F あの一、こう銀行とかは結構//多いのかな、たぶん。
	324 K うん。
	325 F なんかその人が、ある担当の社員ってことだと思うんですよね。
	326 F こう、その人とよく面接して、
	327 F あの一、その人、よく面接したり、
	328 F こう連絡係がその人だったり//とか、
	329 K うん。
	330 F あとはその、例えば、その最終面接の時に、
	331 F そのリクルーターの人と色々話して、
	332 F どういう対策をしたらいいとか、
	333 F アドバイスたまにくれたりするのもリクルーターなんで、
	334 F そんな、そういう話を僕は聞くんですけど、
	335 K うん。
	336 F あんまり//分かんないです。
	337 K そうなんですか、分かりました。
	338 K ありがとうございます。
9	339 K あと一、じゃあ、そうですね、
	340 K 今後、4 月とか// 5 月まで、
	341 F うん。
	342 K あと 4、5 ヶ月//就活がある中で一、
	343 F うん。
	344 K その一、今って自分の中では、
	345 K 結構セミナーぼんぼんぼんぼん 1 日とか 2 日とか入れたの//こなしていくみたいなの。
	346 F はいはいはい。
	347 K あと、余った時間で、

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

- 348 F はい。
- 349 K ちょっと何やったか調べてみようかみたいな感じで、
- 350 K ストレスフルな生活は//送っていない感じはあるんですけど、
- 351 F うん。
- 352 K なんか聞いてると、
- 353 K やっぱ辛かったみたいな、
- 354 F うん。
- 355 K こう就活やっても
- 356 K やりたくないなーみたいなことを聞くので、
- 357 K どういうところで悩んでたとか、
- 358 F あー。
- 359 K どういう時期に悩んでたんですか。
- 360 F やっぱ、や、ほんとと同じでー、
- 361 F 12月とか//全然何もストレス感じなかったんですけど、
- 362 K うん。
- 363 F 一番やっぱみんながストレス感じる時期は4月。
- 364 K うん。
- 365 F その面接始まってー、
- 366 F 且つ、その面接、最終//、内定出るか出ないの時期って、
- 367 K うん。
- 368 F 一番ストレスかかる時期だと思うんですね。
- 369 K それって何でー。
- 370 F っていうのも、その周りで内定が出始める。
- 371 K うん。
- 372 F で、自分の仲いい友達が、
- 373 K うん。
- 374 F もしくは、同じ企業受けてたけど、
- 375 K うん。
- 376 F 自分が落ちて、
- 377 F その知り合いが内定もらったってうふうになってくると、
- 378 F 自分ちょっとやばいなって//いう焦り始めたりもするし、
- 379 K あー。
- 380 F で、そういう相談って結構、やっぱり同じ企業受けてる友達にはしにくい//ですねー。
- 381 K そうですね。
- 382 K 分からないですね。
- 383 F 分からないし、
- 384 F 相手に聞くのもなんか。
- 385 K どういうテンションで言って//いいのか。
- 386 F そう。
- 387 F 相手も受かってるか//分かんないんでー。
- 388 K そうですね。
- 389 F だから、そういうので//、悶々とする時期だと思うんです。
- 390 K うん。
- 391 F で、あと、内定がまだ1つもない段階だと、
- 392 K うん。
- 393 F また落ちたわー、
- 394 F また落ちたわーっていうふうにはほんとネガティブになるのが、
- 395 F その4月の上旬から中旬、下旬にかけての時期なんでー、
- 396 F そこがやっぱり僕もきつかったですね。
- 397 K それって、じゃあ、同期の中でも、
- 398 K 同じ業界の人、
- 399 K 志望した同期に相談するのが一番いいって
- 400 K おっしゃってたんですが、
- 401 K それはできない。
- 402 K どうした、どうしたんですかね、それ。
- 403 F そーですね、僕はー、あの、先輩とか。
- 404 K 同じ業界を//受けた？
- 405 F 同じ業界は関係なく、
- 406 F 普通に先輩とかに//話してましたしー、

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

	<p>407 K あー――。</p> <p>408 F あと、同じ業界を受けているその同期だと、</p> <p>409 F 結構やっぱりお互い遠慮しちゃうから、</p> <p>410 F その、なるべく違う業界//受けてる人。</p> <p>411 K うん。</p> <p>412 F 全然違う就活している人とお互い話合ったり。</p> <p>413 F そしたら、お互い話してくれたりするので、</p> <p>414 F その、結構、あんまり関係ない人と話すことが//結構重要な。</p> <p>415 K あー――。</p> <p>416 F リフレッシュされるんで、</p> <p>417 F それが重要かなって思います。</p> <p>418 K あれ――、どうなんすかね、</p> <p>419 K あの一、どれぐらい会いま、会えました？</p> <p>420 K 4月とかって//、ある程度みんな忙しいとか、</p> <p>421 F うん。</p> <p>422 F 友達にってことですか？</p> <p>423 K そうですね。</p> <p>424 K 夜とかって暇だったり//する（んですか。）</p> <p>425 F 夜一、4月は一、4月の上旬は一//、無理ですね。</p> <p>426 K うん。</p> <p>427 K 会うことも――。</p> <p>428 F 会うことも//無理。</p> <p>429 K うんうん。</p> <p>430 K 書いて寝るみたいな。</p> <p>431 F 書いて寝て、</p> <p>432 K あーみたいな。</p> <p>433 F 帰り道に電話がかかってきて、</p> <p>434 F 「明日の何時に面接です」ってなって一、</p> <p>435 K ああ。</p> <p>436 F 「分かりました。</p> <p>437 F お願いします。」ってなって一、</p> <p>438 F 明日の企業のこと//もう一回復習しなきゃって、</p> <p>439 K うんうんうんうん。</p> <p>440 F あー、明日朝早いから、</p> <p>441 F 明日どこどこにまず何時に行ってから、</p> <p>442 F どこどこ行くから、</p> <p>443 F こういう準備しなきゃって考えながら、</p> <p>444 F お風呂入って寝る//ってような生活ですね。</p> <p>445 K あー。</p> <p>446 F それが1週間ぐらい。</p> <p>447 K ああ。</p> <p>448 F 1、2週間ぐらい。</p> <p>449 K それが結構ちょっとストレスになって。</p> <p>450 F みんな、それはみんな//そうだと思うんですね。</p> <p>451 K {笑い}。</p>
10	<p>452 K あと一、そうですね、</p> <p>453 K なんだっけ</p> <p>454 K 何言おうとしたんだっけ。</p> <p>455 K えーと、4月の最初のほうに、</p> <p>456 K その色々企業から「面接しよう」みたいな電話が掛かってくるんですか。</p> <p>457 K 1日に何個くらい入ってたりするんですか。</p> <p>458 F 最初のほうは一次面接が通る数多いから一、</p> <p>459 K うん。</p> <p>460 F 1日に2個とか。</p> <p>461 K うん。</p> <p>462 F 3個はなかったかな。</p> <p>463 K うん。</p> <p>464 F あんまりなかったと思うんですけど、</p> <p>465 F 1、2個はだいたいありましたね、最初。</p>

【資料3-1】就職活動の相談
質問者K(NS1)と応答者F

		<p>466 K それはグループ面接とか、グループディスカッションとかですか。</p> <p>467 F そうですね。</p> <p>468 F そうそう、グループ面接が多かった気がする。</p> <p>469 【アラーム】</p> <p>470 K それで1時間半くらいとかですか？</p> <p>471 F いや、そんな長くないですね。</p> <p>472 F たぶん30分とか。</p> <p>473 K あー、そうなんですか。</p> <p>474 F ぱっぱぱと。</p> <p>475 K 5人とかで。</p> <p>476 K 持ち時間5分とかで。</p> <p>477 F そんなに感じですね。</p> <p>478 F 多いところは8人//とかありますしー、</p> <p>479 K あー。</p> <p>480 K やっぱこう、あまり言わない。</p> <p>481 F 逆に2人と面接官1人ってところも//あるんで、</p> <p>482 K あー。</p> <p>483 F それはもう企業によって//違いますね。</p> <p>484 K ちょっと違う。</p> <p>485 K ありがとうございます。</p>
11		<p>486 F そろそろ時間ですけど、</p> <p>487 F 最後何か聞きたいことがあれば。</p> <p>488 K 最後、そうっすねー。</p> <p>489 K じゃあ、どうして自分が内定もらえたのかっていうのはありますかー。</p> <p>490 K なんかこの内定した企業を通して、</p> <p>491 K 自分がどういうことを言えたからー、</p> <p>492 F そうですね。</p> <p>493 K 受かったんだろーなーみたいな。</p> <p>494 F 素直に//何も飾らずに話してー、</p> <p>495 K うん。</p> <p>496 F 向こうもあの、結構僕を感じる限り素直に話してくれて、</p> <p>497 F それがやっぱりあったからじゃないですかね。</p> <p>498 F どの企業に受かったから</p> <p>499 F 偉いとかそういうの全然なくて、</p> <p>500 F その人の人生だしー、</p> <p>501 F その偉いって言われて、</p> <p>502 F 今日、潰れるかも//しれないからー、</p> <p>503 K うん。</p> <p>504 F なんと今言えないからー、</p> <p>505 F その後フィーリングが合う合わないかが</p> <p>506 F 結構だい//需要だと思うんですよね。</p> <p>507 K そうですね。</p> <p>508 F まあ、なんか「フィーリングってわけの分かんないこと言うんじゃねーよ {笑い}」</p> <p>509 F って//思うかもしれないけど、</p> <p>510 K {笑い}</p> <p>511 F 面接始めたら、</p> <p>512 F 4月になったら、</p> <p>513 F そう感じ//る {笑い}。</p> <p>514 K 分かります。</p> <p>515 K {笑い} なるほど。</p> <p>516 F ぜひ頑張って//ください。</p> <p>517 K はい、ありがとうございます。</p>
Ⅲ.	1	<p>518 F じゃあー、時間//なんで。</p> <p>519 K そうですね。</p> <p>520 F ありがとうございました。</p> <p>521 K ありがとうございました。</p>

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	O	よろしくお願いします。
		2	F	よろしくお願いします。
		3	F	Fです。
		4	O	Oです。
		5	F	よろしくお願いします。
		6	O	お願いします。
		7	F	もう何でも//聞いてください。
		8	O	あ、{笑い} 分かりました。
II.	1	9	O	じゃ、お願いします。
		10	F	お願いします。
		11	O	えっとー、まずあの、就活中に1番力を入れたというか、
		12	O	頑張ったきたこと、
		13	O	企業研究とか自己分析とか色々あると思うんですけど、
		14	F	はい。
		15	O	特に自分がここは頑張ったっていうところと、
		16	O	面接をしていく上で、
		17	O	どんどん面接って慣れると思うんですけども、
		18	F	はい。
		19	O	面接をどんどんこなしていく上で、
		20	O	なんかテクニックっていうわけじゃないんですけどもー、
		21	F	うーん。
		22	O	こういうふうに分の中で変えていったところがあったら、
		23	F	うーーーん。
		24	O	教えていただきたいなって思います。
		25	F	そうですね、まず自分が頑張った//、一番頑張った、力を入れたっていうのは、
		26	O	はい。
		27	O	はい。
		28	F	そーですね、やっぱり、まあ、就活の前半のほうは一、
		29	F	そのー、時間があれば、
		30	O	はい。
		31	F	その、まあ、興味ない企業でもセミナーに行ってー、
		32	O	はいはい。
		33	F	セミナーに行く。
		34	F	なるべく足を動かして行く//ってことを気をつけていましたね。
		35	O	はいはい。
		36	F	で、後半のほうは一、やっぱり、そうですね、忙しい中でもー、
		37	O	はい。
		38	F	そのリフレッシュ//するのを、
		39	O	はい。
		40	F	まあ、忘れずに、
		41	O	うーん。
		42	F	リフレッシュするのは心掛けていました。
		43	O	あー、分かりました。
		44	F	忙しくても。
		45	O	はい。
		46	F	で、面接のそのテクニック//のことなんですけどー、
		47	O	はい。
		48	F	テクニックは特になー、そんなテクニックというよりは、
		49	F	基本的なことなんですけどー、
		50	F	やっぱりその、どの面接でも明るく、
		51	O	はい。
		52	F	おっきな声で、
		53	F	相手の目を見て、

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

	<p>54 O はい。</p> <p>55 F ほんとにはっきりと堂々と喋るってことは一、</p> <p>56 F ま、簡単なようで//意外と難しいので、</p> <p>57 O むず、そーですね。</p> <p>58 F それはどの面接でも絶対にやるようには気をつけてました。</p> <p>59 O 分かりました。</p> <p>60 F やっぱり男の子だと、</p> <p>61 O はい。</p> <p>62 F その、元気のよさとか、</p> <p>63 O はい。</p> <p>64 F 爽やかさ//っていうのはすごい重要視されるので、</p> <p>65 O はい。</p> <p>66 F 重要視っていうか、</p> <p>67 F 雰囲気は大前提//とされるので。</p> <p>68 O そーですね。</p> <p>69 O 第一印象って大事だと思いますし。</p> <p>70 F それが結構//気をつけていま//した。</p> <p>71 O あ。分かりました。</p> <p>72 O ありがとうございます。</p>
2	<p>73 O あの、次、なんですけども一、</p> <p>74 O 就活中で最も苦勞したことと、</p> <p>75 O またそれをどうやって乗り切ったのかっていうのを教えていただければ。</p> <p>76 F 苦勞したことは一//、その一、4月の中旬頃に、</p> <p>77 O はい。</p> <p>78 O はい。</p> <p>79 F まだ内定が何もない段階で一、</p> <p>80 O はい。</p> <p>81 F 最終面接にぼんぼんって2つ企業いった時に、</p> <p>82 O はい。</p> <p>83 F あの一、これどっちか内定出るだろうって//思ってたら、</p> <p>84 O はい。</p> <p>85 F どっちも両方に落とされてっていう。</p> <p>86 O え、最終面接で結構落とされることあるんですね？</p> <p>87 F そうですね、企業によって//ですけど。</p> <p>88 O あー、はい。</p> <p>89 F それで、落とされた時は、</p> <p>90 F 結構//落ち込みましたね。</p> <p>91 O はい。</p> <p>92 O ああ。</p> <p>93 F で、その落ち込んだ時はやっぱり、</p> <p>94 F 一人で考えてても//仕方ないんで、</p> <p>95 O はい。</p> <p>96 F ま、先輩とか//、もしくはその友達に、</p> <p>97 O はい。</p> <p>98 O はい。</p> <p>99 F 結構相談というか、</p> <p>100 O はい。</p> <p>101 F 気晴らしに話してました//ね。</p> <p>102 O あー。</p> <p>103 O やっぱりリフレッシュっていうものが大事になされたってことですね。</p> <p>104 F そーですね。</p> <p>105 O あ、はい。</p> <p>106 [沈黙2秒]</p> <p>107 O すいません、なんか。</p> <p>108 F あ、全然ゆつくりで。</p> <p>109 O いいですか？</p> <p>110 F はい。</p> <p>111 [沈黙1秒]</p>
3	<p>112 O えー、次なんですけども一、</p>

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

- 113 O まだ、自分、12月のこの時期で、
114 O ESとかを書く機会ってあんまり//ないんですよね。
115 F はいはい。
116 O で、なんか話とかで、
117 O 結構「1月とか2月とかにESがすごいなんか溜まっちゃって一、
118 F はいはい。
119 O 大変だった一」っていうのを//聞いたので、
120 F はい。
121 O そのESを書き出した時の時期とか、
122 O また、書く時には、
123 O 色々なんか、時間とかを短縮できるみたいなそういうなんか、結構なんて言うんですかね、
124 O テクニックっていうわけじゃないんですけども、
125 O なんか、ここをこうしたら、
126 O こう繋がったみたいなみたいなそういうところがあれば。
127 F うーん、そうですね、
128 F そのES書く時に
129 F だいたい聞かれるのが一、
130 O はい。
131 F 会社の志望動機と、
132 O はい。
133 F まあ、学生時代頑張ったこと//を必ず聞かれるんですけど、
134 O はいはい。
135 F まあ、志望動機っていうのは、
136 F その会社によって考えるしか//ないんですけど、
137 O そうですね。
138 F 学生時代頑張ったことっていうのは、
139 F 自分の経験なんで、
140 O はい。
141 F 会社ごとに変わるってのは//ないじゃないですか。
142 O そうですね。
143 F だから、結構どの企業に対しても同じことが書ける//んですね。
144 O はいはいはい。
145 F だから、その学生時代頑張ったことを400字、400文字のその文章を、
146 O はいはい。
147 F 早目に書き始めて、
148 O はいはい。
149 F 色んな人、先輩とか社会人の人に//見せて一、
150 O はいはい。
151 F 推敲して、
152 O あ、添削とか//してもらう。
153 F 添削//してもらって、
154 O はいはい。
155 F いっぱい書き直して、
156 O はいはいはい。
157 F もう1月の段階でもう完璧な、完璧っていうか、
158 F ほぼ//できあがっている状態のその文章を作っておきましたね。
159 O はいはいはいはい。
160 O はいはい。
161 F そしたら、その本番のエントリーシートを書く時に、
162 F あの一、全然書いて大丈夫ですよ。
163 O はい。
164 F 本番のエントリーシートを書く時に、
165 F あの一、そのもとの文章、コピーアンドペーストして、
166 O はいはい。
167 F 次数を調整するだけ//で、
168 O うーん。
169 F すぐ提出//できるんで、
170 O あー。
171 F それは結構、やっというて//よかったなって思いました。

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

- 172 O あ———。
- 173 O それって、企業ごとに、
- 174 O なんか、会社ごとに、全会社というわけではないんですけど、
- 175 O ちょっと変えたりするもんなんですか？
- 176 O その——、頑張った、あんまり。
- 177 F あ——、人によると思うんですけど、
- 178 O はい。
- 179 F 僕は全然変えなかった//ですね。
- 180 O あ、そのまま。
- 181 O 全然大丈夫だったというか、
- 182 O それで落ちるっていうのは//なかったですか。
- 183 F 全然ない。
- 184 O はい。
- 185 F むしろあんまり変えすぎると、
- 186 O はい。
- 187 F 自分がぶれる。
- 188 O あ——、逆に、はいはい。
- 189 F ぶれちゃうんで。
- 190 F 全然、そんな企業の顔色伺ってとかは//あんまなくていいと思いますね。
- 191 O はいはい。
- 192 O あと、ちょっと、ここにはないことなんですけどもー、
- 193 O 例えばなんか、通信系だったら通信系、
- 194 O 銀行系っていったら銀行系って
- 195 O 色んなところがあると思うんですけども、
- 196 F はい。
- 197 O 志望動機っていうのは、ある程度似かよってくると思うんですよ。
- 198 O やることが決まってる場合//っていうのは。
- 199 F はいはいはい。
- 200 O そういう時にやっぱり、その、例えば、銀行だったら、
- 201 O メガバンク3社あると思うんですけども、
- 202 O その一社ごとに、なんかちょっと変えてみたりとかって、
- 203 O そういうことはやっぱりしましたかねー。
- 204 O それとも。
- 205 F そうですね、僕は、メガバンは1つしか受けなかった//んで、
- 206 O あ——はい。
- 207 F 何とも言えないんですけどー、
- 208 O はい。
- 209 F そうですね、ま、まー、そうですね、
- 210 F 同じ業界で、なん、何社か大きいのがある時、
- 211 F どういう違いを//言う時には、
- 212 F そうですね、志望動機とかに。
- 213 F やっぱり、その、1つ言うのは社風が//企業ごとに絶対に違うので、
- 214 O はいはいはい。
- 215 O そうですね。
- 216 F 例えば、OB訪問OG訪問をした時に、
- 217 O はい。
- 218 F もしくは、面接とかで会った社員さんの雰囲気//こうこうこうで、
- 219 O はいはいはいはい。
- 220 F 自分に合うと思ったからですとか。
- 221 O はいはい。
- 222 F そういう言い方は結構みんな//しますしー、
- 223 O あ——、はい。
- 224 F あとはー、そうですね、違い、でも、あんまりないですね。
- 225 O そーですね。
- 226 O なんか//このところはこういうこと取り組んでいるから、
- 227 F うん。
- 228 O 自分興味がありますっていうのは、
- 229 O あんまり分かんないっていうか。
- 230 F あんまり分かんだったら、

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

	231	F	言わない//ほうが、得ですね。
	232	O	ほうがいいですね。
	233	O	あ、分かりました。
	234	O	下手なことは書かないほうがいい。
	235	F	絶対言わないほうが。
	236	O	分かりました。
	237	O	ありがとうございます。
4	238	O	で、あとは一、(2) 企業研究っていうのを、
	239	O	なんか結構、自己分析ってあって、
	240	O	自己分析をやることっていうのは、
	241	O	分かるとおも、分かるんですけども、
	242	O	企業研究っていうのが具体的になんかどういことを調べるかっていうのが、
	243	O	その、社風とかっていうのは、
	244	O	やっぱり現場に、現場の説明会とかに行くことで感じると思うんですけども、
	245	O	その企業研究って、結構具体的な仕事とかを調べました？
	246	F	僕は結構、説明会で聞くこと、
	247	O	はい。
	248	F	言われることを結構聞いて、
	249	O	はい。
	250	F	「あー、なるほどな」ってのが//結構メインでしたね。
	251	O	ああ。
	252	F	あとは、その一、ホームページにいて、
	253	O	はいはい。
	254	F	会社がやってる色んな事業とか、
	255	O	はい。
	256	F	企業理念とかを//確認したりとかする程度で//したね。
	257	O	うん。
	258	O	あ、そこまでなんか深くーとかは。
	259	F	そうですね。
	260	O	自分、まだ全然企業研究//とかやってなくて、
	261	F	うん。
	262	O	実際何を調べたら//いいのかっていう。
	263	F	うん。
	264	O	IR情報とかを//見るとか言われたんですけど、
	265	F	うん。
	266	O	そこから、何か終わりが無いっていうか、
	267	F	うん。
	268	O	切りがない//ような気がしてきて。
	269	F	そうですね。
	270	F	ま、なんだろう、一番やっぱり重要なのは一、
	271	O	はい。
	272	F	その会社の方針というか、
	273	F	その理念//っていうのがやっぱ自分にじっくりくるとか、
	274	O	うん。
	275	O	はいはいはいはいはい。
	276	F	その企業がどういうビジネスをしてる、
	277	O	はいはいはいはい。
	278	F	それは自分が興味があるのかっていうことが、
	279	O	はいはいはいはいはい。
	280	F	大前提だと思って、
	281	F	そこが確認できれば、
	282	O	はい。
	283	F	後、その細かい仕事//っていうのは、
	284	O	はい。
	285	F	あんまり//問われないですよ。
	286	O	あんまり。
	287	O	分かりました。
	288	F	あと、僕は//、日経新聞//を結構読んで一、
	289	O	はい。

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

	290	O	はい。
	291	F	そこだと、その一、ホームページ書いてない最新の//企業ニュースとか結構出てるんで、
	292	O	うんうんうんうん。
	293	F	そこは結構チェックしましたね。
	294		[メモ14秒]
	295	O	あ、ありがとうございます。
5	296	O	そうですね、あと、気になってるってことってのが一、
	297	O	グループディスカッションって//あると思うんですけど、
	298	F	はいはい。
	299	F	はい。
	300	O	そういう時っていうのは、
	301	O	結構自分から話したりっていうのより、
	302	O	自然体で無理せず
	303	O	自分の姿をさらけ出すってしたほうがいいんですか。
	304	O	ちょっと頑張ったほうがいいですかー。
	305	O	それともなんか。
	306	F	いや、僕は、無理に頑張る必要はないかなって//思いますね。
	307	O	はいはい。
	308	O	自然体で。
	309	F	そうですね。
	310	F	もし、なんかその、たん、あたったグループが、
	311	O	はい。
	312	F	グループのメンバーが、その、なかなか積極性のない人達//ばかりだったら、
	313	O	うん。
	314	F	自分がちょっと頑張って、
	315	O	うん。
	316	F	ちょっと、なんか進行役を務めるかとか、
	317	O	はいはいはいはい。
	318	F	そういうのは判断が必要だと思うんですけど、
	319	O	はいはい。
	320	F	別に無理して、
	321	F	毎回やって、
	322	F	絶対発言いっぱいしまくろう、
	323	O	はいはいはい。
	324	F	進行役やろうっていうのは絶対//いらなと思います。
	325	O	あ、分かりました。
	326		[沈黙2秒]
	327	F	グループディスカッションはやっぱその、複数の人数で合意したアイデアを時間内に出すっていうことが、
	328	O	はいはいはいはい
	329	O	大事ー。
	330	F	そうですね。
	331	F	それが一番の目的なんで、
	332	O	はい。
	333	F	それを達成するために、
	334	F	自分がどう、どう協力できるかっていうことを考えたほうがいい。
	335	O	自分なりの役割を//その、考えてーみたいなの。
	336	F	そうですね、その場で考えてった//ほうがいいのかと思います。
	337	O	はいはいはい。
	338	O	グループディスカッションってなんかグループワークってのは説明会の時に、
	339	O	行うんですけど、
	340	O	グループディスカッションって、
	341	O	1つのお題みたいのがあって、
	342	O	それについて論じるみたいな感じなんですか？
	343	O	それとも、グループ、グループディスカッションっていまいち//分からなくて、
	344	F	うん。
	345	O	グループワークみたいなものなんですかー？
	346	O	なんかそのう、
	347	F	そう、ま、そうですね。

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

348 F でも、グループディスカッションは結構その一、お題はほんとに色々//あるんですけど、
349 O はいはい。
350 F グループワークと違って、
351 F あのー、人の意見が対立するようなお題がたまに//ありますね。
352 O あー、なるほどなるほど。
353 F 例えば、なんだろう、
354 F 俺の時はなかったんですけど、
355 F あの、例えば、死刑制度//、を廃止するべきか、
356 O はいはいはいはいはい。
357 F しないべきか//っていうのが出された時に、
358 O はいはい。
359 F こー、いや、絶対廃止するべきだっていう人がいれば、
360 O うん。
361 F いや、しないほうがいいでしょって//いう人がいた時に、
362 O うーん。
363 F ま、グループで1つの意見//を出さなきゃいけない。
364 O はいはいはいはいはい。
365 F どっちか妥協しなきゃ//いけないんで、
366 O うんうんうん。
367 F そういうことは、ま、グループワークでなかなかない//ですね。
368 O そうですね。
369 F 真正面からぶつかって//いくような。
370 O 一から作り上げてくみたいのが多//かったり。
371 F そうですね。
372 F だから、そういうようなお題も含まれて//いるディスカッションですかね。
373 O あーはいはいはいはいはい。
374 O なるほど。
375 O なんか、そのグループ、特に、グループディスカッションがすごい不安っていうか、
376 O やったことがないので、
377 F はいはい。
378 O なんかあれなんですけども、
379 O なんかこういう人が受かるっていうのではないんですけども、
380 O なんかこういうのがいいんじゃないかなっていうのがやっぱありますか。
381 O そういふのはないんですかね。
382 F ま、その、グループとかその雰囲気によって//で全然違うんですけど、
383 O 全然違いますよね。
384 F やっぱ、その、話を聞いていて、
385 F その、例えば、1回議論を止めて、
386 F 話をまとめて、
387 O うんうんうんうん。
388 F あの、今までの議論を整理して、
389 O うん。
390 F 時間内までにこういうことを決めましょうって、
391 O はいはいはいはいはい。
392 F こう1回まとめて、
393 F 整理して
394 O はい。
395 F それを共有できる人っていうのは、
396 F やっぱ、その、評価どうこう//よりも、
397 O はい。
398 F グループの同じメンバーとしてすごい助かるんで、
399 O あー、はいはい。
400 F そういう役割は結構大事になって//思いました。
401 O 分かりました。

6 402 O 最後に一個だけなんですけども、
403 F はいはいはいはい。
404 O 面接とかでなんか、ちょっと、変わったなんか質問とかってあると思うんですけど、
405 F うん。
406 O 即興の質問//の時には、

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

	<p>407 F はいはいはいはい。</p> <p>408 O どういうふうに対処していましたか。</p> <p>409 F いや、その場で考えるしかない//でしょう。</p> <p>410 O あー、ない。</p> <p>411 F 別に前から調べて一//つていうわけじゃないので、</p> <p>412 O そうですね。</p> <p>413 F ほんとその場で正直に//答えるしかないですね。</p> <p>414 O あー。</p> <p>415 O その時は、変に慌てたりとかはせずにつていうか、</p> <p>416 O 結構、何ですかね。</p> <p>417 F 僕はー。</p> <p>418 O すみません、説明が下手で。</p> <p>419 F ま、不安になることは//すごく分かるんですけど、</p> <p>420 O そう。</p> <p>421 F そうですね、僕は、どうしても分かんなくなった時、</p> <p>422 F 1回あって、</p> <p>423 F そういう時は、「すみません、あの、1分ぐらい、1分、時間、頭真っ白なんで、</p> <p>424 F 1分時間もらってもいいですか」つて言って、</p> <p>425 O はい。</p> <p>426 F で、1分うーんって考えて、</p> <p>427 F ま、考えた答えを言ってみました。</p> <p>428 O あー、なるほど。</p> <p>429 F そういう時は、全然、時間をもらっても全然大丈夫。</p> <p>430 O あ、分かりました。</p> <p>431 O 特になんか、それが減点対象になるとかそういうことではなく。</p> <p>432 F ま、その後、しっかり答えられれば、</p> <p>433 O あ、はい。</p> <p>434 F いいんじゃないですかね。</p> <p>435 O ああ。</p> <p>436 F しどろもどろになるよりは、</p> <p>437 O はいはい。</p> <p>438 F 1回落ち着いて、</p> <p>439 O はい。</p> <p>440 O ちょっと考えをまとめて一みたいな。</p> <p>441 F そっちのほうがいいと思います。</p> <p>442 O はい。</p> <p>443 [メモ14秒]</p> <p>444 F あと、1分ぐらい。</p>
7	<p>445 O そうですね、最後、ほんとに最後なんですけども、</p> <p>446 O あの一、就活を通して、</p> <p>447 O なんかこれだけは自分は大切、</p> <p>448 O これだけはぶれないようにつていう軸//みたいなことがあれば、</p> <p>449 F うんうん。</p> <p>450 O 教えていただきたいんですけど。</p> <p>451 F それは、会社選びの軸つてことですか？それとも。</p> <p>452 O 就活を通してですかね。</p> <p>453 F あー、なるほど。</p> <p>454 F そうですね、ま、うんと、ま、就活をやっていると、</p> <p>455 F どうしても//、その、会社を選ばれる側//つていう意識がついちゃうんですけど、</p> <p>456 O はい。</p> <p>457 O はい。</p> <p>458 O はいはいはいはい。</p> <p>459 F なんかその、会社に採ってもら//つて意識になりがちなんですけれども、</p> <p>460 O はいはい。</p> <p>461 F 僕は逆に、俺が、僕が会社を選//ぶつていうスタンスでやってました。</p> <p>462 O 選ぶ。</p> <p>463 O はい。</p> <p>464 F それぐらいの気持ちでやらないと、</p> <p>465 F こう落とされた時に、</p>

【資料3-2】就職活動の相談
質問者O(NS2)と応答者F

		<p>466 O はいはい。</p> <p>467 F どうしても落ち込むしー、</p> <p>468 O はいはいはいはいはいはい。</p> <p>469 F そのあと、こう面接とか、エントリーシートとかで、</p> <p>470 O はい。</p> <p>471 F 選ばれる側ってこう思ってたら、</p> <p>472 F どうしても企業に合わせて、</p> <p>473 O はいはい。</p> <p>474 【アラーム】</p> <p>475 F 言葉とか//意見とか作っちゃいがちなんで、</p> <p>476 O はい。</p> <p>477 O はい。</p> <p>478 F それよりは自分の考えを何も飾らずに言って、</p> <p>479 F それに、あ、それに合った企業に、</p> <p>480 F 「それ、その考えいいと思う」って言ってくれた企業に行ったほうが、</p> <p>481 O うん。</p> <p>482 F 僕はいいかなって思ったんで。</p> <p>483 O 将来的にもー。</p> <p>484 F うん、働いた時に、</p> <p>485 F それが一番苦労しないかな//って思ったんで、</p> <p>486 O そう、はいはいはいはいはい。</p> <p>487 F 自分が選ぶ側なんだっていう強気のスタンスで。</p> <p>488 O あ、分かりました。</p> <p>489 F そういうのは意識していましたね。</p> <p>490 O ありがとうございます。</p> <p>491 F ありがとうございます。</p>
Ⅲ.	1	<p>492 F じゃ、そろそろ時間なんで。</p> <p>493 O そうですね。</p> <p>494 O すみません。</p> <p>495 F ぜひ頑張ってください。</p> <p>496 O あ、ありがとうございます。</p> <p>497 F 風邪引かずに。</p> <p>498 O はい {笑い} 。</p> <p>499 F 頑張ってください。</p> <p>500 O ありがとうございます。</p> <p>501 F ありがとうございます。</p>

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	
大話段	話段			発話例
I.	1	1	T	よろしくお願いします。
		2	F	よろしくお願いします。
		3	F	Fです。
		4	T	はい、えーと、Tと申します。
		5	T	よろ//しく願いしまーす。
		6	F	よろしくお願いします。
		7	T	ここで大丈夫ですね？。
		8	F	はい。
		9	F	なんでも聞いてください。
		10	T	あ、はーい。
II.	1	11	T	え、えっと食品？。
		12	F	はい、食品ですね。
		13	T	食品。
		14	T	私、結構食品なんか今。
		15	F	あ、ほんとですか。
		16	T	まあまあ。
		17	F	人気ですね。
		18	T	第一ってわけじゃないんですけど、
		19	T	あー、行きたいなっみたいな感じで思ってるんで。
		20	F	はい。
	2	21	T	えー、どうしよう {笑い} 。
		22	T	なんか、あの、なんで食品にしようと思ったんですか？
		23	T	食品の具体的な会社って大丈夫ですか。
		24	F	あ、はい、僕、A（企業名）、
		25	T	あ、そうなんですか。
		26	F	に行く//んですけど。
		27	T	あ、エントリーしました {笑い} 。
		28	F	ほんとですか？
		29	T	はい。
		30	F	そうですね、僕一の//就職活動の軸//みたいなのを先に言うのとー、
		31	T	はい。
		32	T	はい。
		33	T	はい。
		34	F	僕、海外に//働きたいなって思っていたので、
		35	T	はい。
		36	F	あの一、海外に行けるような企業で//探してたんですね。
		37	T	うーん。
		38	T	はい。
		39	F	だから、その一ー、食品だけでなくて、
		40	F	もちろん商社とか。
		41	T	はい。
		42	F	実は、商社に一番行きた//かったんですけど、
		43	T	あ、そうなんですか。
		44	F	商社とか、あとま、ほんとに銀行とかも//色んな業界受けましたねー。
		45	T	うんうん。
		46	T	あー、私もK（学部）部なんで、
		47	F	はい。
		48	T	なんか2回ぐらい留学行っただ、
		49	T	結構海[くしゃみ]外行きたいなとかって思ってた、
		50	F	はい。
		51	T	食品って結構海外行けるんですか？
		52	F	食品はそうですね、
		53	F	あの一、業界の中で見ると、

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	54	F	やっぱり、うちの会社が//うちの会社が一番海外展開//してるし、
	55	T	うん。
	56	T	あー、そうなんですか。
	57	F	その、海外に行く段階というか、
	58	F	それは、結構遅く//、商社とかに//比べたら、
	59	T	うんうん。
	60	T	うん。
	61	F	遅くなっちゃうんですけど、
	62	T	うんうん。
	63	F	必ず行きたいなーって思ったら、
	64	F	行けるし、
	65	F	ま、「行けるよ」って//いう話を聞いてたんで、
	66	T	うん
	67	F	食品というか//、うちの会社になりました。
	68	T	うん。
	69	T	その海外行きたいっていうの他にも理由があったんですか？
	70	F	ま、基本食べるのが好き//だったんで、
	71	T	{笑い}
	72	F	そうですね、ま、働いてて絶対楽しいだろうなーって//いうのが//ぼんやりとあったんですけど、
	73	T	うん。
	74	T	うん。
	75	F	あと、やっぱり、その一、僕、A（企業名）のインターンも//行ってて、
	76	T	あ、そうなんですか。うん。
	77	F	そこで、色んな結構社員の人多く接する機会//があったんで、
	78	T	うんうん。
	79	F	ま、面接とかも通して、
	80	F	やっぱりその一、うちの会社//の社員の人はすごい人//いい人たちばかりだなって思ったので、
	81	T	うん。
	82	T	うーん。
	83	F	うちの会社になりました。
	84		[沈黙4秒]
	85	T	えーと、うん、食品の中でも他にも色々受けたんですか？
	86	F	食品の他には実は、Y（企業名）//とM（企業名）、A（商品名）のM（企業名）しか受けなかったですね。
	87	T	うんうん。
	88	F	あの、面接進んだのが//これしかなかったんで。
	89	T	うん。
	90	T	その中でどうしてA（企業名）にしたんですか？
	91	F	やっぱり海外展開、ま、他は落ちたっていうのが//あるんですけど、
	92	T	うん。
	93	F	海外展開してるレベル//っていうのが、
	94	T	うん。
	95	F	やっぱり他の会社と比べものにならない//レベルだったので。
	96	T	ふーん。
	97	T	うん。
3	98	T	えーと、なんだ、あの、ESとか今、書き出したんですけど、
	99	F	はい。
	100	T	どういうことに注意していけばいいですか？
	101	F	エントリーシート、そうですね、
	102	F	やっぱりその、志望動機っていうのはその会社ごとに考えるしかないんで、
	103	F	なんとも言えないんですけど、
	104	F	その、学生時代頑張ったこと//っていうのは、
	105	T	うん。
	106	F	会社問わず、言うことは同じ//じゃないですか、自分の経験だから。
	107	T	うんうん。
	108	F	だから、その、ま、その、学生時代頑張ったこと400字の文章を僕はさきに作るように//してました。
	109	T	うんうん。
	110	F	それをその、早目に書いて、
	111	F	色んな先輩とか社会人の人に見せて、
	112	T	うん。

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	113	F	もうほんとに、完璧な、すぐコピーアンドペーストして//提出できるような形にしておく、
	114	T	うーん。
	115	F	その、ESの提出ラッシュになった時期に、
	116	F	も、その、学生時代に頑張ったことを聞かれた時には、
	117	T	うん。
	118	F	コピーアンドペースト//をして、
	119	T	うん。
	120	F	あと、志望動機考えるだけ。
	121	T	うん。
	122	F	そこはすごい良かったので、
	123	F	結構皆さんに//お勧めしています。
	124	T	あ、はい、ありがとうございます {笑い}。
	125	T	結構、あの一、ESのラッシュってど、どれくらいの時期なんですか？
	126	F	うんと一、業界による//んですけど、
	127	T	うん。
	128	F	食品は結構早くて、
	129	T	うん。
	130	F	ま、1月、2月//が基準ですね。
	131	T	うん。
	132	T	商社とかだと。
	133	F	商社、銀行、損保とかになると、
	134	F	3月の中旬//ですね。
	135	T	うん。
	136	T	結構違うんですね。
	137	F	そうですね。
	138		[沈黙1秒]
	139	T	うーん。
4	140	T	エントリーってどんぐらいしましたか？
	141	F	僕は一、エントリーシート送った数で//い、大丈夫ですか？
	142	T	はい。
	143	F	送った数だったら、僕結構、少ないほうだと思うんですけど、
	144	F	30//前後ですかね。
	145	T	うん。
	146		[沈黙1秒]
	147	T	そん中で、やっぱ取捨選択して、
	148	T	面接に行くんですか？
	149	T	かぶったりするんですか？
	150	F	そーですね、あんまりかぶりはしなかった//んですけど、
	151	T	うん。
	152	F	そーですね、進めたところはほんとにあんまりかぶらせなく//進んでいったんですけど、
	153	T	うん。
	154	F	かぶったことといえば、
	155	F	最終面接であの、断った//ところは結構やっぱりあって、
	156	T	うん。
	157	T	4月//の一
	158	F	4月ですね。
	159	F	で、最後はあの、A（企業名）の最終面接の後に、
	160	T	うん。
	161	F	K（企業名）//の最終面接があったんですけど、
	162	T	あーー。
	163	F	それはあの一、その、A（企業名）の最終面接、その場で内定いただいた//ので、
	164	T	うんうん。
	165	F	K（企業名）は面接終わった後に、
	166	F	「ごめんなさい」//って電話をしました。
	167	T	うん。
	168	T	なんかK（企業名）とかを見てて、
	169	T	結構、なんかしぼーれなくて、今は志望業界//っていうか。
	170	F	はいはい。
	171	T	ほんとに

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	172	F	全然//大丈夫。
	173	T	大丈夫ですか？
	174	F	はい。
	175	T	いける//とこいっちゃうっていう//感じですか。
	176	F	僕、
	177	F	全然大丈夫//です。
	178	T	あー。
	179	F	僕、実は、ITもコンサルも医療も//損保、銀行、//メーカー、商社も見てたので。
	180	T	{笑い} すごーい。
	181	T	うんうん。
	182	T	大丈夫//夫ですか？
	183	F	全然大丈夫。
	184	T	それに特化して、
	185	T	色々やらなきゃいけないということじゃなく。
	186	F	うん。
	187	F	ないで//す。
	188	T	ないですか。
	189	F	大丈夫。
	190	T	よかったです {笑い}。
	191		[沈黙 2 秒]
5	192	T	OB訪問とかって結構しましたか？
	193	F	僕は一あの、商社、最初すごい//行きたかったんで、
	194	T	うん。
	195	F	OB訪問は商社に限ってはしました//ね。
	196	T	うん。
	197	T	やっぱしといたほうがいいですかねー。
	198	F	でも、僕一、今振り返ってみて、
	199	T	うん。
	200	F	別にしなくても//よかったかなっていうのがありますね。
	201	T	えー、ほんとですか。
	202	T	それはどういう理由で。
	203	F	やっぱり、その、結構僕早い、10月、11月//とか、12月とかでOB訪問//結構してたんですけど、
	204	T	うん。
	205	T	うーん。
	206	F	やっぱり、こう、まだ、あんまり自分が//聞きたい質問とかも//分からず、
	207	T	うんうん。
	208	T	うん。
	209	F	取りあえず、OB訪問してる//っていう感じだったので、
	210	T	うんうん。
	211	F	あんまりこういう情報//、自分の知りたい情報を知れたかって言ったら、
	212	T	ああ。
	213	F	そうでも//ないですし、
	214	T	うん。
	215	F	あとやっぱり、OB訪問ってすごい緊張する//し、
	216	T	そうですね。
	217	F	気を、気を遣うので、
	218	T	うん。
	219	F	あんまりご飯食べてても味がしない//感じだったので。
	220	T	{笑い}
	221	T	それって、あのー、キャリアセンターから電話とかしたりしましたか？
	222	F	僕は商社//、全然知り合いの先輩、
	223	T	うん。
	224	T	うん。
	225	F	あ結構、少なかったんで、
	226	F	キャリアセンター行って、
	227	T	あー。
	228	F	名簿見て、
	229	T	あー、すごい。
	230	F	「A大学の」って//言って。

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	231	T	ああ、なんかそれすごい怖くて、	
	232	T	まだ//できなくて。	
	233	F	僕も。	
	234	F	でも、あれね、	
	235	T	うん。	
	236	F	一回電話掛けたら、	
	237	T	慣れますか？ {笑い}	
	238	F	大丈夫です。	
	239		[沈黙2秒]	
6	240	T	何かなー、あと。	
	241	T	しょーしゃも結構見てるんですけど、	
	242	F	はい。	
	243	T	あの一、足きり、足きりっていうか、	
	244	T	あの、筆記で結構落ちる//って聞いたんですけど、	
	245	F	あー一、はいはいはいはい。	
	246	T	やっぱり、勉強したほうがいいですか？	
	247	F	勉強したほうが//いい//と思います。	
	248	T	うん。	
	249	T	SPIの勉強//とか一。	
	250	F	そうですね。	
	251	T	結構しましたか？	
	252	F	僕は全然なくて、	
	253	T	うー一。	
	254	F	商社全部で7社受けたんですけど、	
	255	F	半分は一//、筆記//とエントリーシートで//落ちました、	
	256	T	うん。	
	257	T	筆記で一。	
	258	T	あー一。	
	259	T	結構落ちるんですね。	
	260	F	でも、それも同じような感じで7社受けたんですけど、	
	261	F	でも、受かってるとこと、受かってないとこ//が出たんで、	
	262	T	うん。	
	263	F	なんでだろうっていうのは//思ったんですけど。	
	264	T	うー一。	
	265	T	それっていうのは、なん、なんですかね、	
	266	T	商社にも、M（企業名）とかM（企業名）とかって、	
	267	T	すごい難しいイメージがあるんですけど、	
	268	T	それとか関係なく落ちたりするんですか？	
	269	F	僕は逆に、//M（企業名）とM（企業名）は通って一、	
	270	T	うん。	
	271	T	へー一。	
	272	F	あと、S（企業名）とか//S（企業名）とかI（企業名）はエントリーシートで落ちました。	
	273	T	うん。	
	274	T	か。	あー、そうなんです
	275	T	関係ないんですかね一、それは。	
	276	F	よく分かんない//ですね。	
	277	T	うー一。へー一。	
	278	T	なんか商社の一、なんだろう、	
	279	T	なんか色とかあるんじゃないですか？	
	280	F	はいはいはいはい。	
	281	T	なんかどれが一番自分に合ってた気がしましたか？	
	282	F	僕は一ー、一番S（企業名）に行きたかった//んですけど一、	
	283	T	うー一。	
	284	F	ま、あの、結構尊敬する人//がS（企業名）で働かれていたの。	
	285	T	あー一、そなんですか。	
	286	T	うんうんうんうん。	
	287	F	でも、S（企業名）はエントリーシートの段階で、	
	288	F	ばって4月いち、1日の段階で落ちたの//分かったんで、	

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	289	T	うんうん。
	290	F	そっから、ま、方向転換//して、
	291	T	うん。
	292	F	ま一、M（企業名）とM（企業名）//行きたいなどは、
	293	T	うん。
	294	F	業界1位2位//だからっていう、ほんとそんな//軽い気持ちですね。
	295	T	うん。
	296	T	ああ、そうなんですね。
	297		[沈黙2秒]
7	298	T	あと、なんだろ。
	299	T	面接とかまだ、あんまりやった//ことないんですけど、
	300	F	はい。
	301	T	なんかどーすればいいですか、{笑い}
	302	T	なんかポイントとかありますか？
	303	F	そうですね、やっぱり、面接、聞いたことあると//思うんですけど、
	304	T	うんうん。
	305	F	やっぱり、面接はやればやるほどうまくなる//っていうのは、
	306	T	うん。
	307	F	やっぱりほんとに//ほんとで、
	308	T	あー、そうなんですか。
	309	F	その、やっぱり、インターンの面接でも何でもいいので、
	310	T	はい。
	311	F	社会人と対自//して、
	312	T	うん。
	313	F	ま、本番の面接の経験をするっていう//ことが、
	314	T	うん。
	315	F	やっぱりすごい大事な一っていうのが//思いますね。
	316	T	うん。
	317	F	やっぱりそれを4月より前に、
	318	T	うん。
	319	F	どれだけ経験できるかっていうので//結構変わってくると思います。
	320	T	うん。
	321	T	何かその練習のためにとか、結構色々しましたか。
	322	F	練習のために、そうですね、あんまり、やっぱり、その自分が一番伝えたいこと、ポイントだけを、
	323	F	その、やっぱり、き、あの、面接の前に、
	324	T	うん。
	325	F	復習して、
	326	T	うん。
	327	F	そのやっぱり面接の場になると、
	328	F	やっぱり緊張するしー、
	329	F	自分が喋ってて、
	330	F	途中で何、質問//なんだっけとか、
	331	T	うん。
	332	F	話が長くなりすぎたり、
	333	F	てんぱっちゃう//ことも結構あるので、
	334	T	うん。
	335	F	自分が伝えたことを、
	336	F	コンパクトに分かりやすく//伝えるということ
	337	T	うん。
	338	F	すごいあの一、大切に//して//しました。
	339	T	うん。
	340	F	あとは、やっぱりその、面接の雰囲気。
	341	T	うん。
	342	F	自分の、まずは笑顔//と、大きな声で明るく。
	343	T	うん。
	344	T	うん。
	345	F	男子だったら爽やかに//いくことはすごいやっぱり、大前提じゃないですか。
	346	T	うん。
	347	T	そうですね。

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	348	F	気をつけてましたね。	
	349	T	うん。	
	350	T	圧迫面接とかもありましたか？	
	351	F	ありました。	
	352	T	あー、{笑い} 怖い。	
	353	F	圧迫というか、	
	354	F	あれなんですけど、	
	355	F	結構きつかったなっていうのは、	
	356	F	僕は、M（企業名）//とM（企業名）と最終面接//、最終面接までいったんですけど、	
	357	T	うん。	
	358	T	うーーん。	
	359	T	あーー、そうですか。	
	360	F	両方とも最終面接で落とされて、	
	361	T	えーー。	
	362	F	その面接はやっぱりきつかったですね。	
	363	T	うーーーん。	
	364	T	なんか最終とかいったら、	
	365	T	結構受かるような気がしちゃうんですけど。	
	366	F	あ、僕もそう思って//ました。	
	367	T	{笑い}。	
	368	F	でも、//商、	
	369	T	なんか最初のほうで落とされるのかな//って思って。	
	370	F	商社はあの一、最終の//段階でも、	
	371	T	うん。	
	372	F	僕、4月の中旬//頃に最終面接があったんですけど、	
	373	T	うん。	
	374	F	その日だけでも名簿、受付の名簿見たら、	
	375	F	60人ぐらい//いたんで、全然。	
	376	T	あ、そうなんですか。	
	377	T	全体的にどん、どんぐらい採るんですか？	
	378	F	だいたい100人ちょっとじゃないですかね。	
	379	F	うん。	
	380	T	どんぐらいエントリーするか分かりますか？	
	381	F	商社に//ですか。	
	382	T	倍率結構高いですかねー。	
	383	F	やーー、めっちゃめっちゃ//高いです。	
	384	T	{笑い}	
	385	F	取りあえず、みんな//商社にいくって感じ//なんで。	
	386	T	あーー。	
	387	T	うんうんうんうん。	
	388	T	でも、メーカーとかのほうが逆に倍率高い//のかなとか思って。	
	389	F	あーー、高いかもしれない//ですね。	
	390	T	うん。	
	391	T	少ない//ですよ、人数が。	
	392	F	採用人数は少ない//ですね。	
	393	T	うーーん。	
	394		[沈黙 1 秒]	
8	395	T	えーー、なんか他にメーカー、食品以外のメーカーも見ましたか？	
	396	F	食品以外は、K（企業名）とか//J（企業名）とかー、	
	397	T	うんうん。	
	398	T	うん。	
	399	F	そうですね、メーカー。	
	400		[沈黙 1 秒]	
	401	F	結構選考進んだのそこらへんですかね。	
	402	T	うん。	
	403	F	Y（企業名）、Y（企業名）もY（企業名）も食品だけど。	
	404	F	他はあんまり、他のメーカーあんまり興味//なかったといえ	
	405	T	うんうん。	
	406	F	なかったんで。	

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	407	[沈黙 2 秒]
9	408	T うーん、なんだろう、あと。
	409	[沈黙 1 秒]
	410	T うーん、なんか、あの一、あー、どうですかね。
	411	T 結構長期的なビジョンを描いて、
	412	T A（企業名）に入りたいって思ったんですか？
	413	F それは一生働く企業と//してってことですか？
	414	T そーですね。
	415	F そーですね、まー、僕、絶対A（企業名）一生働くってことは、
	416	F 別に、絶対//働きたいとは全然思ってたんで、
	417	T うん。
	418	F 全然転職//してもいいなと思うんですけど、
	419	T うん。
	420	F でも、やっぱり、その自分何も仕事できない//しー、
	421	T うんうん。
	422	F そのファーストキャリアとしては、
	423	F 結構間違いなく//いい会社だな//と思ったし、
	424	T うん。
	425	T うんうん。
	426	F そこまで、ぜ、絶対//そこで働く、
	427	T うん。
	428	F 骨を埋めるとかは全然思ってたんでね。
	429	F いつ潰れるか分かんないし。
	430	T うん。
	431	T なんか私、結構商品開発とか、商品開発とか商品企画とか、
	432	F はい。
	433	T そういうことに結構興味持ってるんですけど、
	434	T なんか、メーカー入って、
	435	T それができる人って結構 1 番かなってだんだん//最近思ってきて、
	436	F うん。
	437	T A（企業名）でも結構何をする、営業とかですか？
	438	F A（企業名）は、だいたい最初、新、新入社員//はま、8 割型営業から//始まって、
	439	T うん。
	440	T うんうん。
	441	F やっぱり基礎//を勉強、させるんですけど、
	442	T うん。
	443	F ま、だいたいその営業が終わった後は
	444	T うん。
	445	F ほんと人それぞれで、マーケティング行く人//もいれば、
	446	T うんうん。
	447	F 商品開発行く人もいる//し、
	448	T うんうん。
	449	F 海外行く人//もいるので、
	450	T うんうん。
	451	F 最初、営業が終わった後は
	452	F 全然//人によって//キャリアが違いますね。
	453	T うん。
	454	T うんうん。
	455	F もしくは、営業10年間一筋で//やってる人もいるし。
	456	T うん。
	457	T うんうん。
	458	[沈黙 2 秒]
	459	F それは、僕も働いたことがないので、
	460	F 何とも//言えないんですけど。
	461	T あー。
	462	[沈黙 2 秒]
10	463	T うーん、何かあるかな。
	464	F あと、1 分//20秒ぐらいですけど。
	465	T {笑い}

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

	466	T	うーん。
	467	F	何でも。
11	468	T	就活をしている際に、
	469	T	なんですかね、何か悩んだ時とかに、
	470	T	どうしてましたかね。
	471	F	あー、結構、そのー、商社の最終面接で両方とも落とされた時は、
	472	T	うん。
	473	F	まだ内定なかったんで、
	474	T	うんうんうんうん。
	475	F	結構きついなー、
	476	T	うん。
	477	F	やべーなーってすごい思ってたんですけど、
	478	T	うんうんうん。
	479	F	やっぱその時は、友達に//相談しましたね。
	480	T	うん。
	481	F	結構「俺、就職留年かも」とか。
	482	T	うん。
	483	F	すごい結構ネガティブになるんで。
	484	T	{笑い}
	485	F	一応、最悪なパターンを想定して、
	486	T	うん。
	487	F	考えてたんですけど。
	488	F	やっぱり友達と話す//ことが、
	489	T	うん。
	490	F	やっぱり一番のリフレッシュかな//って思うし、
	491	T	うん。
	492	F	人に話すと、
	493	F	自分の気持ちを整理しながら話すので、
	494	T	うんうん。
	495	F	こう気持ちも落ち着くし、
	496	F	考えもまとまるので、
	497	F	それはすごい大事になって//思います。
	498	T	うんうん。
	499	T	なんか、友達、まだそんなに、なんですかね、
	500	T	あの、始まってないんで、
	501	T	全然話せるんですけど、
	502	T	だんだんなんか就活のこと//なんかは話せなくなっちゃうのかなーとかちょっと思ってた {笑い}。
	503	F	うんうん。
	504	F	あ、それはすごいあります。
	505	T	{笑い}。
	506	F	すごいあります。
	507	T	ですよ。
	508	T	結構、志望業界とかも、なんか、やっぱりK(学部)とかだと、
	509	T	似てる場所//とかもあるんで、
	510	F	うんうん。
	511	T	どーなるんですかね {笑い} とかちょっと思って。
	512	F	それは、結構やっぱり//あると思います。
	513	T	あー。
	514	F	そういう時は、やっぱり、僕は色んな業界//受けてたんで、
	515	T	うんうんうんうん。
	516	F	その、別の業界の子とかに//相談したりしてたし、
	517	T	うん。
	518	F	あとやっぱり先輩。
	519	T	あー。
	520		【タイマー】
	521	F	ですかね。
	522	F	先輩の人だとかう親身に//聞いてくれるので、
	523	T	うんうん。
	524	F	落ち着くっていうのもあるし、

【資料3-3】就職活動の相談
質問者T(NS3)と応答者F

		525 T うん。
		526 F 全然頼って、
		527 F 色んな人頼って//いいと//思います。
		528 T はい。
		529 T はい。
		530 [沈黙 2 秒]
Ⅲ.	1	531 F じゃ、時間//なので。
		532 T はい、ありがとうございます。
		533 F ありがとうございました。
		534 T はーい {笑い} 。
		535 F ぜひ頑張ってください。
		536 T はい、ありがとうございます。
		537 F うちの会社来たら、
		538 T 昨日ぐらいにエントリーしたんです。
		539 F あ、ほんと。
		540 T {笑い} 。
		541 F 頑張って//ください。
		542 T はい。
		543 T {笑い} ありがとう//ございましたー。
		544 F ありがとうございました。

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	K	よろしくお願いします。
		2	F	よろしくお願いします。
		3	F	Fです。
		4	K	あ、よろしくお願いします。
		5	K	Kと申します。
		6	F	よろしくお願いします。
		7	K	お願いしまーす。
		8	F	何でも聞いてください。
		9	K	{笑い} ありがとうございます。
II.	1	10	K	あのー、えーと、じゃ、ど、どういうところに就職するかちょっと聞いてもいいですか？
		11	F	あ、はい。
		12	F	僕、A（企業名）に。
		13	K	あ、そうなんですねー。
		14	F	はい。
		15	K	いつぐらいに決めたんですか？
		16	K	決めたというか、
		17	K	こう、第一希望とか第二希望とかっていうのは。
		18	F	あ、そうですねー、別に、特に、なかった。
		19	F	第一志望群っていうのは//あったんですけど、
		20	K	あー。
		21	F	そ、その中でやっぱり、//他の企業に落ちた//っていうのがあったんで、
		22	K	はい。
		23	K	うん。
		24	F	それで、A（企業名）にしました。
		25	K	あ、そうですか。
		26	F	はい。
	2	27	K	あのー、なんかお、落ち込んだ時とかって、//たくさんあったと思うんですけど、
		28	F	はい。
		29	F	はい。
		30	K	どうやって対処しましたか？
		31	F	僕はやっぱり、友達に話して//ましたね。
		32	K	あー、なるほど。
		33	F	やっぱり、人に話すと、
		34	K	はい。
		35	F	自分、まあ、自分の気持ちも落ち着くってのもあるんですけど、
		36	K	はい。
		37	F	やっぱり人に物事を話すと、
		38	F	自分の考えもやっぱり整理されて//まとまるので、
		39	K	はいはい。
		40	F	そこで、やっぱり、自分の考えがまとまるっていうのも、
		41	K	う//ーん。
		42	F	結構大きかったんで、
		43	F	それはー、結構やりましたね。
		44	K	結構、結構頻繁に{笑い} 会ってました？
		45	F	や、僕は全然なんなかった//んですよ。
		46	K	あ。
		47	F	あの4月の//上旬から中旬にかけては、
		48	K	はい。
		49	F	あの、僕、内定なかったけど、
		50	F	その周りが結構内定出始めて、
		51	K	あー。
		52	F	結構焦って、
		53	F	どうしても焦っちゃうし、

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

- 54 K うん。
- 55 F あと、その、内定がまだ一個もない中で、
- 56 F 最終行って、
- 57 F 最終で落とされると、
- 58 K う//ーん。
- 59 F すごいやっぱり落ち込む//んでー。
- 60 K あー——。
- 61 K なんかその最終で落とされるっていうのをー、
- 62 F はい。
- 63 K 今さっきも聞いて、
- 64 K そんなことがそんなに頻繁に起こるんだと思ったんですけど。
- 65 F そうですね、まー、ありま//すね。
- 66 K あー————。
- 67 K なんか今聞いたら、
- 68 K それが結構2倍とか3倍とかの割合で終面までとるって。
- 69 F ま、企業によって違うと思うんですけど、
- 70 K はい。
- 71 F まー、企業によっては、最終面接であのー、グループディスカッションがあって、
- 72 F その//後、最終であって、
- 73 K 終面でグループディスカッションがあるんですか？グループディスカッション。
- 74 F で、その後に、最終面接//っていうのがあったりして、
- 75 K あー——、そっか。
- 76 F その最終面接の受付の日に、
- 77 F 受付名簿ちらって見たら、
- 78 F 60人ぐらい//あったりとかあったので。
- 79 K あ。
- 80 K へ——。
- 81 K じゃあ、結構。
- 82 F 企業によっては全然落とされ//ますね。
- 83 K あー、そうなんですかー。
- 84 K まあ、じゃ、結構、落ち込まないようにするのが大事なんですかねー、
- 85 K どうしたら。
- 86 F そうですね、僕は結構、最初能天気、能天気というか、
- 87 K はい//はい。
- 88 F 明るく//楽しくやってたほうで、
- 89 K はいはい。
- 90 F あのー、ほんとに就活ってやっぱり//企業の人に、
- 91 K はい。
- 92 F こう結構「採ってください」っていう姿勢に//なりがちなんですけど、
- 93 K はい。
- 94 F 僕はなんか、そうとは思ってなくて、
- 95 F その自分に合った企業を探す//ための活動なんで、
- 96 K はい。
- 97 K はい。
- 98 F そのー、逆に、俺を採りたいんだったら、
- 99 F 声掛けて//みたいな {笑い}。
- 100 K {笑い}
- 101 F それぐらいの//スタンスで//やってましたね。
- 102 K はい。
- 103 K はい。
- 104 K あー、なるほど。
- 105 F はい。
- 3 106 K あの——、それ、それって企業を選ぶ時の軸っていうのはどこに置いてたんですか？
- 107 F 僕は、あの、海外に//将来絶対働きたい//なって思っていたので、
- 108 K はい。
- 109 K はいはい。
- 110 F 海外で働けることを//第一に//しましたね。
- 111 K うーん。
- 112 K はい。

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

- 113 F だから、その、食品業界がいいとかではなく、
114 F 僕、色んな業界//受けてて、
115 K はい。
116 F 商社ももちろんそうですけど、
117 F もう銀行とか損保とか//あとはコンサルとか//IT、医療と//かも。
118 K うーん。
119 K はい。
120 K はい。
121 K あー、もう幅広くー。
122 F はい。
123 K 最終的な決め手になったのは何だったんですか？
124 F うちの会社ー。
125 K はい。
126 F は、そーですね//、えっとやっぱり、その、僕、A（企業名）のインターンも行ってたんですけど、
127 K はい。
128 F やっぱりその、社員の人と接する機会が多かった//んで、
129 K うーーん。
130 F やっぱりその、接する社員の人たちの雰囲気とか、
131 F すごいいい人たち//が多いなーっていうのは、
132 K はい。
133 F すごい感じたので、
134 F その点で//すね。
135 K なるほど。
136 F やっぱりその、A（企業名）、その海外に行きたいっていう希望っていうのは、そのA（企業名）で絶対叶えることができるなと//確信してたので。
137 K はい。
138 K あー、軸。
139 F はい。
140 K なるほど。
141 K ふーん。
142 K インターンは他に行ってたんですか？
143 F インターンはA（企業名）の他に、
144 F えっと、損保の会社1つ//と、
145 K あーはい。
146 F あとは、M（企業名）っていうA（商品名）//作ってる会社に行きました。
147 K はいはいはい。
148 K 3つ行ったんですね。
149 F 3つか、
150 F そうですね、
151 F 3つですね。
152 K いつ頃からそういうの行ってたん//ですか？
153 F えーと、M（企業名）とその損保のやつは10月//頃行ってきましたね。
154 K ふーん、はい。
155 F A（企業名）は1月//に。
156 K 1月。
157 F はい。
158 K 何やったんですか？
159 F A（企業名）のインターン//ですか？
160 K はい。
161 F えーと、ケース、グループ、グループワークです//ケーススタディーを//2つやって、
162 K はい。
163 K はい。
164 K はい。
165 F 1つは、あの、九州地方にあるあるスーパー、
166 K はい。
167 F こういう//どこどこに配置されてるスーパー、
168 K はい、はい。
169 F お客様の層がこういう感じでっていうスーパーっていう情報与えられて、

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

	170	F	そこで、そのA（企業名）のその中華料理用の製品//を売り上げを上げるための//方法を考えてくださいっていうのが1つと、	
	171	K		あーーーーー。
	172	K		何をするか。
	173	K		なるほど、はい。
	174	F	もう1つが、あの、A（企業名）を中国で広める//ための戦略、	
	175	K		うん。
	176	F	っていうのを考えてくださいっていうのを//2つやりました。	
	177	K		うーん、なるほど面白い。
	178	F	結構面白かった//です。	
	179	K		なるほどなるほど。
	180	K	それで、結構こう社員さんともこう仲良くなってー？	
	181	F	そうですね。	
	182	K		あー。
	183	K	ふいんき（雰囲気）も分かったっていう。	
	184	K	なんかむしろ、その損保系の会社とM（企業名）じゃなくて、	
	185	K	あの、最終的にA（企業系）がいいなとか思ったとかって理由ってありますか。	
	186	F	そーですね、まー、インターン行ったからっていうのは//あんまり関係なかったんですけど、	
	187	K		はい。
	188	K		はい。
	189	F	その、やっぱり同じ食品で//比べたら、	
	190	K		はい。
	191	F	M（企業名）は海外展開のレベルやっぱり、A（企業名）と全然違って、	
	192	F	全然海外展開して//ないのでー、	
	193	K		あーーーー、そうですねー。
	194	F	やっぱりA（企業名）は僕の軸に一番//合ってるなと思った。	
	195	K		軸に合ってたんですねー。
	196	K	そこは結構大事ですよなー {笑い}。	
	197	F	結構それが合わなきゃ、	
	198	K		あー。
	199	F	行く必要がないというか。	
	200	K		あーーーー。
	201	K	うーん、なるほどー、なるほどなるほど。	
	202	K	うーん。	
4	203	K	何社ぐらいエントリーしましたか？最終//的に。	
	204	F		僕は、結構、あの、エントリーシート送った//数で言うと、
	205	K		はい。
	206	F	結構少ないほうだと思うんですけど、	
	207	F	30前後//ですかね。	
	208	K		あー、30前後なんですね。
	209	K	プレエントリーだとー？	
	210	F	プレエントリーはあんまり覚えてないです。	
	211	F	あれクリック一つで//できるじゃないですか。	
	212	K		はいはいはいはい。
	213	F	だから、50とか//はやってたんですかねー。	
	214	K		あー、そうですね。
	215	F	でも、それは別に人によって//違いますね。	
	216	K		はいはい。
	217	K	なんかエントリーの時期もー、	
	218	K	業界によって違う//って今、聞いたんですけどー、	
	219	F		うんうん。
	220	F		はい。
	221	K	結構あれですか、	
	222	K	4月の私、その辺のイメージ湧かない//んですけど、	
	223	F		あー、はいはい。
	224	K	4月の1日から面接がどわって始まるイメージで、いいんですか？	
	225	F	そー//ですね。	
	226	K	ESはその前に出すって。	
	227	K	その30社っていうのはー、全部その、4月1日の前に通る、出すっていう//イメージなんですか？	

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

	228	F	あ、そうです、そうです。
	229	F	で、その、業界ごとにやっぱりその一、エントリー締め切り、
	230	K	はい。
	231	F	ESの締め切り//の時期があって一、
	232	K	はい。
	233	F	だいたい食品とかっていうのは結構早くて、
	234	F	1月//、2月、1月の下旬から//2月にかけてメーカーとか。
	235	K	うん。
	236	K	はい。
	237	K	あー一、多いんですかー。
	238	F	銀行、損保、商社っていうのは3月の中旬//とかが締め切りでしたね。
	239	K	うん。
	240	K	3月、あー、そうなんですか。
	241	K	結構ばらばらなんですね。
	242	F	そうですね、で、面接に呼ばれるっていうのはエントリーシート通って//からなので、
	243	K	うん。
	244	F	もちろん4月1日の前に、
	245	K	くる、分かるん//ですか？
	246	F	分かります分かります。
	247	K	あー一、そうなんですか。
	248	F	はい。
	249	K	で、そこから、1日より分かる、分かって、
	250	K	そこから、自分で面接の日を選んで//いう感じなんですか。
	251	F	そーですね。
	252	F	はい。
	253	K	1日にどれぐらい面接したんですか。
	254	F	1日、最初のほうは//、1日に2つとかですかね。
	255	K	はい。
	256	K	あー一。
	257	F	でも、そーですね。
	258	F	やっぱり、面接選考が進んでくると一、
	259	K	はい。
	260	F	落ちる企業も//あるので、
	261	K	うん。
	262	F	どんどん絞られて//くるんですけど。
	263	K	はい。
	264	K	はい。
	265	F	ま、だいたいあとのほうは全然。
	266	F	そんなに、1日何社とかじゃなくて、
	267	K	あー一。
	268	F	1日1社//とかでしたね。
	269	K	なるほどなるほど。
	270	K	うー一。
	271	K	えー一、そうなんだ。
5	272	K	OB訪問とかOG訪問とかっていうのはどのぐらい//しましたか？
	273	F	僕は最初、商社に//すごい行きたかったんで、
	274	K	はい。
	275	F	商社にOB訪問したんで、
	276	K	はい。
	277	F	だいたい10人ぐらい//したんですけど。
	278	K	あー一。
	279	K	そんなにしたんですね。
	280	F	OB訪問はしてもしなくてもどっちでも。
	281	K	いいん//ですかねー。
	282	F	いいと思います。
	283	K	あー一。
	284	F	メーカーは1人もしなかったし、
	285	F	うちの会社、のOB、特にメーカーは//OB訪問やってませんってところが結構多いので、
	286	K	はい。

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

- 287 K ふーん。
- 288 F その不公平//とかになっちゃうので、
- 289 K はい
- 290 F 「やってません」って言うところ結構。
- 291 K そーなんですか。
- 292 F あんまり関係ないですね。
- 293 K ふーん。
- 294 K 商社とかっていうのは？（関係ないんですか。）
- 295 F 商社は、その何にしたからどうこう//っていうのじゃなくて、
- 296 K はい。
- 297 F その、やっぱり、あの、商社ってどの//会社も結構同じような仕事を//してるので、
- 298 K うんうん。
- 299 K はいはい。
- 300 F その、「なんでうちの会社にしたの」って聞かれた//時に、
- 301 K はい。
- 302 F やっぱ1つ言えることは、そ、「その社風が//私に合ってるからです」って、
- 303 K うん。
- 304 K 言え//る言える。
- 305 F っていうのが//結構みんな言うんですね。
- 306 K あー。
- 307 F その雰囲気を知るために、
- 308 F その、色んな働いてる社員の人に//会って、
- 309 K なるほどなるほど。
- 310 F 違いを見つけるってのがOB訪問なんだと思うんです。
- 311 K なるほど。
- 312 K あー、わかりました。
- 313 K じゃ、あんま選考には関係ないけど、
- 314 F 全然関係ないです。
- 315 K 情報収集のためっていう//感じですね。
- 316 F そうですね。
- 317 F 僕は、あと、OB訪問する時//には、
- 318 K はい。
- 319 F エントリーシート//を添削して//もらってましたね。
- 320 K はい。
- 321 K あー、なるほど。
- 322 [沈黙2秒]
- 323 K キャリアセンターとかって活用してました？
- 324 F キャリアセンターは一、あの一、僕はあの、OB名簿//を見るぐらいしか//使ってなかったですね。
- 325 K あ、はい。
- 326 K あー、なるほどなるほど。
- 327 K うーん。
- 328 [沈黙2秒]
- 329 K OBOG訪問した時ってのは、結構人のコネとかっていうのをよく聞くんですけど。
- 330 F いや、僕は//先輩、全然いなかったの、
- 331 K キャリア
- 332 K キャリアセンター、
- 333 F 名簿見て、
- 334 K あ。
- 335 F 「A大学の」//電話して、
- 336 K {笑い} 電話して、あー。
- 337 F 頑張りました。
- 338 K あー、{笑い} 大変でしたねー。
- 339 F すごい緊張します。
- 340 F でも、1回電話//始めたら、
- 341 K はい。
- 342 F ほんと結構//楽になるんで、
- 343 K はい。
- 344 F 最初の1本目だけ緊張//します。
- 345 K 緊張しますよねー。

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

	<p>346 F すげーやだな、</p> <p>347 F 明日でいいやみたいな。</p> <p>348 K あー。</p> <p>349 K 結構受け入れてもらえるもんですか？</p> <p>350 F 全然向こうも慣れてるんで、</p> <p>351 K はい。</p> <p>352 F 「じゃ、何日の何時で」って言ってブツって//いう感じですね。</p> <p>353 K あ。</p> <p>354 K なるほど。</p> <p>355 K へー。</p> <p>356 K それって人事にかかるんですか？</p> <p>357 F いや、あの一、直通の//、直通の電話番号があるので、</p> <p>358 K 直接かかるんだ。</p> <p>359 K そこに直接かかるんですか？</p> <p>360 F はい。</p> <p>361 K あー、なるほど。</p> <p>362 K 分かりました。</p>
6	<p>363 K あと、あれだ、テス、テストとかSPIとかの勉強って結構しました？</p> <p>364 F 僕、全然しなかった//ですね。</p> <p>365 K うん。</p> <p>366 F あんまり、結構、予備テスト嫌いでー、</p> <p>367 K はい。</p> <p>368 F あの一、あんなこ、高校//受験みたいなテストでー、</p> <p>369 K はい。</p> <p>370 K はい。</p> <p>371 F 俺のこと判断されてほしくない//なーって。</p> <p>372 K はい {笑い}。</p> <p>373 F 面接に呼ぶ前に、</p> <p>374 K はい。</p> <p>375 F 落としてるんじゃないよって//思ったので、</p> <p>376 K はい。</p> <p>377 K はい。</p> <p>378 F 全然勉強せずに、</p> <p>379 K はい。</p> <p>380 F そのまま//やってみました。</p> <p>381 K あー、なるほど。</p> <p>382 K 分かりました。</p> <p>383 F でも、時間あるなら勉強//したほうが。</p> <p>384 K したほうがいい {笑い}</p> <p>385 K はい。</p>
7	<p>386 K あの一、あと一、就活全般を通してー、</p> <p>387 K なんかよかったなーって思うところとー、</p> <p>388 K あの、反省しているところとかってあったら教えてください。</p> <p>389 F そうですね、よかったなと思うところはー、</p> <p>390 F そうですね、あの、エントリーシートの一、あの、学生時代頑張ったことっていう//ので、</p> <p>391 K はい。</p> <p>392 F どの企業でもだいたい聞かれるんですけど、</p> <p>393 K はい。</p> <p>394 F そこ文章を早めに作ってたって//ことですかね。</p> <p>395 K あー。</p> <p>396 F その、学生時代頑張っていたことを、</p> <p>397 F 早目に400字で、早めに文章試しに書いてみてー、</p> <p>398 F それを何度も先輩とか社会人の人に、見ていただいて、</p> <p>399 F その一、こう、色々すい、駄目出しとかされて、</p> <p>400 K はい。</p> <p>401 F 手直しして、</p> <p>402 K はい。</p> <p>403 F すぐそのコピペして、</p> <p>404 F エントリーシートに貼れるような//段階までに早目に仕上げておいたのが、</p>

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

- 405 K あーーーー。
- 406 F 結構後々で便利でした//ね。
- 407 K あー、これは結構大事ですよー。
- 408 F そうですね。
- 409 F エントリーシートの提出//ラッシュになるとー、
- 410 K はい。
- 411 F 志望動機は各企業によって考えなくちゃいけないから、
- 412 K はい。
- 413 F 考えなきゃ//いけないですけど、
- 414 K うんうんうん。
- 415 F その学生時代頑張ったことっていうのは、
- 416 K はい。
- 417 F どの企業に対してでも言うことは同じ//で、自分の経験//だから。
- 418 K はい。
- 419 K はい。
- 420 F だから、そのー、すぐコピーして使えるような段階にして//おくとすごいらくです。
- 421 K はい。
- 422 K なるほど、あー、いいこと聞けました。
- 423 K {笑い} ありがとうございます。
- 424 K 他に//ありますか？
- 425 F でー、そうですね、ま、あと反省したことと言えー、
- 426 F そうですね、あのー、ま、ウェブテストの勉強はして//おいたほうがいいかなって。
- 427 K うーん。
- 428 [沈黙2秒]
- 429 F 思いますね。
- 430 F でー、あのー、1番行きたかった商社の会社は、
- 431 K はい。
- 432 F その、筆記試験、ウェブテストとエントリーシートで落ちちゃった//ので、
- 433 K あー。なるほど。
- 434 F それは、あー、失敗したなー、
- 435 F 失敗したなというか、
- 436 F まあ、残念だったなと//思ったんですけど、
- 437 K うん。
- 438 F それぐらいですかね。
- 439 F あとは、あんまりない//ですね。
- 440 K あ、そうですか。
- 441 K あー、分かりました。
- 442 K すごい今の参考に、なります {笑い}。
- 443 F ぜひぜひ。
- 444 K あと、なんか友達がこれやってて、
- 445 K すごいよか、よかったなーとか、
- 446 K 真似したかったなーとか思ったこと//とかありますか？
- 447 F あんまりないですね。
- 448 F 友達がどういう//活動をしていたのか、
- 449 K あ、どうい。
- 450 K そーですよ。
- 451 F あんまり全然//知らないの、
- 452 K はい。
- 453 F 何とも言えないですね。
- 8 454 K 情報収集ってどういうふうにしました？
- 455 K 結構情報一杯来ちゃって、
- 456 K こう溢れたりしなかったですか？
- 457 F ど、どういう情報収集？
- 458 F どういう//情報のことですか？
- 459 K 例えば、何月何日にテストがあつてーとか、
- 460 K なんかESの締め切りがあつてー//とか、
- 461 F あーーーー。
- 462 K そういう情報とか。
- 463 K あと、説明会でもらってきた資料を、

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

		464 K どういうふうにファイリングしたりとか//してたんですか？。
		465 F あーーーー。
		466 K 情報収集とそのまとめっていうか。
		467 F えっと、情報は採用とかそのスケジュールとかの情報っていうのは、
		468 F もう基本的に採用HPに//全部書いてあるので、
		469 K はい。
		470 K はい。
		471 F で、それ見れば、
		472 F すぐ分かるん//で、
		473 K はい。
		474 F それは、その各企業採用HPで見れたのとー、
		475 F あとは、その、企業研究業界研究//については、
		476 K はい。
		477 F その会社の説明会で聞いたことで、
		478 F だいたい終わってましたね。
		479 K あんまり情報が溢れすぎちゃって一っことはなかった。
		480 F なかったですね、あんまり。
		481 K うーん。
		482 F 結構学生が知るようなレベルの話とかっていうのは、
		483 F やっぱHPにも書いてある//しー、
		484 K そうですね。
		485 F 分かりやすく//まとめてあるのでー、
		486 K うんうん。
		487 F それだけで全然十分//だと思います。
		488 K あーーーー、分かりました。
		489 K なるほどなるほど。
		490 F あんまり本とか//配られたパンフレットとか読む時間も//ないしー、
		491 K はいはい。
		492 K あんまりないんですよー？。
		493 F はい。
		494 F 結局それパンフレットとか//HPに書かれてあったのと一緒に、
		495 K はいはい。
		496 F 全然読まなくても。
		497 F 結構、捨てて//ました。
		498 K あーーーーー {笑い} 。
		499 F 溜まるんだよね//結構。
		500 K はいはいはい、なるほど。
		501 K 何社ぐらいなんかこう、見たりしてました？
		502 F 30社ぐらいですねー。
		503 【タイマー】
		504 K あの、プレエントリーを出したぐらい？
		505 F ま、エントリーシートを提出する//ぐらい、ですね。
		506 K ぐらい。
		507 K あー。
		508 F 30社もなかった//かな。
		509 K そんなに量は見ない感じですね。
		510 F 行けないって//いう。
		511 K そうですね {笑い} 。
		512 F 時間がなくて。
		513 K なるほどなるほど。
		514 F はい。
		515 K じゃあ、結構集中型って感じですね。
		516 F そうですね、一日2個とか、2、3個行っても、
		517 F あまり、そのぐらいの数だったんで、僕は。
		518 K はい。
Ⅲ.	1	519 F じゃ、そろそろ時間//なので。
		520 K はい、ありがとう//ございました。
		521 F ありがとう//ございました。
		522 K 参考になりました。

【資料3-4】就職活動の相談
質問者K(NS4)と応答者F

	523	F	ぜひ頑張ってください。
	524	K	はい、ありがとうございますーす。
	525	F	体調に気をつけて//頑張ってください。
	526	K	ありがとうございます。

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	Y	失礼いたします。
		2	N	どうも。
		3	Y	よろしくお願いいたします。
		4	Y	Yと申します。
		5	N	よろしくお願いいたします。
		6	N	Nです。
		7	Y	はい、よろしくお願いいたします。
		8		[沈黙2秒]
II.	1	9	Y	えっと、えーと、総合商社にあの、に、内定された//んですけど、
		10	N	はい。
		11	Y	なぜ総合商社に行こうと思ったんですか？
		12	Y	僕、まだ業種を絞りきっていないので、
		13	N	はい。
		14	Y	あの一、なぜそこにするのかっていうことを非常に気になっているんですけど。
		15	N	自分が//仕事として、ビジネスとして、これから少ししたいなって思ってたことが、商社でできるから//ですね。
		16	Y	はい。
		17	Y	=うん。
		18	Y	うんうんうん。
		19	N	ビジネスとしてですね。
		20		[沈黙5秒]
	2	21	Y	その一、就職活動をして、
		22	Y	こうのようなことを意識して、
		23	Y	あの一、就職活動をしました？
		24	N	えっと、しっかり準備することと//あとは、自分らしさを常に忘れ//ないことですね。
		25	Y	うん。
		26	Y	うんうん。
		27	Y	自分らしさ。
		28	N	うん。
		29		[沈黙3秒]
		30	Y	かなり前からされてたってことですか、
		31	Y	その準備をしっかりするということは。
		32	N	うん、かなり前というか、
		33	N	はじめてこの会社の、企業の、あ、ベンチャー企業なんですけどね、
		34	N	ベンチャー企業の社員さんとかとお話をさせていただいたのが10月頃。
		35	Y	10月。
		36	N	で、11月に大手企業の社員さんとお話させていただいて、て感じなんで。
		37	N	ま、10月はほぼ準備というか、
		38	N	お話程度だったんですけど、
		39	Y	うん。
		40	N	本格的にっていうのは、11月の、をきっかけに始めて、
		41	N	で、まあ、12月1月なかだるみ{笑い}して、
		42	Y	うん。
		43	N	2月からまた本格的にみたいな感じ//ですかね。
		44	Y	うんうん。
		45		[沈黙3秒]
		46	Y	そうですか。
	3	47	Y	その、年末年始とかは、今、ちょうどあの一、そろそろですけど、
		48	Y	結構企業とかもその一、お休みされてる中で、
		49	Y	こう準備をされたりとかはしたんですか？
		50	N	特に、してないですね。
		51	N	やっぱりね、あの、これはたぶん、人それぞれだと思うんですけど、
		52	N	自分の場合は、

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

	<p>53 N そのなんか、ずっと長い期間、継続してというよりは、</p> <p>54 N 短い期間に集中してするタイプだったので、</p> <p>55 Y うん。</p> <p>56 N あの、休む時は休みタイプ。</p> <p>57 N 実家に帰って、</p> <p>58 N あ、大阪実家なんですから、</p> <p>59 Y はい。</p> <p>60 N 実家に帰ってまで、</p> <p>61 N 就活のことは考えたくないと思っていたので。</p> <p>62 Y うー——ん。</p> <p>63 [沈黙5秒]</p>
4	<p>64 Y では、えー——と、就職活動中にこう大変だったことはどのようなことですか。</p> <p>65 N {笑い} 大変だったことはテストです。</p> <p>66 Y {笑い}</p> <p>67 N テスト勉強です。</p> <p>68 Y 勉強のほうですね？</p> <p>69 N 勉強のほうです。</p> <p>70 Y いやー、確かにそうですね。</p> <p>71 Y 早くも、単位がが大変なことになりそうですよ//、2学期は。</p> <p>72 N あ、そうなんですか。</p> <p>73 Y 次々と説明会とか//が、ですね。</p> <p>74 N そう//ですね。</p> <p>75 Y うんうん。</p> <p>76 [沈黙2秒]</p>
5	<p>77 Y えーと、内定先でこうやりたいと思っているその、目標といいますか、</p> <p>78 Y そのビジネスを//ちょっとこう、具体的にといいますか//どんなことを。</p> <p>79 N うん。</p> <p>80 N あー、はい。</p> <p>81 N あー、えーと、事業投資。</p> <p>82 Y 事業投資。</p> <p>83 N ご存知ですか？</p> <p>84 Y 事業投資、詳しくは{笑い}。</p> <p>85 N えっと、言葉のままなんですけど、</p> <p>86 N その、例えば、石油とかありますよね。</p> <p>87 Y はい。</p> <p>88 N 石炭とか。</p> <p>89 Y はい。</p> <p>90 N あーゆーエネルギー系、油田に何千億、単位は分かんないですけど、</p> <p>91 N 何千億とかを一、どんと投資して、</p> <p>92 N 貸してですよね。</p> <p>93 N で、貸して、</p> <p>94 N 投資して、</p> <p>95 N えー、そこで、まあ、油田を掘ってもらう。</p> <p>96 Y うーん。</p> <p>97 N で、石油を出してもらう。</p> <p>98 N えー、じゅ、ま、採ってもらって、</p> <p>99 N で、それを運送、輸送して、</p> <p>100 N 売る。</p> <p>101 Y うんうん。</p> <p>102 N そこの、その過程全部で、得た利益の一部を、</p> <p>103 N マージンをこううちにくださいよっていうふうなやり方//、が</p> <p>104 Y うん。</p> <p>105 N ビジネスモデルなんですけど、</p> <p>106 N そういうことをしたいと思って、</p> <p>107 N まあ、事業投資がいいなと思いましたね。</p> <p>108 Y その事業投資ーは、総合商社が一番。</p> <p>109 N 総合商社——が、してますね。</p> <p>110 Y うんうん。</p> <p>111 N そー——れ——意外、商社もたぶんしてる場所はあると思います。</p>

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

	112	Y	うん。
	113	N	確かじゃないですけど。
	114		[メモ10秒]
6	115	Y	その、OB訪問も、最近、僕したりとか、
	116	Y	結構人と会うことを、あの、より増やそうと//就職活動で思っていて、
	117	Y	はい。
	118	Y	色んな方とお会いして、
	119	Y	お話をしてるんですけど、
	120	Y	あのー、実際にお会いされた人で、
	121	Y	こう印象的な人とか、印象的なエピソードとかあれば教えていただきたいんですけど。
	122	N	あーーーーー。
	123	N	そう//ですね。
	124	Y	結構、なんか10月頃からあのー、直接会ってお話したりとかは。
	125	N	あーーーー、しましたね。
	126	N	印象、めっちゃ、印象に残ってるのはー、
	127	N	R（企業名）っていう会社があるんですけど、
	128	N	そこの、副社、前社長さんと//、現社長さんに//お会いした時に、
	129	Y	うん。
	130	Y	あー、すごいですねー。
	131	N	このお二方がすごく印象的でしたね。
	132	Y	うーん。
	133	N	あとはその、今年はどうか分からないですけど、
	134	N	当時の、去年の、その採用チームのマネージャーの方。
	135	Y	うん。
	136	N	R（企業名）の。
	137	N	このお三方。
	138	N	まあ、あとは、まあ、R（企業名）の社員さんはみんな印象的でしたね。
	139	Y	うーん。
	140	Y	特にその、印象的だった話とか。
	141	Y	どのようにすごい気になります？
	142	N	その前社長さんと現社長さんに関してはー//、えーと、本気で、現実を変えようとしているパワーってのが//すごいなーと思って。
	143	Y	はい。
	144	Y	＝うん。
	145		[沈黙1秒]
	146	N	こう今まで、まー、言うて、ねー？、
	147	N	人、人数は//限られてますけど、
	148	Y	うん。
	149	N	社会人の方とお会いした中で、
	150	N	こう今現状はこういうことがあって、
	151	N	こういう仕事をしてるんです//っていうふうな人っていうのは、
	152	Y	はい。
	153	N	山ほどいるんですけど、
	154	N	てか、お会いした9割の方がそうだったんですけど、
	155	Y	はい。
	156	N	まあ、そのー、ま、印象に残ってる社長さん方、
	157	N	以外のR（企業名）の社員の人とかも、その熱意というか、
	158	N	今こういうことをしているのは、
	159	N	将来こういうことがあれ、
	160	N	その、経営者の方はー、先ですよ。
	161	Y	へー。
	162	N	その何年後とかに、日本がこうであってほしいと。
	163	Y	うん。
	164	N	日本を支えるのは人やから、
	165	N	人を動かしたいって言って、
	166	N	本気でビジネスとして、その自分の持っている理想論を現実化しようとしている。
	167	N	その熱さ//とか、パワーとかっていうのもすごいと思いましたしー、
	168	Y	うん。
	169	Y	うん。

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

	170	N	逆にその社員さんとかは、今、自分がやれる範囲のことを、
	171	N	一生懸命して、
	172	Y	うん。
	173	N	で一、まー一、人に代わる仕事なので//、彼らは。
	174	Y	はい。
	175	N	どれだけ自分がその人たちを、
	176	N	えーまあ、人とか会社っていうのを、こー一、リスペクトして、
	177	N	自分のやれることをやって、
	178	N	その、そこに喜びを見出しているのかっていうところが、
	179	N	すごく人間味に溢れていて、
	180	Y	うーん。
	181	N	印象的でしたね。
	182		[メモ15秒]
7	183	Y	うーん、その一、じゃ、次の質問//お願いいたします。
	184	N	はい。
	185	Y	ま、えー一と、ま、僕は、結構、その一、まず、あの一、目標というか、
	186	Y	自分の軸として、あの一、とりあえず、ま、あの一、人にこう色々お会いして聞いてみて、
	187	Y	で、こう、これをやったほうがいいって言われたことを、
	188	Y	とりあえずやってみて、
	189	Y	そのやってる中で、
	190	Y	あの一、判断しようということを目標と//しているんですけど一、
	191	N	ほうほうほう。
	192	Y	その一、今までの、人生とか、あと就職活動を通して、
	193	Y	これはやっというほうがいいと思うアドバイスがあればあの一、お願いいたします。
	194	Y	僕、ちょうど年末で、後、5日で終わるので、
	195	Y	とりあえず、まず5日間、それを必ず実行しようと思うんですよ。
	196	N	えっと//、就職活動に関してでいいんですか？
	197	Y	はい。
	198	Y	2つあれば、
	199	Y	じゃあ、就職活動と人生とお願いいたします {笑い}。
	200	N	{笑い}
	201	N	そんなに、{笑い} 人生を通して、
	202	N	これしたほうがいいよっていうアドバイス//できるほど生きてないんで一{笑い}。
	203	Y	{笑い}
	204	N	え、23年間の//人生の中で、
	205	Y	そうですね。
	206	N	すごく自分の中で、
	207	Y	はい。
	208	N	よかったなって思うこと//でいいですか？
	209	Y	はい、お願いいたします。
	210	N	えっと、就職活動に関しては一//、自己分析//、これに限ります。
	211	Y	はい。
	212	Y	うん。
	213	Y	うんうん。
	214	N	エントリーシートを確認しても、
	215	Y	うん。
	216	N	面接をするにしても、
	217	N	しっかり自己分析を、あの一、遥か満足の、遥か向こうすべき。
	218	Y	うーーーん。
	219	N	満足しても、満足しない//っていうぐらい。
	220	Y	うーーーん。
	221	N	もうもうほんまに無理一って、
	222	N	絶対これ以上無理っていうぐらいきたところに、
	223	N	さらにまだまだやる//ぐらいやってほしいのと、
	224	Y	うん。
	225	N	あとはテスト勉強。
	226	N	あ、学校もそうですけど、
	227	N	テストセンターとかSPIとかギャブキャブのテストも//そう。
	228	Y	うん。

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

- 229 N その2つ。
- 230 N で一、ま一、悲観的に、主食活動に関しては、悲観的に準備して、
- 231 Y はい。
- 232 N 楽観的に実行する//っていうのと、
- 233 Y うんうんうん。
- 234 N えっと一、自分らしさを忘れない// (1) っていうことっすかね。
- 235 Y うんうん。
- 236 N ま、就活に関しては。
- 237 Y はい。
- 238 N で、人生 {笑い}、人生に関しては、今、今まで、自分が生活してきた中で、
- 239 N 自分の人生っていうか、
- 240 N 自分のこう生きる一、糧となったというか、
- 241 N っていうのは、あの、海外の経験//ですね。
- 242 Y 海外の経験。
- 243 N 今まで22カ国行ってるんですけど、
- 244 Y わーーーーーすごいですね。
- 245 N それで一、数がどうのというよりは、
- 246 Y はい。
- 247 N やっぱりそこで得たものっていうのは多くて、
- 248 N で一、自分の就職活動のモットーにもなった、新しい出会い、新しい刺激、新しい自分って//いうのをモットーとしていたんですけど、
- 249 Y うんうん。
- 250 N 日本だけで生きていると、
- 251 N やっぱり当たり前っていうのに限界が出てくるん//ですね。
- 252 Y うーん。
- 253 N で一、海外に出ることによって、
- 254 N その、自分の当たり前が増えていくと一、
- 255 N こう自分のし、視野とか、考え方っていうのに、
- 256 N 柔軟性とかが出てきて一、
- 257 Y うん。
- 258 N どんな人に会っても、
- 259 N 誰と会っても、
- 260 N なんかしらこうコミュニケーションが取れるし一、
- 261 N まず人を否定しなくなるし、
- 262 N 人のいいところを受け入れたくなるし、
- 263 Y うーん。
- 264 N その中で、自分が成長していけるのかなと思って。
- 265 N だから、海外経験っていうのはやっぱり大きかったですね。
- 266 Y うーん。
- 267 N それをね、あと5日でしろって言われてもできない//ですからね。
- 268 Y そうですね {笑い}。
- 269 N だから、ぜひぜひ自己分析とかね、
- 270 Y はい。
- 271 N SPIの勉強とかっていうのも//やっていただきたいなって思います。
- 272 Y そうですね。
- 273 Y 結構、ペーパーの勉強もかなりされてたんですか？
- 274 N かなりしなかったんですよ。
- 275 N だから//、アドバイスします。
- 276 Y あーーーー。
- 277 Y いやー、まだテストのほうは {笑い} やってないので、
- 278 Y やらないとなーとは。
- 279 Y 自己分析もなんだかんだあのー、まだこう、就活本の、みたいのを買って、
- 280 Y 自己分析を一通りやってたんですけど、
- 281 Y なんか、まだ、うっすいなーっていう実感は自分でもあるので、
- 282 N うんうんうんうん。
- 283 Y こう決断のところをもうちょっとどんどんどん掘り下げていきたいなーとは。
- 284 N そうですね、なんでW大学に入ったんですか、
- 285 Y うん。
- 286 N こういうことが、ま一、T大落ちたからとか、

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

- 287 N K(大学名) 落ちたからとかでもいいんですけど。
288 N ま、そういうのもいいしー、
289 N こう自分が色々決断したこと、の結果に、
290 N えーと、決断、決断したことの理由になったこととか、
291 Y うん。
292 N もいいですしー、
293 Y はい。
294 N 自分がやって楽しいこと何ってことから掘り下げていってもいいですし。
295 Y うん。
296 N 色々やり方はあると思うんで。
297 Y うん。
298 [メモ2秒]
299 N 自分を知ることですね。
300 N ま、特に面接とかESって、自分に会ったことがない人が読むとか、
301 Y はい。
302 N 「はじめまして」で自分のこと知ってもらおうと思ったら、
303 N やっぱ自分のことを知っとかないと、
304 Y そーーですね。
305 N 相手に伝えられないじゃないですか。
306 Y うんうん。
307 N だから、ぜひぜひそれはやってほしいなーと思いますね。
308 Y うんうん。
309 Y 結構、他人の一、他己分析とかもしましたか？
310 N 他人のもしましたしー、
311 N 自分の場合、その一、あの一、これいいのかな言っても。
312 N その、まー、某企業の人事の方が
313 Y はい。
314 N 分析してくれたんで。
315 Y あ、そうなんですか？
316 N 「居酒屋でも行こうか」って言って、
317 N めっちゃ気に入ってくれたんで、
318 Y うんうんうんうん。
319 N 「飲み行こうや」って誘われて、
320 N お酒飲みながら、
321 N 「やー、君はこう、なんでこうしたのー」つって、
322 N 「これこれなんですよね」、
323 N 「え、それって何がきっかけで」つて。
324 N 「たぶんこれっすね」、
325 N 「あー、じゃ、あれやな、あれやな」って言ってて、
326 N 今の自分が、その、就職活動をする上の軸になったものが、
327 N その人のお陰//なんで。
328 Y うーーーん。
329 N だから、人と会話する上でやっていくってのが、
330 N すごく重要やと思います。
331 N ま、自己分析の中の他己分析だね。
332 Y うん。
333 N それを含めて//、やっていただきたいですね。
334 Y そうですね。
335 Y うーーん。
336 [沈黙2秒]
337 Y その、質問によって、ま、自分が考えてもいなかったことを考えることができるっていう。
338 N そうですねー。
339 Y いいですねー。
340 N まあ、自分が思いがけないところに、
341 N ねたがあったとか、
342 Y うんうん。
343 N 自分がしょうもないしーって思ったことが、
344 N 人にとっては「あ、すごいな」って思われたりとか、
345 Y うん。

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

- 346 N ていうのも結構あったりするんでね。
347 [メモ19秒]
348 Y その、自分らしさって、先程言ったのは、
349 Y やはり自己分析していく中で、
350 Y まあ、あのー、
351 N 出てくる自分。
352 Y これがどんどん深くまでいって。
353 【アラーム】
354 N うん。
355 N も、そうですしー、
356 N あとは、なんかこれ、直感とかあるじゃないですか。
357 Y はい。
358 N なんか、すごいこれ、めっちゃ楽しいけど、
359 N でも、なんか、なんかこっちのほうがいいなとか。
360 Y うんうん。
361 N 自分やっぱり、その企業、内定2つ//もらってたんですけど、
362 Y はい。
363 N 絶対あの一、働いてて楽しいなって思えるのは、
364 Y うん。
365 N 内定を辞退したほうなんですよ。
366 Y あ、そうなんですか。
367 N でも、色々考えて、
368 N ま、商社行くんですけど、
369 N やっぱ一、こう自分の感覚とか、ロ、ロジックで、現実ベースで//考えないといけないこともありますけど
370 Y はい。
371 Y =はい。
372 N なんか自分の直感とか、心がこっちやでって言ってることに對しても、
373 Y はい。
374 N 自分を信じてやるってことも大事、大切ですし、
375 N そういう意味での自分らしさもありますし、
376 N あとは、その面接とかにおいて、
377 N 内定取りたいがために、
378 N 猫かぶって、
379 Y うーん。
380 N いい子のふりするっていうよりは、
381 N 「自分ってこんな人間なんですよ、
382 N どうですかー」って自分らしさを押し出して、
383 N そこで、自分らしさを評価してもらえる会社であれば、
384 N け、内定いただいたとしても、
385 N きっと、ある程度はね、
386 N その一、自分がおも、行きたいなーと求めていたものとのギャップっていうのも、
387 N ある程度、比較的少なく済むと思いますし。
388 Y うん。
389 N なんか、自分じゃない自分で面接して、
390 N 内定もらったとしても、
391 N 結局蹴るだけ//やし、
392 Y そーーですね。
393 N 行ったところで、
394 N ま、ねー、大逆転で、めっちゃくちゃよかったっていう場合もあるかもしれないですけど。
395 Y うん。
396 N ま、確率で言えばね、
397 N やっぱちょっと自分が思っていたものとギャップがおっかい//可能性も高い//と思うので、
398 Y うん。
399 Y そーーですね。
400 N だから、そういう意味でも、この自分らしさっていうのは常に持っていてほしいなっていうので、
401 N 押し出してほしいなとは思いますがね。
402 [沈黙2秒]
403 Y はい、分かりました。

【資料3-5】就職活動の相談
質問者Y(NS5)と応答者N

		404	N	はい。
Ⅲ.	1	405	Y	あ、すみません。
		406	Y	ありがとうございました。
		407	N	ありがとうございます。
		408	N	お疲れ様でした。
		409	N	頑張ってください。
		410	Y	ありがとうございます。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	I	こんにちは。
		2	N	こんにちは、どうも。
		3	I	よろしくお願いします。
		4	I	K (学部) 3年の//Iです。
		5	N	K (学部) なんですか {笑い} 。
		6	I	はい。
		7	I	よろしくお願いします。
		8	N	はい、よろしくお願いします。
	2	9	I	実はあの、(?)の友達で。
		10	N	あ、そうですか。
		11	I	はい。
		12	N	お世話になってます {笑い} 。
		13	I	{笑い} とんでもないです。
		14	I	で、なんか今日、調査ってことなんで、
		15	N	はい。
		16	I	よかったんですけども。
		17	N	はい。
		18	I	じゃ、よろしくお願いします。
		19	N	はい、お願いします。
II.	1	20	I	えーと、じゃあ、Nさん//ですね。
		21	N	はい、そうです。
		22	I	じゃあ、どのような基準で、
		23	I	就活の質問なんですけども、
		24	N	はい。
		25	I	3つとも。
		26	I	どういう基準で、
		27	I	就活に企業を選ばれてましたか。
		28	N	えー、やりたいことができるか。
		29	I	はー。
		30	N	いたい環境であるか、
		31	N	その2つですね。
		32	I	ほー。
		33	I	それじゃ、Nさんにとってやりたいことっていうのは、
		34	I	どういうことだったんですか。
		35	N	もともと事業投資、
		36	I	その一、商社の、ですか？
		37	N	をしたくて、
		38	N	商社に行きたいなーと思いました。
		39	I	はー。
		40	N	事業投資。
		41	I	それは一、 {笑い} どうしてですか？
		42	N	うん？
		43	I	事業投資をやられたいと思ったのは一。
		44	N	は一、あー、海外ボランティア経験から。
		45	I	あー、そうなんすか。
		46	N	ま、事業投資のような//よく似たプロジェクトをー、
		47	I	はい。
		48	N	発展途上国で、まー、やって//いたのでー、
		49	I	へー。
		50	N	それをボランティアじゃなくて、
		51	I	はい。
		52	N	ビジネスでやりたいなと思って。
		53	I	そうですね。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

- 54 N そう思って、
55 N まー、商社//かな。
56 I へー。。
57 I ちなみにどこの国でやられていたんですか？
58 N ベトナム、タイ、ラオス、マダガスカル。
59 I {笑い}
60 N 4//カ国。
61 I 4カ国も行かれたんですかー。
62 I マダガスカルはどこにあるんですか？
63 N アフリカ//ー大陸の南のほうの、
64 I アフリカーですか。
65 I 右の。
66 N 島国があるんですよ。
67 I あー、まじっすか。
68 N あそこ。
69 I 僕、カメルーン行ってましたよ。
70 N あ、いいっすね。
71 I アイセックなんですけど。
72 N あー、アイセックね。
73 N 人死んだね。
74 N 殺//されたね。
75 I {笑い} そうっすね。
76 I えー、すごいですね。
77 I はー。。
78 I それを学生時代にやられて、
79 I もうそのまま//社会に出てもやりたいってことで。
80 N そうですね。
81 N うん。
82 I へー。。
83 N 自分がプロジェクト、
84 N それがプロジェクトが1年2年3年4年5年とかっていう長期スパンなんで、
85 N そんなの、まー、1週間とかだけなんですけど、
86 N まあ、事前に勉強して、
87 N 行って、
88 I へー。。
89 N 現地で通訳兼何かみたいなの、やったり。
90 I {笑い} さっきのなんかで。
91 N 色々プロジェクトに参加、参加して。
92 I へー。。
93 I あ、そう、すごいですね。
94 [沈黙2秒]
95 I それを具体的にどんな事業投資やられてたんですか？
96 I NPOとかで。
97 N NPOで、まあ、色々してますけど、
98 N 例えば、マダガスカルの例でいくと、
99 N えー、農業、
100 N えー、パイナップルとか//シナモン。
101 I はー。
102 N パイナップルはもう食用なんで、
103 I はー。
104 N 農場にお金をあげて、
105 N こんなにお金をつこうて、
106 N パイナップル作れと。
107 N でー、パイナップルできたら、
108 N 今度はこれを使って、
109 N ここの会社で、
110 N まー、こんだけお金あげるから、
111 N ゆ、まあ、運送してくれと。
112 N 輸出せんと、

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

- 113 N 輸出してくれというようなところ。
114 I へー。。
115 N シナモンであれば、
116 N こんだけの金使って、
117 N シナモン作れよと。
118 N シナモンを今度は、
119 N シナモンから油を抽出しろと。
120 N 抽出した油で、
121 N 今度は加工する。
122 N 化粧水か化粧品//品。
123 I 化粧品すか。
124 N 化粧品の一部、シナモンの油使ってるらしくて、
125 I へー。。
126 N それを加工しろと。
127 N 加工したものをアジアとか、ヨーロッパに輸出しろとというふうな長いビジネス。
128 N これはまさに商社も同じもので、
129 N 物は違えど、
130 N 同じこと。
131 N 例えば、石油とかも。
132 I はーはー。
133 N こんだけで油田掘れよと。
134 N 油田ボーンって掘ったら、？
135 N 動かして、
136 N 売って、
137 N でー、配当受けるから。
138 N まー、それをー、配当受けずに、
139 N お金だけあげて、
140 N ま、その、ま、流れを//提供してるのが俺が行ってた、
141 I はい。
142 N 行ってたというか、
143 N ま、親父の団体//なんやけど、
144 I あー。、そうなんすか、へー。。
145 N そこの、まあ、やってることやから、
146 N 金稼げんのに、
147 N なんで稼がへんの一って//思って、
148 I おー。。
149 N まあ、ビジネスにしたいなと思って。
150 I へー。。
151 I なんかもう、スケールがでかいっすね {笑い}。
152 N そんなことないっすよ。
153 I そー。すかー。
154 N うん、そんなことないですよ。
155 N 東南アジア、アフリカでも。
156 I へー。。
157 I もう、じゃ、もう本当にやられてた、
158 I やってたおられたことが
159 I もうそのまま就職に繋がったって感じなんですか。
160 N うん、繋がるとは思わなかったけど、
161 I へー。。
162 N 繋がり//ましたね。
163 I {笑い}
164 I すごいですねー。
165 I じゃ、もうそのままずっとこれからもやっていかれるんですか？
166 N いやー。、どう//やろうな。
167 I {笑い}
168 N 一生この会社いる気じゃないから。
169 I あー。。
170 I そうなんすか。
171 N ねー、まー、すごいパーソナルなこと言ったら、

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

- 172 N 結婚したいし、
173 N 子供もほしいし。
174 N てなったら、
175 N 総合商社の営業なんかになったら、
176 N あっちこっち飛んで周るし。
177 I はいはい、飛び周りで。
178 N 自分はアフリカで仕事がしたいっていう//夢を持っているんで、
179 I あー、ほんまっすか。
180 N でも、一緒になる嫁はんがね、
181 N 「アフリカイやや」って言うたら、
182 N それまでですしね。
183 I {笑い}
184 N 「ロンドンに駐在できる」とか//だったら、
185 I あー。。
186 N 飛んで//着いてくる {笑い}。
187 I 飛んで着いてくる {笑い}。
188 I 「アフリカは一」みたいな。
189 N うん。
190 N 「アフリカはちょっとな」って言われるし、
191 I アフリカはちょっと。
192 N こっちも//「だよね」ってなるから、
193 I {笑い}
194 N だから、まあ。
195 I なるほど。
196 N あの、商社だけじゃなくて、
197 N 自分、ビジネスパーソンとして、
198 N 色々経験したいなって思ってるんで、
199 N こう転職も今の段階で考えてるし。
200 I へー。。
201 N でも、まあ、少なくとも、5年から10年はいらなうと思いますけど。
202 I へー。、すごいっすね {笑い}。
203 N うん。
204 I なるほど。
205 I 確かにアフリカはつらいっすね。
206 I マダガスカルはフランス語なんすか？
207 I 英語一。
208 N えーとね、マダガスカル語。
209 N マダガスカル語。
210 N 一応、公用語は、マダガスカル語、フランス語、英語//なんですけど、
211 I あー。。
212 N やっぱフランス語話せる人は、
213 N だいたいちゃんとした教育を受けている人、
214 N ブルジョア。
215 I なるほど、金持ちの一。
216 N うん。
217 N で、大学とかもちちゃんと出てる。
218 N で、イングリッシュを喋れる人もほとんどいない。
219 N 英語はもうね、
220 N 通じないような//もの。
221 I 通じない。
222 I で、英語でJさん（下の名前）は喋られていたんですか？
223 N マダガスカルに関しては一、
224 N その一、マダガスカルのすごなおっきなNGO団体の
225 N ま、い、トップレベルの人たちは面白くて、
226 N K大大学院とか//H大学大学院//とか、
227 I は一。
228 I は一。
229 N 日本の大学出てる人がいっぱいいて、
230 I まじっすか。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

- 231 N 日本語で全部やる。
232 I マダガスカルー。
233 N すごいよ。
234 I まじっすか。
235 N 日本語で冗談とか言ったりするから、
236 N めっちゃ//面白い。
237 I {笑い}
238 I めっちゃ頭いいじゃないですか。
239 N すごい。
240 I {笑い}
241 N うん。
242 N 日本で冗談言う。
243 N すごい人が多いいしつ？だね。
244 I へーーーーー、そうなんだ。
245 [沈黙2秒]
246 I へーーーー。
247 [沈黙1秒]
248 I もう、それって、春休みとか夏休みに行かれたんですか？
249 I ぼつぼつ、ぼんぼんぼん//ぼんみたいな。
250 N えっとね、タイ、ラオスは、高3の春休み。
251 I へーーーー。
252 N ベトナムが1年生の時の夏休みで、
253 N マダガスカルが1年生の春。
254 N で、一応、留学中にケニアとタンザニアとかも//行ったりして。
255 I まじっすか。
256 N だから、色々行きましたね。
257 I めっちゃ飛び周ってはるんですね。
258 N まあ、留学中はね、
259 N ヨーロッパにいるからね、
260 N 行きやすいっちゃー
261 I うん。
262 N 行きやすいん//でね。
263 I なるほど。
264 I 留学はどちらに。
265 N イギリス//に。
266 I イギリスに。
267 I へーーーー。
268 I そーなんすかーーーー。
269 I いや、すごいっすね。
270 I なんかスケールが// {笑い}。
271 N いやいやいやいや。
272 I へーーーーー。
273 I あんまアフリカ行ったことある人と
274 I 会ってなかったんで。
275 N 意外にいます//よ。
276 I 意外にいます。
277 I いるんすね。
278 N S(学部)でも。
279 I S(学部)でも。
280 N めちゃ、結構いますよ。
281 I そうなんすか。
282 I 結構いられます？
283 N あのね、旅行レベルで行くと、
284 N モロッコ、エジプトなんかは//みんな行ってるし、
285 I あーーーー。
286 N あとは、ケニア、タンザニアに行ったのも、
287 N 何人かで行って、
288 N 4人、5人で行って、
289 N 4人はS(学部)の子やった//かな。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

	290	I	へーーーー。
	291	N	とかやし、まあ、友達、個人的な子もルワンダに行った子//もおるし。
	292	I	へーーーー。
	293	N	大学は違いますけど、
	294	N	えーとね、どこやったっけかな、
	295	N	ルワンダの近くの国や。
	296	N	ザン//ビアや。
	297	I	ザンビア。
	298	N	ザンビアに行った子もいるし、
	299	N	自分の団体作って、
	300	N	ザンビア行ったことある子もいるし。
	301	I	へー。
	302	N	意外にね、
	303	N	多いですよ。
	304	I	意外に。
	305	N	うん。
	306	I	そ、へー。
	307		[沈黙 2 秒]
2	308	I	じゃ、あ、時間があと 6 分なんで、
	309	I	じゃー、就活で一番大変だったことはー//なんですか。
	310	N	テストです。
	311	I	テストですか。
	312	N	テストセンター。
	313	I	テストセンターSPIですか？
	314	N	そうです。
	315	I	{笑い}
	316	N	あれがね、{笑い} 大変ですね。
	317	I	{笑い} 大変でしたか。
	318	N	俺、受験勉強してない人なんです。
	319	I	あ、そうなんすか。
	320	N	高校受験、大学受験はしたけども、
	321	N	高校受験は勉強せずに、
	322	N	高校入ったし。
	323	N	で、大学受験も//英語で入ったし、
	324	I	へーーーー。
	325	N	そういうなに、基礎的な学力っていうのがすごく低くて、
	326	I	単純な計算//みたいな。
	327	N	そうそうそう。
	328	N	中学校の時とか、
	329	N	数学 2 やったしー、
	330	I	まじっすか {笑い} 。
	331	N	{笑い} だから、苦労しましたね。
	332	I	あー。
	333	N	それで、かなり、かなりっていうか、
	334	N	まー、半分落ちましたね、会社。
	335	I	へーーーーー。
	336	I	そんな切られるんですね、A (大学名) でも。
	337	N	あーー、商社は//ね。
	338	I	商社。
	339	N	うん。
	340	N	テストで切られますね。
	341	I	テストで。
	342	I	へー、なるほど、そうなんだ。
	343	I	じゃ、2 番目に大変だったことって。
	344	N	うーーーーーん、ES。
	345	N	ES。
	346	I	じゃ、ほんまにあれですね、
	347	I	あのー、面接とかはもう、どんとこい//みたいな。
	348	N	面接で落ちなかったんです、俺。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

	<p>349 I すごいっすね。</p> <p>350 N あの一、ちゃんと納得いって落ちるとかってのはあるんですけど、</p> <p>351 I はい。</p> <p>352 N てか、基本的に納得いった面接は</p> <p>353 N 全部受かってて、</p> <p>354 I へー。</p> <p>355 N 納得いかなくて、</p> <p>356 N 手ごたえなかった面接も</p> <p>357 N 受かってたりするんで。</p> <p>358 N だから、俺、6社しか面接してないんですけど、</p> <p>359 I はい。</p> <p>360 N 1社は、あの一、ある資料、不備で、</p> <p>361 N めっちゃ怒られ//て。</p> <p>362 I 資料。</p> <p>363 N 「うちの会社来る気ないでしょ」って、</p> <p>364 N 一時面接で「すみません」って落とされたんですけど、</p> <p>365 N それ以外は、あの、全部最終までいって、</p> <p>366 I へー。</p> <p>367 N で、ま一、途中で断ってる、</p> <p>368 N 辞退してるんで。</p> <p>369 I へー。</p> <p>370 I すごいっす//ね。</p> <p>371 N だから、実質はね、</p> <p>372 N あの一、ね、</p> <p>373 I 面接は勝率10割みたいなの。</p> <p>374 N ま、10割//じゃないですけど、</p> <p>375 I {笑い}</p> <p>376 N ある程度、面接には自信、</p> <p>377 N コミュニケーションのう、に関しては、</p> <p>378 N 自信が//あったんでー。</p> <p>379 I へー。</p> <p>380 N もうそれ以外ですね、基本的に。</p> <p>381 N 大変やったのは、そうですね。</p> <p>382 I すごいっすね。</p> <p>383 N いやいやいやいや。</p> <p>384 I 僕、面接とかめっちゃ苦手なんでー。</p> <p>385 N そうですか？</p> <p>386 I はい。</p> <p>387 N へー、そうなん。</p> <p>388 [沈黙1秒]</p>
3	<p>389 I じゃあ、あの一、最後に、就活前と今とで</p> <p>390 I 何か変わられたことってありますか？</p> <p>391 [沈黙2秒]</p> <p>392 N うー。</p> <p>393 I なんかなんでも、いいんですけど。</p> <p>394 N 変わったこと。</p> <p>395 [沈黙1秒]</p> <p>396 N もともと、そんな変わってないかな。</p> <p>397 N もともと自分のことも客観視してる人やしー、</p> <p>398 N だいたい、自分の周りの環境も、</p> <p>399 N 一歩引いて見るしー。</p> <p>400 N でー、自分が心を許してる人じゃないと、</p> <p>401 N 自分の素を出さないし。</p> <p>402 N だから、そんなに変わりはしないけども、</p> <p>403 N まあ、考え方とかっていう点では、</p> <p>404 N やっぱ、そのー、人を認めることとかはー、</p> <p>405 N 認めるというか、</p> <p>406 N 全ての人に敬意を、</p> <p>407 N まー、就活を通して、</p>

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

408 N 全ての人に敬意を示すことの重要性とか
409 N 大切さっていうのは、
410 N 改めて実感したし。
411 N 言葉では分かってたし、
412 N 頭では分かってたけども、
413 N やっぱり心から自分のそういうふうに、実行しようと思ったのも、
414 N 就職活動のきっかけですし、
415 N あとは、両親に対するリスペクトっていうのは、
416 N 就職活動を通して、
417 N もう、ぐっと上がりましたね。
418 I あ————、へ——。
419 [沈黙 1 秒]
420 N その、どんな人に対しても敬意を払うというか。
421 I うん。
422 I は————。
423 N やっぱり、ま、会社の名前とか大学の名前にぶら下がりたくない。
424 N 自分Nっていう名前で、に、
425 N それ自身に人としての価値を見出したいと思って。
426 N 就職活動を通してね、
427 N そうすると、
428 N やっぱり、例えば、後輩に対してとか、
429 N 例えば、「はじめましてー」って言って、
430 I はい。
431 N 今いく、22歳、今22歳？
432 I 22歳です。
433 N 「22歳です。」って言って、
434 N 23年やけど。
435 I はい。
436 N 「後輩やんけ、おまえ」みたいな、
437 I {笑い}
438 N いきなり態度でかくなったら、
439 N えって思うじゃないですか。
440 I {笑い} そうですね。
441 N とか、例えば、飲食店行って、
442 N 客に態度でか、でかくするとかさ、
443 N あきらかにバイトの子で、
444 N 自分より年下やったとしても、
445 N ちゃんと敬語話せるかどうかとか、
446 N ある程度、
447 N 一定の段階で仲良くなないと、
448 N あの一、敬語、タメ語を喋らないとか、
449 N どんだけ下//でもね。
450 I あ——。
451 N もちろんめっちゃめっちゃ小さかったら、
452 I {笑い}
453 N それこそ敬語喋ってたら、
454 N 変だけれども、
455 I まあまあ。
456 I {笑い} はい。
457 N でも、ある程度、年近いけど、
458 N 下とかであれば、
459 N 全然、敬語、最初は敬語使うとか。
460 N 例えば、もしかしたら、「(?)の後輩です」って言わなかったら、
461 I はい。
462 N もっとかしこまってた//かもしれないしー。
463 I あ————。
464 N だから、そういう壁で接し方を全然変えないというか、
465 N 全ての人に対して、
466 N 最初は、もう丁寧に行く。

【資料3-6】就職活動の相談
質問者I(NS6)と応答者N

		<p>467 N で一、ちゃんと、すっごい嫌いなやつでも、</p> <p>468 N 自分になくて、</p> <p>469 N 彼、彼女にできることがあれば、</p> <p>470 N その点に関しては、</p> <p>471 N ちゃんとリスペクト//するだとか、</p> <p>472 I お————。</p> <p>473 N 嫌なところとか</p> <p>474 N 駄目なところって、</p> <p>475 N 全ての人が持っていて、</p> <p>476 N いいところとか長けてる部分って全ての人が持ってるから、</p> <p>477 N その人がどうというよりは、</p> <p>478 N その人のある部分をちゃんと認めようとか。</p> <p>479 N だから、人を多面的に見て一、</p> <p>480 N で、一部はすごくリスペクトする。</p> <p>481 N もちろんリスペクトできないところもあるけども、</p> <p>482 N だからと言って、人として否定はしていけないとか。</p> <p>483 【アラーム】</p> <p>484 N そういうことは、自分の中で、</p> <p>485 N 就職活動通して、</p> <p>486 N やっぱり、重要かな一っていうふうに思いました。</p> <p>487 N 社会に出て、</p> <p>488 N 色んな人が//いて、</p> <p>489 I はい。</p> <p>490 N 大学入ったら、</p> <p>491 N 自分のいたい環境を選べる//じゃないですか。</p> <p>492 I あ、そうですね。</p> <p>493 N でも、社会に入ったら、</p> <p>494 N 選べないじゃないですか。</p> <p>495 I 色んな人と//でも、</p> <p>496 N だったら、なった時に、</p> <p>497 N じゃ、そういうふう生きていかなきゃならない、</p> <p>498 N そういうスタンスを持っていけないと、</p> <p>499 N たぶん生きていけないなって。</p> <p>500 N 逆に自分が潰れるん//ちゃうかなって思って。</p> <p>501 I は————。</p> <p>502 N ま一、そういうふうに全ての人にリスペクトを払うっていうのが</p> <p>503 N やっぱり重要やなっていうのは、</p> <p>504 N もう実感しましたね。</p> <p>505 I それは、もう肌で感じられた//んですね、実際に。</p> <p>506 N そ————ですね。</p> <p>507 I 色んな経験されて。</p> <p>508 N そうですね。</p> <p>509 I へ————。</p> <p>510 [沈黙1秒]</p>
Ⅲ.	1	<p>511 I 最後、深い話//を。</p> <p>512 N いえいえいえいえいえ。</p> <p>513 I {笑い} ありがとうございます。</p> <p>514 N なんか喋りすぎた。</p> <p>515 I いえいえ。</p> <p>516 N 何かあれば。</p> <p>517 N 大丈夫//ですか。</p> <p>518 I むしろ、ほんとに、もっと色々お話聞きたいことはあるんですけど。</p> <p>519 I ありがとうございます。</p> <p>520 N いえいえいえ。</p> <p>521 I そう、はい、ためになりました。</p> <p>522 N はい。</p> <p>523 N お疲れ様でした。</p> <p>524 N ありがとう//ございました。</p> <p>525 I ありがとうございました。</p>

	526	I	失礼します。
--	-----	---	--------

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	S	よろしくお願いします。
		2	N	お願いしまーす。
		3	S	えっと、K学部のSと申します。
		4	S	3//年です。
		5	N	Nと申します。
		6	S	よ//ろしくお願いします。
		7	N	よろしくお願いします。
		8		2
II.	1	9	S	さっそく、質問//よろしいですか。
		10	N	はい、大丈夫ですよ。
		11	N	はい。
		12	S	まず、就活の時の//自分の中の軸っていうか、
		13	N	はい。
		14	S	どうやって企業を選んだとか、
		15	S	業界を選んだとか
		16	S	そういうのを教えていただけますか？
		17	N	企業の選び方//ですね。
		18	S	はい。
		19	N	は、ま、最初、結論から言うと、
		20	N	自分がしたことができるかということと、
		21	N	自分が、自分に合ってるっていう社風ですね。
		22	N	そのどっちかが、キーワードで、
		23	N	でー、まー、何がしたかったかと言うと、
		24	N	まー、えー、ま、事業投資って分かりますか？
		25	S	{笑い}
		26	N	えっと、なんやろな、
		27	N	お金を例えば、ある地域に持って行って、
		28	N	うんと、せやな、例えば、ある国の田舎に、いくらかお金をぽんとあげて、
		29	N	そこで、えーと、何か穀物を作りますと。
		30	N	その穀物を今度は、えー、加工して、
		31	N	輸出します。
		32	N	で、販売しますっていうことを請け負う。
		33	N	全部、トータルをコーディネートするってことがしたくて、
		34	N	ま、簡単に言うと。
		35	N	それが、事業投資っていうモデルで、
		36	N	でー、それが一、主にしてるのが総合商社であつたっていうのが自分のしたいこと。
		37	N	で、どんなところ、社風で言うと、
		38	N	まあ、割と、先輩後輩、上下関係がしっかりしていたとしても、
		39	N	えー、後輩の言うことをちゃんと聞いてくれる、
		40	N	組んでくれるってところとかですね。
		41	N	簡単に言えば。
		42		[沈黙4秒]
		43	S	うーん。
		44		[沈黙2秒]
		45	S	その、したいことっていうのは、
		46	S	何、何かをきっかけに事業投資したいなって思うようになったんですか？
		47	N	えっとー、もともと父親がNPO法人の理事長をしまして、
		48	N	でー、ま、東南アジアとかアフリカで、今言ったことと同じようなことをボランティアでやってるんです。
		49	S	=あー。
		50	N	でー、まー、それに、着いて行って、
		51	N	お手伝いをしたりしていて、
		52	N	それでまあ、面白いなーと思って、
		53	N	自分もそういう、まー、発展途上国で、

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

	54 N	事業投資を、今度は、そのボランティアじゃなくて、
	55 N	ビジネスでやりたいなーと思って、
	56 N	まあ、それをしたいなーと思いました。
	57 S	あーー、分かりました？。
2	58 S	えっと、じゃあ、しゅーーしよく活動で、
	59 N	はい。
	60 S	んと、苦勞した点とか、やっといたらよかったなーとか、
	61 S	そういうことがあったら教えていただけますか？
	62 N	苦勞した点は一、テストですね。
	63 S	あ、商社難しい//って。
	64 N	あ、難し//いーっていうか、
	65 S	難しくないんですか？
	66 N	だいたいがテストセンターなので、
	67 S	うん。
	68 N	難しくはないですね。
	69 N	ただ、まあ、テストで落ちるとね、
	70 N	面接もしてくれないっていうのがあるんで、
	71 N	それをちゃんとしとけばよかったなって思います。
	72 S	うんうん。
	73	[沈黙2秒]
	74 S	なんか、一番苦勞した時期ってありますか？何月か。
	75 N	自分はないですねー。
	76 S	あーーー。
	77 N	その、いわゆる、まあ、みんな就職活動を始めて、
	78 N	色んなところのセミナー行ってとかしてたりしてたんですけど、
	79 N	自分の場合は、行きたい業界や業種がはっきりしていて、
	80 N	でー、他の業界、他業界を見ようと思ったんですけど、
	81 N	やっぱりなんか興味の無いところ行ってみても、
	82 N	興味が出なかったんですね、最初の方は。
	83 N	メーカーさんに行っても、
	84 N	途中で寝ちゃうし、
	85 N	で、まー、そういうのは、自分の興味が向いてないのかなーって思って、
	86 N	じゃあ、行くの無駄やなって思って、
	87 N	自分の行きたいところへ集中してやりました。
	88 S	ああ。
	89 N	だから、時間にも余裕があったしー、
	90 N	忙しなって思うことがなかったですね。
	91 S	じゃ、商社の他にはどこか行ってないんですか？
	92 N	えっと、一応、商社とまー、海外進出してる大手メーカーとかは受けました。
	93 S	うんうんうん。
	94 S	なんか、大手だけとか業界絞りすぎると、
	95 S	結構、例えば、ESとかで結構落とされたりとかして、
	96 S	4月にいざなった時に、
	97 S	持ち駒が少なくなって、
	98 S	すごい不安になりそうだなって、
	99 S	私はすごい思ってるんですけど、
	100 N	うんうんうんうん。
	101 S	なんか、どう、なんか、どうしたらいいんですかねー {笑い}。
	102 N	あ、それはどうなんやろ。
	103 S	{笑い}
	104 N	人それぞれと思ってー、
	105 N	あの一、なんて言うかな、
	106 N	取りあえず、就職がしたいと思うのであれば、
	107 N	別に、大手でも、中小企業でも、ベンチャーでも、興味のある企業が受ければいいし、
	108 S	うん。
	109 N	もし、自分が、なんやろうな、
	110 N	こういう、自分みたいに、何か決まってることがあれば、
	111 N	そうふうに、そこだけに焦点を当ててもいいし、
	112 N	何ていうやろ、

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

	<p>113 N だから別にそれは人それぞれっていう感じかな。</p> <p>114 N 自分の場合、ま、色んな人に言うんやけども、</p> <p>115 N 別に大手に入るからすごいとか、</p> <p>116 N 中小企業やからどうとか、</p> <p>117 N ベンチャーやからどうとかじゃなくて、</p> <p>118 N その自分が、その就職活動において、優先順位を付けていく軸となる物の優先順位を付けていった中で、</p> <p>119 N そこに当てはまる企業であれば、</p> <p>120 N どこでもいいと思うんで、</p> <p>121 N まあ、ここでもそう、いいなって思う企業が多ければ多いほど、</p> <p>122 N 受ける企業も//多くなるし、</p> <p>123 S うん。</p> <p>124 N まー、それが限定されていけば、</p> <p>125 N それに比例して少なくなると思うんですね。</p> <p>126 N ま、自分の場合、商社だけ、い、夏の段階で、</p> <p>127 N 1 個内定取れるっていう確信のあった企業があったんで、</p> <p>128 S あー。あー。</p> <p>129 N だから、ちょっと勝負に出てたっていうのもあるんですけど、</p> <p>130 N 最初は総合商社 6 社しかエントリー、プレエントリーしてなかったのを、</p> <p>131 N 最終的にはもう E S 締め切り間近で、</p> <p>132 N メーカーさん、どっと出して、</p> <p>133 N 結局最終的 16 社エントリーの、面接行ったのは 6 社。</p> <p>134 S あー、でも割と少なめですね。</p> <p>135 N 相当//少ないほうですね。</p> <p>136 S 少ないですね。</p> <p>137 S あー、そうなんだ。</p> <p>138 N だから、持ち駒が少なければ、</p> <p>139 N 落ちるとかって問題じゃない。</p> <p>140 N 数打てば受かるわけでも//ないんで、</p> <p>141 S うんうん。</p> <p>142 N それは自分次第だと思います。</p> <p>143 S なるほど。</p>
3	<p>144 S あの、逆に、就活で工夫した点っていうか、</p> <p>145 S 面接とかで工夫したこととか、</p> <p>146 S ま、やっというてよかったなってそういうことがあったら。</p> <p>147 N えっとー、まず、工夫した点っていうのは、</p> <p>148 N 工夫した点ね、</p> <p>149 N 工夫した点は、そうですね、自分、面接に関して言うと、</p> <p>150 N まあ、ESでもそうなんですけど、</p> <p>151 N やっぱ、読んでて面白いとか、</p> <p>152 N この人の話聞き、聞きたいとか、</p> <p>153 N 思わせる書き方をするとか、</p> <p>154 S うんうん。</p> <p>155 N 抽象的に言えば。</p> <p>156 N 自分は、普段からその一、人と会話する時に、</p> <p>157 N まー、聞き手を楽しませる。</p> <p>158 N やっぱ面白いと思いながら、</p> <p>159 N 笑いながら聞いたりしたら、</p> <p>160 N 印象深いじゃないですか、その人の話が。</p> <p>161 S はい。</p> <p>162 N だから、自分がプレゼンテーションする、</p> <p>163 N 就職活動でプレゼンテーションするとか、</p> <p>164 N グループディスカッションするとかの、あとは、面接の時の</p> <p>165 N ふいんき（雰囲気）作りとか、</p> <p>166 N で、まあ、自分一人が注目されている時は、</p> <p>167 N 必ず笑いを入れるとか、</p> <p>168 N そういうふうには、ま、面接とか、何もかもエンターテイメントやと思ってやりましたね。</p> <p>169 S ほー、なるほど。</p> <p>170 S ま、グループディスカッションの時は、</p> <p>171 S どういう感じの立ち居地でやりましたか？</p>

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

	<p>172 S 色々ですか？</p> <p>173 N えーーと、基本的には、ま、書記をしたりっていうのはあるんですけど、</p> <p>174 N でも、基本的に話の筋に必ず乗ってる人。</p> <p>175 S うーーん。</p> <p>176 N 要は、このいちいち「やりましょう」みたいな仕切ったりとか、</p> <p>177 N なんか {笑い} そういうのは、みんなやりたがるんで、</p> <p>178 N 「やれ」って言われたら、</p> <p>179 N やりますけど、</p> <p>180 N 自分からはやらない。</p> <p>181 N だから、だいたい最初の30秒ぐらいだまーーって見てて、</p> <p>182 N で、周りの人の出方を見て、</p> <p>183 S うんうん。</p> <p>184 N で、自分、日系しか受けてないんで、</p> <p>185 N 外資はまた別と思うんですけど、</p> <p>186 N 日系の場合は出方窺って、</p> <p>187 N で、だいたい周りの人がどういう感じに入ってくるか見て、</p> <p>188 N でー、一応頷いて//相づちはやるけど、</p> <p>189 S {笑い}</p> <p>190 N でも、なんか、こう進んでほしい進み方ってあるじゃないですか//、ディスカッションって。</p> <p>191 S はい。</p> <p>192 S はい。</p> <p>193 N なんか、物があって、</p> <p>194 N それを定義づけして、</p> <p>195 N ブレーンストーミングしてっていう段階を踏むにつれて、</p> <p>196 N 確実に話がそれる時とか、</p> <p>197 N なんかちょっと別のことを言ったりとか、</p> <p>198 N ある程度進んでるのに、</p> <p>199 N また戻してきよったりする人が出てくるんで、</p> <p>200 N その軌道修正役//ってのにまわってましたね。</p> <p>201 S あーーー。</p> <p>202 N やっぱりそうすると、</p> <p>203 N あの一、リスクが低いというか、爆弾発言//しなくて済むんで。</p> <p>204 S {笑い}</p> <p>205 N だいたいそんな感じですね。</p>
4	<p>206 S この前のグループディスカッションのセミナー、</p> <p>207 S キャリアセンターのセミナーに//行ってみたんですけど、</p> <p>208 N はい。</p> <p>209 S なんかマニュアルでみんなやるんですけど、</p> <p>210 S 「じゃあ、自己紹介しましょう」みたいなのをこうやって、</p> <p>211 S 「じゃ、司会役を決めましょう」みたいな。</p> <p>212 N はい。</p> <p>213 S 「どなたか司会を担当してくださる方はいますか」とか言ってて、</p> <p>214 S 本当のグループディスカッションでも、</p> <p>215 S こんなことやるのかなーって思って、なんか。</p> <p>216 N あーー。</p> <p>217 S で、タイムキーパー、</p> <p>218 S 先生が「タイムキーパーを取るんだ」って、</p> <p>219 S やってらだから、</p> <p>220 S 「タイムキーパーやってくくださる方いますか」って言ったら、</p> <p>221 S みんなすぐ手挙げて、</p> <p>222 S えーーーって思ったんですけど、</p> <p>223 S 実際は、どういう感じですか？</p> <p>224 N あー、それはね、会社にもよるし、</p> <p>225 N 会社にもよるし、ほんまに運で//、周りの人の。</p> <p>226 S うん。</p> <p>227 S はい。</p> <p>228 N すーーごい盛り上がるグループもあれば、</p> <p>229 N めっちゃ静かなグループもあるし、</p> <p>230 N ふいんき（雰囲気）悪いところもあるし、</p>

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

	231	N	めっちゃふいんき（雰囲気）いいけど、
	232	N	ちゃらんぼらんな//グループもあるし、
	233	S	{笑い}
	234	N	暗いねんけど、
	235	N	ポイントついてるところもあるし、
	236	S	うん。
	237	N	それって//それぞれ。
	238	S	あーーーー。
	239	N	まー、その、細かいとこ言うと、
	240	N	「だれ、誰々が何かしてくれる人いますかー」っていう人、
	241	N	基本的にいなくて、
	242	N	だいたいグループに必ず一人は司会したがる子がいるんで、
	243	S	うん。
	244	N	やらせて、
	245	S	{笑い}
	246	N	で、別に誰もいなかったら、
	247	N	「じゃー、タイムキープ、ここに時計置いときますね」って言って、
	248	N	ぼんとみんなが見れる位置に時計置いて、
	249	S	うん。
	250	N	「で、何分で進めていきましょう、
	251	N	はいスタート」みたいな感じでやるところもあるし、
	252	S	うんうんうん。
	253	N	なんか役割分担を決めることはないですね。
	254	S	あーーーー。
	255	N	もちろん、自己紹介しますよ。
	256	N	でも、そっから入るのは、
	257	N	「誰やりますか」みたいなことは、
	258	N	ほんまに時間の無駄//なんで、しないですね。
	259	S	あーーーー、そうなんですね。
	260	S	あーーーー、ありがとうございます。
	261		[沈黙2秒]
	262	S	うーん。
	263		[沈黙1秒]
5	264	S	なんか、あのー、しよ、4月からだいたい面接始まると思うんですけど、
	265	N	はい。
	266	S	その前に、ちょっと面接やるところとか、
	267	S	いくつかあるじゃないですか、なんか//ベンチャーとか。
	268	N	うん。
	269	N	うんうん。
	270	S	そういうところは受けましたか？全くー。
	271	N	ベンチャー受けましたよ。
	272	N	ベンチャー受けたの、俺、10月です。
	273	S	お、早いですね。
	274	N	なんかね、あったんですよ。
	275	N	新しい就活イベントみたいのを会社がやり始めて、
	276	S	はい。
	277	N	ちょうど自分たちがやってた時に。
	278	N	でー、もともと海外で起業したいなって思ってたんで、
	279	N	あのー、そのベンチャーとかにも興味があったんですけど、
	280	N	で、内定もいくつかもらったんですけど、
	281	N	でも、やっぱ違うなって思って、
	282	N	大手にシフトして。
	283	S	うん。
	284	N	だから、面接の練習っていうんで、
	285	N	そこで、ベンチャー受けたのと、
	286	N	あとは、11月にボストンキャリアフォーラムっていうバイリンガル用の、
	287	N	ま、キャリア、何ていうのかな、
	288	N	選考ありの合同説明会みたいなのが、
	289	N	アメリカのボストンであるんですけど、

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

	290 S	あー。
	291 N	そこに行って、
	292 N	大手の面接をしてもらったりとかってのはしましたね。
	293 S	な、慣れていきますか？面接は。
	294 S	も、元から得意ですか？
	295 N	面接は、ま、元から得意なんですけれども、
	296 S	あー。
	297 N	でも、ま、慣れて必要やと思います。
	298	[沈黙10秒]
6	299 S	うーん、えーと、{笑い}。
	300	[沈黙2秒]
	301 S	{笑い}
	302 N	大丈夫ですよ。
	303 S	{笑い}
	304 N	まだ大丈夫です。
	305 S	なんなんだろう。
	306	[沈黙6秒]
	307 S	うーん。
	308	[沈黙8秒]
	309 N	もし、結構抽象的に答えてるんで、
	310 N	もっと具体的に//っていうところがあれば。
	311 S	{笑い}
	312 S	うーんと、じゃ、そっか。？
	313	[沈黙2秒]
7	314 S	なんか、そのー、聞く、こういうのっていつも聞く時って、
	315 S	いつも就活成功した人の話を聞くじゃないですか、当然ですけど。
	316 S	だから、あんまり、なんか、なんて言うのかな。
	317 S	なん、なんかできる、できるかなっていうのが//変ですけど、
	318 N	あー。
	319 S	なんか聞いても聞いても不安になるんですよ。
	320 N	あー。
	321 S	当然//なんですけど。
	322 N	悲観的になっちゃう//っていうね。
	323 S	なんか。
	324 N	あのね、それでいいと思います。
	325 N	で、どうしようどうしようってなるんじゃないくて、
	326 N	あの、なんで今、不安なんかな、
	327 N	自分に何が足りないから不安なんかな。
	328 N	じゃ、これをやらないといけない//っていうふうに//やっていく。
	329 S	あー。
	330 S	あー。
	331 N	その不安とか、自分の悲観的な部分っていうのを、
	332 N	今度はそれを準備に変えていくっていう、
	333 N	よく言うんですけど。
	334 N	悲観的に準備して、
	335 N	楽観的に実行するっていうって言うんですけど。
	336 N	自分の中で、就職活動って8割、8割5分ぐらい準備で決まるんで、
	337 N	不安って、準備、その欠如っていうか、
	338 N	欠落からくると思んで、
	339 S	うん。
	340 N	しっかりその、準備に変えるっていう。
	341 N	そしたらたぶんね、自信もつくし、
	342 N	楽しくできると思うんですね。
	343	【沈黙3秒】
	344 S	じ、実際に楽しくされてましたか？
	345 N	楽しかったですよ。
	346 S	あー。
	347	【アラーム】
	348 N	あ、ちょうどよかったですね。

【資料3-7】就職活動の相談
質問者S(NS7)と応答者N

		349 S	あ。
	8	350 N	なんかせっかくなんで、最後はないですか？
		351 S	最後に、なんだろう。
		352	【沈黙2秒】
		353 S	最後、{笑い}。
		354 N	大丈夫ですか？
		355 S	えーと、そうだなー、なんか、一言アドバイス//なんかあったら。
		356 N	一言アドバイス。
		357 N	もうえっとね、自分らしさっていうのを忘れないこと。
		358 N	あと、自分を信じることですよね。
		359 N	自分が何がしたいかとか、
		360 N	自分はどんな人間なのか、のを忘れないこと。
		361 N	ていうのと、ま、さっきも言ったように、
		362 N	悲観的に準備して、
		363 N	楽観的に実行する。
		364 S	うーん。
		365 N	これをしっかりとすると、
		366 N	ま、内定を取ることが成功といえば、
		367 N	成功するんでないかなと思います。
		368 S	なるほど。
		369 S	はい。
		370 S	分かりました。
Ⅲ.	1	371 N	頑張ってください。
		372 S	ありがとうございました。
		373 N	はい。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1 N	どうぞ。	
		2 H	よろしく//お願いします。	
		3 N	よろしくお願いします。	
		4 H	えっと、0さんの代わりに来ました。	
		5 H	K学部3年のHと申します。	
	2	6 N	あれでしょ、	
		7 N	Rの友達でしょ？	
		8 H	はい。	
		9 H	え、知って。	
		10 N	K（高校名）？	
		11 H	K（高校名）です。	
		12 N	なんか、俺、だって仲いいのがたぶん//お姉ちゃんの同級生で。	
		13 H	あ。	
		14 H	あ、あ——あ——あ——。	
		15 N	TとかMとか。	
		16 H	え、そう。	
		17 N	すごく仲いい。	
		18 H	そ——なんですか{笑い}。	
		19 N	Rともすごく仲いいです。	
		20 H	あ、そうですか。	
		21 N	だ//から、	
		22 H	なんか知り合いが多いですね {笑い}、今日は。	
		23 N	緊張せずに。	
		24 H	{笑い} はい//、分かりました。	
		25 N	お願いします。	
		26 N	はい、どうぞなんでも。	
II.	1	27 H	はい、じゃあ、まず始めに、じゃ、志望した業界とか企業のことについて//聞きたいんですけども、	
		28 N	はい。	
		29 H	なんかどこを志望されましたか？	
		30 N	そうですね、総合商社の//S（企業名）//が第一志望で、	
		31 H	はい。	
		32 H	はい。	
		33 N	そこに//行きます。	
		34 H	は、すごいですねー。	
		35 N	{笑い} いやいやいやいや。	
		36 H	{笑い} S（企業名）。	
		37 H	あの一、S（企業名）、実はうちも見てるんですけど、	
		38 N	あ——、そうですか。	
		39 H	なんか説明会行ったんですけど、	
		40 H	すごいガツガツしてますよねー。	
		41 N	だ、誰でした？	
		42 H	いや、誰。	
		43 N	女性でした？	
		44 H	いや、男子の方、男性の方だったんですけど。	
		45 N	あまり背が高くて、	
		46 H	そう。	
		47 N	割と顔の濃い人。	
		48 H	あ、そうですね。	
		49 N	ああ、Sさん//です。	
		50 H	Sさん、たぶん。	
		51 N	はい。	
		52 H	すごいなんかたぶん説明して聞いてる限りの、なんかすごい海外に飛ばされる感じで見てたんですけど、	
		53 N	=うん。	

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

- 54 H 完全に1年目から、色んなことを担当してもらえるみたいな感じ//で。
55 N あー、そうですね。
56 N なんか、えっと、みんながみんなってわけじゃなくて、
57 N なんていうやろうな、
58 N 担当というよりかは//、みんながその一、例えば、M（企業名）には//社員がね、
59 H はい。
60 H はい。
61 N 6000人ぐらいいます//約。
62 H いますね。
63 N 単体で。
64 H はい。
65 N 本社他系列6000人いるんですよ。
66 H 多いですね。
67 N S（企業名）の場合は、2000人なんですよ。
68 H はい。
69 N 三分の一ですもん。
70 H 少ない。
71 N その分、人が少ない分、若い時から仕事がある程度任される。
72 H あ、はい。
73 N っていう点では、たぶん全員共通やと思うんです。
74 H はい。
75 N ただ、ガンガン海外に行くかどうかというのは、
76 N 所属する部署//、課によって変わります。
77 H あー。
78 N 営業とか行って、
79 N しかも、かなり海外に飛ぶような課に行っちゃうと、
80 H はい。
81 N 1年目、1年目でもなー、たぶん。
82 N 1年目のまー、下半期くらいから出張とか//行ったりします。
83 H あー。ー。
84 N ただ、例えばですよ、
85 N 人事部とか//、法務部とか//、財務部とかに入ったら、
86 H はい。
87 H {笑い} はい。
88 N ほとんどないですよ。
89 H ほんと一、国内ですもんね//、活動が。
90 N もう本社のみです。
91 N だから、霞ヶ関、そこが本社//そこなんですけれども
92 H はい。
93 N そこ行って//帰ってって感じですね。
94 H {笑い}
95 H なんで一、そういうふうに見てると、
96 H やっぱ部署とか、やっぱ海外行きたいっていう理由で、そこは志望されたんですか？
97 N そうそう。
98 H やっぱK//学部なんで。
99 N そうです。
100 N 海外で、そうですね、自分の場合は発展途上国で仕事//したいんで。
101 H あー。ー。
102 N だから、まー、まだ配属は決まってないんですけど、
103 H はい。
104 N そういうところに行きたいなーというふうには伝える予定//です。
105 H はい。
106 H なんで、そこは一、うちも同じように考えてるところなんですけど、
107 H やっぱあの一、商社って、やっぱ、規模が多いところはやっぱあんまり任されないっていうところと、
108 N うん//うんうんうん。
109 H S（企業名）みたいに少人数でもガンガンいくみたいな感じがあると思うんですけど、
110 H それで、まー、S（企業名）はやっぱガンガンいきたいっていう。
111 H それで志望されたんです//かね。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

- 112 N そうですね。
113 H はい。
114 N そもそも、企業、もともとベンチャー行きたくて、
115 H あー。。
116 N ベンチャー行きたかった理由は、
117 N その別に、その一、新入社員から、立ち上げから何から何までやらしてくれる//っていうのが、
118 H うん。
119 N 魅力やったんですけど、
120 H うん。
121 N 自分は転職、色んな業界とかやりたいなと思ってたんで、
122 H あー。、はい。
123 N ベンチャー行っちゃうと、
124 N 大手ってなかなか上がれない。
125 H そーですね。
126 N だから、ベンチャーばいというか、
127 H はい。
128 N いわゆる若い時から、
129 N 仕事ができる会社、且つ//、大手に//いきたいなーっと思ってて。
130 H はい。
131 H はー。
132 H はい。
133 N まさにドンピシャやったわけですよ。
134 H はい。
135 N それリクルートか//どっちか。
136 H リクルート {笑い}。
137 H リクルートは大変じゃないですか？逆に。
138 N リクルート大変ですよ。
139 N だから、R(企業名)っていう会社//からもお話いただいてたんですけど、
140 H あー。、すごい//ですね。
141 N あのー、インターンからずっと。
142 N ちょうど気に入っていただいた人が採用//マネージャーやったんで、
143 H {笑い}
144 H はい。
145 N もー、8月、夏にインターンしてから、
146 H はい。
147 N 今年の7月まで毎月電話かかってきたんですけど、
148 H すごいですねー。
149 N あのー、その人ー、いわく、リクルート系列は//30歳からがベテランって言ってる。
150 H はい。
151 N 30歳でベテランですか。
152 N 商社は、30歳で、32、3歳でやっとなん前って//言われてる。
153 H あー。、経験が第一ですもんね//、総合商社とかも。
154 N そう。
155 N だから、要はいわゆる、10年間と、商社にいる、ま、だから、商社で10年やれるのと、
156 H はい。
157 N リクルート系列で10年やると何が違うかというのと、
158 N 経験の多さが変わるんで、
159 H はい。
160 N 要は、凝縮された10年間なんですよ//、リクルート系列とベンチャーとかの場合は。
161 H そうですね、はい。
162 N 何から//何まで仕事任されるまで。
163 H はい。
164 N 但し、規模がちよっと変わってきますよね。
165 H はい、そうですね。
166 N 商社とか特に、事業投資とかプラントとかになったら、
167 H はい。
168 N いわゆる5年で1つのスパンが終わるとか、
169 H {笑い} 長い//ですもんね、ほんとに。
170 N それよりも長い場合がある。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

	171	H	長期期間でもんね。
	172	H	//だから、それを、
	173	N	なんで、そういうビジネスもあるんで、
	174	H	はい。
	175	N	やっぱね、それでー、いっぱい学べって言うほうもね、
	176	N	いっぱい学ぶことがあるんですけど、
	177	H	はい。
	178	N	短いスパンで何回も何回もやるよりは//、ま、経験は少なくともなりますよね。
	179	H	はい。
	180	H	そうですね。
	181	N	ただ、規模が違うんで、
	182	H	はい。
	183	N	学ぶことも変わってきよるんで、
	184	N	それはどっちを求めるかですね。
	185	H	そうですね。
	186	H	はい、ありがとうございます。
	187	H	なんか、そこらへんもちょっと考えてたんで、
	188	N	うん。
	189	H	ベンチャー行くのか、
	190	H	それとも商社行くのかっていうのも、一応。
	191	N	S（企業）多いですよ。
	192	N	同期でも//普通に喋ってたら、
	193	H	はい。
	194	N	「あれ、ベンチャー、最初、//ベンチャー行きたかったんだよね」って言うやつ、
	195	H	はい。
	196	N	結構いますよ。
	197	H	やっぱり//そうですねー。
	198	N	うん。
	199	H	見てる感じ、S（企業名）、そういう人が多いのかなーっていうのが思いましたね。
2	200	H	なんで、ちょっと、そっから離れてー {笑い}、
	201	N	はい。
	202	H	活動の流れについてちょっとお話し//たいんですけども、
	203	N	はい。
	204	H	やっぱりあの、就職自体は12月から始まるじゃないですか、
	205	H	12月から、その一、活動期間は、どういうふうになんとか対策をしていきましたか？
	206	H	その、やっぱり2月から3月はES提出とかー。
	207	H	ま、その間にウェブテストもあるじゃないですか、
	208	N	うんうんうんうん。
	209	H	その前も、なんか色々やっぱり自己分析とかあったと思うん//ですけど、
	210	N	うん。
	211	H	それを何月ぐらいから色々始めたのかなっていうのをちょっと伺いたいんですけどー。
	212	N	なんか、自己分析にも、む、結構、あのー、短期集中型なんで、
	213	H	あ、はい。
	214	N	おっかいスパンで見ると、
	215	N	むらがあるんです。
	216	H	あー、そうですね。
	217	N	それでもよければと言うと、
	218	H	はい。
	219	N	あのー、まず10月に、ベンチャー用の就活イベントがあったんですよ。
	220	H	あー、はい。
	221	N	たぶん知ってると思うけど、
	222	N	D（イベント名）って//いうやつ。
	223	H	D（イベント名）、ありますねー。
	224	N	俺、すごい嫌い//なんですけど。
	225	H	{笑い} あれ、そうなんですか？
	226	H	社長さん、すごくよさそう、いい、いい人じゃないですかー。
	227	N	がー、嫌い//なんですけどー {笑い}。
	228	H	{笑い}
	229	N	あの、まー、そこで、利用させていただいて、

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

230 H はい。
231 N ベンチャーの、ま、選考受けてて。
232 H はい。
233 N で、ま、ベンチャー行く時は、
234 N そんなに自己分析とかしてなかったんですけど、
235 H あ、はい。
236 N ベンチャーのある企業から自己分析の機会を与えていただいて、
237 H はい。
238 N で、それをやったと。
239 H はい。
240 N でまー、それと同時に、その、夏にも、リクルートエージェントのインターンした時に、
241 H はい。
242 N まー、自己分析をちょっとやったと。
243 H はい。
244 N それをきっかけに、そこでどんどんやって、
245 H はい。
246 N しばらく置いてたんですよ。
247 H {笑い}
248 N で、ボスキヤリに行って、
249 H はい。
250 H あ、ボス。
251 N まあ、全然準備せずに行って、
252 H {笑い}
253 N 面接の練習やからって//行っただんですけど、
254 H はい。
255 N こてんぱんにされて帰ってきて、
256 H はい。
257 N まー、選考残ったところが2社あったんですけど、
258 H すごいですね。
259 N でも、こてんぱんにされて帰ってきて、
260 H はい。
261 N で、某広告会社の最終面接で//、最終と言わずに言って、
262 H はい。
263 N 社員に会って、
264 H はい。
265 N 「色々質問して」って言われて行ったら、
266 H はい。
267 N 役員が目の前に2人座っていて、
268 H はい。
269 N がつつり面接されて、
270 N 準備不足で//、ぼろぼろにやられたんですけね。
271 H あー。
272 H はい。
273 N で、それをきっかけに、それがね、確か1月//ぐらいとかだったんですよ。
274 H 1月。
275 N その最終が。
276 H 最終。
277 H あー。
278 N で、ぼろぼろにやられて、
279 H はい。
280 N まずいと。
281 H {笑い}
282 N 確かに、内定もらっても、
283 N 行くか行かんか迷ってたぐらいの会社やったんですけど、
284 H はい。
285 N もうここもぼろぼろだとやばいと。
286 H はい。
287 N っていうので、1月ぐらいから自己分析に走//った。
288 H 走った。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

	289	H	そうですか。
	290	H	やっぱり自己分析は面接やる上でも、1番たいせ
	291	N	もうね、就職活動の6割ぐらい占めてますね。
	292	H	そーですよねー。
	293	N	6割もっとか。
	294	H	{笑い}
	295	N	準備8割って言うんですけど、
	296	H	はい。
	297	N	その8割の中の準備の中の、たぶん、7割、7割、6割とかは自己//分析。
	298	H	自己分析。
	299	N	後は、SPIとか//テストですよね。
	300	H	そーーーですよね。
	301	H	なんか自分の場合、なんか、SPIも一応やってるんですけど、今の段階で、
	302	H	できなーいとか{笑い}思いながら、
	303	H	時間足り//ないとかなっちゃうんですよね。
	304	N	俺も結局SPI、
	305	N	なんや確か、テストセンターの締め切りって3月末とか、2月//とか遅いんで。
	306	H	そ、そうですね。
	307	H	はい。
	308	N	ま、缶詰でやればやれるっちゃやれます。
	309	N	ただ俺はやらなかったんで、
	310	N	落ちました//けどね、かなり。
	311	H	{笑い}
	312	H	そーーなんですよね。
	313	H	テストセンターってどんくらい、なんか言いますもんね、
	314	H	この企業受ければ、
	315	H	80パーセントやってないと//駄目だよみたいな感じのテストセンター//とかって。
	316	N	はい。
	317	N	あーゆー参考書とか問題集とかを、何で もかんでもすらすら解けるようになって、
	318	H	はい。
	319	N	初めてOKですよ。
	320	H	そうですね。
	321	N	ちょっと分からん問題とかが出てくると、
	322	N	ちょっとまずいと思わないと、
	323	H	はい。
	324	N	それこそ、例えば、S(企業名)とかは、あの、ハードル高いんですよ。
	325	H	ハードル高いですよ。
	326	N	T(企業名)とかもハードル高いって言います//からね。
	327	H	はい。
	328	H	ありがとうございます。
3	329	H	で、えーと、その一、やっぱりそういうふう活動やってる上で、
	330	H	やっぱり努力して、
	331	H	工夫したところっていうのはやっぱり//、テストセンターよりもやっぱり面接っていうか、
	332	N	うんうん。
	333	H	自分の自己分析を通して//の一、点がよかったと思いますか？
	334	N	うん。
	335	N	そうですね、もう自己分析に限る。
	336	H	やっぱり活動する上で、
	337	H	いつもやっぱり振り返る分析はやっぱり自己分析だと思いますか？
	338	N	そうですね、やっぱり自分がしたいこととか、
	339	H	はい。
	340	N	その仕事をする上でいたい環境とか、
	341	H	はい。
	342	N	そういうのを知るのも自分の分析、自己分析ですし、
	343	H	はい。
	344	N	あのー、自分が思うだけですけど、
	345	N	やっぱり社会人に入る前の準備//としても、
	346	H	はい。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

	347	H	はい。
	348	N	もう一度、今まで学生生活全般で、
	349	H	はい。
	350	N	その小学校、中学校、高校、大学//、全てを振り返るっていういい機会にもなりますし、
	351	H	はい。
	352	H	はいはい。
	353	N	ま、ここを出た答えが、正解っていうのは、
	354	N	実は、働いて何年か経たないと分からない//し、
	355	H	分からない。
	356	H	はい。
	357	N	今は全然分からないですけど、
	358	H	はい。
	359	N	でも、やっぱり今の段階で正しい決断と思えるかどうかという点では、
	360	H	はい。
	361	N	やっぱそれをしっかりしないと、
	362	N	自分にも納得がいかないですね。
	363	H	そうですね。
	364	N	で、それをしっかりしてて、
	365	N	自分で納得いけば、
	366	H	はい。
	367	N	面接で聞かれても、
	368	N	答えられるんですよ。
	369	H	はい。
	370	N	自分のことやし、
	371	H	はい。
	372	N	知ってるから。
	373	H	そうですね。
	374	N	だから、余裕が出て、
	375	H	はい。
	376	N	面接をエンターテイメントにできて、
	377	H	はい。
	378	N	社員さんに楽しんでもらって、
	379	H	{笑い} そうですね。
	380	N	合格もらえるっていう。
	381	N	そーなんですよ、その面接を盛り上げるためっていうか、
	382	N	やっぱり、やってく上で、
	383	N	やっぱりそれって慣れ、
	384	N	やっぱり全ての先輩に聞くんですけど、
	385	N	「面接は慣れだ」っていう//んですよ、いつも。
	386	H	うんうんうんうん。
	387	N	それ事実、本当に、なんか進めていく上で、
	388	N	本当にそれは大丈夫なのかなって {笑い} いうのがあるん//ですけど。
	389	N	まあ、慣れは慣れですよ。
	390	H	慣れは慣れです//よね、本当に。
	391	H	うん。
	392	N	慣れる必要があると//思います。
	393	H	はい、分かりました。
4	394	H	じゃ、逆に、そのやっぱりさっき苦労した部分も言ってたと思うんですけど、
	395	H	やっぱりあの、振り返らなきゃいけないっていうのもあって、
	396	H	自分もやっぱり若干苦労してるんですけど、
	397	H	そのやっぱり日本語があんまり上手にできないっていう。
	398	N	ああ。
	399	H	あんまり日本語ができないというところで。
	400	H	そこらへんはどう思いますか？
	401	H	やっぱりなんかあんまり日本語上手にまとまってないような感じがするって、
	402	H	自分の弱みがあるん//ですけど。
	403	N	あー、そーですね、それは、まあ、たぶん会社にもよりますけど。
	404	H	そうですね。
	405	N	でも、そこはやるしかないですよ。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

- 406 N 日本語ができないというよりは、
407 H はい。
408 N こー一、その自己分析とか、ES、まー自己分析をして、
409 H はい。
410 N ESを書くじゃないですか。
411 H はい。
412 N で、書き終わりますよね。
413 H はい。
414 N じゃ、ES書いて、
415 N それを基に面接されますよね。
416 H はい。
417 N ってことは、ESに基づいたことを聞かれるわけじゃないですか。
418 H そ、そうですね。
419 N ESに書いて、
420 N 聞かれそうなことを全部答えられて、
421 H はい。
422 N で、答えてる時に、
423 N 自分が発する言葉//、自分がイメージしてるものを言葉にしてるわけじゃないですか。
424 H はい。
425 H そうですね。
426 N で、聞き手が今度は、自分がイメージしている言葉にしてるものを、
427 H はい。
428 N 耳から入れて、
429 H はい。
430 N 同じイメージをしてくれてるかどうか。
431 H あーーー。
432 N それが、コミュニケーション//じゃないですか。
433 H コミュニケーションですね、はい。
434 N それをできればいいんですよ。
435 H あー。
436 N だから//、日本語が下手でも、
437 H はい。
438 N 下手っていうか、
439 H {笑い}
440 N 例えば、すごい失礼ぶっこいてなるんですよー。
441 H はい、そ、それは分かります。
442 N 「どう思いますー」とか聞くと駄目なんですけど、
443 H はいはい。
444 N それは丁寧に敬語//、丁寧語を使わないといけないんですけど。
445 H はい。
446 H そうですね、はい。
447 N でも、そのー、コミュニケーションで、相手に言うと、
448 N 自分と同じイメージを頭の上でいく、
449 N こう共有できるのであれば、
450 H はい。
451 N それは伝わってるってことなので、
452 H はい。
453 N それで、十分いいと思います。
454 H はい、わかりました。
455 N 特に、「自分、私優秀なんです」って見せたいのじゃなくて、
456 H はい。
457 N 「こういう人間です。」
458 N ま、「優秀です」って見せたいのであれば、
459 N 難しい言葉遣いつつ、
460 H はい。
461 N 日本語を巧みに操って//ってしなくきゃいけないんですけど、
462 H はい、そうですね。
463 N 自分という人間を知ってほしいというものでいいのであればね、
464 H はい。

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

		<p>465 N そういうスタンスで就職活動するのであれば、</p> <p>466 N 日本語がある程度できなくても、</p> <p>467 H はい。</p> <p>468 N 伝われば、</p> <p>469 H はい。</p> <p>470 N そのさっき自分が言った意味の伝わり方であれば、</p> <p>471 H はい。</p> <p>472 N すごく、それはそれで、むしろ、それが大事だと思います。</p> <p>473 H はい。</p> <p>474 H じゃ、もう完全に自分らしく攻めていけ//みたいな感じですね。</p> <p>475 N うん、そうですね。</p> <p>476 【アラーム】</p> <p>477 N はい。</p>
5		<p>478 H なんで、えーと、最後に//、メッセージを一言もらえたら。</p> <p>479 N はい。</p> <p>480 H やっぱり、商社一応、志望してる//ので {笑い} 。</p> <p>481 N あー、そうですね。</p> <p>482 N えーと、なんやろうな、どんなアドバイスがいいですか。</p> <p>483 N もうざっくり誰にでも言ってるようなアドバイスがいいですか？</p> <p>484 N それとも、</p> <p>485 H いや、個人的に {笑い} ほしいな一っというところがあるんですけど、</p> <p>486 H やっぱり、印象とかからも入るとしたら。</p> <p>487 N あー、まーでも。</p> <p>488 H 向いてるのかなー {笑い} っていう</p> <p>489 N 向いてる向いてないよく分からないんで、</p> <p>490 H はい。</p> <p>491 N 今、何か言うと、</p> <p>492 N たぶん無責任になっちゃうんで、</p> <p>493 H はい。</p> <p>494 N あれですけど、</p> <p>495 N まあ、今回は俺が答えるっていうやつなんで、</p> <p>496 H はい。</p> <p>497 N まあ、あれなんですけど、</p> <p>498 N ま、商社を目指す上で、</p> <p>499 N S（企業名）に関して言うと、</p> <p>500 H はい。</p> <p>501 N やっぱり自分らしさっていうのを忘れてほしくない。</p> <p>502 H はい。</p> <p>503 N それをちゃんと見る会社なんですよ//、どの会社よりも。</p> <p>504 H はい。</p> <p>505 N で、ちゃんと自分のビジョンが、持ってるかどうか、</p> <p>506 N ビジョンを持ってるか//どうか、</p> <p>507 H はい。</p> <p>508 N っていうのがすごく重要です。</p> <p>509 N だから、そこを自己分析を通して、</p> <p>510 N しっかりやってほしい//っていうのですかね。</p> <p>511 H はい。</p> <p>512 N あとは、まー、みんなに言ってるのが、</p> <p>513 H はい。</p> <p>514 N 悲観的に準備して、</p> <p>515 N 楽観的に実行しろ。</p> <p>516 H はい。</p> <p>517 N ていうのは、全員に言ってることなんで、</p> <p>518 H はい。</p> <p>519 N それもぜひぜひ。</p> <p>520 H はい、分かりました。</p> <p>521 N していただければと思います。</p>
Ⅲ.	1	<p>522 H 今日は本日は//、ありがとうございます、本当に。</p> <p>523 N いやいや。</p>

【資料3-8】就職活動の相談
質問者H(NS8)と応答者N

	524	N	頑張ってください。
	525	H	はい、ありがとうございます。

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	F	よろしくお願いします。
		2	F	Fです。
		3	F	よろしく//お願いします。
		4	K	はい。Kと申します。
		5	F	は//い、よろしくお願いします。
		6	K	よろしくお願いします。
		7	F	何でも聞いてください。
		8	K	はい。
II.	1	9	K	早速質問//いいですか。
		10	F	あ、はい、どうぞどうぞ。
		11	K	今、自己PR//を作ってるんですけど、
		12	F	はい。
		13	F	はい。
		14	K	会社別に自己PRをどのようにしたかちょっと聞かせて//ください。
		15	F	会社別に。
		16	K	はい。
		17	F	あー、なるほど。
		18	F	会社ごとに調整//したかどうかってことですね。
		19	K	はい。
		20	K	はい。
		21	F	僕はあんまり、しなか、調整はしなかったですね。
		22	F	その話すエピソードとかってことですか？
		23	F	それとも言い方とかっていうことですか？
		24	K	そうですね、例えば、商社だと、やっぱり海外で//仕事するー経験とか多いと思うんで、
		25	F	うん。
		26	K	そういう経験を話し、自己PRに入れて、
		27	F	うん。
		28	K	エピソードを話したりとか、
		29	K	他の業界だと、その業界に合わせた自己PRとか。
		30	F	僕はー//、あくまでも//僕の意見なんですけど、
		31	K	はい。
		32	K	はい。
		33	F	僕は、その業界とかに//よって変える必要はない//かなって思いますね。
		34	K	はい。
		35	K	あー。
		36	F	その志望理由はもちろん//変えたほうがいいと//思うんですけど、
		37	K	はい。
		38	K	はい。
		39	F	自己PRは変えないほうが、
		40	F	いいんじゃないかなーって思いますね。
		41		[沈黙2秒]
		42	F	その、自分が1番アピール//したいこと//を、
		43	K	はい。
		44	K	はい。
		45	F	気に入ってくれる企業//に一言った方が、
		46	K	はい。
		47	F	たぶん1番いいと思うので、
		48	F	あんまりこう嘘とか//ついて、
		49	K	はい。
		50	F	自分が1番、自分の強みここですって、
		51	F	実は違うけど、
		52	F	言ってて、
		53	K	はい。

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	54	F	そこを逆に気に入られちゃったら、	
	55	K	あー。	
	56	F	入ってから苦労するんじゃないかなって。	
	57	K	そうですね。	
	58		[沈黙2秒]	
2	59	K	あと一、めんせつーとかで//、苦労した一点でいうか、	
	60	F	はい。	
	61	K	その一、こういう質問は難しかったなとかありますか。	
	62	F	あー、そうですね、ま、苦労した点で//言うと、	
	63	K	はい。	
	64	F	あのー、最終面接とかだと、	
	65	K	はい。	
	66	F	やっぱりあの、面接官がやっぱり偉い人//なんですよ、	
	67	K	はい。	
	68	F	役員とか//ホームページに載ってるような//人達が、	
	69	K	はい。	
	70	K	あー。	
	71	F	こう出て来て、	
	72	K	はい、	
	73	F	面接をする場所も、	
	74	K	はい。	
	75	F	ビルの10何階のカーペットふかふかの//椅子がこんな感じの//ところで、	
	76	K	はい。	
	77	K	はい。	
	78	F	すごい豪華な部屋で面接//するので、	
	79	K	はい。	
	80	F	僕は、そのふいんき（雰囲気）とか//、結構緊張//しちゃったので、	
	81	K	はい。	
	82	K	はい。	
	83	F	あと、やっぱその偉い人と話すんだなっていうふうに	
	84	F	勝手に思い込んだりしたんで、	
	85	F	すごい無駄に緊張しちゃった//ってところがやっぱりありましたね。	
	86	K	あー。	
	87	K	記憶に残る質問とかありますか？	
	88	F	そうですね、質問、ま一、答えれた質問と答えれなかった質問があるんですけど、	
	89	K	はい。	
	90	F	ま、答えたけどびっくりしたのが、	
	91	K	はい。	
	92	F	あの、コンコンって面接//会場、面接の部屋に入って、	
	93	K	はい。	
	94	K	はい。	
	95	F	こう自己、自己紹介して、	
	96	K	はい。	
	97	F	「どうぞ」って言われて	
	98	F	座った後、	
	99	K	はい。	
	100	F	その1発目の質問が//、「F君で//、親友って何人いるの？」って//聞かれて、	
	101	K	はい。	
	102	K	はい。	
	103	K	あー。	
	104	F	はってなったんですけど、	
	105	K	はい。	
	106	F	ま、一応そこから話始めましたね。	
	107	K	あー。	
	108	F	それが結構印象に残ってます。	
	109	F	あとは、その同じ会社で//、「F君、反抗期ってあった？//」とか、	
	110	K	はい。	
	111	K	あー。	
	112	F	「F君、小学校時代どういう子だった？」とか。	

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	113	F	「反抗期ってどうやって終わった？」とか。	
	114	K		あー。
	115	F	聞かれました。	
	116		[沈黙 5 秒]	
	117	K	それって普通に自分、あの一あまり事前に準備せず、	
	118	K	その場で//考えてたんですか。	
	119	F	その場で考えましたね。	
	120	K		あー。
	121		[沈黙 2 秒]	
	122	K	「何人いますか、友達」って言われたら、	
	123	F	し、なんか//「親友は何人いますか?//」って聞かれてたので、	
	124	K	はい。	
	125	K		はい。
	126	F	僕は、まー、僕の場合ですけど、	
	127	K		はい。
	128	F	僕の場合は、そんな時は、ぱっと頭で考えて、	
	129	F	「3人います」って言って、	
	130	F	それは、あの、えーと、「中学、高校、大学でそれぞれ一人ずつ//います」って言いましたね。	
	131	K		あー。
	132	K		はい。
	133		[沈黙 3 秒]	
3	134	K	えっと面接の準備とかで、(2) やっておけばいいとかありますか？	
	135	F	そうですね、ま、準備というか、	
	136	F	あの、まあ、あの、色んなところで聞くと思うんですけど、	
	137	K		はい。
	138	F	面接ってこう数をこなせばこなすほど、	
	139	K		はい。
	140	F	やっぱりうまく//なるんで、	
	141	K		あー。
	142	F	その自分で一番行きたい業界とか、	
	143	F	その企業の面接が始まる前に、	
	144	K		はい。
	145	F	できるだけ、あの一、面接、本番の面接を受けと、別の企業で受けといたほうが、	
	146	K		はい。
	147	F	やっぱりそれが1 番の練習になるかなって思いますね。	
	148	F	その、早め早目に//面接を受けること、を	
	149	K		はい。
	150	F	結構気をつけてましたね、面接に関しては。	
	151	K		あー。
	152		[沈黙 2 秒]	
4	153	K	あと、ちょっと筆記しけーーん//に関してなんですけど、	
	154	F		はい。
	155	K	やっぱり留学生として、	
	156	F		うん。
	157	K	筆記試験が難しいなと思って、	
	158	F		うん。
	159	K	その結構時間とかも、	
	160	F	そうです//ね、短いですよ。	
	161	K		きびしい。
	162	K		はい。
	163	K	そういう点で何かアドバイスとかがありますか？	
	164	F	筆記試験は//、だいたい企業は//、筆記試験がめっちゃめっちゃ悪くない限り、	
	165	K		はい。
	166	K		はい。
	167	F	ある程度の点数が取れてれば、	
	168	K		はい。
	169	F	絶対合格するんですね。	
	170	K	あ//、はい。	
	171	F	だから、あの、自分でもし足りないと思ったら、	

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	172	F	ま、そこは勉強するしか//ないので、	
	173	K	はい。	
	174	K	あー。	
	175	F	勉強して、	
	176	K	はい。	
	177	F	ま、それなりに勉強すれば、	
	178	F	結構だいじょぶだとは思いますがね。	
	179	F	で、たぶん留学生//っていうたぶんエントリーシートとかで分かると思うんで、	
	180	K	はい。	
	181	F	その点は絶対考慮されるとは思いますがね。	
	182		[沈黙2秒]	
5	183	K	あとー、就活中に//、一番大事にしたっていうところがありますか。	
	184	F	はい。	
	185	K	例えば、こう企業とかを選ぶー時とか、	
	186	K	業界を選ぶ時とか、	
	187	K	自分の、どういう点//、どういう価値を1番大事にしている//か。	
	188	F	うんうん。	
	189	F	僕は、将来//、海外で絶対働きたいなと//思っ いたので、	
	190	K	はい。	
	191	K	=はい。	
	192	K	はい。	
	193	F	あの、海外で働ける企業しか受けなかった//んですね。	
	194	K	あー。	
	195	F	そこを1番重要視してました。	
	196		[沈黙10秒]	
	197	F	だから、結構//、商社とか//、受けましたし、	
	198	K	はい。	
	199	K	はい。	
	200	F	僕、食品なんですけど、	
	201	K	はい。	
	202	F	食品の中でも、1番海外展開してるそこ//に決めましたね。	
	203	K	あー。	
	204		[沈黙2秒]	
6	205	K	あと、キャリアセンター//は、結構使いましたか。	
	206	F	はい。	
	207	F	キャリアセンター//僕は全然使わなかったですね。	
	208	K	はい。	
	209	K	あー。	
	210	F	たぶんあの、日本人学生と留学生だとやっぱり//、使える、あの、なんだろう、	
	211	K	はい。	
	212	F	あの、助けが//、助けの種類がやっぱり違うと思うので、	
	213	K	あー。	
	214	K	はい。	
	215	F	何とも言えないんですけども、	
	216	F	僕は、キャリアセンターは、あの、OB訪問する時の、	
	217	F	OB名簿を見るために//行ってきましたね。	
	218	K	あー。	
	219		[沈黙4秒]	
7	220	K	OB訪問とかやっぱり結構やってましたか？	
	221	F	OB訪問、僕商社に最初行きたかったんで、	
	222	K	はい。	
	223	F	商社は、結構OB訪問//、商社行きたい学生はOB訪問盛んにするんですけど、	
	224	K	はい。	
	225	K	はい。	
	226	F	そうですね、OB訪問、でも、あ、ま、僕は10人ぐらいしたんですけど、	
	227	K	はい。	
	228	F	でも、実際なくても、	
	229	F	してもしなくてもあんまり関係//ないですかね。	

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	230	K	ない。
	231	F	自分、がしたいかしたくないか。
	232	K	あー。
8	233	K	したら、OB訪問とかじゃなくて、
	234	K	他になんか企業のことを知るために、
	235	K	なんかやったことありますか。
	236	F	ま、説明会とはみんな行きますけど、
	237	K	はい。
	238	F	企業を知るためだったら、
	239	F	新聞とか//は、毎日読んでましたね。
	240	K	あー。
	241	F	日経新聞//は、今まで、それまで読んでなかったんですけど、
	242	K	はい。
	243	K	はい。
	244	F	最初は難しいなって、
	245	F	全然分からないなって思いながら読んでたんですけど、
	246	K	はい。
	247	F	やっぱり続けて読むと、
	248	F	あの一、あ、この会社ってこういうことやってるんだ//とか、
	249	K	あー。
	250	F	新聞にこう、頻繁に会社の名前出てくるところは、
	251	K	はい。
	252	F	結構やっぱり、その一、業界の中でもやっぱり有名で、
	253	K	はい。
	254	F	力持ってる企業//なんだなって
	255	K	はい。
	256	F	なんとなくでも分かるので、
	257	F	それはやっぱ貴重な情報源でしたね。
	258		[沈黙7秒]
	259	K	あと、ホームページとか//でなんか、こういうところが//なんか、
	260	F	うんうん。
	261	F	そうですね、ホームページでその//企業理念とか、
	262	K	はい。
	263	K	＝はい。
	264	F	あの一、その会社についての説明は//あるし、
	265	K	はい。
	266	F	説明会でも言われるし、
	267	K	はい。
	268	F	あると思うんですけど、
	269	F	僕は、あとは、あの一、時間のあった時は、
	270	K	はい。
	271	F	その会社のその決算//、株主総会//、で一、あの一、発表する時の、
	272	K	あー。
	273	K	はい。
	274	F	I R情報っていうのがあるんですけど、
	275	K	あーはい。
	276	F	例えば、その社長が//、株主に対して、
	277	K	はい。
	278	F	プレゼンテーションする時に、
	279	K	はい。
	280	F	使ったパワーポイントのスライドが
	281	F	アップロードされてるんですね。
	282	K	はい。
	283	F	それをこうダウンロードしたら、
	284	K	はい。
	285	F	その会社の//あの一、10年後は
	286	K	はい。
	287	K	はい。
	288	F	こういう戦略で行きますっていうような、

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	289	F	株主に説明してるような//戦略とか、	
	290	K	はい。	
	291	F	今期のその反省とか、色々詳しく書かれてるので、	
	292	F	それは参考程度に、時間がある時だけ見てました。	
	293	K	あー。	
9	294	K	あとー、さ、さっき商社とか、興味あったとかおっしゃったんですけど、	
	295	F	はい。	
	296	K	商社の面接とか受けましたか？	
	297	F	そうですね、商社は//ー、7社全部受けて、	
	298	K	はい。	
	299	K	はい。	
	300	F	半分はあの、ESエントリー、ウェブテストで落ちちゃったんですけど、	
	301	K	はい。	
	302	F	最後、最終までいったところが2つ、	
	303	F	M商事とM物産は最終面接まで行きました。	
	304	K	えー、ちなみにどんな業界的にどんな感じでしたか。	
	305	K	他の食品メーカーとか、と、ちょっとふいんき（雰囲気）が違うとか。	
	306	F	そーですね、違いますね。	
	307	F	結構、やっぱり社員さんのふいんき（雰囲気）が、	
	308	K	はい。	
	309	F	やっぱり全然違うなっなのは//ありましたし、	
	310	K	あーー。	
	311	K	はい。	
	312	F	結構、その、学生に対して//、上から、上から目線って言葉悪いんですけど、	
	313	K	はい。	
	314	K	あー。	
	315	F	結構、あのー、上から、上からって言ったら、	
	316	F	言葉あれなんですけど、	
	317	K	はい。	
	318	F	結構そんな感じでしたね。	
	319	K	はい。	
	320	K	社員さんはどんな、(2) 他のーーところの会社と何が違うとか。	
	321	F	社員さんは、ま、人それぞれ//、持つそのか、印象とかってあると思うんですけど、	
	322	K	はい。	
	323	F	やっぱり、しょうしゃーーで働いてる人達はやっぱり、そのー、豪快だし、	
	324	K	はい。	
	325	F	あと、体力すごいありそうだし、	
	326	K	あー。	
	327	F	ま、お金持ってそうだし、	
	328	K	あー。	
	329	F	っていうことをすごい感じますね。	
	330	K	なんか商社とかで、突発的に言われた面接質問とかありますか。	
	331	F	1番きつかったのは、	
	332	K	はい。	
	333	F	あのー、「F君さー」//って言われて、	
	334	K	はい。	
	335	F	最終面接で言われたんですけど、	
	336	K	はい。	
	337	F	「うちの会社、まあ、今後アフリカでどんどんビジネスをしていこうと思うんだけど、	
	338	K	はい。	
	339	F	うちの会社の本社を//アフリカに移したほうがいいと思う？」	
	340	K	はい。	
	341	K	あー。	
	342	F	っていうふう聞かれて、	
	343	K	はい。	
	344	F	全然分かんないなって。	
	345	F	それは結構苦しかったです。	
	346		[沈黙11秒]	
10	347	K	うーーん。	

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

	348	[沈黙2秒]
	349	F まだ、3分ぐらいあるんで、
	350	K そう//ですね。
	351	F 何でも聞きたいこと聞いてください。
	352	[沈黙2秒]
11	353	K じゃ、やっぱりー、業界を見る時に、
	354	K やっぱり自分が商社に興味あるって思っちゃったら、
	355	K やっぱり、そういう業界的に偏っちゃって、
	356	F うんうんうんうん。
	357	K 今、まさにそういう状態なんですけど、
	358	K あまり広い//業界を見ていないと思うんですけど、
	359	F はいはい。
	360	K それで、やっぱり、色んな業界とかを見たほうがいいですか。
	361	F そーですね、ま、人によるんですけど、
	362	K はい。
	363	F 例えば、あのー、Kさんの場合は、
	364	K はい。
	365	F あの、なんでその商社に興味を持ったのか//っていうのが
	366	K はい。
	367	F 結構重要と思ってて、
	368	K はい。
	369	F 僕の場合だったら、
	370	K はい。
	371	F 僕は商社に興味を持った理由は、
	372	K はい。
	373	F 僕は海外に絶対行けるからって//いうのが、
	374	K はい。
	375	F すごい大きかったんで、
	376	F その海外行けるっていうことは、
	377	F 他の業界じゃできないのかってことを考えた時に、
	378	K はい。
	379	F いや、違うなって。
	380	K あー。
	381	F 例えば、食品、僕の食品メーカー//の会社もそうですし、
	382	K はい。
	383	F あとは、ま、T（企業名）とか車のメーカーもそうですし、
	384	K はい。
	385	F 銀行とかでも今海外//行ける。
	386	K そうですね、はい。
	387	F で、その、じゃ、そしたら、その、商社のビジネスとかより、
	388	F 僕は海外ってことが重要であったので、
	389	K はい。
	390	F 海外に行けるっていう軸で考えた時に、
	391	K はい。
	392	F それに当てはまる企業はどの業界、
	393	F 業界関係なく受け//ましたね。
	394	K あー。
	395	F だから、なんで商社になんで興味持ってるんだろうっていうふうなところを掘り下げられたら、
	396	K はい。
	397	F それは他の業界じゃできないのかってところを
	398	F 考えていけば//いいと思いますね。
	399	K あー。
	400	K 逆に他の業界でできない商社だけのー//、強みっていうか、
	401	F うんうん。
	402	K 仕事ってなんだと思いますか。
	403	F そうですね、やっぱり商社は、やる、ビジネスモデルが全然他の業界と//はー、違うし、
	404	K あー。
	405	F 僕から説明するより、その社員の人に聞いたほうがいいと思うんですけど、
	406	K はい。

【資料3-9】就職活動の相談
質問者K(NNS1)と質問者F

		<p>407 F あとやっぱり、商社って今、投資とかをして、</p> <p>408 K あー。</p> <p>409 F 会社を買収して、</p> <p>410 K はい。</p> <p>411 F グループの中で、傘下(?)にするっていう手法を結構取ってるんですけど、</p> <p>412 K はい。</p> <p>413 F やっぱりその動かす金額、</p> <p>414 K はい。</p> <p>415 F 何、何十億円とか、何千億円とか//っていう投資をすごいいっぱいするので、</p> <p>416 K はい。</p> <p>417 K はい。</p> <p>418 F やっぱり、そのビジネスのやる大きさっていうのは、</p> <p>419 K はい。</p> <p>420 F 他の企業とやっぱ違うんじゃないですか。</p> <p>421 [沈黙2秒]</p> <p>422 F あと、やっぱりどの業界より先駆けて海外にはどこでも行くっていう。</p> <p>423 K あー。</p> <p>424 F やっぱり全然違いますね。</p> <p>425 [沈黙2秒]</p>
12		<p>426 K ちなみにー、就活っていつごろから始めましたか。</p> <p>427 F 就活は、僕はインターン行き始めた時期を、</p> <p>428 K はい。</p> <p>429 F 就活始めた時期っていうなら、</p> <p>430 K はい。</p> <p>431 F 僕は、9月とか10月とか//でしたね、3年の。</p> <p>432 K あー。</p> <p>433 F でも、説明会とか始まるのは12月からだし、</p> <p>434 K そうですね。</p> <p>435 F あんまり</p> <p>436 【タイマー】</p> <p>437 F 本格的に始めた//のは12月//からですかね。</p> <p>438 K はい。</p> <p>439 K あー。</p> <p>440 K 外資とか、はー。</p> <p>441 F 外資受けましたねー。</p> <p>442 K はい。</p> <p>443 F 海外行きたかったんで、</p> <p>444 K はい。</p> <p>445 F 日本にある外資だと//、海外行けないん//です。</p> <p>446 K はい。</p> <p>447 K そうですね。</p> <p>448 F 日本法人//になっちゃから。</p> <p>449 K はい。</p> <p>450 [沈黙3秒]</p> <p>451 F そうですね。</p> <p>452 K はい。</p>
Ⅲ.	1	<p>453 F じゃ、そろそろ時間。</p> <p>454 K はい。</p> <p>455 F ありがとうございます//ました。</p> <p>456 K ありがとうございます。</p> <p>457 F はい、ぜひ頑張ってください//、商社。</p> <p>458 K はい、ありがとうございます。</p> <p>459 F 面接厳しくても全然頑張って//ください。</p> <p>460 K はい、ありがとうございます。</p>

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	F	こん//にちは。
		2	H	こんにちは。
		3	F	よろしくお願いします。
		4	F	Fです。
		5	H	H//です。
		6	F	はい。
		7	F	よろしくお願いします。
		8	H	お願いします。
		9	F	なんでも聞いてください。
		10	H	はい。
II.	1	11	H	今まで、どれぐらいの会社にエントリーして、
		12	H	何個受かって、
		13	H	何個落ちたんですか。
		14	F	えっとー、エントリーシートを提出して、
		15	H	はい。
		16	F	エントリーシートが通った数でもだいじょぶですか。
		17	F	それとも、面接とかも含めてですか。
		18		[沈黙2秒]
		19	H	あー、面接とかも含め//て。
		20	F	含めて。
		21	F	そーーですね、エントリーシートはだいたい30、30社いかないぐらい、
		22	H	はい。
		23	F	に提出してー、
		24	F	でー、最終的に面接、さい、内定もらえた数//を引くってことですね。
		25	H	はい。
		26	H	はいはい。
		27	F	結構、20何社は、
		28	H	内定もらったんですか？
		29	F	いや、あの、落ちま//した落ちました。
		30	H	あー。
		31	F	内定もらったのほんとに、2、3社とか//ですかね。
		32	H	あー。
		33	F	その、途中で自分からこう断//っていかなかったのもあるんですけど。
		34	H	あー。
		35		【沈黙5秒】
	2	36	H	活動はいつーから始めて、
		37	F	就職活//動をーですか。
		38	H	はい。
		39	F	就職活動を、その、インターンシップに//、行った一時期を
		40	H	はい。
		41	F	その就職活動を始めた時期って言うなら、
		42	H	はい。
		43	F	あの、僕は3年の9月とか10月頃に、
		44	F	インターン//行ったので、
		45	H	はい。
		46	F	その時期からですかね。
		47	F	でも、あの、本格的にあの、説明会とか始まるの12月からなんで、
		48	H	はい。
		49	F	だいたい9、10、11、12月からですかね。
		50		[沈黙1秒]
		51	H	外資とかはー受けなかったんですか。
		52	F	外資受けました。
		53	H	あー。

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

	<p>54 F 受けました受けました。</p> <p>55 [沈黙1秒]</p> <p>56 F 外資は落ちましたね。</p> <p>57 F 全然準備してなくて。</p> <p>58 H 面接とかーは行ったんですか？</p> <p>59 F 面接はN（企業名）//面接行ったんですけど、</p> <p>60 H あー。</p> <p>61 F 僕、あのー、か、会社選ぶ時には、</p> <p>62 F 海外に、で将来行けるような//企業に</p> <p>63 H 僕も、僕もそうです。</p> <p>64 F そう//ですか。</p> <p>65 H そうです。</p> <p>66 F 探してたんですけど、</p> <p>67 H はい。</p> <p>68 F でも、日本に来てる外資系の会社って、</p> <p>69 H はい。</p> <p>70 F 日本支社//、本社がアメリカにあって、</p> <p>71 H はい。</p> <p>72 F 日本の支社で、日本支社になっちゃうので、</p> <p>73 H はい。</p> <p>74 F 日本の支社になっちゃうと、</p> <p>75 F 日本のマーケットだけを担当//になるので、</p> <p>76 H あー。</p> <p>77 F 日本に来てる外資だと、海外にあんまり行く機会がないんですよね。</p> <p>78 F だから、そのN（企業名）のどこでも、</p> <p>79 F 「F君、うちは海外行けないけど大丈夫」って//聞かれて、</p> <p>80 H {笑い}。</p> <p>81 F あーって困った時、</p> <p>82 F 経験はありましたね。</p> <p>83 [沈黙2秒]</p> <p>84 H けどなんか説明会行ったら</p> <p>85 H なんか色々（1）「外国行く機会たくさんあるよ」って言うんじゃないですか、外資系。</p> <p>86 F 外資系はそんなない、たぶん。</p> <p>87 H I T//企業は。</p> <p>88 F あ、I T企業はわかん、受けたことないんで分かんないんですけど、</p> <p>89 F I T企業はもしかしたらあるかもしれないですね。</p> <p>90 F でも、基本的にやっぱ日本企業に比べたら、</p> <p>91 H はい。</p> <p>92 F あの、日本に来てる外資系企業はあんまり多くないと思いますね。</p> <p>93 [沈黙3秒]</p>
3	<p>94 H あと、就活の時、サークルとかバイトは（1）どうやってたんですか。</p> <p>95 F えっと、もうサークルもバイトも全部ストップ//でしたね。</p> <p>96 H あー。</p> <p>97 F バイトもお休みもらって、</p> <p>98 F まー、就職活動終わるまで休んでましたね、サークルも。</p> <p>99 H サークルは引退、（したんですか。）</p> <p>100 F 引退は一、引退というか、</p> <p>101 H 休みですか。</p> <p>102 F 休みです。</p> <p>103 F もう就職活動の時期。</p> <p>104 H 就職終わったら、</p> <p>105 H また//やったんですね。</p> <p>106 F そうですね。</p> <p>107 [沈黙10秒]</p>
4	<p>108 H エントリーシートで、シートで、自分だけの特色は何ですか。</p> <p>109 F 特色、そーですね、別に。</p> <p>110 [沈黙1秒]</p> <p>111 F 特になー//い、</p> <p>112 H ないですか。</p>

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

	<p>113 F 特別な書き方とかもしたわけじゃないんですけど、</p> <p>114 F その、あの、エントリーシート書くにあつたてのー、</p> <p>115 F 工夫したコツみたいなのは、あつてー、</p> <p>116 F それはその、学生時代頑張ったこと//っていうのは、ま</p> <p>117 H はい。</p> <p>118 H ほとんど共通。</p> <p>119 F どの企業でも聞かれるので、</p> <p>120 F その学生時代頑張ったこと400文字//のその文章を</p> <p>121 H はい。</p> <p>122 F もう1、2月とか1月にもう書いて、</p> <p>123 H はい。</p> <p>124 F 先輩たちに見てもらって、</p> <p>125 F こう書き直しをいっぱいして、</p> <p>126 F もう完璧なこの、コピーアンドペーストして出せるような//文章を早目に作ってましたね。</p> <p>127 H はいはい。</p> <p>128 H はい。</p> <p>129 F そしたら、その、エントリーシート締め切り、ラッシュが//きた時に、</p> <p>130 H はい。</p> <p>131 F そのすぐコピーアンドペーストして、</p> <p>132 F すぐ出せるような状態//にしたので、</p> <p>133 H はい。</p> <p>134 F それはやっぱり、前々から準備しといてよかったなーってのは思いましたね。</p> <p>135 [沈黙4秒]</p>
5	<p>136 H あと、S P I とかは//どうやって準備したんですか。</p> <p>137 F はい。</p> <p>138 F 僕は、あの、S P I とかウェブテストの勉強は全然</p> <p>139 H やって//ない。</p> <p>140 F してなかったんですよ。</p> <p>141 F だから、</p> <p>142 H それ、それでもー、うかった//という（ことですか。）</p> <p>143 F そうですね。</p> <p>144 F でも、正直、あの、ウェブ、企業によって違うんですけど、</p> <p>145 F あのー、ウェブテストの点数がめっちゃめっちゃ悪くない限りは、</p> <p>146 F ある程度の点数いったらもう、</p> <p>147 F 通るようになってるんですね。</p> <p>148 F その、ウェブテストはそ、ほんとに最低限の、</p> <p>149 H 僕は今、全部落ちてます、ウェブテストで。</p> <p>150 F あー、ほんとですか。</p> <p>151 F でも、たぶん留学生だから、やっぱ仕方ないと思うんですよー。</p> <p>152 F だから、あんまりそこは気落ちする必要はないんじゃないかなって思いますね。</p> <p>153 F ま、一応最低限勉強して、</p> <p>154 F あとはそのエントリーシートのほうがしっかり書けてれば、</p> <p>155 F 絶対大丈夫だと思います。</p> <p>156 H だけど、なんか今まで一出した企業は、</p> <p>157 H エントリーシートの前にウェブテス//トがあつて、</p> <p>158 F あー、そうなんですか。</p> <p>159 H ウェブテストだけで全部落ちました。</p> <p>160 F あ、ほんとですか。</p> <p>161 H 全部外資系、だったんですけど。</p> <p>162 F 外資系はー、あのーレベルがすごい高いので、</p> <p>163 F 落ちてもそんな気落ちする必要はないです。</p> <p>164 F 日本企業もし受けるんだったら、</p> <p>165 F 日本企業は全然、ほとんど通りますから</p> <p>166 F 大丈夫です。</p> <p>167 [沈黙2秒]</p> <p>168 H 日本企業はまだウェブテストは始まってないんですよ。</p> <p>169 F 始まってないと思いますね。</p> <p>170 F だいたい1月2月3月じゃないですかね。</p> <p>171 [沈黙12秒]</p>

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

6	172	H	企業研究は//、どうやってやったんですか。
	173	F	はい。
	174	F	企業研究は、まー、皆さんやってると思うんですけど、
	175	F	ま、説明会、会社が主催してる説明会に行くことはもちろんなんですけど、
	176	F	あとはその一、他の情報源としてはやっぱり新聞を読みました。
	177	F	日経新聞を読みました。
	178		[沈黙1秒]
	179	F	結構やっぱり、その最初は、日経新聞何書いてあるかよく分ないし、
	180	F	難しいことがいっぱいあるなと思ってたんですけど、
	181	F	こう毎日続けて頑張って読むと、
	182	F	その頻繁に新聞に出てくる会社の名前//とかあると、
	183	H	あーー。
	184	F	あ、この会社ってよく知らない、分かんないけど、
	185	F	なんとなく結構有名で、あの、今注目集めてるような会社なのかなーとか、
	186	F	なんとなくそういう印象だけでも受けるので、
	187	F	やっぱり新聞は続けて読んだほうがいいかな//と思います。
	188	H	就活する前には、新聞、あまり読まな、
	189	F	読んでなかったですね。
	190		[沈黙2秒]
	191	F	なんか新聞もその、慣れるのに結構時間掛かるので、
	192	F	早目に読み始めたほうが良いと思いますね。
	193		[沈黙9秒]
7	194	F	なんでも聞いてください。
	195		[沈黙4秒]
8	196	H	合同説明会よりは//、1つの会社の説明会がいいですか。
	197	F	はい。
	198	F	絶対そっちのほうがいいですね。
	199	F	合同説明会は一、色んな人が「行かなくていいよ」とか、
	200	F	言うと、
	201	F	結構言うんですけど、
	202	H	はい。
	203	F	あの一、行かなくて//いいと思います。
	204	H	{笑い}。
	205		[沈黙1秒]
	206	H	僕はその説明会行って、
	207	H	なんか質問とかしたほうがいいんですか。
	208	F	いや、質問は、質問したからって、
	209	F	あの子優秀だから採ろうとかって全然ないです。
	210	H	ふ、普通に無口でいて大丈夫ですか。
	211	F	全然大丈夫です。
	212	H	ただ情報を//得るだけで、
	213	F	うん。
	214	F	そこでアピールの場じゃなくて、
	215	H	はい。
	216	F	自分が知りたい情報を得る場なので、
	217	H	はい。
	218	F	全然大丈夫です。
	219	F	僕なんか全然質問しなかったですよ。
	220		[沈黙11秒]
9	221	H	ほんとにSPIの勉強を全然やってない//んですか。
	222	F	ほんとに全然しなかったんで、
	223	F	やっぱり外資系は僕もウェブテストで落ちました。
	224	F	だから//、それは仕方、仕方ないと思います。
	225	H	あー。
	226	F	それに外資系//はもともと
	227	H	外資系はちょっとSPIじゃなくて、
	228	H	なんかギャブ//とか。
	229	F	うん。
	230	F	特殊な//もっと難しいやつですよ。

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

	231	H	はい。
	232	H	時間がすごく足りないです。
	233	F	全然、U（企業名）とかP（企業名）とか。
	234	H	僕P（企業名）落ちました。
	235	F	僕も落ちました。
	236	H	P（企業名）はなんか、いけ、いつ、なんか試験ば（じょう）まで//行って、
	237	F	うん。
	238	F	うん。
	239	H	行ったんですけど、
	240	H	それも試験で落ちました。
	241	F	うん。
	242	F	あれはほとんどの人が落とされるん//で、
	243	H	はい。
	244	F	全然落ち込む必要はないですよ。
	245	F	全然だいじょうぶです。
	246	F	日本企業はすぐ通りますから、
	247	F	全然大丈夫ですよ。
	248	H	日本、企業は、ちょっと、あんまり難しくないんですか、S P I とか。
	249	F	難しくないかどうかは別にして、
	250	F	あんまりその、あの一、合格ラインっていうのは結構低い//と思います。
	251	H	ほとんど面接はいけるんですか。
	252	F	だいたい、特に、A（大学名）だったらほぼ、
	253	H	一応面接までは一。
	254	F	そうですね。
	255	F	で、たぶんそのウェブテストとかの心配はそうなんですけど、
	256	F	やっぱりウェブテストとエントリーシートだったら、
	257	F	エントリーシートの内容のほうを//頑張ったほうが良いと思いますね。
	258	H	はい。
	259		[沈黙1秒]
10	260	H	面接の時は、どーやったんです、か。
	261	F	どうやったっていうのは一。
	262	H	なんか自分（2）自分の強みをどんなアピールした//んですか。
	263	F	あー、なるほど。
	264	F	ま、そんな、そんな特殊な言い方とか全然しなかったんですけど、
	265	F	うん、そうですねー、なるべく分かりやすく、
	266	F	簡潔に、話すってことは、すごい意識して面接やりましたね。
	267	H	なが、長く話すんじゃないくて。
	268	F	そうですね。
	269	H	必要な情報、だけ。
	270	F	ま、そうですね。
	271	F	あんまり短すぎても、あの、分かりにくいんで、
	272	F	ほんとに、さい、あの、コンパクトに分かりやすく説明して、
	273	F	その自分の説明したあとに聞きたいことがあれば、
	274	F	向こうから絶対聞いてくれるので、
	275	H	はい。
	276	F	それに答えてれば、
	277	F	全然大丈夫、ですね。
	278	F	たまにこう、演説みたいに延々と喋//ってる人がいるんですけど、
	279	H	あー。
	280	F	それ、絶対駄目です。
	281	H	それって面接って、ひと、1対1じゃなくて。
	282		[沈黙1秒]
	283	F	あ、色々種類ありますね。
	284	H	あー。
	285	F	例えば、4人で部屋に入って、
	286	H	あー。
	287	F	グループ面接の場合もあれば、
	288	F	1対1の面接の場合もあります。
	289		[沈黙5秒]

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

11	290	H	ほんとに行きたい会社に行ったんですか。
	291	F	あ、もう全然いけました。
	292		[沈黙3秒]
	293	H	それが1番心配ですね。
	294	H	ほんとに行きたい//会社は落ちて、
	295	F	うん、うんうん。
	296	F	うん。
	297	H	あんまり行きたくない会社//が受かったら。
	298	F	うんうん。
	299	F	うん。
	300		[沈黙2秒]
	301	F	そーですね、ま、俺、僕もー、それ、すごい心配してたんですけど、
	302	F	そうですね、僕は、でもやっぱりそのー、(1)自分が行きたいなって思ってる会社、には結構、いける//もんですよ。
	303	H	= あー。
	304	F	やっぱりその自分の雰囲気とかも、自分のフィーリングとか//相手の会社とかも合ったりすると、
	305	H	はい。
	306	H	はい。
	307	F	相手の会社も実は、この生徒と結構合うなって分かるので、
	308	F	やっぱり、ほんとに真面目にやれば、
	309	F	大丈夫だと思います。
	310	H	内定が決まった時期はいつーですか。
	311	F	えーとー、僕の今の会社、内定先の//会社ですか。
	312	H	はい。
	313	F	えっと、4月の18日ですね。
	314	H	そんなに早いですか。
	315	F	そうですね、ま、ふつ、平均的ぐらいですね。
	316		[沈黙1秒]
	317	H	それが平均、ですか。
	318	F	そうですね、早い人はもっと早い。
	319	F	僕の周り結構早かったんで。
	320	H	日本の//企業もそんなに早いですか。
	321	F	早い。
	322	F	日本企業は4月中に//ほとんど7割ぐらい出ますね。
	323	H	結構。
	324		[沈黙3秒]
	325	H	この冬、休み全然遊べないんじゃないですか。
	326	F	遊べない//です。
	327	H	{笑い}。
	328	F	結構、その気持ちも遊んでても、
	329	F	あ、就活がってこう心配が頭の片隅にあるので、
	330	F	あんまりこう遊んでても
	331	F	楽しくなかったりするんですけど、
	332	F	でも、やっぱり結構長いじゃないですか。
	333	F	今から4月まで//結構長いんで、
	334	H	はい。
	335	F	やっぱりどっかで気分リフレッシュとかしないと、
	336	F	やっぱりもたないのがあって、
	337	F	そこはやっぱり気楽にフレキシブルにやったほうがいいと思います。
	338		[沈黙5秒]
	339	H	この、今内定もらった会社以外に内定もらった会社はどこですか。
	340	F	えーとあとは、コンサルの会社を1つもらって、
	341	H	日本の？
	342	F	日本のコンサルですね。
	343	F	で、あとはー、それだけですね。
	344	F	あと、あの、最終面接に呼ばれたけど、
	345	H	はい。
	346	F	行かなかったの結構ありましたね。

12 347 [沈黙6秒]

【資料3-10】就職活動の相談
質問者H(NNS2)と応答者F

		348 F あと、もうちょっとだけあるけど、
		349 F 20秒、20秒ぐらいありますけど、
		350 F なんか最後、聞きたいこととかあったら。
13	351 H	僕、一応、日本人じゃないんで、
	352 F	はい。
	353 H	日本語が下手なんですけど、
	354 F	いや、充分上手ですよ。
	355 H	これで面接、
	356	[沈黙2秒]
	357 F	大丈夫かなって。
	358	【アラーム】
	359 H	はい。
	360 F	いや、あの一、全然普通に話せるし、
	361 F	全然大丈夫なんで、
	362 F	あとはほんとに、あの、あまり自信、なさそうに//こう表情とかもしちゃうと、
	363 H	あ一一。
	364 F	相手も「あ、この子大丈夫かな」って心配になっちゃうんで、
	365 F	ほんとに明るく、
	366 H	はい。
	367 H	自信を持って。
	368 F	明るくはっきりと、
	369 F	そうそう、自信を持って。
	370 F	こうつかえちゃっても全然大丈夫なんで、
	371 F	明るく、元気に。
	372 F	それがやっぱ1番なんで。
	373 H	笑顔、大事ですか。
	374 F	大事です。
	375 F	すごい大事。
	376	[沈黙1秒]
Ⅲ.	1	377 F じゃ、そろそろ時間なんで。
	378 H	ありが//とうございました。
	379 F	ありがとうございました。
	380 F	頑張ってください。
	381 F	はい。
	382 H	ありがとう//ございました。
	383 F	ありがとうございました。

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	F	よろしくお願いします。
		2	B	よろしくお願いします。
		3	F	Fです。
		4	B	Bです。
		5	F	よろしくお願いします。
		6	F	何でも聞いてください。
		7	B	はい。
		8	B	え、いつ始まる、い、今からですか？
		9	F	はい。
II.	1	10	B	あー、えっと、最初の質問は一//、就活で1番苦労したことはなんですかー？
		11	F	はい。
		12	F	1番苦労したことー。
		13	B	はい。
		14	F	1番苦労したのはー、
		15	F	あの一、精神的に1番きつかった//時期は一、
		16	B	あー、はいはいはいはい。
		17	F	あの一、4月に//、あの一、面接がいっぱいあって、
		18	B	はい。
		19	B	はい。
		20	F	で、僕は内定もらってないけど、
		21	B	はい。
		22	F	周りの人//が、内定出始めると、
		23	B	はい。
		24	B	はい。
		25	F	少しやつぱり焦るし、
		26	B	はい。
		27	F	もう駄目なんじゃない//かなって、
		28	B	あー。
		29	F	こう少し落ち込んだ時期が
		30	F	1番大変でしたね。
		31		[沈黙1秒]
		32	B	し、内定って普通に4月ぐらいに出る、出て始める、始めるんですかー？
		33	F	そーですね、だいたいー、一般的にはだいたいー、あの一、4月のま、じよ、10日、上旬、
		34	F	早い人は上旬とかから、
		35	F	遅い人だと5月末までとか//色々いますね。
		36	B	うん。
		37	B	はい。
	2	38	B	えーと、あとの、(1)次の問題、あー、質問は一、
		39	F	はい。
		40	B	就活の中で1番後悔したものと、
		41	B	1番自慢できるものって何ですか？
		42	F	後悔したもの。
		43	B	はい。
		44	B	どっち、今、自分がこのことしてよかったー、
		45	B	このことし、すればよかった//のについてこと//聞かせてください。
		46	F	あー。
		47	F	そうですね。
		48	F	僕はあの一、ウェブテストの勉強//を全然しなくて、
		49	B	はい。
		50	B	はい。
		51	F	あの一、散々ウェブテストで//、こう点数判断されたくないなって思ったので、
		52	B	はい。
		53	B	はいはい。

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

	54	F	反抗して	
	55	F	勉強しなくて、	
	56	B	はい。	
	57	F	そのまま受けにいったんですけど、	
	58	B	はい。	
	59	F	したら、結果的に一、結構行きたかった企業//の一、	
	60	B	はいはい。	
	61	F	ウェブテストに落ちてしまって、	
	62	B	はいはい。	
	63	F	それが若干心残り//ですかね。	
	64	B	あーはい。	
	65	F	で一、自慢できること、は一、	
	66	F	就活中でも一、旅行に2回行った//っていう。	
	67	B	わー。	
	68	F	韓国と台湾//旅行行ったんですけど、	
	69	B	えーすごい、そっか {笑い} 。	
	70	F	そんなそういう時間も実はあるんです。	
	71	F	行こうと思えば//だから行けるんです。	
	72	B	あーそっか。	
	73	B	いつ行ったんですかー？	
	74	F	3月の一//、3月中に//、韓国に5日間台湾に1週間行きました。	
	75	B	はい。	
	76	B	えー、3月。	
	77	B	3月って一、忙しい時期じゃないですか。	
	78	F	3月は面接はだいたい4月からに始まるん//ですけど、	
	79	B	あー、はいはいなるほど。	
	80	F	あの一、3月はエントリーシート提出//ですね。	
	81	B	あー、はい。	
	82		[沈黙2秒]	
	83	B	ふーん。	
3	84	B	あと、受けた会社の中で1番記憶に残る会社、は//どこですか。	
	85	F	1番、	
	86	B	面接とかセミナーとか//行って一、	
	87	F	うーん。	
	88	B	他の会社とは違うなと思う//会社とか。	
	89	F	うーーーん。	
	90	F	そうですね、ま、僕の内定先//の会社は一、	
	91	B	はい。	
	92	F	やっぱりその面接を通して、	
	93	F	そのやっぱり社員の人達すごいいい人ばかりだったので、	
	94	F	やっぱり1番いいなって思ったからこそ、	
	95	F	あの一、内定//いただいたんですけど、	
	96	B	うん。	
	97	B	はい。	
	98	F	逆になんか悪い意味で印象に残ってるのは一、	
	99	B	はい。	
	100	F	あの一、商社の//会社で一、	
	101	B	あーはいはい。	
	102	F	僕、商社2つ、実は最終面接で//、最終面接までいったんですけど、	
	103	B	はい。	
	104	B	はい。	
	105	F	両方最終面接落とされて、	
	106	B	はい。	
	107	F	それはちょっと精神的にきつかったですね。	
	108	F	最終面接まで行ったら一、	
	109	B	はい。	
	110	F	もういけるでしょ、	
	111	B	あー//一、はいはいはい。	
	112	F	内定出るでしょって思ってたけど、	

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

	113	F	落とされたみたいなの。	
	114		[沈黙2秒]	
4	115	B	たぶん言われたのがー、	
	116	B	しょうひんメーカーから内定をもらったと言われたん//ですけど、	
	117	F	はい。	
	118	B	しょうひんメーカーを選んだ理由ってなんですか？	
	119	F	食品ですね。	
	120	B	あ、食品。	
	121	F	食品はそうですねー、	
	122	F	基本的に、僕、食べるの好き//なんで、	
	123	B	あー、はい {笑い}。	
	124	F	それがまー、まず//1番大きなことと、	
	125	B	はい。	
	126	F	あと、僕の会社はすごい海外に、食品メーカーの中で1番海外展開//してるんですね、	
	127	B	うーん。	
	128	B	うん。	
	129	F	で、僕の就職活動の軸ってというのが、	
	130	F	まず海外絶対行きたいなって思ってた//たのでー、	
	131	B	あー//はい。	
	132	F	だから、商社とかも受けて//たんですけど、	
	133	B	あー。	
	134	F	やっぱりその、海外に行けるっていう点と、	
	135	F	ま、しょ、食べるの好きだし、	
	136	B	あー。	
	137	F	で、やっぱ、あと合ってた。	
	138	F	社員の人達がすごいいい人達だったので、	
	139	B	うん。	
	140	F	選びましたね。	
5	141	B	はい、最後の質問です。	
	142	F	はい。	
	143	B	面接の準備とかー、エントリーシートの準備とか、	
	144	B	どーのーようにやったんですかー？	
	145	F	そうですね、まずエントリーシートの準備から言うと、	
	146	F	えっとー、ま、エントリーシートで聞かれることって	
	147	F	だいたい結構決まって、	
	148	B	はい。	
	149	F	会社の志望理由とー、あと、学生時代頑張ったこと。	
	150	F	だいたいこれ必ず聞かれるんですけど、	
	151	B	うん。	
	152	F	ま、その、志望、会社の志望理由っていうのは、ま、それぞれの企業で考えるしかないんで、	
	153	B	は//い。	
	154	F	これは別とし	
	155	F	て、	
	156	B	うん。	
	157	F	どの企業に行っても結構同じことしか言わないじゃない//ですか、自分の経験だから。	
	158	B	はいはい。	
	159	B	はい。	
	160	F	だから、それはー、あの、僕は、こう早目にその、学生時代頑張ったこと400文字、	
	161	B	はい。	
	162	F	文章をE Sにすぐコピーアンドペーストしてできるような//文章を作って、	
	163	B	はい。	
	164	B	はい。	
	165	F	それを何回も人に、先輩とか、しゃ、社会人の人に見せて、	
	166	B	はい。	
	167	F	あのー、推敲してもらいました。	
	168	F	それを早目に作ったら、	
	169	B	はい。	
	170	F	エントリーシートラッシュ//、提出のラッシュの時期でもー、	

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

- 171 B はい。
- 172 F すぐコピーアンドペーストして、
- 173 F あと字数調整するだけで、
- 174 B はい//はい。
- 175 F すぐエントリーシート出せるようになったんで、
- 176 F それは工夫してましたね。
- 177 B あの一、書き終わったところっていつ頃ですか。
- 178 B エントリーシート、全部なんか直してもらった時期とか一。
- 179 F あ、僕の一ー//その文章ですか。
- 180 B はい。
- 181 B だいたい1月中//ですか。
- 182 F あ一はい、1月。
- 183 [沈黙1秒]
- 184 F で、面接で頑張った、工夫したことでしたっけ。
- 185 F 工夫したことは、そーですね、
- 186 F あのと、とりあえず、まずやっぱり明るく//元気よく。
- 187 B うん。
- 188 B うん。
- 189 F あと、男性は//、結構爽やかさ//っていうのがやっぱり//重要だから、
- 190 B はい。
- 191 B はい。
- 192 B あー一。
- 193 B はい。
- 194 F 笑顔を//やっぱりしなきゃ、
- 195 B うん。
- 196 F 場の雰囲気も悪くなるので、
- 197 B はいはい。
- 198 F 喋る内容とかよりもやっぱりその雰囲気っていうのも、
- 199 F 緊張していると相手も気を遣っちゃうんで、
- 200 F 自分も楽しめるようになるべく。
- 201 F あと、面接官を笑わせるように//なるべく頑張っていました。
- 202 B うーん。
- 203 [沈黙1秒]
- 204 B あのと、なんか面接の準備はどの、友達とべん、なんか一緒に//練習したり
- 205 F 練習したり。
- 206 B どんな感じでやってたんですか。
- 207 F 僕は友達とはやんなかったですね。
- 208 F 1番やっぱり練習になるのは、
- 209 F やっぱ本番//、の面接なので、
- 210 B うー一ーん。
- 211 F ま、聞いたかも、聞いたことあるかもしれないけど、
- 212 F 面接はやればやるほど、
- 213 B あ一はい。
- 214 F 面接はうまくなるってよく言うんですけど、
- 215 F やっぱりそれは本当だと思って、
- 216 B はい。
- 217 F 結構早目にインターンの面接とか含めて、
- 218 B あ一、はいはい。
- 219 F 1月とか12月にも受けた//のものもあるし、
- 220 B あー一。
- 221 F 1月にも受けたし、
- 222 F 2月にも受けたし、
- 223 B はい。
- 224 F そのインターンの面接でも、その本番の選考の面接であっても、
- 225 F やっぱり、その、本番の面接を早めに体験して、
- 226 F それをもう練習台に//して、
- 227 B うん。
- 228 F それ本番4月までにいっぱいなるべく経験するようにして、
- 229 F 自分の本当に行きたい企業の面接になるまでには、

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

	230 F 結構自信もつけるように、
	231 F 早目に//本番に//臨むようにしました。
	232 B うん。
	233 B うん。
	234 B はい。
	235 [沈黙2秒]
6	236 F あと、7分ぐらいある。
	237 B はい、7分。
	238 F いっぱいある。
7	239 B じゃ、(1)聞きたいこと。
	240 B うーん、ですよね。
	241 B えっと、え、なんか面接の中に実際英語で面接したこととか結構ありますかー？
	242 F 英語はなかった//ですね。
	243 B あ、全部日本語で。
	244 F 僕、日本人だからかもしれないですけど、
	245 B はい。
	246 F 英語ではなかったですね。
	247 F で、ま、必ずトイックの点数ってのは、か、書いたり、
	248 F 書いて会社に提出したりとかはするんですけど、
	249 F 英語ではなかったですね。
	250 B うーん。
	251 [沈黙2秒]
8	252 B なんか、エン、エントリーする、面接とかを受ける時、
	253 B 自分が働きたい部署とか聞かれたりするんですかー？
	254 F 自分が働きたい部署というより、
	255 F ま、会社にもよるんですけど、
	256 B はい。
	257 F 働きたい部署というよりは、
	258 F その「うちの会社に入って何がしたいですか」って//よく聞かれます。
	259 B あーー。
	260 [沈黙2秒]
9	261 B あと何だっけ、思い出せない。
	262 B うーん。
	263 [沈黙2秒]
10	264 B あ、会社を選んだ時、
	265 B 1番、えっと、大切なー、大切ななんと言うんだっけ、
	266 B うーん、会社の選んだ時、
	267 B 1番じゅよう（重要）に見てたところは//何ですか？
	268 F うーん。
	269 F そうですね、僕の場合
	270 F やっぱ、海外に行きたい//っていうのが
	271 B はい。
	272 F すごいおっきかったんで、
	273 F やっぱ海外に行けるかどうかっていうのは、
	274 F すごい//気にしましたね。
	275 B あー、はいはい。
	276 F あとは一、やっぱその一、会社の雰囲気って言ったら、
	277 F 少しく、抽象的で大雑把になっちゃうから
	278 F あまり言いたくないんですけど、
	279 F やっぱその、面接官の//社員の方と会って一、
	280 B うん。
	281 F やっぱその、こうフィーリングが合う//合わないじゃないですけど、
	282 B うん。
	283 F それはやっぱ、やっぱなんだかんだ重要なんだなって思ってた、
	284 F っていうのも、やっぱその、結構商社とかの、
	285 B が、第一希望でし//たかー。
	286 F 第一希望だった//んですけど、
	287 B あー、はいはい。
	288 F 結構商社の面接ってきび、厳しい//というか、

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

	289	B	うん。
	290	F	社員の人が結構こんな感じ//で、
	291	B	あー、そっか。
	292	F	すごい上から//結構ずかずか//言われるような感じなんですけど、
	293		そっかそっか。
	294	B	あー。はいはい。
	295	B	はい。
	296	F	僕の会社、僕の会社だからってわけじゃないけど、
	297	F	他の会社によってはすごい対等にしん、親身にもものすごい聞いてくれたりとか、
	298	F	だ、話が脱線しても、
	299	B	うん。
	300	F	すごい盛り上がっ//たりとか、
	301	B	うんうん。
	302	F	真摯に聞いてくれるようなところもあるので、
	303	F	やっぱりその企業によってその雰囲気って全然違うなって思ったんで、
	304	F	そこは面接中、結構見てましたね。
	305		[沈黙 1 秒]
11	306	B	あーと一、会社によって違うと思うんですが、
	307	B	全般的に//内定をもらうまで、
	308	F	はい。
	309	F	うん。
	310	B	面接って何回ぐらいやりますか。
	311	F	これも結構業界によって//違うんですけど、
	312	B	はいはい。
	313	F	例えば、銀行だったら、
	314	F	7回8回やるん//ですよね。
	315	B	あ。
	316	F	1週、1週間のうちに7回8回//、毎日//、面接終わった後、
	317	B	あー。
	318	B	あー、はいはい。
	319	F	「あー、なにになに君、じゃー、明日の何時に来てくれる」//っていうのが、
	320	B	はいはい。
	321	F	どんどんどんどん続いたり、
	322	F	するんだけどー、
	323	F	でも、逆に商社とかだった//ら、
	324	B	はい。
	325	F	3回しかない。
	326	B	あー。
	327	F	3回。
	328	F	で、うちの会社も4回。
	329	F	だいたい3回から4回は、ま、平均といえば平均かな。
	330	F	やっぱりそれより多い会社あるけど、
	331	F	短くてもやっぱり3回あるんで。
	332	B	面接の時間ってだいたいなんか30分ぐらい以内//で。
	333	F	そーですね。
	334	F	あの、その面接は1対1//とグループ面接の時でやっぱ違うんですけど、
	335	B	はいはい。
	336	F	やっぱり1対1の時は20分から30分はありますね。
	337		[沈黙 3 秒]
	338	F	僕の場合、1時間とか。
	339	F	あの、面接官の交代//、30分で交代//して、
	340	B	はい。
	341	B	あーはいはい。
	342	F	2人と面接するんで、
	343	F	合計1時間っていうのはありましたけどね。
	344	B	内容的にはなんか違いますか？
	345	B	もし、交代された場合には、
	346	B	人は交代した場合には、
	347	B	同じ質問とかどんどん聞かれるんですか。

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

	<p>348 F いや、同じ質問は聞かれない//ですね。</p> <p>349 B 聞かれない。</p> <p>350 [沈黙3秒]</p> <p>351 B えーと、うーん、なんだっけ。</p> <p>352 B あ、なんか面接終わった時、</p> <p>353 F はい。</p> <p>354 B なんか連絡とかくるんじゃないですか、</p> <p>355 F はい。</p> <p>356 B あれってメールですかー？</p> <p>357 B なんか電話ですか？</p> <p>358 F あれは、基本的にメー、あ、電話です。</p> <p>359 B 電話//で。</p> <p>360 F はい。</p> <p>361 B 実は一、面接を、う、面接のメールをもらったんですけど、</p> <p>362 F はい。</p> <p>363 B なんか時間を自分から決めて、</p> <p>364 B 希望を出すことなんですけど、</p> <p>365 F はい。</p> <p>366 B 出したら</p> <p>367 B まだ連絡がこれなくてー。</p> <p>368 F あ、そうなんですかー。</p> <p>369 B はい。</p> <p>370 B 来なくて、</p> <p>371 B 友達から、「待つしかない」と言われたんですけどー。</p> <p>372 B はい。</p> <p>373 F そしたらー//、もう、まだこないんだったら、</p> <p>374 B はい。</p> <p>375 F その会社の、に直接問い合わせしてみる、しかないですね。</p> <p>376 [沈黙1秒]</p> <p>377 B はい、分かり//ました。</p> <p>378 F ほんとにその企業に行きたかったら。</p> <p>379 B あ、はいはいはい分かりました。</p> <p>380 [沈黙1秒]</p>
12	<p>381 B うーん、あー、あー、聞いたかったことが {笑い} 。</p> <p>382 F はい。</p> <p>383 B O G 訪問とか O B 訪問とかセミナーとかの参加が多いと思うんですが、</p> <p>384 F はい。</p> <p>385 B あれってそんなに大事ですか。</p> <p>386 F セミナーは合同説明会っていうのは、</p> <p>387 F 行かなくていいと思うん//ですけど、</p> <p>388 B はい。</p> <p>389 F 会社が主催してるー、説明会は一、</p> <p>390 F 行ったほうがいいですね。</p> <p>391 F やっぱ、その会社の人たちがやっぱ出てくるし、</p> <p>392 B うん。</p> <p>393 F 長い時間説明してくれてるから、</p> <p>394 F それは結構大切ですかね。</p> <p>395 F で、O B O G 訪問は、ほんとに、自分がし、その社員の人になんか聞きたい、</p> <p>396 B うん。</p> <p>397 F どうしても聞きたいってことがあった//時とかだけでいいと思います。</p> <p>398 B うん。</p> <p>399 B でも、セミナーとかは一就活にあたってじつに、役に立ちますか？見たら。</p> <p>400 F そーですね、ま、だいたいホームページに書いてあること、</p> <p>401 F 結構そればかりなんですけど、</p> <p>402 F やっぱその一、企業によってはセミナーに参加しないと、</p> <p>403 B はい。</p> <p>404 F 選考//いけないとかもあるので、</p> <p>405 B あー受け付けない。</p> <p>406 B はい。</p>

【資料3-11】就職活動の相談
質問者B(NNS3)と応答者F

		<p>407 F やっぱり行っというて損はないかなーと思いますね。</p> <p>408 B はい。</p> <p>409 F もし時間があるんだったらやっぱり、足運んで、</p> <p>410 F 色々足動かして行くべきだと思います。</p> <p>411 B セミナーってほしい、1月で終わるんですか。</p> <p>412 F 12月からー、そーですね、2月の、2月ぐらいかなー。</p> <p>413 B はい。</p> <p>414 F 結構長いけど。</p> <p>415 F 体力勝負っていうのもありますね。</p> <p>416 F 風邪引いたりする人も//出てくるしー。</p> <p>417 B あー。</p> <p>418 [沈黙2秒]</p>
13		<p>419 B なんか最後にー//、就活にわたって全般的な(1)1番重要なアドバイスとかないですか？</p> <p>420 F はい。</p> <p>421 F 1番重要な、やっぱりー//、た、他人を気にしない。</p> <p>422 B 言いたいこととか。</p> <p>423 B あーはいはいはいはいはい。</p> <p>424 F やっぱり、他人、まあ自分の人生だから、</p> <p>425 B はい。</p> <p>426 F こうやっぱり、なんだろう、普通、他の人がどうこうっていうのは関係ないんだけど、</p> <p>427 F でも就職活動続けてくとー、</p> <p>428 F やっぱり他の人の情報が気になったり、</p> <p>429 B うん、はい//はいはいはい。</p> <p>430 F あたしー、ちょっと遅れてるんじゃない//とか、</p> <p>431 B い。はい//はいはいはい</p> <p>432 F 目なんじゃないかって結構思われがちなんだけど、わたし一駄</p> <p>433 F そこはやっぱり、人は人、自分は自分って結構難しいんだけど、</p> <p>434 B はい。</p> <p>435 F それをやっぱ頭に置いて</p> <p>436 B はい。</p> <p>437 F 1番苦しくなった時でも、</p> <p>438 F 人は人、私は私//だからっていうふうに、</p> <p>439 B うん。</p> <p>440 【アラーム】</p> <p>441 F いったほうが//いいと思います。</p> <p>442 B はいはい。</p>
Ⅲ.	1	<p>443 B ありがとうございます。</p> <p>444 F じゃ、時間なので。</p> <p>445 B はい。</p> <p>446 F 頑張っ//ください。</p> <p>447 B ありがとうございました。</p> <p>448 F ありがとうございました。</p>

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	F	こんにちは。
		2	S	はじめ//まして。
		3	S	こんにちは。
		4	F	Fです。
		5	S	あーはい、S。
		6	F	Sさん。
		7	S	はい。
		8	F	よろしくお願いします。
		9	S	お願いします。
		10	F	なんでも聞いてください。
		11	S	はい。
II.	1	12	S	今、A(大学名)の学生//ですか？
		13	F	はい。
		14	F	A(大学名)の//S(学部名)の4年生//です。
		15	S	あー。
		16	S	4年生。
		17	S	あー、今学期終わったら、
		18	S	もう卒業ですね。
		19	F	そうなんです。
		20	S	あ、ほんとですか？
		21	F	はい。
		22	S	あー、だったら、う//ーん、ちょっと。
		23	F	寂しいですね。
		24	S	寂しいですか？
		25	F	寂しいです。
		26	S	えー、私、早く卒業したいなと思うんですけど。
		27	F	ほんとですか？
		28	S	はい。
		29	F	学生が一番ですよ、やっぱり。
		30	S	まだ学生、まだ分からないんじゃないですか。
		31	F	で//も、働、働きたくない。
		32	S	あと、社会人になると
		33	S	ほんとですか？
		34	F	働きたくないです。
		35	S	ほんとですか？
		36	F	はい。
		37	S	えー、初めて聞きました。
		38	S	みんなー、みんな、早く働きたいって言う。
		39	F	ほんとですか？
		40	S	はい、私の周りにいるともだ、みんな。
		41	F	やー、やっぱり、学生が一番じゃないですか。
		42	S	うーーーーーーーん、はい{笑い}。
		43	F	朝遅くまで寝れるし。
		44	S	あー、私、いつも1限で{笑い}。
		45	F	あ、そっか。
		46	S	今日も、今日が一番遅く学校来たの。
		47	F	あー、そう//なんですか。
		48	S	はい。
		49	S	今日です。
	2	50	S	でー、はい、質問//します。
		51	F	はい。
		52	S	私、今、3年生なんですけれど、
		53	F	はい。

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	54	S	みんな結構就職活動で忙しくて、	
	55	F	はい。	
	56	S	なんか私だけ、何もやってないかなとちょっと心配になってー。	
	57	S		はい。
	58	S	就活を始めた時期とか、いつでしたか？	
	59	F	僕、ですか？	
	60	S	はい。	
	61	F	僕は、そーですね、あの一、インターンに//行き始めた時期を一、	
	62	S		はい。
	63	S		はい。
	64	F	あの就職活動始めた//時期というなら、	
	65	S	はい。	
	66	F	だいたい10月とか、9月//とかにやって、	
	67	S	あー。	
	68	S	4年生の？	
	69	F	3年//生の。	
	70	S	3年生の、え？3//年生の9月ですか？	
	71	F	でもそれは、そうですね。	
	72	S		はい。
	73	F	インターンに行っただけなので。	
	74	S	はい。	
	75	S	え、インターンをやった会社が、今の一。	
	76	F	いや、違います。	
	77	S	あ、違い//ます。	
	78	F	そうですね。	
	79	F	日本の企業のその//インターンっていうのは、	
	80	S	はい。	
	81	F	結構その、セミナーとか//、グループワーク//に近いものなので、	
	82	S	はい。	
	83	S		はい。
	84	S		はい。
	85	F	あんまりその一、採用に直接//繋がるっていうんじゃないんですね。	
	86	S	はい。	
3	87	S	ちょっと、私、インターンもやったことなくて、	
	88		[沈黙1秒]	
	89	S	やったら、	
	90	S	役に立つと思いますか。	
	91	F	それは役に立ちますね。	
	92	F	結構、全然知らない業界//インターン行ったら、	
	93	S	はい。	
	94	F	あ、この業界ってこういう仕事してるんだ一、	
	95	S	うーん。	
	96	F	あ、自分の知らないことを//、結構詳しく教えてくれるので、	
	97	S	はい。	
	98	S		はい。
	99	F	それは結構、ほんとに結構、その、分かりやすく//、楽しく教えてくれるので、	
	100	S		はい。
	101	S		はい。
	102	F	それはやっぱり、人に聞くよりは絶対楽しいかなって。	
	103	S	ちょっと、日本もお金、もらえます？インターン。	
	104	F	もらえない//ですね。	
	105	S	もらえないんですか？	
	106	F	はい。	
	107	S	えー、ほんとですか？	
	108	F	その仕事をするんじゃなくて、	
	109	S	はい。	
	110	F	そのセミナーでこう授業じゃないけど、	
	111	F	結構、教えてもらう。	
	112	F	セミナーみたいな感じなんで、	

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	113	F	少人数のセミナーで、こうグループワーク//とかするような感じなんで、
	114	S	うん。
	115	F	お金は出ないですね。
	116	S	はい。
	117	S	えっと、これ、はい。
	118	S	聞きながら、
	119	S	メモ取るの難しい。
	120	F	全然自由に//やってください。
	121	S	はい。
	122		[沈黙2秒]
4	123	S	あ、で一、就活なんかどれぐらいやりました？
	124	S	なんか1ヶ月で終わったとか、2カ月。
	125	F	僕は一ー4月で終わりました。
	126	F	だから、
	127	S	あ一一、4月で終わりました。
	128	F	はい、そうです。
	129	S	そんなかからなかったんですね？
	130	F	そー一です、ま、普通//、平均ぐらいじゃないですかね。
	131	S	はい。
	132	F	4月の中旬頃に終わりましたね。
5	133	S	なんか、自分がやりたい、
	134	S	なんか、自分がいきた、私、今やってないのが一、
	135	S	私がなんか自分が一番行きたいと思ってる会社が、
	136	S	ちょっとはっきりしてくって、
	137	F	はっきりしてる？
	138	S	はっきりしてって//一、
	139	F	はいはいはい。
	140	S	あんまり、他の企業とか、見てないんです//よ。
	141	F	うんうんうん。
	142	S	で、この会社じゃないと、
	143	S	あまり行きたくないなーと思って、
	144	F	はい。
	145	S	で、自分が行きたい会社とかありました//か？
	146	F	僕は、そー一ですね、だいたい、ま一、頭に何社か//あったんですけど、
	147	S	はい。
	148	F	あの一ー、結構//、学生が普通に生活してて知ってる範囲の企業とかって、
	149	S	はい。
	150	F	テレビのCMとか//、結構、が、有名な企業しかないんですけど、
	151	S	うん。
	152	F	実は、就職活動とかをしてる//その業界で、
	153	S	はい。
	154	S	はい。
	155	F	世界トップクラスのシェアを占めてる商品、
	156	F	すごい技術持ってる企業とか
	157	F	やっぱりごろごろ社会にあるんで、
	158	F	そういうのをやっぱり知っていくと、
	159	S	うん。
	160	F	あ、今まで//、思ってたその企業よりも、
	161	S	うん。
	162	F	こっちのほうが//いいなーとか、
	163	S	うん。
	164	F	やっぱり、思って、
	165	F	そういう発見は結構ありましたね。
	166		[沈黙2秒]
	167	S	いま一一、今の中、今決めてる会社ではないんですか？
	168	F	今の会社は//一ー、そうですね、
	169	S	はい。
	170	F	僕、前から//、一番最初からこの企業に行きたい、
	171	S	はい。

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	172	F	僕の今//、内定してる企業に行きたいとは全然思ってたんですね。
	173	S	はい。
	174	F	ほんと1月頃に、この会社受けてみるか//っていう感じで受けたら、
	175	S	うん。
	176	F	結果的に内定先に決めたっていう感じですね。
6	177	S	私、今、ちょっと、就職活動やりたくても、
	178	S	ちょっとやる方法とか、
	179	F	はいはい。
	180	S	どうやってやってやれ、なんかみんな忙しく見えるんです、
	181	S	見えるんですけど、
	182	F	はいはい。
	183	S	なんか、みんな何してるかな。
	184	S	私もなんか5つぐらい会社の説明会とか//は、行ってみたんですけど、
	185	F	うんうん。
	186	S	あまり役に一//一{笑い}。
	187	F	うんうん。
	188	S	はい。
	189	S	で一、就活の方法とか、なんかお勧めできるような、
	190	S	これやったらいいよとかあったら、
	191	S	教えて、//くれて。
	192	F	あ、ほうほーーーじゃない//ですけど、
	193	S	はい。
	194	F	なんか一般的な流れは、
	195	S	はい。
	196	F	ま、その会社が主催するセミナー//、説明会に行った後に、
	197	S	はいはい。
	198	S	はい。
	199	F	面接、え、エントリーシート//提出があるんですね。
	200	S	はい。
	201	S	はい。
	202	F	で、そのエントリーシートを提出し終わって、
	203	F	合格したら、
	204	S	はい。
	205	F	その面接が始まって、
	206	S	はい。
	207	F	で、そこで、最終的に、最終面接で//内定が出るっていう流れなんですね。
	208	S	はい。
	209	F	だから、そのエントリーシート書くために、
	210	F	エントリーシートとりあえず出さなきゃいけない//ですけども、
	211	S	はい。
	212	F	その、書くため//に、
	213	S	エントリーシートでは、エントリーシート、なんか、誰、かから一、先輩とかから、教えてもらいましたか、書き方とか。
	214	F	書き方は教えてもらって//ないですけど、
	215	S	はい。
	216	F	自分が書いたやつを、こう見てもらいました。
	217	S	誰に。
	218	F	先//輩とか社会人とかいろんな人にチェックしてもらいました。
	219	S	先輩
	220	F	ど、分かりにくいところがあるとか、
	221	S	うん。
	222	F	もっといい表現の仕方があるんじゃないかと。
	223	F	それはすごい結構やりましたね。
	224	S	あー。
	225		[沈黙1秒]
	226	S	私まだやってなくて。
	227	S	どこから始めたらいいのか。
	228	F	うー//ーん。
	229	S	はい。

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

		230	[沈黙1秒]
		231	S うん、はい。
		232	[沈黙2秒]
7	233	S	あー、会社、今のなんか、会社を選ぶ時、
	234	F	はい。
	235	S	1番み、なんか、みんな1番なんか、大切だと思うこととか、
	236	F	うん。
	237	S	1番見るの違うじゃ、じゃないですか、
	238	S	給料//とか。
	239	F	そうですね、うんうんうん。
	240	S	ま、一緒に働いてる人//たち。
	241	F	うんうんうんうん。
	242	S	で、会社の名前とか。
	243	F	うんうんうんうん。
	244	S	で、はい。
	245	S	何を1番見て、
	246	S	選びました//か。
	247	F	僕は、やっぱり//、その、海外で働きたいな//、って思っていたので、
	248	S	はい。
	249	S	はい。
	250	F	やっ//ぱり
	251	S	海外ですか？
	252	F	はい、海//外。
	253	S	あ、英語が得意ですか？
	254	F	得意ですね。
	255	S	あー、ほんとですか？
	256	F	はい。
	257	S	あー。
	258	F	だから、その海外に//行けるような//企業で就職活動していたので、
	259	S	はい。
	260	S	はい。
	261	F	そこはやっぱりあの一、1番重要だなと思って見てました。
	262	S	うーーん。
	263	S	今の会社は、はい、海外で働けますか？
	264	F	そうですね、ま、すぐには働けないんですけど、
	265	F	でも、その同じ食品業界の中だったら、
	266	F	海外展開を一番//してるなと思うので、
	267	S	はい。
	268	F	そこにしました。
	269		[沈黙11秒]
8	270	F	なんでも//聞いてください。
	271	S	{笑い}
	272	S	はい。
	273	S	なんか色々あったんですけど、
	274	F	はい。
	275	S	ちょっと緊張しちゃって。{笑い}
	276		[沈黙2秒]
	277	S	あー。
	278		[沈黙7秒]
9	279	S	はい、あ、これ、聞きましたっけ、
	280	S	なんか学生の時代1番なんかやりたい仕事とか、
	281	S	行きたいし、なんか、会社とか、
	282	S	あー、これ聞きましたよね、私。
	283	F	ま、もっかい//言うと、
	284	S	{笑い}。
	285	F	えっとー、そうですね、あんまり、は、あ、だから僕、海外に//すごい//行きたいと思っていたので、
	286	S	はい。
	287	S	あー、いつも？
	288	F	はい。

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	289	S	はい。
	290	F	だからその一、商社とかは//、なんとなく行きたい//な一っていうのは、
	291	S	はい。
	292	S	はい。
	293	F	あったんですけど、
	294	S	うーん。
	295	F	どこ会社、どここの会//社がいいとかなかったですね。
	296	S	そんな、そこまでは。
	297	F	だいたいどこの//どこの業界が//いいかな一とかっていうのは、
	298	S	はい。
	299	S	はい。
	300	F	考えてましたね。
10	301	S	で、これ、これ、1番聞き、聞きたかった//のが、
	302	F	はい。
	303	S	ちょっと結構、日本人の友達、なんか学部がS(学部名)だから、
	304	F	はい。
	305	S	英語で話す//友達、日本人の友達って、
	306	F	はいはい。
	307	S	みんななんか「日本で就職するんだったら、
	308	S	そんな頑張らなくていいよ、
	309	S	なんか成績とか//あんまり関係ないよ、
	310	F	うんうん。
	311	S	そんな真面目にやらなくていいよ」とか、
	312	F	うんうん。
	313	S	いつも言われて、
	314	F	はいはいはい。
	315	S	なんか日本の会社とか、ほんとに成績は見ないんですか？
	316	F	たぶん韓国の会社とか//だったら、
	317	S	はい。
	318	F	成績、学校のGPA//とか絶対重要ってよく聞く//んですけど、
	319	S	はい、そうです、GP、
	320	S	はい。
	321	F	日本の会社はだいたい全、韓国に比べたら全然見ない。
	322	F	ほんとに見なくて、
	323	F	成績、GPA提出するとこ//とか、
	324	S	はい。
	325	F	書く欄がないから、
	326	S	ほんとですか？
	327	S	いいじゃ//ないですか。
	328	F	ちゃんと成績//、あの、今のところ何単位取れてるとか、
	329	S	うん。
	330	S	うん。
	331	F	Aの数は何個あるとか、
	332	F	書かせる企業もあるんですけど、
	333	S	はい。
	334	F	全然関係ないですね。
	335	S	成績よ、いいですか？
	336	F	ま、普通//ですね。
	337	S	普通。
	338	F	あの、留年しない程度//なんですけど。
	339	S	はい。
	340	F	結構日本の企業だったら、
	341	F	その人のパーソナリティー//すごい重要//視、
	342	S	はい。
	343	S	はい。
	344	S	言われるんですけど、
	345	S	でも、成績見ないと、
	346	F	はいはい。
	347	S	え、どうやって、

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	348	S	でも、すぐに分からないじゃないですかー、1回の面接で。
	349	S	パーソナリティーとか、見えない。
	350	F	面接は結構何回もやるんですよ。
	351	S	何回もやりますか。
	352	F	そうですね。
	353	F	最低//短くても3回は//やります。
	354	S	はい。
	355	S	はい。
	356		[沈黙2秒]
	357	S	あまり真面目かどうか重要じゃないってことで。
	358	F	真面目かどうかとい、ま、勉強ができるできないとかじゃなくて、
	359	S	うん。
	360	F	その人間性とか、やっぱりその、学生時代って勉強だけじゃなくて、
	361	S	うん。
	362	F	その勉強以外の活動もいっぱい大学生って//するじゃないですか。
	363	S	うん。
	364	S	うん。
	365	F	そ、その活動の種類って人に//よって、
	366	S	うん。
	367	F	色々違うから、
	368	S	はい。
	369	F	その活動で得た経験とかっていうほうを、
	370	F	結構日本の企業は重視してますね。
	371	F	結構そのやっぱり、大学生が、4年間、べん、3年間、3、4年間勉強するような勉強量って、
	372	F	たかが知れてるし、
	373	S	はい。
	374	F	な、あの、大学院生になったら、
	375	S	はい。
	376	F	話は別ですけど、
	377	S	はい。
	378	F	大学//よ、学部生//のうちにその勉強したことなんか、
	379	S	はい。
	380	S	はい。
	381	F	そんな、大した//あれじゃないだろうっていうふうに、
	382	S	はい。
	383	F	結構日本の企業の人は思ってますね。
	384	F	一般論です。
	385	S	うーん。
	386	F	だから、韓国の企業に比べたら、
	387	F	やっぱり全然見ないです。
	388		[沈黙1秒]
	389	S	そんなに、だから、そんなになんか、AとかA+とか関係ないってこと、ですね。
	390	F	ま、関係//あんまり関係ないですね。
	391	S	関係、
	392	S	うーん。
	393	F	それよりはほんとに自分の性格とか、
	394	F	自分が今までどういう経験を//してきたかっていうことを、
	395	S	うーん。
	396	F	話してほしいとたぶん思っているんだと思います。
	397	S	はい。
	398	S	ちょっとー、うーん。
	399		[沈黙3秒]
11	400	S	これ最後にー、なんかー、後輩に、私も後輩じゃないですかー。
	401	F	はい。
	402	S	学部はちょっと違う//んですけど、
	403	F	はいはい。
	404	S	なんかー、就活活動、アドバイスとか、
	405	S	はい、一番言いたいこと//とかあったら、はい。
	406	F	はい。

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

	<p>407 S 教えて//もらいたい。</p> <p>408 F そーですね、就職活動、最初始めたら、</p> <p>409 S はい。</p> <p>410 F 分かるんですけ//ど、</p> <p>411 S はい。</p> <p>412 F 面接とかいっぱい始まると、</p> <p>413 S はい。</p> <p>414 F その周りの人の話を聞くと、</p> <p>415 S はい。</p> <p>416 F 「僕もう内定もらったよ」とか、</p> <p>417 S はい。</p> <p>418 F そういうき、聞いた時に、</p> <p>419 F 自分もし内定もらってなかったら、</p> <p>420 F 結構焦ったりするし、</p> <p>421 S はい。</p> <p>422 F 自分がこう駄目なんじゃないかって結構落ち込んだじゃう//んですよ、</p> <p>423 S はい。</p> <p>424 F 僕も結構そうだったし。</p> <p>425 S はい。</p> <p>426 F でもやっぱり、人は人の人生だし、</p> <p>427 F 自分の人生のためにこの就職活動をしてるんだから、</p> <p>428 F あんまりその人のことは気にせず、</p> <p>429 F 結構自分に自信持つて。</p> <p>430 F けど、難しいんですけど//、それ。</p>
12	<p>431 S 今までの会社、ちょっと決まってる前に、</p> <p>432 S なんか失敗とかありましたか？面接。</p> <p>433 F そーですね、失敗というか、</p> <p>434 S はい。</p> <p>435 F あの、商社の//商社2つ//、最終面接まで//残ってたんですけど、</p> <p>436 S はい。</p> <p>437 S はい。</p> <p>438 S はい。</p> <p>439 S はい。</p> <p>440 F 最終面接までのこ、しかも2つも残ったら、</p> <p>441 S はい。</p> <p>442 F 絶対、どっちか受かるでしょって思ってたんですけど、</p> <p>443 S はい。</p> <p>444 F あのー、見事に2つとも最終面接落とされた時は、</p> <p>445 S はい。</p> <p>446 F 結構//落ち込んでました。</p> <p>447 S はい。</p> <p>448 S はい、あー。</p> <p>449 F だから、あのー、あんまり、そんなまだ内定なかったんで、</p> <p>450 F 結構、俺もう駄目なのかなとかって結構、落ち込んでましたね。</p> <p>451 F だから、あんまり、難しいんですけど、</p> <p>452 F あんまり//落ち込まずに、</p> <p>453 S はい。</p> <p>454 S はい。</p> <p>455 F 人は人で、自分は自分っていうふうと考えてたほうが良いと思います。</p>
13	<p>456 S たくさん、なんかいっぱいいたほうが良いと思いますか？面接とかー、なんか。</p> <p>457 F 面接は、やっぱりまあ、たくさん行くというよりは、</p> <p>458 S はい。</p> <p>459 F い、行けば行くほど</p> <p>460 F 面接って、やっぱり上手になる//し、</p> <p>461 S なります。</p> <p>462 F 慣れるんですよ。</p> <p>463 F だから、やっぱりその自分のほんとうに行きたい企業の前に、</p> <p>464 F 何個か面接は受けて、</p> <p>465 F 練習した//ほうが、</p>

【資料3-12】就職活動の相談
質問者S(NNS4)と応答者F

		466 S 日本はちょっと私、今、韓国か日本かまだはっきりしてないんですが	
		467 F はいはいはいはい。	
		468 F しゅ、就職//する場所が。	
		469 S は、はい。	
		470 S どこでもいいかになって//感じで。	
		471 F うんうんうんうん。	
		472 S ちょっと韓国は面接のために、	
		473 S これなんて言えばいいかちょっと分からないんですけど、	
		474 S なんかアカデミーみたいな//ものがあってー、	
		475 F 就活塾みたい//な？	
		476 S はい、塾ですね。	
		477 F はいはい。	
		478 S 就活塾みたいのがあってー、	
		479 S 結構なんか90%の人たちが//1カ月ぐらいとか、い、1カ月経ったら、	
		480 F うんうん。	
		481 【アラーム】	
		482 S 短いんですけど、	
		483 F はいはい。	
		484 S 行きますね。	
		485 F は//はいはい。	
		486 S で、日本でもあるかなー。	
		487 F 日本でありますけど、	
		488 F そんなに//メジャーじゃないし、	
		489 S 行かない。	
		490 S あー。	
		491 F その、そういうところに行ったからって、	
		492 F 内定もらえるっていうのは、	
		493 S はい。	
		494 F 全然確約//されてないので、	
		495 S あー、ほんとですか。	
		496 F あんまりお勧め//しません。	
		497 S 行かなかったんですよね？	
		498 F 全然行かないです。	
		499 F 僕の周りでも行った人、聞いたことないです。	
		500 S ほんとですか？	
		501 S あー、珍しい、ことで。	
		502 S うん。	
		503 S はい。	
		504 F そうですね。	
Ⅲ.	1	505 F じゃ、そろそろ時間//なので、	
		506 S はい。	
		507 S はい。	
		508 S ありがとうございます。	
		509 F ありがとうございます。	
		510 F 頑張ってください。	
		511 S はい、{笑い}頑張ります。	

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1 U		はい、こんにちは。
		2 N		こんにちは。
		3 U		いまー、就活始めたところのUと申します。
		4 N		はい。
		5 U		K学部です。
		6 N		あ、一緒です。
		7 U		あ、ほんとですか？
		8 N		はい、一緒です。
		9 U		へー。
		10 N		大丈夫ですか。
		11 U		あー、逆に、はい、助かりかも、助かるかもしれないですね。
		12 N		あ、そうですか。
		13 U		はい。
		14		【沈黙1秒】
II.	1	15 U		では、早速始めても。
		16 N		はい、大丈夫ですよ。
		17 N		どうぞ//どうぞ。
		18 U		はい。
		19 U		えーと、就活に関して何に1番時間をかけました、か。
		20 N		いわゆる自己分析です。
		21 U		自己分析ですか。
		22 U		えーと、どんなふうにしたか、もし聞いてもいいですか。
		23 N		まず//、えーとね、3つあります、大きくわけて。
		24 U		はい。
		25 N		えー、モチベーション曲線//ってのと、
		26 U		はい。
		27 N		えー、他己分析ってのと、
		28 U		他己分析、他己分析って何で//すか？
		29 N		えっとね、た、他の人が、に//、例えば友達とか親とか//、お世話になってる人とかに、
		30 U		はい。
		31 U		はい。
		32 N		「自分ってどんな人ですかー」っていうふうに聞く。
		33 U		あー。
		34 N		自己分析って自分で自分をするじゃないですか、分析。
		35 U		はい。
		36 N		それを人に自分のことをしてもらう。
		37 U		結構役に立つかもしれない//ですね、それ。
		38 N		うん。
		39 N		あとはー、えーと、特に名前はないんですけど、
		40 U		はい。
		41 N		よきいわゆる、オーソドックスな「なんで」って自分に聞き、
		42 N		問い詰める。
		43 U		自分で自分に「なんで」ってき、聞く//んですか。
		44 N		そう、例えば、自分の生活してきた、
		45 N		生きてきた中でー、
		46 U		はい。
		47 N		ビックイベントってあるじゃないですか。
		48 U		はい。
		49 N		例えば、なんでS（学部名）に入ったの、
		50 U		うーん。
		51 N		インターナショナルな人が多いから、みたいな。
		52 N		じゃ、なんでそれが好きなの、

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

	53	N	なんでそういうところに入りたいと思ったのっていうふうに聞いていく。
	54	U	それ結構、つらい//ですね。
	55	N	う、つらいけど、
	56	N	それが一番大事ですよ。
	57	U	あーーーー、やっぱりやるべきな//っていう。
	58	N	はい。
	59	U	あーーーー、分かりました。
	60	U	ありがとうございます。
	61	U	ぜひ//やります。
	62	N	はい。
	63		【沈黙2秒】
2	64	U	そうですね、あのー、今、あの、就職したとこ、
	65	N	これからするんです。
	66	U	あーーーー、これからするんですか。
	67	U	え、どこーーーーにしたんですか。
	68	N	S（企業名）っていう//総合商社です。
	69	U	はい。
	70	U	総合、あーーーー。
	71	N	いわゆるだから、M（企業名）とかご存知ですか。
	72	U	はい。
	73	N	M（企業名）とか。
	74	U	はい。
	75	N	あれとおんなじ業界です。
	76	N	あれとおんなじ業界のおんなじ業種の一番下です。
	77	U	一番したていう。
	78	N	7台商社って言われてて、
	79	U	あ、分かります、
	80	U	分かります。
	81	N	あれの1番下です。
	82	U	あーーーー。
	83	U	今、受かったということですか。
	84	N	そう、内定してるんです。
	85	N	だから、もう入社決定の段階です。
	86	N	ただまだ働いてない、
	87	N	卒業論文出してないんで。
	88	U	{笑い}
	89	N	まだ働いてない。
	90	U	い、むしろそこげ、そこで、結構、苦しんでる人って結構多かったんですよね//、K（学部名）って。
	91	N	{笑い}
	92	N	そうですね。
	93	U	そーですね、そこで、外国で働くチャンスって多いんですかね。
	94	N	めちゃくちゃあります。
	95	U	ほんとですか？
	96	N	はい。
	97	U	しよ、商社って日本より外国でむしろ働くんですかねー。
	98	N	えっと、ま、職種によるんですけど、
	99	U	はい。
	100	N	あとは取り扱う物。
	101	U	はい。
	102	N	営業で例えば、鉄鋼物とか扱うとか、
	103	N	電力プラントとか//農業ビジネスとか。
	104	U	はい。
	105	U	はい。
	106	N	まー、金属とか//石油とか、の一営業に配属されると、
	107	U	はい。
	108	N	例えば、南米、中東、アフリカ、ヨーロッパ、北米行きますよね。
	109	U	え、それを面接とかで直接言われるんですか。
	110	U	「外国に働くことが多いんですよー」みたいな。
	111	U	それとも//、自分で調べる

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

- 112 N それは、あのー、みんな知ってます、もう。
113 U あー、ほんとですか。
114 N はい。
115 N あのー、ホームページでも、どうかな、
116 N ま、海外で働くっていうのは、
117 N ホームページには直接では書いてないですけど、
118 U はい。
119 N でも、ホームページに、その海外の拠点はこれだけありますよーって//のが出ると、
120 U ふーん。
121 N あのー、まー、だいたい分かりますし、
122 U う//ーん。
123 N あとは、説明会とかでも言いますし、
124 U はい。
125 U むしろ、日本のそういう総合商社のほうが、
126 U 外資系より外国で働くチャンスって多いかもしれないですよ//ね。
127 N え、ていうか、圧倒的に多いですよ。
128 N 外資系の、日本で、外資系に入るのは、
129 N あのー、日本で働く//人が多い
130 U 働く、あーそうです、あ//ー。
131 N あのー、支社なんで。
132 U はい。
133 N 要は、本社じゃないから、
134 U そうですね。
135 N 例えば、G（企業名）でも、J（企業名）でもM（企業名）でも海外に飛ばすために
136 N わざわざ人採らないじゃないですか。
137 U そーですね。
138 N 例えば、中国とか、例えば、イギリスとかで仕事してほしいのであれば、
139 N そこで人採るじゃないですか。
140 U そーですね。
141 N アフリカで仕事してほしいのであれば、
142 N ヨーロッパから採ったほうがいいし、
143 U あー。
144 N 南米やったら、北米から採ればいいし、
145 U あー。
146 N 本社採用で//飛ばせばいいし。
147 U はい。
148 U はい。
149 N は、アジアの拠点G（企業名）とかシンガポールとか行ってますけど、
150 N マレーシア、シンガポールか。
151 N ま、行ってますけど、
152 U はい。
153 N だから、その現地採用ですよ。
154 N 日本の採用枠はだいたい日本で仕事してくださいっていうのが多いですよ。
155 U はい。
156 N 出張とかはあるかもしれないけど。
157 U 僕結構、そ、あの、その外国で働くチャンスを結構重視してて、
158 N うん。
159 U はい。
160 U 今//、結構、
161 N しかも外国籍であれば、
162 N やっぱ日本のほうが重宝されますよね。
163 N 重宝って大事にされますよね。
164 U そーです、か。
165 N うん。
166 【沈黙2秒】
167 U あー、ほんと企業選ぶのに、はい、気をつけます。
168 N うん。
169 U あー、すげ。
170 【沈黙2秒】

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

- 3 171 U えっと、3つ目の質問なんですけれどもー、
172 N はい。
173 U 面接とかで企業に自分がアピールしたことを教えてもらえませんか。
174 N じぶんーがアピールしたとこー。
175 U はい。
176 N はねーー、一応フレキシビリティ (flexibility) 。
177 U フレキシビリティで//すか。
178 N そう。
179 U どんな状況でも対応できますよーみたいな。
180 N そうですね、まー、あのー、えっとね、グローバルって言葉あるじゃないですか。
181 U はい。
182 N グローバルをダイバシティっていうふうに言い換えて、
183 N で、それからさらにフレキシビリティっていうふうに言い直してる。
184 U はい。
185 N 要はまー、グローバルって謳ってる企業が多いじゃないですか。
186 U はい。
187 N じゃ、グローバルってなんなのって言った時に、
188 N 自分はグローバルはダイバシティ (diversity) だと思うんですよ。
189 N ダイバシティサイド、まあ、ワールド、の中の、中で生きていくには、
190 N フレキシビリティって必要ですね。
191 U うーん。
192 N で、「私にはフレキシビリティがありますよ。」と。
193 N で、それを売ってましたね。
194 U うーん。
195 N アピールしましたね。
196 U その、「自分がフレキシビリティありますよ」っていうのは、
197 U その根拠っていうか、はー、どこからきたんですかね。
198 N えっとまづー、いくつかあるんですけど、
199 U はい。
200 N 結論から言うと、
201 N 1つは海外ボランティアの経験で、
202 U うーん。
203 N 先進国じゃなくて、発展途上国4カ国でしたら、
204 N 6カ国でやりましたよ、
205 U はい。
206 N で、それ以外に、1人旅しましたよ。
207 N で、
208 U 1人旅しましたか。
209 N 去年、去年、僕22歳やったんですけど、
210 U はい。
211 N 今年、去年で22歳になりましたよと。
212 U はい。
213 N 22歳で今まで行った国が22カ国ですよー//って。
214 U おーーー。
215 N 年の数だけ行ってるんですよーって。
216 N 別に多いですよって言ってるんじゃないくて、
217 N 年の数だけ行きましたって言うふうに、
218 N 印象深く、つけるために言いましたよと。
219 U かつこいいんじゃないんですか。
220 N 印象的ではありますよね。
221 U そうですね。
222 N その2つをまず言いました。
223 U はい。
224 N で、ま、その海外ボランティア経験で何をしたかと言うと、
225 N 自分の、全然、その価値観とか文化とか言葉が違う人達と、
226 N 1週間以上共に生活をして、
227 N で、接していくうちに、
228 N 自分の中の常識//とか、当たり前って言うものが、
229 U はい。

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

	230 U	はい。
	231 U	だんだんだんだん増えていく。
	232 N	で一、その一人旅をしても、
	233 N	現地の//人とお酒を飲みながら、
	234 U	はい。
	235 N	色々話した//後、
	236 U	わーー。
	237 N	自分の中であの、当たり前が増えていく。
	238 U	はい。
	239 N	それがフレキシビリティじゃないですか。
	240 N	っていうふうに思いました。
	241 U	やー、圧倒されますね、なんか。
	242 N	でもね、S（学部名）にいますと、
	243 N	それは別に、特別なことでないと思うんで。
	244 U	え、そうですかねー。
	245 N	結構いますよ、そういう人は。
	246 U	えー。
	247 N	でもね、ずっと日本で生活してきましたっていうふうな社員さん、日系の会社であれば、
	248 N	まー、インパクトはありますよね。
	249	【沈黙2秒】
	250 U	あー、（2）やーなんか恥ずかしいで//すね、
	251 U	自分何もしてなかったから。
	252 N	そんなこと、そんなことないでしょ。
	253 U	あー、そっか。
	254 U	はい、分かりました。
4	255 U	あ、こ、これは個人的に聞きたいことなんですけど、
	256 N	はい。
	257 U	面接で、どういうところ1番気をつけましたほうがいいんですか。
	258 N	えっとね、えっと、どういうところが知りたい？
	259 N	全体的にですか？
	260 U	全体的にもそうだし、
	261 N	その、丁寧なところもそうなんですけれども。
	262 N	あ、もちろん言葉遣いはそうですね。
	263 U	はい。
	264 N	あとはー、ま、自分、もともとこわ、こわもてって分かります？
	265 N	顔が怖い//から、
	266 U	{笑い}
	267 N	笑顔を絶やさない//ことと、
	268 U	{笑い}
	269 N	あとはあのー、なんやろうな、
	270 N	靴はちゃんときれいにしていとか、
	271 U	はい。
	272 N	ちゃ、ネクタイちゃんと締めるとか、
	273 U	はい。
	274 N	服装しっかりするっていうのもそうですし、
	275 N	あとは、喋ってる間の身振り手振りが、もうこんななんならない。
	276 U	あ。
	277 N	もうちゃんとかやって//やって、
	278 U	{笑い}
	279 N	ま、ちょっとある程度こうはありですけど、
	280 U	はい。
	281 N	なんか例えば、こうやってる時に、
	282 N	ずっとなんか手こう触ったりしながら喋らないとか、
	283 U	はい。
	284 N	なんかついつい手癖がないようにとか、
	285 U	はい。
	286 N	ちゃんと前で組んで喋るとか。
	287 U	あー。
	288 N	表現するために手を使うのはいいけど、

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

	289	N	それを使いすぎないとか。
	290	U	あー。
	291	N	まー//、それはね、あのー、こっち以外でいうと、
	292	U	はー。
	293	N	そんなとこですよ。
	294	U	あー。
	295	U	こちらと、どういうとこですか。
	296	N	あとは、言葉遣いもそうですし、
	297	N	あとはー、自分が常に意識してたことはー、
	298	N	えーと、相手を楽しませること。
	299	U	楽しませるところですか。
	300	N	あー、今までこう自分が生活してきた中で、
	301	U	はい。
	302	N	やっぱり自分、友達に聞いても、
	303	N	「そう言えば、この前、あんたこういう話してたよね」っていう話を、
	304	N	おも、覚えてもらってるとか、
	305	N	自分でもそうですけど、
	306	N	たぶんそうだと思うんですけど、
	307	N	なんか面白くない話って忘れてしまうじゃないですか、
	308	U	忘れちゃいますね。
	309	N	すごい自分の共感したことか、
	310	N	すごく自分が笑ったこととか、
	311	U	はい。
	312	N	面白いなって思ったことは覚えてますよね。
	313	U	そーですね。
	314	N	だから、自分が例えば、プレゼンテーションする時も、
	315	N	自分が友達と話す時も、
	316	N	面接ももちろんそうですけどー、
	317	N	相手に「あ、面白いな」って思わせれば、
	318	N	覚えといってもらえますよね。
	319	U	そーですね、プレゼンテーションとか絶対そうですね。
	320	N	だから、必ず笑いを入れる。
	321	N	汚い笑いじゃないですよ、
	322	N	その話の流れで笑いを入れて、
	323	N	「あー、楽しいね」、
	324	N	「話しやすいね君」とか、
	325	U	はい。
	326	N	「君の話面白いね」って思ってもらえれば、
	327	N	少なくとも印象には残るので、
	328	N	ま、さい、最後まで残れますよね。
	329	U	あー。
	330	N	だから、全部笑いとか、共感っていうものを入れていけば、
	331	U	はい。
	332	N	1次面接、2時面接、人事面接ぐらいは軽くパスできますよね。
	333	U	あー。
	334	N	実際。
	335	U	あ、ほんとにありがとうございます。
	336	N	{笑い}
	337	U	役に立ちます。
	338		【沈黙1秒】
5	339	U	えー、その就活してる中で、
	340	U	1番大変なことって何ですか。
	341	N	自分、あ、それは人それぞれなんですけど、
	342	U	はい。
	343	N	自分の場合はテスト勉強でした。
	344	U	テスト勉強ですか。
	345	N	うん、テストセンターとか。
	346	U	あー。
	347	N	ギャブキャブ//とか。

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

	<p>348 U ギャブキャブとか、S P I とか//ですか。</p> <p>349 N うん。</p> <p>350 N あれはね、大変でしたね。</p> <p>351 N 結局、あれにやられましたね。</p> <p>352 U ほんとですか？</p> <p>353 N うん。</p> <p>354 N あれでかなり落ちました。</p> <p>355 U あーー、あー、僕もそうです、実際 {笑い}。</p> <p>356 N だから、ま、それで、それかな。</p> <p>357 N 苦労したというか後悔してるのは。</p> <p>358 U あー。</p> <p>359 U ふくそう（？）しながら、</p> <p>360 U 俺ってほんとに頭悪かったんだ、</p> <p>361 U 悪かったんだって//思っ。</p> <p>362 N やればできるんですよ。</p> <p>363 N それをずっとやって慣れないと。</p> <p>364 U あー。</p> <p>365 N うん。</p> <p>366 N それを確実にやっておいたほうがいいですね。</p> <p>367 U うん、はい。</p> <p>368 U 今からでもちゃんと。</p> <p>369 N うん、全然間に合うんで。</p> <p>370 U はい、分かりました。</p>
6	<p>371 U そうですね、ま、あの、最後なんですけれども、</p> <p>372 N はい。</p> <p>373 U 就活終わったんじゃないですか。</p> <p>374 U で、終わったところを今、就活してる生徒達に、</p> <p>375 U 1 番してあげたいことってあるんでしょうか。</p> <p>376 N えーと、12月、1 月、2 月、3 月は、えー、ま、エントリーシート含めて、</p> <p>377 U はい。</p> <p>378 N テストを含めて、</p> <p>379 U はい。</p> <p>380 N 面接への準備じゃないですか。</p> <p>381 U はい。</p> <p>382 N 面接にいけるためには、</p> <p>383 N その全部をしっかりとしなければいけないでしょ。</p> <p>384 U はい。</p> <p>385 N 悲観的に準備をして、</p> <p>386 U はい。</p> <p>387 N 悲観的って分かります？</p> <p>388 U 悲観的。</p> <p>389 U 教えてもらっていいですか。</p> <p>390 U 悲観的。</p> <p>391 N オブティミニスティックの逆、ペ//スィミスティック。</p> <p>392 U あ。</p> <p>393 U 悲観的に？</p> <p>394 N うん、に準備をする。</p> <p>395 N いわゆる、あー、これでもだめ、</p> <p>396 N これでもだめ。</p> <p>397 N 満足しないと、準//備で。</p> <p>398 U あー。</p> <p>399 U 自分、自分のこと悲観的にするってことですよ。</p> <p>400 N 自分//のこと悲観的にするってことよりは、</p> <p>401 U あー。</p> <p>402 N 準備、準備。</p> <p>403 N だからー、エントリーシートめっちゃいいと思ったとしても、</p> <p>404 N まだまだよくなるとか思っ//とか、</p> <p>405 U あー。</p> <p>406 N 自己分析いっぱいやったといっ、</p>

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

- 407 N まだまだできるとか、
408 U はい。
409 N その準備を、例えば、一般的に言えるオッケーっていうラインが、
410 N 100パーセントだとすれば、
411 N 200パーセント準備する。
412 U はい。
413 N で、それぐらい200パーセント必要と思うぐらいすごいネガティブに準備をする。
414 N ネガティブに一つというよりは、
415 N 悲観的ですよ、いわゆる。
416 U そ、そうですね。
417 N 満足//満足しない。
418 U はい。
419 N その、今、現状に満足せずに
420 N ひたすら準備し続ける。
421 U あー。
422 N で、4月にいきましたと。
423 N 面接控えましたってなったら、
424 U はい。
425 N もうどんとこいと。
426 N 今度はオプティミスティックに//実行するっていう。
427 U はい。
428 N 悲観的に準備して
429 N 楽観的に実行する。
430 U はい。
431 N っていうのがまず1つと、
432 U はい。
433 N あとは自分らしさ。
434 N 自分の直感とか//、自分の個性とかっていうのを、
435 U はい。
436 U はい。
437 N 前面に出して行って、
438 【アラーム】
439 N 頑張っていくっていうのが、
440 N あの一//、ぜひぜひしてほしいなと思いますね。
441 U うーん。
442 U あー。
443 U すごく共感しますね。
444 N うん。
445 U 僕も一、一応、インターンしてるんですけども、
446 U なかなか大変だなって思って。
447 U はい。
448 【沈黙3秒】
449 N だから、頑張ってください。
450 U {笑い}
451 N {笑い}
452 N 不安なのはみんな一緒なんでね。
453 U あー、そうですね。
454 N うん。
455 U やっぱ不安ですよ。
456 N でもね、不安って、やっぱり、自分が今、どこにいるのとかさ、
457 U はい。
458 N 自分がいわゆるその、就活生全体を見渡した時に、
459 N 自分がどのレベルのいるのとか、
460 N 今の自分の準備ってこれで大丈夫なんかとか、
461 U はい。
462 N 「今、面接やったらできますか」って言われた時に、
463 N 「できません」ってそれ不安じゃないですか。
464 U はい。
465 N でも、それって準備って解消できることなんで、

【資料3-13】就職活動の相談
質問者U(NNS5)と応答者N

		<p>466 U はい。</p> <p>467 N その分、準備すればいいだけの話で、</p> <p>468 U は――。</p> <p>469 N 別にあの――、不安やからやばいって参ってる時間なんて必要じゃないんですよ。</p> <p>470 【沈黙2秒】</p> <p>471 U とても強いんですね。</p> <p>472 N 強くないですよ。</p> <p>473 N でも、強くないからこそ、</p> <p>474 N そういうふうになんか言いたくないと {笑い}、</p> <p>475 U {笑い}。</p> <p>476 N やっていけない//んで。</p> <p>477 U あ――。</p> <p>478 U 分かりました。</p>
Ⅲ.	1	<p>479 N 頑張ってください。</p> <p>480 U ありがとうございます、ほんとに。</p> <p>481 N ありがとうございました。</p> <p>482 N お疲れ様でした。</p> <p>482 U お疲れ様です。</p>

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	
大話段	話段			発話例
I.	1	1	N	はじめまして。
		2	N	どうぞ。
		3	C	よろしく {笑い} お願いします。
		4	N	よろしくお願いします。
II.	1	5	C	えーと、今日1番聞きたかったのは、
		6	N	はい。
		7	C	その一、就職中のストレス管理はどういうふうにしたのか、
		8	N	はい。
		9	C	にちょっと {笑い}、について聞きたかったんですけど、
		10	C	色々就職活動をしてるうちには、
		11	N	はい。
		12	C	色んなところにエントリー出したり、
		13	C	頭もちょっと痛くなって、
		14	C	色々ストレス受けたりすんですけど、
		15	C	それはどういうふうにあの、調節しましたか？
		16	N	えっとー、そうですね、だいたい月に1回か、2回は必ずー//、仲のいい友達と {笑い} 飲みに行ってきましたね。
		17	C	はい。
		18	C	＝あー、はい。
		19	N	やっぱり、あの一、皆持ってる不安は一緒に、
		20	N	これでいいのかなーとか、
		21	C	うん。
		22	N	面接どうやったんかなー、
		23	N	ちょっと失敗したとか//は皆必ずあることなので、
		24	C	はい。
		25	C	はい。
		26	N	で、まー、それを共有するではないですけど、
		27	C	はい。
		28	N	ま、お互い言いたいこと言い合って、
		29	N	お酒飲んで、
		30	N	酔っ払って、
		31	C	はい。
		32	N	で、次の日から {笑い} またリフレッシュ//してってことはやってみましたね。
		33	C	{笑い}
		34	C	あー、はい。
		35	N	あとは、ま、自分、アルバイトも就職活動中してたので、
		36	N	そこでお客さんと色んな話をして、
		37	C	はい。
		38	N	{笑い} お客さんにアドバイスもらったりとか//してましたね。
		39	C	{笑い}
		40	C	あーーー、そうですね。
		41		[沈黙4秒]
		42	C	アドバイス。
		43		[沈黙2秒]
	2	44	C	今、あの一、就職されている会社はどこですか？
		45	N	あ、えーと、内定をもらった会社//ですか？
		46	N	はい。
		47	N	はい、S（企業名）です。
		48	C	あ、そうですか。
		49	C	えー、それ、なんか、それを選んだ基準はありますか？
		50	N	えっとー、まず、総合商社であることと、
		51	C	はい。
		52	N	えーと、まー、総合商社の中で一番規模が小さいっていうこと。

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

	53	C	はい。
	54	N	で、あとは一、えーと一、社風。
	55	N	そのS（企業名）に//所属している社員の方々の、ま、雰囲気とか。
	56	C	はい。
	57	C	はい。
	58	N	ま、かん、言っちゃえば、
	59	N	すごくフラットな関係なんですよ。
	60	C	あー。
	61	N	上司と部下っていうのが。
	62	C	はい。
	63	N	仕事する時は仕事する。
	64	N	仕事が終わったら、
	65	N	すごく仲いいお兄ちゃんとお姉ちゃん、弟、妹みたいな関係なので、
	66	C	あー、はい。
	67	N	それがいいなと思って。
	68	C	いいですねー。
	69		[沈黙4秒]
3	70	C	えっと一、(2)説明会のことなんですけれども、
	71	N	はい。
	72	C	説明会ってすべて参加したほうがいいんですかねー、
	73	C	なんか色々あって一、
	74	C	友達の中には説明会全部行っちゃうって言って、
	75	C	いつもスーツの姿で//、学校も来ないんですし、
	76	N	うん。
	77	C	結構、説明会で色々忙しいんですけど、
	78	C	本当にそこまでするべきなのでしょう。
	79	N	えっと一、それは一、自分次第。
	80	C	自分次第。
	81	N	だから、どこまで、その一、例えば、ま、せっかくなので、僕の場合で言うと、
	82	C	はい。
	83	N	だいたい、えー、会社説明会って言うのは、
	84	N	会社の説明聞いて終わるんで、
	85	C	はい。
	86	N	それは、僕は時間の無駄やと思って//たんですね。
	87	C	うん。
	88	N	それやったら、インターネットで//IR情報とか、会社情報とか、
	89	C	はい。
	90	C	はい。
	91	N	その一、色々見れるので、
	92	C	あー、はい。
	93	N	そこで、興味があれば、今度はOB訪問をしたほうが、
	94	N	よりリアルな声を聞けるとかってたんですね。
	95	C	はい。
	96	N	だから、それをしていた//っていうのと、
	97	C	うーん。
	98	N	あとは、説明会とかセミナーでも、その一、例えばS（企業名）、自分が内定もらった会社でいうと、
	99	N	商社ビジネス体感セミナーとか//、実際商社ってどういうこと、どういう仕事をしてるんやっていうものを知れたりとか、
	100	C	はい。
	101	C	はい。
	102	N	そのS（企業名）DNA体感セミナーとか。
	103	N	それもう実際、社員のひとと座談会って分かります？
	104	C	はい。
	105	N	社員の人が入って、
	106	N	ま、5,60、5、6人から10人のちっちゃい小規模が何個もブースであって、
	107	N	で、実際に色んな話が聞けるっていうのは行きました。
	108	N	だ、ま、簡単に言うと、
	109	N	直接社員とパーソナルで、個人的に話せるもので//なければ、
	110	C	はい。

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

	<p>111 N あまり行く意味はないかなと思っていたので、</p> <p>112 C うーん。</p> <p>113 N そんなに全部行ってたわけでもないです。</p> <p>114 N ただ、相当興味のある会社であれば、</p> <p>115 C うん。</p> <p>116 N ただの説明会でも行く価値はあると思いますけど。</p> <p>117 C あー、そうですね。</p> <p>118 C なんか僕自分自身もそういうふうやってるんですけど、</p> <p>119 C ほんとに行きたい会社だけ行って、</p> <p>120 C なんか他に一、そこまでなんか興味のないところは、ただインターネットで読むだけで、</p> <p>121 N うんうんうん。</p> <p>122 C してるんですけど、</p> <p>123 C それでも、大丈夫でしょ、</p> <p>124 N 自分が大丈夫と思えば大丈夫。</p> <p>125 C あ//、そうですね。</p> <p>126 N やっぱ人それぞれやり方が違うので。</p> <p>127 C はい。</p> <p>128 C で一、結構それで {笑い} イライラしてまして//、今は。</p> <p>129 N うんうん。</p> <p>130 C みんななんか忙しいんですし、</p> <p>131 N うんうん。</p> <p>132 C なんで俺だけ暇なんだろうって {笑い} 思っ。</p> <p>133 N も一、あれですよ、あの一、12月、1月、2月、3月って、週に4回ぐらいバイトしてました//から。</p> <p>134 C あー。</p> <p>135 N</p> <p>136 N ま一、確かに、他業界見たほうがいいっていうのはあります。</p> <p>137 C はい。</p> <p>138 N ま一、もしかしたら、自分が興味ないと思った業界が興味あったかもしれない。</p> <p>139 C はい。</p> <p>140 N でも、実は、僕は、ある程度全部見てみて、</p> <p>141 N で、やっぱ興味がなかったんで、</p> <p>142 C うん。</p> <p>143 N 絞って。</p> <p>144 N で、結局時間はめちゃくちゃあった。</p> <p>145 N その分、部分、その分、行きたい企業は絶対行けようにはっていうふうにはしてました。</p> <p>146 C あー。</p> <p>147 C ねー。</p> <p>148 [沈黙1秒]</p>
4	<p>149 C エントリーシートってどれぐらい出したんですか？</p> <p>150 N 少ないですよ。</p> <p>151 N じゅー 6社ぐらいです。</p> <p>152 C 16社。</p> <p>153 N はい。</p> <p>154 C なんか、多くのところに出しちゃうと、</p> <p>155 C なんか頭の中、ごちゃごちゃになったりしないんですかね。</p> <p>156 N うーん。</p> <p>157 C 結構、色々あるんじゃないですか。</p> <p>158 C ないですかー//書くこととか。</p> <p>159 N えっとねー。</p> <p>160 N でも、自分16社出して、</p> <p>161 C はい。</p> <p>162 N お友達とか、それこそ50社とか出す人いますけど、</p> <p>163 N だいたい、いー、エントリーシート書くことって、</p> <p>164 N 学生時代頑張ったことはなんですか、</p> <p>165 C はい。</p> <p>166 N まずこれは確実にある。</p> <p>167 N で一、えーと、ま一、弊社を志望する理由っていう志望動機。</p> <p>168 C はい。</p>

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

	169	N	これも絶対ありますよね。
	170	N	あとま、いくつか。
	171	N	例えば、その広告であれば、
	172	N	その一、すごくクリエイティブな質問があったりとか、
	173	C	はい。
	174	N	メーカーであれば、
	175	N	S（企業名）だったら、
	176	N	S（企業名）の機器でどうのこうのとか、
	177	C	うん。
	178	N	まー、その会社独自の、まー質問がいくつかある場合もありますよね。
	179	C	はい。
	180	N	それはまー、それぞれにやるしかないんですけど、
	181	C	うん。
	182	N	その確実に出てくる学生時代頑張ったことと志望動機っていうのは、
	183	C	はい。
	184	N	まー、自分の軸さえあれば、
	185	N	だいたいコピペでできますよね。
	186	C	あー、はい。
	187	N	だから、重要な部分は、こんがらがるとは確実にないと思います。
	188	N	何書いたかって、まー、それはちゃんと保存しておくべきなんですけど、
	189	C	はい。
	190	N	でもだいたいおんなじようなことを//、就職活動の軸においては書くと思うので、
	191	C	はい。
	192	C	はい。
	193	N	まー、混乱することはないはずです。
	194	C	うん。
	195	N	と思います。
	196		[沈黙3秒]
5	197	C	あとー、なんでしょう、
	198	C	エントリーから面接まで、の流れで一番努力したのは、何ですか？
	199	N	うーんと、それは準備の段階でってことですか？
	200	C	はい。
	201	N	一番やったのは自己分析。
	202	C	自己分析ですか。
	203		[メモ8秒]
	204	C	自己分析で、何か、自分のことを知ることはほんとにできるんですかねー。
	205	N	{笑い} できますできます。
	206	C	できますか？
	207	N	むしろ、それをしないと、
	208	C	はい。
	209	N	やっぱり、論理的な組み立て、自分の言うこととか、
	210	N	自分が書くこと//の、論理的な組み立てっていうのが、
	211	C	はい。
	212	N	まー、しばらくになりますよねー。
	213	C	あー。
	214	N	だから、あとは、それをしっかりしていると、
	215	C	はい。
	216	N	その論理的な組み立てっていう構成が//、まとまっていると、
	217	C	はい。
	218	N	あのー、自分、例えば、面接とかES書く時にも、
	219	N	面接でこういうこと聞いてほしいから、
	220	C	はい。
	221	N	こういういー、エントリーシートの書き方をする。
	222	N	で、面接に行くと、
	223	N	こういうことをぜひ聞いてほしいから、
	224	C	うん。
	225	N	自己紹介に//、ちょっと複線を入れとくとか。
	226	C	はい。
	227	C	あーはい。

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

	228	N	てことができるんですよ。
	229	C	あー。
	230	N	そうすると、全部自分のペースに持っていけるんですよ。
	231	N	え、やば、こ、これ聞かれたらとかってことがない。
	232	N	逆に、こういうこと言ったら、
	233	N	こういうこと聞かれるから、
	234	N	こういうふうに答えて、
	235	N	こういう答え方すると、
	236	N	こういうふうなところ聞かれるから、
	237	N	また、こういうふうに答えてってやっていくと、
	238	N	全部自分が聞いてほしいこと聞いてくれるんで、
	239	C	はい。
	240	N	答えたいことが答えられる。
	241	C	うーん。
	242		[沈黙3秒]
	243	N	ま、それは別に、ま、自己分析をした上でのロジックなんで、
	244	C	はい。
	245	N	それもスキル名になっちゃうんですけどね。
	246		[沈黙1秒]
	247	N	でも、やっぱりちゃんとした物を書くとか、
	248	N	ちゃんとしたこと言うっていうのは、
	249	N	自己分析が重要になってきますよね、非常に。
	250	C	非//常に。
	251	N	非常に。
	252	C	そうですか。
	253	C	うーん。
	254		[沈黙3秒]
6	255	C	エントリーって早めに出したほうがやっぱ有利なんでしょうか。
	256	N	うーん、ていうのは、エントリーシートを出すってこと//ですか？
	257	C	はい。
	258	C	それに//関係なんですかね。
	259	N	あのー、選考にとってことですか？//有利かどうかって。
	260	C	はい。
	261	N	いや、関係ないですね。
	262	C	関係ないですか。
	263	N	あーと、うーん。
	264		[沈黙1秒]
	265	N	ま、ぎりぎりに出しても、
	266	C	はい。
	267	N	早く出しても、
	268	N	落ちるのは落ちるし、
	269	N	受かるのは受かるんで。
	270	C	うんうん。
	271	C	やっぱり関係ないんですね？、これは。
	272		[沈黙2秒]
	273	C	そっか。
	274	N	関係ないですね、うん。
	275		[沈黙10秒]
7	276	C	あと、理想と現実のあれもあるんじゃないですか、
	277	C	なんか行きたいところはここなんだけど、
	278	C	お金が、稼げないから、
	279	C	もうこれにしたいとか。
	280	N	あー、それは//、それは理想と現実のギャップというよりは、
	281	C	はい。
	282	C	はい。
	283	N	ギャップと言えは、
	284	N	ギャップなんですけど、
	285	C	はい。
	286	N	でも、それは自分、それこそ自己分析で優先順位をつけるじゃないですか。

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

	287	C	はい。
	288	N	だから、例えば、一定の収入以上であることが自分の中で最優先であれば、
	289	N	きっと自分のしたいことに目をつぶって、
	290	N	お金を取るべきだと思いますし、
	291	N	でも、一定の収入以下であっても、
	292	N	自分のやりたいことが、自分の中での最優先であれば、
	293	C	はい。
	294	N	そっちを取るべきじゃないですか。
	295	C	はい。
	296	N	それはもうご自身次第だと//思いますよ。
	297	C	うん。
	298		[沈黙3秒]
	299	C	Nさんの場合はどっちでしたか？
	300	N	{笑い}
	301	C	{笑い}
	302	N	うーん、ま、どっちかって言うと、
	303	N	したいことですね、最終的には。
	304	C	はい。
	305		[沈黙8秒]
	306	C	そうですか。
	307		[沈黙7秒]
8	308	C	ほんとにまだ、なんかちゃんとやってないので、
	309	N	はい。
	310	C	{笑い} 色々なんか質問も何をすればいいのかまだ分からないんですけども、
	311	N	はい。
	312	C	ほんとに不安なんですよね、今から。
	313	N	うんとー、うん、不安であれば、
	314	C	はい。
	315	N	あの、準備をするだけなんで。
	316	N	あの、不安やから、何すればいいか分からないじゃなくて、
	317	N	何すればいいか分からないじゃなくて、
	318	N	なんで不安になってるのかっていうことを考えて。
	319	N	じゃ、まず、例えば、ESまだ書いてないから、
	320	N	どういうふうに書き方すればいいか分からないから、
	321	N	ESまず書いてみようとか、
	322	C	はい。
	323	N	えー、この会社興味、この業界興味あるけど、
	324	N	興味あるだけで、まだなんもリサーチしてないって言うんであれば、
	325	N	やればいいし、
	326	C	はい。
	327	N	不安ってやっぱり山ほど出てくるし、
	328	N	なくなることはないけども、
	329	N	そのー、なくなることがない不安に対して、
	330	N	自分がそういう不安を解消していくっていう努力を、ずっと続けていけば、
	331	N	それが就職活動における準備に繋がっていくので、
	332	C	はい。
	333	N	あの、不安不安でやばいって思うんじゃないくて、
	334	C	はい。
	335	N	この不安はこっから出てきてるんで、
	336	N	これをまず解消しようというふうに、
	337	N	1つずつ、1つずつやっていだけやと思いますよ。
	338	C	うん。
	339	N	ま、不安なのはみんな一緒なんで。
	340	N	それを解消する努力をするかどうか、
	341	C	はい。
	342	N	たぶん、さ、そこに差が出てくるかと思うんで。
	343	N	別にたいしたことじゃないと思います。
	344	C	分かりました。
9	345		[沈黙36秒]

【資料3-14】就職活動の相談
質問者C(NNS6)と応答者N

		346 N 時間も時間なんで、あと何か1つ、もしぜひ聞きたいことがあれば。
		347 C あーはい。
	10	348 C 今、就職するまで、一番影響をした経験とかありますか？
		349 C これは、バイトとかインタ//ーンとかこれは役に立ったとか。
		350 N あー。
		351 N はねー、海外ボランティアですね。
		352 C あ、はい。
		353 N も、それが、すべてを{笑い}決めましたね。
		354 【アラーム】
		355 N ま、東南アジアとか//、アフリカで、ま、地域開発のプロジェクトというのを、//ま、やったのがきっかけですね。
		356 C はい。
		357 C はい。
		358 C あーー。
		359 [メモ9秒]
Ⅲ.	1	360 C ありがとうございます。
		361 N ありがとうございます。
		362 N 頑張ってください。
		363 C 頑張ります。
		364 N はい。

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	N	こんにちは。
		2	M	こんにちは。
		3	N	よろ//しくお願いします。
		4	M	お願いします。
		5	M	えっとMと//申します。
		6	N	Nです。
		7	N	よろしくお願いします。
II.	1	8	M	えーと、1番の質問は一、大学時、一番張り合いがあったことと後悔したところは何ですか。
		9	N	張り合いがあったこと。
		10	M	うん。
		11	N	と、{笑い}後悔したこと。
		12	M	うん。
		13	N	張り合いって頑張ったことですか？
		14	M	は、頑張ったこと。
		15	N	まあ、頑張ったこと//、そうですね。
		16	M	うん。
		17	N	ま、できるだけ、(1)それ、就職活動において//、聞いたことですか？
		18	M	うん。
		19	N	あー、言ったことですか。
		20	N	それとも、ほんとに自分が頑張ったことですか。
		21	M	うーん(1)、就職活動と関係、(1)あったもの。
		22	N	あったもの。
		23	N	は一、えーと、あれですね、海外ボランティアです。
		24	M	うーん。
		25	N	を一、まー、1番頑張りましたね。
		26	M	うーん。
		27	M	え、どこ行っただんですか。
		28	N	は、タイと//ベトナムとラオスと//、えー//一、マダガスカル。
		29	M	うん。
		30	M	うんうん。
		31	M	えー、すごい。
		32	M	あー。
		33	N	あと少しですけど、ケニアとタンザニアに//行きました。
		34	M	あー。
		35	M	えっと、それは一、A(大学名)のプログラム。
		36	N	あー、全然違い//ます、個人的に。
		37	M	全然。
		38	M	え、支払いして？
		39	N	そう//ですね。
		40	M	えー、そうなんだ。
		41	N	はい。
		42	M	えー、どのぐらい？ボランティア//行っただんですか。
		43	N	えっと、タイ、ラオスが10日間、ベトナムと10日間//、マダガスカル10日間//、ケニア、タンザニアが合わせて2週間ぐらいですね。
		44	M	うーん。
		45	M	うーん。
		46	M	うーん。
		47	M	え、どんなボランティアで//しましたか。
		48	N	えっと、マダガスカルとラオスとタイとベトナムに関しては//、あ、うーん、色々してるんですけど、
		49	M	うん。
		50	M	う//ーん。
		51	N	まー、例えば、小学校の建設のプロジェクトだったり、

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	52 M	うん。
	53 N	農業センター//の建設のプロジェクトで//あったり。
	54 M	うん。
	55 M	うんうん。
	56 N	あとはまー、農業ですよ。
	57 N	パイナップル//とか、シナモン//とか、ゴムの木//とか、
	58 M	あー。
	59 M	あー。
	60 M	あー、確かに。
	61 M	で、1番後悔 {笑い} したところはどこですか。
	62 N	1番後悔したところはー、そうですね、ま、大学1年生の時とか2年生の時に、
	63 M	うん。
	64 N	まー、あまりアクティブにならなかったことですね。
	65 M	あー。
	66 N	もう授業に行って、
	67 M	うん。
	68 N	バイト行って
	69 N	寝て、
	70 N	バイト行って
	71 N	寝てって//いう生活してたので、
	72 M	あー。
	73 M	あー、確かに。
	74 N	それはー、なんか後悔//しますね。
	75 M	うんうん。
	76 N	なんか色んなところに行って、
	77 N	色んなことをすればよかったなー//って思っ。
	78 M	うーん。
	79 M	え、今、何学部ですか？
	80 N	K学部です。
	81 M	あ、そう。
	82 M	あー、一緒。
	83 N	ー//緒。
	84 M	一緒です。
	85 M	あー、そっかそっか。
	86 M	えー。
	87	[沈黙1秒]
	88 M	確かに。
	89 M	バイトはどんなバイトしましたか？
	90 N	えっとね、ずっと飲食関係//です。
	91 M	あー。
	92 N	レストランとかバー//とか。
	93 M	あー、確かに。
	94 M	うんうん。
2	95 M	はい、えっとー、企業選びにおいてー基準は何でしたか？
	96 N	したいことができるか、
	97 M	うん。
	98 N	いたい環境であるか、の2つです。
	99 M	うんと、したいこ//ととー？
	100 N	えっと、したいことと、
	101 M	いたい環境。
	102 N	雰囲気//とかですね、会社の。
	103 M	あー、いたい。
	104 N	いたい。
	105	[沈黙2秒]
	106 M	うーん。
	107	[沈黙2秒]
	108 M	何がしたかったんですか。
	109 N	ま、まー、事業投資。
	110 M	あー。

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

- 111 N 海外ボランティアで経験したことを//ビジネスにしたいなど。
- 112 M あー。
- 113 M あーー。
- 114 M え、今、どんな業界？
- 115 N えっと、自分が行く会社は一、商社です。
- 116 M あーー。
- 117 N それこそまー、事業投資をしている会社です。
- 118 M うんうん。
- 119 [沈黙2秒]
- 120 M で、いたい環境？とかは一。
- 121 N は一、あの一、まー一、上下関係がきついっていうのも別にまー一いいんですが、
- 122 M う//ん。
- 123 N それよりも//、まあ、仕事と仕事じゃない時の、オンとオフがしっかりしていて、
- 124 M うん。
- 125 M うーーん。
- 126 N まー一、先輩社員、上司もみんな割とフラットで//ていう環境がよかったなって思います。
- 127 M うーん。
- 128 M うんうんうんうんうん。 うん、うんうんうん
- 129 [沈黙3秒]
- 130 M うーーん。
- 131 [沈黙2秒]
- 132 M 事業投資ってどんな？
- 133 N 事業投資、ってのは、うんと一、例えば、石油を//例に出すと、
- 134 M うん。
- 135 N ま、ここに油田があります。
- 136 M うん。
- 137 N でも、誰もそれを掘ってませんっていう時に、
- 138 M うん。
- 139 N その一、石油会社っていうか、
- 140 N ま、石油を掘る会社//をまず連れてきて、
- 141 M うんうん。
- 142 N これだけお金をか、あげるから、
- 143 M うん。
- 144 N えー一、「そこで石油を掘ってくれ」//って言って、
- 145 M うんうん。
- 146 N ま、石油掘ります。
- 147 N じゃ、今度は石油を運ぶ会社を連れてきて、
- 148 M うんうん。
- 149 N 「こんだけお金、は、あげるから、
- 150 M うんうん。
- 151 N 運んでくれ」って言って。
- 152 M あー一。
- 153 N 「今度はそれをまた運んでくれ」、
- 154 N 「それを販売してくれ」//っていうところまでを//全部お金を出して、
- 155 M うーん。
- 156 M うん。
- 157 N やってもらって、
- 158 M うん。
- 159 N そこで、それぞれで利益が出るので、
- 160 M うん。
- 161 N その利益のマージン、利益を、その、マージンを、まあ、今度は商社の利益として、
- 162 M あー一。
- 163 N もらうって//いうビジネスモデル。
- 164 M うん。
- 165 M あー一、確かに。
- 166 N をしたかった//っていうのがあったんですね。
- 167 M うん。
- 168 N ま、それをしているのが商社なんで、

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	169	M	あ//――。
	170	N	商社に行きますと。
	171		[沈黙2秒]
3	172	M	えーと。
	173		[沈黙1秒]
	174	M	うーん、就職活動から学んだことは何です、か？
	175	N	学んだことー。
	176	M	はい。
	177	N	は――、そうですね、何かな。
	178	N	ま、色んな人がいるなっていうのと、
	179	M	うん。
	180	N	うーん。
	181		[沈黙1秒]
	182	M	いいことですか、それ。
	183	N	いいこと//ですよ。
	184	M	うんうん。
	185	N	いいこと、いいことというふうには取ってます。
	186	M	うん。
	187	N	色んな人がいるな――っていうのと、
	188	N	やっぱりこう、だからこそ、すべての人に対するリスペクト//は一、
	189	M	うんうん。
	190	N	忘れてはいけないな――っていうのは一//、学びましたね。
	191	M	うん。
	192	M	うん。
	193		[沈黙2秒]
	194	M	で、色んな人に会ったっていうのは、なんか企業にエントリーシート出して、
	195	M	面接とか受けてっていうことですか？//なんか。
	196	N	そうですね、ま、例えば、社員のOB訪問//とか、会社のセミナー//と
	197	M	あーはい、確かに。
	198	M	＝うん。
	199	M	うん。
	200	N	その――、社員の人以外にも//、例えば、他の大学の学生であったりとか、
	201	M	うん。
	202	M	うんうん、うんうんうん。
	203	N	でま――、選考とかセミナーとかの過程で会う人たち。
	204	M	うん。確//かに。
	205	N	とかもそうですねー。
	206	N	他にも色んな人いるなーと。
	207	N	あとは、まあ、留学とかも//してたんで、
	208	M	うん。
	209	N	そこで会った人とか。
	210	M	うん。
	211	N	まー、就職活動、ま、色んな人に会ってきて、
	212	M	うん。
	213	N	で、やっぱり色んな人と会ってて
	214	N	楽しいな――って思ってたのが、
	215	M	うん。
	216	N	ま、就職活動を通して確信に変わったというか。
	217	M	うんうんうん。
	218	N	っていう感じですね。
	219		[沈黙2秒]
	220	M	うんと――。
	221		[沈黙2秒]
	222	M	うんと――。
	223		[沈黙1秒]
	224	M	うーん、私、うん。
	225		[沈黙2秒]
4	226	M	就活する、の情報とかは一、どこで、どこから1番えっと――、得た？

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	227 M	どこから。
	228	[沈黙2秒]
	229 N	先輩とか//かな。
	230 M	はい、あー。
	231 M	うーん。
	232 N	先輩、友人。
	233 M	うーん。
	234	[沈黙1秒]
	235 N	ですね、基本的//には。
	236 M	で、ゼミは誰、取りましたか。
	237 N	K先生です。
	238 M	あー、分からない。
	239 N	分からないですか？
	240 M	かた、え、何の、何の関係の授業。
	241 N	IRです。
	242 M	あーー、そうなん。
	243 M	かたお、
	244 N	K（教員名）。
	245 M	K（教員名）。
	246 M	うーん。
	247	[沈黙1秒]
5	248 M	えー、なんでK（学部名）？
	249 M	K（学部）って、メリットありましたか？あの、就活、の時。
	250 N	就活の時に//ですか？
	251 M	はい。
	252 N	えーーー、ありましたね。
	253 M	うん。
	254 N	ありましたね。
	255 M	うんうん。
	256 N	その、えっとー、Kさんが//言うメリットにもよりますけど、
	257 M	はい。
	258 M	うん。
	259 N	例えば、えー、OB訪問する時とか、
	260 M	うん。
	261 N	ま、自分は先輩がよく知ってたので、
	262 N	K学部って結構大手に行ってる人が多いんで、
	263 M	うん。
	264 N	ま、先輩がそこにいたってのが、
	265 M	うん。
	266 N	ま、メリットとしてあるっていうのと、
	267 M	うん。
	268 N	えー、ボストンキャリアフォーラムに行けたっていうのと、
	269 M	あ、行ったんだ。
	270 N	あとは//、えーーー、そうですね、
	271 M	うん。
	272 N	英語っていう点で//、「英語できますよ」って言わなくても、
	273 M	うん。
	274 N	その点ですでもう評価されてる//っていう。
	275 M	うーーん。
	276 N	学部のバリューがあったっていうのは、
	277 M	うんうん。
	278 N	まあ、メリットかもしれないですね。
	279 M	うーん。
	280 M	あ、ボストンキャリアフォーラム行ったんですか。
	281 N	行きました。
	282 M	え、なんで行った//んですか。
	283 N	な、なんで {笑い} 行った。
	284 M	たいてい日本人だと行かないイメージあるんですけど、
	285 M	外国//人のほうが、なんかいっぱい行って。

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	286	N	あ。
	287	M	まー、選考対象じゃないんで、4月、3月卒なんで。
	288	N	ただ、面接したかったんですよね。
	289	M	うんうんうん。
	290	N	それまでは一//、あの一、ベンチャー企業とか面接とか受けてたんですけど、
	291	M	うん。
	292	M	うん。
	293	N	でも、大手って面接できないじゃないですか？
	294	M	うん。
	295	N	12月、4月過ぎ//ないと。
	296	M	うん。
	297	N	けども、11月の時点で、大手の//面接ができる。
	298	M	うんうん。
	299	N	で、運がよければ、さい、えー、内定が出る//っていうので、
	300	M	あー一//、確かに。
	301	N	まー//、行きましたね。
	302	M	うん。
	303	M	うん。
6	304	M	え、英語はどのぐらい？
	305	M	あの、なんか、留学行ったことありますか？
	306	N	高校で1年、大学で1年行ってます。
	307	M	あー一、どこ？
	308	N	両方ともイギリスです。
	309	M	イギリス行ったんだ。
	310	M	私もアイルランドに//高校の時、
	311	N	あー。
	312	M	6か月ぐらい//交換留学行って。
	313	N	はいはい。
	314	M	あんまり天気よくなかった//んですけど {笑い}、
	315	N	{笑い} ね、あそこはね。
	316	M	//イギリスも。
	317	N	イギリスもそう。
	318	M	うん。
	319	M	でも、それがいい、よ、よかった。
	320	N	イギリス好きなんです//よね。
	321	M	あー。
	322	N	何が好きかって言われても、
	323	N	色々//あるんですけど、
	324	M	うんうん。
	325	N	でも、イギリス好きですね。
	326	M	うん。
	327	M	え、ロンドン、で、したか？
	328	N	ロンドンではないですけど、
	329	M	うんうん//うんうん。
	330	N	ロンドンが世界1好きですね、
	331	M	あー。
	332	N	東京よりも。
	333	M	えー、そうなんだ。
	334	M	うん。
	335	M	そっか。
	336	M	私ちょっとアイルランド後悔して。
	337	N	{笑い} そうなん//ですか。
	338	M	{笑い}
7	339	M	とー、うーん、なぜ日本で、あの一、これ、な、なんでここで、しか、活動したいんですか？
	340	N	日本でですか？
	341	M	はい。
	342	N	日本の会社に入りたかったからです。
	343	M	あー。
	344	M	そう//なんだ。

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

- 345 N ま、これからずっと日本を拠点に//生活していきたいなと思ってて、
346 M うんうん。
347 M うんうん。
348 N でも、海外でも働いてみたいと思って//たので、
349 M うんうんうん。
350 N 外資系に入っちゃうと、
351 M う//んうん。
352 N まー、海外出張はあっても、
353 M うん。
354 N 駐在ってのはない。
355 N 駐在って分かります？
356 M うん。
357 N えっとー、3年ぐらい//えっと、例えば、中国だったら中国、
358 M はいはいはい。
359 N 韓国だったら韓国、
360 M うんうん。
361 N アメリカだったらアメリカ//の支社。
362 M うんうん。
363 N ブランチで//、えーとと、仕事をする。
364 M うん。
365 M うんうんうん。
366 N 3年とか長期に渡って。
367 M あー、あー、あー。
368 N を、駐在って言うんですけど、
369 M あー。
370 N 外資系の場合それがない//んですよ。
371 M あー。
372 N 日系の場合はあるんですよ。
373 M あ、そうなんだ。
374 N だから、日系に行きたかったっていうのがありますね。
375 M うん。
376 N で、日本です。
377 M え、外資系は何がありますか？
378 M 外資系は海外に行けないんですか？
379 N 海、外資系の企業は//、日本人を日本で採用するのって、
380 M うん。
381 N 別に海外に行ってほしいからじゃないですか。
382 M あー。あー。
383 N 日本で働いてほしいから、
384 M あー。
385 N 日本で採るのに、
386 N わざわざ日本で採った人を海外に飛ばす必要ってないじゃないですか。
387 M あー。
388 N それって例えば、アフリカに飛ばしたいっていうのやったら、
389 M うんうん。
390 N アフリカで採ればいいし、
391 N それが駄目であれば、
392 M うん。
393 N 例えば、ヨーロッパで採用した人を、
394 M うんうんうん。
395 N アフリカに飛ばせばいいだけの話だし、
396 M はい。
397 N 南米やったらアメリカ本社//採用した人を、飛ばせば言い訳やし。
398 M うんうんうん。
399 M うんうんうん。
400 N わざわざ日本から、を、採用して、
401 M うんうん。
402 N 日本からどっかに飛ばすよりは、
403 N そっちから//飛ばしたほうがいいですし、

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	404	M	確かに。	
	405	M	うん。	
	406	N	アジアの拠点として日本の支社//があるわけで、	
	407	M	うんうん//うん。	
	408	N	で、そこで働いてほしい//人を、そこで採用するんで、	
	409	M	うんうん。	
	410	M		あー。
	411	N	出張はあっても駐在はないですね。	
	412	M	うーーん。	
	413	N	ないと言うか少ないです//よね、かなり。	
	414	M	うーーーん。	
	415	M	あ、そうなんだ。	
	416	N	一見、海外で働きたいと思って	
	417	M	うん。	
	418	N	外資系見る人多いですけど、	
	419	N	基本的に外資系は現地採用なんで、	
	420	M	あーー。	
	421	N	現地採用はなかなか外に出ないですよ。	
	422	M	うーーん、そうなんだ。	
	423		[沈黙3秒]	
	424	M	私も外資系希望//、分かんなくなっちゃった。	
	425	N	うん。	
	426	M	うーーん。	
	427	N	あとは、本社がよかったっていうのはありますね。	
	428	M	あーー。	
	429	N	外資系って日本で入っても、	
	430	M	あー。	
	431	N	本社じゃないじゃないですか。	
	432	M	うん。	
	433	N	支社じゃないですか。	
	434	M	うんうん。	
	435	N	それは、あんまり、なんでかって言われると、	
	436	N	分からないんですけど、	
	437	M	うん。	
	438	N	ま、いや、いややったと言うか。	
	439	M	うんうん。	
	440	N	海外にバンバン出してほしいっていうのはありますよね。	
	441	N	ま、日本の会社って海外で生活できる人って//少ないんで//、やっぱり。	
	442	M	うん。	
	443	M	うんうん。	
	444	N	だから、「海外行きたいです」って言ってるほうが//、重宝されるんで、	
	445	M	うん。	
	446	M		あー。
	447	N	いいかなって思いました。	
	448	M	あー、確かに。	
	449		[沈黙2秒]	
	450	M	うーーーん。	
8	451	M	あとー、(3) 就活活動を、就職活動を成功させたポイントはなんですか？	
	452	N	うん、何を持って成功って言いますか？	
	453	M	うんと、なんか内定もらって、	
	454		【アラーム】	
	455	M	あーー。	
	456	N	はい。	
	457	N	内定。	
	458	M	なんか1番行きたい、ま、ま	
	459	N	あ、1番行きたい会//社に？	
	460	M	1番行きたいかどうか分からない//けど。	
	461	N	1番行きたい、第1志望でしたよ。	
	462	M	あ、ほんとです//か？	

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

	463	N	はい。
	464	M	あー。
	465	M	で、なんか、できた。
	466	N	あ、あ、自//分が行きたかった会//社に一、行けた。
	467	M	成功できた。
	468	M	会社に一。
	469	N	うん。
	470	M	どうやって？
	471		[沈黙1秒]
	472	N	えーと、自分はどんな人間かを知ることと、
	473	M	うんうん//うんうん。
	474	N	自分が何したいかって思っていることを知ること//と、
	475	M	=うんうん。
	476	N	あと、会社がどういう人材を求めるかっていうのを、
	477	N	知ることです。
	478	M	うーーん。
	479		[沈黙1秒]
	480	M	それは、あのー、しゅ、なんだろ、説明会とか行ったり、
	481	M	OB OG、訪問したりしてー//仲間と、
	482	N	そうですね。
	483	M	あ、そう//なんだ。
	484	N	色んな人に聞い//て。
	485	M	聞いて。
	486	M	あ、そうなんだ。
	487		[沈黙2秒]
9	488	M	うーーん、なんか私も今、3年前期ですけど、
	489	M	来年の4年から就活はじま、始ま//ると思うんですけど、
	490	N	うんうん。
	491	M	自分が何がしたいか分からなくて。
	492	N	だから、例えば//、何がしたいって言っても、
	493	M	うん。
	494	N	そのー、別に具体的じゃなくてよくて、
	495	M	うんうん。
	496	N	何に、何がしたいって逆に言えば、
	497	N	何をしてる時が楽しい//かとか、
	498	M	うんうん。
	499	N	何をしてる時に喜びを感じるかで、
	500	M	うんうん。
	501	N	例えば、あのー、人に物を売った時に、
	502	M	うん。
	503	N	喜びを感じるので、
	504	M	うんうん。
	505	N	「メーカーでも物を売りたいです。」//って言えば、
	506	M	うん。
	507	N	じゃ、何って言った時に、
	508	M	うん。
	509	N	そこで絞れるじゃないですか。
	510	M	うん。
	511	N	食品なんですか、
	512	N	機械なんですか、
	513	M	うんうん。
	514	N	はたまた、こういう紙なんです//か、
	515	M	うんうん。
	516	N	繊維なんですか、
	517	M	うんうん。
	518	N	化学品なんですか。
	519	M	うん。
	520	N	で、物に//、色々プリファランスがあって、
	521	M	うん。

【資料3-15】就職活動の相談
質問者M(NNS7)と応答者N

		522 N	決めていくじゃないですか。
		523 M	うん。
		524 N	とか、別にそのやりたいことをざっくりしててよくて、
		525 M	うん。
		526 N	で、その中でさらにまたつめていけばいいんじゃないですか。
		527 M	うんうん。
		528 N	もともと最初から具体的に打たずに、
		529 M	うん。
		530 N	なんかざっくりと//、人がよろ、人に「ありがとう」って言われたら、
		531 M	うん。
		532 N	すごく嬉しいんですって思ったりしたら、
		533 M	うんうん。
		534 N	そのありがとうの中でも、
		535 N	自分がコミットしてのありがとうなのかとか、
		536 N	どういうふうなコミットをしてのありがとうなのかとか。
		537 N	とりあえずありがとうを言われたかったってそんな人いないじゃないですか。
		538 M	はい。
		539 N	自分がやりたいことあって、
		540 N	それで、そこで、感謝されるのであれば、
		541 M	うん。
		542 N	それ仕事にしたいですって思えば、
		543 M	うん。
		544 N	それでいいですし。
		545 M	うん。
		546 N	それをだから、自己分析//ですよね。
		547 M	うんうんうん。
		548 N	そうすれば出てきますよね。
		549 M	あー。
		550 M	自己分析、大事。
		551 N	大事です。
		552 N	最重要項目//です、それは。
		553 M	うん。
		554 M	それはあー、就活始めるから、
		555 M	あのあー、はじめましたか？あの、自己分析っていう、
		556 N	うん、もともと自分を客観的に見るタイプ//やったんで、
		557 M	あー。
		558 N	人よりはそのプロセスっていうのは短かったと思います。
		559 M	うーん。
		560 N	まー、らくやったとは//思いますけど。
		561 M	うんうんうん。
		562 N	でも、らくじゃなくてもやるべきやと思います、それは//絶対。
		563 M	確かに。
		564 M	はい、以上です。
		565 N	はい。
Ⅲ.	1	566 M	あり//がとうございました。
		567 N	お疲れ様でした。
		568 N	ありがとう//ございました。
		569 M	ありがとうございます。

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

話段区分		発話番号	参加者	発話例
大話段	話段			
I.	1	1	J	おはようございます。
		2	N	どうも、おはようございます。
		3	J	ここで？
		4	N	はい。
		5	N	どうぞ。
		6	J	はい。
		7	J	え、自己紹介から。
		8	N	あ、どうぞどうぞ。
		9	J	私、S学部の1年//のJです。
		10	N	はい。
		11	J	韓、韓国出身です。
		12	N	はい。
		13	J	はい、以上です。
		14	N	はい、よろしくをお願いします。
		15	N	Nです。
		16	J	はい。
II.	1	17	J	えっと、質問なんですけど、最初に。
		18	N	はい。
		19	J	大学時代にやっておくべきことは何かっていうことなん//ですけど。
		20	N	はい。
		21	J	なんか、資格とか、ボランティアとかサークルとかインターンとか色々あるんですけど、
		22	N	はい。
		23	J	就活のために、大学時代やっておくといいな一つということがあったら//教えてください。
		24	N	あ————。
		25	N	そーですね、(1)インターンシップはしたほうが//いいですね。
		26	J	インターン。
		27	N	でー、もう一つは、えっと、自分がー、夢中になれることを一つ。
		28	J	夢中？
		29	N	うん、少なくとも一つ。
		30		[沈黙6秒]
		31	N	を、まー、1つや2つぐらいは。
		32	N	まだ1年生だから、たっぷり、たっぷり時間あると思うんで、
		33	J	はい。
		34	N	やっとかべきかなとは思いますが。
		35	J	ちなみに、Nさんは、自分が夢中になれる、こと。
		36	J	あ、仕事に就いたんですか、それで。
		37	N	えー {笑い} と、仕事になると別ですよ。
		38	J	あ、はい。
		39	N	なんかこの夢中になれることをするっていうのは//、こうやっぱ本気になるってことじゃないですか。
		40	J	はい。
		41	J	はい。
		42	N	やっぱりなんかする時に、
		43	N	自分が本気になれば、
		44	J	はい。
		45	N	その自分の素というか、
		46	N	本来の自分というか、
		47	N	てのも見えてくると思うんですよ。
		48	N	だから、自分がすごく楽しいっていう時に、
		49	N	自分はどんな表現の仕方をするのかとか、
		50	J	はい。
		51	N	自分はどういうふうな {笑い} ま、感情になるのかとか、
		52	J	うん。
		53	N	まー、夢中になれることでも本気になれることでも、

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

		<p>54 N 何か1つやっとならば、</p> <p>55 N 色々な自分が見えてくると思うんですよ。</p> <p>56 J うん。</p> <p>57 N 例えば、ま、例えば、体育祭とかで一//、4年間スポーツするって時も、</p> <p>58 J はい。</p> <p>59 N 本気でみんなやるじゃないですか。</p> <p>60 N 大学で入らんでいい、やらなくてもいいことやってるわけですからね、スポーツする人っていうのは。</p> <p>61 N 大学、高校まで、日本で、高校まで、自分もそうなんですけど、</p> <p>62 J はい。</p> <p>63 N ずっと高校3年生まで、ずっと部活やって来て、</p> <p>64 J はい。</p> <p>65 N でも、大学ではしてないですよ。</p> <p>66 N 大学で部活とかやるって人は相当レベルが高い人たちなので、</p> <p>67 J はい。</p> <p>68 N それを本気でやるってことじゃないですか。</p> <p>69 N したら、大変なこともあるし、</p> <p>70 J はい。</p> <p>71 N 悔しいこともあるし、</p> <p>72 N でも、嬉しいこともあるして。</p> <p>73 N それを本気になることで、</p> <p>74 N こう色々学ぶことっていうのがあると思うんで、</p> <p>75 J はい。</p> <p>76 N 1つ何か本気になれることとか、</p> <p>77 N 夢中になれることってのはやっとならばきやな一とは思います。</p> <p>78 [沈黙2秒]</p> <p>79 J はい、分かりました。</p>
2		<p>80 J あと、次は、インターン、の情報はどこで集め、るんですか？</p> <p>81 N うーん、色んなところですね。</p> <p>82 N 色んなところ。</p> <p>83 [沈黙2秒]</p> <p>84 J 例えば。</p> <p>85 N ま、ここであれば、</p> <p>86 J はい。</p> <p>87 N 学部の、大学のとか、キャリアセンターに情報があると思いますし、</p> <p>88 N あとは、ま、自分の興味ある業界の会社のHPとかにもありますし。</p> <p>89 [沈黙1秒]</p> <p>90 N ネットで、も全然調べられますし。</p> <p>91 [沈黙3秒]</p> <p>92 J Nさんは何年からインターン始めたんですか？何年からというか。</p> <p>93 N インターン、自分がしたのは、インターン//1度だけで、</p> <p>94 J はい。</p> <p>95 J はい。</p> <p>96 N それは一、えーと、去年の夏ですね。</p> <p>97 J 去年の夏っていうのは3年生？//の時か。</p> <p>98 N そうです。</p> <p>99 N でも、してる人は1年生からやったりしてます//から。</p> <p>100 J あ、はい。</p> <p>101 [沈黙2秒]</p>
3		<p>102 J で、就活で一番苦労した点は？</p> <p>103 N うんと一、筆記試験の//勉強。</p> <p>104 J 筆記試験。</p> <p>105 N ですね。</p> <p>106 J 筆記試験って？</p> <p>107 N 筆記試験とかテストセンターとかSPI//とか。</p> <p>108 J あ。</p> <p>109 N あるんですけど、</p> <p>110 J はい。</p> <p>111 N テストあるんです。</p> <p>112 N 受けなきゃいけないんですよ。</p>

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

	<p>113 J その勉強、</p> <p>114 N 参考書とか出てます。</p> <p>115 J 参考書見て、</p> <p>116 J ちなみにどんな問題、筆記試験って。</p> <p>117 N どんな問題？</p> <p>118 J はい。</p> <p>119 J ひっかかった部分とか。</p> <p>120 N ひっかかった部分。</p> <p>121 J はい。</p> <p>122 N 筆記試験って基礎学力なんですよ、筆記試験って。</p> <p>123 N それが自分にないんで、</p> <p>124 N 苦労しました。</p> <p>125 J え？でも、A（大学名）。</p> <p>126 N W（大学名）はね//、あの、その試験自体は//、中学、日本の中学受験とかの//、やつなんですよ。</p> <p>127 J はい。</p> <p>128 J はい。</p> <p>129 J ふーん。</p> <p>130 N だから、いわゆる、算数とか数学とかなんですね。</p> <p>131 J うん。</p> <p>132 N あとは、まあ、言語っていう日本語力なんですけど。</p> <p>133 J はい。</p> <p>134 N 非言語、言語ってあって、</p> <p>135 N 言語って日本語のほうは得意や、なほうだったんですけど、</p> <p>136 J はい。</p> <p>137 N 非言語っていう、算数のほうが苦手なんですよ。</p> <p>138 N 自分、中学校の時とか、</p> <p>139 N 算数とか数学って、ずっと苦手で、</p> <p>140 J はい。</p> <p>141 N で、大学受験って、数学とか受けなくていいんで。</p> <p>142 J あ、そうですね。</p> <p>143 N だから、その数学ができなかったんで、</p> <p>144 N 苦労しました、テストで。</p> <p>145 J じゃ、それで、それを、どうやって乗り越えたって。</p> <p>146 N それは、乗り越え切れませんでした。</p> <p>147 J え？</p> <p>148 N 努力が足りずに。</p> <p>149 J え、じゃ、す、この、</p> <p>150 N あ、もちろん受かった会社もありますよ。</p> <p>151 J はい。</p> <p>152 N でも、落ちた会社も多かった//んで、</p> <p>153 J はい。</p> <p>154 N それを乗り換えたかと言うと、</p> <p>155 J はい。</p> <p>156 N 自分としては乗り越えてなかったですね。</p> <p>157 [沈黙2秒]</p> <p>158 J うーーーーーん {笑い}。</p> <p>159 N だから//、努力が足りなかった//ってことですね。</p> <p>160 J はい。</p> <p>161 J はい。</p> <p>162 [沈黙5秒]</p>
4	<p>163 J え、就活っていつから始めたんですか？じゃあ。</p> <p>164 N 10月ぐらいですね、始めたのは。</p> <p>165 J 去年//の？</p> <p>166 N はい。</p> <p>167 J で、就活決まったのは。</p> <p>168 N えー、4月です、今年の。</p> <p>169 [沈黙1秒]</p> <p>170 J 4月で、今年。</p> <p>171 J 4月から。</p>

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

	<p>172 J で、なんか、就活はいつから始めることが一番いいかなと。</p> <p>173 [沈黙2秒]</p> <p>174 N え、な、何を持って就活って言うかですね。</p> <p>175 J 何を持ってっていうのは。</p> <p>176 N だから、例えば、会社の説明会とかに行くのを就職活動と言うのであれば、</p> <p>177 N 12月の1日からでないと始めれないですし、</p> <p>178 N たぶんそれこそ、筆記試験とかSPIとかの勉強であれば、</p> <p>179 J はい。</p> <p>180 N 1年生からでもやれることですし、</p> <p>181 N インターンシップも1年生からやれることですし。</p> <p>182 J うーん。</p> <p>183 N そういうふうなのすべて就職活動と言うのであれば、</p> <p>184 N いつから始めたらいいかはなくて、</p> <p>185 J はい。</p> <p>186 N 始めたい時期から始めればいいと思います。</p> <p>187 J なんかエントリーシートとか出す時っていうの、だとしたら。</p> <p>188 N エントリーシート出すのは、だいぶ後です。</p> <p>189 N 2月とか3月とかです。</p> <p>190 J なんか外資とかはもっと早いと聞いたんですけど。</p> <p>191 N 外資系とかは一、えー、今年は、確かじゅーがつ。</p> <p>192 N じゅーがつ、11月、10月、11月とかですね。</p> <p>193 N 早い時は、夏とか、8月9月とか。</p> <p>194 N 外資系で多いのは、インターンシップジョブって言うのがあるんですよ。</p> <p>195 N たぶん証券会社とか金融業界の、例えば、金融会社とか投資銀行とかやったら、</p> <p>196 N あのー、サマージョブとかウィンタージョブっていうのがあって、</p> <p>197 N いわゆるインターンですよ。</p> <p>198 N インターンシップの選考を経て、</p> <p>199 N インターンシップ受かりました、</p> <p>200 N インターンシップをしまし、1ヶ月ぐらいしました。</p> <p>201 N 1ヶ月、1週間2週間しました。</p> <p>202 J はい。</p> <p>203 N そこで、実力が認められたら、</p> <p>204 N その時点でもう内定出るんですよ。</p> <p>205 J インターンで内定もらえるん//で</p> <p>206 N もらえます。</p> <p>207 N 有能であれば、</p> <p>208 N 優秀//であれば。</p> <p>209 J {笑い}</p> <p>210 N それ以外にちゃんとインターンシップじゃない選考過程を通るのであれば、</p> <p>211 N まあ、8月9月10月あたりから、例えば、M(企業名)とか、B(企業名)とか、えーと、G(企業名)とかいう外資系とかは、選考始まりますね。</p> <p>212 [沈黙5秒]</p> <p>213 J うーん、はい。</p>
5	<p>214 J あ。</p> <p>215 N 大丈夫ですか。</p> <p>216 [沈黙3秒]</p> <p>217 J そうですね。</p> <p>218 J あ、質問終わっちゃった。</p> <p>219 [沈黙4秒]</p> <p>220 N 大丈夫ですか。</p> <p>221 J はい。</p> <p>222 N 全部分かりました?//喋ったこと。</p> <p>223 J はい。</p> <p>224 [沈黙5秒]</p>
6	<p>225 J えっと、なんか、じゃ、ほんとインターンで内定もらえる人って、どんぐらいい人ですか?</p> <p>226 N どんぐらい。</p> <p>227 [沈黙1秒]</p> <p>228 N どんぐらいでしょうね。</p> <p>229 J {笑い}</p>

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

- 230 [沈黙1秒]
- 231 N 厳しいですよ、たぶん。
- 232 J 普通に、
- 233 N 外資系って、外資系の何がしたいんですか？
- 234 N 外資系って、あの、日系と外資系っていう//2つのただ単なる区切りじゃないですか。
- 235 J はい。
- 236 N でも、日系にも外資系にも色々業界あるじゃないですか。
- 237 J はい。
- 238 N たぶんまだ、あまり、サーチ、リサーチしてないから、
- 239 J はい。
- 240 N そこまで詳しくは分からないと思うんですけど、
- 241 N 外資系っていわゆる//、どういう業界のことを思ってますか？
- 242 J はい。
- 243 J なんか、私、まだ、外資系とか日系とかあんま考えたことなくて、
- 244 N うん。
- 245 J ただなんか、私、美容とか、ファッションとか興味あるんで、
- 246 J なんかインターンやってたんですけ、
- 247 J インターンというか、A（大学名）でやるプロフェッショナル//ワークショップ。
- 248 N うんうん。
- 249 J それで、K（企業名）と一緒にプロジェクトやってたんですけど、
- 250 N うん。
- 251 J それ、テーマが、び、ビューティーとヘルスケアだったんで、
- 252 J それや、やりながら、あ、なんかこういう美容とか関係あるのやりたいなーと思って、
- 253 J たぶん、たぶん、化粧品会社とか、ファッション、アパレル、アパレルとか//入りたいなって//今思ってます。
- 254 N うんうんうん。
- 255 N うんうんうん。
- 256 J 思ってる感じがな。
- 257 N あ、いいじゃないですか。
- 258 J はい。
- 259 N めちゃくちゃありますよ、それやったら。
- 260 N だって、F（企業名）って会社知ってます？
- 261 J 写真？
- 262 N あそこ化粧品やってるんですよ。
- 263 J え？
- 264 N 知らなかったでしょ？
- 265 J 知ら//なか
- 266 N K（企業名）ってもともと電気系の会社でしょ？
- 267 J はい。
- 268 N 化粧品してるでしょ？
- 269 J あ、でも化粧品してるわけじゃなくて、
- 270 J なんか携帯にそういう美容//アプリかなんかを組み込んで、
- 271 N あー、はいはい。
- 272 J K（企業名）の、なんか、K（企業名）で使用するユーザー、層が、なんか、おじさんとかなんか、ね、年齢層が結構なんか高いようで、
- 273 J なんか若い女性が使えるように、
- 274 J なんかイメージ、イメージチェンジしたいなって感じで//やってるだけで、
- 275 N うーうーん。
- 276 J 化粧品とか特にやってない//っていう。
- 277 N あーそう。
- 278 N だけど、そっちの業界では何かやってるんですよね？
- 279 J はい。
- 280 N あー。
- 281 N で、それでもよければ、
- 282 N たぶんめちゃめちゃあると思いますよ。
- 283 N 化粧品//だけじゃなくても。
- 284 J うん。
- 285 N 化粧品の会社じゃなくてもね。
- 286 N 例えば、S（企業名）とか//、K（企業名）とかあるじゃないですか。
- 287 J うん。

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

	288	N	じゃなくても、めっちゃくちゃあると思うんで、
	289	N	そういうところ、で一、インターンシップ。
	290	N	なんかね、夏休みとか//冬休みとか長期休暇の時期って、結構インターンシップの情報載ってるんですよ。
	291	J	はい。
	292	N	だから、普通にネットでインターンシップとかで検索しても//めっちゃ出てきますよ、たぶん。
	293	J	うん。
	294	N	で、なんか目ぼしい企業があれば、
	295	N	とか、目ぼしいやりたいこと。
	296	N	例えば、広告のD（企業名）のとかでも、
	297	N	インターンシップは別ですけど、
	298	J	はい。
	299	N	その一、だいたい、20代、30代、40代の女性をターゲットにしたビジネス、まー、製品のマーケティングとかもやってますし。
	300	N	G（プロジェクト名）ってやつなんですけど。
	301	J	ふーん。
	302	N	なんかそういう、美容とアパレルと、分からないですけど、
	303	N	でも、だいたいそっち系に寄ってる女性限定のやつなんで、
	304	N	そういうプロジェクトをやってる会社もありますし、
	305	N	なんか色々調べてみて、
	306	N	もしインターンシップとかあったらやってみて、
	307	N	したら、楽しいとか楽しくないとか分かると思うんで、
	308	N	いいと思いますね、それがやれれば。
	309	J	うーん。
	310	J	はい。
7	311		[沈黙 8 秒]
	312	J	あとは、
	313		[沈黙 8 秒]
	314	J	うーん。
	315		[沈黙 2 秒]
	316	J	ちなみに、インターン、インターンじゃない、どこー、どこの会社、内定は。
	317	N	総合商社。
	318	J	総合商社ってM（企業名）とかM（企業名）とか。
	319	N	の業界の//、中の1つです。
	320	J	はい。
	321	J	中の1つ。
	322	J	え、詳しく教え//てく
	323	N	S（企業名）っていうとこなんですけど。
	324	J	S（企業名）。
	325	N	えっとね//、総合商社って7つあるんですよ。
	326	J	はい。
	327	N	えっと1番おっきいのがM（企業名）。
	328	N	その次にM（企業名）。
	329	J	はい。
	330	N	その次、おっきいというか、
	331	N	ま、利益で言うと//、I（企業名）。
	332	J	はい。
	333	N	その次、S（企業名）。
	334	J	はい。
	335	N	その次、M（企業名）、株式会社M。
	336	N	その次が、T（企業名）。
	337	N	その次がS（企業名）。
	338	J	ふーん。
	339	J	え、T（企業名）って自動車会社なんじゃ。
	340	N	T（企業名）。
	341	J	T（企業名）。
	342	N	T（企業名）っていうのが、自動車の会社で、
	343	J	はい。
	344	N	その関連してる、関連してはないのかな、
	345	N	どうなんやろう。

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

	346	N	ま、それと同じ、出は一緒ですよ。
	347	J	う//ーん。
	348	N	だから、生まれは一緒やけども、
	349	J	はい。
	350	N	メーカーと商社と分かれてる。
	351	J	はい。
	352	N	な、違うんですよ。
	353	J	あ、うーん。
	354	N	ま、T、T（企業名）系といえば、T（企業名）系なんですけど、
	355	N	車を売ってるわけじゃなくて、
	356	N	総合商社、物を動かしてる会社です。
	357	J	え、それで。
	358		【タイマー】
	359	J	え//、あ、鳴った。
	360	N	大丈夫です。
9	361	N	それで？
	362	J	え、インターンとかやったっておっしゃったんですけど、
	363	J	そのインターンってどこで。
	364	N	インターンはね//、R（企業名）っていう、人材、転職エージェントの会社です。
	365	J	はい。
	366	J	リクルート。
	367	N	リクルートってあるじゃないですか。
	368	N	知ってます？リクルートってやつ。
	369	J	はい。
	370	N	あれのえーと、お友達の会社で、
	371	N	お友達、ま、兄弟会社みたいな、姉妹会社みたいなもので、
	372	J	あ、はい。
	373	N	R（企業名）、今は、R（企業名）っていう会社のR（企業名）なんですけど、
	374	J	あー、はい。
	375	N	あのー、例えば、「転職したいです」って言ってる人を、がいて、
	376	N	で、「どういうところに転職したいです」って言ってる人がいて、
	377	J	はい。
	378	N	で、「この人はこういうところに転職したいから、
	379	N	こういうところを探そう」と言って、
	380	N	じゃ、そういう、例えば、それこそさっきK（企業名）が出たから、
	381	N	K（企業名）で行こうと、
	382	N	Aさんが//K（企業名）に転職、K（企業名）っていう、あっちの、電気系のメーカーに//、「転職したいです」と言って、
	383	J	はい。
	384	J	はい。
	385	N	電気系の会社いっぱい探した中で、
	386	J	はい。
	387	N	ちょうどAさんみたいな人がほしいっていう会社がK（企業名）だったとするじゃないですか。
	388	J	はい。
	389	N	したら、その人とK（企業名）を繋ぐっていう。
	390	J	あー。
	391	N	「面接してくださいね」って言って。
	392	J	で、そこで、どんな仕事をしたんですか？
	393	N	あー、そこで、だから、その営業の現場は行きました。
	394	N	だから、法人営業と個人営業てのがあって、
	395	J	はい。
	396	N	要は、転職したいですっていう人に対する営業と//、こういう人がほしいですっていう会社に対する営業があつて、
	397	J	はい。
	398	J	はい。
	399	N	で、会社に対する営業の現場に行くんです。
	400	J	それは任されるんですか//、インターンで。
	401	N	任されない
	402	N	任されない

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

		403 N 任されなです。
		404 J え？
		405 N それを見て、
		406 N 学ぶんです。
		407 N そこの、だから、こういう人がほしいう会社は、だいたい専務とかなんちゃら人事部長とか、役員レベル、役員、ま、役員レベルの人も出てくるんですよ。
		408 J 転職したいって。
		409 N 転職、だから、こういう人がほし//いって、会社が。
		410 J ほしいうって。
		411 J はい。
		412 N が、お偉いさんがいっぱい出てくるん//ですよ。
		413 J はい。
		414 N で、そういう人達が、今こういう会社、今会社がこういう状況にいて、
		415 J はい。
		416 N 例えば、新しいプロジェクトをするので、
		417 J はい。
		418 N そのプロジェクトリーダーとなるこういう経験とこういうスキルを持った人がほしいんですよ//と。
		419 J はい。
		420 N て言う人、会社に対して、こういう人がいますよとか。
		421 J はい。
		422 N で、こういう人がいます、
		423 N で、これいいねって言われたら、
		424 N この人はこういうのを求めているんで、
		425 N こういうふうな言い方で、こう言いくるめば、
		426 N もしかしたら、入ってくれるかもしれないですよとかいう、いわゆるコンサルティングみたいなこともしつつ、
		427 J うー//ーん。
		428 N 人材を紹介していくっていう現場に座って、
		429 J はい。
		430 N で、ま、しゃ、えーと、そういう商談が終わった後に、
		431 N 「ま、今就職活動中なんですけど、
		432 N こうこうこういう理由で、こうこうこういうことを聞きたいんですが、
		433 N いいですか」とか言って、
		434 J うん。
		435 N 普段会えないようなお偉いさんとお話ができるって機会があって、
		436 N それがまー5日間ぐらいあって、
		437 J はい。
		438 N 短いインターンだったんですけどね。
		439 J インターンってそんな短いインターンもあるん
		440 N それぞれです。
		441 N 1日インターンとかもありますよ。
		442 N あるところは、1ヶ月もあるし、
		443 N 2ヶ月もあるし、
		444 N 1日もあるし、
		445 N 1週間もあるし。
		446 J え、1日インターンって、行ったらどんなことをす//るんですか
		ま、会社のなんちゃら体験とかっていうだけです//よ
		447 N ね、たぶん。
		448 J =あー。
		449 N したことないから分からないですけど。
		450 N 色々あると思います。
		451 N それはたぶん自分で調べれば、
		452 N いっぱい出て//くるとと思います。
		453 J はい。
		454 J 分かりました。
		455 N 大丈夫ですか？
		456 J あ、はい。
Ⅲ.	1	457 N お疲れ様でした。
		458 J ありがとう//ございました。

【資料3-16】就職活動の相談
質問者J(NNS8)と応答者N

	459	N	ありがとうございました。	
	460	J	はい。	